埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書　第35集

諏訪木遺跡Ⅳ

2020

埼玉県熊谷市教育委員会

埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書　第35集

諏訪木遺跡Ⅳ
（すわのきいせき）

2020

埼玉県熊谷市教育委員会



第４・５号住居跡　全景（上が北）



第 64・67 号溝跡（南から）

口絵図版２



第５号方形周溝墓　遺物検出状況



第 42 号溝跡　遺物検出状況



第４号方形周溝墓　出土遺物



第５号方形周溝墓　出土遺物

口絵図版４



第 14 号溝跡　出土遺物（土鍋、古河公方系土師質土器（かわらけ））



第２号井戸跡　出土遺物

序

私たちの郷土熊谷は、丘陵、台地、沖積低地と地形が変化に富んでいる上、我が国及び関東を代表する２大河川である利根川・荒川が市内を流れ、大河がもたらす肥沃な大地と豊かな自然が広がっております。このような自然環境のもと、市内には、先人たちによって多くの文化財が営々と引き継がれてきました。これらの文化財は、郷土の発展やその過程を物語る証しであるとともに、私たち子孫の繁栄の指標ともなる先人の貴重な足跡であります。私たちは、こうした文化遺産を継承し、次世代に伝え、さらに豊かな熊谷市形成の礎としていかなければならないと考えております。

さて、市内には地下に埋蔵されている多くの遺跡が所在します。そして、これらの遺跡内では各種開発が行われ、遺跡を保護保存できない場合が多数あります。その場合には、発掘調査という記録保存を行い、後世に伝えるべく方策を採っています。

本書は、平成２８・２９年度に実施された市内幹線道路整備工事に伴う発掘調査の成果をまとめたものです。

本書が埋蔵文化財保護、学術研究の基礎資料として、また埋蔵文化財の普及・啓発の資料として広く活用されることとなれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書刊行に至るまで、文化財保護に御理解、御協力を賜りました関係者の皆様には厚くお礼申し上げます。

令和２年３月

熊谷市教育委員会
教育長　野原　晃

例　　言

1　本書は、市内遺跡「諏訪木遺跡」の発掘調査報告書である
諏訪木遺跡　　埼玉県熊谷市上之２９５４番４（埼玉県遺跡番号 59 － 016）

2　本調査は、既存幹線道路の改良及び新設道路工事に伴う事前の記録保存目的の発掘調査であり、熊谷市教育委員会が実施した。

3　本事業の組織は、発掘調査の概要のとおりである。

4　発掘調査は、平成 28･29 年度の２か年実施し、平成 28 年度が平成 28 年４月 11 日～６月 30 日（１次)､11 月 20 日～平成 29 年３月 17 日（２次)､平成 29 年度が平成 29 年７月３日～９月 15 日（３次)、９月 20 日～ 11 月 17 日（４次)、11 月 27 日～平成 30 年３月 16 日（５次）である。
整理・報告書作成期間は平成 30・令和元年度の２か年実施し、平成 30 年度が平成 30 年４月２日～平成 31 年３月 27 日、令和元年度が平成 31 年４月１日～令和２年３月 13 日である。

5　発掘調査の担当は、各年度とも腰塚　博隆が担当した。また、整理・報告書作成事業は、図面、遺物実測を島村 範久、武部 喜充が担当し、腰塚がそれらをまとめた。

6　本書の執筆は、腰塚が担当した。

7　写真撮影は、発掘調査を腰塚が、遺物を、島村が行った。

8　基準点測量は、株式会社東京航業研究所に委託した。

9　出土遺物は、熊谷市教育委員会で保管している。

10　発掘調査及び本書の作成にあたり、下記の方々及び機関等からご教示、ご協力を賜った。記して謝意を表します。

（敬称略）

上武大学　清水 康守、埼玉県教育局生涯学習文化財課（現、文化資源課)、公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団、国土交通省国土地理院、川越市教育委員会、行田市教育委員会

凡　例

1　本文中、遺構の略記号は、次のとおりである。
　ＳＤ…溝跡　ＳＩ…住居跡　ＳＢ…掘立柱建物跡　ＳＫ…土坑　ＳＺ…方形周溝墓
　ＮＲ…河川跡　ＳＥ…井戸跡　ＳＸ…性格不明遺構　Ｐ…ピット
2　土層断面図及び平面図中の表記記号は、次のとおりである。
　Ｓ…川原石　Ｐ…土器　Ｗ…木材　Ｂ…竹
3　遺構挿図の縮尺は、原則として次のとおりであるが、それ以外のものは個別に示した。
　平面図…1／60
4　遺構挿図中、遺物に添えてある番号は、該当する遺構の遺物挿図中の遺物番号と一致する。
5　遺構挿図中、断面に添えてある数値は標高を示している。
6　遺物挿図の縮尺は、原則として次のとおりであるが、それ以外のものは個別に示した。
縄文土器・土師器・須恵器・須恵系土師質土器・ロクロ土師器・灰釉陶器・陶磁器・石器…１／４
瓦…１／４・１／５　縄文土器（破片・底部）…１／３　土製品・鉄製品…１／２
7　遺物実測図の中で、中心線はすべて実線で示し、遺物観察表にできる限り残存率で示した。また、表現方法は、以下のとおりである。
須恵器のうち還元焔焼成の断面：黒塗り、酸化焔焼成の断面：白抜き、灰釉陶器の断面：網線

上記以外の土師器等土器・土製品・鉄製品・石器断面：白抜き　墨書：黒塗り
スス（煤）、墨痕、内面黒色処理：　赤彩、古代陶器断面：　施釉、漆：
底部調整　回転ヘラ削り　回転糸切り
石器の磨面範囲　敲打範囲
8　遺物拓影は、原則として、左右あるものは向かって左に外面、右に内面、左のみのものは外面を示した。
9　遺物観察表の凡例は、次のとおりである。
法量の単位は、㎝、ｇである。また、推定値は括弧付けで示した。
胎土は、土器に含まれる鉱物等を以下の記号土錘で示した。
Ａ…白色粒子　Ｂ…黒色粒子　Ｃ…赤色粒子　Ｄ…褐色粒子　Ｅ…赤褐色粒子　Ｆ…白色針状物質
Ｇ…長石　Ｈ…石英　Ｉ…白雲母　Ｊ…黒雲母　Ｋ…角閃石　Ｌ…片岩　Ｍ…砂粒　Ｎ…礫
焼成は、次のように区分した。
Ａ…良好　Ｂ…普通　Ｃ…不良
10　写真図版の遺物縮尺は、すべて任意である。
11　土層及び遺物の色調は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修、日本色研事業株式会社発行）に照らし最も近似した色相を示した。

目　　次

口絵
序
例　言
凡　例
目　次
Ⅰ　発掘調査の概要 ……1
⑴　調査に至る経過 ……1
⑵　発掘調査、整理・報告書作成の経過 …1
⑶　発掘調査、整理・報告書刊行の組織 …2
Ⅱ　遺跡の立地と環境 ……3
Ⅲ　遺跡の概要 ……11
⑴　諏訪木遺跡について ……11
⑵　調査の方法 ……11
⑶　検出された遺構と遺物 ……11
Ⅳ　遺構と遺物 ……24
1　住居跡 ……24
2　掘立柱建物跡 ……39
3　方形周溝墓 ……41
4　河川跡 ……71
5　溝跡 ……86
6　土坑 ……165
7　井戸跡 ……174
8　ピット ……181
9　性格不明遺構 ……197
10　遺構外出土遺物 ……200
Ⅴ　調査のまとめ ……209

挿　図　目　次

第1図　埼玉県の地形図 ……3
第2図　周辺遺跡分布図 ……4
第3図　諏訪木遺跡調査地点位置図 ……7
第4図　調査地区周辺発掘調査実績 ……8
第5図　調査区全測図 ……9
第6図　調査区配置図 ……12
第7図　全測図割図⑴ ……13
第8図　全測図割図⑵ ……14
第9図　全測図割図⑶ ……15
第10図　全測図割図⑷ ……16
第11図　全測図割図⑸ ……17
第12図　全測図割図⑹ ……18
第13図　全測図割図⑺ ……19
第14図　全測図割図⑻ ……20
第15図　全測図割図⑼ ……21
第16図　全測図割図⑽ ……22
第17図　全測図割図⑾ ……23
第18図　第1号住居跡出土遺物 ……24
第19図　第1号住居跡 ……24
第20図　第2号住居跡 ……25
第21図　第3号住居跡 ……26
第22図　第3号住居跡出土遺物⑴ ……27
第23図　第3号住居跡出土遺物⑵ ……28
第24図　第4・5号住居跡⑴ ……30
第25図　第4・5号住居跡⑵ ……31
第26図　第4号住居跡出土遺物 ……31
第27図　第5号住居跡出土遺物 ……31
第28図　第6号住居跡 ……32
第29図　第6号住居跡出土遺物 ……33
第30図　第7号住居跡 ……34
第31図　第7号住居跡出土遺物 ……35
第32図　第8号住居跡 ……35
第33図　第8号住居跡出土遺物 ……36
第34図　第9号住居跡 ……39
第35図　第9号住居跡出土遺物 ……39
第36図　第1号掘立柱建物跡 ……40
第37図　第2号掘立柱建物跡 ……40
第38図　掘立柱建物跡出土遺物 ……41
第39図　第1号方形周溝墓 ……42
第40図　第1号方形周溝墓出土遺物 ……43
第41図　第2号方形周溝墓 ……44
第42図　第2号方形周溝墓出土遺物 ……45
第43図　第3号方形周溝墓 ……46
第44図　第3号方形周溝墓出土遺物 ……47

第 45 図 第４号方形周溝墓 ……48
第 46 図 第４号方形周溝墓出土遺物(1) ……49
第 47 図 第４号方形周溝墓出土遺物(2) ……50
第 48 図 第４号方形周溝墓出土遺物(3) ……51
第 49 図 第４号方形周溝墓出土遺物(4) ……52
第 50 図 第４号方形周溝墓出土遺物(5) ……53
第 51 図 第４号方形周溝墓出土遺物(6) ……54
第 52 図 第４号方形周溝墓出土遺物(7) ……55
第 53 図 第５号方形周溝墓 ……62
第 54 図 第５号方形周溝墓出土遺物(1) ……63
第 55 図 第５号方形周溝墓出土遺物(2) ……64
第 56 図 第６号方形周溝墓 ……65
第 57 図 第６号方形周溝墓出土遺物 ……66
第 58 図 第７号方形周溝墓 ……67
第 59 図 第７号方形周溝墓出土遺物 ……68
第 60 図 第８号方形周溝墓 ……69
第 61 図 第８号方形周溝墓出土遺物 ……70
第 62 図 第１号河川跡 ……72
第 63 図 第２号河川跡 ……73
第 64 図 第２号河川跡出土遺物(1) ……75
第 65 図 第２号河川跡出土遺物(2) ……76
第 66 図 第２号河川跡出土遺物(3) ……77
第 67 図 第２号河川跡出土遺物(4) ……78
第 68 図 第２号河川跡出土遺物(5) ……79
第 69 図 第３号河川跡出土遺物 ……85
第 70 図 第３号河川跡 ……85
第 71 図 第１号溝跡 ……86
第 72 図 第２号溝跡 ……86
第 73 図 第３号溝跡 ……87
第 74 図 第４号溝跡 ……88
第 75 図 第５号溝跡 ……89
第 76 図 第６～８号溝跡 ……90
第 77 図 第９号溝跡 ……91
第 78 図 第 10 号溝跡 ……92
第 79 図 第 11・12 号溝跡 ……93
第 80 図 第 13 号溝跡 ……94
第 81 図 第 14 号溝跡 ……95
第 82 図 第 15 号溝跡 ……96
第 83 図 第 16 号溝跡 ……97
第 84 図 第 17 号溝跡 ……98
第 85 図 第 18・19 号溝跡 ……99
第 86 図 第 20 号溝跡 ……100
第 87 図 第 21・22 号溝跡 ……102
第 88 図 第 23・24 号溝跡 ……103
第 89 図 第 25 ～ 27 号溝跡 ……105
第 90 図 第 28 号溝跡 ……106
第 91 図 第 29 号溝跡 ……107
第 92 図 第 30 号溝跡 ……108
第 93 図 第 31 号溝跡 ……109
第 94 図 第 32 号溝跡 ……110
第 95 図 第 33 ～ 35 号溝跡 ……111
第 96 図 第 36 ～ 38 号溝跡 ……112
第 97 図 第 39 ～ 41 号溝跡 ……114
第 98 図 第 42・43 号溝跡 ……116
第 99 図 第 44 号溝跡 ……117
第 100 図 第 45 ～ 47 号溝跡 ……118
第 101 図 第 48 号溝跡 ……119
第 102 図 第 49 号溝跡 ……120
第 103 図 第 50・51 号溝跡 ……121
第 104 図 第 52 ～ 58 号溝跡 ……123
第 105 図 第 59・60 号溝跡 ……125
第 106 図 第 61 号溝跡 ……126
第 107 図 第 62・63 号溝跡 ……127
第 108 図 第 65・66 号溝跡 ……128
第 109 図 第 64・67 号溝跡 ……129
第 110 図 第 68 号溝跡 ……130
第 111 図 第 69 ～ 71 号溝跡 ……131
第 112 図 第 72 ～ 75 号溝跡 ……132
第 113 図 第７・12 ～ 17 号溝跡出土遺物 ……133
第 114 図 第 17 ～ 21 号溝跡出土遺物 ……134
第 115 図 第 22 ～ 24 号溝跡出土遺物 ……135
第 116 図 第 25 ～ 29 号溝跡出土遺物 ……136
第 117 図 第 29・30・32 号溝跡出土遺物 ……137
第 118 図 第 32・37 号溝跡出土遺物 ……138
第 119 図 第 43・44・49 ～ 51・57・60 号溝跡出土遺物……139
第 120 図 第 60 ～ 62・68 号溝跡出土遺物 …140
第 121 図 第 42 号溝跡出土遺物(1) ……149
第 122 図 第 42 号溝跡出土遺物(2) ……150
第 123 図 第 42 号溝跡出土遺物(3) ……151
第 124 図 第 42 号溝跡出土遺物(4) ……152
第 125 図 第 42 号溝跡出土遺物(5) ……153

第 126 図　第 42 号溝跡出土遺物(6) ……154
第 127 図　第 42 号溝跡かわらけ集中地点
　　出土遺物(1) ……158
第 128 図　第 42 号溝跡かわらけ集中地点
　　出土遺物(2) ……159
第 129 図　第 42 号溝跡かわらけ集中地点
　　出土遺物(3) ……160
第 130 図　第 42 号溝跡かわらけ集中地点
　　出土遺物(4) ……161
第 131 図　第１～９・13 号土坑 ……167
第 132 図　第 10 ～ 12・14 ～ 19 号土坑 ……168
第 133 図　第 20 ～ 29 号土坑 ……169
第 134 図　第 30 ～ 41 号土坑 ……170
第 135 図　第 42 ～ 46 号土坑 ……171
第 136 図　土坑出土遺物(1) ……172
第 137 図　土坑出土遺物(2) ……173
第 138 図　第１～７号井戸跡 ……175
第 139 図　第８～ 13 号井戸跡 ……176
第 140 図　井戸跡出土遺物(1) ……179
第 141 図　井戸跡出土遺物(2) ……180
第 142 図　第１～ 47 号ピット ……188
第 143 図　第 48 ～ 91 号ピット ……189
第 144 図　第 92 ～ 134 号ピット ……190
第 145 図　第 135 ～ 211 号ピット ……191
第 146 図　第 212 ～ 262 号ピット ……192
第 147 図　第 263 ～ 299 号ピット ……193
第 148 図　第 300 ～ 344 号ピット ……194
第 149 図　第 345 ～ 395 号ピット ……195
第 150 図　第 396 ～ 428 号ピット ……196
第 151 図　ピット出土遺物 ……196
第 152 図　第１号性格不明遺構 ……198
第 153 図　第２～５号性格不明遺構 ……199
第 154 図　性格不明遺構出土遺物 ……200
第 155 図　Ａ区遺構外出土遺物 ……201
第 156 図　Ｂ区遺構外出土遺物(1) ……202
第 157 図　Ｂ区遺構外出土遺物(2) ……203
第 158 図　Ｃ区遺構外出土遺物 ……204
第 159 図　Ｄ区遺構外出土遺物 ……205
第 160 図　Ｅ・Ｆ区遺構外出土遺物 ……206
第 161 図　調査地周辺の住居跡及び方形周溝墓の分布 …209
第 162 図　第 42 号溝跡出土土師質土器
　　（かわらけ）分類図 …212

表　目　次

第１表　周辺遺跡一覧表 ……５
第２表　第１号住居跡出土遺物観察表 ……24
第３表　第３号住居跡出土遺物観察表 ……28
第４表　第４・５号住居跡出土遺物観察表 …31
第５表　第６号住居跡出土遺物観察表 ……33
第６表　第７号住居跡出土遺物観察表 ……34
第７表　第８号住居跡出土遺物観察表 ……37
第８表　第９号住居跡出土遺物観察表 ……39
第９表　掘立柱建物跡出土遺物 ……41
第 10 表　第１号方形周溝墓出土遺物観察表 …43
第 11 表　第２号方形周溝墓出土遺物観察表 …45
第 12 表　第３号方形周溝墓出土遺物観察表 …47
第 13 表　第４号方形周溝墓出土遺物観察表 …56
第 14 表　第５号方形周溝墓出土遺物観察表 …64
第 15 表　第６号方形周溝墓出土遺物観察表 …66
第 16 表　第７号方形周溝墓出土遺物観察表 …66
第 17 表　第８号方形周溝墓出土遺物観察表 …71
第 18 表　第２号河川跡出土遺物観察表 ……80
第 19 表　第３号河川跡出土遺物観察表 ……85
第 20 表　溝跡出土遺物観察表 ……141
第 21 表　第 42 号溝跡出土遺物観察表 ……154
第 22 表　第 42 号溝跡かわらけ集中地点
　　出土遺物観察表 ……161
第 23 表　土坑一覧表 ……166
第 24 表　土坑出土遺物観察表 ……171
第 25 表　井戸跡出土遺物観察表 ……181
第 26 表　ピット一覧表 ……182
第 27 表　ピット出土遺物観察表 ……197
第 28 表　性格不明遺構一覧表 ……197
第 29 表　性格不明遺構出土遺物観察表 ……198
第 30 表　Ａ区遺構外出土遺物観察表 ……201
第 31 表　Ｂ区遺構外出土遺物観察表 ……203
第 32 表　Ｃ区遺構外出土遺物観察表 ……207
第 33 表　Ｄ区遺構外出土遺物観察表 ……207
第 34 表　Ｅ・Ｆ区遺構外出土遺物観察表 ……208
第 35 表　第 42 号溝跡出土土師質土器（かわらけ）分類表 …212

図　版　目　次

図版１　Ａ区　全景（左が北西）
　　ＢＣ区　全景（左が北西）
図版２　Ｄ区　全景（上が北西）
　　Ｆ区　全景（上が北西）
図版３　第１号住居跡（南から）
　　第２号住居跡（南から）
　　第３号住居跡（上が北）
　　第４号住居跡　第５号住居跡（上が北）
　　第４号住居跡 遺物検出状況
　　第６号住居跡（上が北西）
　　第６号住居跡 遺物検出状況
　　第７号住居跡（南から）
図版４　第８号住居跡（北から）
　　第９号住居跡（北から）
　　第１号掘立柱建物跡
　　第２号掘立柱建物跡
　　第１号方形周溝墓南周溝東端出土遺物（北西から）
　　第２号方形周溝墓（上が北東）
　　第４号方形周溝墓（上が東）
図版５　第４号方形周溝墓（西から）
　　第４号方形周溝墓 遺物検出状況
図版６　第５号方形周溝墓（左が北）
　　第５号方形周溝墓北西周溝北端出土遺物（北から）
　　第６号方形周溝墓（南から）
　　第７号方形周溝墓南周溝西端出土遺物（西から）
　　第８号方形周溝墓（上が北）
　　第８号方形周溝墓西周溝南端出土遺物（東から）
　　第２号河川跡 土層断面
図版７　第２号河川跡 土層断面
　　第２号河川跡 木杭・矢板検出状況
　　第２号河川跡 木杭・矢板検出状況
　　第３号河川跡（東から）
　　第６号溝跡（南から）
　　第９号溝跡（南から）
　　第 11・12 号溝跡（南から）
　　第 13 号溝跡（北から）
　　第 14 号溝跡（南から）
　　第 15 号溝跡（南から）
　　第 16 号溝跡（南から）
図版８　第 18・19 号溝跡（北から）
　　第 21・22 号溝跡（東から）
　　第 24 号溝跡（南から）
　　第 29 号溝跡（東から）
　　第 29 号溝跡 遺物検出状況
　　第 29 号溝跡 遺物検出状況
　　第 30 号溝跡（東から）
　　第 32 号溝跡（北から）
図版９　第 40・41 号溝跡（南から）
　　第 42 号溝跡（南から）
　　第 42 号溝跡（西から）
　　第 42 号溝跡 遺物検出状況
　　第 42 号溝跡 遺物検出状況
図版10　第 49 号溝跡（南から）
　　第 51 号溝跡（東から）
　　第 58 号溝跡（西から）
　　第 59 号溝跡（南から）
　　第 60 号溝跡（東から）
　　第 61 号溝跡（東から）
　　第 62 号溝跡（東から）
　　第 64 号溝跡（南から）
　　第 67 号溝跡（南から）
　　第 68 号溝跡（西から）
図版11　第 64・67 号溝跡（南から）
　　第１号井戸跡（南から）
　　第３号井戸跡（南から）
　　第４号井戸跡（南東から）
　　第５号井戸跡（南から）
　　第６号井戸跡（南から）
　　第８号井戸跡（南から）
　　第９号井戸跡（西から）
　　第 10 号井戸跡（南東から）
　　第 11 号井戸跡（南から）
図版12　第５号土坑（西から）
　　第 12 号土坑（南から）
　　第 22 号土坑（南西から）
　　第 23 号土坑（南から）

第35号土坑（上が北）
第1号性格不明遺構（北から）
第18図1・2
第22図1
第22図3
第22図4
図版13　第22図5
第22図6・8～13・15～20
第22図14
第22図22～25・27
第22図28
第22図29
第23図30・31
第26図1
第26図2
第27図1～5・7
第27図6
図版14　第29図1
第29図2
第29図3
第29図6
第29図7
第29図8
第31図1・3
第31図2
第33図1
第33図2
第33図3～12・14～16
第33図13
図版15　第33図17～30
第33図31～44
第33図50
第33図52
第33図56・57
第33図58
第35図1
第35図2
第35図3
第35図4
第38図1-1・2-1～2-3
図版16　第40図1
第40図2
第42図1～4
第42図8
第42図9
第44図1～3
第46図2
第46図4
第46図8
第46図10
第46図13
図版17　第46図15
第46・47図17・27・28・43
第47図97
第47図105
第47図106
第48図109
第48図112
第48図114
第48図115
図版18　第48図123
第48図124
第49図126
第49図127
第49図128
第49図129
第49図130
第49図131
図版19　第50図133
第50図134
第50図135
第51図158
第51図193
第52図197
第52図206
第52図211・213
第52図212
第52図214
第52図215
図版20　第54図1
第54図2
第54図3
第55図4～8
第55図9

第 55 図 10
第 55 図 11
第 55 図 13
第 55 図 14
第 57 図 1
図版21　第 59 図 1
第 59 図 2
第 61 図 1
第 61 図 2　下：底部穿孔
第 61 図 3
第 61 図 4
図版22　第 61 図 6
第 64 図 1
第 64 図 7
第 65 図 58
第 65 図 60
第 65 図 62
第 65 図 63
第 65 図 64
第 65 図 80
第 65 図 84
第 65 図 85
第 65 図 86
第 66 図 91
第 66 図 92
第 66 図 93
図版23　第 66 図 99
第 66 図 100（赤外線加工）
第 66 図 101
第 65 図 87（赤外線加工）
第 65 図 88（赤外線加工）
第 65 図 89（赤外線加工）
第 65 図 90（赤外線加工）
第 66 図 102（赤外線加工）
第 66 図 103（赤外線加工）
第 66 図 104（赤外線加工）
第 66 図 105
第 66 図 108
第 66 図 110
第 66 図 111
第 66 図 112
図版24　第 66 図 113・114
第 67 図 115
第２号河川跡　種子（桃）
第 68 図 125
第 68 図 126
第 68 図 127
第 68 図 128
第 69 図 1
第 69 図 3
第 69 図 4
第 69 図 5
図版25　第 113 図 14-3
第 113 図 14-4
第 113 図 14-5
第 113 図 14-6
第 113 図 14-7
第 113 図 14-8
第 113 図 14-9
第 113 図 14-12
第 113 図 15-1
第 113 図 15-3
第 113 図 17-7
第 113 図 17-8
第 113 図 17-4
第 113 図 17-9
第 113 図 17-12
第 113 図 17-14
第 114 図 17-15
図版26　第 114 図 18-16
第 114 図 19-1
第 114 図 19-14
第 114 図 21-6
第 115 図 24-20
第 115 図 24-21
第 115 図 24-22
第 115 図 24-23
第 115 図 24-24・25
第 115 図 24-26　凸臍部分
第 116 図 29-1　上部：籾痕
第 116 図 29-2
第 116 図 29-3
第 116 図 29-4
第 116 図 29-5

第 116 図 29-6
第 116 図 29-7
第 116 図 29-8
第 116 図 29-9
第 116 図 29-10
図版27　第 117 図 29-11
第 117 図 29-13
第 117 図 29-16
第 117 図 29-23
第 117 図 29-24
第 117 図 32-5
第 117 図 32-7
第 117 図 32-8
第 118 図 32-9
第 118 図 32-10・12・13・14・15
第 118 図 32-16
第 118 図 32-17
第 118 図 32-22 ～ 46
第 118 図 32-48
第 118 図 32-47
第 32 号溝跡　種子
第 33 号溝跡　種子
第 118 図 37-1
第 118 図 37-2
第 118 図 37-3
図版28　第 119 図 43-1・2・44-2・43-3
第 119 図 44-3
第 119 図 49-3
第 119 図 49-7
第 119 図 49-8
第 119 図 60-1
第 119 図 60-3・4
第 60 号溝跡　種子 01
第 60 号溝跡　種子 02
第 120 図 60-8・12 ～15・19・22・23
25 ～28・33・37・41・42・45 ～48
第 119 図 60-5
第 119 図 60-6・7
第 120 図 61-5
第 120 図 62-1
第 120 図 68-1
第 120 図 68-2
第 120 図 68-3
第 68 号溝跡　種子
図版29　第 121 図 1
第 121 図 4
第 121 図 9
第 121 図 11
第 121 図 17
第 121 図 22
第 121 図 28
第 121 図 30
第 121 図 31
第 121 図 33
第 121 図 36
第 121 図 37
第 122 図 45
第 122 図 49
第 122 図 51
第 122 図 57
第 122 図 58
第 122 図 59
第 122 図 63
第 122 図 64
第 122 図 65・68
第 122 図 69
第 122 図 70
図版30　第 122 図 71
第 122 図 72
第 122 図 73
第 123 図 74
第 123 図 77
第 123 図 78
第 123 図 81
第 123 図 82
図版31　第 123 図 83
第 123 図 84
第 123 図 85
第 123 図 86
第 123 図 87
第 123 図 88
第 124 図 89・90
第 124 図 92・94
図版32　第 124 図 95

第 124 図 96
第 124 図 97・99
第 124 図 98
第 124 図 100
第 124 図 101
第 124 図 102
第 124 図 103
第 124 図 105
第 124 図 108
図版33　第 125 図 110
第 125 図 112
第 125 図 115
第 125 図 118
第 125 図 119
第 125 図 121
第 126 図 122
第 126 図 123
第 127 図 6
第 127 図 7
第 127 図 8
第 127 図 9
第 127 図 21
第 127 図 30
図版34　第 127 図 39
第 128 図 41
第 128 図 44
第 128 図 47
第 128 図 53
第 128 図 59
第 128 図 64
第 128 図 67
第 128 図 78
第 129 図 81
第 129 図 83
第 129 図 84
第 129 図 85
第 129 図 87
第 129 図 88
第 129 図 89
第 129 図 91・92
第 129 図 96
第 130 図 102・105
図版35　第 130 図 103
第 130 図 108
第 136 図 5-1
第 136 図 12-1
第 136 図 12-2
第 136 図 12-3
第 136 図 12-4
第 136 図 12-6
第 136 図 16-2
第 136 図 16-3
図版36　第 137 図 16-4
第 137 図 16-5
第 137 図 16-6
第 137 図 20-1
第 137 図 20-3
第 137 図 22-1
第 137 図 24-1
第 137 図 24-2
第 137 図 28-1
第 137 図 35-3
第 137 図 35-4
第 137 図 35-5
図版37　第 140 図 2-2
第 140 図 3-1
第 140 図 3-3
第 140 図 4-1
第 140 図 5-1・2
第 140 図 5-3
第 140 図 8-1
第 140 図 9-2
第 140 図 11-1
第 140 図 11-4
第 140 図 11-5
第 140 図 12-1
第 141 図 12-2
図版38　第 141 図 12-3
第 151 図 118-1
第 151 図 135-1
第 151 図 214-1
第 151 図 302-3
第 154 図 1-1
第 154 図 1-3

第 154 図 1-5
第 154 図 1-6
図版39　第 154 図 2-2
第 155 図 2
第 155 図 10
第 155 図 11
第 155 図 15
第 155 図 18
第 155 図 19
第 155 図 20
第 156 図 4
第 156 図 18
第 157 図 30
第 157 図 31
第 157 図 33
第 157 図 34　右：茶筅痕
第 157 図 36
第 157 図 39
第 157 図 40
第 157 図 42
第 157 図 43
第 157 図 44
第 157 図 46
第 157 図 47
図版40　第 158 図 1
第 158 図 9
第 158 図 10 ～ 12
第 158 図 14
第 159 図 1
第 159 図 12
第 159 図 13
第 159 図 14
第 159 図 18
第 159 図 20
第 159 図 21
第 159 図 26
第 159 図 27
第 159 図 28
第 160 図 F-1
第 160 図 E-3

Ⅰ　発掘調査の概要

⑴　調査に至る経過

平成 28 年４月７日付けで、熊谷市長から埼玉県教育委員会あてに、幹線道路整備に伴い、文化財保護法第 94 条第１項の規定に基づく埋蔵文化財発掘の届出があった。

これを受けて、熊谷市教育委員会は、当該地における過去の試掘結果の確認や、複数箇所のトレンチによる試掘調査を実施した。その結果、現地表面下 40 ～ 60 ㎝の深度から弥生時代や古墳時代の遺構と共に、古墳時代の土器などの埋蔵文化財の所在が確認された。

当該地に埋蔵文化財が所在する旨を市に回答するとともに、その保存に関する協議を重ねたが、工事は道路構造令に準拠した道路の整備であり、計画どおり整備をする方針となったため、記録保存のための発掘調査の措置を講ずることとなった。

発掘調査は、平成 28 年度が、平成 28 年４月８日付け熊教社埋第 135 号で、文化財保護法第 99 条第１項の規定に基づく埋蔵文化財発掘調査の通知を提出し、平成 28 年４月 11 日から開始した。

平成 29 年度が、平成 29 年６月 12 日付け熊教社埋第 76 号で、文化財保護法第 99 条第１項の規定に基づく埋蔵文化財発掘調査の通知を提出し、平成 29 年７月３日から開始した。

なお、埼玉県教育委員会から熊谷市教育委員会あてに、平成 28 年６月 24 日付け教生文第 4-34 号で発掘調査実施の指示通知があった。

⑵　発掘調査、整理・報告書作成の経過

発掘調査は、平成 28、29 年度の２か年実施し、平成 28 年度が平成 28 年４月 11 日～６月 30 日（１次)、11 月 20 日～平成 29 年３月 17 日（２次)、平成 29 年度が平成 29 年７月３日～９月 15 日（３次)、９月 20 日～ 11 月 17 日（４次)、11 月 27 日～平成 30 年３月 16 日（５次）にかけて行われた。調査面積は、平成 28 年度で 2,756 ㎡、平成 29 年度 2,627.42 ㎡であった。

まず、遺構確認面まで重機による表土剥ぎを行った。表土を剥ぎ終わったのち、遺構確認作業を行った。その際、溝跡、土坑などが確認され、順次遺構の調査に着手した。

そして、平成 30 年３月 16 日、調査のすべてを終了した。

整理作業は、調査終了後、平成 30 年４月から始めた。まず、遺物の洗浄・注記・復元を行い、順次、遺物の実測、拓本採りを行った。平成 31 年４月からは遺構の図面整理作業を行い、遺構・遺物図面のトレース、遺構・遺物の図版組を行い、令和元年 12 月には、原稿執筆、割付等の作業をして、報告書の印刷に入り、校正を行った後、翌年３月下旬に本報告書を刊行した。

⑶　発掘調査、整理・報告書刊行の組織

発掘調査は平成 28、29 年度に、整理・報告書作成は平成 29、30 年度に実施し、いずれも熊谷市教育委員会が主体者となって実施した。

主体者　熊谷市教育委員会

ア　発掘調査

（平成 28、29 年度）

教 育 長	野原　　晃
教育次長	米澤ひろみ（平成 28 年度）
	正田　知久（平成 29 年度）
社会教育課長	山﨑　　実（平成 28 年度）
	鶴田　敏夫（平成 29 年度）
社会教育課担当副参事	森田　安彦（平成 28 年度）
	吉野　　健（平成 29 年度）
社会教育課副課長兼文化財保護係長	吉野　　健（平成 28 年度）
	新井　　端（平成 29 年度）
社会教育課業務主幹（文化財保護係）	宮前　彰生（平成 29 年度）
文化財保護係主査	松田　　哲
主査	星　　祥子（平成 29 年度）
主査	小島　洋一
主査	蔵持　俊輔
主任	山下　祐樹
主任	腰塚　博隆
主任	金子　正之
事務員	武部　喜充（平成 28 年度）
事務員	島村　範久（平成 28 年度）
事務員	大野美知子（平成 28 年度）
主事	武部　喜充（平成 29 年度）
主事	島村　範久（平成 29 年度）
主事	大野美知子（平成 29 年度）
事務嘱託	山﨑　和子

イ　整理・報告書作成

（平成 30・令和元年度）

教 育 長	野原　　晃
教育次長	小林　教子
社会教育課長	鶴田　敏男
社会教育課担当副参事	吉野　　健
社会教育課業務主幹（文化財保護係）	宮前　彰生
文化財保護係長	松田　　哲
主査	星　　祥子
主査	小島　洋一
主査	蔵持　俊輔
主任	山下　祐樹
主任	腰塚　博隆
主任	新井　　端
主事	武部　喜充
主事	島村　範久
主事	大野美知子

Ⅱ　遺跡の立地と環境

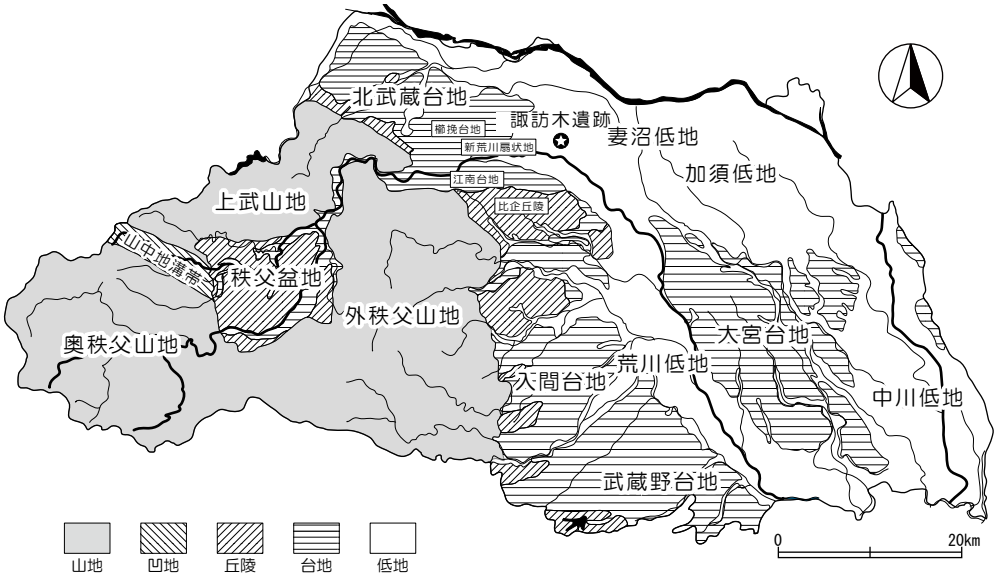
諏訪木遺跡は、熊谷市に所在し、JR 高崎線熊谷駅の北東約２㎞、荒川から北へ約２．２㎞、利根川から南へ約 10.0 ㎞に位置する。

諏訪木遺跡の所在する上之地区は、熊谷市の中央東部にあたり、櫛挽台地の北端及びその北と北東に展開する妻沼低地上にある。櫛挽台地は寄居町末野付近を扇頂に、荒川の両岸に広がる洪積扇状地である荒川扇状地のうち、荒川左岸側が浸食されてできたものである。そして、妻沼低地は、利根川及びその支流により形成された沖積地であり、熊谷市の大半を覆っている洪積扇状地の新荒川扇状地（市西部）と自然堤防が広がる地区に分けられる。本遺跡は、その荒川左岸の新荒川扇状地の、標高約２４ｍ前後に立地し、調査箇所は微高地と低地にまたがっており、周囲は水田が広がり、近年では住宅地としての開発が目立つ場所である。遺跡を覆っていた土は、関東造盆地運動による地盤の沈下、及び微高地ではあるが、荒川の度重なる河川氾濫の影響がわずかに認められ、およそ 60 ～ 80 ｍの厚さをもっていた。

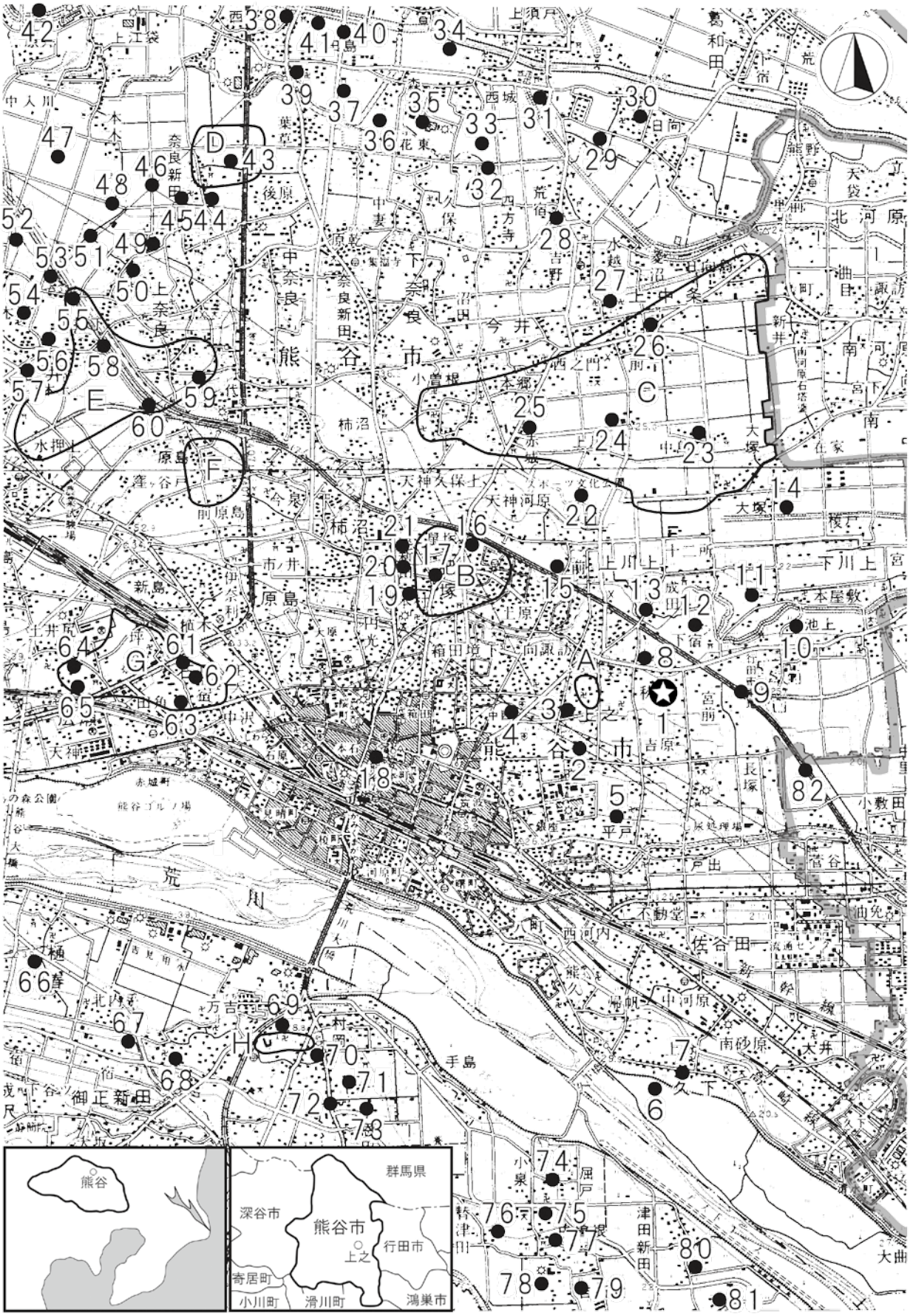
次に、本遺跡を中心に櫛挽台地及び妻沼低地における歴史環境の一端を簡単に見ていきたいと思う。

まず、縄文時代であるが、熊谷市東部では極めて少なく、早期段階では本市に隣接する深谷市東方城跡において尖頭器が検出されているのみである。前期になると、低地に出現し始め、中期も特に後半段階の加曾利Ｅ式期の遺跡が爆発的に出現するが、依然として台地直下の低地上に集中している。後期になると徐々に低地への進出が顕著になり、西城切通遺跡（地図未掲載）など、櫛引台地から離れた低地上にも遺跡が確認できるようになる。今回報告する諏訪木遺跡も前期遺跡が確認できた遺跡となる。晩期では遺跡数が減少し、諏訪木遺跡は後期に続いて集落が確認できた唯一の事例である。調査において、遺構に伴って、大量の遺物が出土し、集落跡の存在が明らかとなっている。

弥生時代に入ると、初期段階である前期末から中期前半において本遺跡に隣接する藤之宮遺跡で土器片が検出されている。遺構として確認できた遺跡は櫛引台地直下の低地に集中しているが、集落ではなく、再葬墓である。横間栗遺跡では前期末から中期前半の再葬墓が 13 基確認され、このほかにも、飯塚遺跡、飯塚南遺跡や深谷市の上敷免遺跡などでも再葬墓が確認されている。中期中頃になるとこれま



第１図　埼玉県の地形図



第２図　周辺遺跡分布図

第１表　周辺遺跡一覧表

1	**諏訪木遺跡**（縄文後・晩、弥生中・後、古墳、奈良・平安、中・近世）	24	女塚遺跡（古墳後、奈良・平安、中世）	47	別府条里遺跡（奈良・平安）	70	北西原遺跡（奈良・平安）
2	前中西遺跡（弥生中・後、古墳、奈良・平安、中・近世）	25	赤城遺跡（古墳、奈良・平安）	48	一本木前遺跡（古墳前・後、奈良・平安、中・近世）	71	塚本遺跡（古墳、奈良・平安）
3	藤之宮遺跡（弥生中、古墳、平安、中世）	26	中条遺跡（古墳、奈良・平安、中世）	49	土用ヶ谷戸遺跡（古墳後、奈良・平安）	72	西浦遺跡（奈良・平安）
4	箱田氏館跡（平安末～中世）	27	中条氏館跡（中世）	50	奈良氏館跡（平安末～中世）	73	腰廻遺跡（奈良・平安）
5	平戸遺跡（弥生中、古墳後、平安、中・近世）	28	光屋敷遺跡（古墳後、奈良・平安、中世）	51	天神下遺跡（古墳前・後、奈良・平安）	74	北方遺跡（奈良・平安）
6	久下氏館跡（中世）	29	先載場遺跡（古墳後、奈良）	52	寺東遺跡（縄文前～後）	75	宮前遺跡（奈良・平安）
7	市田氏館跡（中世）	30	八幡間遺跡（古墳後、奈良）	53	稲荷東遺跡（古墳後、奈良・平安）	76	西浦町遺跡（奈良・平安）
8	成田氏館跡（中世）	31	東城館跡（平安）	54	玉井陣屋跡（平安末～中世）	77	宮前町遺跡（奈良・平安）
9	池上遺跡（弥生中、古墳、平安）	32	長安寺遺跡（古墳後、奈良・平安）	55	新ヶ谷戸遺跡（古墳後、奈良・平安）	78	宮町遺跡（奈良・平安）
10	古宮遺跡（縄文、弥生中、古墳前、奈良・平安、中・近世）	33	西城館跡（平安）	56	水押下遺跡（古墳後）	79	仲町遺跡（奈良・平安）
11	上河原遺跡（奈良・平安、中・近世）	34	西城切通遺跡（縄文後・晩）	57	稲荷木上遺跡（古墳後）	80	旭町遺跡（奈良・平安）
12	宮の裏遺跡（古墳後）	35	鵜森遺跡（弥生後、古墳後、奈良・平安）	58	下河原中遺跡（奈良・平安）	81	北町遺跡（奈良・平安）
13	成田遺跡（古墳後）	36	森谷遺跡（古墳後、奈良・平安）	59	本代遺跡（古墳後、近世）	行　田　市	
14	中条条里遺跡（古墳前・中、奈良・平安）	37	鷺ヶ谷戸東遺跡（古墳後、奈良・平安）	60	下河原上遺跡（近世）	82	小敷田遺跡（行田市）（弥生中、古墳、奈良・平安）
15	河上氏館跡（中世）	38	実盛館（平安）	61	天神前遺跡（古墳中、後、中世）	古　墳　群	
16	八幡山遺跡（古墳）	39	場違ヶ谷戸遺跡（縄文後）	62	兵部裏屋敷跡（中世）	A	上之古墳群（古墳後～末）
17	出口下遺跡（古墳後）	40	山ヶ谷戸遺跡（古墳後、奈良・平安）	63	御蔵場跡	B	肥塚古墳群（古墳後～末）
18	熊谷氏館跡（中世）	41	宮前遺跡（奈良・平安）	64	高根遺跡（縄文、古墳後、平安、中・近世）	C	中条古墳群（古墳中期末～後）
19	肥塚館跡（中世）	42	道ヶ谷戸条里遺跡（縄文後、奈良）	65	不二ノ腰遺跡（奈良・平安）	D	奈良古墳群（古墳中期後～末）
20	出口上遺跡（奈良・平安、中・近世）	43	横塚遺跡（古墳前、平安）	66	宮前遺跡（古墳後、平安）	E	玉井古墳群（古墳後）
21	肥塚中島遺跡（奈良・平安、近世）	44	東通遺跡（古墳後）	67	宿遺跡（古墳後、奈良・平安、中・近世）	F	原島古墳群（古墳後）
22	北島遺跡（弥生中、古墳、奈良・平安、中世）	45	西通遺跡（古墳後）	68	万吉西浦遺跡（縄文中、古墳、平安、近世）	G	石原古墳群（古墳後）
23	上中条中島遺跡（古墳後、奈良・平安）	46	中耕地遺跡（縄文中、古墳前・後、奈良・平安）	69	村岡館跡	H	村岡古墳群（古墳後）

での状況は一変して、集落跡の展開が増す。東日本でも最古の段階の環濠集落と考えられる池上遺跡や、その墓域される方形周溝墓が検出された行田市の小敷田遺跡などがあり、集落としての展開が本格的に始まる。中期後半は前中西遺跡、諏訪木遺跡、北島遺跡で集落が営まれており、前中西、諏訪木、藤之宮遺跡では方形周溝墓も検出されている。北島遺跡では、大規模な集落展開と墓域の形成のほかに、特筆すべきこととして、水田に引き込む水路や堰が造営されていたことが挙げられる。このことは当時、本格的な水田経営が行われていたことを物語っており、注目すべき遺跡として挙げられる。後期になると初頭については藤之宮遺跡で土器片が若干検出されているが、遺構は確認されていない。遺構が確認された事例は前中西遺跡、北島遺跡以外に周辺での確認事例はない。

古墳時代に入ると、古墳は台地・自然堤防等の微高地に形成され、集落は台地ばかりでなく低地帯の自然堤防上にも営まれるようになり、次第に遺跡数も増加傾向にある。前期では、妻沼低地に大きく遺跡が展開している。横間栗遺跡・別府条里遺跡・一本木遺跡・中耕地遺跡・北島遺跡弥藤吾新田遺跡等がある。横間栗遺跡では住居跡が３軒、北島遺跡では 21 軒検出されており、北島遺跡さらに弥藤吾新田遺跡等は比較的大規模な集落と推定されている。

中期の様相は、他の時期と比べて不明な点が多いが、集落が大規模に展開していくのは中期後半以降と推定される。北島遺跡・中条遺跡内の権現山遺跡・常光院東遺跡等で遺構・遺物が検出されている。北島遺跡では住居跡から須恵器の甕を模倣した土師器小型壺が、権現山遺跡では出現期の竈をもつ住居

跡が検出されている。また、集落内の祭祀は東川端遺跡に確認されていて、遺物が集中分布している谷にむかう斜面部で剣形の滑石製模造品が検出されている。また、古墳に目を向けると、数こそ少ないが、妻沼低地の福川の自然堤防に横塚山古墳が存在する。そして、後期になると遺跡は爆発的な増加をみる。台地ばかりではなく自然堤防上にもさらに積極的に進出を図っていったようである。集落は、古墳時代後期から奈良・平安時代へと継続して展開する大規模なものが市内では目立つようになる。櫛挽台地及び新荒川扇状地上では、樋の上遺跡で古墳時代後期から平安時代の住居跡が 150 軒以上検出され、このうち古墳時代後期のものは 14 軒以上に上る。また現在では同遺跡の一部となっている上辻・下辻遺跡でも後期から平安時代の住居が 50 軒以上検出された。三ヶ尻遺跡内の天王遺跡等でも後期の集落が検出されている。一方、妻沼低地の自然堤防上では、一本木前遺跡・飯塚南遺跡・北島遺跡・小敷田遺跡等が存在する。一本木前遺跡では後期を中心に奈良・平安時代の住居跡が 450 軒以上検出されており、当該期の祭祀跡も発見され、折り重なるように土師器杯等が出土し、それとともに臼玉も出土している。

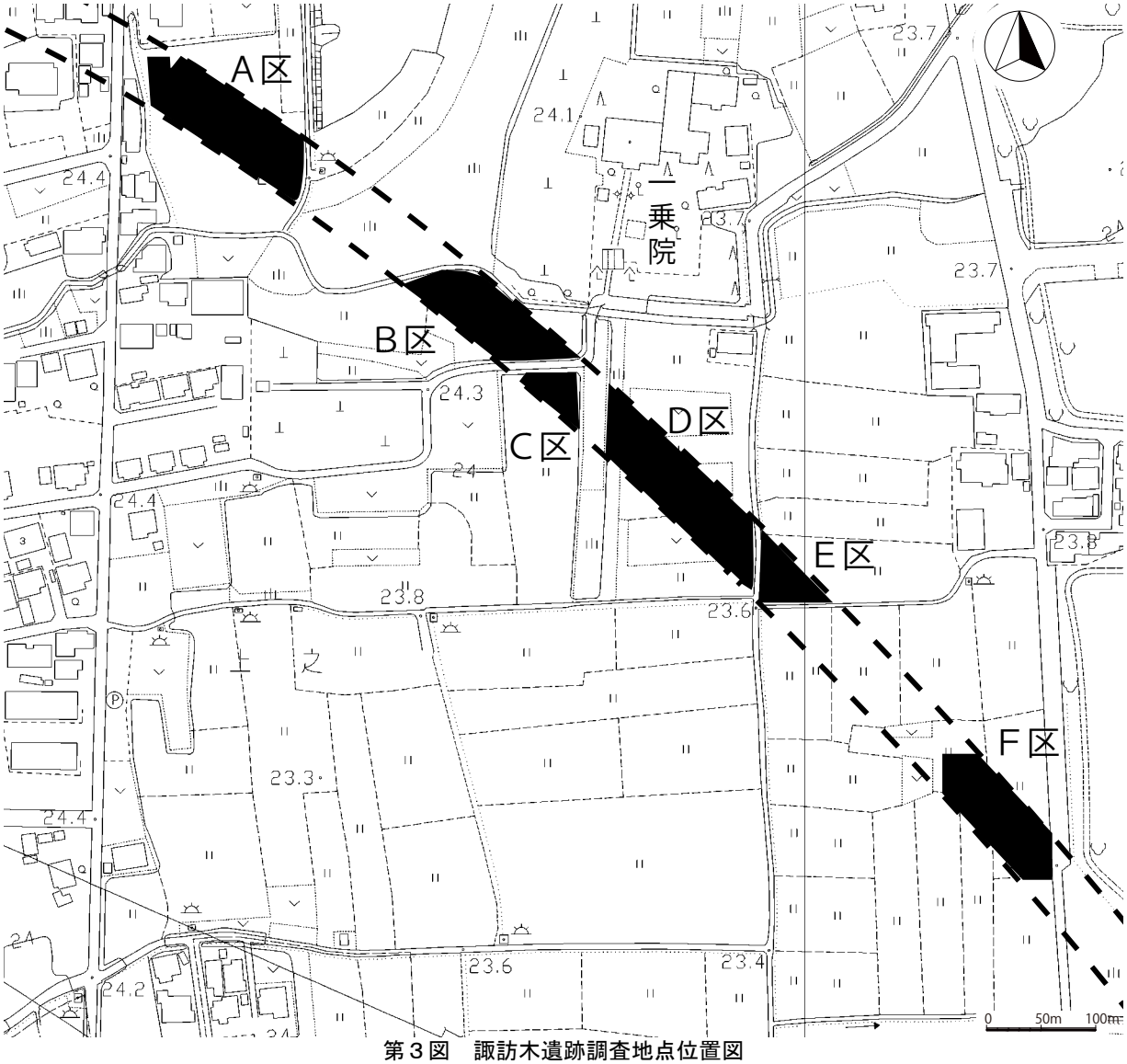
古墳時代後半に自然堤防上の微高地に形成された集落の多くは、増減はするもの奈良・平安時代へと継続されていく。このころの中心的集落遺跡は妻沼低地の北島遺跡にみられる。300 軒以上もの住居跡が検出されている大規模集落である。７世紀から９世紀を中心に 12 世紀、さらには中世にまで及ぶ集落であり、北島遺跡は地域の中核となる典型的律令集落であろうと推定される。

さらには、７世紀末から８世紀初頭頃の出挙木簡を出土した小敷田遺跡、整然と配された９世紀代の掘立柱建物跡群が検出された池上遺跡も存在する。また、隣接する諏訪木遺跡では、古墳時代後期から平安時代にかけての祭祀が行われた河川跡が検出され、玉類、被熱した銅鋺、さらには斎串・人形等の木製祭祀具を使った水辺の祭祀が行われていたことが確認されたほか、平安時代の溝に区画された集落跡や大型の掘立柱建物跡群、多数の灰釉陶器や緑釉陶器が検出されるなど官衙的様相が看取でき、西別府祭祀遺跡と同様に注目すべき遺跡である。

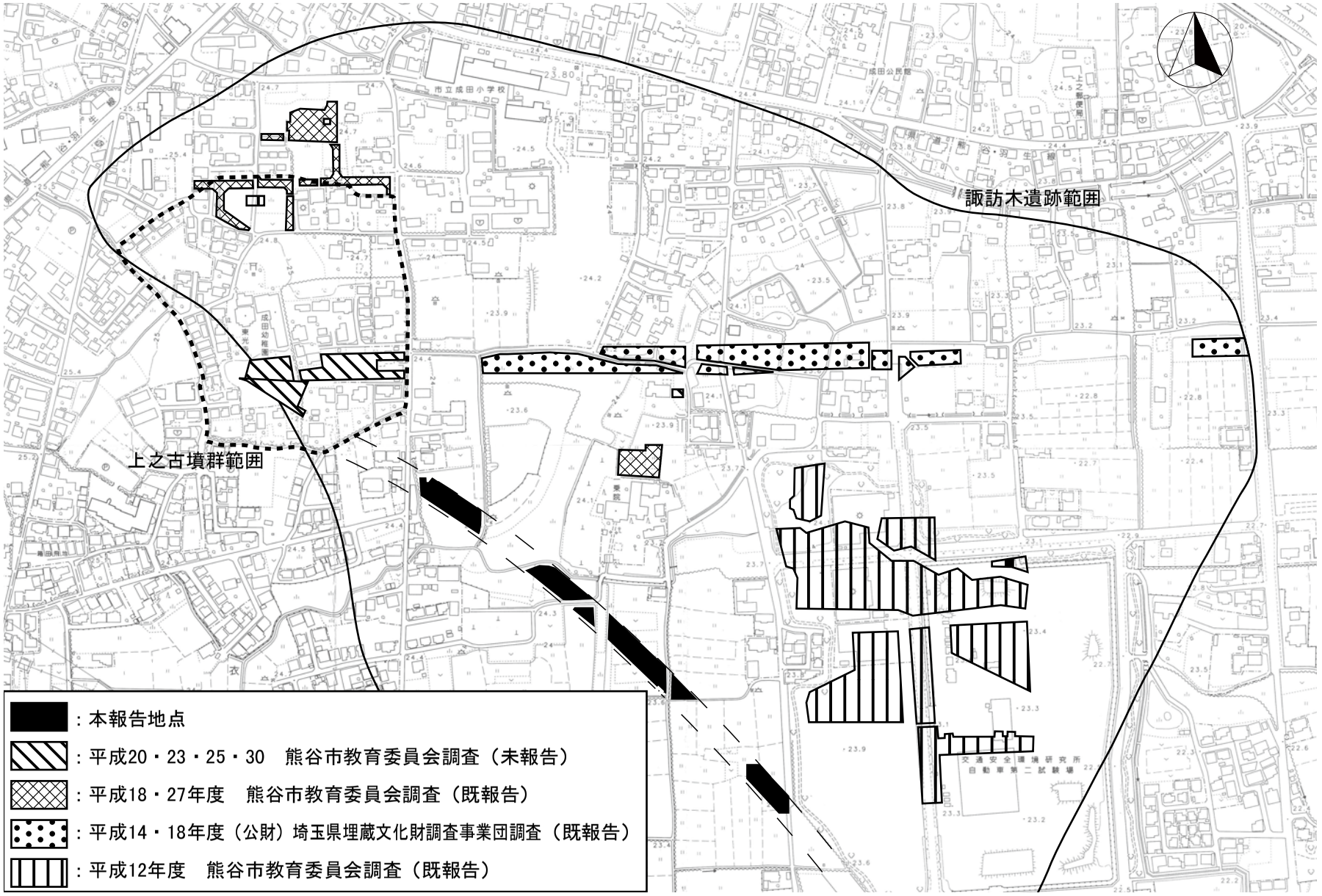
そして、集落以外の遺跡では、櫛挽台地北東端には本遺跡に隣接して深谷市幡羅官衙遺跡が所在する。この幡羅官衙遺跡は東西 500 m、南北 400 mの範囲をもつ幡羅郡家跡であり、これまでに郡庁を除く正倉院、館、厨家、曹司、道路等の施設が検出され、７世紀後半に小規模な倉庫などの掘立柱建物が建てられ、７世紀末には主要な施設が整えられていったようである。そして、８世紀末には正倉の掘立柱建物から礎石建物への建て替えや敷地の拡張などが行われ、９世紀前半～中葉には二重溝と土塁による区画施設が造られ郡家の様相も大きく変化する。また、この幡羅官衙遺跡の周辺には、西別府廃寺、西別府祭祀遺跡が所在し、郡家との関連で注目されおり、平成 30 年２月にはこの内の、幡羅官衙遺跡と西別府祭祀遺跡が国史跡に指定されている。西別府廃寺は、郡司が創建に関わったとされる県内でも古い８世紀初頭創建の寺院であり、基壇建物跡、寺域を区画する溝跡、瓦溜り状遺構などが検出され、多数出土している軒丸瓦や軒平瓦などから９世紀後半まで存続していたと考えられている。西別府祭祀遺跡は、７世紀後半から 11 世紀前半まで湧泉で行われた水辺の祭祀跡であり、石製模造品をはじめ、墨書土器等の土器が多数検出されており、祭祀具や場所を時代とともに変えて祭祀が継続的に行われていたと考えられる。また、この西別府祭祀遺跡の北西の妻沼低地上の本郷前東遺跡・新屋敷東遺跡では、河川跡の縁辺部で７世紀前半の土器と共伴する石製模造品が出土し、集落内の祭祀跡においても、石製模造品が出土しており、水利にかかわる再生を祈願した水の祭祀と理解され、西別府祭祀遺跡へと続く

祭祀の前段階の時期のものとして注目される。奈良・平安時代の集落遺跡としては、広瀬地区には本遺跡のほか在家遺跡・籠原裏遺跡・拾六間後遺跡・飯塚南遺跡・新ケ谷戸遺跡・横塚遺跡・北島遺跡等がある。特に北島遺跡は 7 世紀から 12 世紀の大規模な集落で、多数の住居跡とともに大規模な掘立柱建物跡・道路状遺構・河川跡等など、興味深い発見がされている。一本木前遺跡の 11 世紀初頭の住居跡からは、瑞花鴛鴦八稜鏡が出土し、県内初の住居跡出土例として注目されている。

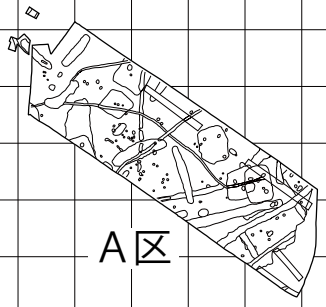
平安時代末から中世になると、武蔵七党やその他の在地武士団の館跡が散在するようになる。別府城跡・別府氏館跡・西別府館跡・玉井陣屋跡・奈良氏館跡・黒沢館跡・兵部裏屋敷等であるが、各館跡も実態は不明である。その中で残りの良いものの中に、本遺跡の北西に位置する別府城跡がある。別府氏の居館で方形の敷地に土塁の一部と空堀をよく残している。また、三ヶ尻地区に所在する黒沢館跡は、発掘調査によって、渡辺崋山が記した『訪瓯録』に残る「黒沢屋敷」の記載と調査成果が合致した貴重な例である。その北側に所在する樋の上遺跡でも、15～16 世紀の土壙・集石遺構とともに比較的深くコーナーをもつ溝跡が検出されており、館跡の一部である可能性が考えられる。なお、中世以降の歴史的実態はまだまだ情報不足で、今後の調査成果によるところが多く、情報の蓄積に期待するところであろう。

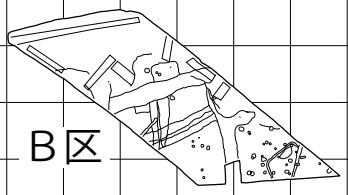


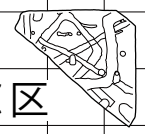
第３図　諏訪木遺跡調査地点位置図



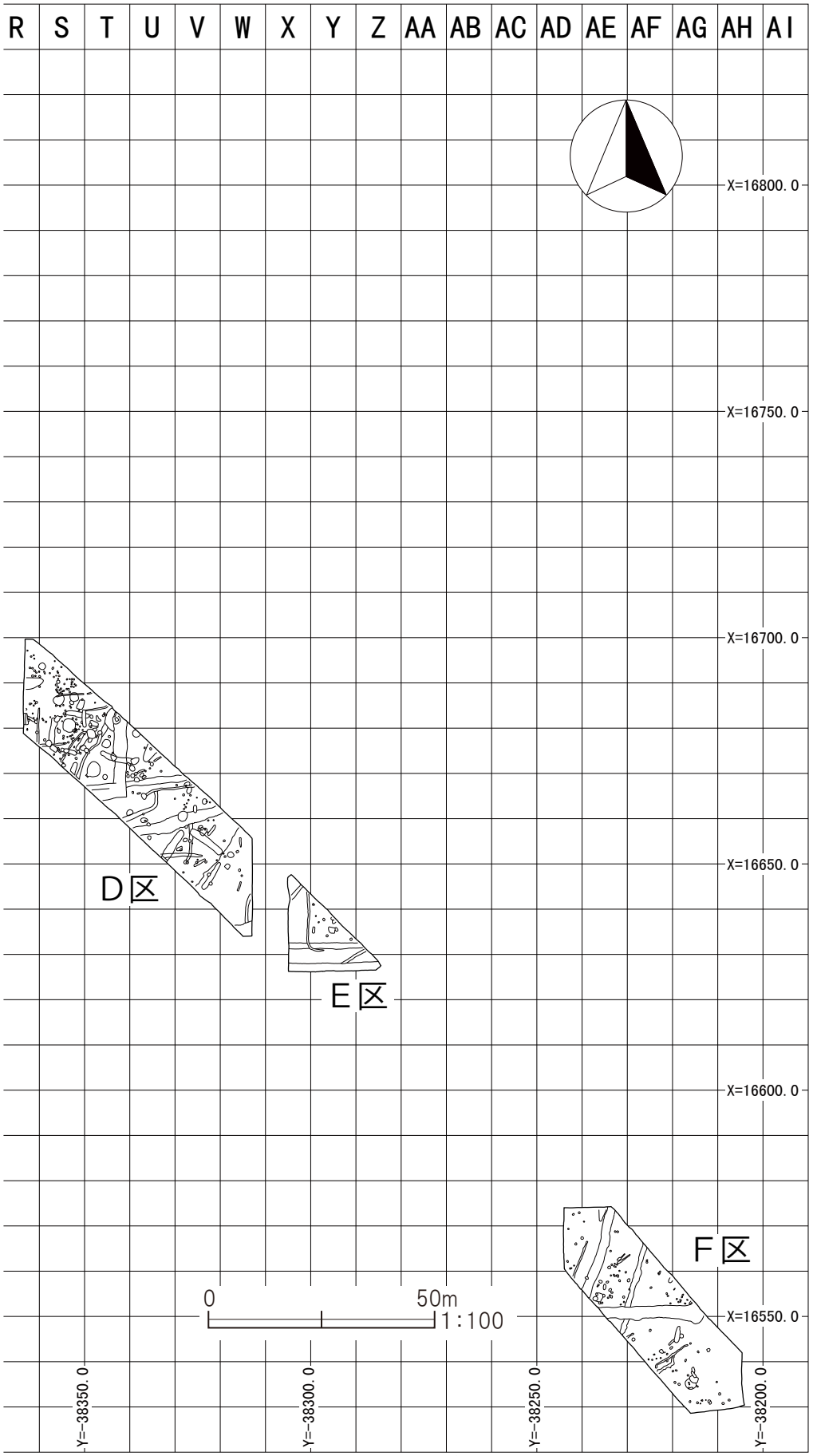
第４図　調査地区周辺発掘調査実績







	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q
1																	
2																	
3																	
4																	
5																	
6																	
7																	
8																	
9																	
10																	
11																	
12																	
13																	
14																	
15																	
16																	
17																	
18																	
19																	
20																	
21																	
22																	
23																	
24																	
25																	
26																	
27																	
28																	
29																	
30				Y=−38500.0					Y=−38450.0					Y=−38400.0			
31																	


R
S
T
U
V
W
X
Y
Z
AA
AB
AC
AD
AE
AF
AG
AH
AI
X=16800.0
X=16750.0
X=16700.0
X=16650.0
X=16600.0
X=16550.0
D区
E区
F区
0
50m
1:100
Y=−38350.0
Y=−38300.0
Y=−38250.0
Y=−38200.0

第５図　調査区全測図

Ⅲ　遺跡の概要

⑴　諏訪木遺跡について

諏訪木遺跡は、市の東部に位置し、規模としては７８万㎡で、縄文から江戸時代に至るまでの複合遺跡ある。遺跡の所在する上之地区周辺はこれまで数十年にわたり、発掘調査を実施しており、同地区においては、市による区画整理事業が進行中で、隣接する前中西遺跡、藤の宮遺跡と合わせて、毎年、区画整理地内における各遺跡で発掘調査を実施している。

⑵　調査の方法

発掘調査の方法は、１辺 10 ｍのグリッド方式を用いて行い、調査区全体を網羅できる様に、北西隅をＡ－１として東へA・B・C、南へ１・２・３とし、Ａラインは北から南へＡ－１・Ａ－２・Ａ－３・・・と呼称した。Ｂライン以西もＡラインと同様に呼称し、グリッド設定を行った。

なお、座標は、周辺の過去の発掘調査地点との照会を容易にするため、世界測地系による国家方眼座標に基づく基準点測量による。

重機による表土剥ぎを実施し、その後は、人力による遺構確認のための精査を実施し、確認された各遺構は各々手掘りを行った。原則として、遺物は必要に応じて写真撮影後、遺構ごとに一括して慎重に取り上げた。遺構は、写真撮影した後、実測を行った。そして、最後に遺構全体の写真撮影を行い、全測図の実測を行った。

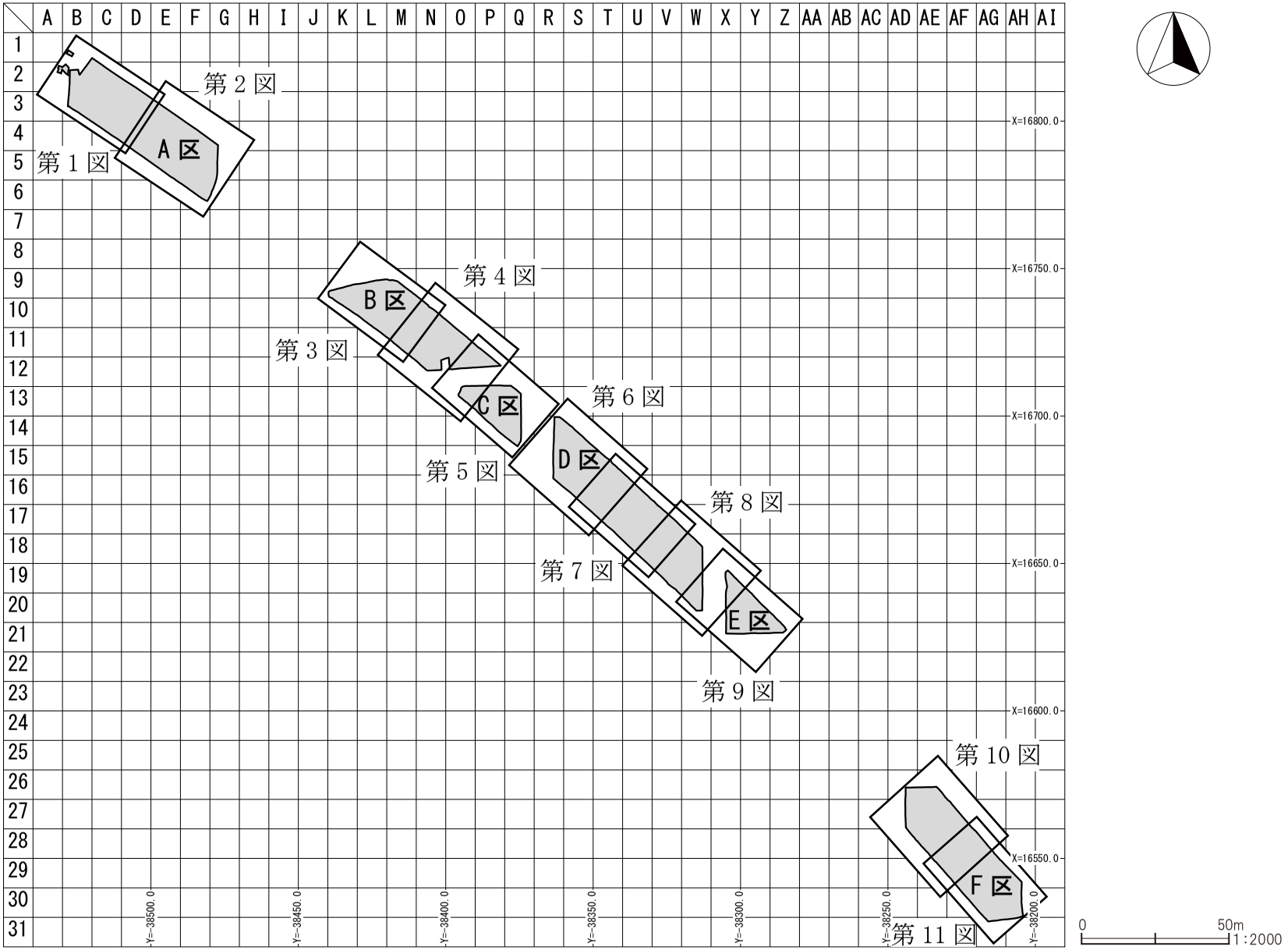
⑶　検出された遺構と遺物

本調査によって検出された遺構は、住居跡９軒、掘立柱建物跡２軒、方形周溝墓８基、河川跡３条、溝跡 75 条、土坑 46 基、井戸跡 13 基、ピット 428 基である。

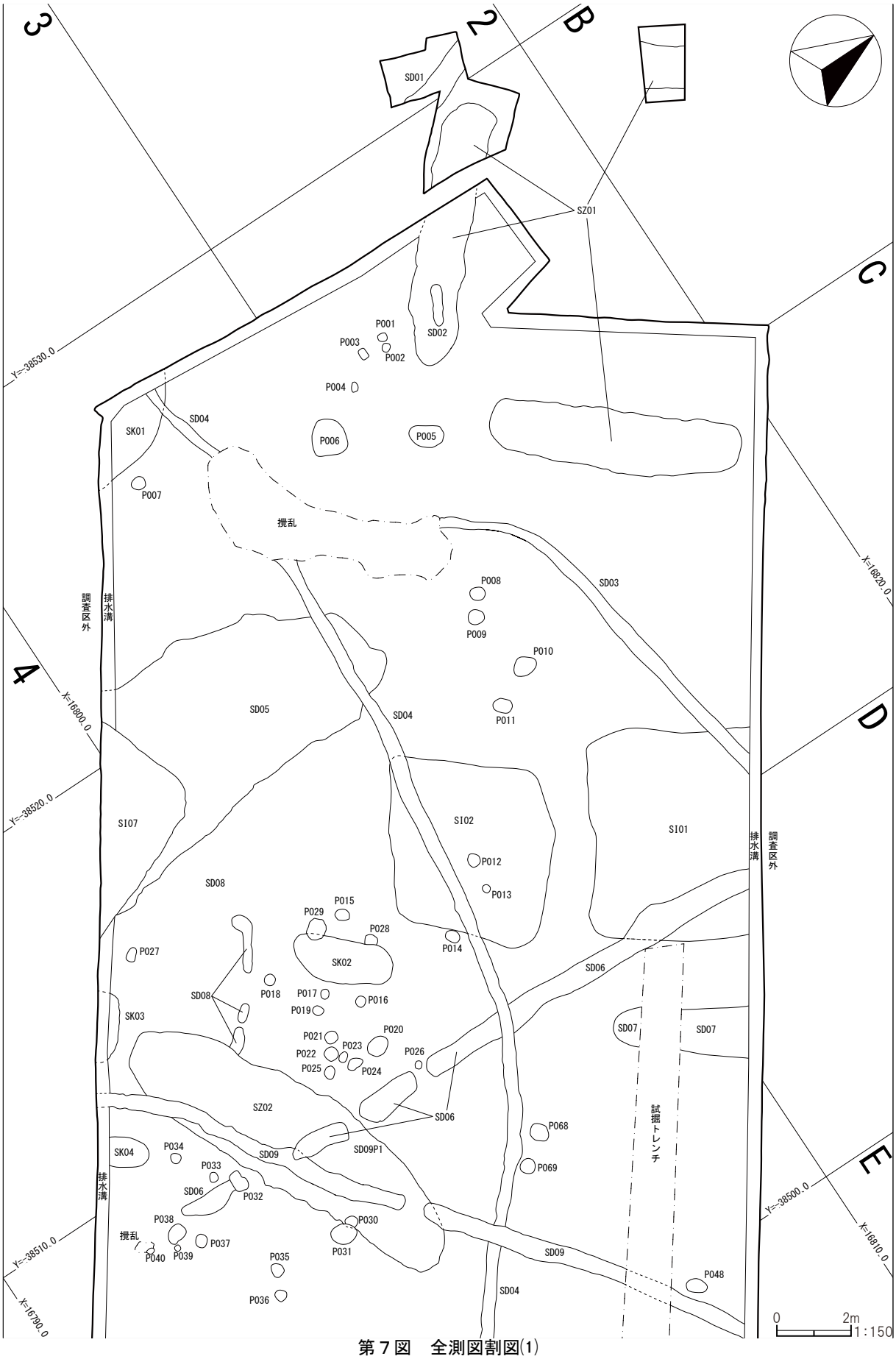
住居跡はＡ区からＢ区までの間のみの検出であり、掘立柱建物跡はＣ、Ｄ区、方形周溝墓については、ＡからＤ区の微高地に展開している。河川跡はＡ区、Ｂ区、Ｅ区に確認され、溝跡は全区内で検出されている。

遺物については、弥生時代中期から古墳時代前期の弥生土器、土師器坏、高坏、甕、壺が主体的で、一部区域では、中近世の土師質土器（かわらけ）、陶磁器類が集中して検出している。

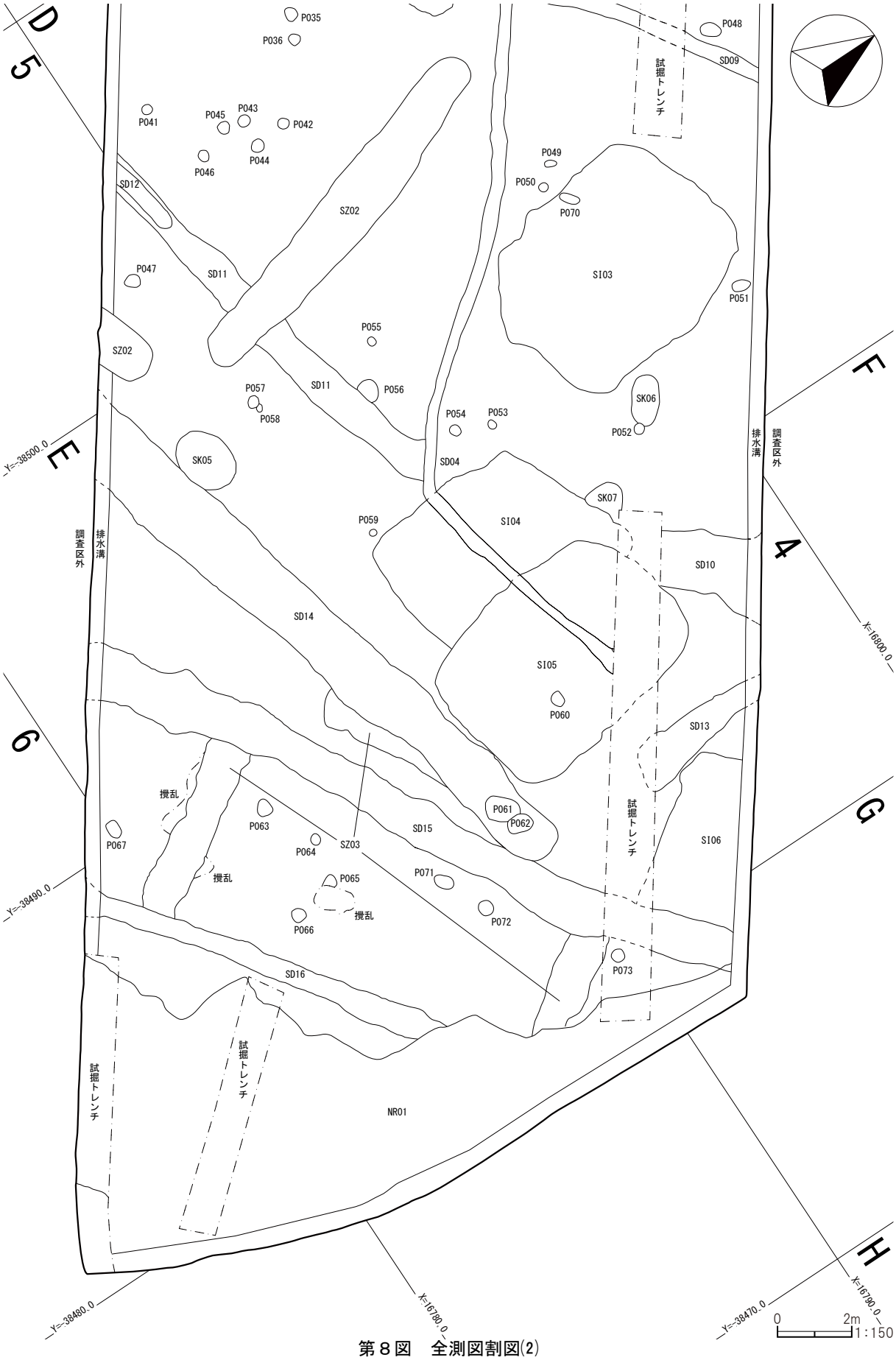
検出した遺物量はコンテナ（大きさ：縦 34 ㎝、横 54 ㎝、深さ 15 ㎝）にして 58 箱であった。以下、調査の詳細を述べる。


A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z AA AB AC AD AE AF AG AH AI
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
第 1 図
第 2 図
第 3 図
第 4 図
第 5 図
第 6 図
第 7 図
第 8 図
第 9 図
第 10 図
第 11 図
A 区
B 区
C 区
D 区
E 区
F 区
X=16800.0
X=16750.0
X=16700.0
X=16650.0
X=16600.0
X=16550.0
Y=-38500.0
Y=-38450.0
Y=-38400.0
Y=-38350.0
Y=-38300.0
Y=-38250.0
Y=-38200.0
0
50m
1:2000

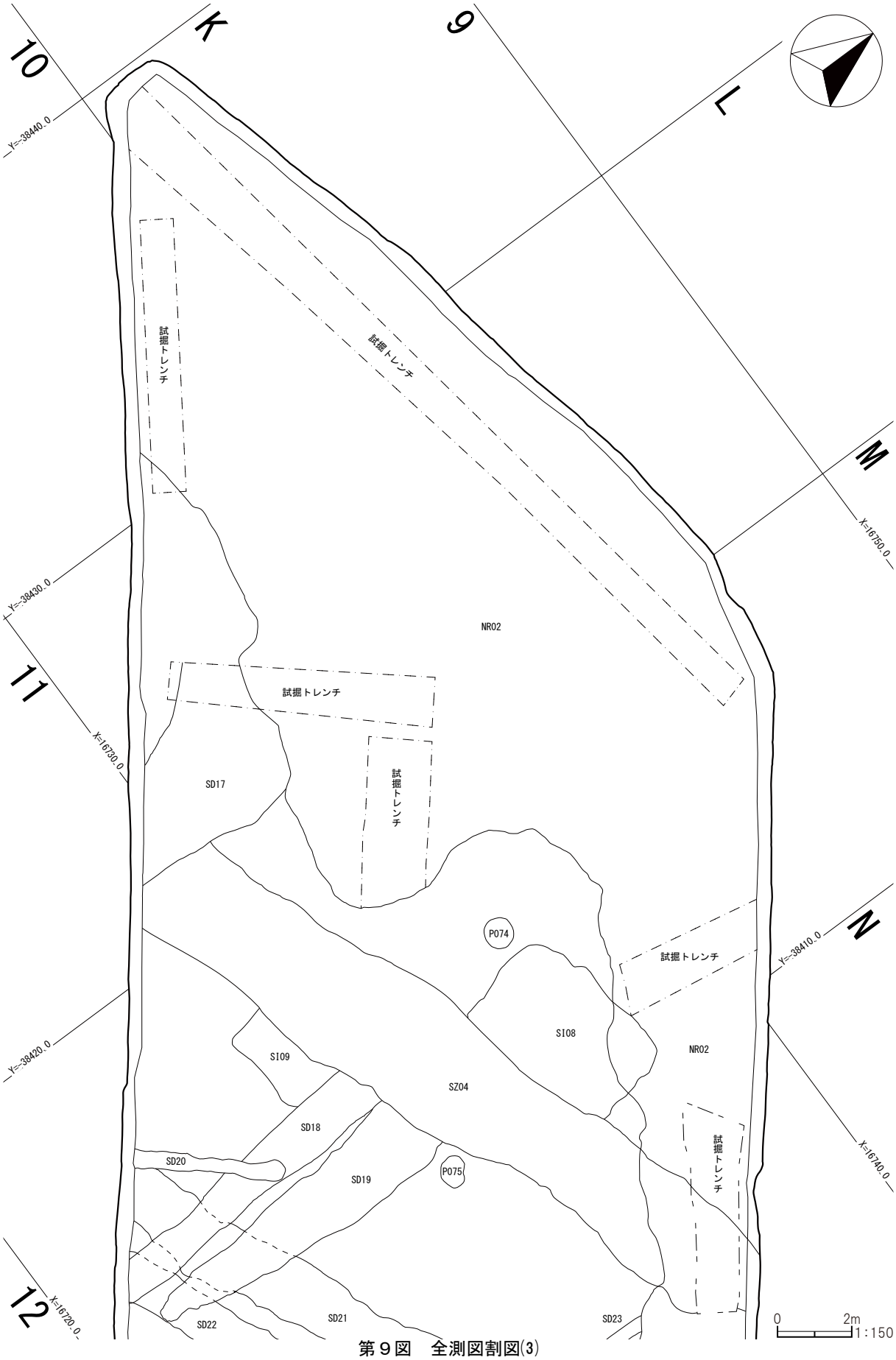
第６図　調査区配置図


3
2
B
C
D
E
4
SD01
SZ01
SD02
P001
P002
P003
P004
P005
P006
P007
SK01
SD04
撹乱
SD03
P008
P009
P010
P011
SD05
SD04
SI07
SI02
SI01
P012
P013
SD08
P015
P029
P028
P014
P027
SK02
SD06
P018
P017
P016
P019
SD08
SK03
P020
P021
P023
P022
P026
P025
P024
SD07
SD07
SZ02
SD06
P068
P069
SK04
P034
SD09
SD09P1
P033
SD06
P032
P038
P030
撹乱
P037
P040
P039
P031
P035
P036
SD09
SD04
P048
調査区外
排水溝
試掘トレンチ
Y=-38530.0
Y=-38520.0
Y=-38510.0
Y=-38500.0
X=16800.0
X=16820.0
X=16810.0
X=16790.0
0
2m
1:150

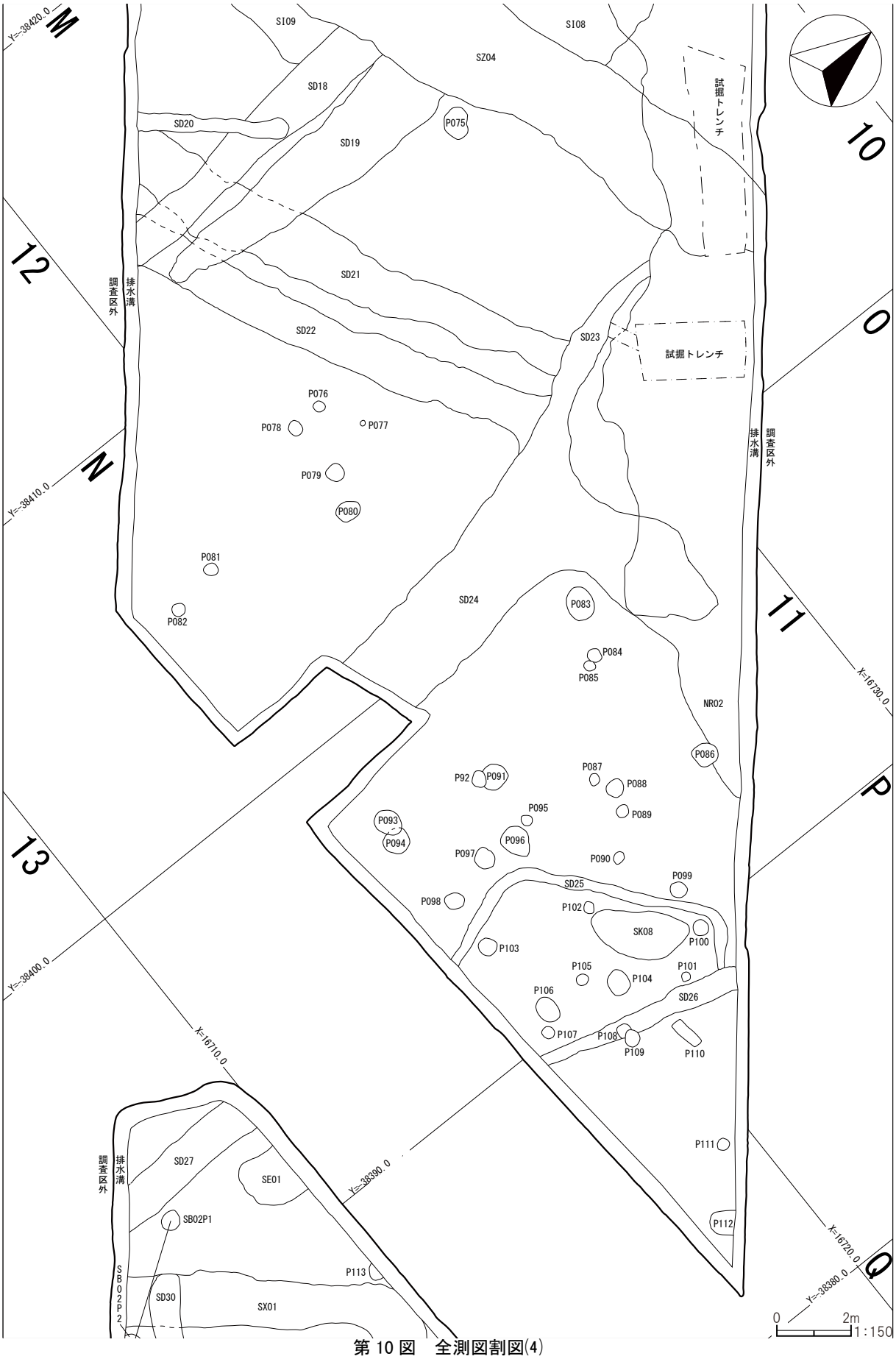
第７図　全測図割図(1)


D
5
E
6
F
4
G
H
P035
P036
P041
P045
P043
P042
P044
P046
P048
SD09
試掘トレンチ
P049
P050
P070
SD12
SZ02
SI03
P047
SD11
P051
P055
SZ02
P057
P058
SD11
P056
P054
P053
SK06
P052
排水溝
調査区外
SK05
SD04
SK07
P059
SI04
SD10
SD14
SI05
P060
SD13
撹乱
P063
P061
P062
P067
P064
SZ03
SD15
試掘トレンチ
SI06
撹乱
P065
P071
P066
撹乱
P072
P073
SD16
試掘トレンチ
試掘トレンチ
NR01
Y=-38500.0
Y=-38490.0
Y=-38480.0
Y=-38470.0
X=16780.0
X=16790.0
X=16800.0
0
2m
1:150

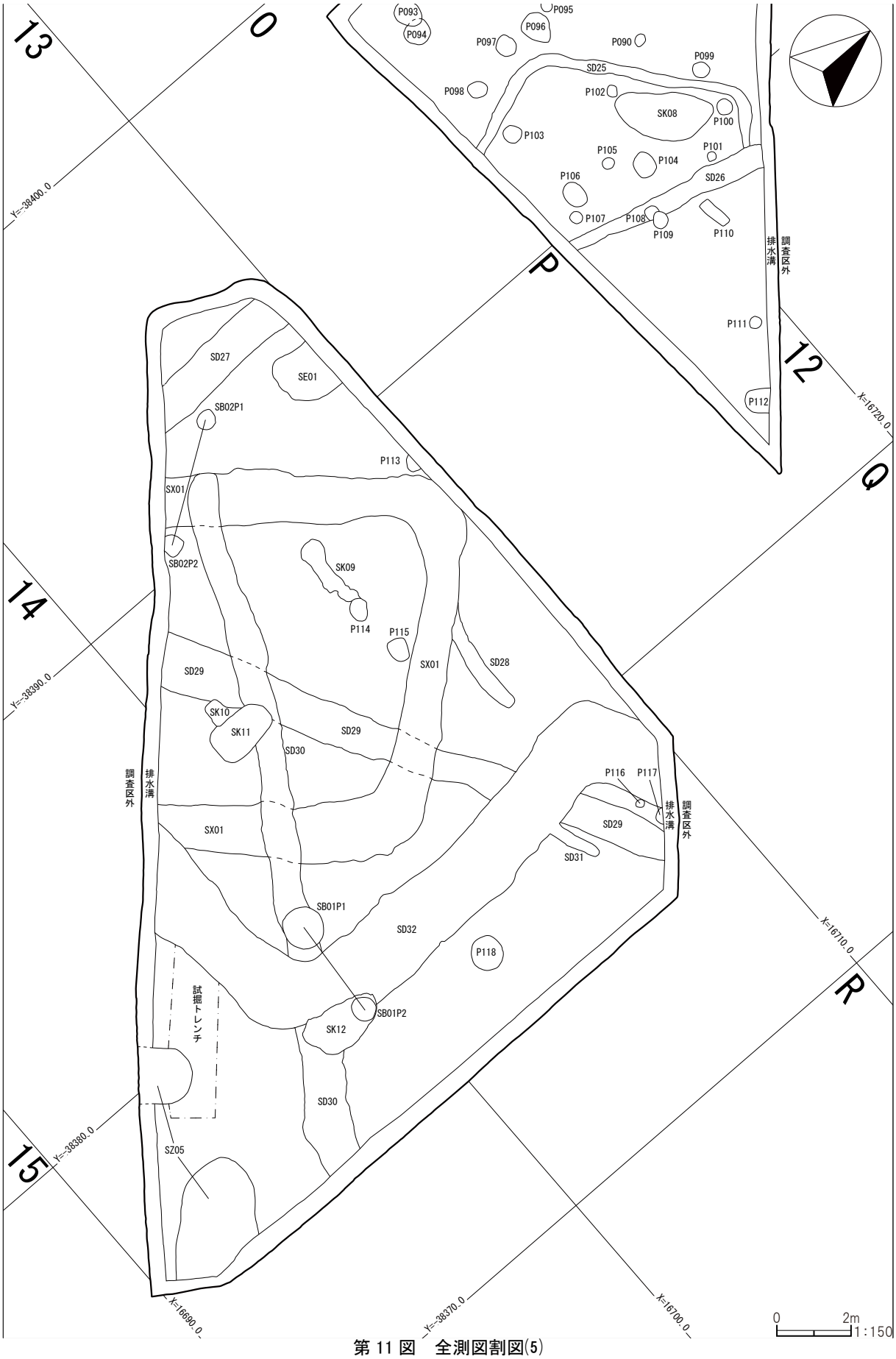
第８図　全測図割図(2)


K
9
L
M
N
10
11
12
Y=-38440.0
Y=-38430.0
Y=-38420.0
Y=-38410.0
X=16730.0
X=16750.0
X=16740.0
X=16720.0
試掘トレンチ
試掘トレンチ
試掘トレンチ
試掘トレンチ
試掘トレンチ
試掘トレンチ
NR02
NR02
SD17
SD18
SD19
SD20
SD21
SD22
SD23
SI08
SI09
SZ04
P074
P075
0
2m
1:150

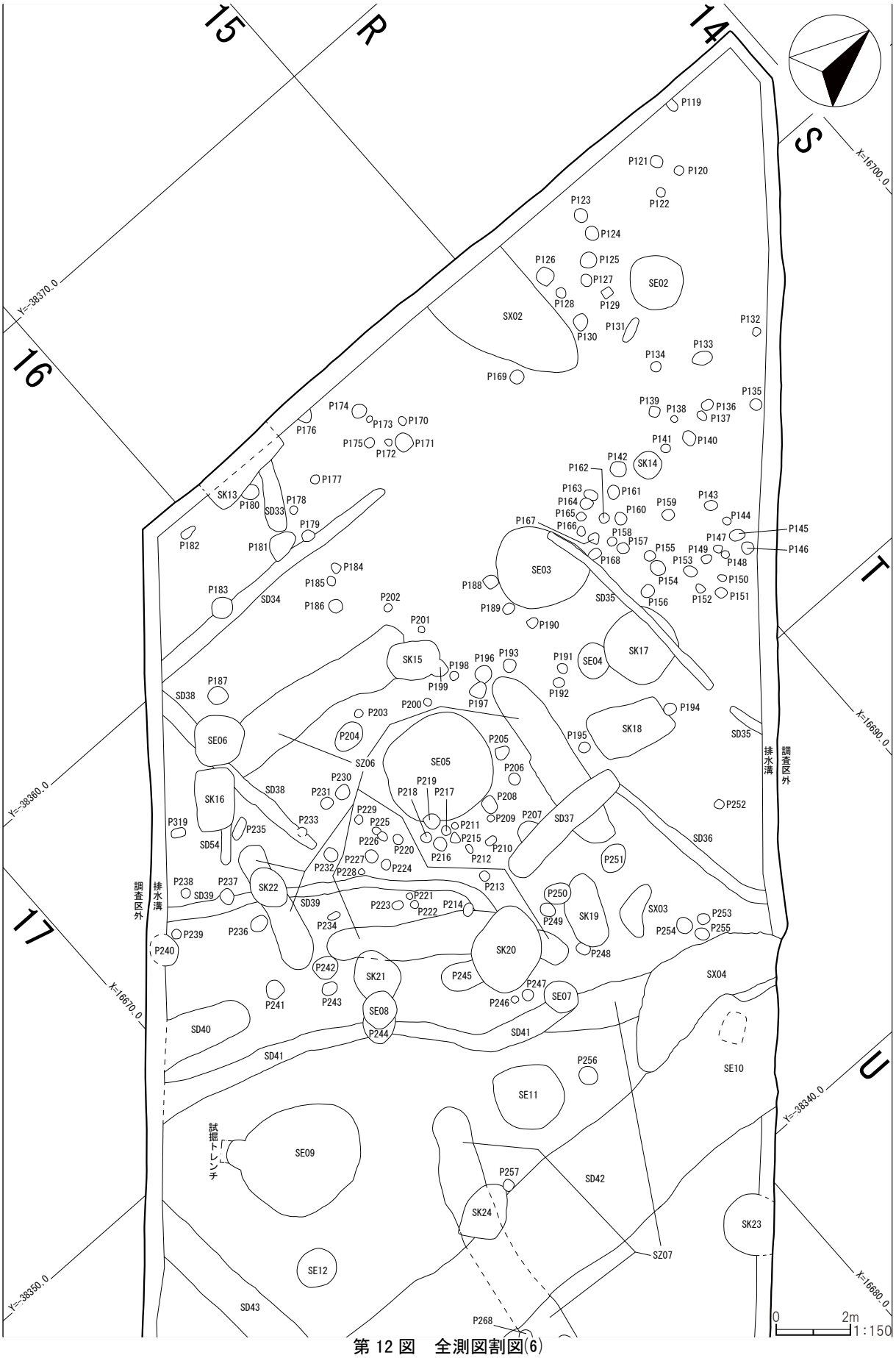
第９図　全測図割図(3)


Y=38420.0
M
SI09
SI08
SZ04
SD18
SD20
SD19
P075
試掘トレンチ
10
12
SD21
排水溝
調査区外
SD22
SD23
試掘トレンチ
O
P076
P078
P077
排水溝
調査区外
Y=38410.0
N
P079
P080
P081
P082
SD24
P083
11
P084
P085
Y=16730.0
NR02
P086
P087
P92
P091
P088
P095
P089
P093
P094
P096
P097
P090
P
13
P099
SD25
P098
P102
SK08
P100
P103
P105
P101
P104
P106
SD26
Y=38400.0
P107
P108
P109
P110
X=16710.0
P111
調査区外
排水溝
SD27
SE01
Y=38390.0
SB02P1
P112
X=16720.0
Q
P113
SB02P2
SD30
SX01
Y=38380.0
0
2m
1:150

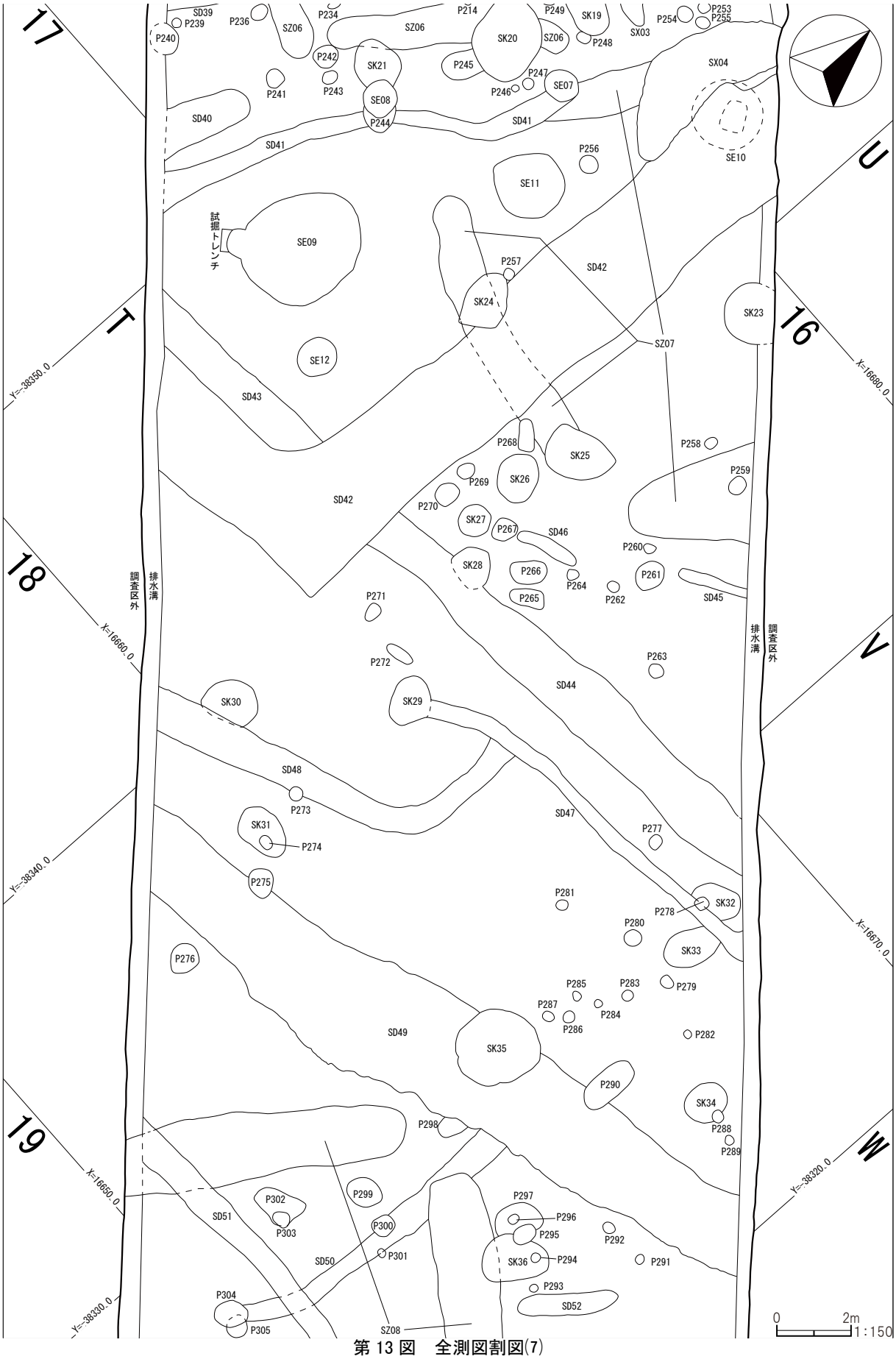
第 10 図　全測図割図(4)


O
P
Q
R
12
13
14
15
X=16720.0
X=16710.0
X=16700.0
X=16690.0
Y=-38400.0
Y=-38390.0
Y=-38380.0
Y=-38370.0
P093
P094
P095
P096
P097
P090
P099
SD25
P098
P102
SK08
P100
P103
P105
P101
P104
SD26
P106
P107
P108
P109
P110
P111
P112
調査区外
排水溝
SD27
SE01
SB02P1
P113
SX01
SB02P2
SK09
P114
P115
SD28
SD29
SK10
SK11
SD30
P116
P117
SD31
SB01P1
SD32
P118
試掘トレンチ
SB01P2
SK12
SZ05
0
2m
1:150

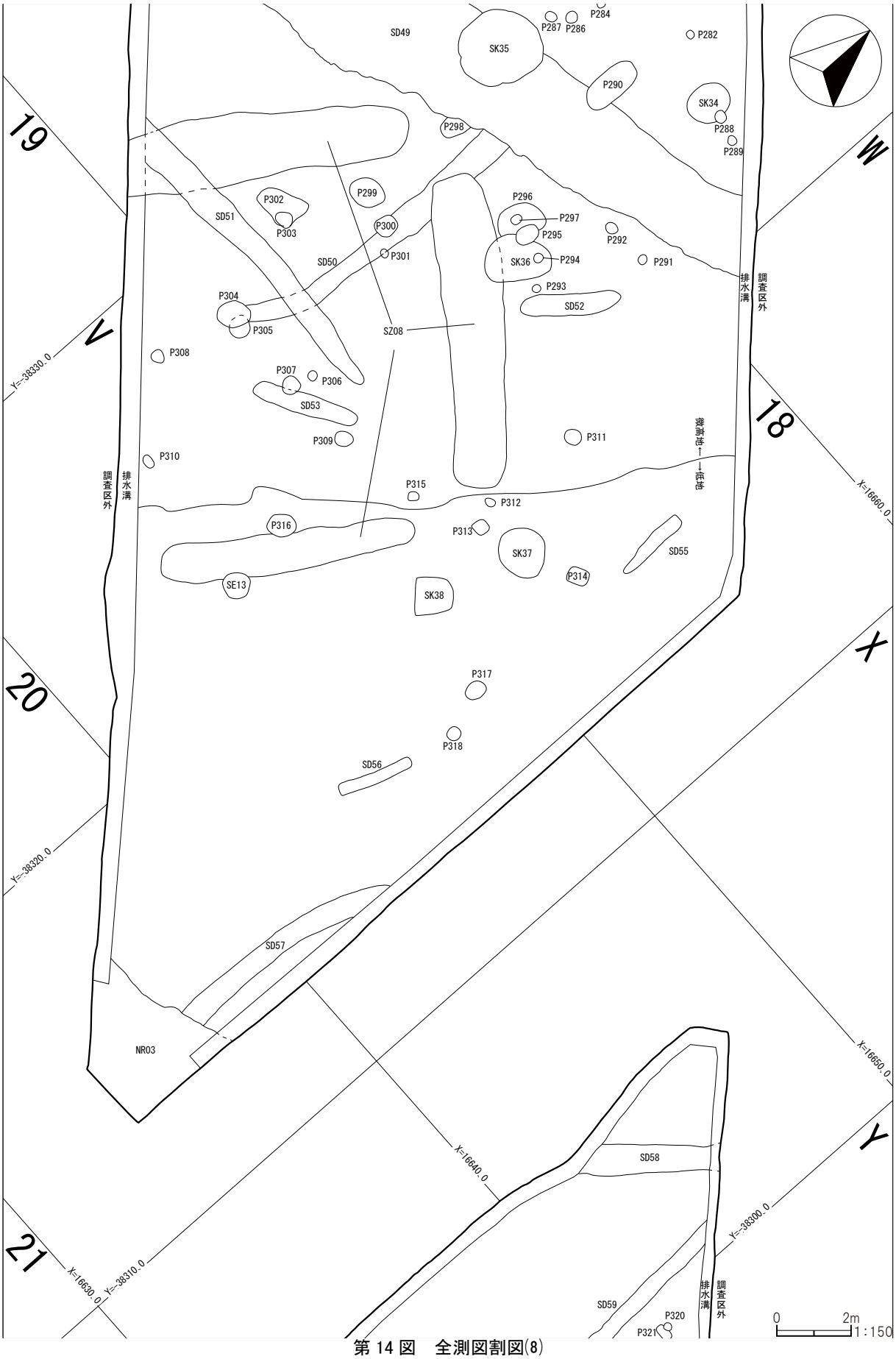
第 11 図　全測図割図(5)


15
R
14
S
16
T
17
U
X=16700.0
X=16690.0
X=16680.0
X=16670.0
Y=-38370.0
Y=-38360.0
Y=-38350.0
Y=-38340.0
P119
P120
P121
P122
P123
P124
P125
P126
P127
P128
P129
P130
P131
P132
P133
P134
P135
P136
P137
P138
P139
P140
P141
P142
P143
P144
P145
P146
P147
P148
P149
P150
P151
P152
P153
P154
P155
P156
P157
P158
P159
P160
P161
P162
P163
P164
P165
P166
P167
P168
P169
P170
P171
P172
P173
P174
P175
P176
P177
P178
P179
P180
P181
P182
P183
P184
P185
P186
P187
P188
P189
P190
P191
P192
P193
P194
P195
P196
P197
P198
P199
P200
P201
P202
P203
P204
P205
P206
P207
P208
P209
P210
P211
P212
P213
P214
P215
P216
P217
P218
P219
P220
P221
P222
P223
P224
P225
P226
P227
P228
P229
P230
P231
P232
P233
P234
P235
P236
P237
P238
P239
P240
P241
P242
P243
P244
P245
P246
P247
P248
P249
P250
P251
P252
P253
P254
P255
P256
P257
P268
SE02
SE03
SE04
SE05
SE06
SE07
SE08
SE09
SE10
SE11
SE12
SK13
SK14
SK15
SK16
SK17
SK18
SK19
SK20
SK21
SK22
SK23
SK24
SD33
SD34
SD35
SD36
SD37
SD38
SD39
SD40
SD41
SD42
SD43
SD54
SX02
SX03
SX04
SZ06
SZ07
調査区外
排水溝
試掘トレンチ
0
2m
1:150

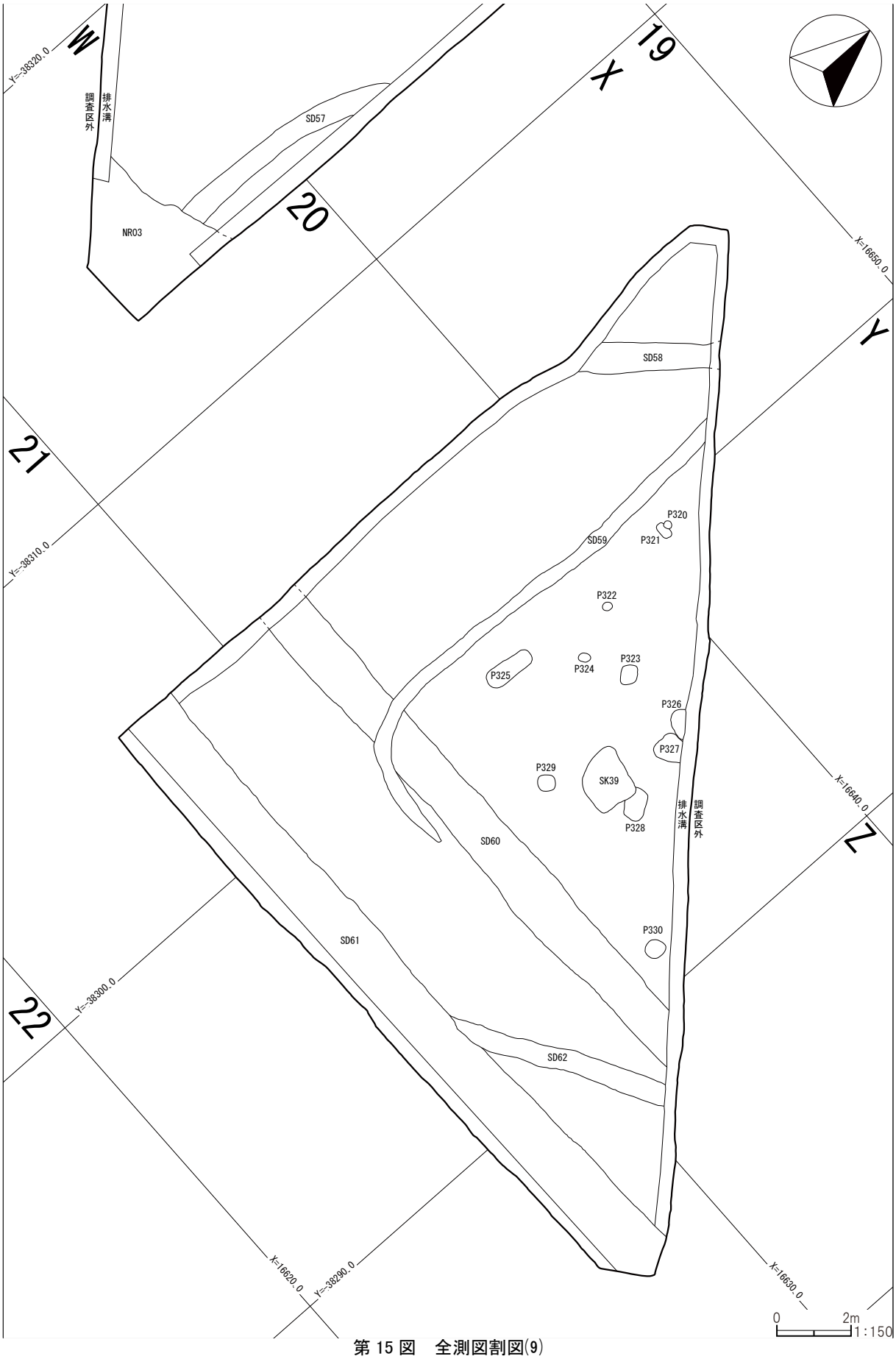
第 12 図　全測図割図(6)


17
18
19
T
U
V
W
16
X=16690.0
X=16670.0
X=16650.0
Y=-38350.0
Y=-38340.0
Y=-38330.0
Y=-38320.0
調査区外
排水溝
試掘トレンチ
SD39
P239
P240
P236
SZ06
P234
P214
P249
SK19
P254
P253
P255
SX03
SK20
P248
P242
SK21
P245
P247
SE07
SX04
P241
P243
P246
SE08
P244
SD40
SD41
SE10
P256
SE11
SE09
P257
SD42
SK24
SK23
SZ07
SE12
SD43
P268
SK25
P258
P269
SK26
P259
P270
SK27
P267
SD46
P260
SK28
P266
P264
P261
P265
P262
SD45
P271
P263
P272
SD44
SK30
SK29
SD48
P273
SK31
P274
SD47
P277
P275
P281
P278
SK32
P280
P276
SK33
P285
P283
P279
P287
P284
P286
SD49
P282
SK35
P290
SK34
P298
P288
P289
P299
P297
P302
P296
SD51
P303
P300
P295
P292
SD50
P301
SK36
P294
P291
P304
P293
SD52
P305
SZ08
0
2m
1:150

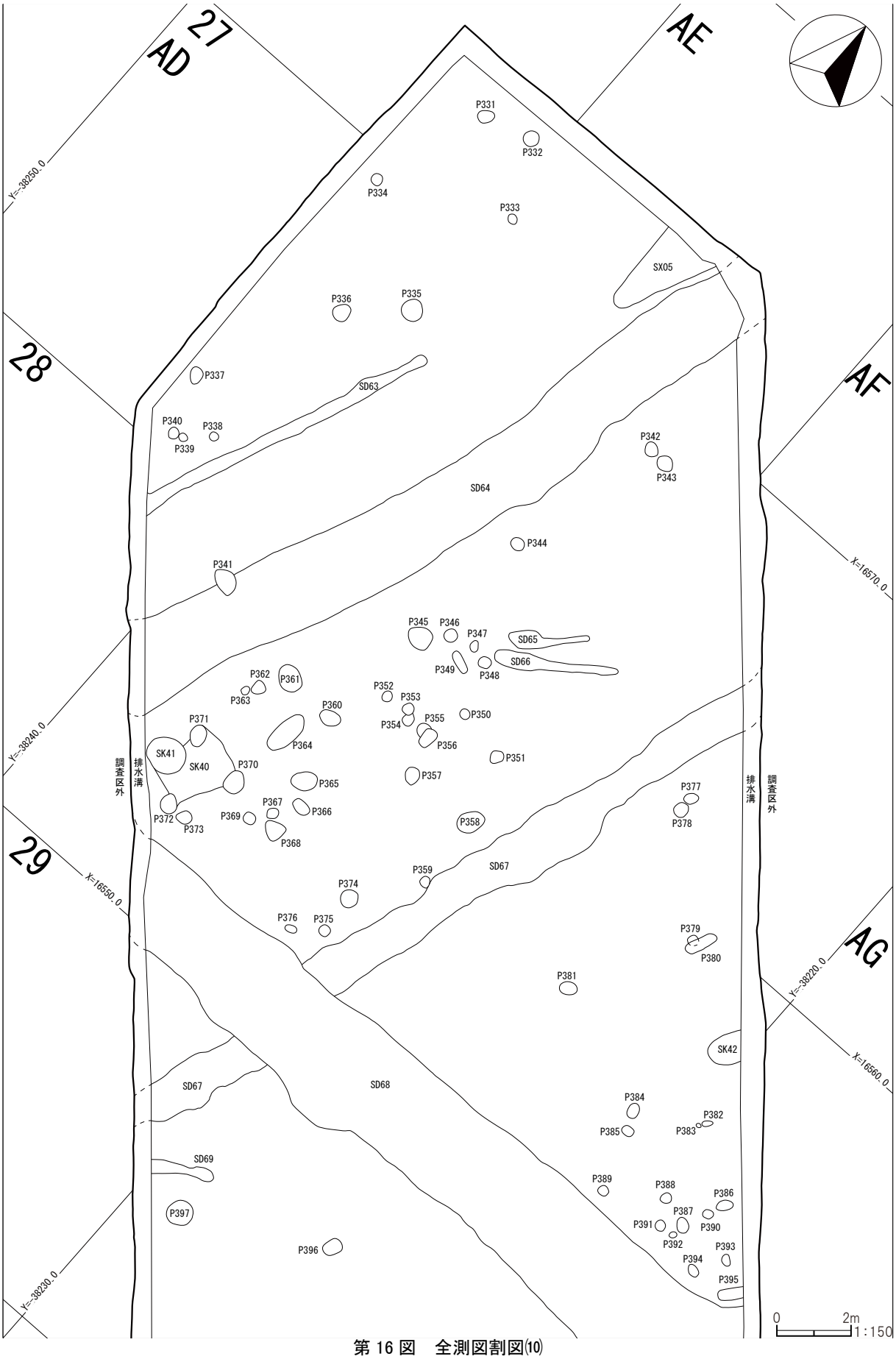
第 13 図　全測図割図(7)


SD49
SK35
P284
P287
P286
P282
P290
SK34
P288
P289
P298
P299
P302
SD51
P303
P300
P301
SD50
P296
P297
P295
P292
SK36
P294
P291
P293
SD52
排水溝
調査区外
P304
P305
SZ08
P308
P307
P306
SD53
P309
P311
P310
調査区外
排水溝
P315
P312
P316
P313
SK37
SD55
SE13
P314
SK38
P317
P318
SD56
SD57
NR03
SD58
SD59
P320
P321
19
20
21
V
W
X
Y
18
Y=-38330.0
Y=-38320.0
Y=-38310.0
Y=-38300.0
X=16660.0
X=16650.0
X=16640.0
X=16630.0
0
2m
1:150

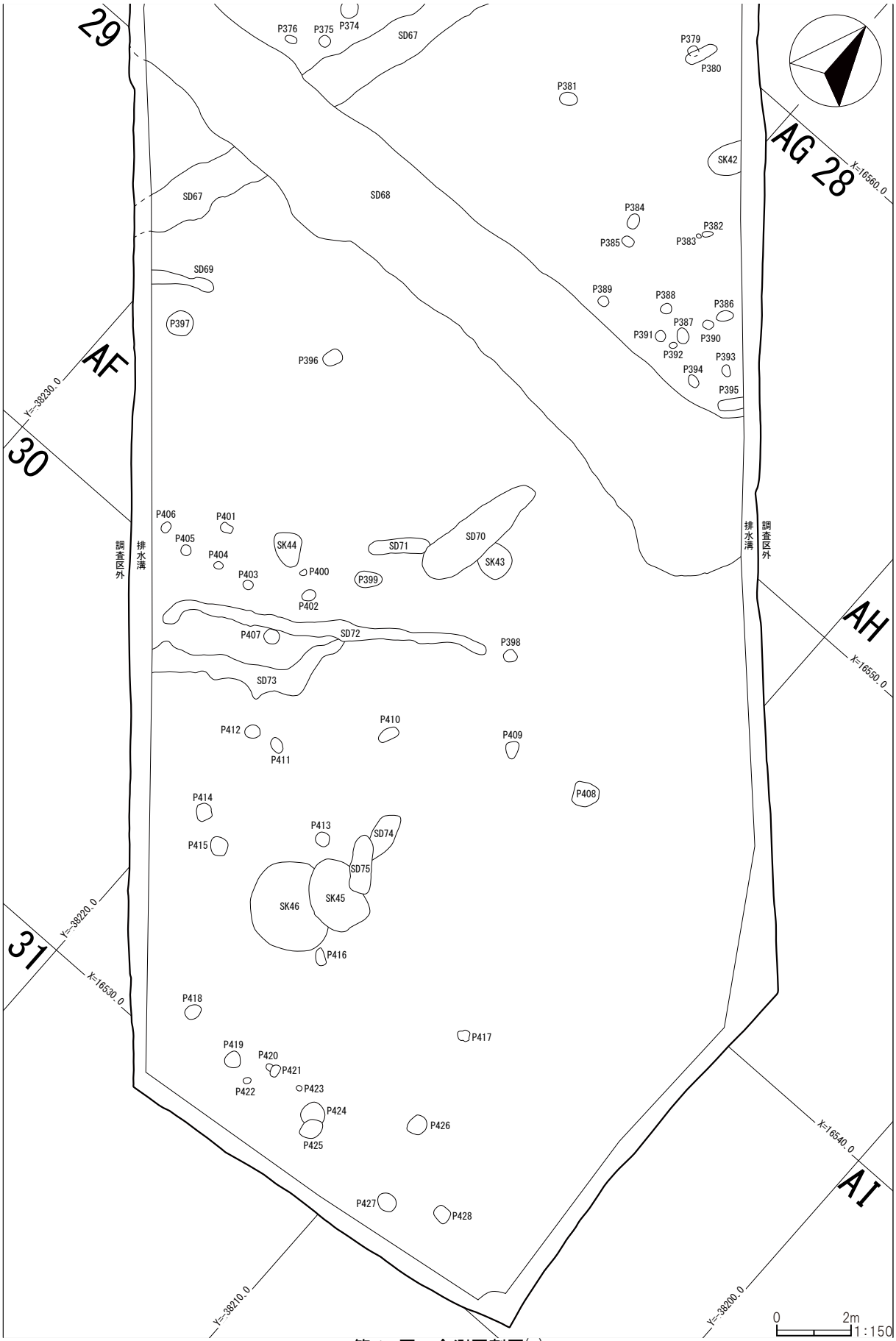
第 14 図　全測図割図(8)


W
X
Y
Z
19
20
21
22
Y=-38320.0
Y=-38310.0
Y=-38300.0
Y=-38290.0
X=16650.0
X=16640.0
X=16630.0
X=16620.0
排水溝
調査区外
SD57
NR03
SD58
SD59
P320
P321
P322
P323
P324
P325
P326
P327
P329
SK39
P328
SD60
P330
SD61
SD62
0
2m
1:150

第 15 図　全測図割図(9)


27
AD
AE
28
AF
29
AG
Y=-38250.0
Y=-38240.0
Y=-38230.0
Y=-38220.0
X=16550.0
X=16560.0
X=16570.0
P331
P332
P333
P334
P335
P336
P337
P338
P339
P340
P341
P342
P343
P344
P345
P346
P347
P348
P349
P350
P351
P352
P353
P354
P355
P356
P357
P358
P359
P360
P361
P362
P363
P364
P365
P366
P367
P368
P369
P370
P371
P372
P373
P374
P375
P376
P377
P378
P379
P380
P381
P382
P383
P384
P385
P386
P387
P388
P389
P390
P391
P392
P393
P394
P395
P396
P397
SD63
SD64
SD65
SD66
SD67
SD68
SD69
SK40
SK41
SK42
SX05
調査区外
排水溝
排水溝
調査区外
0
2m
1:150

第 16 図　全測図割図⑽



第 17 図　全測図割図(11)

Ⅳ　遺構と遺物

1　住居跡

第１号住居跡（第 18、19 図）

Ａ区に位置し、Ｃ・Ｄ－２・３グリッドから検出した。第３、６号溝跡と重複しており、それらすべてに切られていた。

平面プランは、一部が調査区外であるが隅丸方形と推定される。

規模は、検出長軸で 4.25 m、短軸で 5.65 m、深さは 0.14 mを測り、主軸方向は、N -34° - Eを指す。

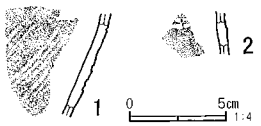
床面は、わずかな凹凸があり、北側へと傾斜する。断面は、残存状態が悪いがほぼ平坦に堆積していた。

炉跡は検出されなかった。

柱穴と土坑状の落ち込みがそれぞれ１基づつ確認された。

出土遺物は、弥生土器甕の破片が数点検出されたが、多くは細片だったが、櫛描をもつ甕胴部片のみ図化できた。

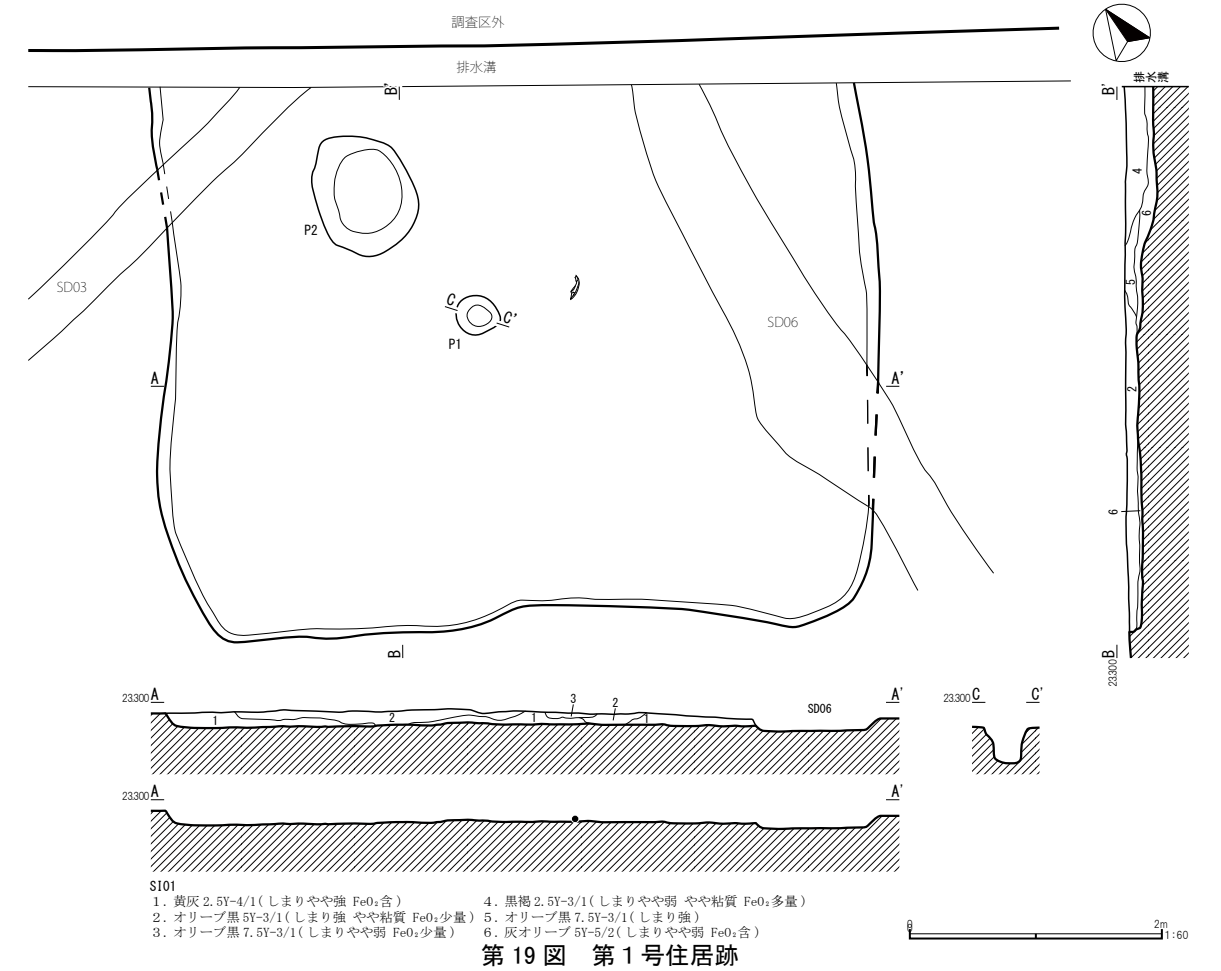
時期は、出土土器から弥生時代中期後半～末と推定される。



第 18 図　第１号住居跡出土遺物

第２表　第１号住居跡出土遺物観察表（第 18 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	弥生土器 甕	-	-	-	ABGK	外面：にぶい橙 7.5YR-6/4 内面：にぶい黄橙 10YR-6/4	B	胴部片	櫛描斜線	
2	弥生土器 甕	-	-	-	ABJM	にぶい黄褐 10YR-5/3	B	頸部片	櫛描簾状文	



第 19 図　第１号住居跡

第２号住居跡（第 20 図）

Ａ区に位置し、Ｃ・Ｄ－３グリッドから検出した。第４号溝跡、第 12、13 号ピットと重複しており、それらすべてに切られていた。

平面プランは、北西隅が欠ける隅丸方形である。

規模は、検出長軸で 4.51 ｍ、短軸で 4.33 ｍ、深さは 0.11 ｍを測り、主軸方向は、Ｎ－50°－Ｗを指す。

床面は、わずかな凹凸がある程度で、ほぼ水平であった。

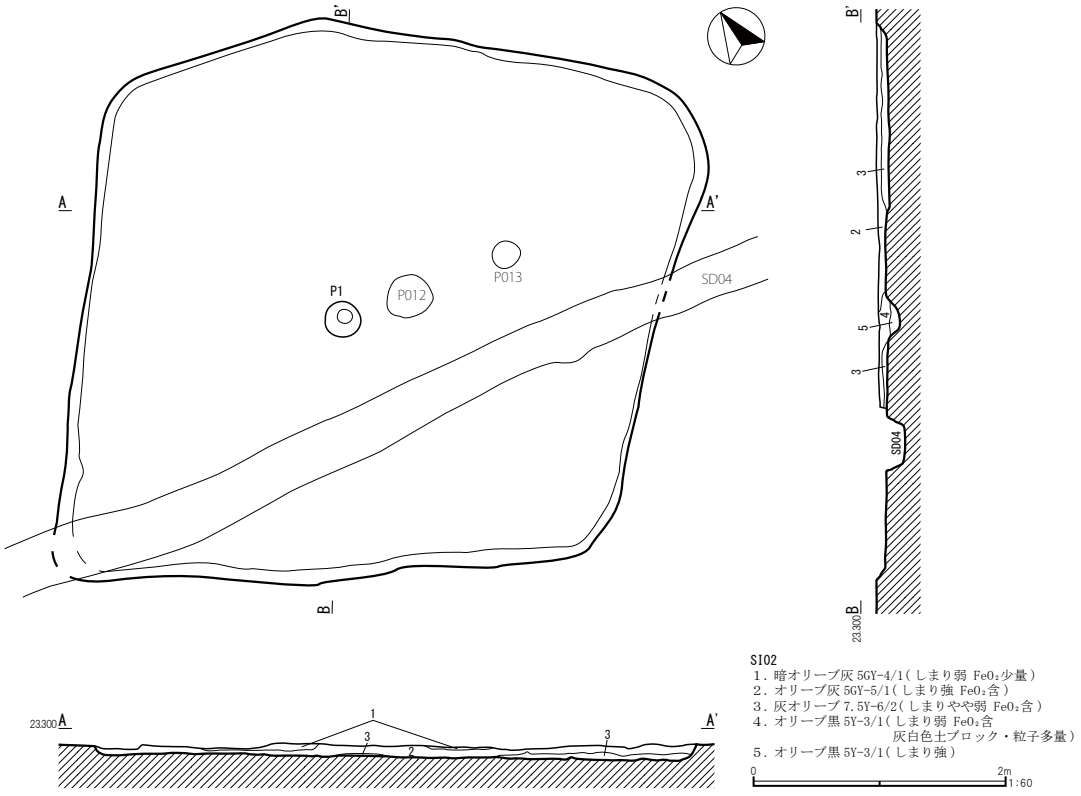
断面は、残存状態が悪いため２層ほどしか確認できないが、ほぼ平坦に堆積していた。

炉跡は検出されなかった。

柱穴は１基のみ確認されたが、断面観察からは柱痕跡の確認はできなかった。

出土遺物は、弥生土器壺の破片が数点検出されたが、図化できるものは検出されなかった。

時期は、出土土器から弥生時代中期後半～末と推定される。



第 20 図　第２号住居跡

第３号住居跡（第 21 ～ 23 図）

Ａ区に位置し、Ｅ－３・４グリッドから検出した。第 70 号ピットと重複しており、そのピットに切られていた。

平面プランは、ややいびつな隅丸方形と推定される。

規模は、検出長軸で 6.14 ｍ、短軸で 5.15 ｍ、深さは 0.50 ｍを測り、主軸方向は、Ｎ－14°－Ｗを指す。

床面は、わずかな凹凸がある程度で、北に向かってわずかに傾斜する。断面は、南から、ほぼ平坦に

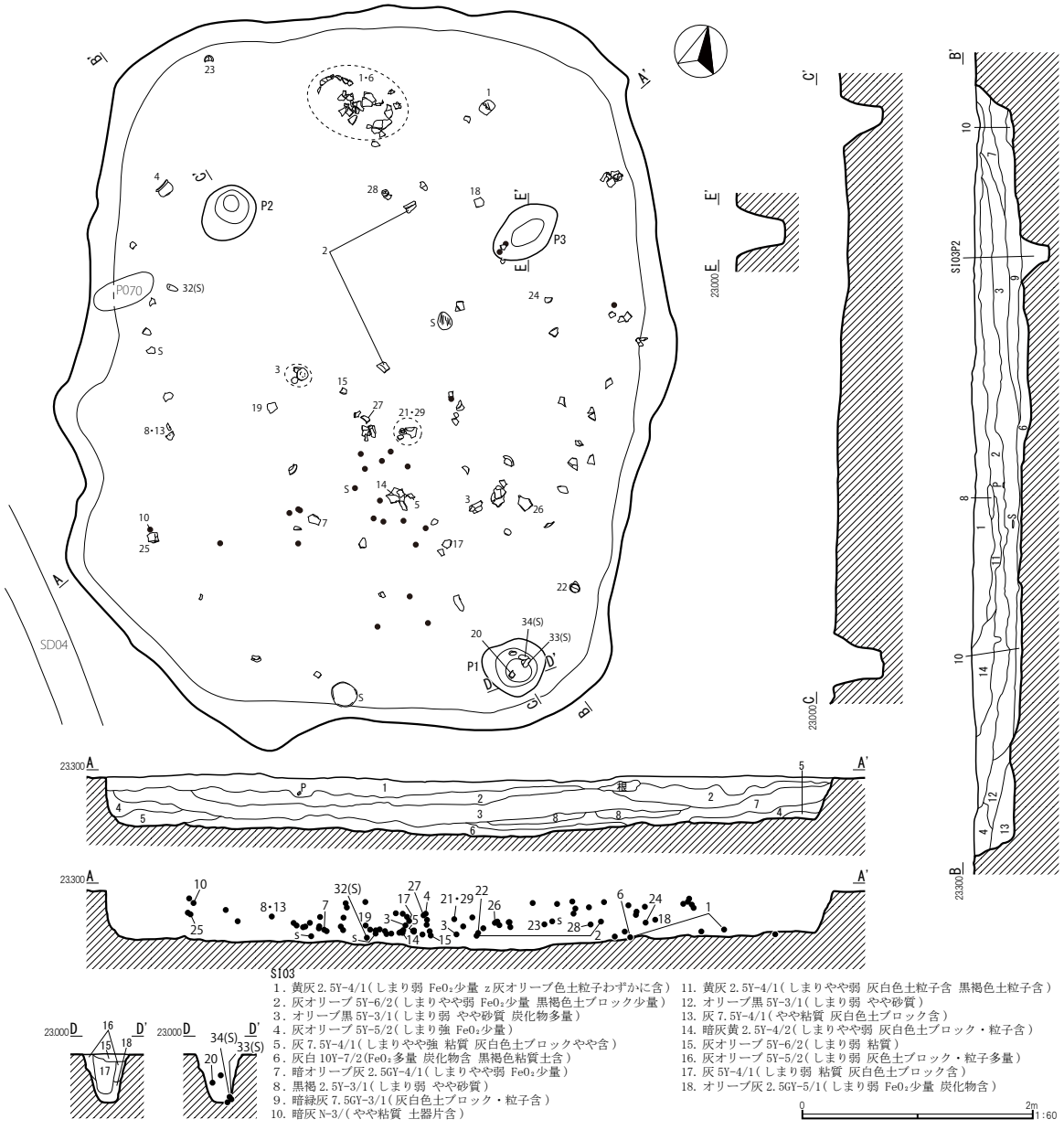
堆積していた。

炉跡は、検出されなかった。

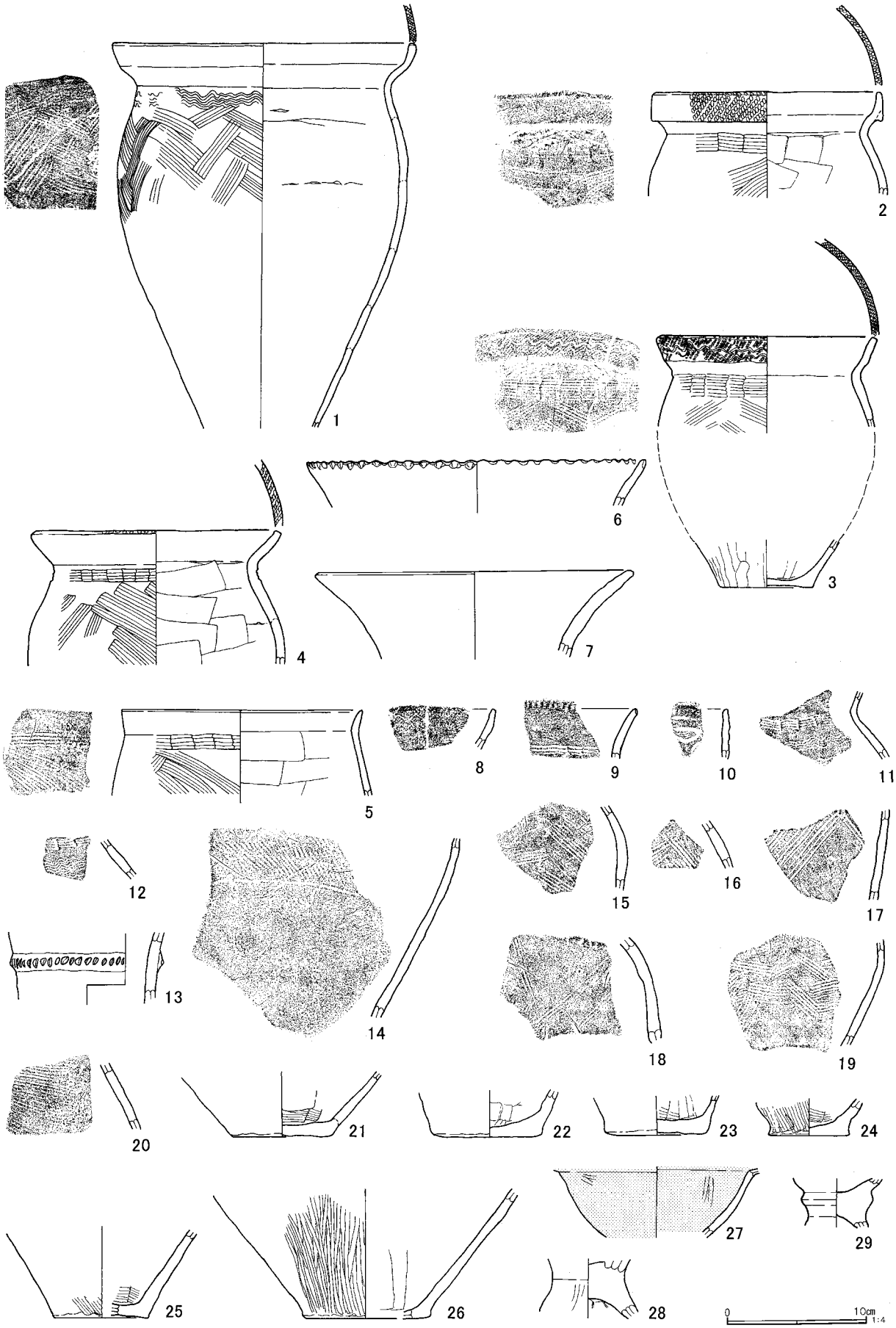
柱穴は３基確認されが、第１号ピットは幅 18 ㎝程度の直径をもつ柱痕を確認できたが、それ以外のピットからはいずれも断面観察からは柱痕跡の確認はできなかった。

出土遺物は、住居内の床面いたるところに点在しているが、割合から南東側に検出エリアが偏っており、弥生土器甕・壺・鉢・高坏、磨製石鏃（製作過程）などが検出された。

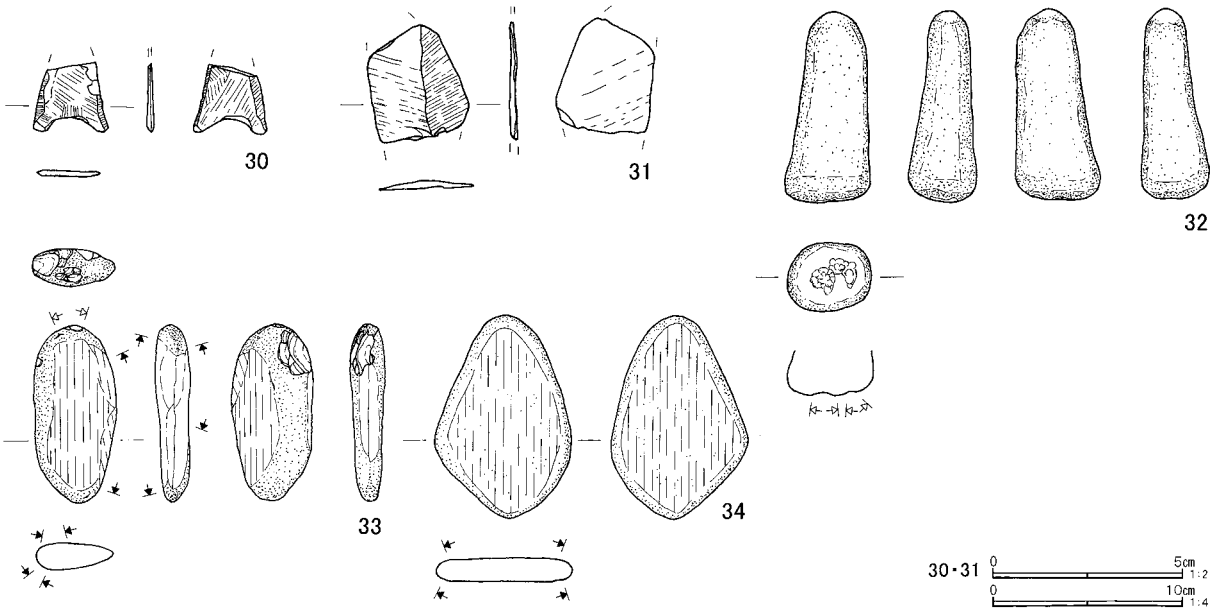
時期は、出土土器から弥生時代中期後半～末と考えられる。



第 21 図　第３号住居跡



第 22 図　第３号住居跡出土遺物(1)



第 23 図　第３号住居跡出土遺物(2)

第３表　第３号住居跡出土遺物観察表(1)（第 22、23 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	弥生土器 甕	(21.4)	(27.7)	-	ABCGIK	外面：灰黄褐 10YR-6/2 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	B	口縁～胴部 60%	外面：口縁端部 LR 単節縄文、頸部櫛描波状文 (5 本一単位)、胴部櫛描縦位羽状文 内面：ヘラナデ	受口状口縁
2	弥生土器 壺	16.0	(7.3)	-	ABGJM	外面：灰黄褐 10YR-6/2 内面：褐灰 10YR-4/1	A	口縁～胴部上半 40%	外面：口縁部・端部 LR 単節縄文、頸部櫛描簾状文 (5 本一単位)、胴部櫛描縦位羽状文 内面：ヘラナデ	複合口縁
3	弥生土器 甕	(15.2)	(18.0)	6.8	AIM	外面：褐灰 7.5YR-4/1 内面：黒褐 7.5YR-3/1	A	口縁～頸部・底部 30%	外面：口縁端部 LR 単節縄文、口縁部 LR 単節縄文地に櫛描波状文 (2 本一単位)、頸部櫛描簾状文 (5 ～ 7 本一単位)、胴部上半櫛描縦位羽状文、胴部下半ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	
4	弥生土器 甕	17.2	(9.6)	-	ABJ	外面：褐灰 7.5YR-4/1 内面：にぶい黄橙 10YR-7/3	A	口縁～胴上部 30%	外面：口縁端部 LR 単節縄文、頸部櫛描簾状文 (4 本一単位)、胴部縦位羽状文 内面：ヘラナデ	
5	弥生土器 甕	(17.1)	(6.1)	-	ABK	灰白 10YR-8/1	B	口縁～胴部 10%	外面：頸部櫛描簾状文 (4 本一単位)、胴部櫛描縦位羽状文	
6	弥生土器 甕	(24.1)	(3.1)	-	ABM	にぶい黄褐 10YR-5/3	B	口縁部片	外面：口縁端部外側から棒状工具による連続押捺	
7	弥生土器 壺	(22.2)	(6.2)	-	AHJM	外面：浅黄 7.5YR-8/3 内面：灰黄褐 10YR-6/2	B	口縁～頸部 10%	外面：摩耗のため調整痕不明、口縁部ラッパ状に開く	
8	弥生土器 甕	-	-	-	AHKM	外面：灰黄褐 10YR-4/2 内面：黒褐 10YR-3/1	B	口縁部片	外面：口縁端部 LR 単節縄文	
9	弥生土器 甕	-	-	-	AI	黒褐 7.5YR-3/1	B	口縁部片	外面：口縁端部ヘラ状工具で連続押捺 (刻目)、櫛描簾状文	
10	弥生土器 鉢	-	-	-	ABIKM	外面：にぶい橙 7.5YR-7/4 内面：灰黄褐 10YR-6/2	B	口縁部片	外面：LR 単節縄文地にヘラ描沈線	
11	弥生土器 甕	-	-	-	AGIKM	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	頸部～胴上部片	外面：櫛描簾状文及び波状文 (4 本一単位)	
12	弥生土器 甕	-	-	-	AGIM	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	頸部～胴上部片	外面：頸部櫛描簾状文及び波状文 (4 本一単位)	
13	弥生土器 壺	-	(5.2)	-	ADIM	外面：灰黄褐 10YR-6/2 内面：灰黄褐 10YR-4/2	B	頸部 20%	外面：頸部ヘラ状工具による刻目を施した幅 12㎜の隆帯を 1 条巡らす	
14	弥生土器 壺	-	-	-	ADIKM	外面：にぶい橙 7.5YR-7/4 内面：にぶい黄橙 10YR-7/3	B	胴部片	外面：横位沈線間に RL 単節縄文を充填	
15	弥生土器 甕	-	-	-	ABI	外面：灰褐 7.5YR-5/2 内面：灰褐 7.5YR-4/2	B	胴部片	外面：櫛描縦位羽状文 (5 本一単位)	
16	弥生土器 甕	-	-	-	AJM	灰 5Y-4/1	B	胴部片	外面：櫛描縦位羽状文 (4 本一単位)	
17	弥生土器 甕	-	-	-	ABGJLN	灰白 10YR-7/1	B	胴部片	外面：櫛描縦位羽状文	
18	弥生土器 甕	-	-	-	ABHJK	外面：にぶい褐 7.5YR-6/3 内面：にぶい黄橙 10YR-7/3	B	胴部片	外面：櫛描簾状文、櫛描斜格子文 (4 本一単位)	
19	弥生土器 甕	-	-	-	EIM	外面：灰黄褐 10YR-4/2 内面：黒褐 10YR-3/1	B	胴中部～下部片	外面：櫛描縦位羽状文 (5 本一単位) 内面：疎らなヘラミガキ	
20	弥生土器 甕	-	-	-	ABGHIJK	外面：黒 10YR-2/1 内面：黒褐 7.5YR-3/2	B	胴部片	外面：櫛描縦位羽状文	
21	弥生土器 甕	-	(4.6)	(7.0)	ABDEGHIJLMN	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	底部 70%	外面：摩耗のため調整痕不明 内面：ハケ目	
22	弥生土器 甕	-	(3.5)	7.8	ABCGIK	外面：にぶい黄橙 10YR-7/3 内面：灰白 10YR-7/1	B	底部 100%	外面：摩耗のため調整痕不明 内面：ヘラナデ	
23	弥生土器 甕	-	(2.8)	6.4	ABDIJK	にぶい黄橙 10YR-7/3	B	底部 70%	外面：摩耗のため調整痕不明 内面：ヘラナデ	

第３表　第３号住居跡出土遺物観察表(2)（第 22、23 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
24	弥生土器 甕	-	(2.7)	5.6	ABIJM	外面：黒褐 10YR-3/1 内面：にぶい橙 7.5YR-6/4	B	底部 70%	内外面：ハケ目	
25	弥生土器 甕	-	(6.3)	(6.7)	BDHIJM	外面：灰褐 7.5YR-6/2 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	B	胴下部～底部 30%	内外面：ハケ目	
26	弥生土器 甕	-	(9.3)	(9.2)	AI	外面：褐灰 10YR-5/1 内面：灰白 10YR-7/1	B	胴部下半～底部 20%	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	
27	弥生土器 鉢	-	(5.0)	-	AGJM	外面：明赤褐 2.5YR-5/6 内面：褐 7.5YR-4/4	B	体部片	内外面：ヘラミガキ	内外面赤彩
28	弥生土器 高坏	-	(4.3)	-	ABFGK	にぶい黄橙 10YR-7/4	B	接合部片	外面：ヘラミガキ 内面：脚部ヘラナデ	
29	弥生土器 高坏	-	(3.6)	-	ABHK	明赤褐 2.5YR-5/8	B	接合部片	外面：接合部に幅 10㎜の隆帯を 1 条巡らす	
30	石器 磨製石鏃	最大長 (1.8)　最大幅 (2.0)　最大厚 0.2　重さ 0.7 g						先端欠損	明瞭な研磨痕、穿孔無い凹基無茎式、未製品カ	粘板岩
31	石器 磨製石鏃	最大長 (3.1)　最大幅 2.6　最大厚 0.2　重さ 2.3 g						両端欠損	未製品で明瞭な研磨痕	粘板岩
32	石器 敲石	最大長 10.0　最大幅 4.4　最大厚 3.6　重さ 180 g						完形	細長く、一端に敲打痕	砂岩
33	石器 石包丁カ	最大長 9.3　最大幅 4.3　最大厚 1.8　重さ 105.5 g						完形	4 面研磨、片側面は両側から研ぎ出して鋭角な刃部状	蛇紋岩
34	石器 磨石	最大長 10.7　最大幅 7.2　最大厚 1.2　重さ 134.9 g						完形	扁平な礫を素材とし、磨面は表裏 2 面	砂岩

第４号住居跡（第 24、26 図）

Ａ区に位置し、Ｅ・Ｆ－４グリッドから検出した。第５号住居跡、第４号溝跡、第７号土坑と重複しており、第５号住居跡、第４号溝跡に切られ、第７号土坑を切っていた。

平面プランは、第５号住居跡に切られているため、全容は不明だが、いびつな隅丸方形と推定される。

規模は、検出長軸で 3.28 m、短軸で 5.29 m、深さは 0.41 mを測り、主軸方向は、N -19° -Wを指す。

床面は、わずかな凹凸がある程度で、ほぼ水平であった。断面は、ほぼ平坦に堆積していた。

また、床面からは噴砂も確認でき、幅 0.03 m、長さ 2.97 mで、第５号住居跡へと続く。

炉跡は住居のほぼ中央から検出された。掘り方は楕円形で、長軸 0.80 m、短軸 0.56 m、深さ 0.08 mを測る。石材などの検出はないが、住居を放棄する際に取り去ったものと推定される。

柱穴は１基のみ確認されが、断面観察からは柱痕跡の確認はできなかった。

出土遺物は、特徴的なのが、北壁隅から検出した床面に埋め込まれた弥生土器甕である。貯蔵用として用いた可能性が考えられる。

時期は、出土土器から弥生時代中期後半～末と考えられる。

第５号住居跡（第 24、25、27 図）

Ａ区に位置し、Ｅ・Ｆ－４、Ｆ－５リッドから検出した。第４号住居跡、第４号溝跡、第 60 ピットと重複しており、第４号住居跡を切り、それ以外の第４号溝跡、第 60 号ピットに切られていた。

平面プランは、一部が消滅していたが、隅丸方形である。

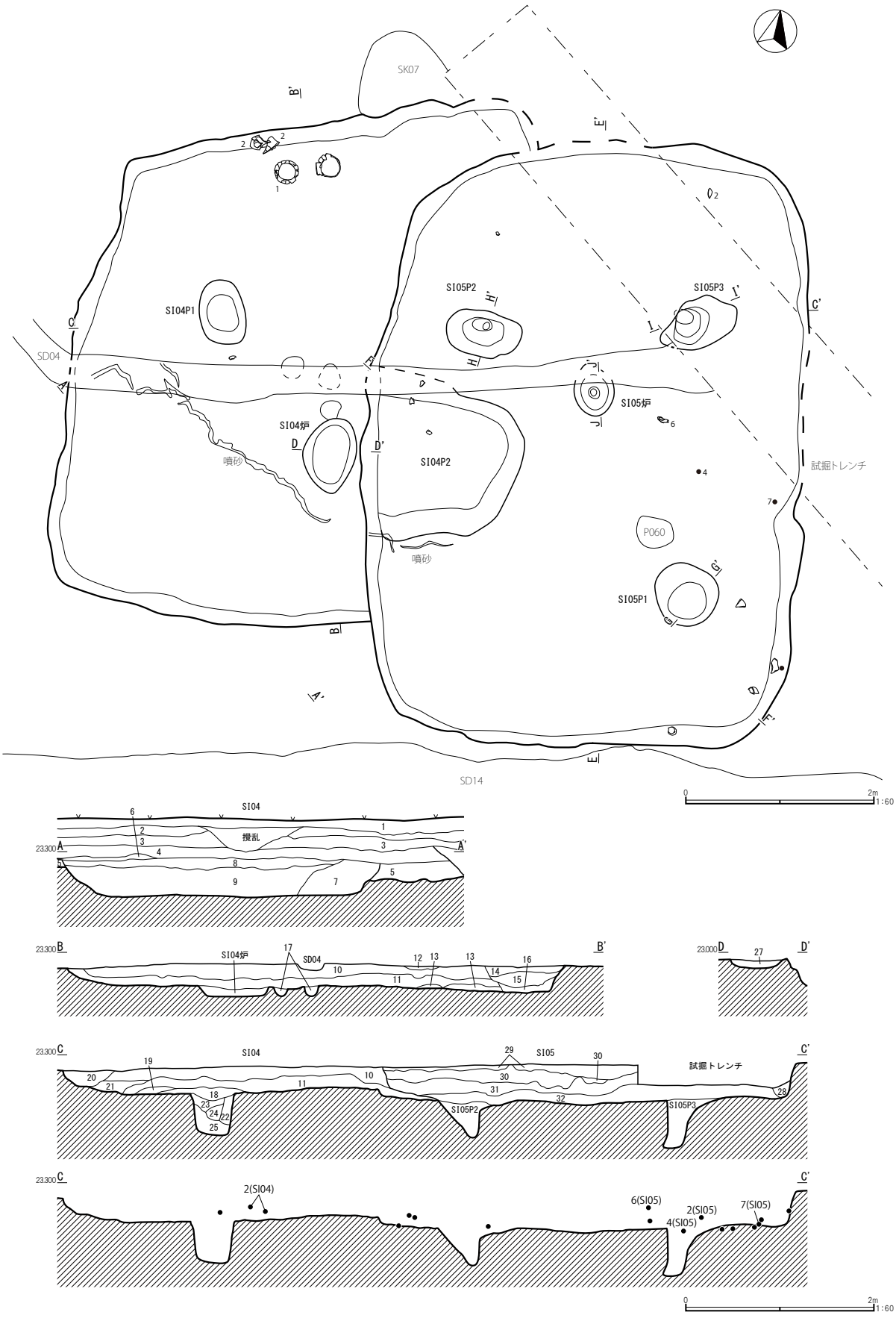
規模は、検出長軸で 6.51 m、短軸で 4.62 m、深さは 0.43 m測り、主軸方向は、N -12° -Wを指す。

床面は、わずかな凹凸があるもののほぼ水平で、西側の土坑状の落ち込みへとわずかに傾斜する。断面は南東から埋まり、ほぼ平坦に堆積していた。

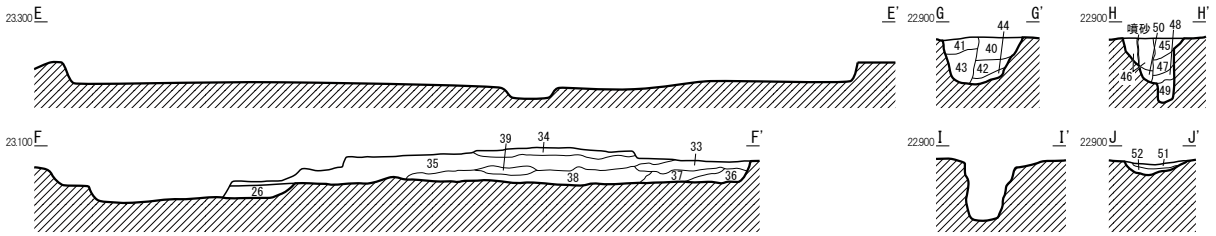
また、床面からは噴砂が確認でき、第４号住居跡から続く。

炉跡は住居のほぼ中央から検出された。断面観察から焼土や､赤土などの使用痕が確認できた。なお、石材などの検出はなかった。

柱穴が等間隔に３基確認された。うち第１､２号ピットからは断面観察から柱痕が検出された。また、西側には長軸 1.73 m、深さ 0.13 mの土坑状の落ち込みが確認できた。



第 24 図　第４・５号住居跡(1)

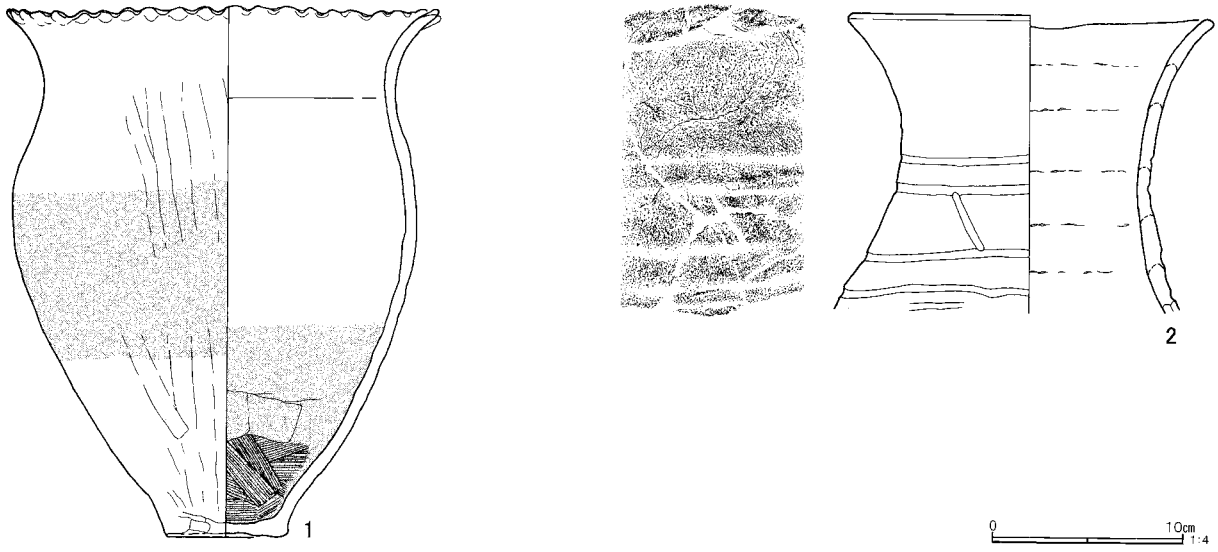


SI04
1．旧耕作土
2．灰 N-5/(しまりやや弱 ややシルト質 FeO₂少量 火山灰粒子含)
3．オリーブ灰 2.5GY-5/1(しまり強 FeO₂少量)
4．暗オリーブ灰 5GY-4/1(しまり強 FeO₂含)
5．黒 7.5Y-2/1(しまり強 FeO₂少量 土器片含)
6．オリーブ灰 2.5GY-6/1(しまり強 粘質)
7．オリーブ黒 10Y-3/1(しまり強 ややシルト質 FeO₂微量)
8．オリーブ黒 5Y-3/1(しまり強 粘質 FeO₂多量 灰白色土ブロック少量)
9．暗緑灰 7.5GY-4/1(しまり強 ややシルト質 FeO₂少量)
10. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 FeO₂多量 黄灰色土一部含)
11. オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまり強 FeO₂少量 灰白色土ブロック含)
12. 黒褐 10YR-3/1(しまり弱 FeO₂多量 炭化物含 灰白色土ブロックわずかに含)
13. 暗オリーブ灰 5GY-4/1(しまりやや弱 やや粘質 FeO₂含)
14. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり強 粘質 FeO₂含)
15. 灰 5Y-4/1(しまりやや強 粘質 一部シルト質)
16. オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまりやや弱 FeO₂含)
17. 黒褐 10YR-3/1 (やや砂質 しまり弱 一部白褐色土粘質ブロック含)
18. 灰白 5Y-7/2(しまりやや弱 粘質 FeO₂多量)
19. 灰白 5Y-7/2(しまりやや弱 粘質 FeO₂多量 炭化物含 オリーブ黒色土ブロック・粒子多量)
20. オリーブ黒 5Y-3/1(FeO₂多量 灰白色土ブロック多量)
21. オリーブ黒 5Y-3/2(しまり弱 ややシルト質 灰白色土ブロック含)
22. 灰 5Y-4/1(しまりやや弱 シルト質 FeO₂含)
23. オリーブ黄 5Y-6/4(しまり強 FeO₂含 オリーブ黒色土ブロック一部含)
24. 灰オリーブ 5Y-6/2(しまりやや弱 やや粘質 FeO₂含)
25. 灰オリーブ 5Y-6/2(しまり強 粘質 FeO₂含)
26. オリーブ灰 10Y-5/2(しまりやや弱 ややシルト質 FeO₂含)
27. 灰 7.5Y-4/1(FeO₂多量 炭化物多量)

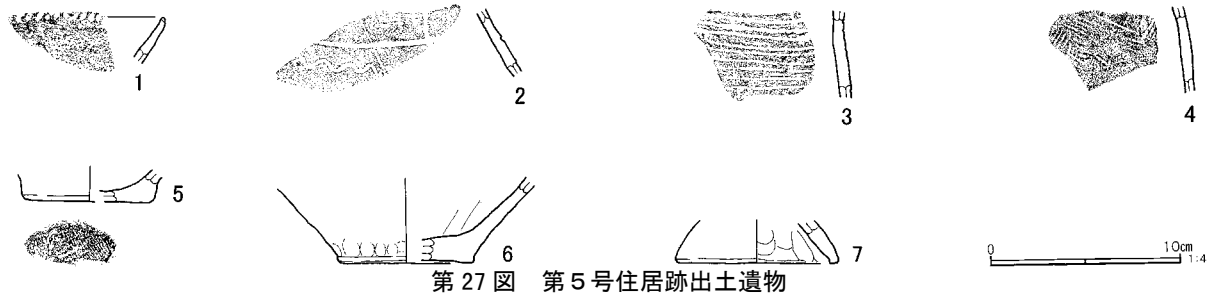
SI05
28. 灰 10Y-4/1(灰色土粒子多量)
29. 黒褐 10YR-3/2(しまり弱 FeO₂多量 炭化物含 灰白色土ブロックわずかに含)
30. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 ややシルト質 FeO₂少量 炭化物含 灰白色土ブロックごく少量)
31. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 FeO₂含 灰白色土ブロック・粒子多量)
32. 灰 7.5Y-4/1(しまりやや強 一部シルト質 FeO₂少量 灰白色粘質土含)
33. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや弱 FeO₂含)
34. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 灰白色土ブロック含)
35. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや弱 灰白色土ブロック含 黒色粘質土ブロック少量)
36. 黄灰 2.5Y-4/1(FeO₂少量 炭化物少量 灰オリーブ色土粒子少量)
37. 灰オリーブ 5Y-4/2(ややシルト質 FeO₂少量)
38. 暗オリーブ灰 2.5GY-4/1(しまりやや強 黒色土ブロック・粒子含)
39. 灰黄 2.5Y-6/2(しまり弱 やや砂質)
40. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 やや粘質 灰白色土ブロック含)
41. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 粘質 灰白色土ブロック含)
42. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 FeO₂少量)
43. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや強 一部シルト質 FeO₂含)
44. 灰黄 2.5Y-6/2(しまり強 FeO₂少量)
45. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 FeO₂含)
46. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 FeO₂含)
47. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 灰白色土含)
48. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 粘質)
49. 黒褐 2.5Y-3/1(粘質)
50. 黒褐 2.5Y-3/1(シルト質 灰白色土含)
51. 黒 2.5Y-2/1(炭化物多量)
52. 灰オリーブ 7.5Y-5/2(しまり強 FeO₂少量)

0 2m 1:60

第 25 図　第４・５号住居跡



第 26 図　第４号住居跡出土遺物



第 27 図　第５号住居跡出土遺物

第４表　第４・５号住居跡出土遺物観察表（第 26、27 図）

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
SI04	1	弥生土器 甕	22.6	27.8	6.4	ABDHM	褐 7.5YR-4/3	B	ほぼ完形 80%	外面：口縁端部指頭による波状の押捺、胴部ヘラナデ 内面：ヘラナデ、ハケ目	外面胴部中位で帯状に焦げたスス付着 内面下半スス付着
SI04	2	弥生土器 壺	19.2	(15.6)	-	EM	にぶい黄橙 10YR-6/4	B	口縁～頸部 30%	外面：太い沈線が巡る 内面：輪積痕明瞭	
SI05	1	弥生土器 甕	-	-	-	ADM	にぶい黄橙 10YR-7/2	A	口縁部片	外面：口縁端部ヘラ状工具による刻み目	

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
SI05	2	弥生土器 壺	-	-	-	AIM	外面：にぶい黄橙 10YR-7/3 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	A	胴肩部片	外面：横位の沈線間に１条の波状文	
SI05	3	弥生土器 壺	-	-	-	ABIM	外面：灰黄褐 10YR-6/2 内面：にぶい黄橙 10YR-7/3	B	胴肩部片	外面：横位の平行沈線が９条以上巡る	
SI05	4	弥生土器 甕	-	-	-	IM	灰褐 7.5YR-4/2	A	胴部片	外面：櫛描縦位羽状文	
SI05	5	弥生土器 壺	-	(1.8)	(6.6)	AIM	灰白 10YR-8/2	A	底部 30%	外面：底部布目痕	
SI05	6	弥生土器 甕	-	(4.5)	(7.0)	DGM	灰白 7.5YR-8/2	A	底部 40%	外面：下端指頭圧痕 内面：ヘラナデ	
SI05	7	弥生土器 高坏	-	(2.3)	8.6	DGM	外面：灰白 10YR-7/1 内面：明赤褐 2.5YR-5/6	A	脚部 25%	外面：ヘラナデ 内面：ヘラナデ、指頭圧痕	

出土遺物は、弥生土器壺・甕・高坏が検出された。

時期は、出土土器から弥生時代中期後半～末と推定される。

第６号住居跡（第 28、29 図）

A 区に位置し、Ｆ・Ｇ－４グリッドから検出した。第 15 号溝跡と重複しており、第 15 号溝跡に切られていた。

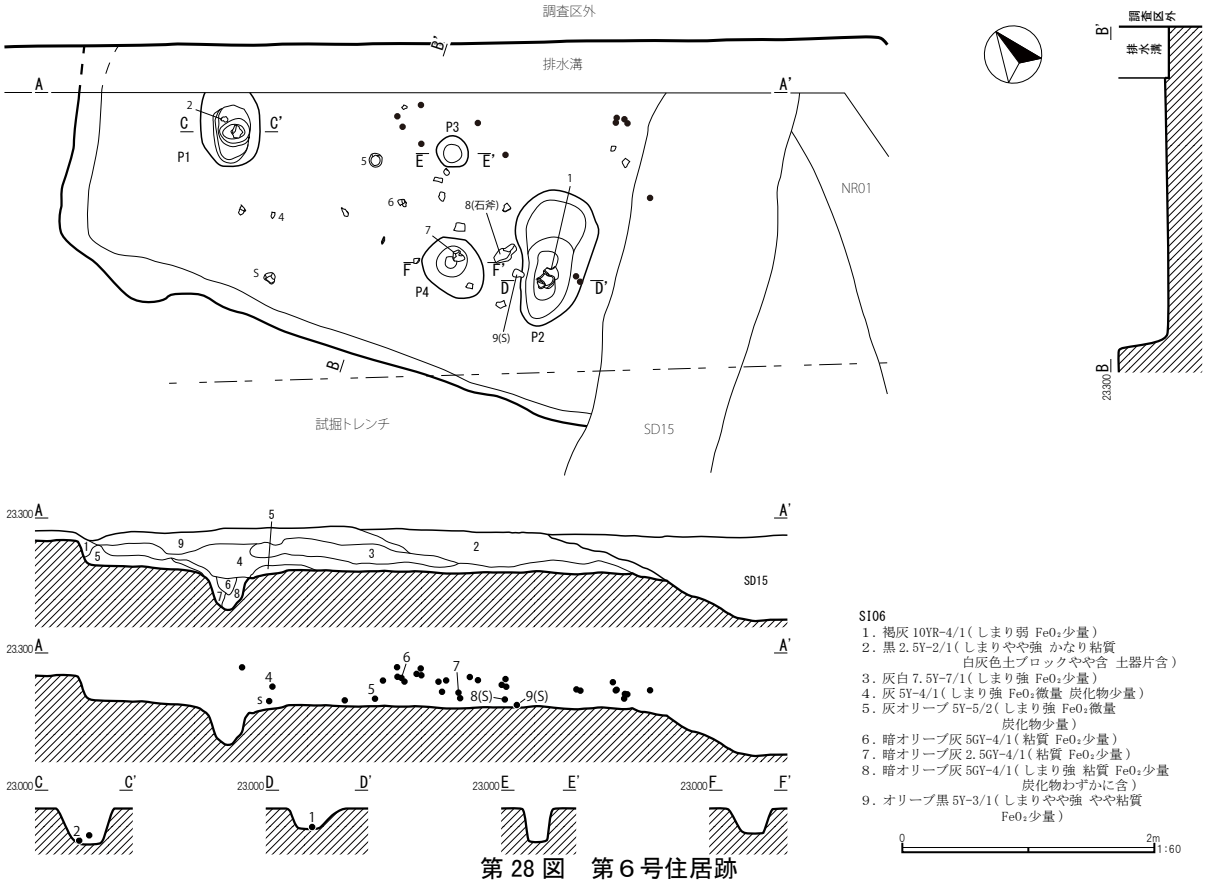
平面プランは、大半が、全容は不明だが、隅丸方形と推定される。

規模は、検出長軸で 4.67 m、短軸で 1.96 m、深さは 0.39 mを測り、主軸方向は、N -43° -Wを指す。

床面は、わずかな凹凸がある程度で、ほぼ水平であった。断面は、第 15 号溝跡に大きく切られているため、一部のみの検出であるが、ほぼ平坦に堆積していた。

炉跡は検出されなかったが、東脇に貯蔵穴と推定される土坑があり、中からは、弥生土器壺・甕などが検出された。

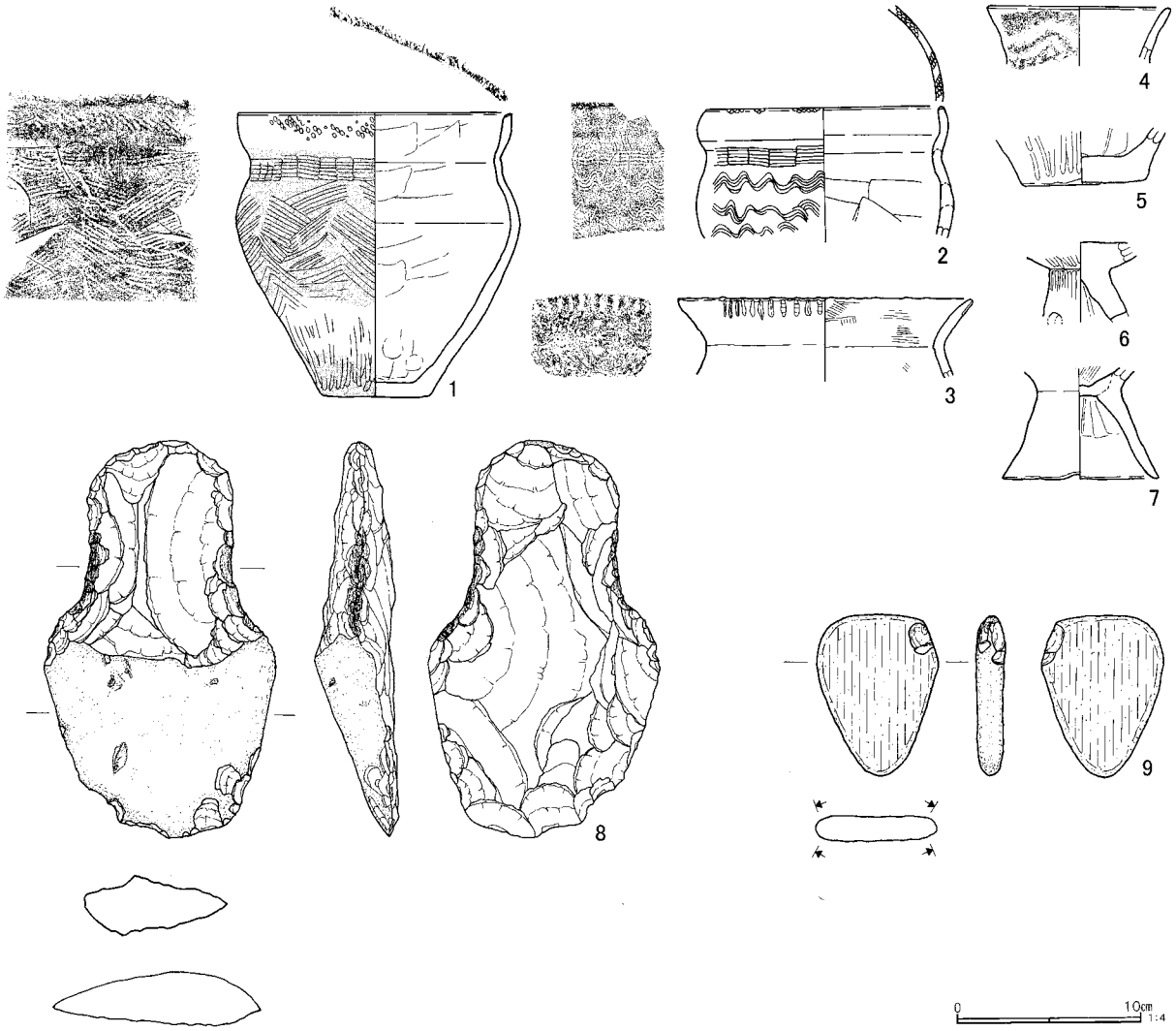
柱穴は３基のみ確認されが、いずれからも断面観察からは柱痕跡の確認はできなかった。



第 28 図　第６号住居跡

出土遺物は、弥生土器壺・甕・高坏、石器が検出され、石器では石鏃が特徴的である。

時期は、出土土器から弥生時代中期後半～末と考えられる。



第 29 図　第６号住居跡出土遺物

第５表　第６号住居跡出土遺物観察表（第 29 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	弥生土器 甕	(15.0)	15.5	6.0	ABGI	外面：にぶい黄橙 10YR-6/3 黒褐 10YR-3/1 内面：黒褐 10YR-3/1	B	60%	外面:口縁部 RL 単節縄文、端部刻み、頸部櫛描簾状文 (5 本一単位)、胴部上半櫛描縦位羽状文 (5 本一単位)、下半ミガキ 内面：ヘラナデ、指頭圧痕	胴部外面スス付着
2	弥生土器 甕	(13.0)	(7.1)	-	ABGIJLN	外面：黒褐 10YR-3/1 内面：にぶい黄橙 10YR-7/3	B	口縁～胴上部 10%	外面：口縁端部 RL 単節縄文、頸部櫛描簾状文 (5 本一単位)、胴部上半３段の櫛描波状文 (4 本一単位) 内面：ヘラナデ	
3	弥生土器 甕	(16.0)	(4.3)	-	ABGIJLN	灰褐 7.5YR-4/2	B	口縁部 10%	外面：口縁端部櫛歯状工具による押圧 内面：ヘラナデ	
4	弥生土器 壺	(10.0)	(3.1)	-	ABIJ	外面：灰白 10YR-8/2 内面：にぶい橙 7.5YR-6/4	B	口縁部 20%	外面：太い沈線と角棒状工具による角押文	
5	弥生土器 甕	-	(2.9)	6.7	ABGK	外面：浅黄橙 7.5YR-8/6 内面：にぶい黄橙 10YR-6/4	B	底部 100%	外面：胴部下半ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	
6	弥生土器 高坏	-	(4.4)	-	AGHIJLN	橙 5YR-7/6	B	坏部～脚部 80%	外面：坏部・脚部ヘラミガキ 脚部：３ヶ所の円形透かし	
7	弥生土器 高坏	-	(5.9)	(8.4)	AGHILN	橙 5YR-6/6	B	脚部 70%	外面：摩耗のため調整痕不明 内面：ヘラナデ	
8	石器 石鏃	最大長 21.5　最大幅 12.6　最大厚 4.2　重さ 960 g						完形	礫表皮を下半に残し、両側縁からの両極敲打技法で整形、つぶれは顕著ではない	撥形 安山岩
9	石器 磨石	最大長 8.7　最大幅 6.5　最大厚 1.5　重さ 102.8 g						完形	扁平な礫を素材とし、磨面は表裏２面、上端部敲打痕	砂岩

第７号住居跡（第 30、31 図）

Ａ区に位置し、Ｂ・Ｃ－３・４グリッドから検出した。第５号溝跡と重複しており、その溝跡に切られていた。

平面プランは、大半が調査区域外であるが、隅丸方形と推定される。

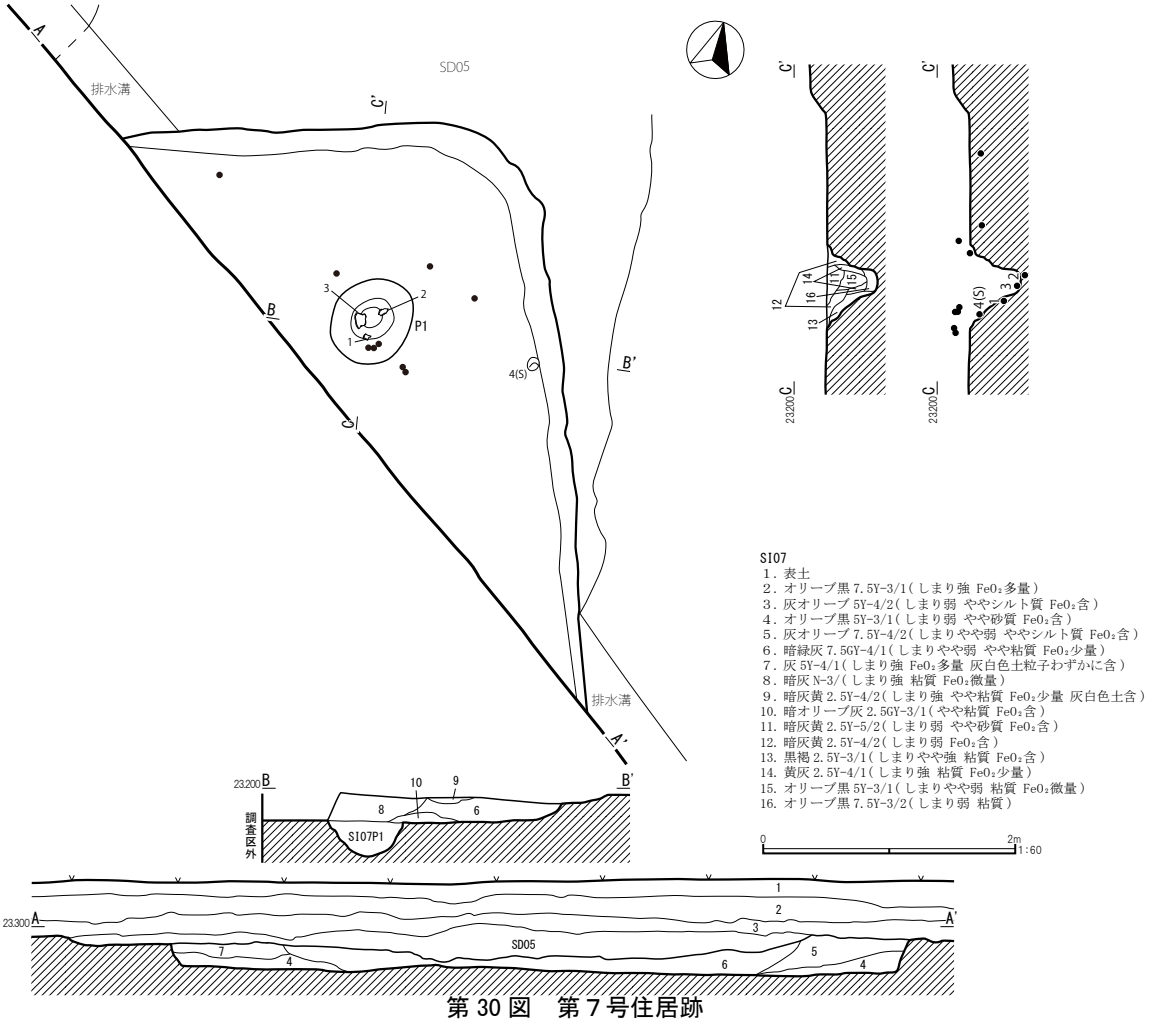
規模は、検出長軸で 2.1 m、短軸で 2.07 m、深さは 0.32 m測り、主軸方向は、N -20° -Wを指す。

床面は、わずかな凹凸があるもののほぼ水平である。断面は不規則な堆積であり、胎土も混ざりあって粘質土、砂質土が検出されていることから、人工的に埋設したものと推定される。

炉跡の検出はなかった。柱穴は１基のみの確認で、土器片が検出された。自然堆積と推定される。

出土遺物は、弥生土器鉢・甕、石器が検出された。うち１の鉢には鋸歯文が施され、内外面に赤彩が着色されている。

時期は、出土土器から弥生時代中期後半～末と推定される。



第 30 図　第７号住居跡

第６表　第７号住居跡出土遺物観察表（第 31 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	弥生土器 鉢	-	-	-	ABGHI	外面：にぶい黄褐 10YR-7/3 内面：にぶい黄褐 10YR-7/2	B	口縁部片	外面：ヘラミガキ 内面：地文は RL 単節縄文、ヘラ描きによる鋸歯文	内外面赤彩
2	弥生土器 甕	-	(4.5)	4.8	ABIJM	外面：にぶい黄褐 10YR-7/2 内面：灰白 10YR-7/1	B	胴部下半～底部片	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	
3	弥生土器 甕	-	(1.9)	(6.2)	AIJM	外面：灰褐 7.5YR-4/1 内面：黒褐 7.5YR-3/1	B	底部片	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
4	石器 磨石	最大長 12.0　最大幅 8.9　最大厚 8.2　重さ 1580 g						完形	磨面は 1 面、他面に凹石のような窪み有	輝石安山岩

第８号住居跡（第 32、33 図）

Ｂ区に位置し、Ｍ・Ｎ－ 10 グリッドから検出した。第４号方形周溝墓、第２号河川跡と重複しており、それらすべてに切られていた。

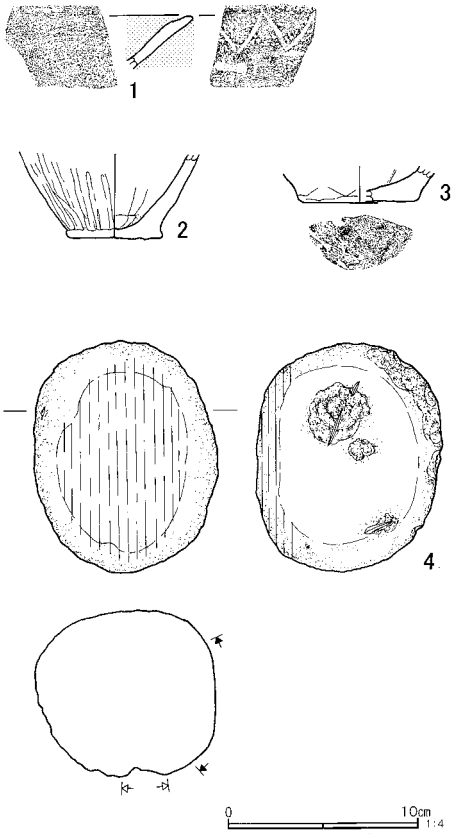
平面プランは、おおよそ半分が第４号方形周溝墓に切られていたため詳細は不明であるが、隅丸方形と推定される。

規模は、検出長軸で 3.13 m、短軸で 4.86 m、深さは 0.23 m測り、主軸方向は、N -15° -E を指す。

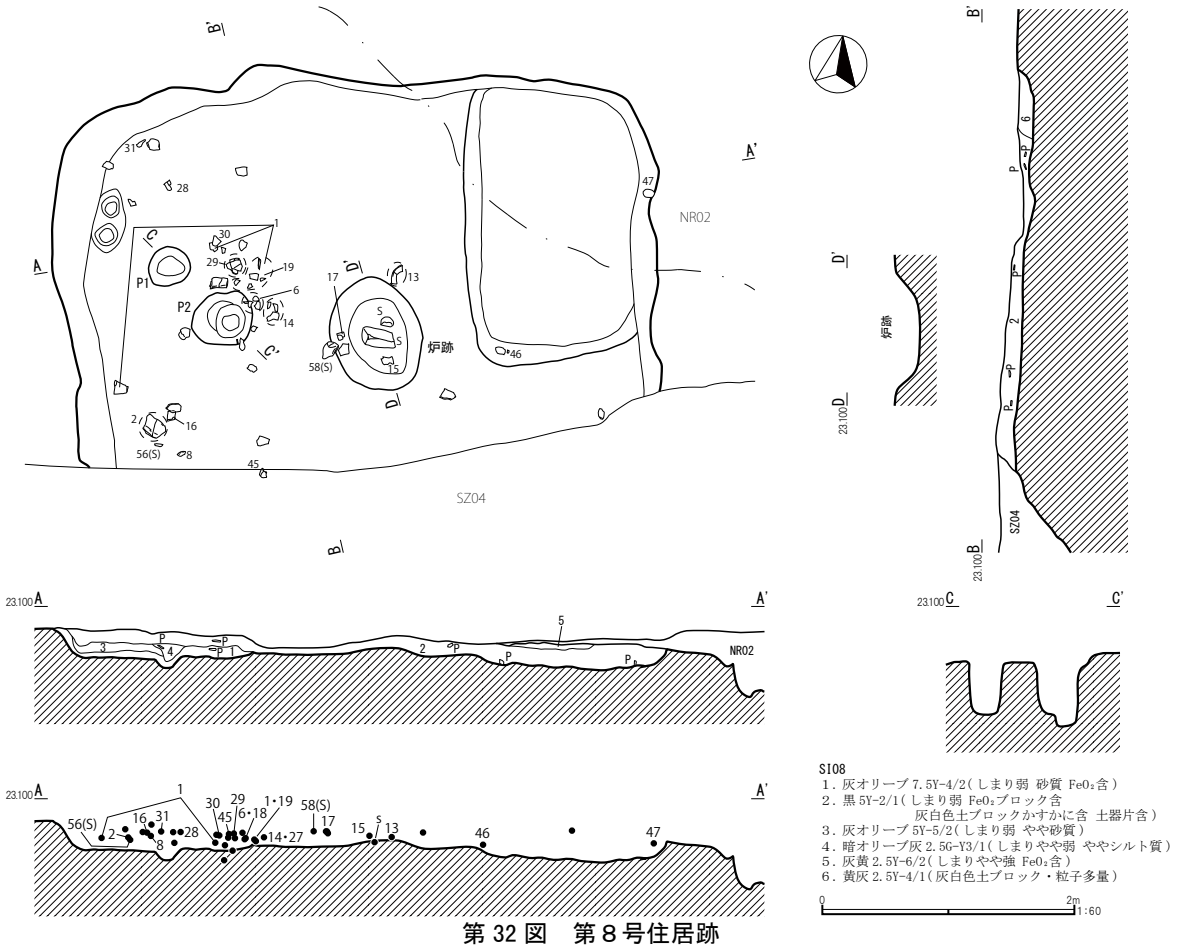
床面は、黒褐色粘質土を凹凸箇所を平らに整形しており、踏み固めたように土が締まっている。また東に 0.15 m程度の深さの方形のプランをもつ。

断面は残存状態が悪いが、堆積は西側から埋設している。大部分を第２層の黒色の胎土が占める。河川の氾濫による堆積と推定される。

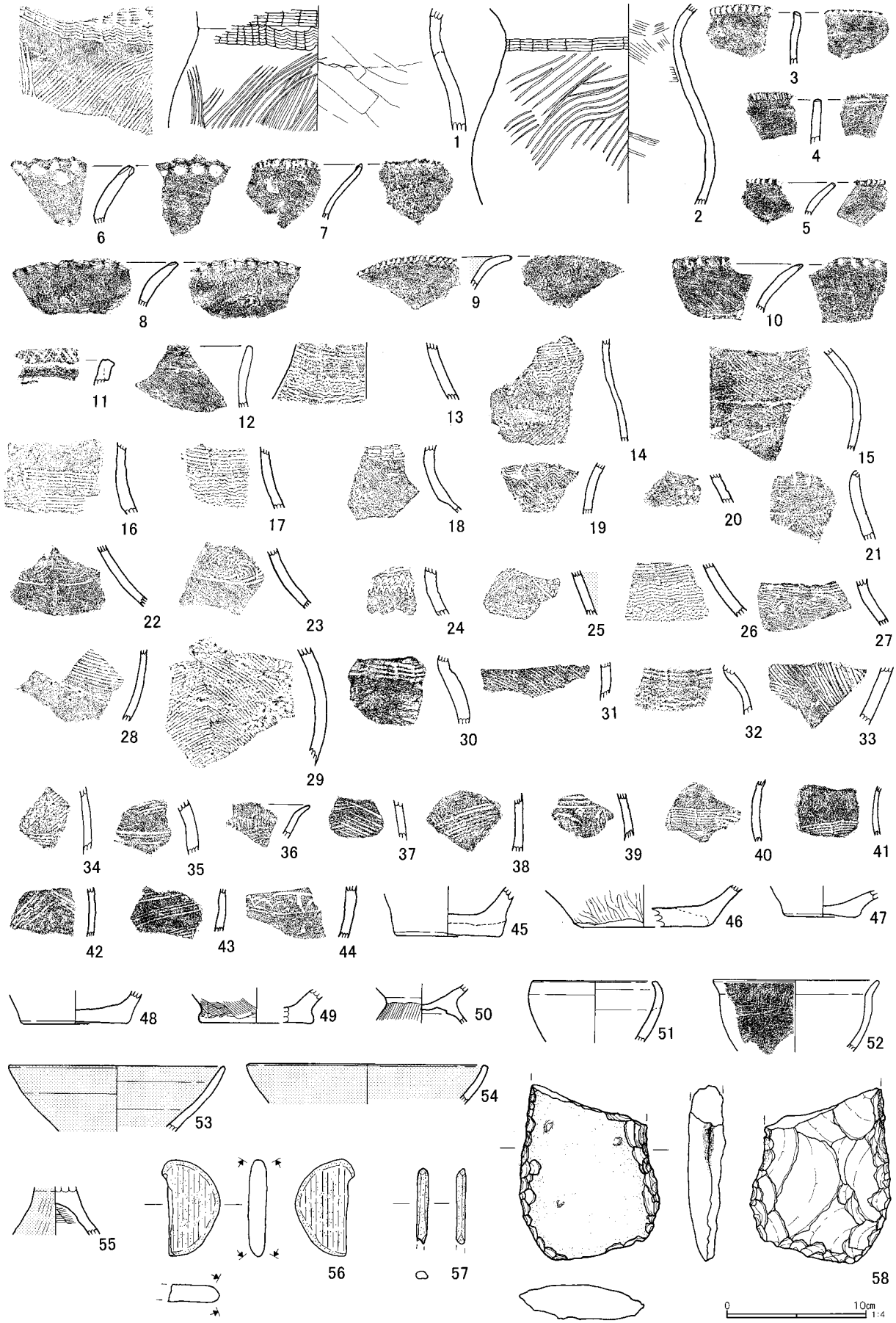
炉跡は推定される住居のほぼ中央から検出された。少量の炭化物と焼土が確認でき、底部には炉囲の岩材が１点検出された。



第 31 図　第７号住居跡出土遺物



第 32 図　第８号住居跡



第 33 図　第８号住居跡出土遺物

第７表　第８号住居跡出土遺物観察表（第 33 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	弥生土器 甕	-	(8.5)	-	ABCIKM	外面：黒褐 10YR-3/1 内面：灰黄褐 10YR-6/2	B	頸部～胴部片	外面：頸部２段の櫛描簾状文 (6 本一単位)、 胴部上半櫛描縦位羽状文 内面：ヘラナデ	
2	弥生土器 甕	-	(14.4)	-	AGIM	明褐灰 7.5YR-7/2	A	頸部～胴部下半 30%	外面：頸部櫛描簾状文 (4 本一単位)、胴部上 半櫛描斜状文 内面：ヘラナデ	
3	弥生土器 甕	-	-	-	ABCM	外面：にぶい黄橙 10YR-7/2 内面：にぶい黄橙 10YR-6/3	B	口縁部片	外面：口縁端部棒状工具による刻み	
4	弥生土器 甕	-	-	-	ABM	外面：にぶい黄橙 10YR-7/3 内面：にぶい黄橙 10YR-6/4	B	口縁部片	外面：口縁端部薄いヘラによる刻み 内面：２条の横位沈線	
5	弥生土器 甕	-	-	-	EIM	外面：にぶい黄橙 10YR-6/3 内面：明赤褐 5YR-5/6	B	口縁部 10%	外面：口縁端部棒状工具による刻み	
6	弥生土器 甕	-	-	-	AKM	黒褐 5YR-2/1	B	口縁部片	外面：口縁端部指頭による波状の押捺	
7	弥生土器 甕	-	-	-	CM	外面：褐灰 5YR-5/1 内面：明赤褐 5YR-5/8	B	口縁部 10%	外面：口縁端部薄いヘラによる刻み	
8	弥生土器 甕	-	-	-	ABHJM	外面：褐 7.5YR-4/4 内面：暗褐 10YR-3/3	B	口縁部片	外面：口縁端部指頭による波状の押捺	押捺された指頭の爪痕 が内面に残る
9	弥生土器 壺	-	-	-	ABCIM	外面：にぶい橙 7.5YR-6/4 内面：赤褐 2.5YR-4/8	B	口縁部片	外面：口縁端部ヘラ状工具による刻み 内面：ミガキ	内面赤彩
10	弥生土器 甕	-	-	-	ABIM	外面：にぶい橙 7.5YR-7/3 内面：にぶい橙 7.5YR-6/4	B	口縁部片	外面：口縁端部指頭による波状の押捺、口縁 部ハケ目	押捺された指頭の爪痕 が内外面に深く残る
11	弥生土器 壺	-	-	-	MN	外面：明赤褐 5YR-5/6 内面：にぶい橙 7.5YR-6/4	B	口縁部 10%	外面：口縁端部斜格子沈線 内面：振り幅の小さい波状文が６段以上巡る	複合口縁
12	弥生土器 甕	-	-	-	ABI	外面：暗褐 7.5R-3/4 内面：橙 5YR-6/6	B	口縁部片	外面：地文はハケ目、櫛描波状文	
13	弥生土器 壺	-	(4.1)	-	ABKM	橙 5YR-6/8	B	頸部 40%	外面：櫛描簾状文、櫛描波状文	
14	弥生土器 甕	-	-	-	AB	外面：橙 5YR-6/6 内面：橙 2.5YR-6/6	B	頸部片	外面:櫛描簾状文 (5 本一単位)、櫛描波状文 (4 本一単位)、櫛描斜線	
15	弥生土器 壺	-	-	-	AEIMN	明赤褐 2.5YR-5/6	B	胴部 10%	外面：櫛描縦位羽状文	
16	弥生土器 壺	-	-	-	ABI	外面：明赤褐 2.5YR-5/6 内面：にぶい橙 5YR-6/4	B	頸部片	外面：櫛描簾状文 (5 本一単位) が２段	
17	弥生土器 壺	-	-	-	DIM	外面：明赤褐 5YR-5/6 内面：にぶい褐 7.5YR-6/3	B	頸部 10%	外面：櫛描簾状文、櫛描波状文	
18	弥生土器 壺	-	-	-	AEM	外面：灰黄褐 10YR-4/2 内面：にぶい褐 7.5YR-6/3	B	頸部 10%	外面：地文はハケ目、櫛描簾状文	
19	弥生土器 甕	-	-	-	ABK	外面：橙 5YR-7/8 内面：橙 2.5YR-6/8	B	頸部片	外面：櫛描波状文 (5 本一単位)	
20	弥生土器 壺	-	-	-	DIMN	外面：にぶい黄橙 10YR-6/4 内面：オリーブ黒 5Y-3/1	B	胴部 10%	外面：沈線区画内に円形刺突文	
21	弥生土器 壺	-	-	-	ABKM	外面：にぶい黄橙 10YR-7/3 内面：にぶい橙 7.5YR-6/4	B	頸部片	外面:櫛描簾状文 (5 本一単位)、櫛描波状文 (4 本一単位)、斜行沈線を充填した鋸歯文	
22	弥生土器 壺	-	-	-	ABM	浅黄橙 10YR-8/4	B	頸部片	外面：横位沈線の区画内に渦巻文	
23	弥生土器 壺	-	-	-	ADHM	にぶい黄橙 10YR-7/3	B	頸部片	外面：横位沈線の区画内に渦巻文	
24	弥生土器 壺	-	-	-	ABHK	外面：灰白 10YR-8/2 内面：灰白 10YR-7/1	B	頸部片	外面：櫛描簾状文及び波状文 (3 本一単位)	
25	弥生土器 壺	-	-	-	ABIJ	外面：にぶい橙 7.5YR-7/4 内面：にぶい黄橙 10YR-7/3	B	胴部片	外面：沈線山形文の区画内を円形竹管による 刺突で充填	外面赤彩
26	弥生土器 壺	-	-	-	ACDHIJ	外面：にぶい橙 7.5YR-7/4 内面：にぶい橙 7.5YR-7/3	B	頸部片	外面：櫛描簾状文 (5 本一単位) 及び波状文 (5 本一単位)	
27	弥生土器 甕	-	-	-	ABIM	外面：灰褐 7.5YR-5/2 内面：にぶい褐 7.5YR-5/3	B	頸部片	外面：櫛描簾状文 (4 本一単位) 及び波状文 (4 本一単位)	
28	弥生土器 甕	-	-	-	ABIJM	外面：にぶい黄橙 10YR-7/3 内面：黒褐 10YR-3/1	B	胴部片	外面：櫛描斜状文	
29	弥生土器 甕	-	-	-	ABI	外面：灰褐 7.5YR-4/2 内面：灰褐 7.5YR-5/2	B	胴部片	外面：櫛描縦位羽状文	
30	弥生土器 甕	-	-	-	ABJM	黒褐 10YR-3/1	B	頸部～胴部片	外面：櫛描簾状文 (4 本一単位)	
31	弥生土器 甕	-	-	-	ABKM	外面：橙 7.5YR-6/6 内面：黒 7.5YR-2/2	B	胴部片	外面：櫛描斜状文	
32	弥生土器 甕	-	-	-	AM	外面：褐灰 10YR-4/1 内面：灰黄褐 10YR-6/2	B	胴上部 10%	外面：櫛描簾状文及び櫛描波状文	
33	弥生土器 甕	-	-	-	ABI	外面：褐灰 10YR-5/1 内面：褐灰 10YR-4/1	B	胴部片	外面：櫛描斜状文 (4 本一単位)	
34	弥生土器 甕	-	-	-	JM	外面：褐灰 7.5YR-4/1 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	A	胴部片	外面：櫛描羽状文	
35	弥生土器 甕	-	-	-	IM	外面：橙 7.5YR-6/6 内面：にぶい黄褐 10YR-5/3	B	胴部 10%	外面：ヘラミガキ、櫛描横位沈線	
36	弥生土器 小型甕	-	-	-	ABHIM	橙 5YR-7/6	B	口縁部片	外面：櫛描による縦位・横位斜線	
37	弥生土器 甕	-	-	-	M	外面：にぶい橙 7.5YR-7/4 内面：にぶい黄橙 10YR-6/3	B	胴部 10%	外面：櫛描縦位羽状文	
38	弥生土器 甕	-	-	-	IM	外面：黒褐 7.5YR-3/1 内面：灰褐 7.5YR-4/2	B	胴部 10%	外面：櫛描縦位羽状文	
39	弥生土器 甕	-	-	-	AJM	灰褐 7.5YR-5/2	A	胴部片	外面：櫛描縦位羽状文	
40	弥生土器 甕	-	-	-	ABIM	外面：橙 5YR-7/6 内面：橙 2.5YR-6/8	B	頸部片	外面：櫛描簾状文 (7 本一単位) 及び波状文	
41	弥生土器 甕	-	-	-	AEMN	外面：にぶい橙 5YR-7/4 内面：にぶい橙 5YR-7/6	B	頸部片	外面：櫛描簾状文 (5 本一単位)	

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
42	弥生土器 甕	-	-	-	ABJM	にぶい黄褐 10YR-5/3	B	胴部片	外面：櫛描縦位羽状文	
43	弥生土器 甕	-	-	-	ADI	外面：黒 10YR-2/1 内面：黒褐 10YR3/1	B	胴部片	外面：櫛描横位沈線 (4 本一単位)	
44	弥生土器 甕	-	-	-	ABDIJ	外面：褐灰 10YR-6/1 内面：灰白 10YR-7/1	B	胴部片	外面：平行沈線間に鋸歯文	
45	弥生土器 甕	-	(3.6)	(7.4)	ABGHKM	黒褐 10YR-3/1	B	胴部下半～底部 30%	外面：摩耗顕著で調整痕不明	
46	弥生土器 甕	-	(3.0)	(8.8)	ABHIM	外面：にぶい赤褐 5YR-5/4 内面：橙 5YR-6/8	B	胴部下半～底部 20%	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	
47	弥生土器 甕	-	(2.2)	4.9	ABGJM	にぶい黄橙 10YR-7/3	B	底部 100%	外面：摩耗のため調整痕不明	
48	弥生土器 甕	-	(2.3)	(7.8)	AJM	外面：明赤褐 2.5YR-5/6 内面：橙 5YR-6/6	B	底部片	外面：摩耗のため調整痕不明	
49	弥生土器 甕	-	(2.5)	(7.9)	ABHKM	外面：にぶい赤褐 5YR-4/4 内面：褐灰 10YR-4/1	B	底部 30%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
50	弥生土器 台付甕	-	(2.9)	-	ADGIM	外面：灰褐 7.5YR-6/2 内面：脚部浅黄橙 7.5YR-8/4 底部灰褐 7.5YR-6/2	A	脚部 20%	外面：ハケ目 内面：指ナデ	
51	弥生土器 鉢	(8.6)	(4.4)	-	ABIJM	外面：明赤褐 2.5YR-5/6 内面：にぶい橙 7.5YR-6/4	B	口縁～胴部片	外面：摩耗著しく、部分的にヘラミガキ 内面：ヘラナデ	
52	弥生土器 鉢	(12.0)	(5.1)	-	ABHIM	橙 7.5YR-7/6	B	口縁部片	外面：櫛描による縦位・横位斜線	
53	弥生土器 高坏	(15.4)	(4.7)	-	ABHI	外面：にぶい橙 7.5YR-6/4 内面：灰黄褐 10YR-6/2	B	口縁部片	内外面：ヘラミガキ	内外面赤彩
54	弥生土器 高坏	(17.2)	(2.8)	-	IM	灰白 7.5YR-8/2	A	口縁部片	外面：ヘラミガキ	内外面赤彩
55	弥生土器 高坏	-	(3.5)	-	AJM	外面：浅黄橙 7.5YR-8/3 内面：黒 N-2/	A	脚部 50%	外面：ヘラミガキ 内面：ハケ目	外面赤彩
56	石器 磨石	最大長 6.9　最大幅 (3.8)　最大厚 1.2　重さ 43.9 g						半分欠損	扁平な礫を素材とし、表裏２面が磨面	砂岩
57	石器 棒状石製品	最大長 (5.4)　最大幅 0.9　最大厚 0.7　重さ 5.9 g						先端欠損	目立った加工痕無し、用途不明	頁岩
58	石器 打製石斧	最大長 (12.7)　最大幅 10.0　最大厚 2.6　重さ 360 g						基部欠損	表皮面を多く残し、両側面から両極敲打でつぶしをつくり出しているが顕著ではない	短冊形 刃部のみで基部を欠損 玄武岩

柱穴は２基検出した。互いに近接しているため、建て替えによる掘り直しによるものと考えられる。

出土遺物は、住居の南西エリアに集中して確認されている。弥生土器壺・甕・鉢・高坏・台付甕、石器が検出された。主な壺は頸部に櫛描簾状文、波状文を、胴部に櫛描羽状文を施したものがある。

時期は、出土土器から弥生時代後期初頭～前半と推定される。

第９号住居跡（第 34、35 図）

Ｂ区に位置し、Ｍ－ 11 グリッドから検出した。第４号方形周溝墓、第 18 溝跡と重複しており、それらすべてに切られていた。

平面プランは、おおよそ４分の３が重複関係にある遺構に切られていたため詳細は不明であるが、隅丸方形と推定される。

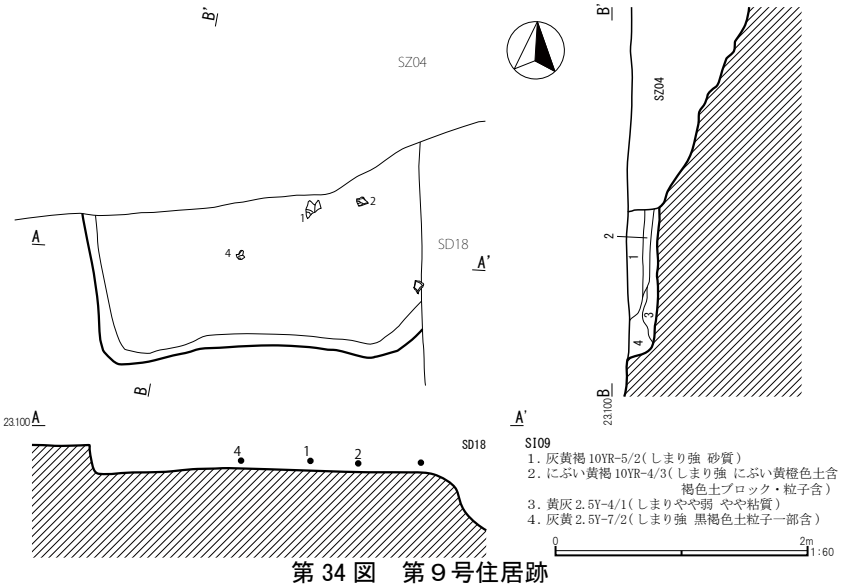
規模は、検出長軸で 2.60 m、短軸で 1.16 m、深さは 0.25 m測り、主軸方向は、Ｎ－９°－E を指す。

床面は、黒褐色粘質土を凹凸箇所を塞ぐことで、平らに整形しており、炉跡は検出されなかったが、中央付近の床からは炭化物や焼土痕が検出されていることから、炉跡は第４号方形周溝墓に切られたものと推定される。

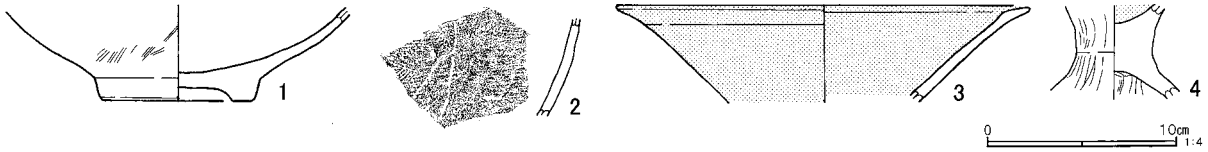
柱穴は検出されなかった。

出土遺物は、弥生土器壺・甕・高坏がわずかに検出された。

時期は、出土土器から弥生時代後期初頭～前半と推定される。



第 34 図　第９号住居跡



第 35 図　第９号住居跡出土遺物

第８表　第９号住居跡出土遺物観察表（第 35 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	弥生土器 壺	-	(5.0)	8.2	ADMN	外面：にぶい橙 7.5YR-7/4 内面：灰白 7.5YR-8/2	B	胴部下半～底部 10%	外面：ハケ目後ヘラナデ、輪台状の底部 内面：ヘラナデ	
2	弥生土器 甕	-	-	-	ABIM	外面：にぶい黄橙 10YR-7/4 内面：にぶい黄橙 10YR-7/3	B	胴部片	外面：櫛描縦位羽状文	
3	弥生土器 高坏	(21.6)	(5.1)	-	ABHIM	外面：赤 10R-4/8 内面：赤 10R-5/8	B	坏部片	外面：ハケ目後ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	内外面赤彩
4	弥生土器 高坏	-	(4.9)	-	ABHKM	外面：浅黄橙 10YR-8/3 脚裏オリーブ黒 5Y-3/1	B	脚部片	外面：摩耗顕著で調整痕不明 内面：坏部ヘラミガキ、脚部ハケ目	内面坏部赤彩

２　掘立柱建物跡

第１号掘立柱建物跡（第 36、38 図）

Ｃ区の東に位置しておりＰ・Ｑ－ 14 グリッドから検出した。

第 30、32 号溝跡、第 12 号土坑と重複関係にあり、本遺構が全ての遺構を切っていた。

建物跡は、掘立柱建物跡と推測され、規模は、１間のみの検出で 柱間は 2.75 ｍ（９尺)、面積は不明である。主軸方位は不明だが、柱軸はほぼ東西方向を指す。

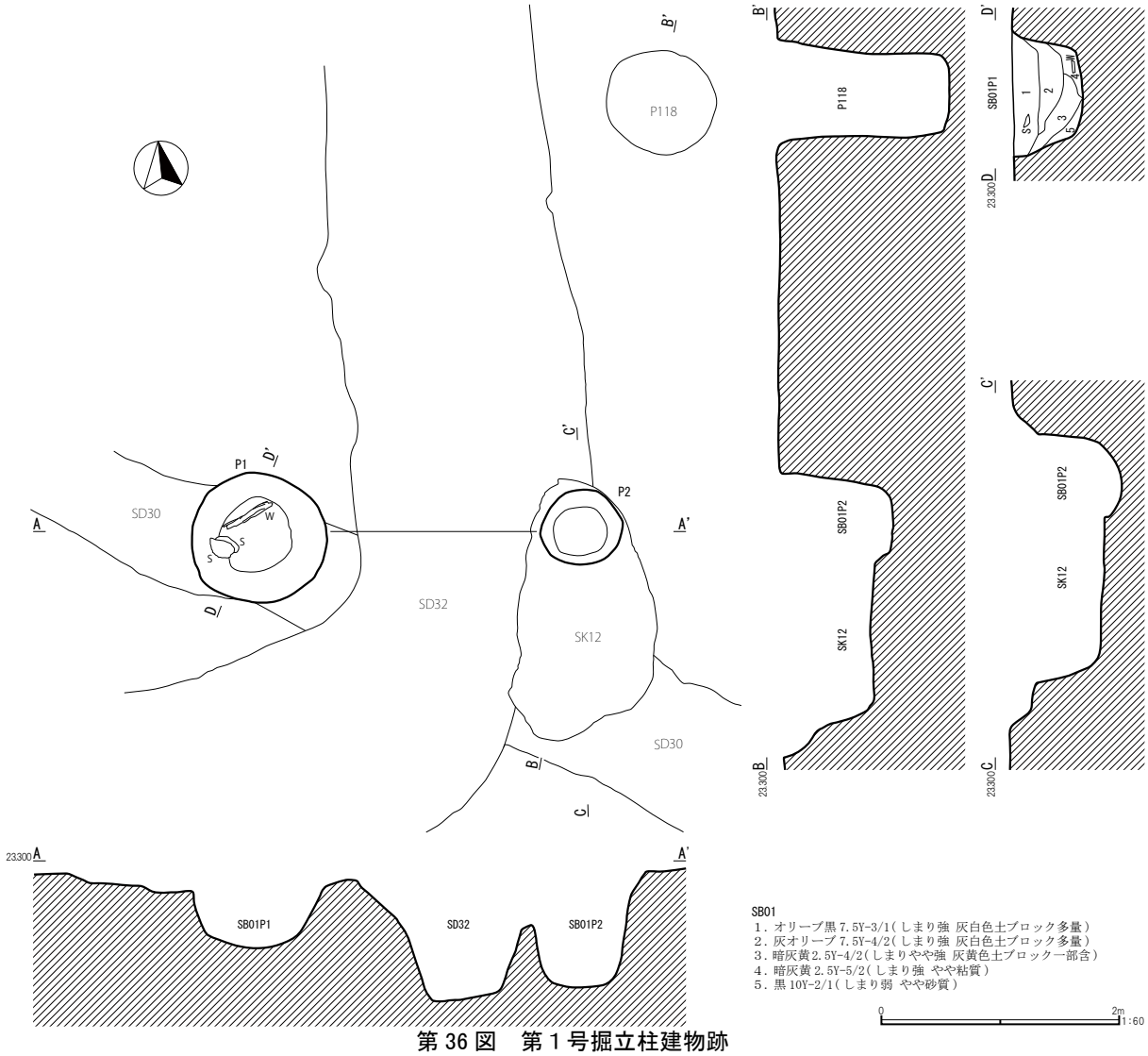
柱穴は楕円形の掘り跡があり、長軸 0.6 ～ 1.1 ｍ、短軸 0.48 ～ 1.0 ｍを測る。

掘り方の深さは、いずれも確認面からＰ１が 0.62 ｍ、Ｐ２が 0.97 ｍを測る。

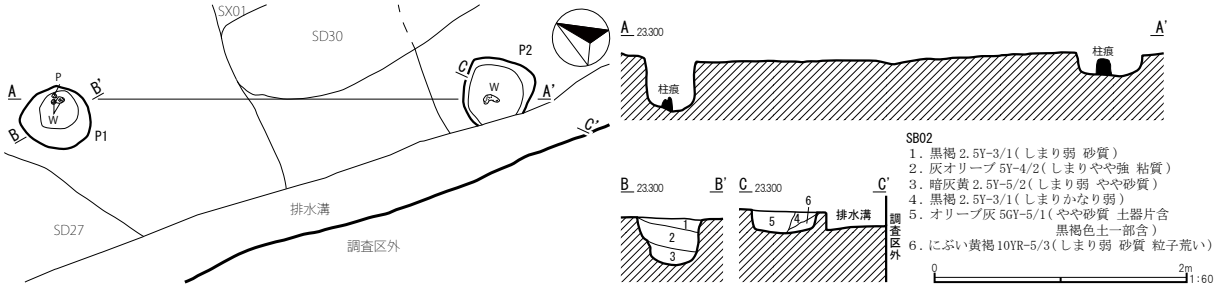
柱痕跡は、断面からは柱穴を確認することはできなかった。

土層断面観察からは柱穴が確認できず推定される柱の直径は、不明である。

出土遺物は、１点のみＰ１の柱穴痕内から土師器坏が１点出土した。出土量が少量のため、この遺構の時期は不明である。



第 36 図　第１号掘立柱建物跡



第 37 図　第２号掘立柱建物跡

第２号掘立柱建物跡（第 37、38 図）

Ｃ区の西に位置しておりＯ－ 13 グリッドから検出した。

直接切り合い関係にある遺構ではないが、第１号性格不明遺構と重複関係にある。

建物跡は、掘立柱建物跡と推測され、建物本体は南に展開すると推定される。

規模は、１間のみの検出で 柱間は 3.5 ｍ（11.5 尺）、面積は不明である。主軸方位は不明だが、柱軸は北西方向を指す。

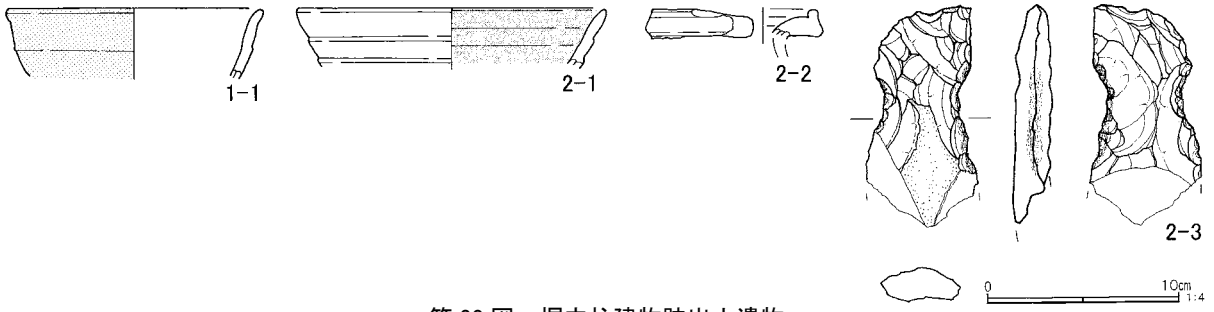
柱穴は楕円形の掘り跡があり、長軸 0.58 ～ 0.6 m、短軸 0.40 ～ 0.52 mを測る。

掘り方の深さは、いずれも確認面からＰ１が 0.35 m、Ｐ２が 0.19 mを測る。

柱痕跡は、平面上からは確認できなかったが、底部付近に高さ 0.8 ～ 1.0 m、径 0.1 m程度の柱痕が残存していた。

土層断面観察からは柱穴が確認できず推定される柱の直径は、不明である。

出土遺物は、Ｐ１の柱穴痕内から２点出土した。この遺構の時期は不明である。



第 38 図　掘立柱建物跡出土遺物

第９表　掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 38 図）

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
SB01P1	1-1	土師器 坏	(13.0)	(3.8)	-	ABEHJM	外面：にぶい黄橙 10YR-7/2 内面：灰黄 2.5YR-6/2	B	坏部 20%	内外面：ナデ	坏蓋模倣坏 外面赤彩
SB02P2	2-1	土師器 坏	(16.0)	(3.0)	-	ABIJ	外面：灰黄褐 10YR-6/2 内面：黒褐 10YR-3/1	B	口縁部片	内外面：ヨコナデ	有段口縁 内面黒色処理
SB02P1	2-2	陶器 甕	-	-	-	ABM	外面：褐 7.5Y-4/3 内面：オリーブ灰 10Y-5/2	B	口縁部片	口縁部Ｌ字状	常滑系 第２型式
SB02P1	2-3	石器 打製石斧	最大長 (11.5)　最大幅 5.8　最大厚 1.9　重さ 140 g						刃部欠損	表皮面を残し、両側面から両極敲打でつぶしをつくり出している	頁岩

３　方形周溝墓

第１号方形周溝墓（第 39、40 図）

Ａ区の西に位置しておりＢ－１、Ｂ・Ｃ－２グリッドから検出した。

検出されたのは南溝、東溝の全部と、西溝の一部の周溝である。第２号溝跡と重複関係にあり、第２号溝跡を切っていた。なお、調査区域外に接しているため、西溝、南溝の一部はトレンチ調査での検出である。また方台部は後世の撹乱を受けている。

正確な規模は不明であるが、検出された長さ、幅は東周溝が 6.80 m、最大幅 1.50 ～ 1.70 m、確認面からの深さは 0.74m、南周溝は 7.14 m、最大幅 1.30 m、確認面からの深さは 0.70m、西周溝は検出長 1.09 m、最大幅 1.18 m～ 1.26m、確認面からの深さは 0.56m を測る。

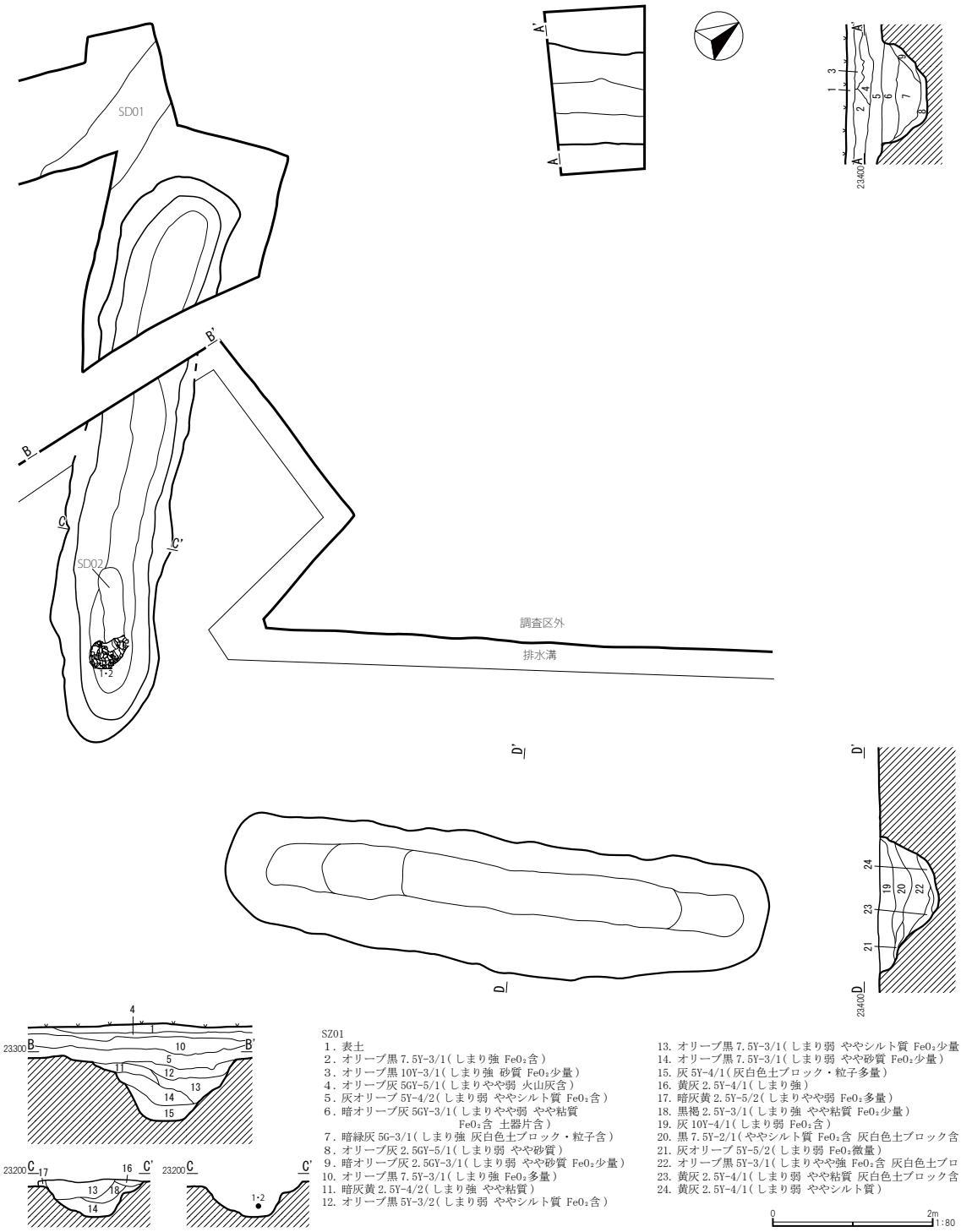
平面プランは四隅の切れるタイプと思われ、復元すると外縁の規模は 11.58 m、方台部は 8.78 m程と推定される。

立ち上がりは鋭角であり、方台部側に顕著である。底面は西周溝がほぼ平坦、東、南周溝はやや方台部側に傾く。

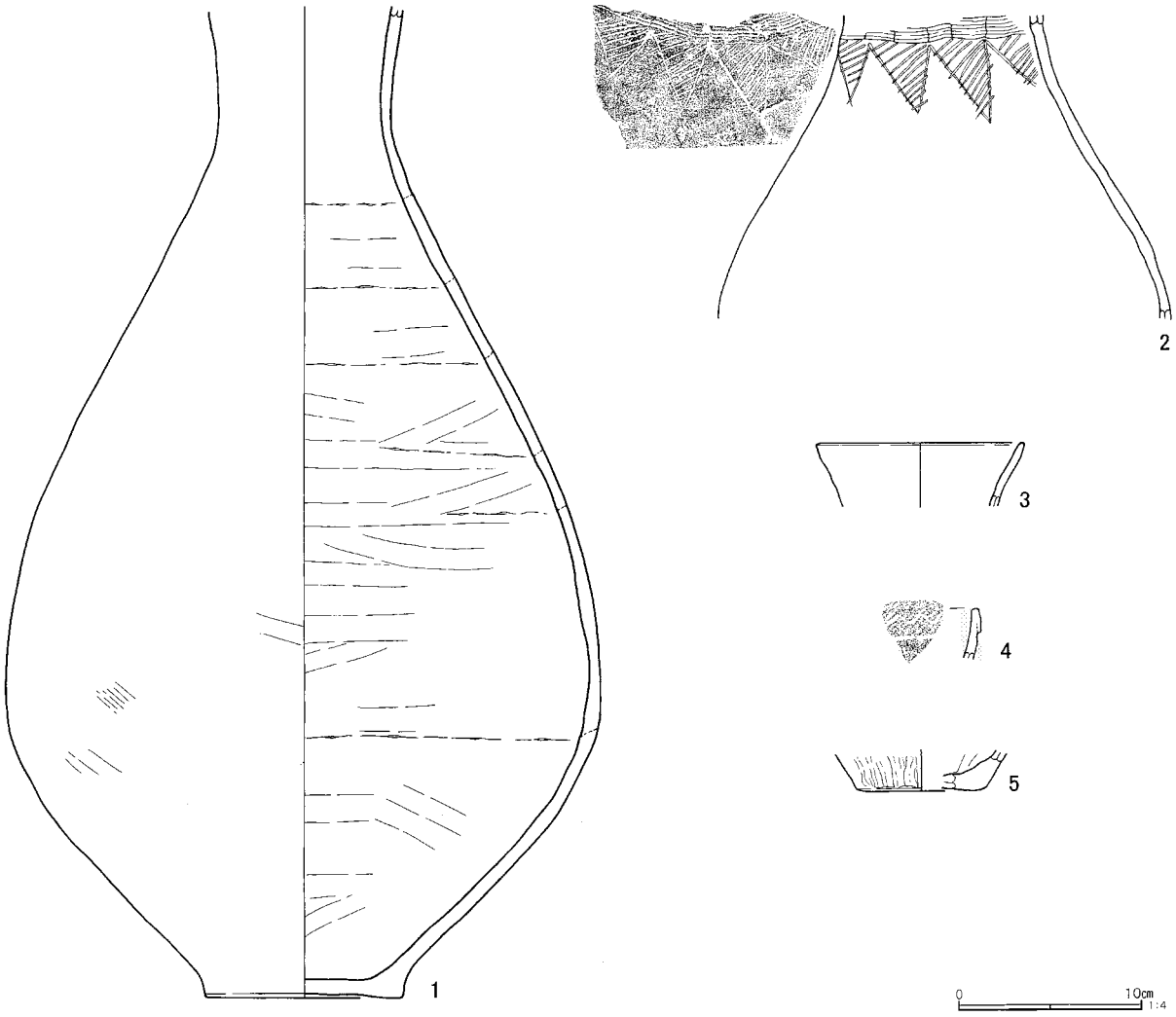
断面はいずれも５～７層確認され、やや内容が異なるが、いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

出土遺物は南周溝からは器高 50 ㎝大の弥生土器壺が確認されたほか、甕・鉢が、東周溝からは弥生土器壺・甕が検出された。西周溝からは検出されていない。

時期は、出土遺物から弥生時代後期前半と考えられる。



第 39 図　第 1 号方形周溝墓



第 40 図　第１号方形周溝墓出土遺物

第 10 表　第１号方形周溝墓出土遺物観察表（第 40 図）

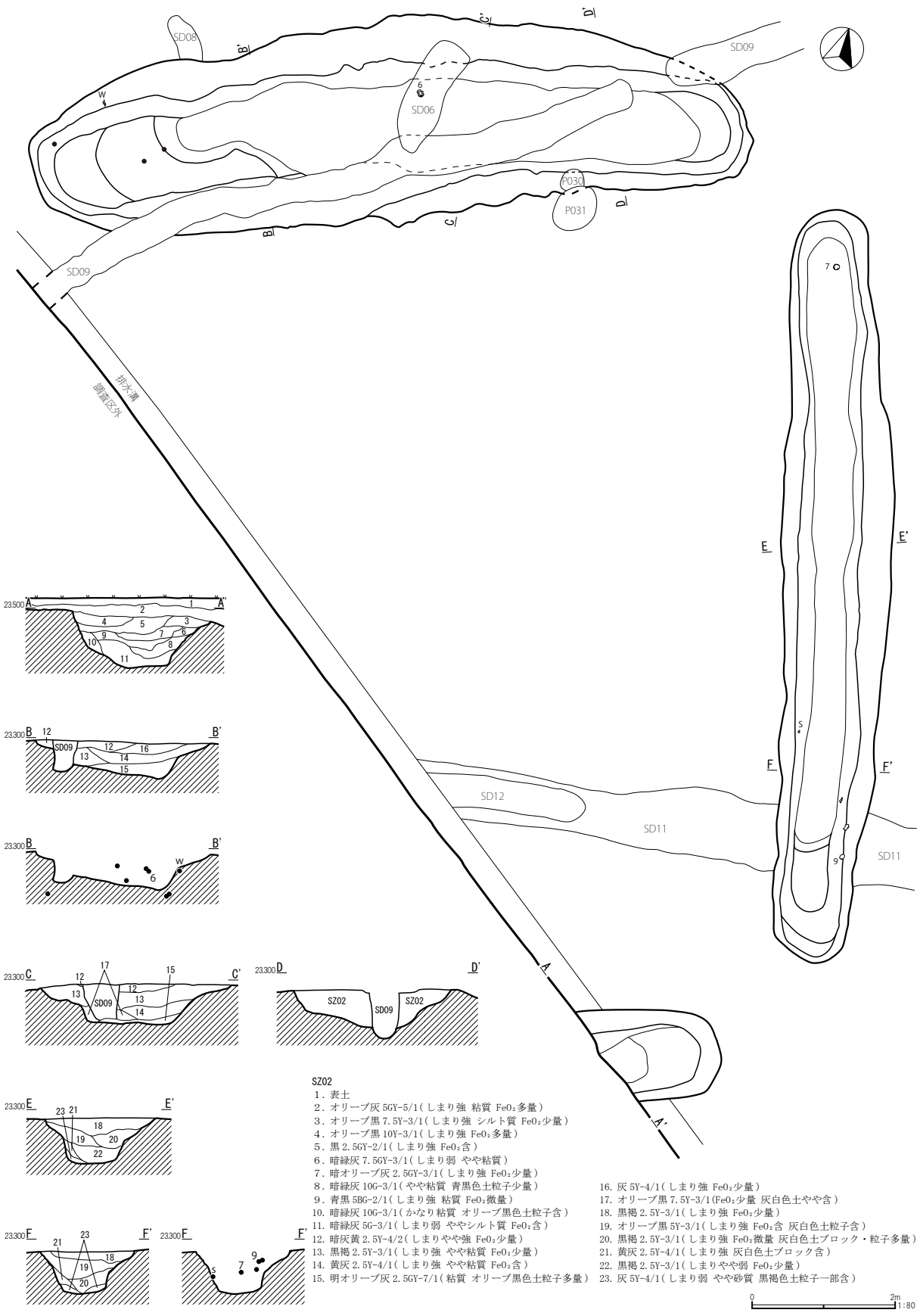
No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	弥生土器 壺	-	(54.5)	10.8	ABDMN	外面：橙 5YR-6/8 内面：褐灰 5YR-5/1	B	頸部～胴部～底部 60%	外面：摩耗のため調整痕不明、胴部下半部分的にハケ目 内面：ヘラナデ	
2	弥生土器 壺	-	(16.5)	-	ABGN	浅黄橙 7.5YR-8/4	B	胴部上半 20%	外面：櫛描簾状文 (5 本一単位)、以下斜位沈線を充填した鋸歯文	
3	弥生土器 壺	(11.0)	(3.6)	-	ABG	にぶい橙 5YR-7/6	B	口縁部 20%	内外面：摩耗のため調整痕不明	
4	弥生土器 鉢	-	-	-	ABGK	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	口縁部片	外面：LR 単節縄文地に櫛描連続山形文 内面：ミガキ	折返し口縁 内外面赤彩
5	弥生土器 甕	-	(2.2)	(7.0)	ABG	にぶい黄橙 10YR-7/3	B	胴部下半～底部片	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	

第２号方形周溝墓（第 41、42 図）

Ａ区の中央に位置しており、Ｄ－３、Ｃ～Ｅ－４、Ｄ・Ｅ－５グリッドから検出した。

検出されたのは北溝、東溝の全部と、南溝の一部の周溝である。西溝は検出されていない。また方台部は後世の撹乱を受けている。

正確な規模は不明であるが、検出された長さ、幅は北周溝が 10.11 ｍ、最大幅 2.38 ～ 2.84 ｍ、東周溝は 10.51 ｍ、、最大幅 1.16 ～ 1.55 ｍ、南周溝は検出長 1.54 ｍ、最大幅 1.27 ｍを測る。



第 41 図　第２号方形周溝墓

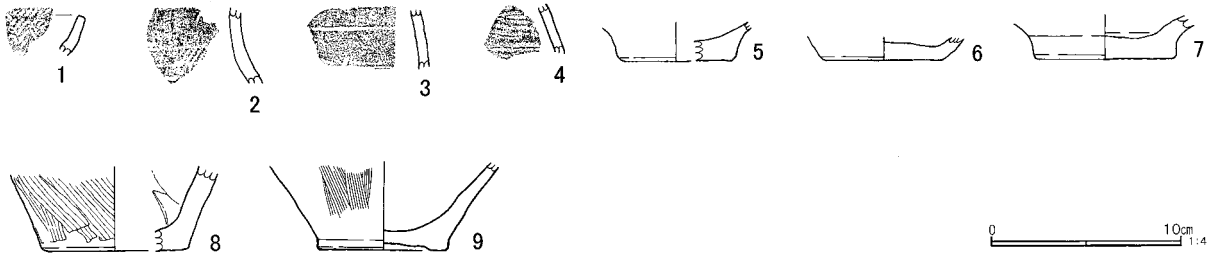
平面プランは四隅の切れるタイプであり、復元すると外縁の規模は 14.85 m、方台部は 11.46 m程と推定される。

確認面からの深さは、北周溝が 0.45 ～ 0.57 m、東周溝は 0.59 ～ 0.63 m、南周溝は 0.42 m前後を測る。立ち上がりは鋭角であり、とくに東周溝は方台部側に顕著である。底面はいずれもほぼ平坦である。北溝は上壁の崩落により、幅が広がったものと考えられる。南周溝は、北端部の検出のみであったため、詳細は不明である。

断面は主に５～６層ほどがであり、やや内容が異なるが、いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。北周溝のみは、後世の第９号溝跡により切られているため、不自然な土層断面となっている。

出土遺物は北周溝からは、弥生土器甕・鉢が、東周溝からは同じく壺・甕が検出された。南周溝からは検出されていない。

時期は、出土遺物から弥生時代後期と考えられる。



第 42 図　第２号方形周溝墓出土遺物

第 11 表　第２号方形周溝墓出土遺物観察表（第 42 図）

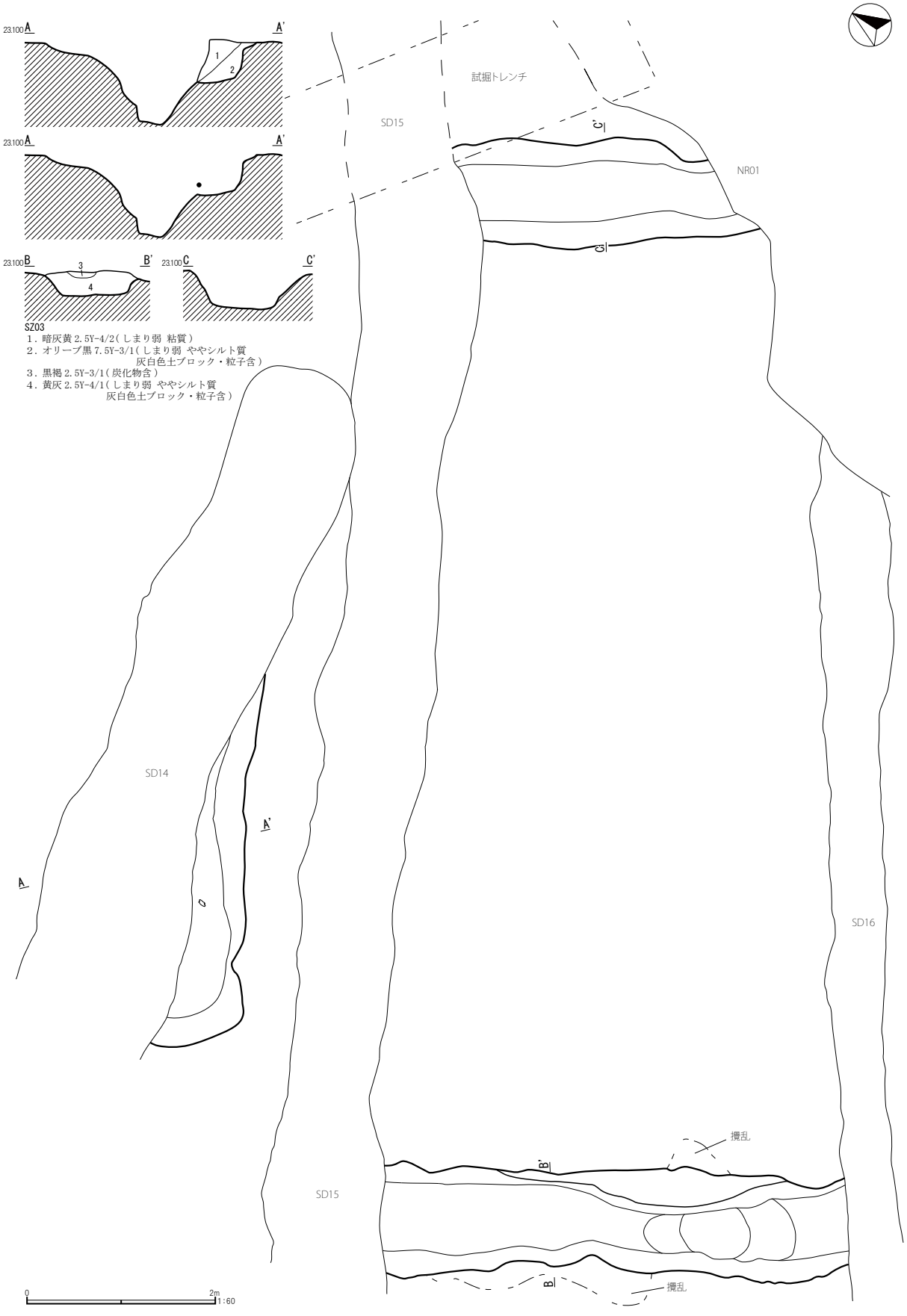
No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	弥生土器 鉢	-	-	-	ABIM	灰黄褐 10YR-4/2	B	口縁部片	外面：口縁・端部 LR 単節縄文地に２条の櫛描波状文	
2	弥生土器 壺	-	-	-	ABKM	外面：灰黄褐 10YR-4/2 内面：褐灰 10YR-4/1	B	頸部片	外面：頸部 LR 単節縄文、平行沈線	
3	弥生土器 壺	-	-	-	ABKM	外面：黒 5Y-2/1 内面：にぶい黄褐 10YR-5/3	B	胴部片	外面：ハケ目、横位平行沈線	
4	弥生土器 壺	-	-	-	ABDM	にぶい黄橙 10YR-7/3	B	胴部片	外面：５条以上の平行沈線	
5	弥生土器 甕	-	(2.0)	(5.6)	ABKM	外面：黒 5Y-2/1 内面：橙 5YR-6/6	B	底部 20%	内外面：摩耗顕著で調整痕不明	
6	弥生土器 甕	-	(1.2)	6.1	ABDM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	底部 100%	内外面：摩耗顕著で調整痕不明	
7	弥生土器 壺	-	(2.3)	7.4	BGJM	にぶい黄橙 10YR-7/2	A	底部 90%	内外面：摩耗顕著で調整痕不明	
8	弥生土器 甕	-	(4.4)	(7.0)	ABKM	黒褐 7.5YR-3/1	B	胴部下半～底部 20%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
9	弥生土器 甕	-	(4.7)	6.8	DGHJ	にぶい橙 5YR-7/4	A	胴部下半～底部 25%	外面：ハケ目、底部輪台状	

第３号方形周溝墓（第 43、44 図）

Ａ区の東に位置しており、Ｅ～Ｇ－５、Ｆ－６グリッドから検出した。

検出されたのは北西溝、北東溝、南西溝のそれぞれ一部の周溝である。南東溝に当たる部分は検出されていない。また方台部は後世の撹乱を受けている。

正確な規模は不明であるが、検出された長さ、幅は北西周溝が検出長 2.98 m、最大幅 0.55 m、北東周溝は検出長 2.68 m、最大幅 1.12 m、南西周溝は検出長 4.97 m、最大幅 0.85 ～ 1.09 mを測る。



第 43 図　第３号方形周溝墓

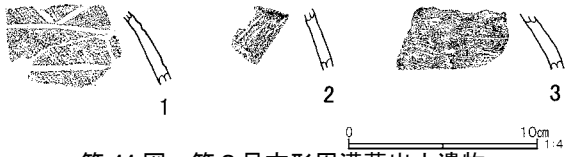
平面プランは四隅の切れるタイプであり、復元すると外縁の規模は 12.06 m、方台部は 9.83 m程と推定される。

確認面からの深さは、北西周溝が 0.46 m、北東周溝は 0.38 m、南西周溝は 0.26 m前後を測る。残存状態がよくないため、一部のみの判断であるが、立ち上がりはやや方台部側に鋭角である。底面はいずれもほぼ平坦である。北西周溝は、一部のみの検出であったため、詳細は不明である。

断面は残存状態がよくないため、いずれも２層程度の確認である。やや内容が異なるが、いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

出土遺物は北西周溝からは、弥生土器壺が、南西周溝からは同じく壺が検出された。北東周溝からは検出されていない。

時期は、出土遺物から弥生時代後期と考えられる。



第 44 図　第３号方形周溝墓出土遺物

第 12 表　第３号方形周溝墓出土遺物観察表（第 44 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	弥生土器 壺	-	-	-	ABDGIL	外面：にぶい黄橙 10YR-7/4 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	B	胴部片	外面：RL 単節縄文地に２条以上の横位平行沈線・鋸歯文	
2	弥生土器 壺	-	-	-	ABGIJ	外面：にぶい黄橙 10YR-7/2 内面：褐灰 10YR-4/1	B	頸部片	外面：LR 単節縄文	
3	弥生土器 壺	-	-	-	AGIJN	外面：黒 7.5Y-2/1 内面：にぶい黄橙 10YR-6/3	B	胴部片	外面：ハケ目	

第４号方形周溝墓（第 45 ～ 52 図）

Ｂ区の西に位置しており、Ｌ～Ｎ－ 10、Ｌ・Ｍ－ 11 グリッドから検出した。

検出されたのは南東溝の一部の周溝である。それ以外の周溝は検出されていない。また方台部は第２号河川跡の撹乱を受けている。

正確な規模は不明であるが、検出された長さ、幅は検出長 19.23 m、最大幅 2.25 ～ 3.38 mを測る。

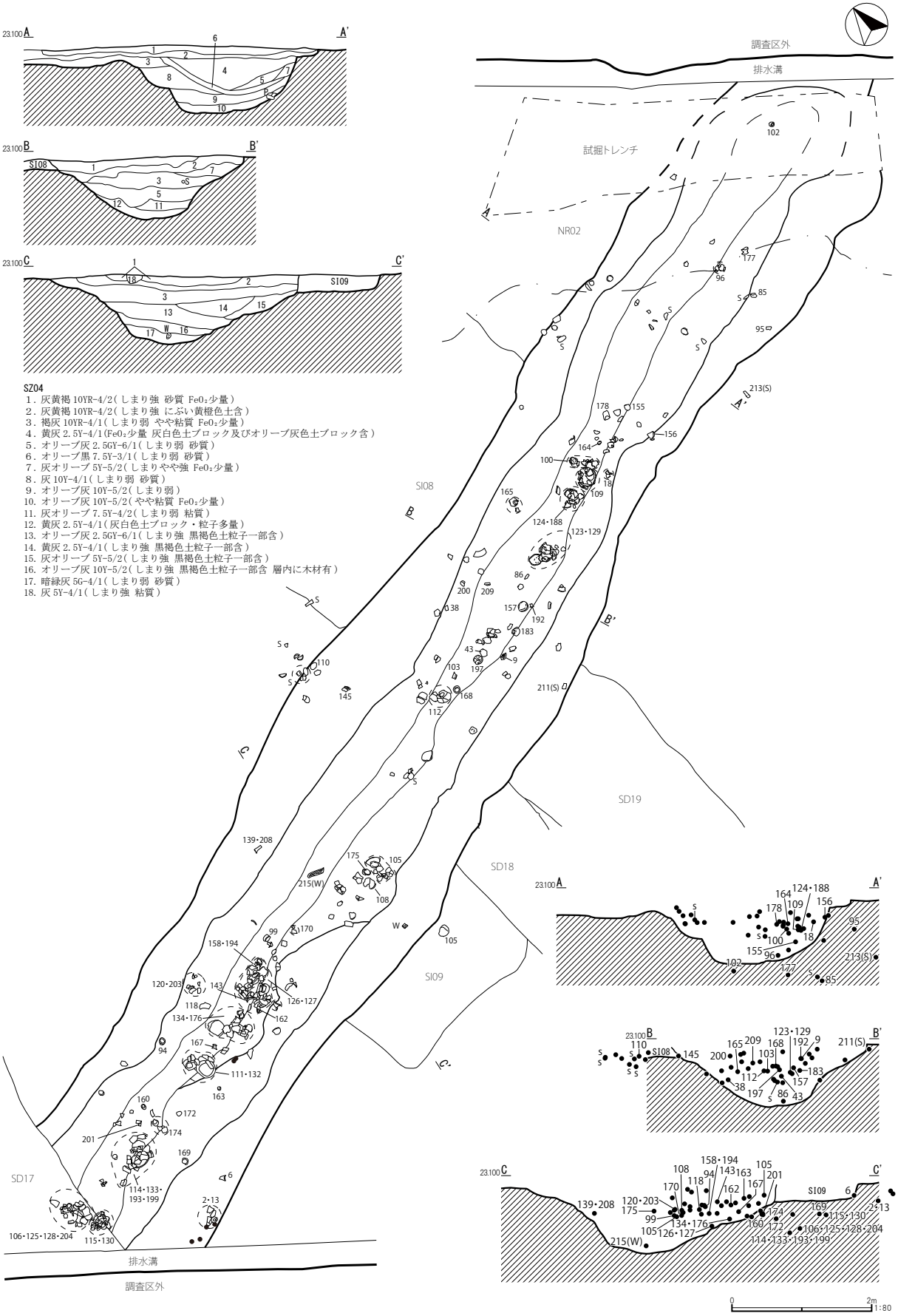
平面プランは四隅がつながる全周タイプと推定される。

確認面からの深さは 0.89 ～ 0.98 mを測る。立ち上がりは方台部側に鋭角である。底面はやや外縁部へ傾斜する。

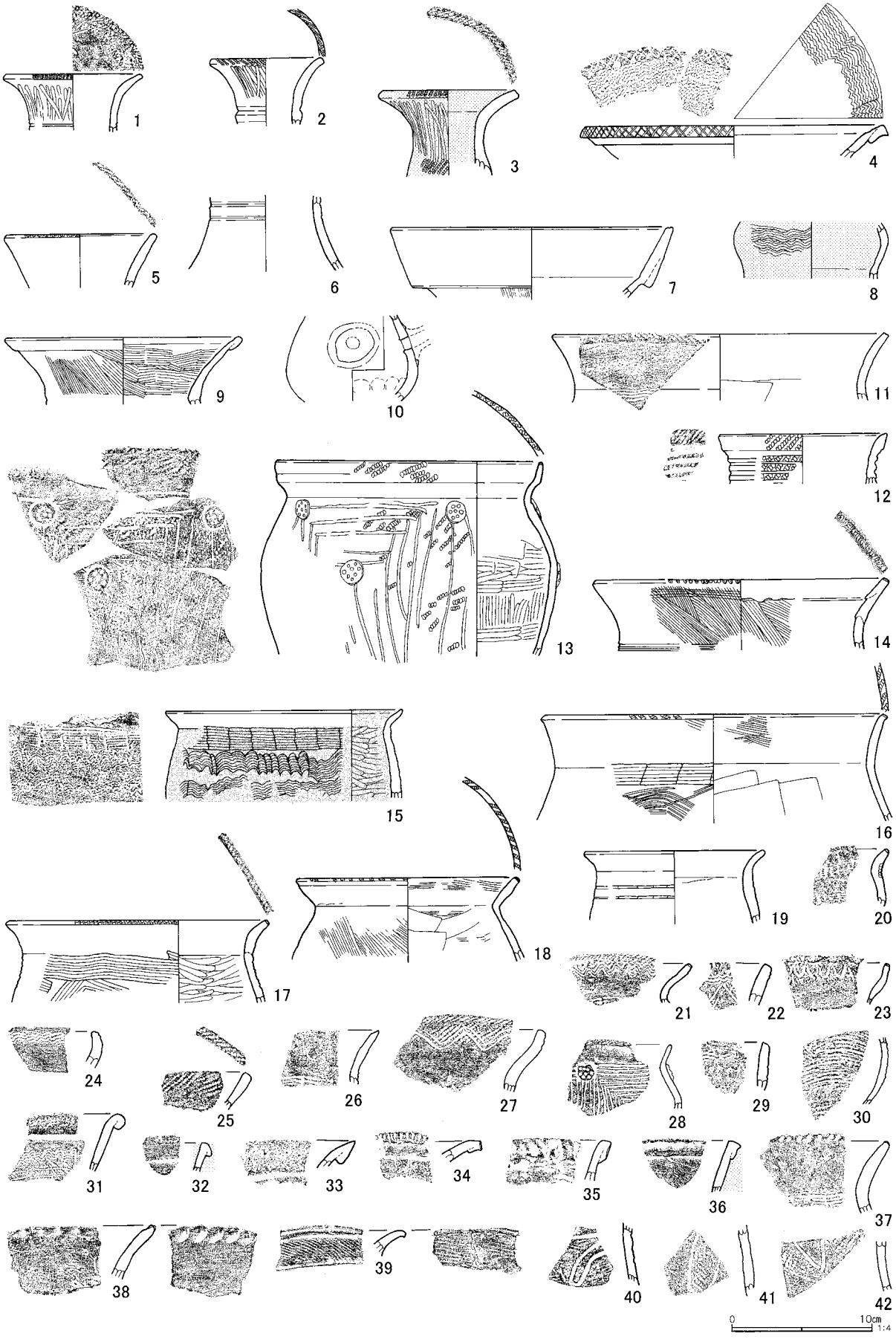
断面は 10 層確認され、下層はレンズ状に堆積し、Ａ－Ａ’の第２号河川跡側に近い第９層以上、特に第４層は 35 ㎝の厚さが堆積しており、河川の氾濫によるものと思われる。

出土遺物は本調査における方形周溝墓のなかでも最大の出土量であり、図示しただけで 200 点以上を数える。主な出土遺物は、弥生土器壺・甕・小型甕・台付甕・高坏、土師器壺・甕・台付甕・甑・鉢・小型鉢・坏・高坏・器台、土製品、石器、木製品が検出されている。弥生土器の一部は重複関係にある第８、９号住居跡の遺物も検出されている。特徴的な遺物としては、外来系の土器が多く検出されている。また、環状磨製石斧とされるものも１点ある。

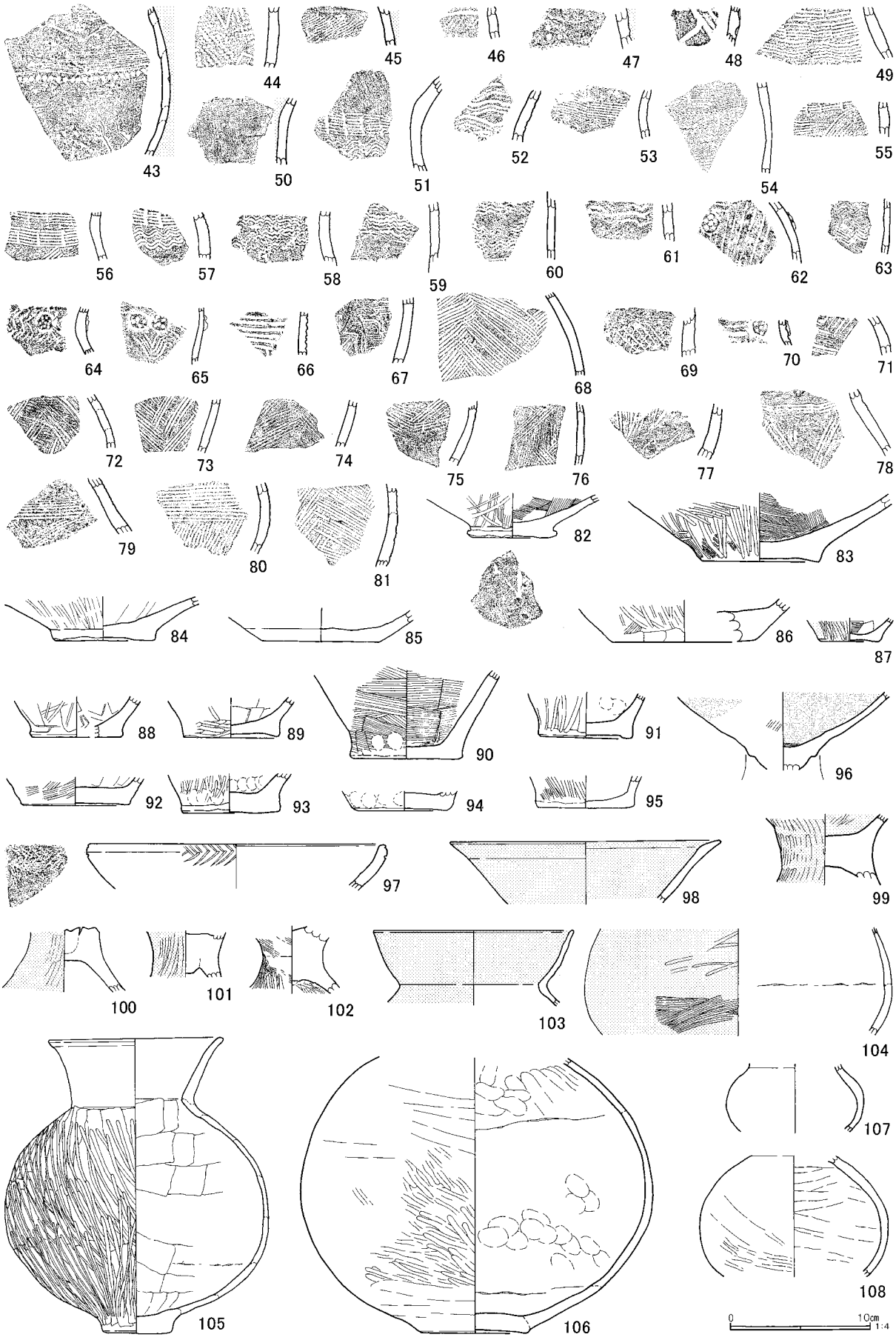
時期は、出土遺物から古墳時代前期初頭と考えられる。



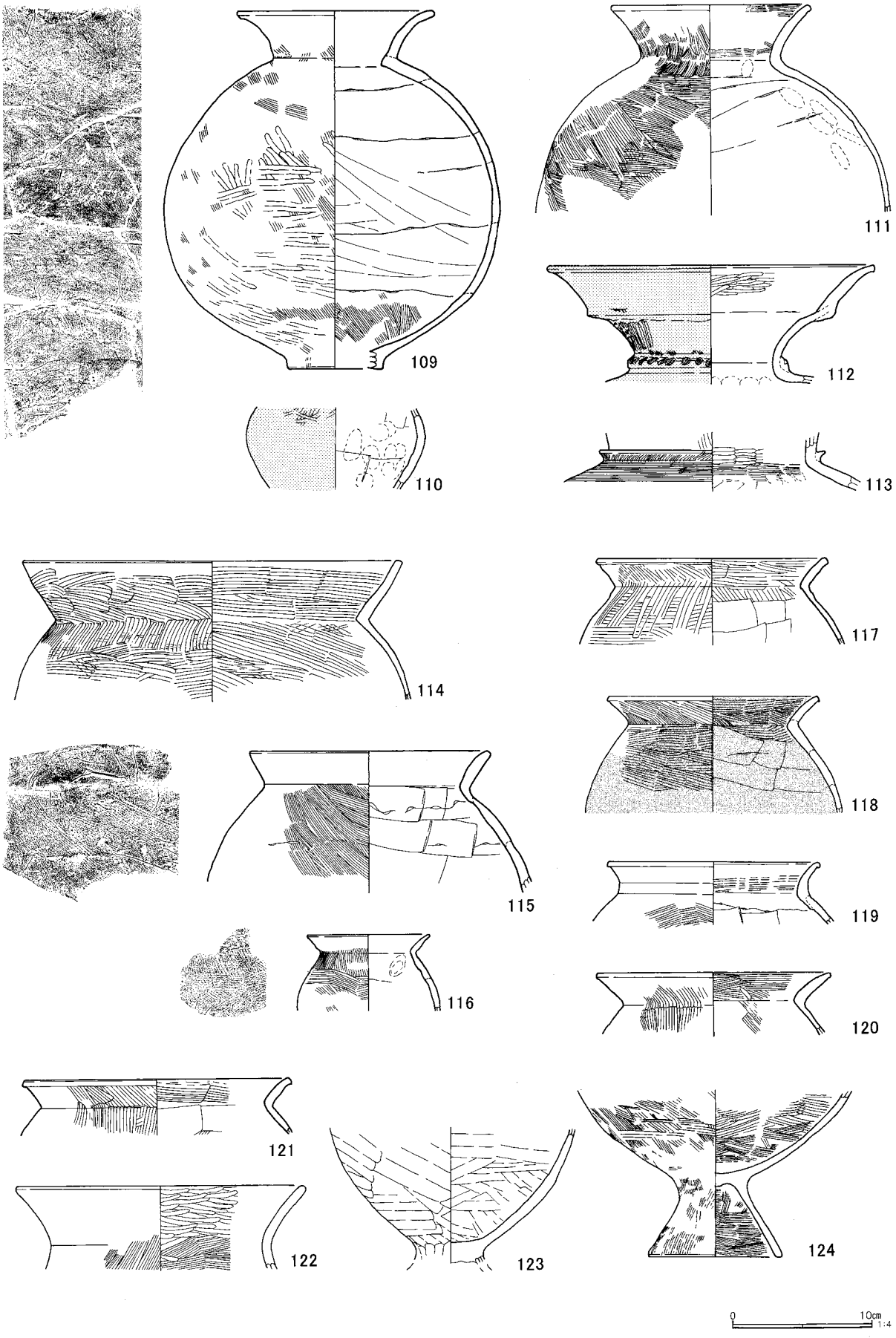
第 45 図　第 4 号方形周溝墓



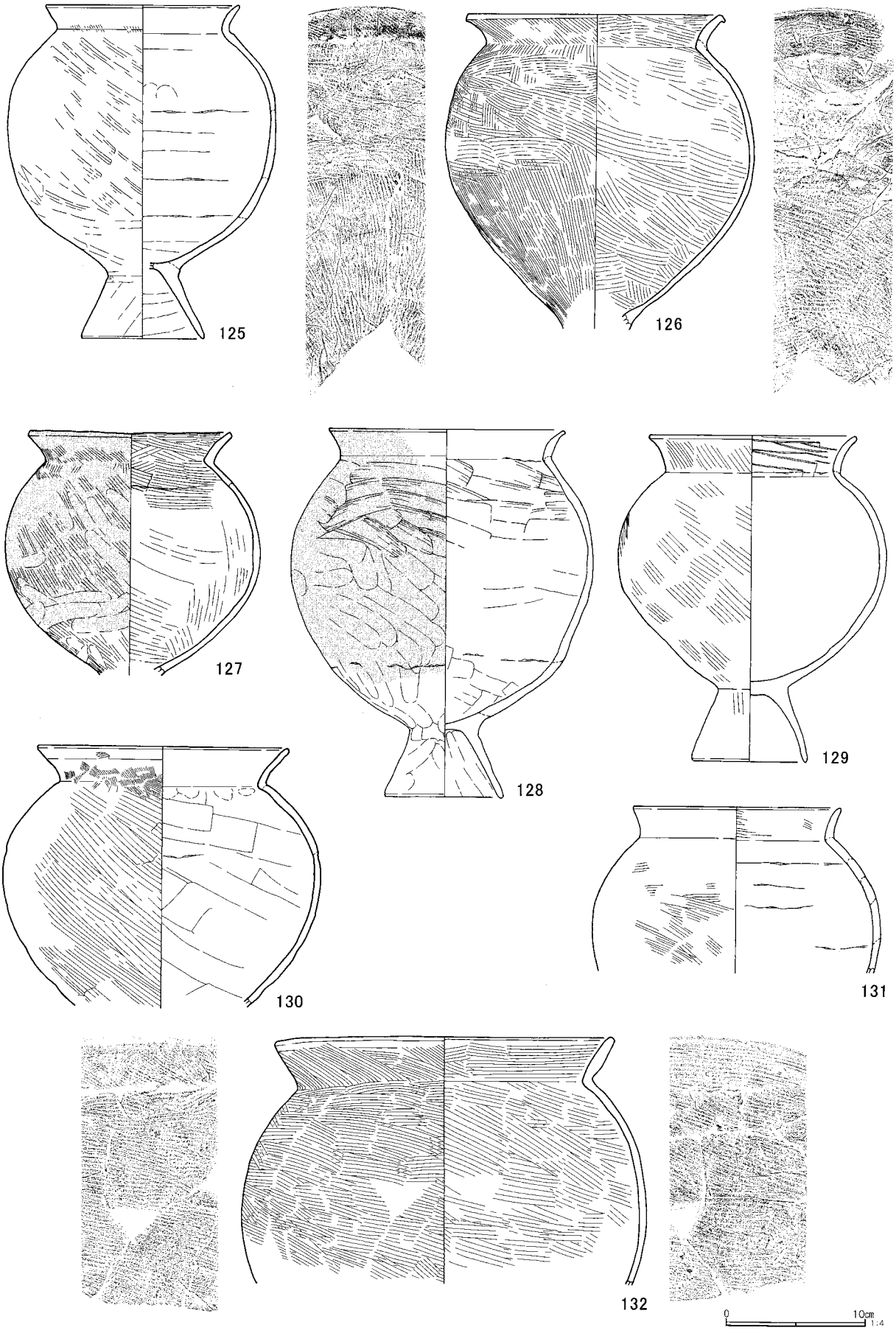
第 46 図　第 4 号方形周溝墓出土遺物(1)



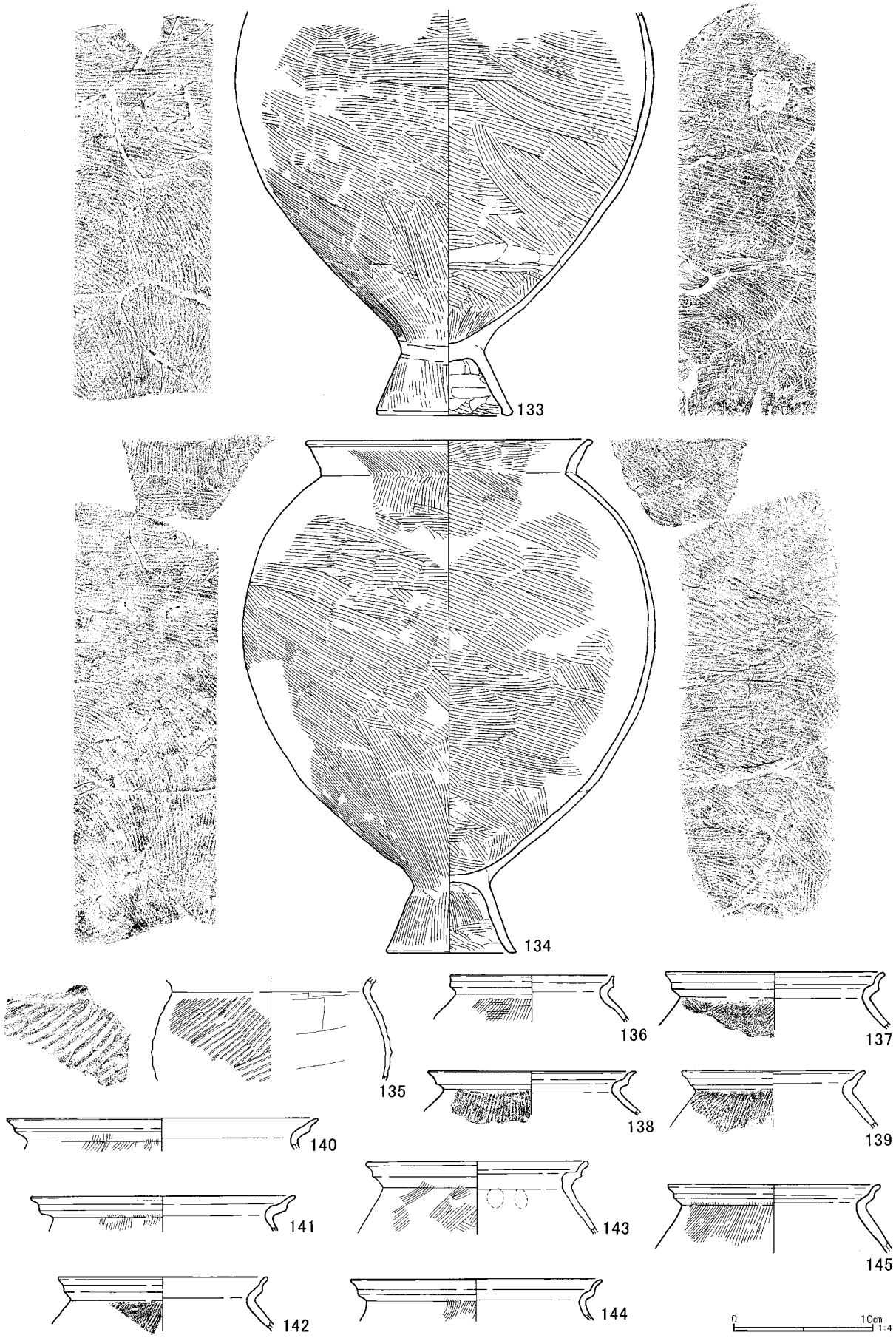
第 47 図　第 4 号方形周溝墓出土遺物(2)



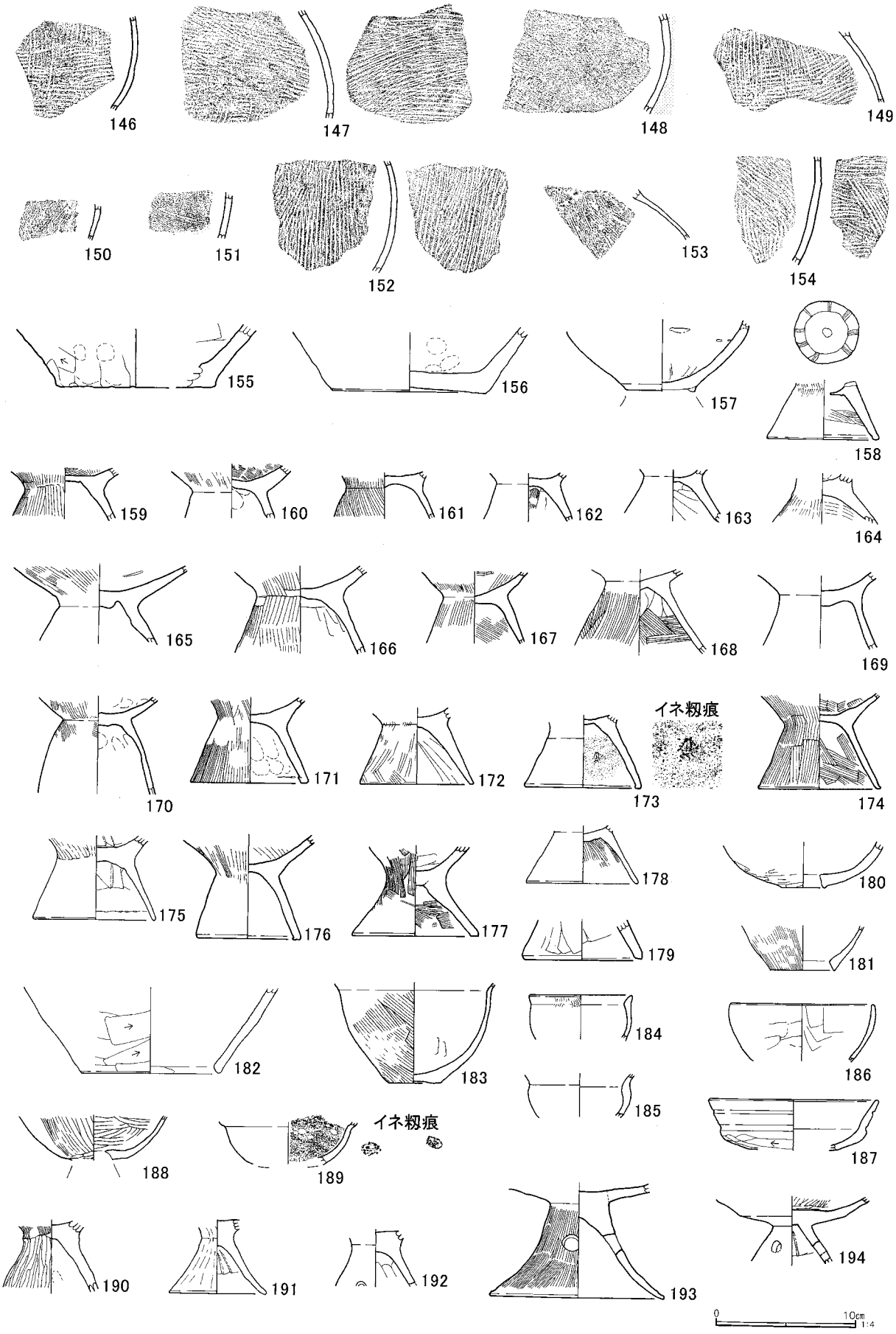
第 48 図　第 4 号方形周溝墓出土遺物(3)



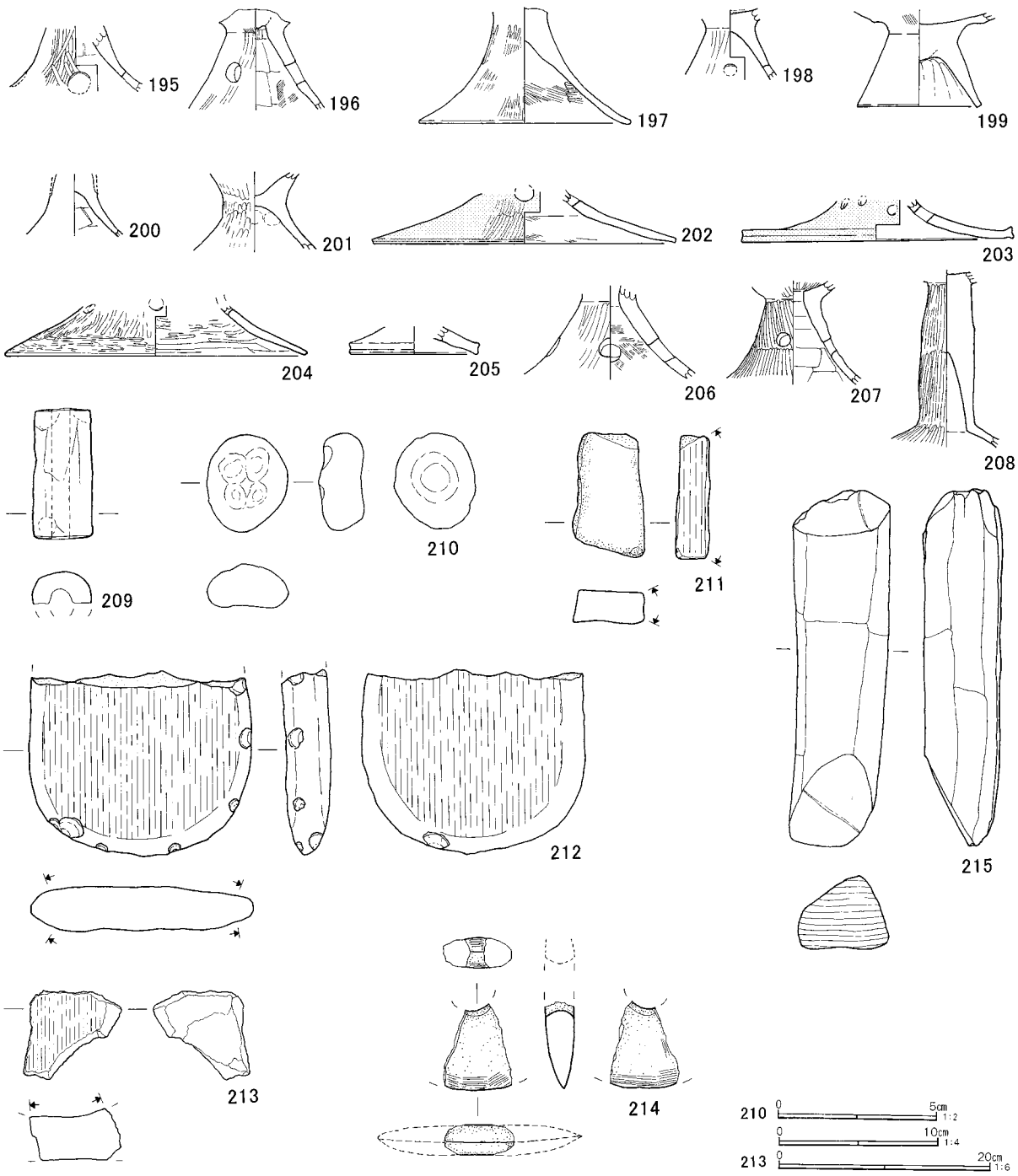
第 49 図　第 4 号方形周溝墓出土遺物(4)



第 50 図　第４号方形周溝墓出土遺物(5)



第 51 図　第４号方形周溝墓出土遺物(6)



第 52 図　第 4 号方形周溝墓出土遺物(7)

第 13 表　第４号方形周溝墓出土遺物観察表(1)（第 46 ～ 52 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	弥生土器 壺	(9.7)	(3.9)	-	ABM	にぶい黄橙 10YR-7/4	B	口縁～頸部 20%	外面：頸部横位沈線、ヘラミガキ 内面：口縁部から口縁端部 LRL 複節縄文	
2	弥生土器 壺	7.7	(4.8)	-	ABJM	黒褐 7.5YR-3/1	B	口縁～頸部 20%	外面：口縁端部 LR 単節縄文、頸部ヘラ描きによる平行沈線、ヘラミガキ	
3	弥生土器 壺	(9.4)	(6.1)	-	ABI	外面：灰褐 7.5YR-6/2 内面：灰黄褐 10YR-6/2	B	口縁～頸部 20%	外面：口縁端部・頸部 LR 単節縄文、ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	内外面赤彩
4	弥生土器 壺	(21.4)	(2.3)	-	AJM	橙 5YR-7/6	B	口縁部 5%	外面：口縁端部斜格子状沈線 内面：２段以上の櫛描波状文 (７本一単位)	複合口縁
5	弥生土器 壺	(10.4)	(3.8)	-	ABDGI	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	口縁部 5%	外面：口縁端部 LR 単節縄文 内面：ヘラナデ	
6	弥生土器 壺	-	(5.4)	-	ABGMN	明赤褐 2.5YR-5/6	B	頸部 5%	外面：頸部ヘラ描きによる平行沈線が巡る	
7	弥生土器 壺	(20.0)	(5.0)	-	ABDGHILN	橙 5YR-7/6	B	口縁～頸部 5%	外面：頸部ヘラミガキ	複合口縁
8	弥生土器 壺	-	(4.0)	-	AIM	にぶい橙 7.5YR-7/4	A	胴部上半片	外面：２段以上の櫛描波状文 (4 本一単位)	内外面赤彩 袋上口縁
9	弥生土器 壺	(16.6)	(4.8)	-	ABDHIN	外面：にぶい橙 2.5YR-6/4 内面：灰黄褐 10YR-5/2	B	口縁部片	内外面：ハケ目	折返し口縁
10	弥生土器 壺	-	(6.1)	-	ABDIM	外面：灰黄褐 10YR-5/2 内面：黒 10YR-2/1	A	胴部片	外面：摩耗のため調整痕不明 内面：指ナデ、指頭圧痕	注口土器
11	弥生土器 甕	(23.3)	(4.8)	-	ABM	外面：灰黄褐 10YR-4/2 内面：にぶい黄橙 10YR-6/3	B	口縁～頸部片	外面：口縁端部 RL 単節縄文、頸部櫛描簾状文 内面：ヘラナデ	
12	弥生土器 壺	(11.8)	(3.6)	-	ABDIK	外面：にぶい橙 7.5YR-7/3 内面：褐灰 10YR-6/1	B	口縁～頸部片	外面：口縁から頸部 LR 単節縄文、頸部太い平行沈線	
13	弥生土器 甕	(19.1)	(13.8)	-	BIM	灰白 10YR-8/2 灰白 10YR-8/1	A	口縁～胴部 40%	外面：口縁端部から胴部 LR 単節縄文、胴部コの字状重ね文に、６～８個の円形刺突を加えたボタン状貼付文 内面：ヘラナデ後ヘラミガキ	受口状口縁
14	弥生土器 甕	(20.4)	(5.0)	-	ABJLN	褐灰 5YR-4/1	B	口縁部片	外面：口縁端部薄いヘラ状工具で刻み、ハケ目を地文とし、頸部櫛描簾状文 内面：口縁部内側に折返し、ハケ目	
15	弥生土器 甕	(16.6)	(6.4)	-	ABJKM	黒褐 10YR-3/1	B	口縁～胴部上半 30%	外面：頸部櫛描簾状文 (8 本一単位)、胴部上半櫛描波状文 (6 本一単位・２段) 内面：ヘラナデ後ヘラミガキ	内外面スス付着
16	弥生土器 甕	(24.2)	(7.6)	-	ABIM	外面：にぶい褐 7.5YR-6/3 内面：にぶい黄褐 10YR-6/3	B	口縁～肩部片	外面：口縁端部 RL 単節縄文、頸部櫛描簾状文 (6 本一単位)、肩部縦位羽状文 内面：口縁部ハケ目、頸部以下ヘラナデ	
17	弥生土器 甕	(18.4)	(5.9)	-	ABI	灰黄褐 10YR-5/2	B	口縁～肩部片	外面：口縁端部 RL 単節縄文、頸部緩い波状文 (8 本一単位)、その下に櫛描縦位羽状文 内面：ヘラナデ	
18	弥生土器 甕	(15.5)	(5.9)	-	ABIJM	にぶい橙 7.5YR-6/4	B	口縁部片	外面：口縁端部ハケ目調整に使う工具で刻み、胴部ハケ目 内面：ハケ目後ヘラナデ	
19	弥生土器 甕	(12.6)	(5.2)	-	ABI	外面：にぶい黄橙 10YR-6/3 内面：浅黄橙 10YR-8/3	B	口縁～胴部上半片	外面：肩部櫛描簾状文 (2 本一単位) 内面：ヘラナデ	
20	弥生土器 小型甕	-	-	-	AJM	橙 5YR-6/6	B	口縁～胴部片	外面：口縁端部ヘラ状工具の刻み目、頸部・肩部櫛描簾状文 (6 本一単位)	
21	弥生土器 甕	-	-	-	ABIM	にぶい橙 7.5YR-6/4	B	口縁～頸部片	外面：口縁部櫛描波状文 (3 本一単位)、端部 LR 単節縄文、頸部櫛描簾状文	
22	弥生土器 甕	-	-	-	GIJMN	橙 5YR-7/6	B	口縁部片	外面：櫛描波状文、円形竹管による刺突を充填した鋸歯文	
23	弥生土器 甕	-	-	-	ABDIM	外面：褐灰 7.5YR-4/1 内面：黒褐 7.5YR-3/1	B	口縁部片	外面：口縁端部 RL 単節縄文、ヘラ状工具による山形文	受口状口縁
24	弥生土器 壺	-	-	-	ABDIM	灰褐 7.5YR-6/2	B	口縁部片	外面：口縁部櫛描波状文 (4 本一単位)	
25	弥生土器 甕	-	-	-	AB	外面：にぶい黄橙 10YR-7/2 内面：灰黄 2.5Y-7/2	B	口縁部片	外面：口縁部・端部 LR 単節縄文	
26	弥生土器 甕	-	-	-	ABDIM	にぶい赤褐 5YR-5/4	B	口縁部片	外面：頸部櫛描簾状文	
27	弥生土器 甕	-	-	-	ABI	外面：灰黄褐 10YR-6/2 内面：褐灰 10YR-4/1	B	口縁部片	外面：口縁端部 LR 単節縄文、口縁部 LR 単節縄文地に櫛描波状文 (2 本一単位)	
28	弥生土器 甕	-	-	-	ABI	外面：灰黄褐 10YR-5/2 内面：にぶい褐 7.5YR-6/3	B	口縁～肩部片	外面：口縁端部 LR 単節縄文、胴部 LR 単節縄文地にコの字重ね文、文様間の頂点に円形刺突されたボタン状貼付文が付く 内面：ヘラミガキ	
29	弥生土器 甕	-	-	-	AJMN	外面：橙 5YR-7/8 内面：にぶい橙 7.5YR-6/4	B	口縁部片	外面：櫛描波状文、円形竹管による刺突文	
30	弥生土器 壺	-	-	-	ABDI	外面：にぶい黄褐 10YR-6/3 内面：にぶい黄褐 10YR-5/3	B	胴部片	外面：櫛描沈線 内面：ヘラナデ	
31	弥生土器 壺	-	-	-	ABDIM	外面：灰褐 7.5YR-5/2 内面：灰褐 7.5YR-6/2	B	口縁部片	外面：口縁端部に振り幅の小さい櫛描波状文、頸部平行沈線、櫛描波状文 内面：ヘラナデ	折返し口縁

第 13 表　第４号方形周溝墓出土遺物観察表(2)（第 46 ～ 52 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
32	弥生土器 壺	-	-	-	ABIM	外面：赤褐 10R-4/4 内面：赤褐 10R-5/4	B	口縁部片	外面：口縁端部 LR 単節縄文、ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	内外面赤彩 折返し口縁
33	弥生土器 壺	-	-	-	ABDHIM	橙 5YR-7/6	B	口縁部片	内外面：摩耗顕著で調整痕不明	複合口縁
34	弥生土器 壺	-	-	-	ABDIM	外面：にぶい橙 7.5YR-7/4 内面：にぶい褐 7.5YR-6/3	B	口縁部片	外面：口縁端部薄いヘラ状工具による刻み	折返し口縁
35	弥生土器 甕	-	-	-	ADHJMN	橙 5YR-7/6	B	口縁部片	外面：肥厚した口縁部指頭圧痕	折返し口縁
36	弥生土器 壺	-	-	-	AM	外面：にぶい赤褐 5YR-5/4 内面：にぶい橙 5YR-6/4	B	口縁部片	外面：口縁部指頭圧痕	外面赤彩 折返し口縁
37	弥生土器 甕	-	-	-	ABM	外面：にぶい黄褐 10YR-4/3 内面：にぶい黄褐 10YR-7/4	B	口縁部 20%	口縁端部刻み、頸部櫛描簾状文	
38	弥生土器 甕	-	-	-	ABDIJM	外面：黒褐 10YR-3/1 内面：灰褐 7.5YR-5/2	B	口縁部片	外面：ハケ目、口縁端部深く爪形も残るフレア状の指頭圧痕	
39	弥生土器 甕	-	-	-	ABIM	褐灰 10YR-4/1	B	口縁部片	内外面：ハケ目	
40	弥生土器 壺	-	-	-	ABIM	にぶい橙 7.5YR-6/4	B	胴部上半片	外面：直線及び曲線の沈線を施し、曲線区画内に LR 単節縄文を充填する	
41	弥生土器 壺	-	-	-	AIMN	外面：褐灰 10YR-4/1 内面：灰黄褐 10YR-6/2	B	胴部 10%	垂下する舌状文をヘラ描きし、その中を RL 単節縄文で充填	
42	弥生土器 壺	-	-	-	ABI	外面：にぶい黄橙 10YR-7/3 内面：暗灰 N-3/	B	胴部片	外面：ヘラ描き沈線文、LR 単節縄文	
43	弥生土器 壺	-	-	-	ABDHIM	外面：赤 10R-4/6 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	B	胴部片	外面：中位円形刺突の列点文が巡り、上半櫛描沈線 内面：輪積痕明瞭	外面赤彩
44	弥生土器 壺	-	-	-	ABIJM	外面：褐灰 10YR-4/1 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	B	胴部片	外面：RL 単節縄文、沈線の鋸歯文状区画内を磨消し	
45	弥生土器 壺	-	-	-	ABDEHI	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	胴部上半片	外面：LR 単節縄文	外面赤彩
46	弥生土器 壺	-	-	-	ABDJM	外面：灰褐 7.5YR-4/2 内面：灰褐 7.5YR-5/2	B	胴部片	外面：ヘラ描きによる太い沈線と LR 単節縄文	
47	弥生土器 壺	-	-	-	IM	外面：赤 10R-5/8 内面：黒 7.5YR-2/1	B	胴部片	外面：ヘラ描沈線の区画内に円形刺突文	外面赤彩
48	弥生土器 壺	-	-	-	ABIJ	外面：褐灰 7.5YR-5/1 内面：にぶい褐 7.5YR-6/3	B	胴部片	外面：太い沈線	
49	弥生土器 壺	-	-	-	ABDJM	外面：にぶい橙 7.5YR-6/4 内面：にぶい橙 7.5YR-7/4	B	頸部～肩部片	外面：櫛描簾状文、波状文	
50	弥生土器 甕	-	-	-	ABGHIJ	外面：にぶい橙 7.5YR-7/3 内面：赤褐 2.5YR-4/6	B	頸部片	外面：ハケ目後、櫛描簾状文、振り幅の小さな櫛描波状文 内面：ミガキ	内面赤彩
51	弥生土器 甕	-	-	-	ABDIM	にぶい橙 5YR-7/4	B	頸部片	外面：櫛描波状文、簾状文 (8 本一単位)	
52	弥生土器 甕	-	-	-	AJM	黒褐 10YR-3/2	B	胴部片	外面：櫛歯が幅広な櫛描波状文	
53	弥生土器 甕	-	-	-	ABIJM	にぶい橙 5YR-6/4	B	頸部片	外面：櫛描簾状文 (8 本一単位)、波状文	
54	弥生土器 壺	-	-	-	ABIM	外面：にぶい黄橙 10YR-7/3 内面：浅黄橙 7.5YR-8/4	B	胴部片	外面：3 段の櫛描波状文 (8 本一単位)、その上下に横位直線文	
55	弥生土器 甕	-	-	-	AEIJM	外面：黒褐 10YR-3/2 内面：黒褐 10YR-3/1	B	胴部片	外面：櫛描簾状文、縦位羽状文	
56	弥生土器 甕	-	-	-	ABI	外面：にぶい橙 7.5YR-7/4 内面：にぶい橙 7.5YR-6/4	B	頸部片	外面：2 段以上の櫛描簾状文 (6 本一単位)、縦位羽状文	
57	弥生土器 甕	-	-	-	ABIM	褐灰 7.5YR-4/2	B	胴部上半片	外面：櫛描簾状文、波状文	
58	弥生土器 甕	-	-	-	ABDJM	にぶい黄橙 10YR-7/2	B	頸部片	外面：２段以上の櫛描波状文	
59	弥生土器 甕	-	-	-	BIJM	外面：にぶい黄褐 10YR-4/3 内面：黒 10YR-2/1	B	胴部片	外面：櫛描波状文	
60	弥生土器 甕	-	-	-	AIJMN	外面：灰褐 7.5YR-4/2 内面：にぶい橙 7.5YR-7/4	B	胴部片	外面：ハケ目後２段以上の櫛描波状文	
61	弥生土器 甕	-	-	-	AIJM	灰黄褐 10YR-6/2	B	胴部片	外面：ハケ目後振り幅の小さな櫛描波状文	
62	弥生土器 甕	-	-	-	IM	外面：灰黄褐 10YR-4/2 内面：にぶい黄橙 10YR-5/3	B	胴部片	外面：コの字状重ね文に円形刺突 6 個のボタン状貼付文	
63	弥生土器 壺	-	-	-	AHIN	外面：にぶい黄橙 10YR-6/3 内面：褐灰 10YR-4/1	B	胴部片	外面：2 段以上の櫛描波状文 (5 本一単位)	
64	弥生土器 甕	-	-	-	AIM	外面：にぶい橙 5YR-7/4 内面：橙 5YR-6/6	B	頸部片	外面：縦位ヘラ描鋸歯文に円形刺突 10 個のボタン状貼付文	
65	弥生土器 壺	-	-	-	ABJM	外面：にぶい黄橙 10YR-6/3 内面：にぶい橙 7.5YR-7/3	B	胴部片	外面：櫛描波状文 (4 本一単位) に円形刺突のボタン状貼付文	
66	弥生土器 甕	-	-	-	ABI	外面：にぶい褐 7.5YR-5/3 内面：にぶい黄橙 10YR-7/3	B	胴部片	外面：ヘラ描重四角文	
67	弥生土器 甕	-	-	-	ABM	外面：にぶい橙 7.5YR-7/4 内面：浅黄橙 7.5YR-8/3	B	胴部片	外面：櫛描重四角文	

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
68	弥生土器 甕	-	-	-	ABI	外面：にぶい赤褐 5YR-4/3 内面：灰黄褐 10YR-5/2	B	胴部上半片	外面：櫛描縦位羽状文	
69	弥生土器 甕	-	-	-	AM	外面：明赤褐 2.5YR-5/6 内面：褐灰 10YR-4/1	B	胴部片	外面：ヘラ描沈線による斜格子文	
70	弥生土器 壺	-	-	-	AB	外面：灰黄褐 10YR-6/2 内面：浅黄橙 10YR-8/3	B	胴部上半片	外面：コの字状重ね文に円形刺突 6 個のボタン状貼付文	
71	弥生土器 甕	-	-	-	ABILM	外面：黒 N-2/ 内面：橙 5YR-6/6	B	胴部片	外面：櫛描縦位羽状文	
72	弥生土器 甕	-	-	-	ABIK	褐灰 7.5YR-4/1	B	胴部片	外面：櫛描縦位羽状文	
73	弥生土器 甕	-	-	-	ABI	外面：黒褐 7.5YR-3/1 内面：にぶい黄橙 10YR-6/3	B	胴部片	外面：櫛描縦位羽状文	
74	弥生土器 甕	-	-	-	AJM	外面：灰褐 7.5YR-4/2 内面：灰黄褐 10YR-4/2	B	胴部片	外面：櫛描縦位羽状文	
75	弥生土器 甕	-	-	-	ABIJM	にぶい褐 7.5YR-5/3	B	胴部下半片	外面：櫛描縦位羽状文	
76	弥生土器 甕	-	-	-	ABIJM	外面：黒褐 10YR-3/1 内面：灰黄褐 10YR-6/2	B	胴部片	外面：櫛描斜格子文	
77	弥生土器 甕	-	-	-	BILM	外面：黒褐 5YR-2/1 内面：灰黄褐 10YR-6/2	B	胴部下位片	外面：垂下する櫛描沈線	
78	弥生土器 甕	-	-	-	ABIJ	外面：にぶい黄橙 10YR-6/3 内面：褐灰 10YR-4/1	B	頸部～胴部上半片	外面：櫛描簾状文 (3 本一単位)、縦位羽状文	
79	弥生土器 甕	-	-	-	ABM	橙 5YR-6/6	B	胴部片	外面：櫛描横位条線、縦位羽状文	
80	弥生土器 壺	-	-	-	AIJM	にぶい黄橙 10YR-7/2	B	胴部片	外面：10 条の平行沈線帯の上下に LR 単節縄文帯	
81	弥生土器 甕	-	-	-	ABIM	外面：黒褐 5YR-3/1 内面：橙 5YR-6/6	B	胴部片	外面：櫛描縦位羽状文	
82	弥生土器 壺	-	(3.0)	(6.4)	ABGHILN	外面：黒 10YR-2/1 内面：黄灰 2.5YR-6/1	B	胴部下半～底部片	外面：胴部下半ヘラミガキ、底部木葉痕 内面：ハケ目	
83	弥生土器 壺	-	(4.9)	8.4	ABDIJMN	外面：黒 5Y-2/1 内面：灰黄 2.5Y-7/2	B	胴部下半～底部 90%	外面：LR 単節縄文施文後ミガキ 内面：ハケ目	
84	弥生土器 壺	-	(3.1)	7.2	AGIMN	浅黄橙 10YR-8/3	A	胴部下半～底部片	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	
85	弥生土器 壺	-	(2.3)	(8.4)	AHIM	外面：黒褐 10YR-3/1 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	B	底部 40%	内外面：摩耗顕著で調整痕不明	
86	弥生土器 壺	-	(3.0)	(10.0)	ABMN	外面：にぶい橙 5YR-7/4 内面：灰白 10YR-7/1	B	底部 10%	外面：ヘラミガキ、下端ヘラケズリ	
87	弥生土器 壺	-	(1.7)	(4.4)	ABEIL	外面：赤 10R-4/6 内面：浅黄橙 10YR-8/3	B	底部片	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	外面赤彩
88	弥生土器 甕	-	(2.6)	(6.4)	ABI	外面：にぶい黄橙 10YR-7/3 内面：褐灰 10YR-5/1	B	底部片	外面：ヘラナデ後ミガキ 内面：ヘラナデ	
89	弥生土器 甕	-	(2.9)	6.8	ABJM	外面：にぶい黄橙 10YR-6/3 内面：明赤褐 5YR-5/6	B	底部 100%	外面：ヘラミガキ、指頭圧痕 内面：ヘラナデ	
90	弥生土器 甕	-	(6.4)	8.0	ABM	浅黄橙 10YR-8/3	B	底部 100%	外面：ハケ目、下端指頭圧痕 内面：ハケ目	
91	弥生土器 甕	-	(3.5)	6.5	ABI	外面：灰黄褐 10YR-5/2 内面：灰黄褐 10YR-6/2	B	底部片	外面：底部上げ底状、ヘラナデ後ミガキ 内面：ヘラナデ、指頭圧痕	
92	弥生土器 甕	-	(2.0)	(7.8)	ABKM	外面：浅黄橙 10YR-8/3 内面：黒褐 10YR-3/1	B	底部 50%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
93	弥生土器 甕	-	(2.9)	7.0	ABKM	外面：灰黄褐 10YR-5/2 内面：黄灰 2.5Y-5/1	B	底部 100%	外面：ヘラミガキ、下端指頭圧痕 内面：指頭圧痕	
94	弥生土器 甕	-	(1.4)	(7.0)	ABDIM	外面：浅黄橙 7.5YR-8/3 内面：灰白 10YR-8/2	B	底部 100%	外面：下端指頭圧痕	
95	弥生土器 甕	-	(2.4)	6.9	ABDIJMN	にぶい赤褐 5YR-5/4	B	底部 10%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
96	弥生土器 台付甕	-	(5.6)	-		外面：灰褐 7.5YR-5/2 内面：黒褐 10YR-3/1	B	胴部下半～接合部片	外面：ハケ目 内面：ハケ目後ヘラナデ	内外面スス付着 接合部は胴部の臍を脚部に嵌め込むタイプ
97	弥生土器 鉢	(21.0)	(3.3)	-	ABHL	外面：浅黄橙 7.5YR-8/4 内面：浅黄橙 7.5YR-8/3	B	口縁部片	外面：内湾気味に立ち上がる口縁端部綾杉沈線文	
98	弥生土器 高坏	(19.3)	(4.5)	-	ABI	明赤褐 2.5YR-5/6	B	坏部片	外面：ヘラミガキ 内面：端部稜をもつ、ヘラミガキ	内外面赤彩
99	弥生土器 高坏	-	(5.1)	-	AEIM	外面：赤橙 10R-6/6 内面：黒褐 5YR-2/1 にぶい黄橙 10YR-7/3	B	接合部片	外面：ヘラミガキ 内面：坏部ヘラミガキ、脚部ヘラナデ	外面・坏部内面赤彩
100	弥生土器 高坏	-	(4.7)	-	AGJM	外面：赤 10R-5/8 内面：浅黄橙 7.5YR-8/3	B	接合部～脚部片	外面：ヘラミガキ 内面：脚部ヘラナデ	外面赤彩 坏部の臍が残存
101	弥生土器 高坏	-	(3.4)	-	ABMN	外面：赤褐 10R-4/4 内面：にぶい橙 7.5YR-7/3	B	接合部片	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	外面赤彩 坏部の臍が突出
102	弥生土器 高坏	-	(4.6)	-	ABIM	外面：灰黄褐 10YR-5/2 内面：高坏暗灰 N-3/ 脚部にぶい黄橙 10YR-7/3	B	接合部片	外面：ハケ目後ミガキ 内面：坏部ヘラミガキ、脚部ハケ目、指頭圧痕	
103	土師器 壺	(14.4)	(5.4)	-	DGIM	浅黄橙 7.5YR-8/3	A	口縁～肩部 30%	内外面：ヘラミガキ	内外面赤彩

第 13 表　第４号方形周溝墓出土遺物観察表(3)（第 46 ～ 52 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
104	土師器 壺	-	(7.6)	-	ABDIM	外面：にぶい赤 7.5R-4/4 内面：浅黄橙 10YR-8/3	B	胴部片	外面：上半ヘラミガキ、下半ハケ目 内面：ヘラナデ	外面赤彩
105	土師器 壺	12.3	21.1	(5.0)	AGIJ	黒褐 7.5YR-3/1	B	70%	内外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	
106	土師器 壺	-	(19.8)	7.6	ABDIMN	外面：灰褐 7.5YR-4/2 内面：にぶい橙 7.5YR-7/3	B	胴部～底部 60%	外面：ヘラナデ後ヘラミガキ 内面：ヘラナデ、指頭圧痕	
107	土師器 小型壺	-	(4.9)	-	ABIKM	外面：にぶい橙 5YR-6/4 内面：にぶい橙 7.5YR-7/4	B	胴部 20%	内外面：摩耗顕著で調整痕不明	
108	土師器 壺	-	(8.7)	-	ABJM	外面：浅黄橙 7.5YR-8/4 内面：灰褐 7.5YR-5/2	B	胴部 50%	外面：ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	
109	土師器 壺	(14.0)	25.8	(6.8)	ABIMN	外面：浅黄橙 7.5YR-8/4 内面：褐灰 7.5YR-6/1	B	80%	外面：ハケ目後ヘラミガキ 内面：ハケ目後ヘラナデ	
110	土師器 壺	-	(5.8)	-	ABDIM	外面：赤 10R-4/8 内面：灰黄褐 10YR-5/2	B	胴部 25%	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ後指頭圧痕	外面赤彩
111	土師器 壺	14.2	(14.9)	-	ABDJMN	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	口縁～胴部上半 40%	外面：ハケ目 内面：口縁部ハケ目、胴部ヘラナデ、指頭圧痕	
112	土師器 壺	(23.4)	(8.4)	-	ABGIMN	浅黄橙 7.5YR-8/4 内面：褐灰 10YR-6/1 が多い	A	口縁～肩部 50%	外面：頸部ヘラミガキ、頸部・肩部の境に巡る突帯に櫛歯状工具での連続押捺の刻み 内面：口縁部ヘラミガキ、頸部ヘラナデ、肩部指頭圧痕	外面赤彩 有段口縁加飾壺
113	土師器 壺	-	(4.1)	-	GIM	外面：浅黄橙 10YR-8/3 内面：灰白 10YR-8/2	A	頸部～肩部片	外面：頸部ヘラミガキ、突帯部は矢羽根状の櫛描沈線、肩部は３段以上の櫛描横位沈線 内面：頸部ヘラミガキ、肩部ハケ目後指頭圧痕、ヘラナデ	加飾壺
114	土師器 甕	26.6	(10.0)	-	ABIMN	外面：灰褐 7.5YR-4/2 内面：にぶい橙 7.5YR-7/3	B	口縁～肩部 30%	内外面：ハケ目	
115	土師器 甕	17.0	(10.1)	-	ABIM	外面：にぶい橙 5YR-7/4 内面：淡橙 5YR-8/3	B	口縁～胴部上半 30%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
116	土師器 小型甕	(8.8)	(5.5)	-	DGI	灰白 10YR-8/1	A	口縁～胴部上半 20%	外面：縦位ハケ目後肩部のみ横位ハケ目 内面：ヘラナデ、指頭圧痕	
117	土師器 甕	(16.3)	(6.2)	-	AGIM	外面：灰白 10YR-8/2 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	A	口縁～胴部上半 20%	外面：ハケ目 内面：口縁部ハケ目後胴部ヘラナデ	
118	土師器 甕	(15.0)	(8.3)	-	ABJMN	外面：黒褐 10YR-2/3 内面：橙 7.5YR-6/6	B	口縁～胴部上半 30%	外面：ハケ目 内面：口縁部ハケ目後胴部ヘラナデ	内外面スス付着
119	土師器 甕	(15.0)	(4.5)	-	ABIM	にぶい褐 7.5YR-6/3	B	口縁～肩部 30%	外面：ハケ目 内面：口縁部ハケ目後胴部ヘラナデ	
120	土師器 甕	(16.8)	(4.5)	-	ABDIMN	外面：にぶい赤褐 5YR-4/4 内面：橙 5YR-6/6	B	口縁部 25%	内外面：ハケ目	
121	土師器 甕	(19.1)	(4.1)	-	ABEIM	外面：灰褐 7.5YR-5/2 内面：にぶい橙 7.5YR-7/3	B	口縁～肩部 10%	外面：ハケ目 内面：口縁部ハケ目後胴部ヘラナデ	
122	土師器 甕	(20.2)	(6.0)	-	ABDIJM	外面：にぶい黄褐 10YR-5/3 内面：にぶい赤褐 5YR-5/4	B	口縁～肩部片	外面：ハケ目 内面：ハケ目後口縁部ヘラミガキ	
123	土師器 台付甕	-	(9.8)	-	ABIM	外面：にぶい褐 7.5YR-5/4 内面：橙 5YR-6/6	B	40%	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
124	土師器 台付甕	-	(12.0)	9.5	ABEIMN	外面：にぶい橙 7.5YR-6/4 内面：灰褐 7.5YR-4/2	B	胴部中位～脚部 30%	外面：ハケ目 内面：胴部細かいハケ目と粗いハケ目の２種を使い分け	
125	土師器 台付甕	(14.0)	(24.1)	(8.9)	ABDIJMN	にぶい橙 5YR-6/4	B	70%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ、指頭圧痕	
126	土師器 台付甕	18.2	(22.9)	-	ABIMN	外面：灰褐 7.5YR-4/2 内面：にぶい橙 7.5YR-7/3	B	70%	外面：縦位ハケ目後胴部上半横位ハケ目 内面：ハケ目	外面部分的スス付着
127	土師器 台付甕	14.6	(17.5)	-	ABDJMN	外面：灰褐 7.5YR-4/2 内面：にぶい橙 5YR-7/4	B	60%	外面：ハケ目後指・ヘラでナデ 内面：口縁部ハケ目、胴部ヘラナデ	外面スス付着
128	土師器 台付甕	17.0	26.5	8.5	ABIM	外面：灰褐 7.5YR-4/2 内面：にぶい橙 7.5YR-7/3	B	70%	外面：胴部上半ハケ目、それ以下ヘラナデ 内面：ヘラナデ	外面スス付着
129	土師器 台付甕	15.1	23.4	8.2	ABMN	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	70%	外面：ハケ目 内面：口縁部ヘラナデ、胴部・脚部ヘラナデ	
130	土師器 台付甕	18.0	(18.7)	-	ABDIMN	外面：灰褐 7.5YR-4/2 内面：褐 7.5YR-4/3	B	50%	外面：口縁部細かいハケ目、胴部粗いハケ目 内面：頸部指頭圧痕、胴部ヘラナデ	
131	土師器 甕	15.0	(11.9)	-	ABIM	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	40%	外面：ハケ目 内面：口縁部ハケ目、胴部ヘラナデ	
132	土師器 台付甕	24.0	(17.8)	-	ABDIMN	外面：灰褐 7.5YR-4/2 内面：にぶい橙 7.5YR-7/4	B	口縁～胴部中位 40%	内外面：ハケ目	
133	土師器 台付甕	-	(28.9)	9.5	ABIMN	外面：橙 5YR-6/6 内面：灰褐 5YR-4/2	B	60%	外面：ヘケ目 内面：胴部ハケ目、脚部ハケ目後ヘラナデ	
134	土師器 台付甕	20.4	36.8	9.2	ABIMN	外面：黒褐 7.5YR-3/2 内面：にぶい橙 7.5YR-6/4	B	80%	内外面：ハケ目	
135	土師器 甕	-	(7.4)	-	DGIM	にぶい黄橙 10YR-7/3	A	胴上部片	外面：タタキ整形でタタキ目は右上り 内面：ヘラナデ	庄内式末期の小型化した甕
136	土師器 台付甕	(11.2)	(3.3)	-	AJM	にぶい橙 7.5YR-7/4	A	口縁部 10%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	S 字口縁
137	土師器 台付甕	(15.6)	(4.1)	-	ABDI	にぶい黄橙 10YR-7/3	B	口縁部 20%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	S 字口縁

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
138	土師器 台付甕	(14.8)	(3.1)	-	ABJM	外面：にぶい黄橙 10YR-6/3 内面：にぶい黄橙 10YR-7/3	B	口縁部 20%	外面：ハケ目 内面：肩部横位ヘラナデ	S 字受口状口縁
139	土師器 台付甕	(13.1)	(4.1)	-	ABIM	外面：にぶい黄橙 10YR-7/4 内面：にぶい黄橙 10YR-6/4	B	口縁部 20%	外面：斜位ハケ目	S 字口縁
140	土師器 台付甕	(22.2)	(2.3)	-	ABIKM	外面：にぶい橙 7.5YR-7/3 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	B	口縁部片	外面：ハケ目	S 字口縁
141	土師器 台付甕	(18.8)	(2.5)	-	ABIJKM	外面：にぶい黄褐 10YR-5/3 内面：淡黄 2.5Y-8/2	B	口縁部 20%	外面：ハケ目	S 字口縁
142	土師器 台付甕	(15.0)	(3.9)	-	ADJM	外面：灰白 7.5YR-8/2 内面：明褐灰 7.5YR-7/2	A	口縁部 15%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	S 字口縁
143	土師器 台付甕	(15.8)	(5.2)	-	ADIM	灰白 7.5YR-8/2	A	口縁～肩部 20%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ、指頭圧痕	S 字口縁
144	土師器 台付甕	(18.0)	(3.0)	-	ABHIJM	外面：にぶい黄褐 10YR-5/3 内面：黒褐 10YR-3/1	B	10%	外面：ハケ目 内面：摩耗顕著で調整痕不明	S 字口縁
145	土師器 台付甕	(15.2)	(5.0)	-	ABDIM	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	口縁部 25%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	S 字口縁
146	土師器 甕	-	-	-	ABIM	外面：黒褐 10YR-3/2 内面：にぶい橙 7.5YR-7/4	B	胴部片	内外面：ハケ目	
147	土師器 甕	-	-	-	ABEGHIK	橙 5YR-7/6	B	胴部片	内外面：ハケ目	
148	土師器 壺	-	-	-	ABIM	にぶい黄橙 10YR-7/3	B	胴部片	外面：細かいハケ目 内面：ヘラナデ	外面赤彩
149	土師器 甕	-	-	-	ABHI	外面：黒褐 10YR-3/2 内面：灰黄褐 10YR-5/2	B	胴部上半片	内外面：ハケ目	
150	土師器 甕	-	-	-	AM	灰褐 7.5YR-4/2	B	胴部片	外面：縦・斜位ハケ目 内面：横位ヘラナデ	
151	土師器 甕	-	-	-	BIM	外面：にぶい黄橙 10YR-6/4 内面：黄灰 2.5Y-5/1	B	胴部片	外面：斜・横位ハケ目	
152	土師器 甕	-	-	-	ABDIN	にぶい褐 7.5YR-5/3	B	胴部片	内外面：ハケ目	
153	土師器 甕	-	-	-	AIJM	外面：にぶい赤褐 5YR-5/4 内面：黒褐 7.5YR-3/1	B	肩部片	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
154	土師器 甕	-	-	-	ABHJM	外面：灰黄褐 10YR-4/2 内面：にぶい黄橙 10YR-6/3	B	胴部下半片	内外面：ハケ目	
155	土師器 壺	-	(4.3)	(11.4)	ABDMN	外面：灰白 7.5YR-8/2 内面：浅黄橙 7.5YR-8/4	B	底部 10%	外面：ヘラケズリ後、指押えによる指頭圧痕 内面：ヘラナデ	
156	土師器 甕	-	(4.7)	(11.0)	ABMN	橙 5YR-7/6	B	底部 10%	外面：摩耗のため調整痕不明 内面：指頭圧痕	
157	土師器 台付甕	-	(5.2)	-	ABDIM	外面：灰褐 7.5YR-5/2 内面：にぶい橙 7.5YR-7/4	B	胴部下半片	外面：摩耗のため調整痕不明 内面：ヘラナデ	
158	土師器 台付甕	-	(4.2)	8.1	BDEJMN	外面：にぶい橙 5YR-6/4 内面：橙 5YR-6/6	B	脚部 10%	甕底部との噛み合わせのため、接合部に断面Ｖ字形の刻み 外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
159	土師器 台付甕	-	(3.8)	-	AGH	外面：にぶい橙 5YR-7/4 内面：底部褐灰 10YR-4/1 脚部明褐灰 7.5YR-7/2	A	脚部 20%	外面：ハケ目 内面：甕底部ハケ目、脚部ヘラナデ	
160	土師器 台付甕	-	(3.8)	-	ABIMN	外面：灰黄褐 10YR-6/2 内面：黒褐 10YR-3/1	B	接合部片	外面：ハケ目 内面：甕底部・脚部ヘラナデ	
161	土師器 台付甕	-	(3.4)	-	AJM	灰白 7.5YR-8/2	A	脚部 10%	外面：ハケ目 内面：甕底部ハケ目、脚部ヘラナデ	
162	土師器 台付甕	-	(3.3)	-	ABHIJMN	外面：明赤褐 2.5YR-5/6 内面：にぶい橙 2.5YR-6/4 脚部内面：暗赤灰 2.5YR-3/1	B	接合部片	外面：摩耗顕著で調整痕不明 内面：ヘラナデ	
163	土師器 台付甕	-	(3.5)	-	AIMN	外面：にぶい橙 7.5YR-6/4 内面：にぶい黄橙 10YR-6/3	B	脚部片	外面：摩耗のため調整痕不明 内面：ヘラナデ	
164	土師器 台付甕	-	(3.5)	-	ABJMN	外面：明赤褐 5YR-5/6 内面：橙 5YR-6/6	B	脚部片	外面：摩耗のため調整痕不明 内面：脚部ヘラナデ	
165	土師器 台付甕	-	(5.6)	-	BIMN	外面：にぶい黄褐 10YR-5/3 内面：にぶい橙 7.5YR-7/3	B	接合部片	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
166	土師器 台付甕	-	(6.4)	-	BGHIM	灰白 7.5YR-8/2	A	脚部 60%	外面：ハケ目 内面：脚部ヘラナデ	
167	土師器 台付甕	-	(5.3)	-	ABHJMN	外面：にぶい黄橙 10YR-6/3 内面：灰褐 7.5YR-6/2	B	接合部片	内外面：ハケ目	
168	土師器 台付甕	-	(6.1)	-	ABDHIJM	橙 2.5YR-6/6	B	脚部片	内外面：ハケ目	
169	土師器 台付甕	-	(5.2)	-	ABDIM	外面：明赤褐 2.5YR-5/6 内面：黒褐 7.5YR-3/1	B	接合部 50%	外面：摩耗のため調整痕不明 内面：脚部ヘラナデ	
170	土師器 台付甕	-	(7.0)	-	ABDIM	橙 2.5YR-6/8	B	接合部～脚部 50%	外面：ハケ目 内面：甕底部・脚部ヘラナデ、指頭圧痕	
171	土師器 台付甕	-	(6.2)	8.5	ABIJM	にぶい黄橙 10YR-6/3	B	脚部片	外面：ハケ目 内面：脚部ヘラナデ、指頭圧痕	
172	土師器 台付甕	-	(5.5)	(8.2)	ABIKM	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	脚部 60%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
173	土師器 台付甕	-	(5.2)	8.4	GIM	にぶい黄橙 10YR-7/3	A	脚部 100%	脚部：摩耗のため調整痕不明 内面：ヘラナデ	脚部内面にイネ籾圧痕

第 13 表　第４号方形周溝墓出土遺物観察表(4)（第 46 ～ 52 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
174	土師器 台付甕	-	(6.9)	8.8	ABDIM	橙 5YR-6/8	B	接合部～脚部 80%	外面：ハケ目 内面：甕底部・脚部ハケ目	
175	土師器 台付甕	-	(6.0)	(8.9)	ABIMN	橙 5YR-6/6	B	胴部下端～脚部片	外面：ハケ目 内面：甕底部ハケ目、脚部ヘラナデ	
176	土師器 台付甕	-	(7.5)	7.5	ABIMN	にぶい褐 7.5YR-5/4 明赤褐 5YR-5/8	B	胴部下端～脚部片	外面：ハケ目 内面：甕底部・脚部ヘラナデ	
177	土師器 台付甕	-	(6.5)	(9.0)	ABDIM	明赤褐 2.5YR-5/8	B	接合部～脚部 60%	外面：ハケ目 内面：甕底部ヘラナデ、脚部ヘラナデ、ハケ目	
178	土師器 台付甕	-	(4.2)	(8.0)	BJMN	外面：にぶい橙 5YR-7/4 内面：にぶい橙 7.5YR-6/4	B	脚部片	外面：摩耗のため調整痕不明 内面：脚部ハケ目	
179	土師器 台付甕	-	(2.9)	(8.4)	ABIKL	外面：褐灰 10YR-4/1 内面：にぶい褐 7.5YR-5/4	B	脚部 30%	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
180	土師器 甑	-	(3.4)	(3.1)	ABDIM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	坏部 10%	単孔式 外面：細かい横位ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
181	土師器 甑	-	(3.2)	(4.6)	ABDIJ	にぶい褐 7.5YR-6/3	B	底部片	単孔式 外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
182	土師器 甑	-	(6.0)	(9.9)	ABIM	外面：灰褐 7.5YR-6/2 内面：灰褐 7.5YR-4/2	B	胴部下半～底部片	単孔式 外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	流れ込みか
183	土師器 鉢	-	(7.2)	4.0	ABHIM	にぶい黄橙 10YR-7/2	B	胴部～底部 60%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
184	土師器 小型鉢	(7.4)	(3.2)	-	ABIJM	にぶい黄橙 10YR-7/3	B	口縁～胴部 10%	外面：ハケ目後ヘラケズリ 内面：ミガキ	
185	土師器 小型鉢	-	(3.2)	-	BDM	外面：浅黄橙 7.5YR-8/3 内面：褐灰 7.5YR-5/1	B	頸部～胴部片	内外面：摩耗顕著で調整痕不明	
186	土師器 鉢	(10.4)	(4.2)	-	ABI	にぶい黄褐 10YR-5/3	B	口縁～胴部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
187	土師器 坏	(12.0)	(3.6)	-	AEGJM	にぶい赤褐 5YR-5/4 外面：体部黒 5Y-2/1	A	20%	外面：底部手持ちヘラケズリ、直線的に開く	流れ込みか 有段口縁
188	土師器 高坏	-	(3.2)	-	ABDIJM	外面：橙 2.5YR-6/6 内面：橙 5YR-7/6	B	坏部片	内外面：ヘラミガキ	
189	土師器 鉢	-	(3.0)	-	ABHI	にぶい褐 7.5YR-6/3	B	30%	外面：摩耗顕著で調整痕不明 内面：ヘラミガキ	内面にイネ籾圧痕
190	土師器 高坏	-	(5.0)	-	DGIM	浅黄橙 10YR-8/3	A	接合部～脚部上半 60%	外面：ハケ目後ヘラミガキ 内面：坏部ミガキ、脚部ヘラナデ、指頭圧痕	
191	土師器 高坏	-	(5.2)	(6.9)	ABIM	橙 2.5YR-6/6	B	接合部～脚部片	外面：ヘラミガキ 内面：坏部ミガキ、脚部ヘラナデ	
192	土師器 高坏	-	(4.0)	-	ABHIJMN	橙 2.5YR-6/6	B	脚部片	外面：摩耗のため調整痕不明 内面：脚部ヘラナデ	脚部 3 ヶ所の円形透し
193	土師器 高坏	-	(8.3)	(12.5)	ABDGIMN	にぶい橙 7.5YR-7/4 浅黄橙 7.5YR-8/3	A	接合部～脚部 70%	外面：ハケ目 内面：脚部ヘラナデ	脚部 3 ヶ所の円形透し
194	土師器 高坏	-	(4.9)	-	ABGHIM	明赤褐 2.5YR-5/8	B	坏部下半～脚部上半片	外面：摩耗のため調整痕不明 内面：坏部ヘラミガキ、脚部ヘラナデ	脚部 3 ヶ所の円形透し
195	土師器 高坏	-	(4.2)	-	ABI	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	脚部片	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	脚部 4 ヶ所の円形透し
196	土師器 高坏	-	(6.3)	-	ABDHI	外面：浅黄橙 10YR-8/4 内面：にぶい黄橙 10YR-7/3	B	接合部～脚部上半片	外面：ハケ目後ヘラミガキ 内面：ハケ目後ヘラナデ	脚部 3 ヶ所の円形透し
197	土師器 高坏	-	(7.2)	13.3	ABEK	浅黄橙 10YR-8/3	B	脚部 100%	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	
198	土師器 高坏	-	(4.6)	-	ABIM	外面：暗赤褐 5YR-5/6 内面：橙 7.5YR-7/6	B	接合部～脚部 60%	外面：ヘラミガキ 内面：坏部ミガキ、脚部ヘラナデ	脚部 4 ヶ所の円形透し
199	土師器 高坏	-	(5.9)	7.8	ABIM	外面：にぶい褐 7.5YR-6/3 内面：暗灰 N-3/	B	脚部 90%	外面：部分的にハケ目残る 内面：坏部・脚部ヘラナデ	接合部は坏部の臍嵌め込み式
200	土師器 高坏	-	(3.9)	-	ABHJM	にぶい橙 5YR-7/4	B	10%	外面：摩耗のため調整痕不明 内面：脚部ヘラナデ	
201	土師器 高坏	-	(4.9)	-	ABM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	脚部片	外面：ヘラミガキ 内面：坏部ヘラミガキ、脚部指頭圧痕	
202	土師器 高坏	-	(3.1)	(19.0)	AEM	外面：橙 5YR-6/6 内面：浅黄橙 10YR-8/3	B	脚部片	裾が大きく開く 外面：ハケ目後ミガキ 内面：ハケ目後ヘラナデ	外面赤彩 脚部 4 ヶ所の円形透し
203	土師器 高坏	-	(2.4)	(17.1)	ABMN	橙 5YR-7/6	B	脚部 20%	裾が大きく開く 外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	外面赤彩 脚部ランダムで多数の円形透し
204	土師器 高坏	-	(3.1)	(19.0)	ABJM	浅黄橙 7.5YR-8/3	B	脚部 30%	裾が大きく開く 外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ、ミガキ	脚部 4 ヶ所の円形透し

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
205	土師器 高坏	-	(1.7)	(8.0)	ABDHLMN	橙 5YR-7/6	B	脚部片	内外面：摩耗顕著で調整痕不明	
206	土師器 器台	-	(5.8)	-	ABDGJL	にぶい橙 7.5YR-6/4	B	脚部 70%	外面：ヘラミガキ 内面：ハケ目後ヘラナデ	脚部 4 ヶ所の円形透し
207	土師器 器台	-	(6.4)	-	AGIM	外面：橙 2.5YR-6/6 内面：にぶい橙 5YR-7/4	A	脚部 60%	外面：ヘラミガキ 内面：坏部ヘラミガキ、脚部ヘラナデ	脚部 3 ヶ所の円形透し
208	土師器 高坏	-	(11.0)	-	ABDJMN	にぶい赤褐 5YR-4/4	B	脚部 60%	脚部エンタシス形で裾は大きく開く 外面：ヘラミガキ 内面：坏部ミガキ、脚部ヘラナデ	
209	土製品 土錘	最大長 (8.2)　最大幅 (3.8)　孔径　1.1　重さ 68.9 g						半分欠損	外面：ヘラナデ、指ナデ	
210	土製品 不明品	最大長 3.1　最大幅 2.5　最大厚 1.3　重さ 11.2 g						完形	外面：手捏ね成形、指頭圧痕	用途不明
211	石製品 砥石	最大長 (7.3)　最大幅 4.5　最大厚 1.8　重さ 109.2 g						完形	砥面は片側面の 1 面のみ	凝灰岩
212	石器 磨石	最大長 11.2　最大幅 14.0　最大厚 2.8　重さ 830 g						半分欠損	表裏 2 面が砥面	花崗岩
213	石器 磨石	最大長 8.3　最大幅 9.3　最大厚 4.9　重さ 460 g						破片	1 面が砥面	花崗岩
214	石器 環状石斧	最大長 (5.4)　最大幅 (4.3)　最大厚 1.8　重さ 54.0 g						破片	全面研磨され外縁部に擦痕 復元した外縁径は 13.0㎝、最大厚は 1.85㎝ 柄装着径は 3.0㎝～ 3.8㎝	閃緑岩
215	木製品 不明品	残存長 22.4　最大幅 6.0　最大厚 4.6						完形	木取は板目、三角柱に近い形状	用途不明

第５号方形周溝墓（第 53 ～ 55 図）

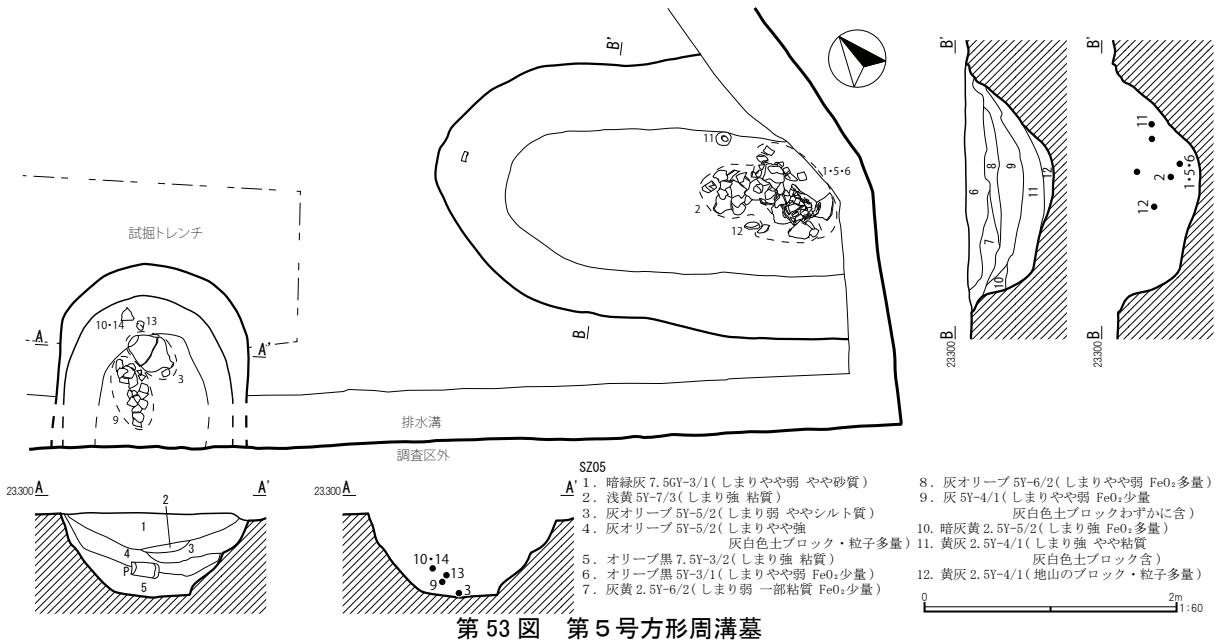
Ｃ区の東に位置しており、Ｐ・Ｑ－ 14 グリッドから検出した。

検出されたのは北西溝と北東溝の一部の周溝である。それ以外の周溝は検出されておらず、調査区域外の南東部分に主体部が位置するものと推定される。

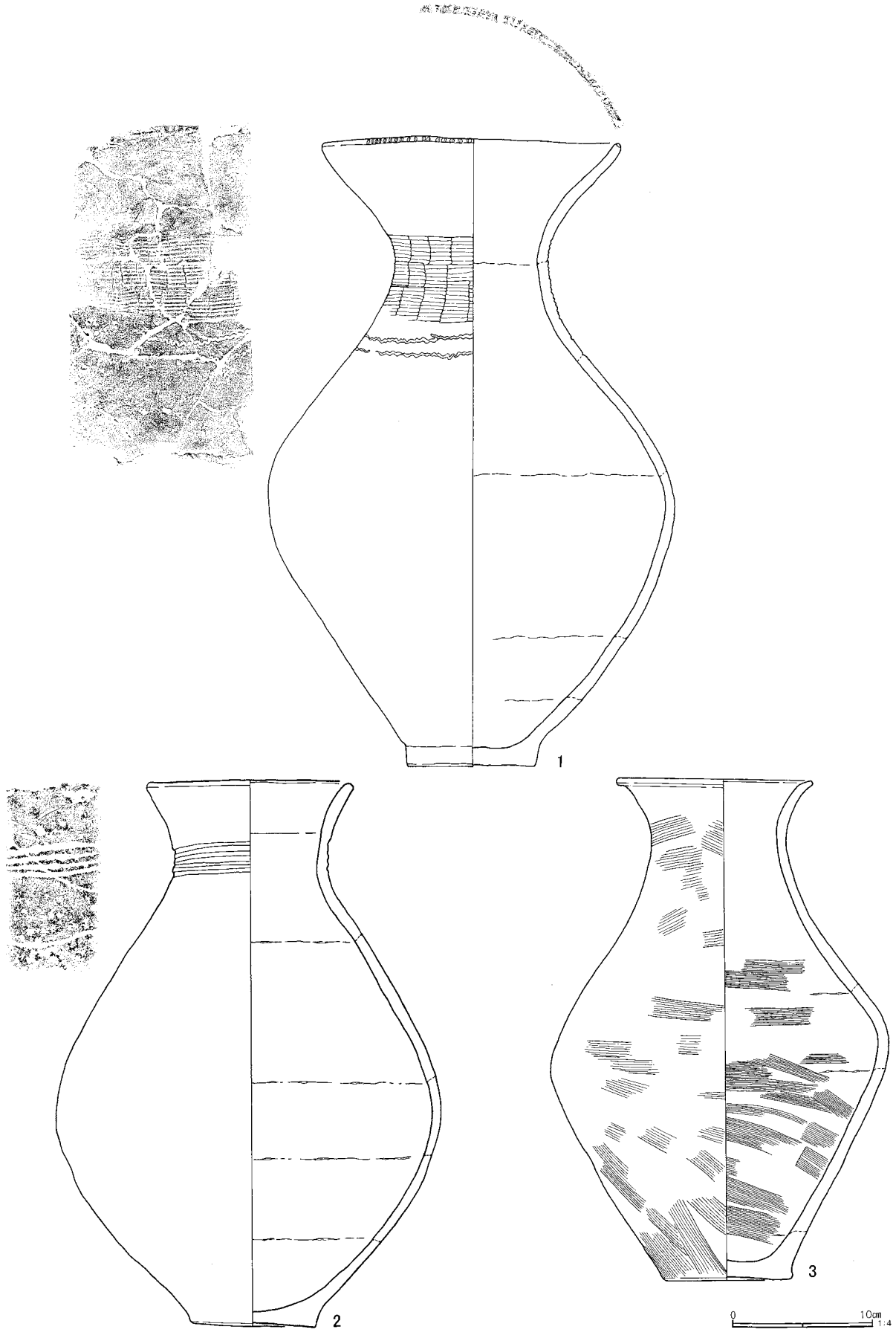
正確な規模は不明であるが、検出された長さ、幅は北西周溝が検出長 1.45 m、最大幅 1.55 m、北東周溝は検出長 3.21 m、最大幅 2.16 mを測る。

平面プランは四隅の切れるタイプと推定される。

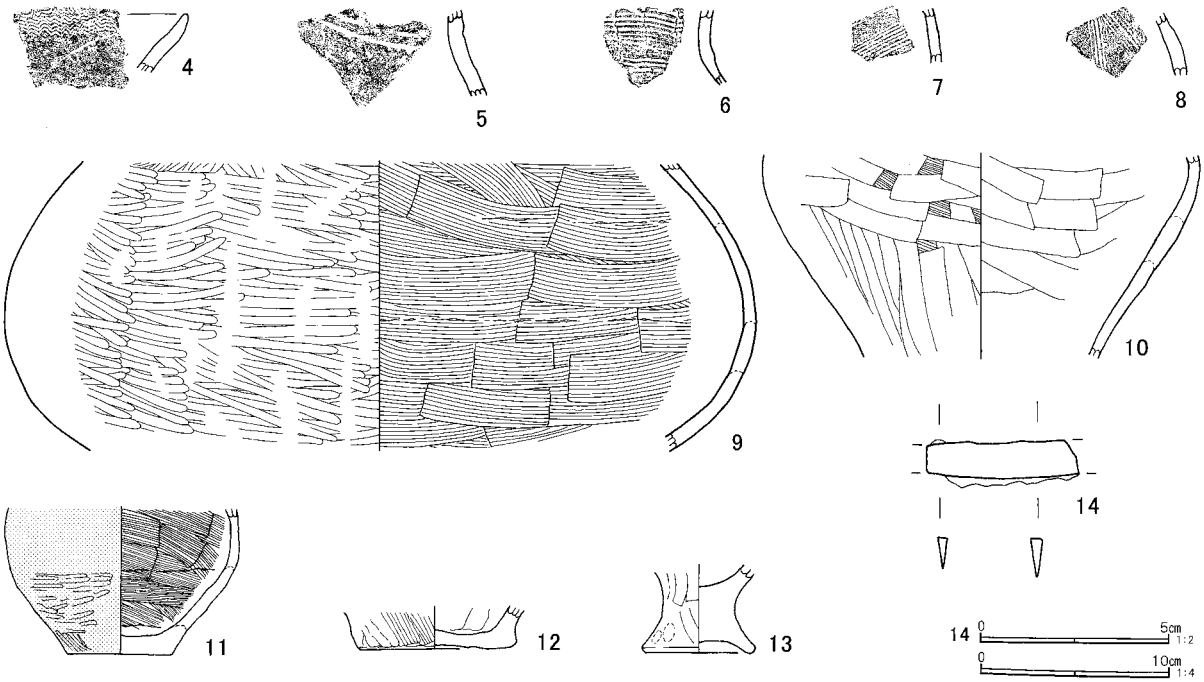
確認面からの深さは北西周溝が 0.67 m、北東周溝は 0.70 mを測る。立ち上がりは方台部側にやや鋭角である。底面は外縁部へ傾斜する。



第 53 図　第５号方形周溝墓



第 54 図　第５号方形周溝墓出土遺物(1)



第 55 図　第５号方形周溝墓出土遺物

断面は５層、ないしは７層確認され、やや内容が異なるが、いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

出土遺物は、弥生土器壺・甕・高坏、鉄製品が検出されている。

時期は、出土遺物から弥生時代後期初頭と考えられる。

第 14 表　第５号方形周溝墓出土遺物観察表（第 54、55 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	弥生土器 壺	20.9	44.7	9.1	ABDIMN	橙 5YR-6/6	B	70%	外面：口縁端部ヘラ押圧による連続刻み目、頸部３段の櫛描簾状文 (7 本一単位)、肩部振り幅の小さい２条の波状文 内面：摩耗顕著で調整痕不明	
2	弥生土器 壺	14.3	39.0	8.9	ABEIJMN	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	90%	外面：頸部４条の太い平行沈線 内外面：摩耗のため調整痕不明	
3	弥生土器 壺	13.8	36.0	8.8	ABDIMN	外面：橙 7.5YR-7/6 内面：褐灰 7.5YR-7/2	B	ほぼ完形 95%	内外面：ハケ目	
4	弥生土器 壺	-	-	-	ABIM	褐灰 7.5YR-4/1	B	口縁部片	外面：櫛描波状文 (4 本一単位)	
5	弥生土器 壺	-	-	-	ABDIM	外面：にぶい橙 7.5YR-7/3 内面：にぶい橙 7.5YR-7/4	B	頸部片	外面：２条の横位平行沈線	
6	弥生土器 壺	-	-	-	ABDIJMN	外面：にぶい橙 5YR-6/4 内面：にぶい橙 7.5YR-7/4	B	頸部片	外面：２段以上の櫛描簾状文 (5 本一単位)	
7	弥生土器 甕	-	-	-	ADJ	暗赤灰 2.5YR-3/1	B	胴部片	外面：櫛描斜位沈線	
8	弥生土器 甕	-	-	-	AJ	外面：にぶい黄橙 10YR-6/3 内面：褐灰 10YR-4/1	B	胴部片	外面：櫛描縦位羽状文	
9	弥生土器 壺	-	(15.5)	-	DHIKM	外面：にぶい橙 7.5YR-7/4 内面：黒褐 10YR-3/1	B	胴部 40%	外面：ミガキ 内面：ハケ目状のヘラナデ	
10	弥生土器 甕	-	(10.8)	-	ABJMN	暗赤灰 10YR-3/1	B	胴部片	外面：ハケ目後ヘラナデ 内面：ヘラナデ	
11	弥生土器 壺	-	(7.7)	5.4	AEGM	にぶい橙 7.5YR-7/3	A	胴下半部 100%	外面：ヘラミガキ 内面：ハケ目	外面赤彩
12	弥生土器 壺	-	(2.2)	(8.4)	AIJM	内外面：にぶい橙 7.5YR-7/4 内面：褐灰 10YR-4/1	B	底部 100%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
13	弥生土器 高坏	-	(4.6)	(5.7)	EM	外面：橙 7.5YR-6/6 内面：にぶい黄橙 10YR-7/3	B	脚部 40%	外面：指頭圧痕、ヘラナデ 内面：ナデ	
14	鉄製品 刀子	最大長 4.1　最大幅 0.9　最大幅 0.3　重さ 2.4 g						刀子身部 30%	刃部の砥ぎ減りが顕著	

第６号方形周溝墓（第 56、57 図）

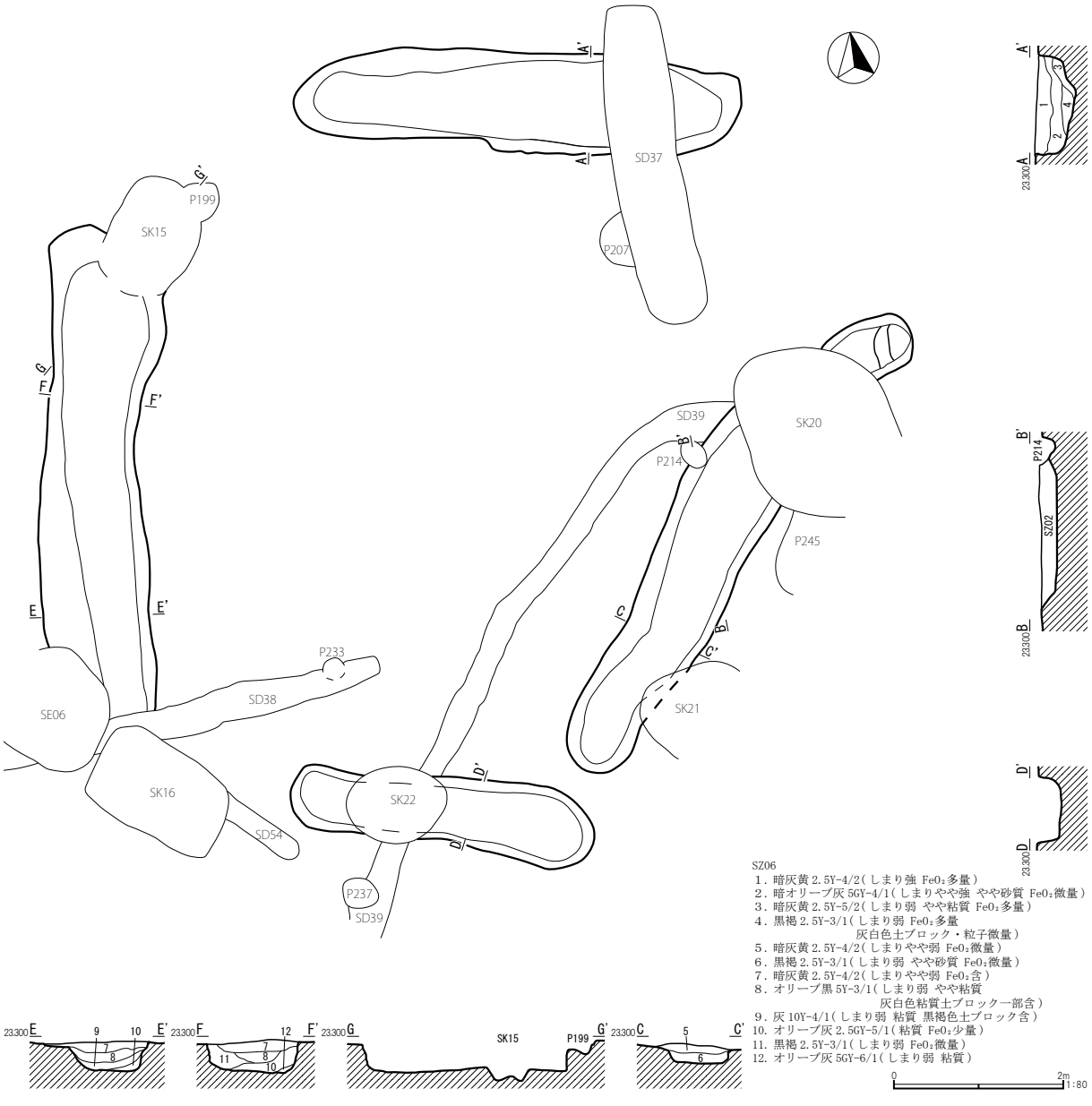
Ｄ区の西に位置しており、Ｓ・Ｔ－ 15・16 グリッドから検出した。

重複関係にあったが、全ての周溝が検出された。また方台部は後世の撹乱を受けている。

正確な規模は不明であるが、検出された長さ、幅は北周溝が検出長 5.63 m、最大幅 1.05 ～ 1.17 m、東周溝は検出長 6.51 m、最大幅 0.77 ～ 1.18 m、南周溝が検出長 3.62 m、最大幅 0.68 ～ 0.94 m、西周溝は検出長 5.83 m、最大幅 1.04 ～ 1.35 mを測る。

平面プランは四隅の切れるタイプと推定され、復元すると外縁の規模は 9.36 m以上、方台部は 7.43 m以上と推定される。

確認面からの深さは北周溝が 0.44 m、東周溝は 0.21 m、南周溝は 0.27 m、西周溝は 0.33 ～ 0.35 mを測る。立ち上がりは西周溝と東周溝が方台部側にやや鋭角である。底面はわずかに外縁部へ傾斜する。

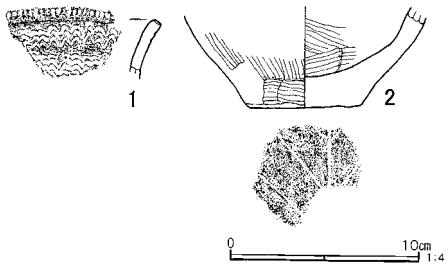


第 56 図　第６号方形周溝墓

断面は４層確認され、やや内容が異なるが、いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。ただし、東周溝は残存状態が悪いため、詳細は不明である。

出土遺物は、弥生土器壺・甕が検出されている。

時期は、出土遺物から弥生時代後期初頭と考えられる。



第 57 図　第６号方形周溝墓出土遺物

第 15 表　第６号方形周溝墓出土遺物観察表（第 57 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	弥生土器 甕	-	-	-	ABHJM	外面：黒褐 10YR-3/2 内面：灰黄褐 10YR-5/2	B	口縁部片	外面：口縁部２段の櫛描波状文 (3 本一単位)、端部にヘラ状工具による刻み目	
2	弥生土器 壺	-	(5.3)	(5.9)	ABCEGM	外面：橙 2.5YR-6/6 内面：橙 5YR-6/6	B	胴部下半～底部 20%	外面：ハケ目、底部木葉痕 内面：ハケ目	

第７号方形周溝墓（第 58、59 図）

Ｄ区の北中央に位置しており、Ｔ－ 15、Ｔ・Ｕ－ 16 グリッドから検出した。

東溝、西溝の一部、南溝の周溝が検出された。また方台部は後世の撹乱を受けている。

正確な規模は不明であるが、検出された長さ、幅は西周溝が検出長 2.62 ｍ、最大幅 1.051 ～ 1.16 ｍ、東周溝は検出長 3.49 ｍ、最大幅 1.62 ～ 2.47 ｍ、南周溝が検出長 7.68 ｍ、最大幅 0.97 ～ 1.22 ｍを測る。

平面プランは四隅の切れるタイプと推定され、復元すると外縁の規模は 13.04 ｍ以上、方台部は 9.62 ｍ以上と推定される。

確認面からの深さは西周溝が 0.40 ｍ、東周溝は 0.61 ｍ、南周溝は 0.43 ｍを測る。立ち上がりは方台部側にやや鋭角である。底面はほぼ平坦であるが、一部わずかに外縁部へ傾斜する。

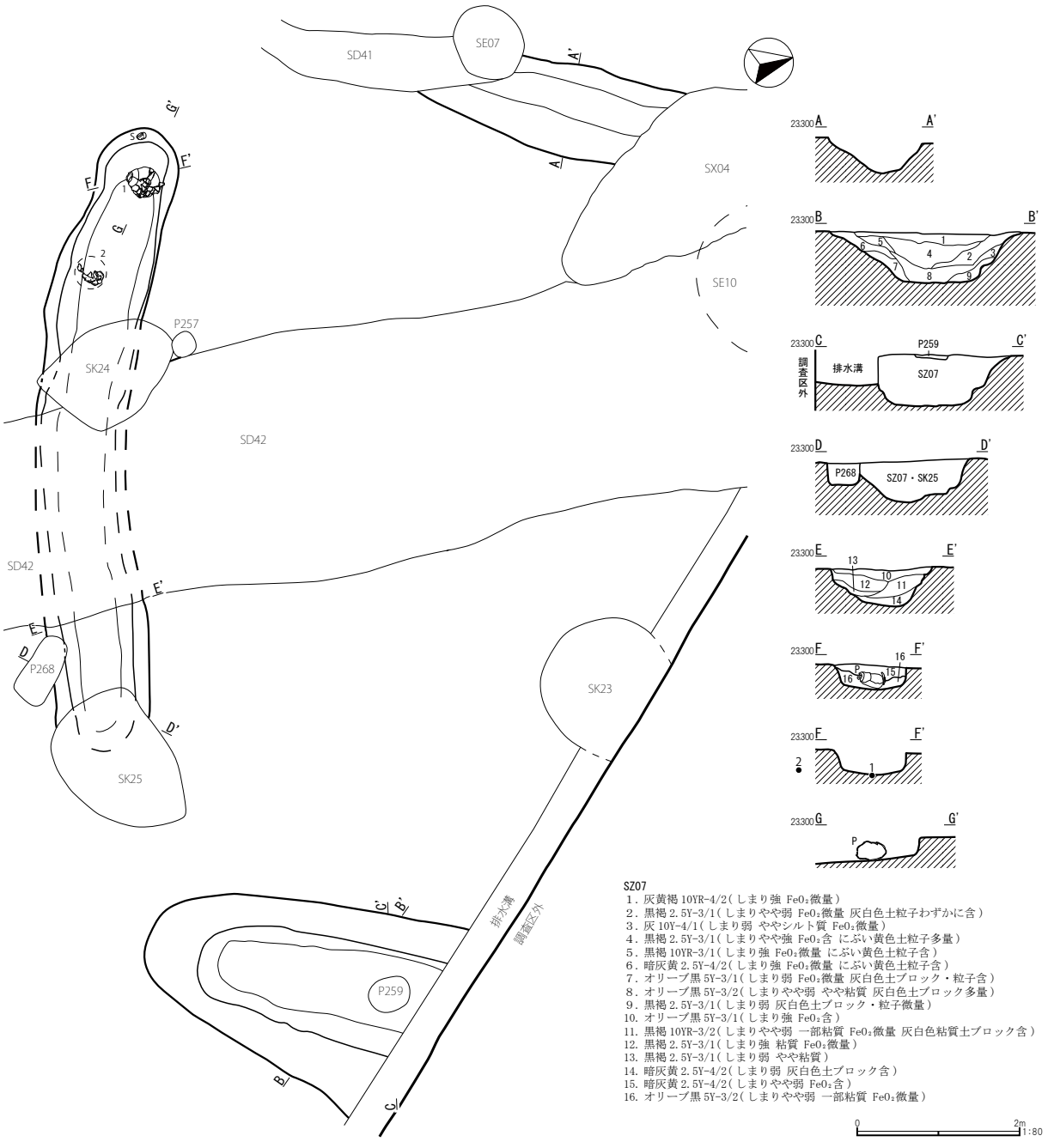
断面は６～８層確認され、やや内容が異なるが、いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

出土遺物は、南周溝の西端部で弥生土器壺・甕が検出されている。

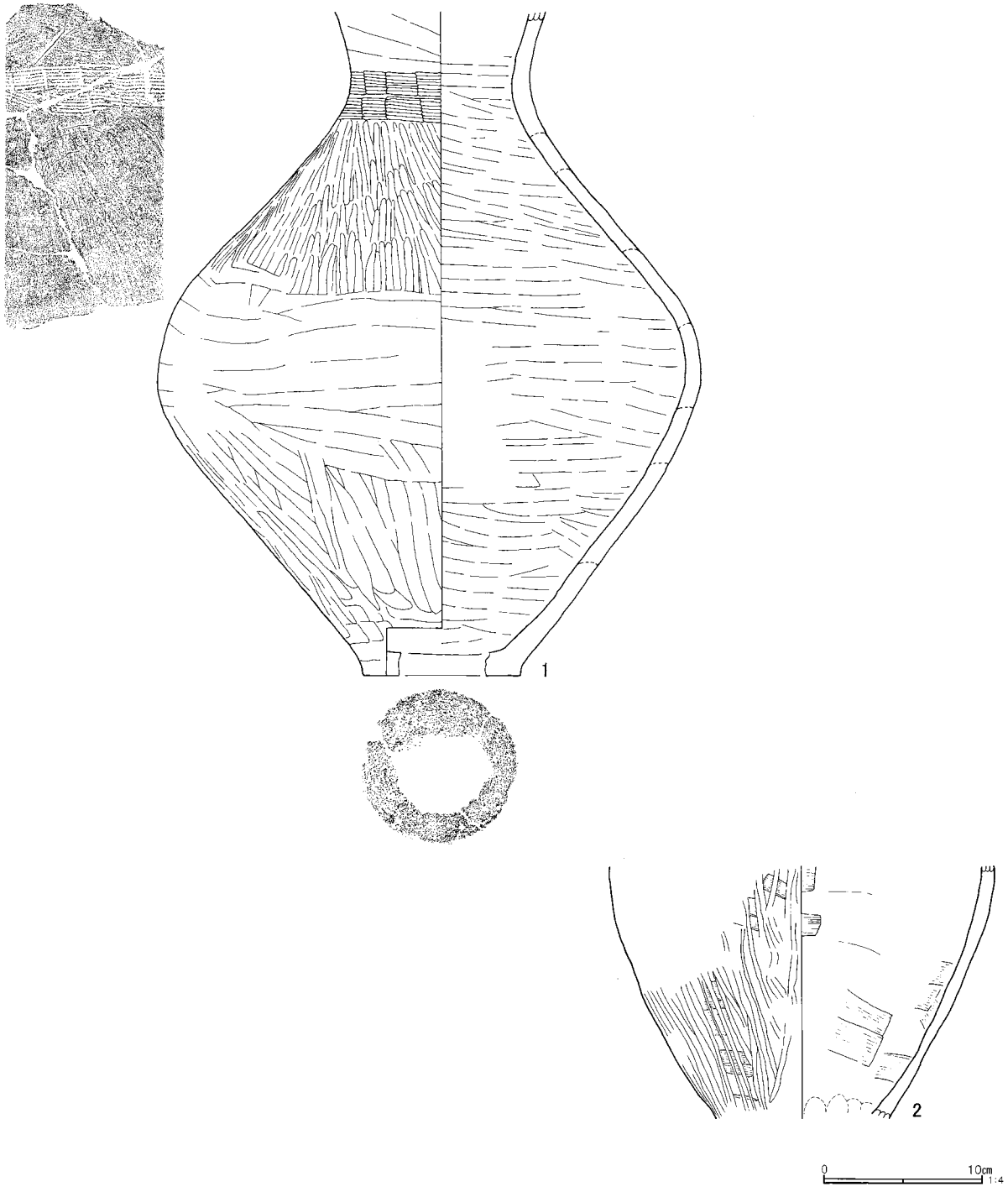
時期は、出土遺物から弥生時代後期初頭と考えられる。

第 16 表　第７号方形周溝墓出土遺物観察表（第 59 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	弥生土器 壺	-	(42.0)	9.8	ABDIMN	明赤褐 2.5YR-5/8	B	頸部～底部 90%	外面：頸部２段の櫛描簾状文 (７本一単位)、胴部上半ヘラミガキ、中位～下位ヘラナデ、下端ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	底部焼成後 底部穿孔
2	弥生土器 甕	-	(16.0)	-	ABIJM	外面：橙 7.5YR-7/6 内面：褐灰 7.5YR-4/1	B	胴部下半 40%	外面：ハケ目後ヘラミガキ 内面：ハケ目状のヘラナデ、指頭圧痕	



第 58 図　第 7 号方形周溝墓



第 59 図　第７号方形周溝墓出土遺物

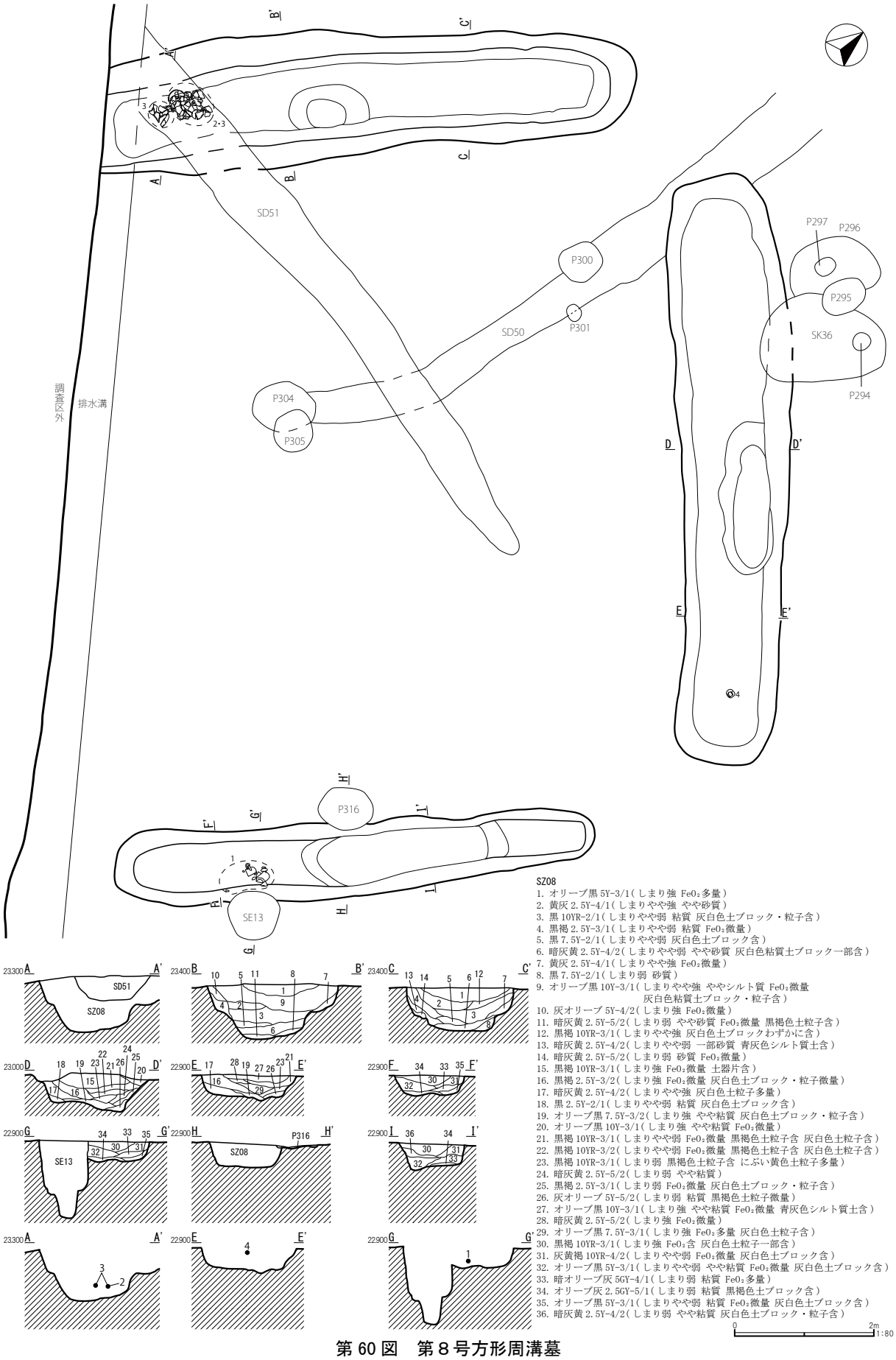
第８号方形周溝墓（第 60、61 図）

Ｄ区の西に位置しており、Ｕ～Ｗ－ 18・19、Ｖ・Ｗ－ 19 グリッドから検出した。

北溝、東溝、西溝の一部の周溝が検出された。また方台部は後世の撹乱を受けている。

正確な規模は不明であるが、検出された長さ、幅は北周溝が検出長 8.47 m、最大幅 1.38 ～ 1.69 m、東周溝は検出長 6.92 m、最大幅 0.83 ～ 1.12 m、西周溝が検出長 7.67 m、最大幅 1.15 ～ 1.89 mを測る。

平面プランは四隅の切れるタイプと推定され、復元すると外縁の規模は 12.36 m以上、方台部は 9.59 m以上と推定される。



SZ08
1. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり強 FeO_x多量)
2. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 やや砂質)
3. 黒 10YR-2/1(しまりやや弱 粘質 灰白色土ブロック・粒子含)
4. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 粘質 FeO_x微量)
5. 黒 7.5Y-2/1(しまりやや弱 灰白色土ブロック含)
6. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや弱 やや砂質 灰白色粘質土ブロック一部含)
7. 黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 FeO_x微量)
8. 黒 7.5Y-2/1(しまり弱 砂質)
9. オリーブ黒 10Y-3/1(しまりやや強 ややシルト質 FeO_x微量 灰白色粘質土ブロック・粒子含)
10. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまり強 FeO_x微量)
11. 暗灰黄 2.5Y-5/2(しまり弱 やや砂質 FeO_x微量 黒褐色土粒子含)
12. 黒褐 10YR-3/1(しまりやや強 灰白色土ブロックわずかに含)
13. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや弱 一部砂質 青灰色シルト質土含)
14. 暗灰黄 2.5Y-5/2(しまり弱 砂質 FeO_x微量)
15. 黒褐 10YR-3/1(しまり強 FeO_x微量 土器片含)
16. 黒褐 2.5Y-3/2(しまり強 FeO_x微量 灰白色土ブロック・粒子微量)
17. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや強 灰白色土粒子多量)
18. 黒 2.5Y-2/1(しまりやや弱 粘質 灰白色土ブロック含)
19. オリーブ黒 7.5Y-3/2(しまり強 やや粘質 灰白色土ブロック・粒子含)
20. オリーブ黒 10Y-3/1(しまり強 やや粘質 FeO_x微量)
21. 黒褐 10YR-3/1(しまりやや弱 FeO_x微量 黒褐色土粒子含 灰白色土粒子含)
22. 黒褐 10YR-3/2(しまりやや弱 FeO_x微量 黒褐色土粒子含 灰白色土粒子含)
23. 黒褐 10YR-3/1(しまり弱 黒褐色土粒子含 にぶい黄色土粒子多量)
24. 暗灰黄 2.5Y-5/2(しまり弱 やや粘質)
25. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 FeO_x微量 灰白色土ブロック・粒子含)
26. 灰オリーブ 5Y-5/2(しまり弱 粘質 黒褐色土粒子微量)
27. オリーブ黒 10Y-3/1(しまり強 やや粘質 FeO_x微量 青灰色シルト質土含)
28. 暗灰黄 2.5Y-5/2(しまり強 FeO_x微量)
29. オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまり強 FeO_x多量 灰白色土粒子含)
30. 黒褐 10YR-3/1(しまり強 FeO_x含 灰白色土粒子一部含)
31. 灰黄褐 10YR-4/2(しまりやや弱 FeO_x微量 灰白色土ブロック含)
32. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや弱 やや粘質 FeO_x微量 灰白色土ブロック含)
33. 暗オリーブ灰 5GY-4/1(しまり弱 粘質 FeO_x多量)
34. オリーブ灰 2.5GY-5/1(しまり弱 粘質 黒褐色土ブロック含)
35. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや弱 粘質 FeO_x微量 灰白色土ブロック含)
36. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 やや粘質 灰白色土ブロック・粒子含)

0 2m 1:80

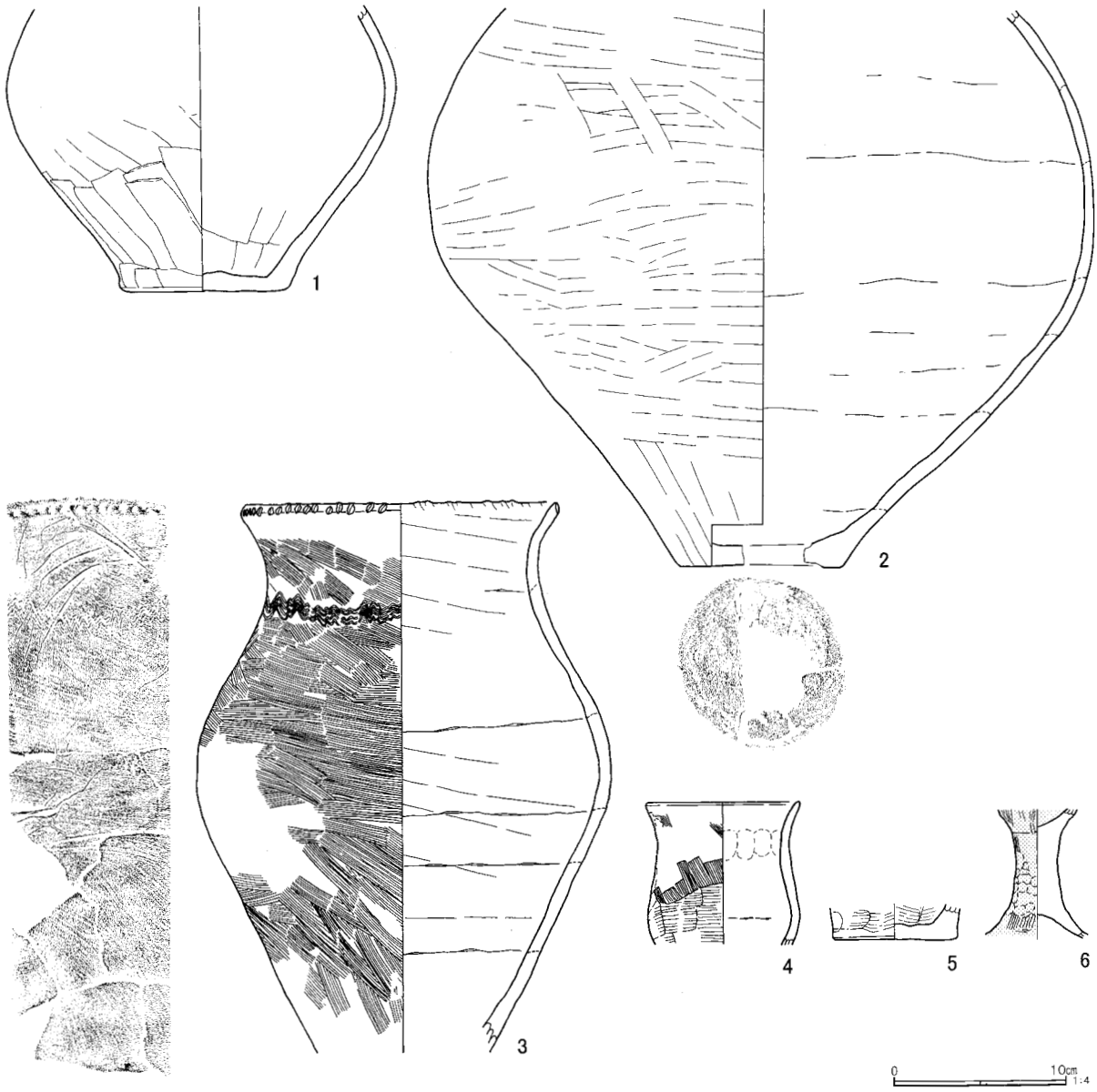
第 60 図　第８号方形周溝墓

確認面からの深さは北周溝が 0.32 m、東周溝は 0.28 ～ 0.32 m、西周溝は 0.62 ～ 0.78 mを測る。立ち上がりは方台部側にやや鋭角である。底面はほぼ平坦であるが、一部わずかに方台部へ傾斜する。

断面は東周溝を除き 11 ～ 12 層確認され、やや内容が異なるが、いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。東周溝は自然堤防から低地への落ち込む位置にあることから、断面は６層程度である。

出土遺物は、北・西周溝を中心に、弥生土器壺・甕・小型甕・高坏が検出されている。

時期は、出土遺物から弥生時代後期初頭と考えられる。



第 61 図　第８号方形周溝墓出土遺物

第 17 表　第８号方形周溝墓出土遺物観察表（第 61 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	弥生土器 壺	-	(16.3)	(9.9)	ABIJMN	橙 5YR-6/6 にぶい黄橙 10YR-7/3	B	胴部～底部片	外面：上半摩耗のため調整痕不明、下半ヘラナデ 内面：摩耗顕著で調整痕不明	
2	弥生土器 壺	-	(32.6)	9.4	ABIMN	橙 5YR-7/6 灰白 5YR-8/2	B	胴部～底部 60%	外面：ヘラナデ 内面：摩耗顕著で調整痕不明	底部焼成後穿孔
3	弥生土器 甕	18.2	(32.0)	-	ABDIJM	外面：灰褐 7.5YR-5/2 内面：褐灰 7.5YR-4/1	B	口縁～底部 80%	外面：口縁端部ヘラ押捺による連続刻み目、全面ハケ目 後頸部櫛描波状文 (3 本一単位) 内面：ヘラナデ	
4	弥生土器 小型甕	(8.9)	(8.3)	-	AGM	明褐灰 7.5YR-7/2 褐灰 7.5YR-4/1	A	口縁～胴部 70%	外面：ハケ目後ヘラケズリ 内面：ヘラナデ、指頭圧痕	
5	弥生土器 甕	-	(2.1)	(7.3)	ABJM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	底部 40%	内外面：ハケ目	
6	弥生土器 高坏	-	(7.6)	-	AGM	浅黄橙 7.5YR-8/3 赤 10R-5/6	A	接合部片	外面：指頭圧痕、ヘラミガキ 内面：坏部ヘラミガキ、脚部ヘラナデ	外面・坏部内面赤彩

４　河川跡

第１号河川跡（第 62 図）

Ｇ－４、Ｆ・Ｇ－５・６グリッドから検出した。第３号方形周溝と第 16 号溝跡と重複関係にあり、本遺構が重複するすべての遺構を切っている。この遺構の調査はトレンチ掘削による確認とし、全面の調査は実施していない。

大半が調査区域外であり、正確な様相は不明であるが、いびつな形で流れており、流路方向は北から南に向かっている。

規模は、検出長 18.13 ｍ、検出幅 6.77 ｍ、深さは確認面から 0.83 ～ 0.86 ｍであった。

土層断面を観察すると、13 層に渡る堆積がみられ、主に上からオリーブ灰土（２層）、暗オリーブ粘質土（３層）、暗緑灰土（４層）、暗青灰砂質土（７層）、暗灰土（９層）、暗青灰シルト、砂質土（12 層）の順で堆積しており、底部付近は幅が 0.34 ｍで、粘質、砂質土が堆積し、平坦であった。

出土遺物はトレンチ調査によることから、図示できるものは確認されていない。弥生土器片がわずかに確認された以外は、土師器片が多く検出されている。

それらの遺物から河川としての流路時期は、奈良･平安時代（８世紀から９世紀ごろ）と考えられる。

第２号河川跡（第 63 ～ 68 図）

Ｋ～Ｎ－９、Ｋ～Ｏ－ 10、Ｎ・Ｏ－ 11 グリッドから検出した。第８号住居跡、第４号方形周溝墓、第 17、23、24 号溝跡、第 86 号ピットと重複関係にあり。この遺構の調査は７箇所のトレンチ掘削による確認とし、全面の調査は実施していない。

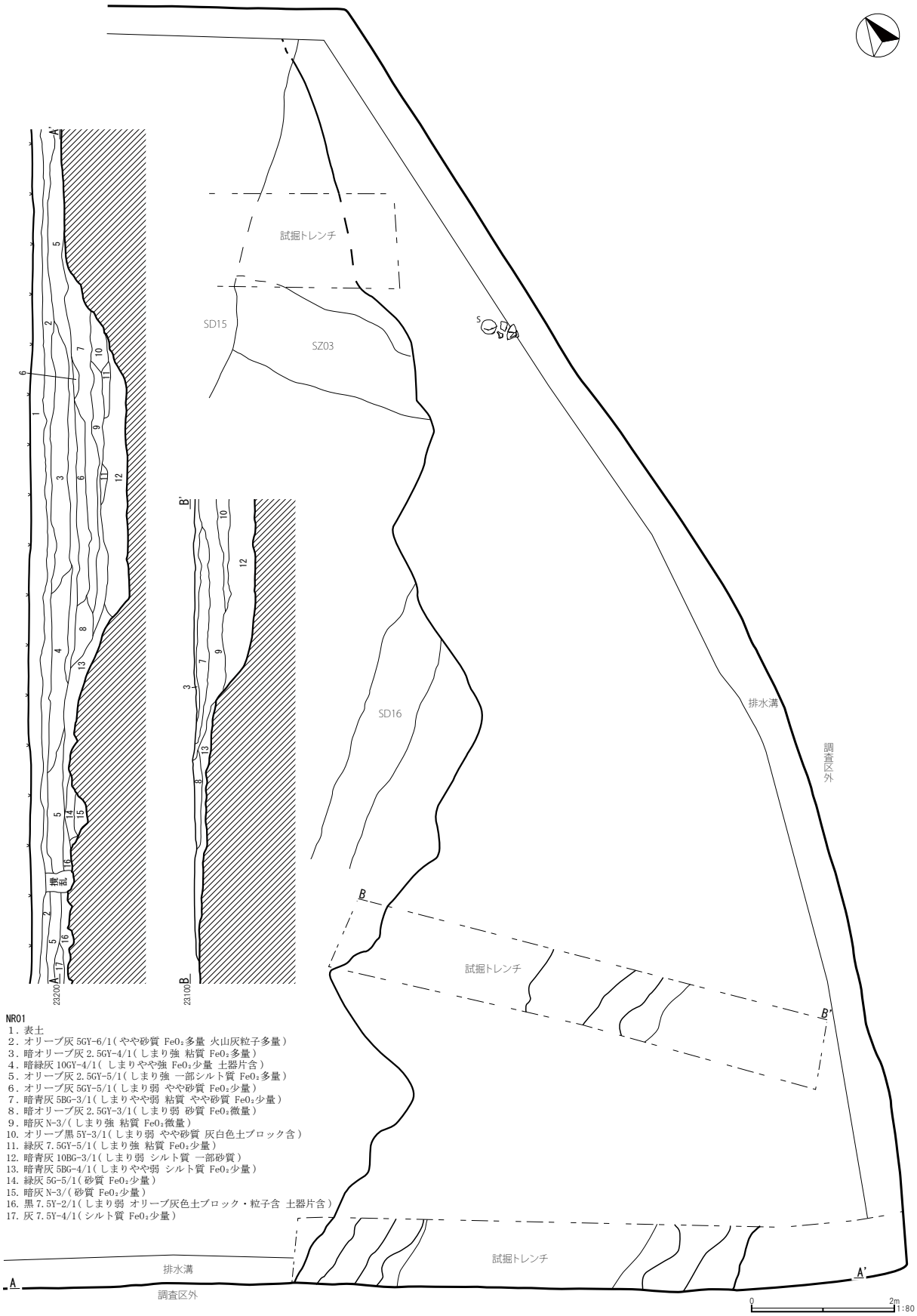
大半が調査区域外であり、正確な様相は不明であるが、いびつな形で流れており、流路方向は北から南に向かっている。現況の隣接水路に並走して流れているようである。また、本遺構と接する第 24 号溝跡との間には護岸用、もしくは堰としての利用での横板と杭列が検出されている。

規模は、検出長 54.51 ｍ、検出幅 8.75 ｍ、最大の深さは確認面から 0.46 ～ 0.80 ｍであった。

土層断面を観察すると、最大 27 層に渡る堆積がみられ、主に上から黄灰粘質土（上層）、しまりが弱い洪水堆積の黒褐色土（中層）、オリーブ黒砂質土（下層）の順で堆積しており、上・中層は旧耕作土跡や洪水堆積層と推定できる木粉や、木片が混ざる。底部付近は、砂質土が堆積し、平坦であった。

出土遺物はトレンチ調査であるが、太型蛤刃石斧、弥生土器、土師器、須恵器、そして瀬戸美濃系の陶器に至るまでの各年代の遺物が検出されている。また、木製品、種子（モモ）も検出されている。

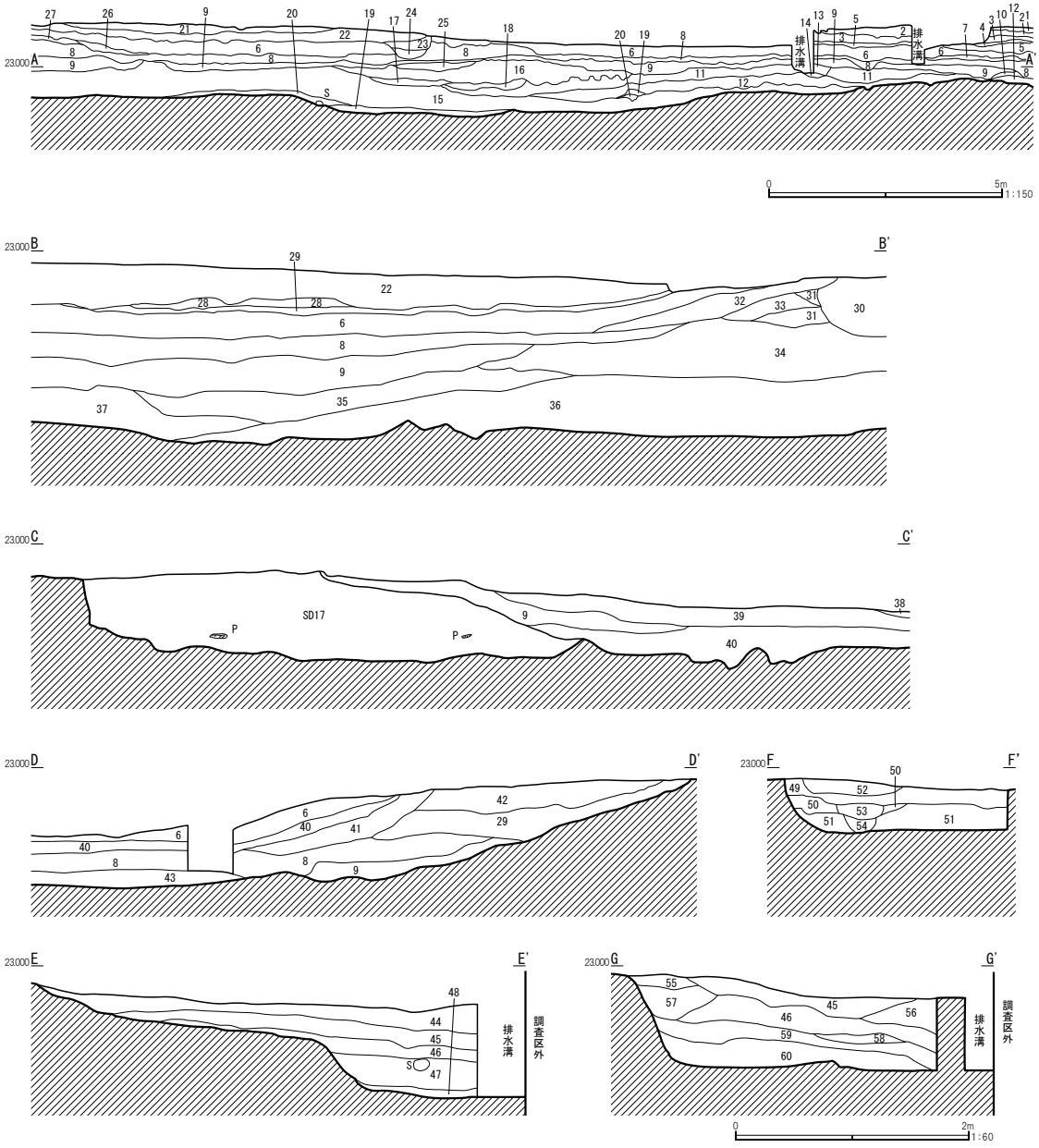
以上のことから河川としての流路時期は、弥生時代から近世に至るまでと考えられる。


試掘トレンチ
SD15
SZ03
SD16
排水溝
調査区外
試掘トレンチ
試掘トレンチ
排水溝
調査区外
A
A'
B
B'
攪乱
NR01
1．表土
2．オリーブ灰 5GY-6/1（やや砂質 FeO₂多量 火山灰粒子多量）
3．暗オリーブ灰 2.5GY-4/1（しまり強 粘質 FeO₂多量）
4．暗緑灰 10GY-4/1（しまりやや強 FeO₂少量 土器片含）
5．オリーブ灰 2.5GY-5/1（しまり強 一部シルト質 FeO₂多量）
6．オリーブ灰 5GY-5/1（しまり弱 やや砂質 FeO₂少量）
7．暗青灰 5BG-3/1（しまりやや弱 粘質 やや砂質 FeO₂少量）
8．暗オリーブ灰 2.5GY-3/1（しまり弱 砂質 FeO₂微量）
9．暗灰 N-3/（しまり強 粘質 FeO₂微量）
10．オリーブ黒 5Y-3/1（しまり弱 やや砂質 灰白色土ブロック含）
11．緑灰 7.5GY-5/1（しまり強 粘質 FeO₂少量）
12．暗青灰 10BG-3/1（しまり弱 シルト質 一部砂質）
13．暗青灰 5BG-4/1（しまりやや弱 シルト質 FeO₂少量）
14．緑灰 5G-5/1（砂質 FeO₂少量）
15．暗灰 N-3/（砂質 FeO₂少量）
16．黒 7.5Y-2/1（しまり弱 オリーブ灰色土ブロック・粒子含 土器片含）
17．灰 7.5Y-4/1（シルト質 FeO₂少量）
0
2m
1:80

第 62 図　第 1 号河川跡

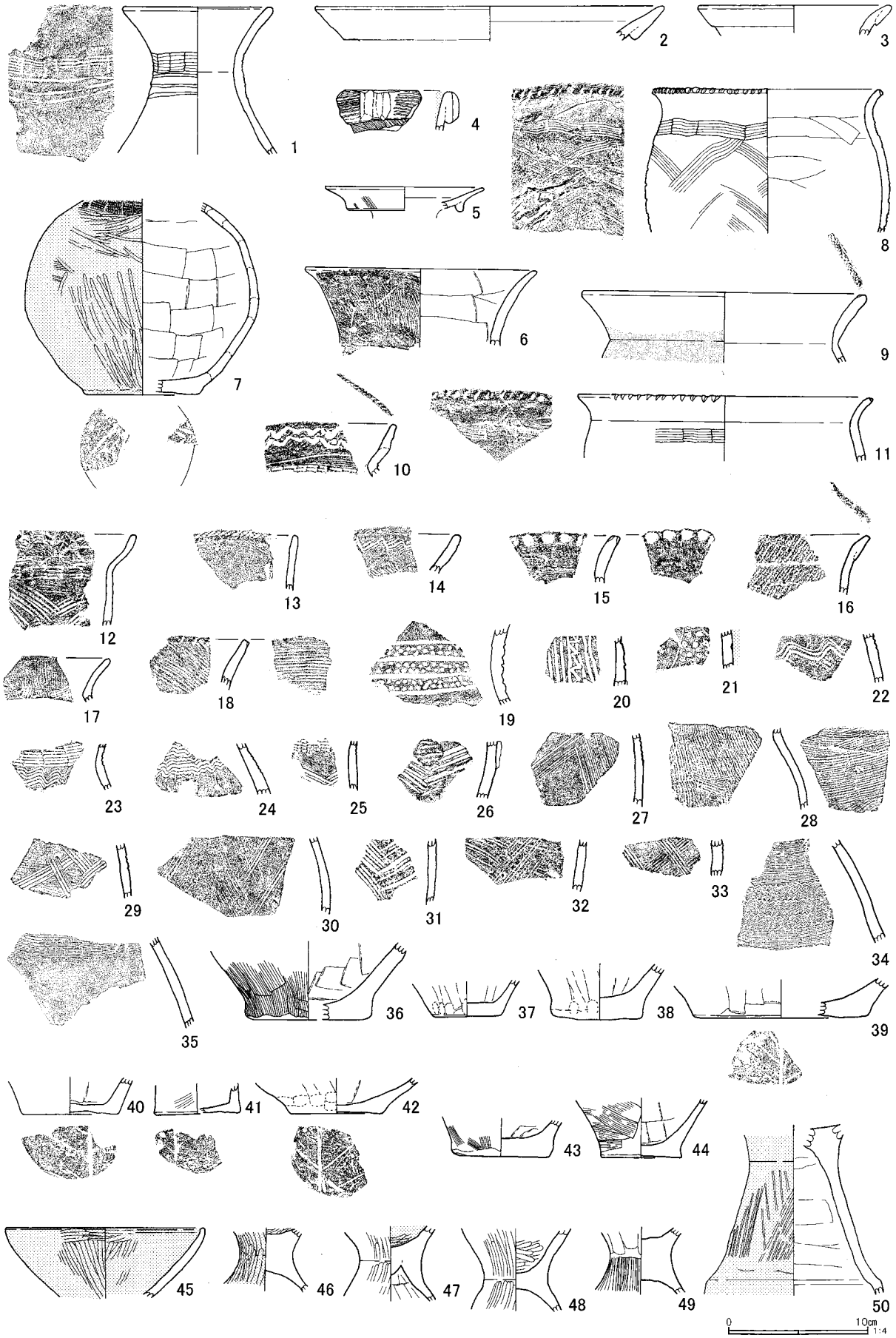

試掘トレンチ
試掘トレンチ
試掘トレンチ
試掘トレンチ
試掘トレンチ
試掘トレンチ
試掘トレンチ
試掘トレンチ
試掘トレンチ
SD17
SI08
SZ04
SI09
SD18
SD19
SD20
SD21
SD22
SD23
SD24
調査区外
排水溝
P086
64(S)
46
42
69
70
38
11
1
50
13
128(W)
123(W)
127(W)
125(W)
126(W)
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'
F
F'
G
G'
0
8m
1:200

第 63 図　第２号河川跡

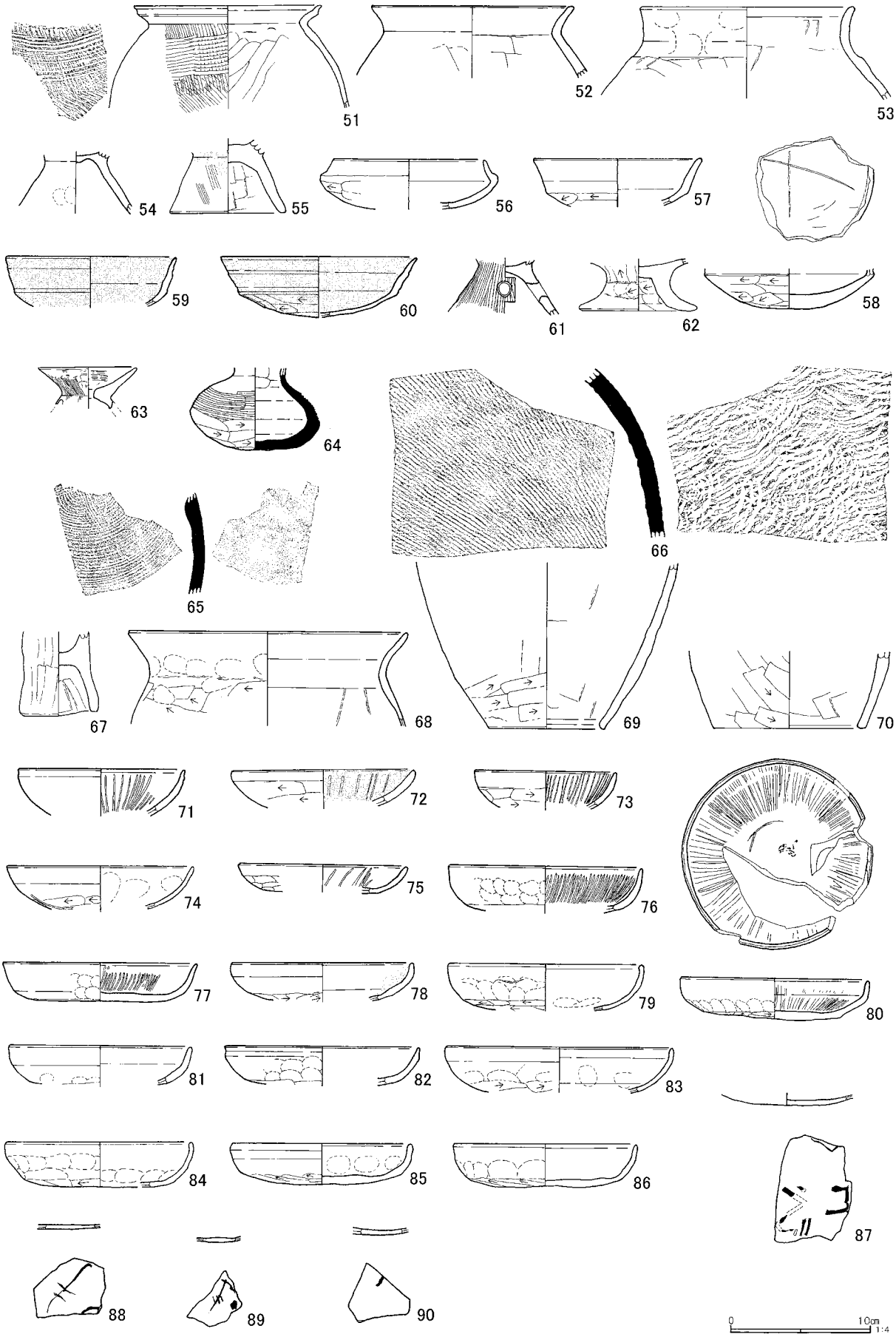


NR02

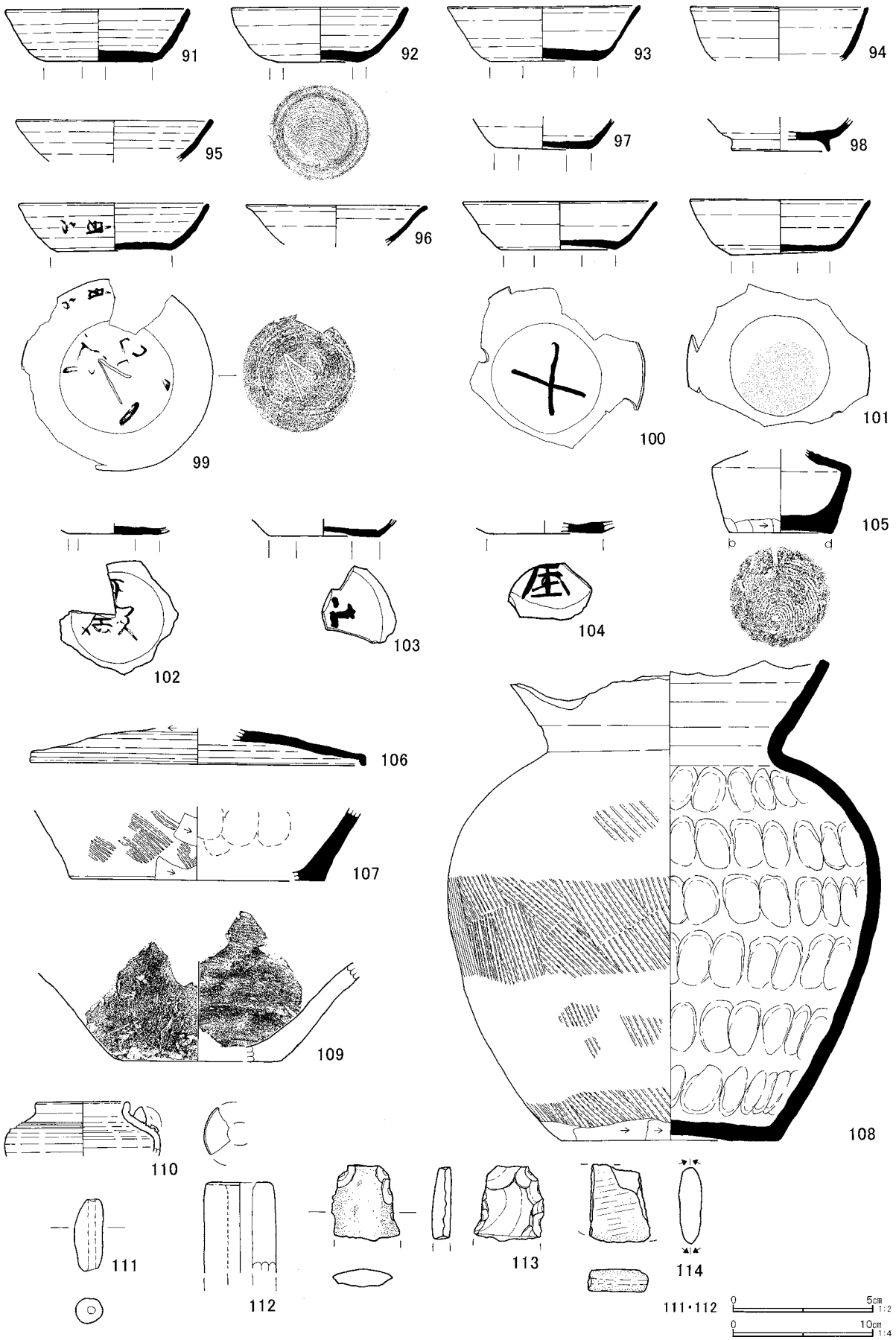
1. 灰 5Y-4/1(しまり弱 FeO_x多量 粒子細かい 火山灰含)
2. 黄灰 2.5Y-5/1(しまり強 粘質 FeO_x少量 火山灰含)
3. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 砂質 粘質土ブロック一部含 粒子細かい)
4. 褐灰 10YR-4/1(しまりやや弱 やや砂質)
5. 暗灰黄 2.5Y-5/2(しまりやや弱 やや砂質)
6. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりかなり弱 木粉多量 木片・葉多量)
7. 灰オリーブ 5Y-5/2(しまりやや弱 やや粘質 黒褐色土一部含)
8. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまりやや強 粘質)
9. 暗灰黄 2.5Y-5/2(しまりやや弱 粘質 やや砂質)
10. 灰 7.5Y-4/1(しまり弱 砂質)
11. オリーブ黒 5Y-3/2(砂質 粒子細かい 灰色砂質土一部含)
12. オリーブ灰 10Y-5/2(しまり強 粘質 灰色砂質土多量)
13. オリーブ黒 5Y-3/2(暗灰黄色土粒子多量)
14. 灰 5Y-4/1(しまり弱 砂質)
15. 緑灰 10G-6/1(しまり弱 粘質 わずかに砂質土粒子含)
16. オリーブ灰 2.5GY-6/1(砂質 灰白色砂質土粒子多量)
17. 灰オリーブ 5Y-5/2(しまり弱 黒褐色土粒子多量 粒子細かい)
18. 暗オリーブ灰 5GY-4/1(しまり弱 砂質 粒子細かい)
19. 緑灰 10G-6/1(しまり弱 砂質 暗緑灰色土粒子わずかに含)
20. 暗緑灰 10GY-4/1(しまり弱 砂質)
21. 灰オリーブ 5Y-5/2(しまり強 FeO_x多量)
22. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり強 やや粘質)
23. オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまりやや弱 やや砂質 火山灰含)
24. オリーブ黒 7.5Y-3/2(しまりやや弱 火山灰含)
25. 暗オリーブ灰 2.5GY-3/1(しまり弱 砂質)
26. 黒褐 2.5Y-3/1(やや粘質 灰オリーブ色土粒子多量)
27. 灰黄 2.5Y-6/2(しまり強 やや粘質 FeO_x微量)
28. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり弱 砂質)
29. にぶい黄褐 10YR-5/3(しまり弱 砂質 粒子荒い)
30. 灰オリーブ 5Y-5/2(しまりやや強 粘質 FeO_x少量)
31. 灰オリーブ 5Y-5/3(しまり強 FeO_x少量)
32. オリーブ黒 7.5Y-3/2(しまり強 粘質 FeO_x含 黒褐色土粒子一部含)
33. 灰オリーブ 5Y-5/3(しまり弱 砂質)
34. オリーブ灰 2.5GY-5/1(しまり弱 砂質)
35. 灰オリーブ 7.5Y-4/2(しまり弱 砂質)
36. 灰オリーブ 7.5Y-4/5(しまり弱 砂質)
37. オリーブ黒 5GY-2/1(しまり弱 砂質)
38. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまり強 FeO_x含 灰白色土やや含)
39. 暗オリーブ灰 5GY-4/1(一部粘質 砂質)
40. オリーブ灰 5GY-5/1(やや砂質 土器片含 黒褐色土一部含)
41. 緑灰 10GY-5/1(しまり弱 砂質)
42. オリーブ灰 10Y-5/2(しまり弱 黒褐色土ブロック・粒子含)
43. 黒褐 2.5Y-3/2(しまりかなり弱 木粉多量 木片・葉多量)
44. オリーブ黒 5Y-3/1(しまり弱 シルト質 FeO_x多量)
45. 灰オリーブ 5Y-6/2(しまり弱 シルト質 FeO_x含)
46. 暗オリーブ灰 5GY-4/1(しまり弱 黒色土粒子多量)
47. オリーブ黒 10Y-3/1(しまり弱 シルト質)
48. 緑灰 7.5GY-5/1(しまり弱 砂質)
49. 灰黄褐 10YR-4/2(しまり強 砂質 FeO_x少量)
50. 灰黄褐 10YR-4/2(しまり強 にぶい黄橙色土含)
51. 褐灰 10YR-4/1(しまり弱 やや粘質 FeO_x少量)
52. 灰褐 7.5YR-4/2(しまり弱 木片含 木粉含)
53. 褐灰 10YR-4/1(しまり弱 やや粘質 FeO_x含)
54. 灰 10Y-4/1(しまり弱 粘質 FeO_x少量)
55. 灰白 5Y-7/2(しまりやや強 やや砂質 FeO_x含)
56. 暗緑灰 7.5GY-4/1(シルト質 やや砂質 FeO_x含)
57. 暗オリーブ灰 5GY-4/1(やや粘質 FeO_x多量)
58. 暗オリーブ灰 2.5GY-3/1(しまり弱 砂質)
59. 暗オリーブ灰 5GY-3/1(しまり弱 砂質)
60. 暗オリーブ灰 7.5GY-3/1(しまり弱 砂質)



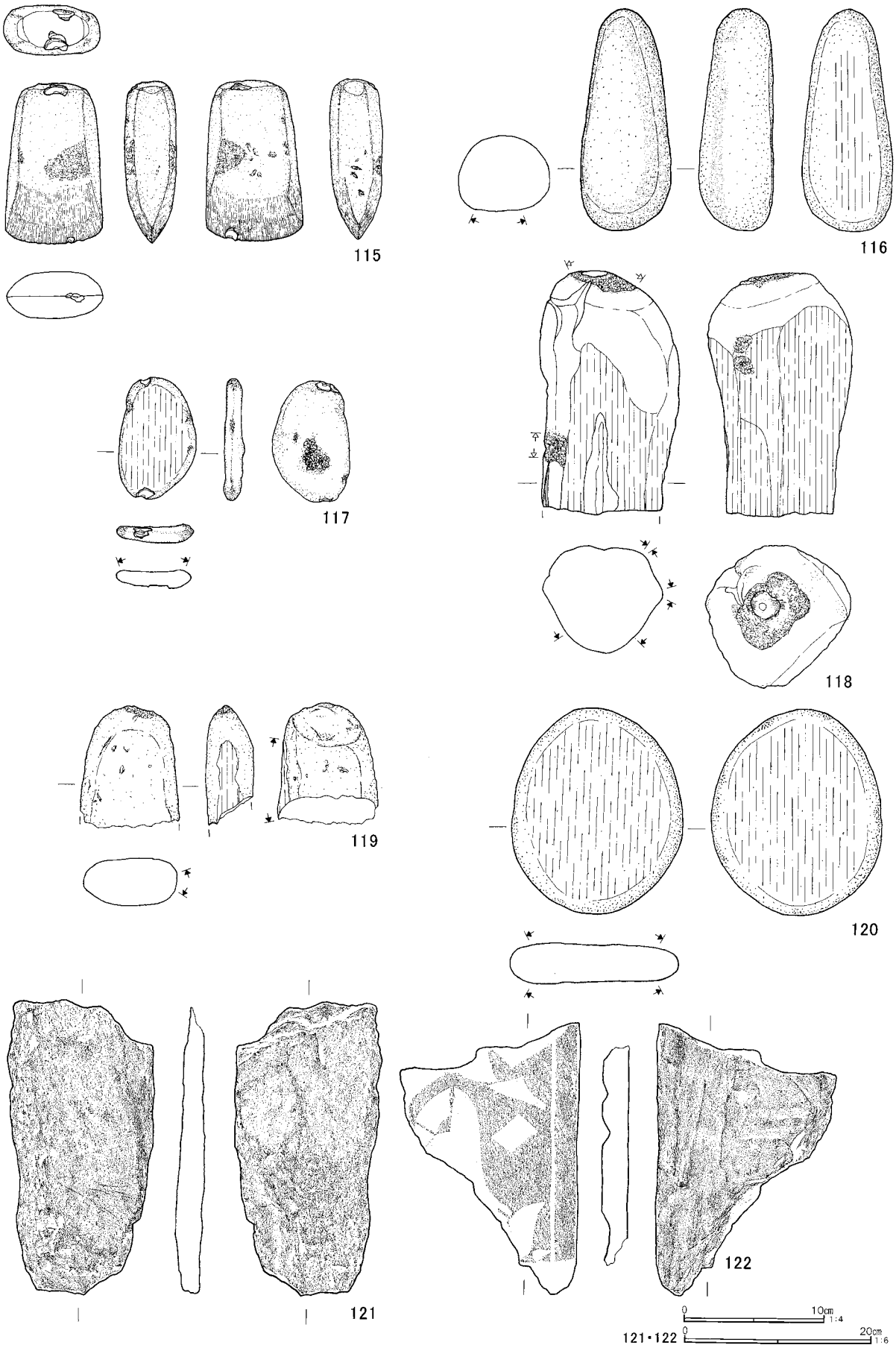
第 64 図　第２号河川跡出土遺物(1)



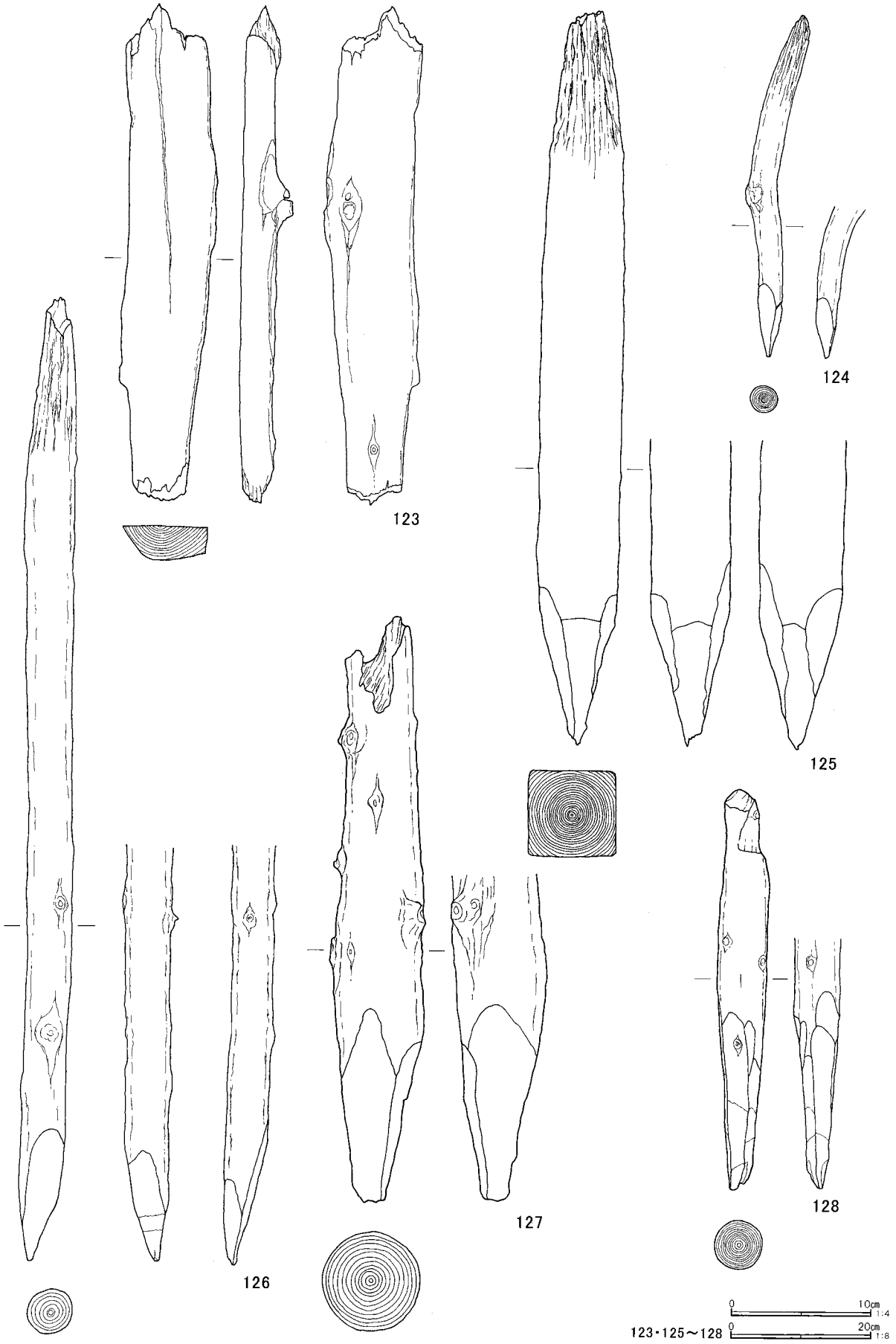
第 65 図　第２号河川跡出土遺物(2)



第 66 図　第２号河川跡出土遺物(3)



第 67 図　第２号河川跡出土遺物(4)



第 68 図　第２号河川跡出土遺物(5)

第 18 表　第２号河川跡出土遺物観察表(1)（第 64 ～ 68 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	弥生土器 壺	(10.7)	(10.5)	-	ABCIM	外面：橙 7.5YR-7/6 内面：にぶい橙 7.5YR-7/3	B	口縁～頸部 40%	外面：頸部櫛描簾状文 (6 本一単位)、3 条の横位平行沈線	
2	弥生土器 壺	(24.9)	(2.5)	-	ADHIM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	口縁部片	内外面：摩耗顕著で調整痕不明	複合口縁
3	弥生土器 壺	(13.5)	(2.2)	-	ABIKM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	口縁部片	内外面：摩耗顕著で調整痕不明	折返し口縁
4	弥生土器 壺	-	-	-	ABGH	橙 7.5YR-7/6	B	口縁部 10%	外面：口縁部振り幅の小さい櫛描波状文、棒状浮文 (2 本一単位)、頸部ハケ目 内面：ヘラミガキ	内面赤彩 複合口縁
5	土師器 壺	(11.4)	(1.7)	-	ABHIM	にぶい橙 7.5YR-6/4	B	口縁～胴部片	外面：ハケ目後ヘラナデ 内面：ヘラミガキ	複合口縁
6	弥生土器 甕	(16.2)	(5.4)	-	ABJM	外面：褐灰 10YR-4/1 内面：にぶい黄橙 10YR-6/3	B	口縁部 20%	外面：ハケ目後疎らなヘラミガキ 内面：ヘラナデ	
7	弥生土器 壺	-	(13.8)	(8.0)	ABEMN	外面：にぶい橙 7.5YR-7/4 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	B	25%	外面：ハケ目後ヘラナデ、肩部 0 段多条の斜縄文、底部木葉痕 内面：ヘラナデ	外面赤彩
8	弥生土器 甕	16.2	(10.2)	-	DGJM	にぶい橙 7.5YR-7/4 褐灰 7.5YR-5/1	A	口縁～胴上部 40%	外面：口縁端部ヘラ状工具による刻み、頸部櫛描簾状文 (5 本一単位)、胴部櫛描縦位羽状文 内面：ヘラナデ	
9	弥生土器 甕	(20.0)	(4.9)	-	ABJKM	外面：黒褐 7.5YR-3/1 内面：にぶい褐 7.5YR-5/4	B	口縁部 30%	外面：口縁端部 RLR 複節縄文	外面スス付着
10	弥生土器 甕	-	-	-	ABIJM	外面：褐灰 7.5YR-4/2 内面：にぶい褐 7.5YR-6/3	B	口縁部片	外面：口縁部 LR 単節縄文地に太い櫛描波状文 (2 本一単位)、頸部櫛描簾状文、端部 LR 単節縄文	
11	弥生土器 甕	(21.0)	(4.6)	-	ABIM	にぶい褐 7.5YR-5/3	B	口縁～肩部片	外面：口縁端部刻み、頸部櫛描簾状文	
12	弥生土器 甕	-	-	-	ABGI	褐 7.5YR-4/3	B	口縁～胴部上半 20%	外面：口縁部櫛描波状文、頸部櫛描簾状文、胴部櫛描縦位羽状文 内面：ヘラナデ	受口状口縁
13	弥生土器 甕	-	-	-	ABIM	にぶい橙 7.5YR-6/4	B	口縁部片	外面：口縁端部 LR 単節縄文 内面：ヘラナデ	
14	弥生土器 甕	-	-	-	ABIJ	外面：にぶい黄橙 10YR-6/3 内面：にぶい黄橙 10YR-7/3	B	口縁部片	外面：口縁部 LR 単節縄文に櫛描波状文 (3 本一単位)、端部 LR 単節縄文	
15	弥生土器 甕	-	-	-	ABIJ	外面：黒褐 10YR-3/1 内面：にぶい黄橙 10YR-6/3	B	口縁部片	外面：口縁端部内側から指頭によるフレア状の押圧	
16	弥生土器 甕	-	-	-	ABI	黒褐 7.5YR-3/1	B	口縁部片	外面：口縁端部から頸部まで LR 単節縄文	折返し口縁
17	弥生土器 甕	-	-	-	ABI	外面：褐灰 7.5YR-4/1 内面：灰黄褐 10YR-5/2	B	口縁部片	外面：櫛描沈線	
18	弥生土器 甕	-	-	-	ABEJN	黄灰 2.5Y-5/1 灰黄 2.5Y-7/2	B	口縁部 10%	外面：櫛描斜位沈線、口縁端部ヘラ状工具による刻み 内面：櫛描横位沈線	
19	弥生土器 壺	-	-	-	AIM	外面：灰黄褐 10YR-6/2 内面：褐灰 10YR-5/1	B	頸部片	外面：4 条の太い平行沈線間に小さな円形刺突を充填	
20	弥生土器 甕	-	-	-	AIM	外面：黒褐 10YR-3/2 内面：褐灰 10YR-4/1	A	胴部片	外面：コの字状重ね文とみられる沈線と波状沈線が垂下 内面：ヘラナデ	
21	弥生土器 壺	-	-	-	AIJM	外面：橙 5YR-6/6 内面：黒褐 10YR-3/1	B	胴部片	外面：円形刺突文	外面赤彩
22	弥生土器 壺	-	-	-	AIM	外面：灰白 5Y-8/1 内面：黒 2.5Y-2/1	A	胴部片	外面：櫛描波状文 (3 本一単位) 内面：ヘラナデ	
23	弥生土器 甕	-	-	-	ABIKM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	頸部片	外面：櫛描簾状文と波状文	
24	弥生土器 甕	-	-	-	ABDI	外面：橙 5YR-7/6 内面：にぶい橙 5YR-6/4	B	胴部片	外面：櫛描波状文 (4 本一単位)、下半ハケ目	
25	弥生土器 甕	-	-	-	ABIJM	外面：褐灰 7.5YR-4/1 内面：灰黄褐 10YR-5/2	B	頸部～胴部片	外面：櫛描簾状文 (4 本一単位)、胴部櫛描縦位羽状文	
26	弥生土器 甕	-	-	-	ABI	外面：褐灰 7.5YR-4/1 内面：褐灰 10YR-4/1	B	胴部片	外面：ボタン状貼付文、地文は単節縄文、胴部櫛描羽状文	

第 18 表　第２号河川跡出土遺物観察表(2)（第 64 ～ 68 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
27	弥生土器 甕	-	-	-	AIM	外面：黒 10YR-2/1 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	A	胴部片	外面：櫛描縦位羽状文 内面：上部ヘラナデ	
28	弥生土器 甕	-	-	-	ABIM	にぶい橙 5YR-6/4	B	胴部片	内外面：ハケ目	
29	弥生土器 甕	-	-	-	AJM	外面：黒 10YR-2/1 内面：にぶい黄橙 10YR-7/3	A	胴部片	外面：横位ハケ目後櫛描斜格子文 内面：横位ハケ目	
30	弥生土器 甕	-	-	-	ABI	外面：褐灰 7.5YR-4/1 内面：灰黄褐 10YR-5/2	B	胴部片	外面：櫛描斜格子文	
31	弥生土器 甕	-	-	-	ABIM	外面：褐灰 10YR-5/1 内面：にぶい黄 2.5Y-6/3	B	胴部片	外面：櫛描縦位羽状文	
32	弥生土器 甕	-	-	-	ABI	外面：黒褐 10YR-3/2 内面：にぶい黄橙 10YR-6/3	B	胴部片	外面：櫛描斜格子文	
33	弥生土器 甕	-	-	-	ABCM	外面：褐灰 10YR-4/1 内面：にぶい橙 7.5YR-7/4	B	胴部片	外面：櫛描斜格子文	
34	弥生土器 壺	-	-	-	ABEIJM	外面：にぶい黄橙 10YR-7/3 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	B	胴部片	外面：細かい平行沈線、連続山形文	加飾壺
35	弥生土器 壺	-	-	-	ABHIM	外面：にぶい黄橙 10YR-7/3 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	B	胴部片	外面：細かい平行沈線に円形竹管をほぼ等間隔に押捺	加飾壺
36	弥生土器 甕	-	(5.6)	(8.8)	ABIKM	外面：にぶい褐 7.5YR-5/3 内面：にぶい赤褐 5YR-5/4	B	底部 40%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
37	弥生土器 甕	-	(2.5)	5.0	ABDIM	外面：にぶい赤褐 5YR-5/4 内面：にぶい褐 7.5YR-6/3	B	底部 100%	外面：ヘラナデ、下端指頭圧痕 内面：ヘラナデ	
38	弥生土器 甕	-	(4.0)	6.4	ABIJM	外面：橙 7.5YR-7/6 内面：にぶい褐 7.5YR-5/4	B	胴下部～底部100%	外面：ヘラケズリ、下端指頭圧痕 内面：ヘラナデ	
39	弥生土器 甕	-	(2.8)	12.5	ABDKM	外面：にぶい赤褐 5YR-5/3 内面：灰黄褐 10YR-6/2	B	底部片	外面：ヘラナデ、底部木葉痕 内面：ヘラナデ	
40	弥生土器 甕	-	(2.6)	6.9	ABKM	にぶい黄橙 10YR-6/3	B	底部 40%	外面：摩耗顕著で調整痕不明、底部木葉痕 内面：ヘラナデ	
41	弥生土器 甕	-	(2.1)	(5.7)	ABGKM	橙 7.5YR-6/6	B	底部 30%	外面：ハケ目、底部木葉痕 内面：ヘラナデ	
42	弥生土器 甕	-	(2.5)	6.4	AKM	褐灰 10YR-6/1	B	底部 50%	外面：ヘラナデ、下端指頭圧痕、底部木葉痕 内面：ヘラナデ	
43	弥生土器 甕	-	(2.8)	6.9	ADIM	外面：灰白 10YR-8/2 灰褐 7.5YR-5/2 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	A	底部片	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
44	弥生土器 甕	-	(4.2)	5.8	ABIJKM	外面：にぶい褐 7.5YR-5/3 内面：黒褐 7.5YR-3/2	B	底部 90%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
45	弥生土器 高坏	(14.4)	(5.0)	-	AM	外面：赤褐 2.5YR-4/6 内面：赤褐 2.5YR-4/6 にぶい黄橙 10YR-6/3	B	口縁部 30%	内外面：ミガキ後赤彩	内外面赤彩
46	弥生土器 高坏	-	(4.5)	-	IM	外面：明赤褐 2.5YR5/6 内面：褐灰 10YR-5/1 灰白 10YR-8/2	B	脚部 10%	外面：ヘラミガキ 内面：坏部ミガキ、脚部ヘラナデ	外面赤彩
47	弥生土器 高坏	-	(5.3)	-	ABM	外面：明赤褐 2.5YR-5/8 内面：橙 7.5YR-7/6	B	接合部 80%	外面：ヘラミガキ 内面：坏部ミガキ、脚部ヘラナデ、坏部の臍が脚部内側に突出	坏部内面赤彩
48	弥生土器 高坏	-	(5.9)	-	AIM	外面：褐灰 10YR-4/1 にぶい黄橙 10YR-7/3 内面：灰黄褐 10YR-6/2	A	接合部 45%	外面：ヘラミガキ 内面：坏部ヘラミガキ、脚部ヘラナデ	
49	弥生土器 高坏	-	(4.8)	-	AIM	内外面：橙 2.5YR-6/6 褐灰 10YR-5/1	A	接合部 80%	外面：坏部ヘラナデ、脚部ヘラミガキ 内面：坏部ミガキ、脚部ヘラナデ	
50	弥生土器 高坏	-	(12.2)	-	BGIM	外面：赤 10R-4/8 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	A	脚部 40%	外面：ヘラミガキ、脚端部内反気味に屈曲 内面：ヘラナデ	外面・坏部内面赤彩
51	土師器 台付甕	(13.5)	(7.4)	-	ADJM	外面：黒 10YR-1.7/1 内面：褐灰 10YR-4/1 にぶい黄橙 10YR-7/2	A	口縁～胴部上半片	外面：縦位・斜位・肩部横位のハケ目 内面：ヘラナデ	Ｓ字口縁
52	土師器 甕	(14.4)	(5.1)	-	ABDHM	灰褐 7.5YR-4/2	B	口縁～肩部片	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
53	土師器 甕	(15.0)	(6.7)	-	ABEIN	にぶい黄橙 10YR-7/3	B	口縁～肩部片	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
54	土師器 台付甕	-	(4.4)	-	EIM	外面：褐灰 7.5YR-4/1 内面：にぶい橙 7.5YR-6/4	B	脚部 40%	外面：ヘラナデ後指頭圧痕 内面：ヘラナデ	
55	土師器 台付甕	-	(5.3)	(8.4)	AM	外面：明褐灰 7.5YR-7/2 内面：にぶい橙 7.5YR-7/3	B	脚部 25%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	外面スス付着
56	土師器 坏	(10.8)	(3.6)	-	DIM	にぶい橙 7.5YR-6/4	B	口縁～体部 25%	外面：ヘラケズリ 内面：摩耗のため調整痕不明	坏身模倣坏
57	土師器 坏	(11.8)	(3.4)	-	ABI	外面：橙 5YR-6/6 内面：にぶい橙 5YR-6/4	B	口縁～底部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：摩耗のため調整痕不明	坏蓋模倣坏
58	土師器 坏	-	(2.8)	-	ABDGM	にぶい赤褐 5YR-5/3	A	底部片	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	底部内面「×」の線刻
59	土師器 坏	(12.4)	(3.6)	-	IM	黒褐 5YR-3/1	B	口縁～底部片	外面：底部ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	内外面黒色処理 有段口縁
60	土師器 坏	14.0	4.3	-	JM	黒 10YR-2/1	A	40%	外面：底部ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	内外面黒色処理 有段口縁
61	土師器 高坏	-	(3.8)	-	M	にぶい黄橙 10YR-7/4	B	脚部 40%	外面：ハケ目 内面：坏部ヘラナデ、脚部ヘラナデ後指ナデ	脚部 4 ヶ所の円形透かし
62	土師器 高坏	-	(3.7)	(8.6)	JM	外面：にぶい橙 7.5YR-7/4 内面：浅黄橙 10YR-8/3	B	坏部～脚部 40%	外面：坏部ヘラケズリ、接合部指頭圧痕、脚部ヘラナデ 内面：ヘラナデ	
63	土師器 器台	(7.0)	(2.9)	-	ABCDGHIJ	にぶい黄橙 10YR-7/2	B	口縁～脚部片	外面：ハケ目 内面：坏部ハケ目後ミガキ、脚部ヘラナデ	脚部径 10mm の円形透かしを 3 ヶ所穿孔
64	須恵器 小型壺	-	(5.9)	-	AIM	内外面：灰 N-5/ 底部灰白 5Y-7/	A	80%	外面：胴部上半櫛描平行沈線、下半ヘラケズリ	丸底
65	須恵器 提瓶	-	-	-	ABIMN	灰 N-6/	B	胴部片	外面：カキ目	
66	須恵器 甕	-	(12.1)	-	ABGHLN	灰 N-6/	B	胴部片	外面：平行タタキ 内面：同芯円状のアテ具痕	末野産
67	ミニチュア土器 台付甕ヵ	-	(6.0)	5.5	EIM	外面：にぶい褐 7.5YR-5/3 内面：にぶい橙 7.5YR-6/4	B	脚部 100%	外面：ヘラケズリ 内面：胴部・脚部ヘラナデ	
68	土師器 甕	(20.0)	(6.7)	-	ABDI	外面：灰黄 2.5Y-6/2 内面：にぶい褐 7.5YR-6/3	B	口縁～頸部片	外面：ヘラケズリ後指頭圧痕 内面：ヘラナデ	
69	土師器 甑	-	(11.9)	(8.4)	ABDEGLN	外面：灰赤 2.5YR-6/2 内面：明赤褐 5YR-5/8	B	胴部下半片	単孔式 外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
70	土師器 甑	-	(5.5)	11.0	ABEIMN	外面：にぶい橙 5YR-7/4 内面：橙 5YR-6/8	B	胴部下半片	単孔式 外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
71	土師器 坏	(12.0)	(3.4)	-	EIM	明赤褐 2.5YR-5/6	B	口縁～底部片	外面：摩耗顕著で調整痕不明 内面：放射状暗文	
72	土師器 坏	(13.0)	(2.6)	-	ABI	外面：灰黄褐 10YR-5/2 内面：灰褐 7.5YR-5/2	B	口縁部片	外面：底部ヘラケズリ 内面：放射状暗文	内面黒色処理 丸底
73	土師器 坏	(10.0)	(2.7)	-	ABDI	外面：にぶい橙 5YR-6/4 内面：にぶい橙 7.5YR-6/4	B	口縁部片	外面：底部ヘラケズリ 内面：放射状暗文	丸底
74	土師器 坏	(13.4)	(3.1)	-	ABIJM	外面：灰黄褐 10YR-5/2 内面：灰褐 7.5YR-5/2	B	口縁～底部 20%	外面：底部ヘラケズリ 内面：指頭圧痕	丸底
75	土師器 坏	(12.0)	(2.0)	-	ABIK	外面：灰黄褐 10YR-6/2 内面：にぶい黄橙 10YR-6/3	B	口縁部 20%	外面：底部ヘラケズリ 内面：放射状暗文	
76	土師器 坏	(14.0)	(3.3)	-	DIM	外面：にぶい黄橙 10YR-6/3 内面：明赤褐 2.5YR-5/6	B	口縁～底部 30%	外面：指頭圧痕、底部ヘラケズリ 内面：密な放射状暗文	
77	土師器 坏	(14.0)	(2.8)	-	DIM	にぶい赤褐 5YR-5/3	B	口縁～底部 20%	外面：指頭圧痕、底部ヘラケズリ 内面：放射状暗文	
78	土師器 坏	(13.0)	(2.7)	-	ABIJK	にぶい褐 7.5YR-5/4	B	口縁～底部 20%	外面：底部ヘラケズリ 内面：指ナデ	内面スス付着

第 18 表　第２号河川跡出土遺物観察表(3)（第 64 ～ 68 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
79	土師器 坏	14.0	3.3	-	AIM	灰白 10YR-7/1 黄灰 2.5Y-4/1	A	25%	外面：指頭圧痕、底部ヘラケズリ 内面：ヨコナデ、指頭圧痕	
80	土師器 坏	13.4	3.0	9.8	AEIM	外面：灰褐 7.5YR-6/2 内面：灰褐 7.5YR-5/2	A	70%	外面：指頭圧痕、底部ヘラケズリ 内面：放射状・螺旋状の暗文	底部内面墨書 判読不明
81	土師器 坏	(13.0)	(2.8)	-	ABGIJK	外面：にぶい橙 7.5YR-6/4 内面：にぶい黄橙 10YR-6/3	B	口縁～底部 10%	外面：ヨコナデ後指頭圧痕	
82	土師器 坏	(14.0)	(2.7)	-	DIM	にぶい橙 7.5YR-6/4	B	口縁～底部 20%	外面：指頭圧痕、底部ヘラケズリ 内面：ナデ	
83	土師器 坏	(16.0)	(3.3)	-	ABI	外面：橙 5YR-6/6 内面：にぶい橙 5YR-6/4	B	口縁～底部片	外面：指頭圧痕、底部ヘラケズリ 内面：ナデ後指頭圧痕	
84	土師器 坏	13.3	3.2	10.7	AIM	明褐灰 7.5YR-7/2	A	60%	外面：指頭圧痕、底部ヘラケズリ 内面：ナデ後指頭圧痕	
85	土師器 坏	(12.8)	2.9	-	ABEGIJK	にぶい橙 7.5YR-6/4	B	口縁～底部 30%	外面：ヨコナデ、底部ヘラケズリ 内面：ナデ後指頭圧痕	
86	土師器 坏	13.2	3.1	11.0	ABJM	にぶい褐 7.5YR-6/3	A	65%	外面：ヨコナデ後指頭圧痕、底部ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	内面部分的ススト付着
87	土師器 坏	-	(0.9)	(8.0)	ABIM	橙 5YR-6/6	B	底部 30%	外面：底部ヘラケズリ 内面：ナデ	底部外面墨書 判読不明
88	土師器 坏	-	-	-	ABIM	外面：にぶい褐 7.5YR-5/3 内面：にぶい褐 7.5YR-5/4	B	底部 10%	外面：底部ヘラケズリ 内面：ナデ	底部外面墨書 判読不明
89	土師器 坏	-	-	-	ABIM	外面：橙 5YR-6/6 内面：にぶい黄橙 10YR-7/3	B	底部 10%	外面：底部ヘラケズリ 内面：ナデ	底部外面墨書 判読不明
90	土師器 坏	-	-	-	ABJMN	外面：にぶい黄橙 10YR-6/3 内面：にぶい褐 7.5YR-5/3	B	底部 10%	外面：底部ヘラケズリ 内面：ナデ	底部外面墨書 判読不明
91	須恵器 坏	13.2	3.8	7.8	AB	外面：灰黄 2.5Y-6/2 内面：にぶい黄褐 10YR-4/3	B	100%	外面：底部糸切り離し後、全面ヘラケズリ	末野産
92	須恵器 坏	(12.4)	3.9	6.9	ABFI	外面：褐灰 10YR-6/1 内面：灰黄褐 10YR-6/2	B	口縁～底部 70%	外面：糸切り離し後、底部周縁回転ヘラケズリ	底部外面に焼成後の刻印「Λ」 南比企産
93	須恵器 坏	(13.9)	4.0	7.8	ABMN	外面：灰白 2.5YR-7/1 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	B	60%	外面：糸切り離し後、底部周縁回転ヘラケズリ	末野産
94	須恵器 坏	(12.6)	(3.9)	-	ABG	外面：暗灰黄 2.5Y-5/2 内面：にぶい黄褐 10YR-5/4	B	口縁～底部片	体部内湾気味に立ち上がる	末野産
95	須恵器 坏	(14.0)	(3.0)	-	AFG	外面：黄灰 2.5Y-6/1 内面：灰黄褐 10YR-5/2	B	口縁部片	体部直線的に立ち上がる	南比企産
96	須恵器 坏	(13.0)	(2.9)	-	ABM	褐灰 7.5YR-5/1	B	口縁部片	体部外反気味に立ち上がる	末野産
97	須恵器 坏	-	(2.3)	(7.0)	AFMN	灰 N-6/	B	底部片	外面：糸切り離し後、底部周縁回転ヘラケズリ	南比企産
98	須恵器 高台坏	-	(2.5)	(7.0)	ABHM	灰 N-6/	B	底部 40%	外面：底部糸切り離し後高台貼付	末野産
99	須恵器 坏	13.8	3.4	8.2	AGJLMN	灰白 5Y-7/1 明赤褐 2.5YR-5/6	B	口縁～底部片	外面：底部糸切り離し無調整、胴部下端ヘラケズリ	体部・底部外面墨書 判読不明 底部外面焼成後の線刻「Λ」 南比企産
100	須恵器 坏	13.9	3.5	8.0	ABF	外面：灰白 10YR-7/1 内面：灰黄褐 10YR-6/2	B	60%	外面：底部糸切り離し後周縁回転ヘラケズリ	底部外面「×」墨書 南比企産
101	須恵器 坏	(13.0)	3.9	7.1	AFGM	外面：褐灰 10YR-4/1 内面：褐灰 10YR-5/1	B	70%	外面：底部糸切り離し後周縁回転ヘラケズリ	底部外面墨痕 南比企産
102	須恵器 坏	-	(0.6)	6.6	M	外面：褐灰 10YR-5/1 内面：灰黄褐 10YR-5/2	B	底部 80%	外面：底部糸切り離し後周縁回転ヘラケズリ	底部外面墨書 「●殿ヵ」 末野産
103	須恵器 坏	-	(1.2)	(8.0)	ABFM	灰白 2.5Y-7/1	B	底部片	外面：底部糸切り離し後周縁回転ヘラケズリ	底部外面墨書 判読不明 南比企産

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
104	須恵器 坏	-	(0.8)	(8.4)	AIM	灰白 10YR-7/1	B	底部片	外面：底部全面回転ヘラケズリ	底部外面墨書 判読不明 末野産
105	須恵器 小型長頸壺	-	(6.0)	7.4	AF	褐灰 7.5YR-6/1	A	胴部～底部 95%	外面：回転糸切り離し無調整、胴部下端ヘラケズリ	底部焼成前の十字括り紐痕 南比企産
106	須恵器 蓋	(24.0)	(2.5)	-	ABFI	外面：灰白 2.5Y7/1 内面：灰白 10YR-7/1	B	蓋片	外面：端部強く屈曲、天井部回転ヘラケズリ	南比企産
107	須恵器 甕	-	(5.3)	(18.2)	ABGLN	外面：灰 N-4/ 内面：灰 N-6/	B	底部片	外面：平行タタキ後部分的ヘラケズリ 内面：無文アテ具痕	末野産
108	須恵器 甕	-	(34.6)	15.6	ABMN	外面：灰オリーブ 灰白 N-7/ 内面：灰 N-6/	A	80%	外面：胴部平行タタキ、下端ヘラケズリ 内面：無文アテ具痕	口縁部を打ち欠いたままで窯入れヵ 全面自然釉
109	陶器 片口鉢	-	(7.2)	(12.0)	ABFM	外面：にぶい褐 7.5YR-5/3 内面：灰赤 7.5R-5/2	B	体部～底部 20%	外面：縦方向のケズリ 内面：磨れている	常滑系 片口鉢Ⅱ類
110	陶器 小壺	(6.8)	(3.9)	-	AB	外面：浅黄 2.5Y-7/3 内面：浅黄 2.7Y-7/3 黄灰 2.5Y-4/1	A	口縁～肩部 30%	外面：肩部櫛描沈線、縦方向の耳 1 ヵ所 口唇部を除き内外面に灰釉	瀬戸美濃系 連房期
111	土製品 土錘	最大長 2.6　最大幅 1.0　孔径　0.2　重さ 1.9 g						完形	棒状工具に巻きつけ手捏ね成形	
112	土製品 土錘	最大長 (6.5)　最大幅 (1.7)　孔径　1.8　重さ 36.3 g						25% 残存	外面：指ナデ	円柱形
113	石器 打製石斧	最大長 (5.3)　最大幅 4.4　最大厚 1.3　重さ 45.8 g						刃部欠損	打製石斧の基部	黒色頁岩
114	石器 磨石	最大長 (5.6)　最大幅 (4.4)　最大厚 1.6　重さ 51.8 g						一部残存	両側欠損、断面偏平	砂岩
115	石器 磨製石斧	最大長 11.5　最大幅 6.9　最大厚 3.7　重さ 507 g						完形	太型蛤刃石斧、全面研磨されており、刃部の表裏面に縦方向の細かな研ぎ痕、中央部に柄装着痕	閃緑岩
116	石器 磨石	最大長 15.8　最大幅 6.5　最大厚 5.4　重さ 820 g						完形	一面に磨痕	砂岩 リング状にスス付着
117	石器 磨石	最大長 8.2　最大幅 5.5　最大厚 1.4　重さ 93 g						完形	石錘にも利用ヵ 磨面は 1 面で、裏面に敲打痕	砂岩
118	石器 砥石	最大長 17.5　最大幅 9.8　最大厚 7.7　重さ 2200 g						半分欠損	砥面は 4 面 筋状の砥面は 2 条、端部に敲打痕と深さ 12mm の窪み	砂岩
119	石器 磨石	最大長 (8.6)　最大幅 7.2　最大厚 3.4　重さ 290 g						半分欠損	片側面に顕著な摩耗痕、先端に敲打痕と炭化物付着	玄武岩
120	石器 磨石	最大長 14.7　最大幅 12.2　最大厚 2.9　重さ 790 g						完形	偏平な両面に顕著な摩耗痕	花崗岩
121	石製品 板石塔婆	最大長 (31.8)　最大幅 (15.9)　最大厚 1.6 ～ 2.8　重さ 2110 g						破片	碑面：「弥陀佛」ヵ	
122	石製品 板石塔婆	最大長 29.4　最大幅 19.3　最大厚 2.7 ～ 2.8　重さ 2320 g						破片	碑面：異体阿弥陀種子、額線 裏面：ノミ痕	
123	木製品 板材	残存長 72.2　最大幅 12.8　最大厚 4.8						完形	木取は板目	
124	木製品 杭	残存長 49.6　最大径 4.2						完形	木取は芯持丸木、片端を鉈状工具で鋭利に削る	
125	木製品 杭	残存長 106.0　最大幅 12.8　最大厚 12.6						完形	木取は芯持角柱、4 寸角柱を堰の杭として再利用、片端を鉈状工具で鋭利に削る	
126	木製品 杭	残存長 138.4　最大径 6.5						完形	木取は芯持丸木、片端を鉈状工具で鋭利に削る	
127	木製品 杭	残存長 84.4　最大径 14.2						完形	木取は芯持丸木、樹皮を残す、片端を鉈状工具で鋭利に削る	
128	木製品 杭	残存長 57.6　最大径 7.2						完形	木取は芯持丸木、片端を鉈状工具で鋭利に削る	

第３号河川跡（第 69、70 図）

Ｗ－ 20 グリッドから検出した。第 57 号溝跡と重複し、その溝跡を切っていた。

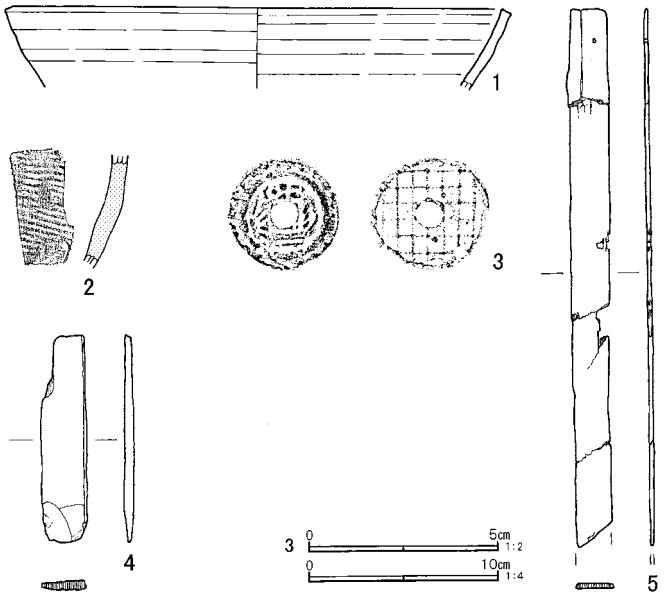
大半が調査区域外であり、流路方向は検出範囲が狭小であったため不明である。

規模は、検出長 4.15 ｍ、検出幅 2.72 ｍ、最大の深さは確認面から 0.72 ｍであった。本遺構は河川跡としたが、溝跡の可能性も考えられる。

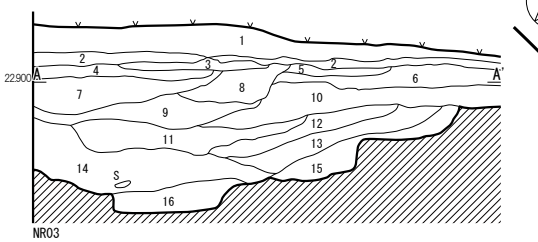
土層断面を観察すると、16 層に渡る堆積がみられ、堆積状況から１回の埋没後、掘り直されていることから、水路としての利用があったことが推定される。底部付近は黒褐、オリーブ黒色粘質土、そこから４層程度が堆積した後、再度掘り直されたようで、木片などを含む３層（９、15、16 層）が堆積していた。

出土遺物は掘削範囲が狭小であったためわずかであるが、瓦質土器土鍋、灰釉陶器瓶などが検出している。

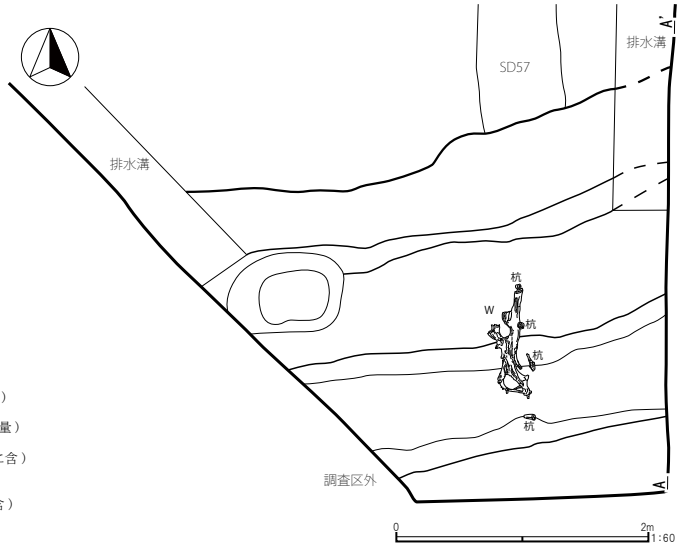
出土遺物からこの河川は近世であろうと推定される。



第 69 図　第３号河川跡出土遺物



1．表土
2．黒褐 2.5Y-3/1（しまりやや弱 砂質 火山灰粒子微量）
3．灰黄褐 10YR-5/2（しまり強 やや砂質 火山灰粒子含）
4．褐灰 10YR-5/1（しまりやや強 砂質 火山灰粒子多量）
5．灰 10Y-5/1（しまりやや弱 FeO_x微量）
6．暗オリーブ灰 2.5GY-4/1（しまり強 やや粘質 FeO_x含 火山灰微量）
7．褐灰 10YR-4/1（しまりやや強 やや砂質 火山灰粒子多量 黒褐色土粒子多量）
8．灰黄 2.5Y-6/2（しまり弱 黒褐色土ブロック・粒子多量 火山灰多量）
9．黄灰 2.5Y-4/1（しまりやや弱 ややシルト質 木片わずかに含 火山灰粒子多量）
10．暗オリーブ灰 2.5GY-4/1（しまりやや強 粘質 FeO_x多量）
11．暗オリーブ灰 5GY-3/1（しまりやや弱 一部シルト質 FeO_x多量 木片わずかに含）
12．暗オリーブ灰 2.5GY-4/1（しまりやや強 やや粘質 FeO_x微量）
13．オリーブ黒 5Y-3/1（しまりやや強 粘質 一部シルト質 FeO_x微量）
14．オリーブ黒 10Y-3/1（しまり弱 粘質 一部シルト質 灰白色土ブロック一部含）
15．黒 5Y-2/1（しまり強 粘質 FeO_x少量）
16．黒褐 10YR-3/1（しまり弱 粘質 暗緑灰色土ブロック微量）



第 70 図　第３号河川跡

第 19 表　第３号河川跡出土遺物観察表（第 69 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1	瓦質土器 土鍋	(27.0)	(4.3)	-	ABIM	にぶい黄橙 10YR-7/3	B	口縁部 5%	口唇部内外面に若干突出 内外面：ロクロ痕顕著	
2	灰釉陶器 瓶	-	-	-	ABI	外面：灰白 2.5Y7/1 内面：灰白 10YR-7/1	B	胴部片	外面：平行タタキ、釉刷毛塗り	猿投産
3	金属製品 メダル	直径 3.0㎝　厚さ 2.0 ～ 2.5㎜　重さ 13.1g						完形	粗悪な鋳造、表面が両側から垂れる稲穂、裏面は格子のデザイン	材質は鉛合金、近代の所産とみられる
4	木製品 板材	残存長 11.0　最大幅 2.4　最大厚 0.5						一部欠損	木取は柾目、片端に削り痕	
5	木製品 板材	残存長 28.6　最大幅 2.0　最大厚 0.2						一部欠損	木取は柾目、片端穿孔、檜扇カ、木取りからすると折敷カ	

5　溝跡

第１号溝跡（第 71 図）

Ａ・Ｂ－２グリッドから検出した。隣接する第１号方形周溝墓の範囲確認のためトレンチ調査の際に検出したもので、調査範囲は一部のみである。

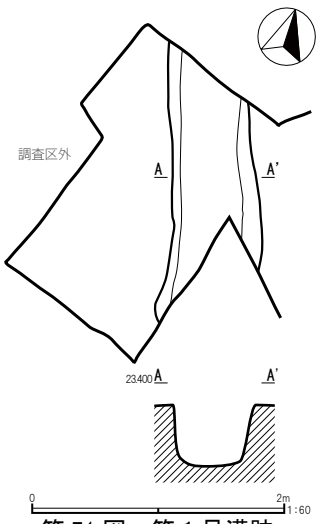
本遺構は、検出範囲はわずかであるが、ほぼ南北に延伸している。

規模は、検出長 1.97 ｍ程度、検出幅 0.62 ～ 0.72 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.23 ｍを測った。

平面形は、ほぼ一定の溝幅をもち、底部は、平坦ではなく起伏が目立ち、北から南に向かって傾きをもつ。

断面は、不明であるが自然堆積により埋没したと思われる。

出土遺物は、検出されなかった。



第 71 図　第１号溝跡

第２号溝跡（第 72 図）

Ｂ－２グリッドから検出した。第１号方形周溝墓と重複しており、第１号方形周溝墓を切っていた。

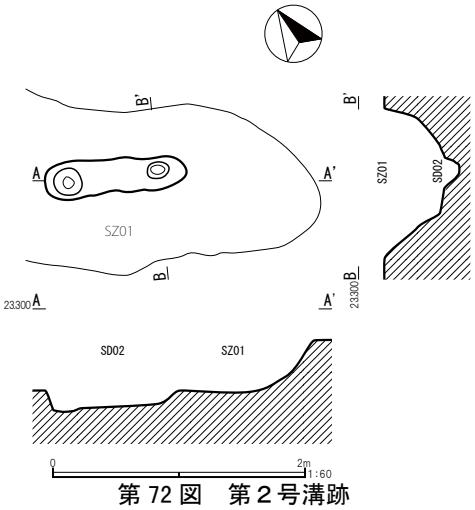
本遺構は、検出範囲はわずかであるが、ほぼ東西に延伸している。

規模は、検出長 1.12 ｍ程度、検出幅 0.24 ～ 0.30 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.59 ｍを測った。

平面形は、ほぼ一定の溝幅をもち、底部は、平坦ではなく両端にピット状の落ち込みをもつ。

断面は不明であるが自然堆積により埋没したと思われる。

出土遺物は、検出されなかった。



第 72 図　第２号溝跡

第３号溝跡（第 73 図）

Ｂ・Ｃ－２グリッドから検出した。第１号住居跡と重複関係にあり、第１号住居跡を切っていた。攪乱により一部が消失していた。

本遺構は、切り合い関係にある第１号住居跡から南西に向かって延伸し、途中やや南に角度を変え、南の攪乱へ抜け、消失する。

規模は、検出長 11.05 ｍ程度、検出幅 0.19 ～ 0.44 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.07 ～ 0.13 ｍを測った。

平面形は、南進するにつれ溝幅が狭くなり、底部は、起伏もあるがほぼ平坦であり、北から南に向かって傾きをもつ。

断面は、断面観察から、コの字状を呈し、２層～４層の堆積が確認できた。いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

出土遺物は、検出されなかった。

第４号溝跡（第 74 図）

Ｂ～Ｄ－３、Ｄ～Ｆ－４グリッドから検出した。第２、４、５号住居跡、第１号土坑、第５、６、９号溝跡と重複関係にあり、重複関係にあるすべての遺構を切っていた。また攪乱により一部が消失していた。

本遺構は、切り合い関係にある第４号住居跡から南西に向かって延伸し、途中北西に角度を変え、南西隅の調査区域へ抜ける。

規模は、検出長 42.99 ｍ程度、検出幅 0.24 ～ 0.47 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.06 ～ 0.15 ｍを測った。

平面形は、溝幅は一定の幅で、底部は、起伏もあるがほぼ平坦であり、傾斜などはみられなかった。

断面は、断面観察から、掘り方はややつぶれたコの字状を呈し、最大２層程度の堆積が確認できた。いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と考えられる。

出土遺物は、検出されなかった。

第５号溝跡（第 75 図）

Ｂ・Ｃ－３、Ｃ－４グリッドから検出した。第７号住居跡、第４号溝跡と重複関係にあり、第７号住居を切り、第４号溝跡に切られていた。

本遺構は、切り合い関係にある第７号住居跡から北西に向かって延伸し、第４号溝跡付近で収束する。

規模は、検出長 6.79 ｍ程度、検出幅 3.37 ～ 4.55 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.15 ｍを測った。

平面形は、溝幅は一定の幅で、底部は、起伏もあるがほぼ平坦であり、傾斜などはみられなかった。

断面は、断面観察から、掘り方はややつぶれたコの字状を呈し、最大２層程度の堆積が確認できた。

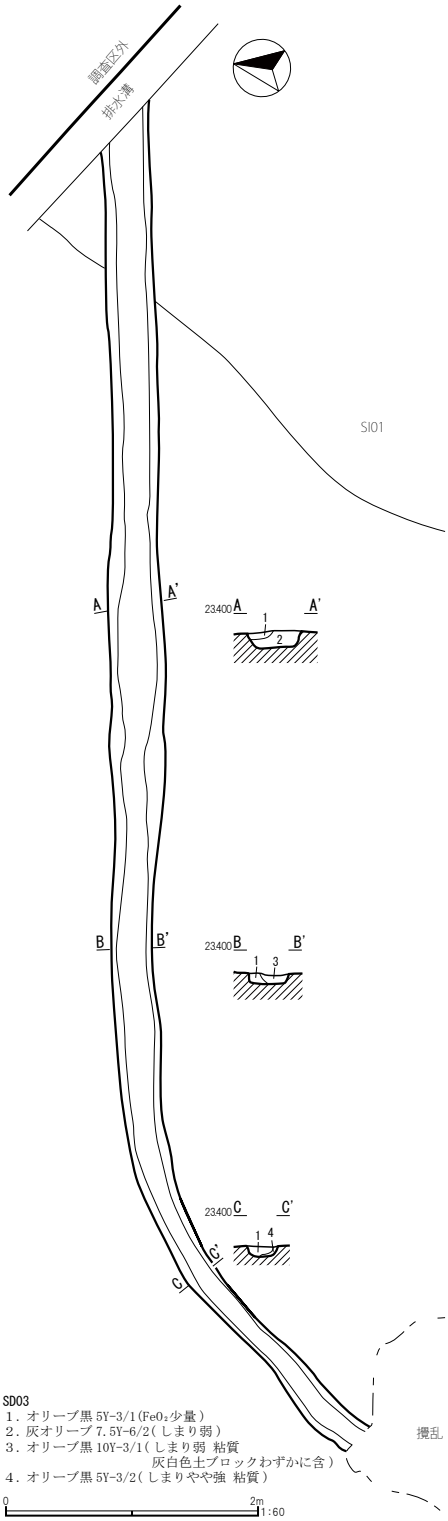
出土遺物は、検出されなかった。

第６号溝跡（第 76 図）

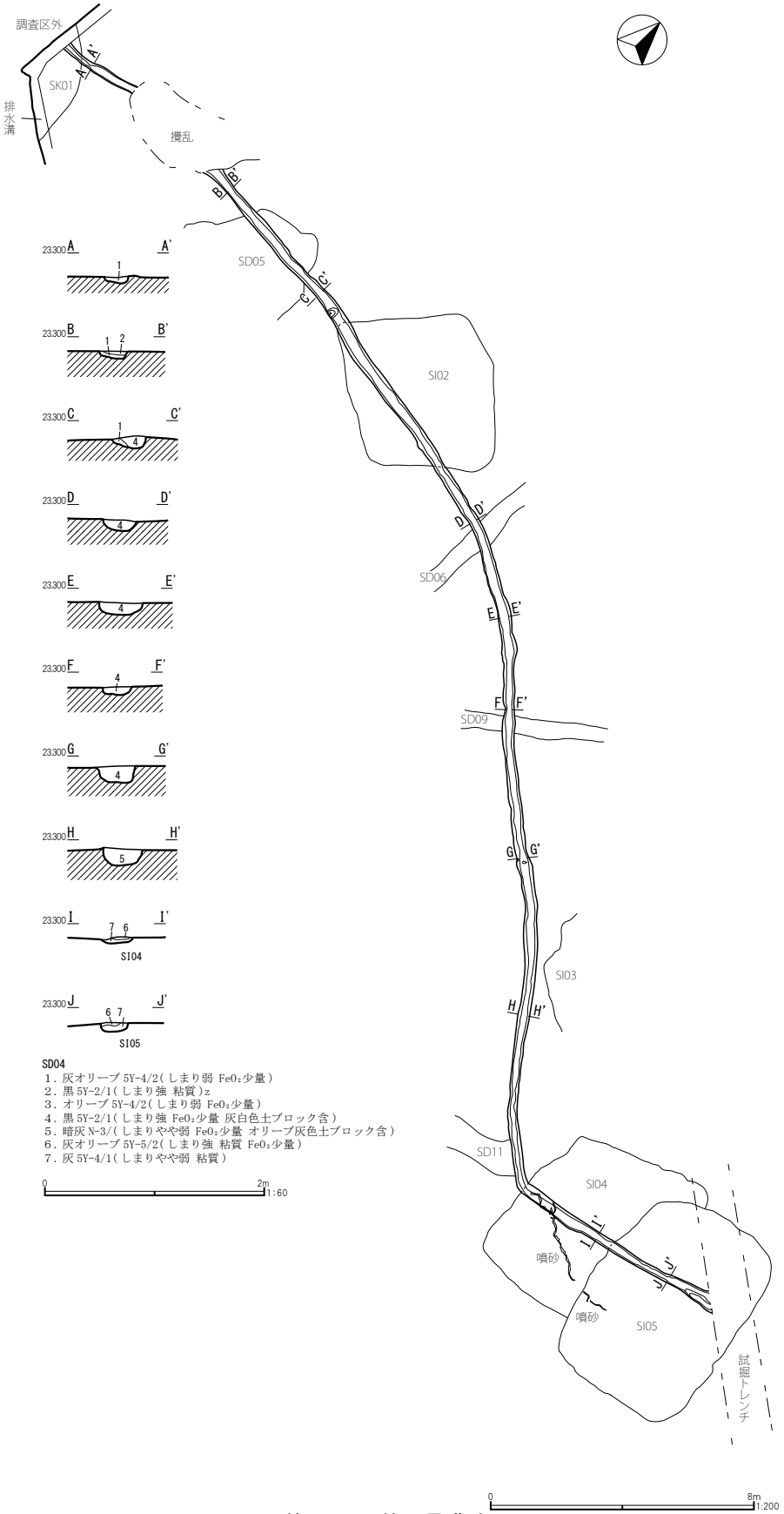
Ｄ－２～４グリッドから検出した。第１号住居跡、第２号方形周溝墓、第９号溝跡、第 32 号ピットと重複関係にあり、重複関係にある第４号溝跡、第 32 号ピットに切られ、それ以外の重複関係にある遺構に切っていた。

本遺構は、北壁の調査区域外から南に向かって延伸し、第２号方形周溝墓先で収束する。

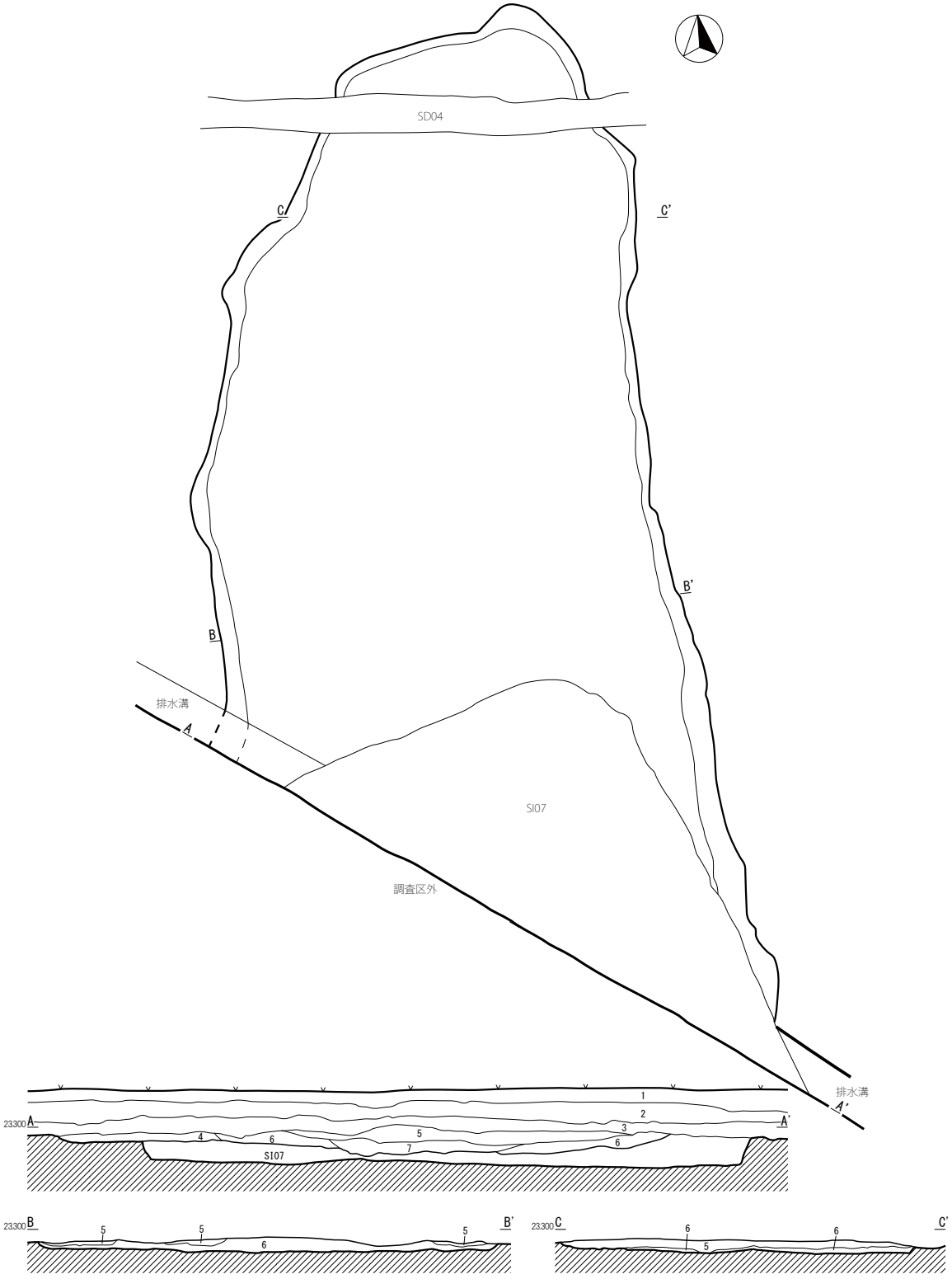
規模は、検出長 15.97 ｍ程度、検出幅 0.51 ～ 0.95 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.08 ～ 0.10 ｍを測った。深さが浅いため、



第 73 図　第３号溝跡


調査区外
SK01
排水溝
攪乱
SD05
SI02
SD06
SD09
SI03
SD11
SI04
噴砂
噴砂
SI05
試掘トレンチ
SI04
SI05
SD04
1．灰オリーブ 5Y-4/2(しまり弱 FeO₂少量)
2．黒 5Y-2/1(しまり強 粘質)z
3．オリーブ 5Y-4/2(しまり弱 FeO₂少量)
4．黒 5Y-2/1(しまり強 FeO₂少量 灰白色土ブロック含)
5．暗灰 N-3/(しまりやや弱 FeO₂少量 オリーブ灰色土ブロック含)
6．灰オリーブ 5Y-5/2(しまり強 粘質 FeO₂少量)
7．灰 5Y-4/1(しまりやや弱 粘質)
0 2m 1:60
0 8m 1:200

第 74 図　第 4 号溝跡



SD05
1．表土
2．オリーブ黒 7.5Y-3/1（しまり強 FeO_2多量）
3．灰オリーブ 5Y-4/2（しまり弱 ややシルト質 FeO_2含）
4．灰オリーブ 7.5Y-4/2（しまりやや弱 ややシルト質 FeO_2含）
5．黒褐 2.5Y-4/2（しまり強 ややシルト質 FeO_2多量）
6．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまり強 やや粘質 FeO_2少量 灰白色土含）
7．黒 5Y-2/1（暗緑灰色土粒子わずかに含 土器片含）

0 2m 1:60

第 75 図　第５号溝跡

表土掘削時に一部が消失し、平面プランが途切れた状態になっている。

平面形は、溝幅は一部に張り出しがあるものの一定の幅をもち、底部は、ほぼ平坦であり、北から南へのゆるやかな傾斜を備えていた。

断面は、断面観察から、U字を呈し、２～３層程度の堆積が確認できた。いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

出土遺物は、検出されなかった。

第７号溝跡（第 76、113 図）

Ｄ－２・３グリッドから検出した。試掘トレンチにより一部が消失していた。

本遺構は、調査区域外から南西に向かって延伸し、収束する。

規模は、検出長 3.65 ｍ程度、検出幅 1.08 ～ 1.24 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.09 ｍを測った。

平面形は、溝幅は一定の幅をもち、底部は、平坦である。傾斜は不明である。

断面は、断面観察から、２層の堆積が確認できた。いずれも水平堆積であった。

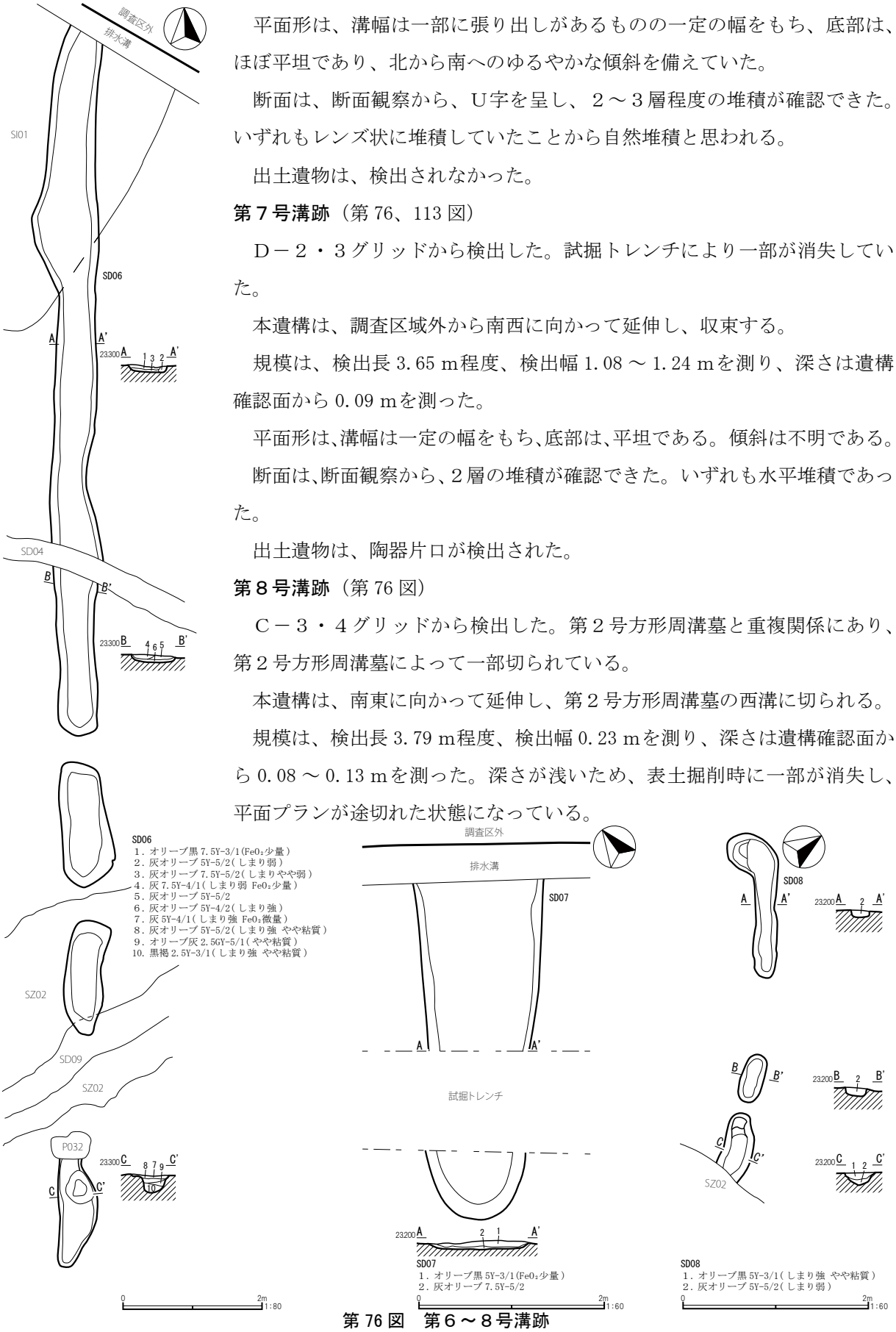
出土遺物は、陶器片口が検出された。

第８号溝跡（第 76 図）

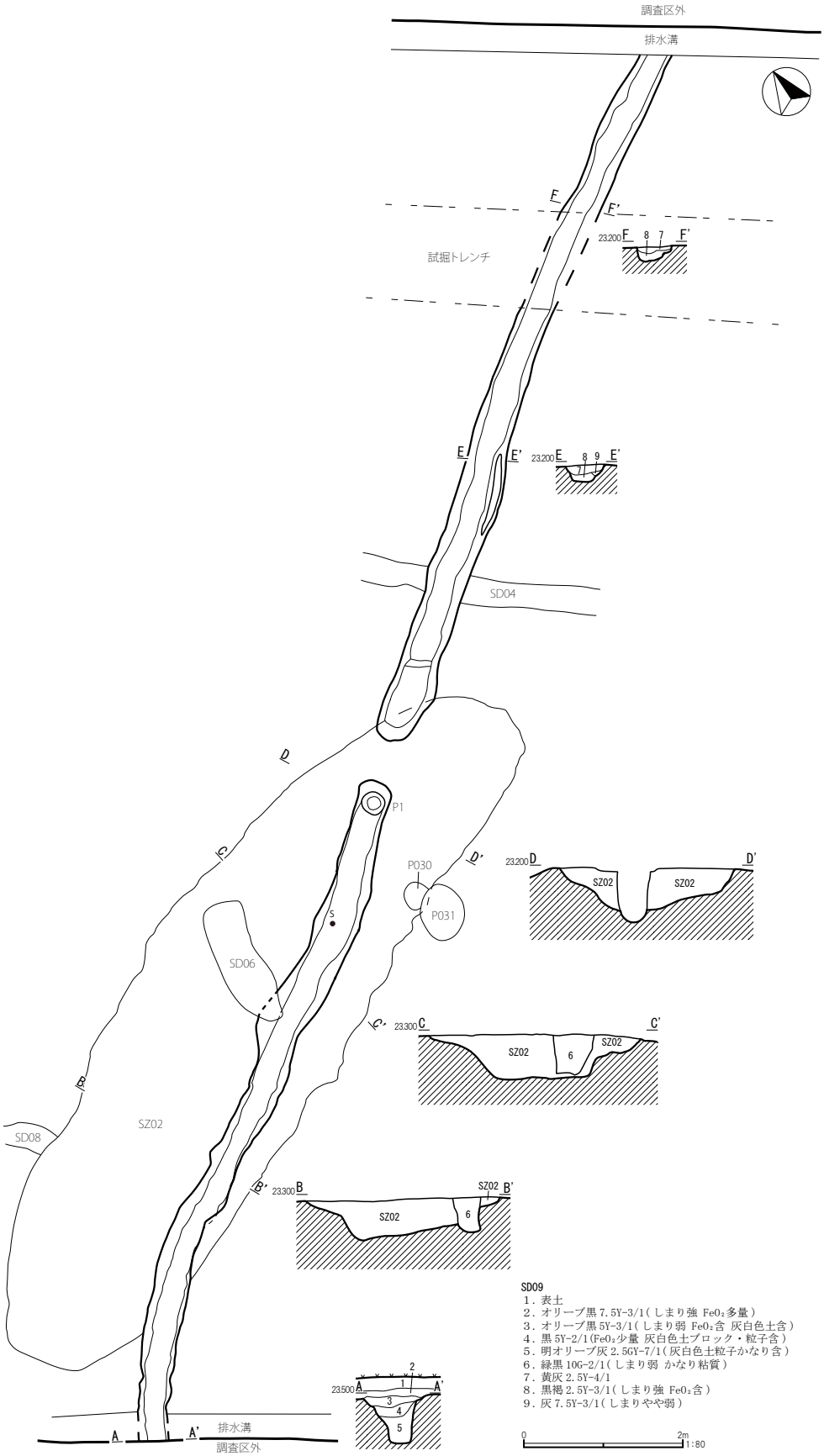
Ｃ－３・４グリッドから検出した。第２号方形周溝墓と重複関係にあり、第２号方形周溝墓によって一部切られている。

本遺構は、南東に向かって延伸し、第２号方形周溝墓の西溝に切られる。

規模は、検出長 3.79 ｍ程度、検出幅 0.23 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.08 ～ 0.13 ｍを測った。深さが浅いため、表土掘削時に一部が消失し、平面プランが途切れた状態になっている。



第 76 図　第６～８号溝跡


調査区外
排水溝
試掘トレンチ
SD04
SD06
SD08
SZ02
P1
P030
P031
SD09
1．表土
2．オリーブ黒 7.5Y-3/1（しまり強 Fe0₂多量）
3．オリーブ黒 5Y-3/1（しまり弱 Fe0₂含 灰白色土含）
4．黒 5Y-2/1(Fe0₂少量 灰白色土ブロック・粒子含）
5．明オリーブ灰 2.5GY-7/1（灰白色土粒子かなり含）
6．緑黒 10G-2/1（しまり弱 かなり粘質）
7．黄灰 2.5Y-4/1
8．黒褐 2.5Y-3/1（しまり強 Fe0₂含）
9．灰 7.5Y-3/1（しまりやや弱）
0
2m
1:80

第 77 図　第９号溝跡

平面形は、溝幅は西端が張り出した状態であるものの、一定の幅をもち、底部は、凹凸が目立つ。傾斜は第２号方形周溝墓へ向かって傾斜している。

断面は、断面観察から、１～２層の堆積が確認できた。いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

出土遺物は、検出されなかった。

第９号溝跡（第 77 図）

Ｄ・Ｅ－３、Ｃ・Ｄ－４グリッドから検出した。第２号方形周溝墓、第４・６号溝跡と重複関係にあり、第２号方形周溝墓、第４号溝跡を切っている。

本遺構は、南西に向かって延伸し、第２号方形周溝墓の西溝をへて、調査区域外へと進む。

規模は、検出長 18.11 ｍ程度、検出幅 0.34 ～ 0.58 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.51 ｍを測った。表土掘削時に一部が消失し、平面プランが途切れた状態になっている。

平面形は、溝幅は起伏があるが、一定の幅をもち、底部は凹凸が目立つ。南へ向かって傾斜している。

断面は、断面観察から、１～３層の堆積が確認できた。なお、南側は人工的に一括で埋められた形跡があった。

出土遺物は、検出されなかった。

第 10 号溝跡（第 78 図）

Ｆ－４グリッドから検出した。

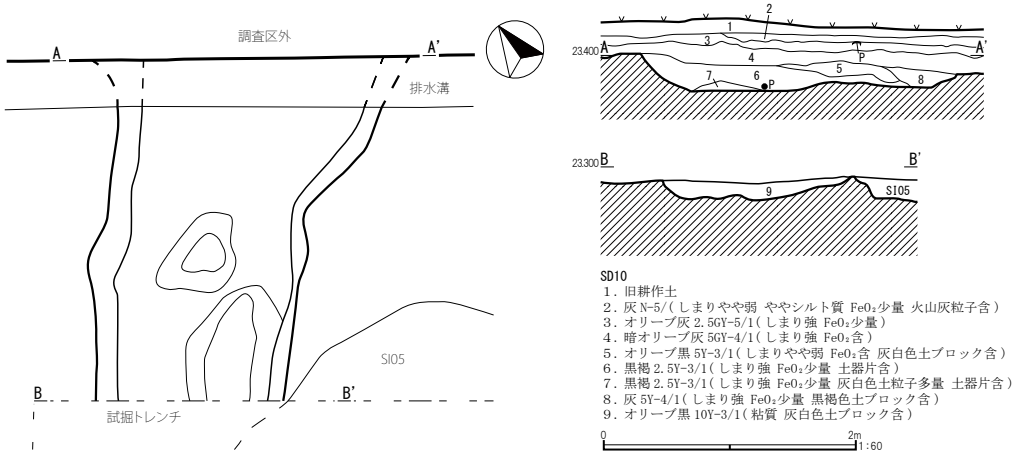
本遺構は、南西に向かって延伸し、試掘トレンチによって消失する。

規模は、検出長 2.35 ｍ程度、検出幅 1.49 ～ 2.08 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.21 ｍを測った。

平面形は、溝幅は北端が広く、その後は一定の幅をもつ。底部は凹凸が目立つ。南西へ向かって傾斜している。

断面は、断面観察から、本遺構に係る堆積は黒褐色土に、粘質ブロックの胎土が混ざる堆積で確認できた。いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

出土遺物は、検出されなかった。



第 78 図　第 10 号溝跡

第 11 号溝跡（第 79 図）

Ｄ・Ｅ－４、Ｄ－５グリッドから検出した。第２号方形周溝墓、第４、12 号溝跡、第 56 号ピットと重複関係にあり、いずれの遺構にも切られていた。

本遺構は、第４号溝跡付近から南西方向に延伸し、調査区域外まで伸びる。

規模は、検出長 11.35 ｍ程度、検出幅 0.76 ～ 1.01 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.19 ～ 0.26 ｍを測る。

平面形は、起伏があるものの、一定の幅をもち、底部は凹凸が目立つ。底部には噴砂が複数個所確認でき、南西へ向かって傾斜している。

断面は、断面観察から、３層の堆積が確認できた。いずれもレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

出土遺物は、検出されなかった。

第 12 号溝跡（第 79、113 図）

Ｄ－４・５グリッドから検出した。第 11 号溝跡と重複関係にあり、本遺構が第 11 号溝跡を切っていた。

本遺構は、第 11 号溝跡の直上に位置し、南西方向に延伸し調査区域外まで伸びる。

規模は、検出長 2.00 ｍ程度、検出幅 0.43 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.07 ｍを測る。

平面形は、検出範囲が狭小であるが、溝幅は一定で、第 11 号溝跡同様、南西へ向かって傾斜しているものと推定される。

断面は、断面観察から、１層の堆積が確認でき、自然堆積と思われる。

出土遺物は、土師器が１点のみ検出された。

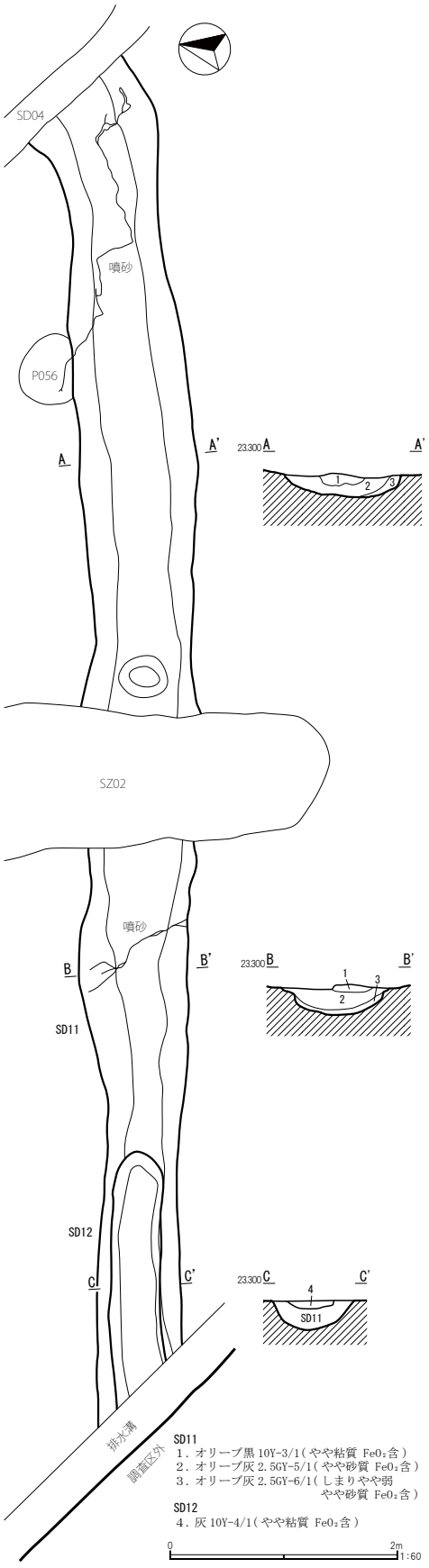
第 13 号溝跡（第 80、113 図）

Ｆ－４グリッドから検出した。

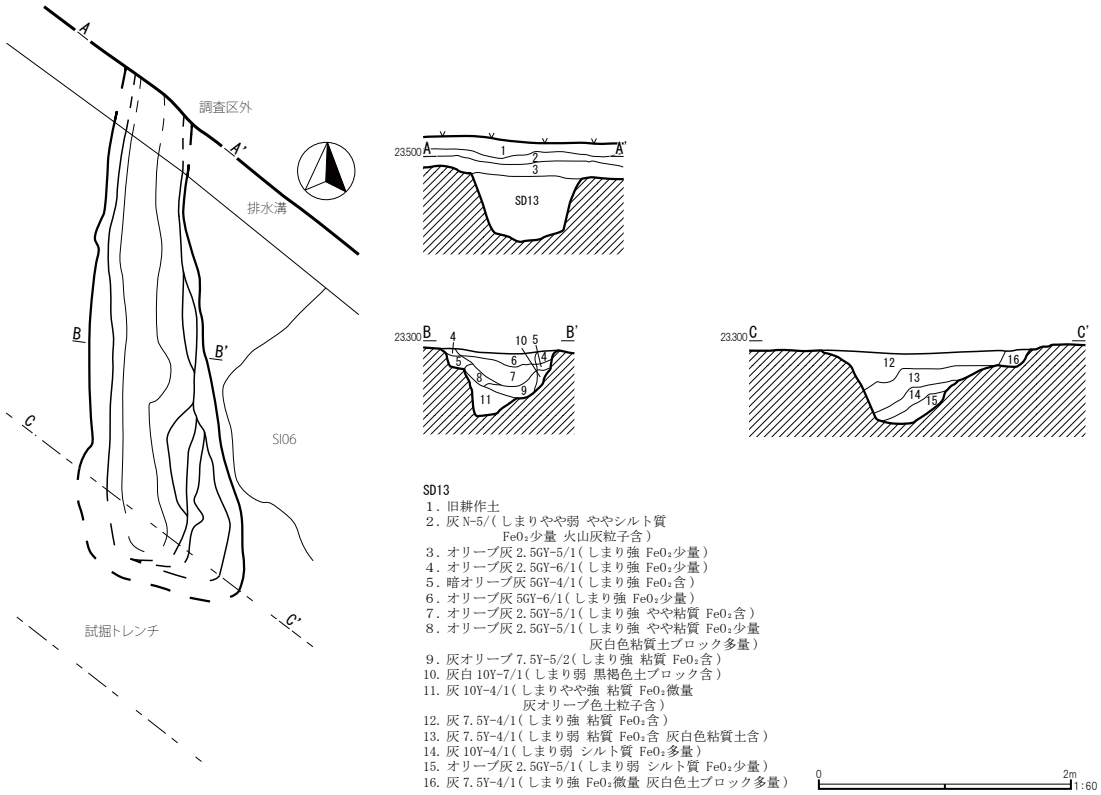
本遺構は、南方向に延伸し、試掘トレンチ付近で収束する。

規模は、検出長 3.50 ｍ程度、検出幅 0.62 ～ 1.27 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.50 ～ 0.55 ｍを測る。

平面形は、溝幅は北から南に進むにつれ広がり、南へ向かって傾斜しているものと推定される。底部は鋭角に落ち込みが確認された。



第 79 図　第 11・12 号溝跡



第 80 図　第 13 号溝跡

断面は、断面観察から、８層の堆積が確認でき、周辺からの自然堆積と思われる。

出土遺物は、弥生土器壺及び甕２点が検出され、この遺構の時期は弥生時代中期後半から末頃と考えられる。

第 14 号溝跡（第 81、113 図）

Ｆ－４、E・Ｆ－５グリッドから検出した。第３号方形周溝墓、第15号溝跡、第５号土坑、第61.62号ピットと重複関係にあり、第３号方形周溝墓、第 15 号溝跡、第５号土坑を切り、第 61.62 号ピットに切られていた。

本遺構は調査区域外から北東方向に延伸し、第 62 号ピット付近で収束する。

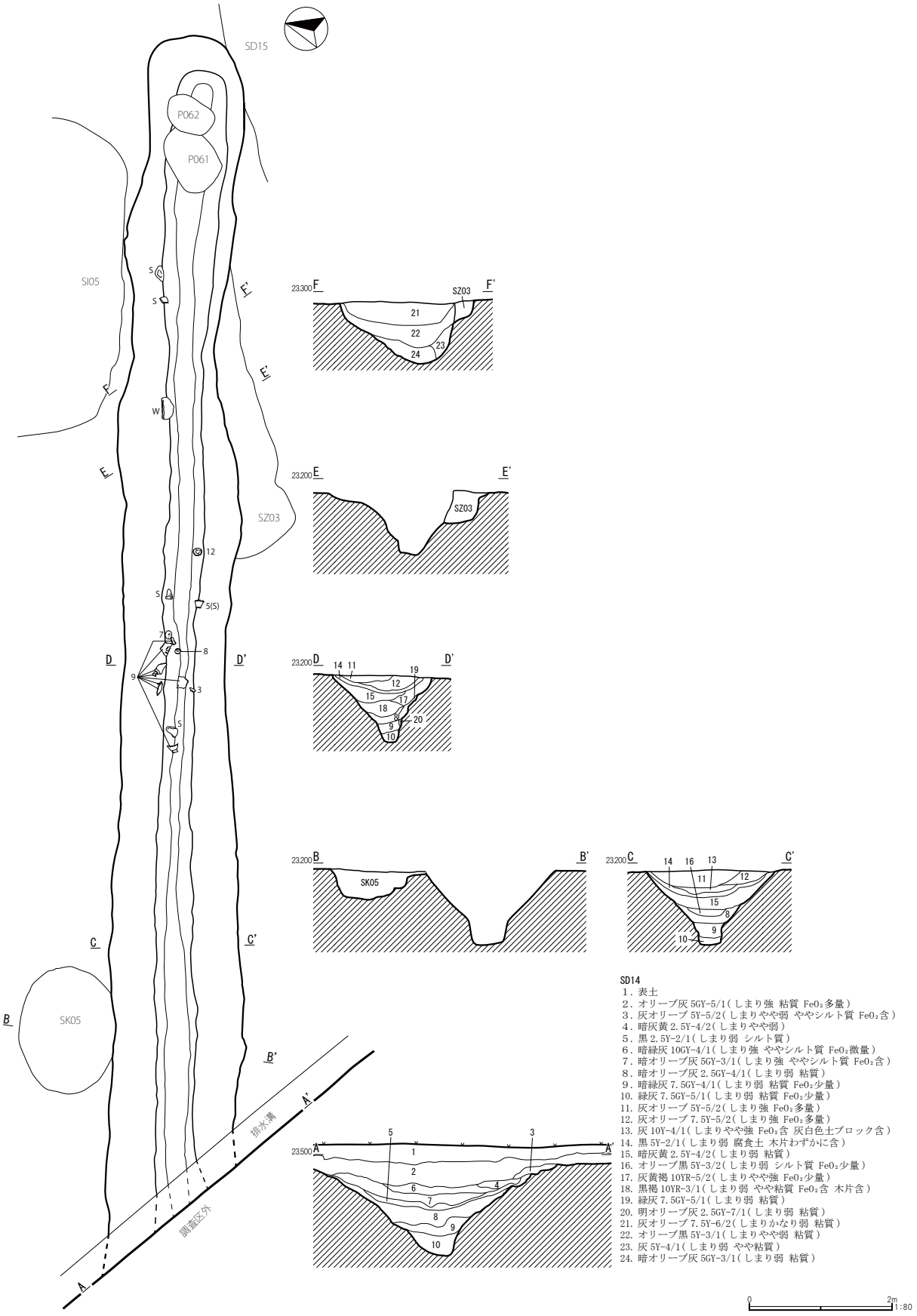
規模は、検出長 16.64 m、検出幅 1.13 ～ 1.83 mを測り、深さは遺構確認面から 0.85 ～ 1.05 mを測る。

平面形は、溝幅は東から西に進むにつれ広がり、西へ向かって傾斜しているものと推定される。底部は鋭角に落ち込みが確認された。

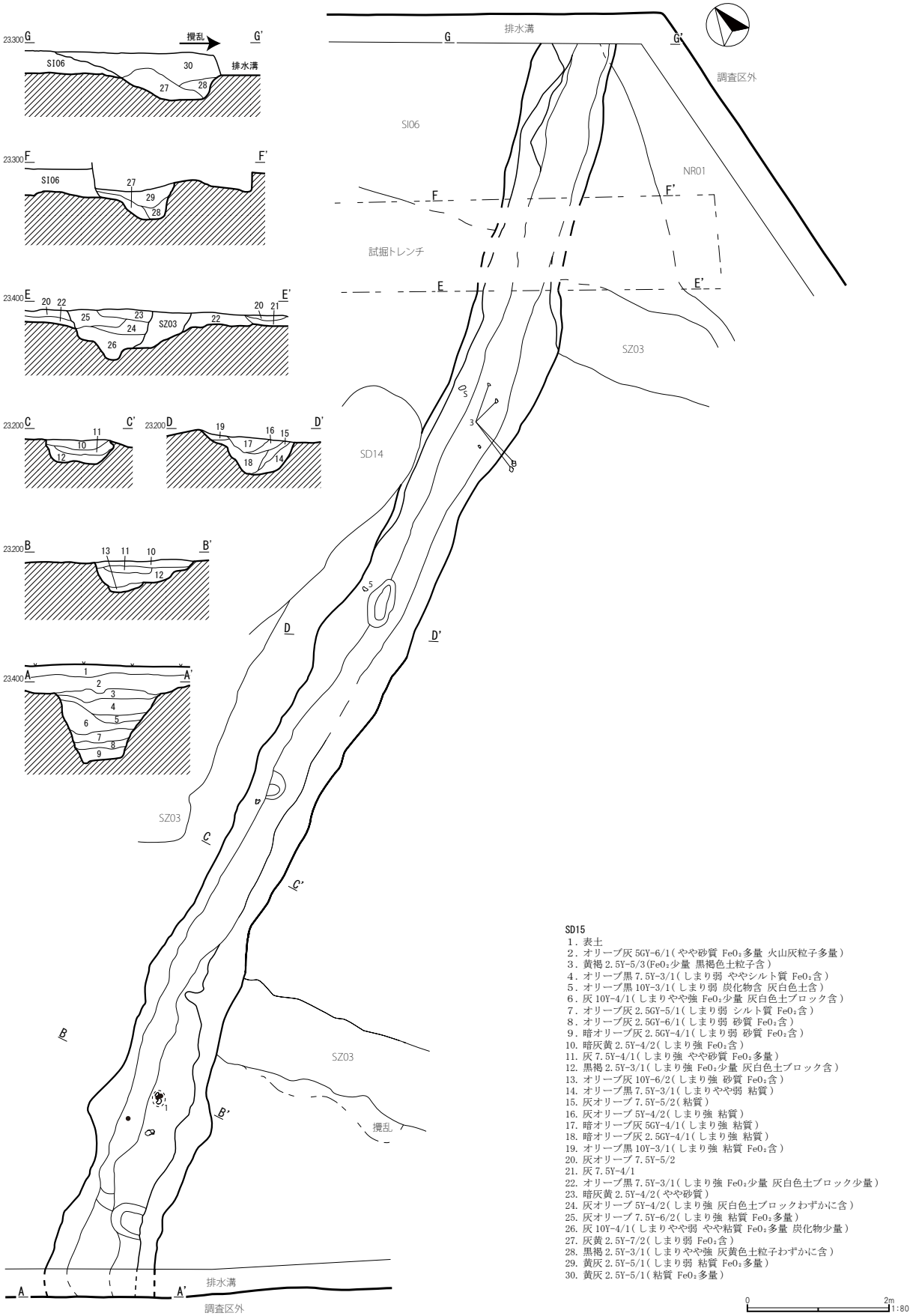
断面は、断面観察から、Ｖ字状で最大 11 層の堆積が確認でき、レンズ状堆積による自然堆積、河川の氾濫等による一括堆積と推定される。

出土遺物は、弥生土器壺、土師器坏、土師質土器、漆椀、土鍋、銭貨、石器が検出され、うち大部分は古河公方系の土師質土器が占める。

この遺構の時期は 15 Ｃ末から 16 Ｃ初ごろと考えられる。


SD15
P062
P061
SI05
SZ03
SK05
排水溝
調査区外
F
F'
E
E'
D
D'
C
C'
B
B'
A
A'
23.300
23.200
23.500
SD14
1．表土
2．オリーブ灰 5GY-5/1(しまり強 粘質 FeO₂多量)
3．灰オリーブ 5Y-5/2(しまりやや弱 ややシルト質 FeO₂含)
4．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや弱)
5．黒 2.5Y-2/1(しまり弱 シルト質)
6．暗緑灰 10GY-4/1(しまり強 ややシルト質 FeO₂微量)
7．暗オリーブ灰 5GY-3/1(しまり強 ややシルト質 FeO₂含)
8．暗オリーブ灰 2.5GY-4/1(しまり弱 粘質)
9．暗緑灰 7.5GY-4/1(しまり弱 粘質 FeO₂少量)
10. 緑灰 7.5GY-5/1(しまり弱 粘質 FeO₂少量)
11. 灰オリーブ 5Y-5/2(しまり強 FeO₂多量)
12. 灰オリーブ 7.5Y-5/2(しまり強 FeO₂多量)
13. 灰 10Y-4/1(しまりやや強 FeO₂含 灰白色土ブロック含)
14. 黒 5Y-2/1(しまり弱 腐食土 木片わずかに含)
15. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 粘質)
16. オリーブ黒 5Y-3/2(しまり弱 シルト質 FeO₂少量)
17. 灰黄褐 10YR-5/2(しまりやや強 FeO₂少量)
18. 黒褐 10YR-3/1(しまり弱 やや粘質 FeO₂含 木片含)
19. 緑灰 7.5GY-5/1(しまり弱 粘質)
20. 明オリーブ灰 2.5GY-7/1(しまり弱 粘質)
21. 灰オリーブ 7.5Y-6/2(しまりかなり弱 粘質)
22. オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや弱 粘質)
23. 灰 5Y-4/1(しまり弱 やや粘質)
24. 暗オリーブ灰 5GY-3/1(しまり弱 粘質)
0
2m
1:80

第 81 図　第 14 号溝跡



SD15
1．表土
2．オリーブ灰 5GY-6/1（やや砂質 FeO_2多量 火山灰粒子多量）
3．黄褐 2.5Y-5/3(FeO_2少量 黒褐色土粒子含）
4．オリーブ黒 7.5Y-3/1（しまり弱 ややシルト質 FeO_2含）
5．オリーブ黒 10Y-3/1（しまり弱 炭化物含 灰白色土含）
6．灰 10Y-4/1（しまりやや強 FeO_2少量 灰白色土ブロック含）
7．オリーブ灰 2.5GY-5/1（しまり弱 シルト質 FeO_2含）
8．オリーブ灰 2.5GY-6/1（しまり弱 砂質 FeO_2含）
9．暗オリーブ灰 2.5GY-4/1（しまり弱 砂質 FeO_2含）
10．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまり強 FeO_2含）
11．灰 7.5Y-4/1（しまり強 やや砂質 FeO_2多量）
12．黒褐 2.5Y-3/1（しまり強 FeO_2少量 灰白色土ブロック含）
13．オリーブ灰 10Y-6/2（しまり強 砂質 FeO_2含）
14．オリーブ黒 7.5Y-3/1（しまりやや弱 粘質）
15．灰オリーブ 7.5Y-5/2（粘質）
16．灰オリーブ 5Y-4/2（しまり強 粘質）
17．暗オリーブ灰 5GY-4/1（しまり強 粘質）
18．暗オリーブ灰 2.5GY-4/1（しまり強 粘質）
19．オリーブ黒 10Y-3/1（しまり強 粘質 FeO_2含）
20．灰オリーブ 7.5Y-5/2
21．灰 7.5Y-4/1
22．オリーブ黒 7.5Y-3/1（しまり強 FeO_2少量 灰白色土ブロック少量）
23．暗灰黄 2.5Y-4/2（やや砂質）
24．灰オリーブ 5Y-4/2（しまり強 灰白色土ブロックわずかに含）
25．灰オリーブ 7.5Y-6/2（しまり強 粘質 FeO_2多量）
26．灰 10Y-4/1（しまりやや弱 やや粘質 FeO_2多量 炭化物少量）
27．灰黄 2.5Y-7/2（しまり弱 FeO_2含）
28．黒褐 2.5Y-3/1（しまりやや強 灰黄色土粒子わずかに含）
29．黄灰 2.5Y-5/1（しまり弱 粘質 FeO_2多量）
30．黄灰 2.5Y-5/1（粘質 FeO_2多量）

0 2m 1:80

第 82 図　第 15 号溝跡

第 15 号溝跡（第 82、113 図）

Ｆ・Ｇ－４、Ｅ・Ｆ－５グリッドから検出した。第６号住居跡、第３号方形周溝墓、第 14 号溝跡と重複関係にあり、第６号住居跡、第３号方形周溝墓を切り、第 14 号溝跡に切られていた。

本遺構は調査区域外から北東方向に延伸し、再び調査区域外へと抜ける。

規模は、検出長 19.07 ｍ程度、検出幅 0.87 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.34 ～ 0.72 ｍを測る。

平面形は、溝幅はほぼ一定の間隔で、南へ向かって傾斜している。特に南壁付近では 20cm 程度の傾斜が確認できる。

断面は、断面観察から、逆台形状で最大７層の堆積が確認でき、レンズ状堆積による自然堆積や河川の氾濫等による堆積と推定される。

出土遺物は、弥生土器甕、土師器甕・坏、須恵器甕・坏・高台坏が検出された。

重複関係にある遺構の切り合い関係から弥生時代後期以降と考えられる。

第 16 号溝跡（第 83、113 図）

Ｆ－５・６グリッドから検出した。第１号河川跡、第３号方形周溝墓と重複関係にあり、第３号方形周溝墓を切り、第１号河川跡に切られていた。

本遺構は重複する第１号河川跡から南東方向に延伸し、調査区域外へと抜ける。

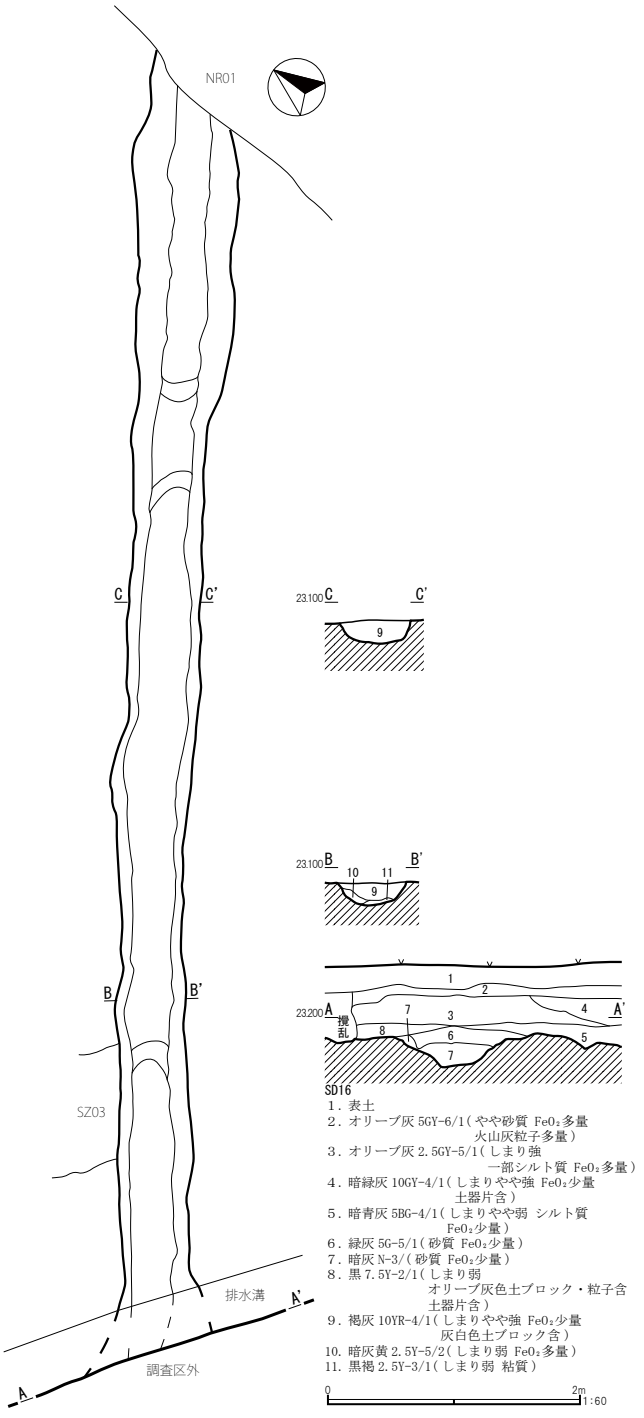
規模は、検出長 9.51 ｍ程度、検出幅 0.48 ～ 0.84 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.18 ～ 0.19 ｍを測る。

平面形は､溝幅は第１号河川跡付近が最大で、そこから窄むように間隔が狭くなる。床面は凹凸が多く、かろうじて南東方向に傾斜するが、検出範囲が極小のため詳細は不明である。

断面は、断面観察から、最大２層の堆積が確認でき、自然堆積と考えられるが、隣接する第１号河川跡の影響も考えられる。

出土遺物は、弥生土器甕、細片で土師器片が検出された。

この遺構の時期は、出土量や重複関係にある遺構の切り合い関係から第３号方形形周溝墓の弥生時代後期以降と考えられる。



第 83 図　第 16 号溝跡

第 17 号溝跡（第 84、113、114 図）

Ｌ－ 10・11 グリッドから検出した。第４号方形周溝墓、第２号河川跡と重複関係にあり、第４号方形周溝墓を切り、第２号河川跡に切られていた。

本遺構は重複する第４号方形周溝墓から南に延伸し、調査区域外へと抜ける。

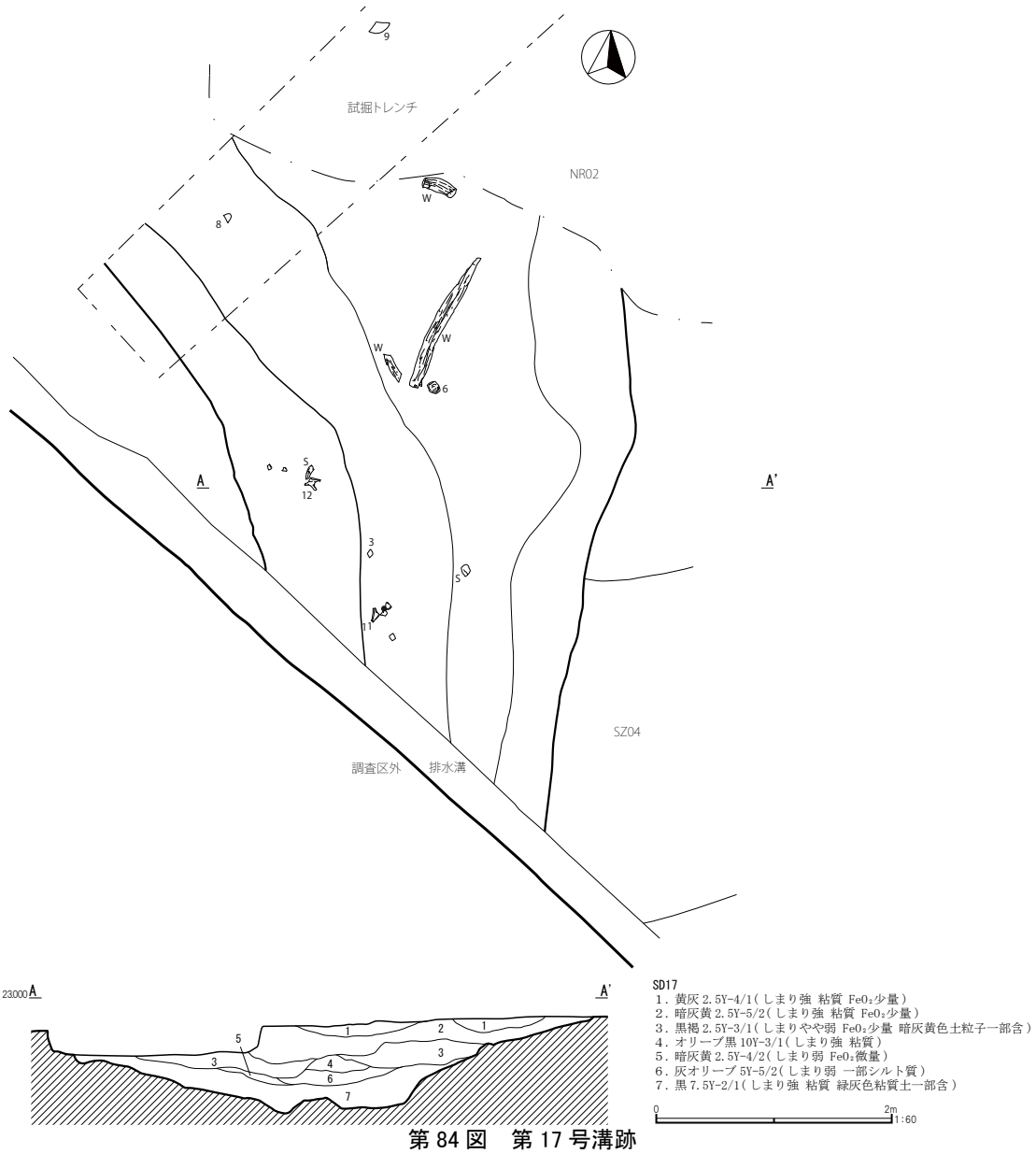
規模は、検出長 4.89 ｍ程度、検出幅 2.88 ～ 3.75 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.66 ～ 0.71 ｍを測る。

平面形は、溝幅は第４号方形周溝墓付近から徐々に広がり、そこから収縮を繰り返す。床面はやや起伏があり、南東方向に傾斜が確認できる。

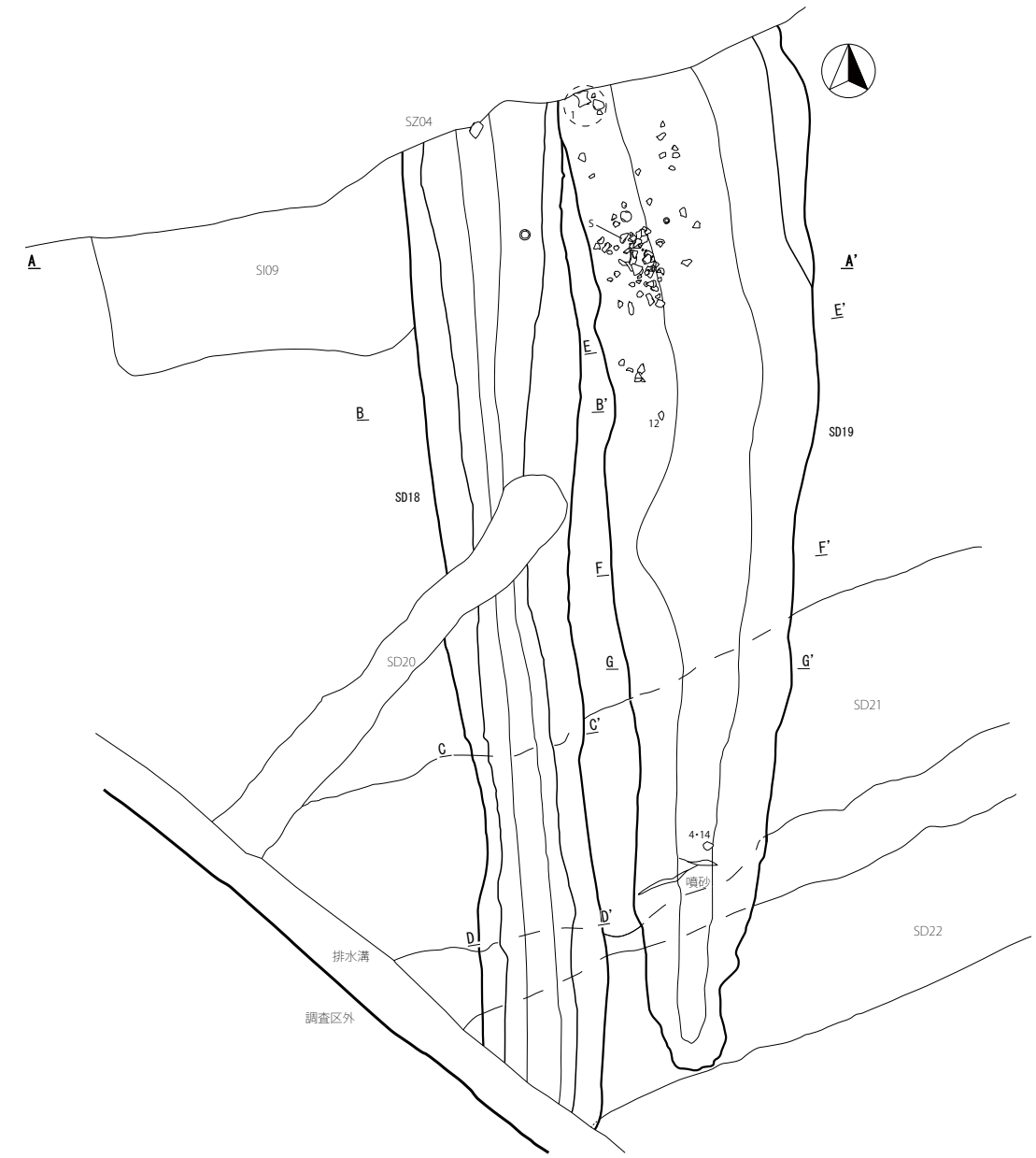
断面は、断面観察から、７層の堆積が確認でき、レンズ状堆積による自然堆積と推定される。

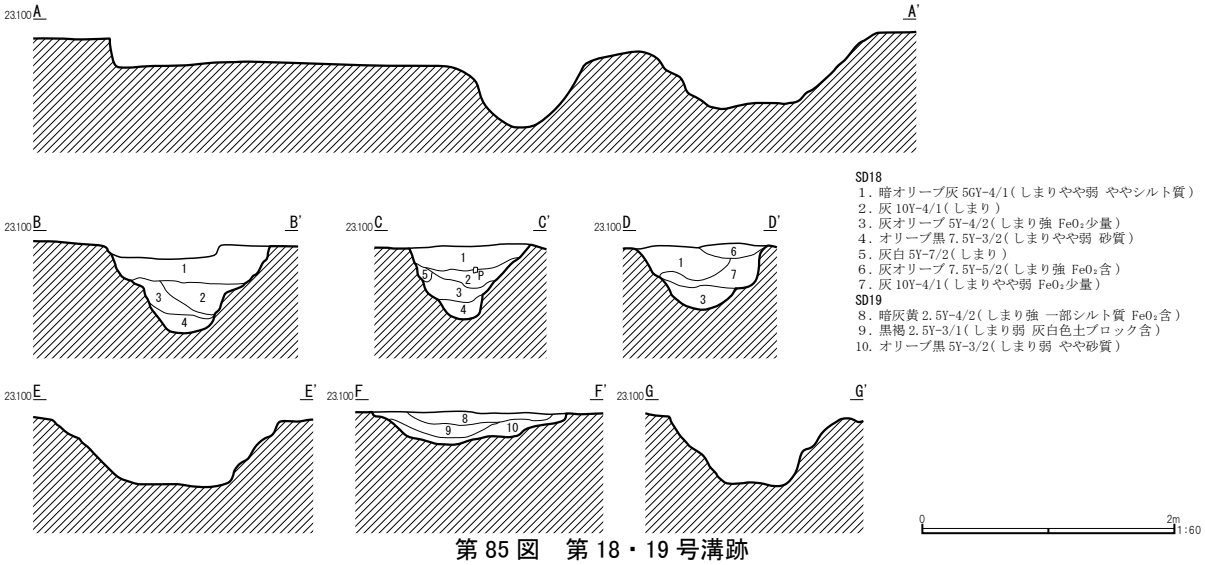
出土遺物は、弥生土器壺・甕、土師器坏・高坏・甕・台付甕、須恵器甕、石製紡錘車、板材が検出された。

この遺構の時期は、出土量から弥生時代後期～古墳時代前期初頭と考えられる。



第 84 図　第 17 号溝跡





SD18
1．暗オリーブ灰 5GY-4/1(しまりやや弱 ややシルト質)
2．灰 10Y-4/1(しまり)
3．灰オリーブ 5Y-4/2(しまり強 FeO_2少量)
4．オリーブ黒 7.5Y-3/2(しまりやや弱 砂質)
5．灰白 5Y-7/2(しまり)
6．灰オリーブ 7.5Y-5/2(しまり強 FeO_2含)
7．灰 10Y-4/1(しまりやや弱 FeO_2少量)
SD19
8．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 一部シルト質 FeO_2含)
9．黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 灰白色土ブロック含)
10．オリーブ黒 5Y-3/2(しまり弱 やや砂質)

第 85 図　第 18・19 号溝跡

第 18 号溝跡（第 85、114 図）

M－ 10・11 グリッドから検出した。第９号住居跡、第４号方形周溝墓、第 19 ～ 22 号溝跡と重複関係にあり、第９号住居跡、第 19、21、22 号溝跡を切り、それ以外のすべての遺構に切られていた。

本遺構は重複する第４号方形周溝墓から第 19 号溝跡と平行して、南東方向に延伸し、調査区域外へと抜ける。

規模は、検出長 8.22 ｍ程度、検出幅 0.87 ～ 1.35 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.51 ～ 0.73 ｍを測る。

平面形は、溝幅は第４号方形周溝墓付近から徐々に窄まり、南進する。床面はやや起伏があり、南方向に傾斜が確認できる。

断面は、断面観察から、基本４層の堆積が確認でき、レンズ状堆積による自然堆積と推定される。

出土遺物は、弥生土器壺・甕・壺型ミニチュア土器、土師器甕、須恵器坏、石器が検出された。

この遺構の時期は、出土量から弥生時代末ごろと考えられる。

第 19 号溝跡（第 85、114 図）

M－ 10・11 グリッドから検出した。第４号方形周溝墓、第 18、21、22 号溝跡と重複関係にあり、第４号方形周溝墓、第 18 号溝跡に切られ、第 21、22 号溝跡を切っていた。

本遺構は重複する第４号方形周溝墓から隣接する第 18 号溝跡と平行して、南東方向に延伸し、調査区域外へと抜ける。

規模は、検出長 8.50 ｍ程度、検出幅 1.49 ～ 2.11 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.27 ～ 0.58 ｍを測る。

平面形は、溝幅は第４号方形周溝墓付近から徐々に窄まり、重複する第 21 号溝跡付近で収縮し、立ち上がる。床面はやや起伏があり、南東方向に傾斜が確認できる。

断面は、断面観察から、基本３層の堆積が確認でき、レンズ状堆積による自然堆積と推定される。

出土遺物は、弥生土器壺・甕、土師器、小型壺が検出された。

この遺構の時期は、出土量から弥生時代後期～末と考えられる。

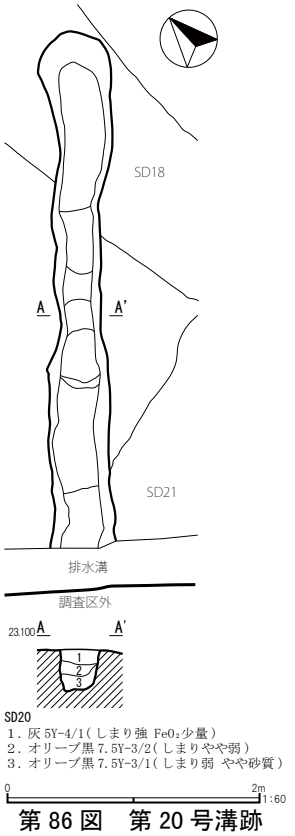
第 20 号溝跡（第 86、114 図）

M－ 11 グリッドから検出した。第 18、21 号溝跡と重複関係にあり、いずれの溝跡を切っていた。

本遺構は西壁の調査区域外から北東に直進し、第 18 号溝跡と重複して収束する。

規模は、検出長 4.09 ｍ程度、検出幅 0.31 ～ 0.48 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.32 ｍを測る。

平面形は、溝幅は中央付近あたりで窄むもののほぼ同じ幅で進み、重複する第 18 号溝跡付近で収縮し、立ち上がる。床面はやや起伏であるが、平坦である。溝の傾斜はみられない。



第 86 図　第 20 号溝跡

断面は、断面観察から、３層の堆積が確認でき、レンズ状堆積による自然堆積と推定される。

出土遺物は、弥生土器壺、土師器甕・台付甕が検出された。

この遺構の時期は、出土量がわずかであるため、不明である。

第 21 号溝跡（第 87、114 図）

Ｍ・Ｎ－ 11 グリッドから検出した。第 18 ～ 20、23 号溝跡と重複関係にあり、第 19、20 号溝跡を切り、それ以外のいずれの溝跡に切られていた。

本遺構は西壁の調査区域外から東に直進し、第 22 号溝跡と平行して、第 23 号溝跡に切られ、消滅する。

規模は、検出長 12.78 ｍ程度、検出幅 0.73 ～ 1.85 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.05 ～ 0.11 ｍを測る。

平面形は、溝幅は一貫して一定の幅で直進する。床面は平坦であり、溝の傾斜はみられない。

断面は、断面観察から、１層の堆積が確認でき、レンズ状堆積による自然堆積と推定される。

出土遺物は、弥生土器壺・甕、土師器甕・甑が検出された。出土量から土師器甑は他からの流れ込みと推定される。

この遺構の時期は、弥生時代中期末と考えられる。

第 22 号溝跡（第 87、115 図）

Ｍ･Ｎ－ 11 グリッドから検出した。第 18、19、23 号溝跡と重複関係にあり、第 19、20 号溝跡を切り、それ以外のいずれの溝跡に切られていた。

本遺構は西壁の調査区域外から東に直進し、第 21 号溝跡と平行して、第 23 号溝跡に切られ、消滅する。

規模は、検出長 11.93 ｍ程度、検出幅 0.99 ～ 1.32 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.52 ～ 0.58 ｍを測る。

平面形は、溝幅は一貫して一定の幅で直進する。床面は鋭角であり、溝の傾斜はみられない。

断面は、断面観察から、Ｖ字状で６～７層の堆積が確認でき、レンズ状堆積による自然堆積と推定される。

出土遺物は、弥生土器壺、土師器土釜・甕・高坏が検出された。

この遺構の時期は、弥生時代中期末と考えられる。

第 23 号溝跡（第 88、115 図）

Ｎ－ 10・11 グリッドから検出した。第２号河川跡、第 21、22、24 号溝跡と重複関係にあり、第 21、22 号溝跡を切っており、第２号河川跡、第 24 号溝跡に切られていた。

本遺構は第２号河川跡から南東方向に直進し、第 24 号溝跡に合流する。

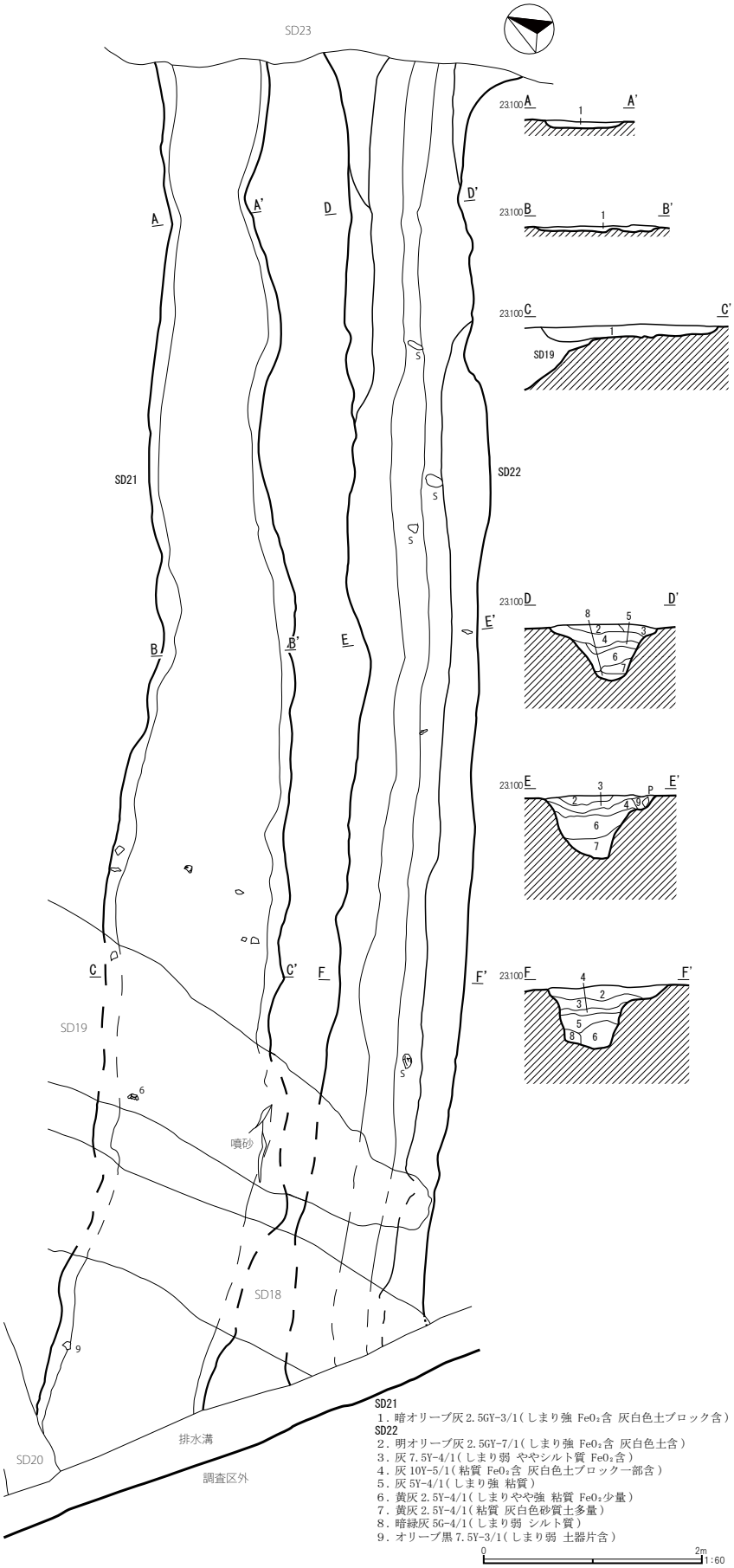
規模は、検出長 13.58 ｍ程度、検出幅 0.89 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.42 ｍを測る。

平面形は、溝幅は収縮を繰り返しながら、直進する。床面はやや平坦であり、溝は第 24 号溝跡へ向かって傾斜する。

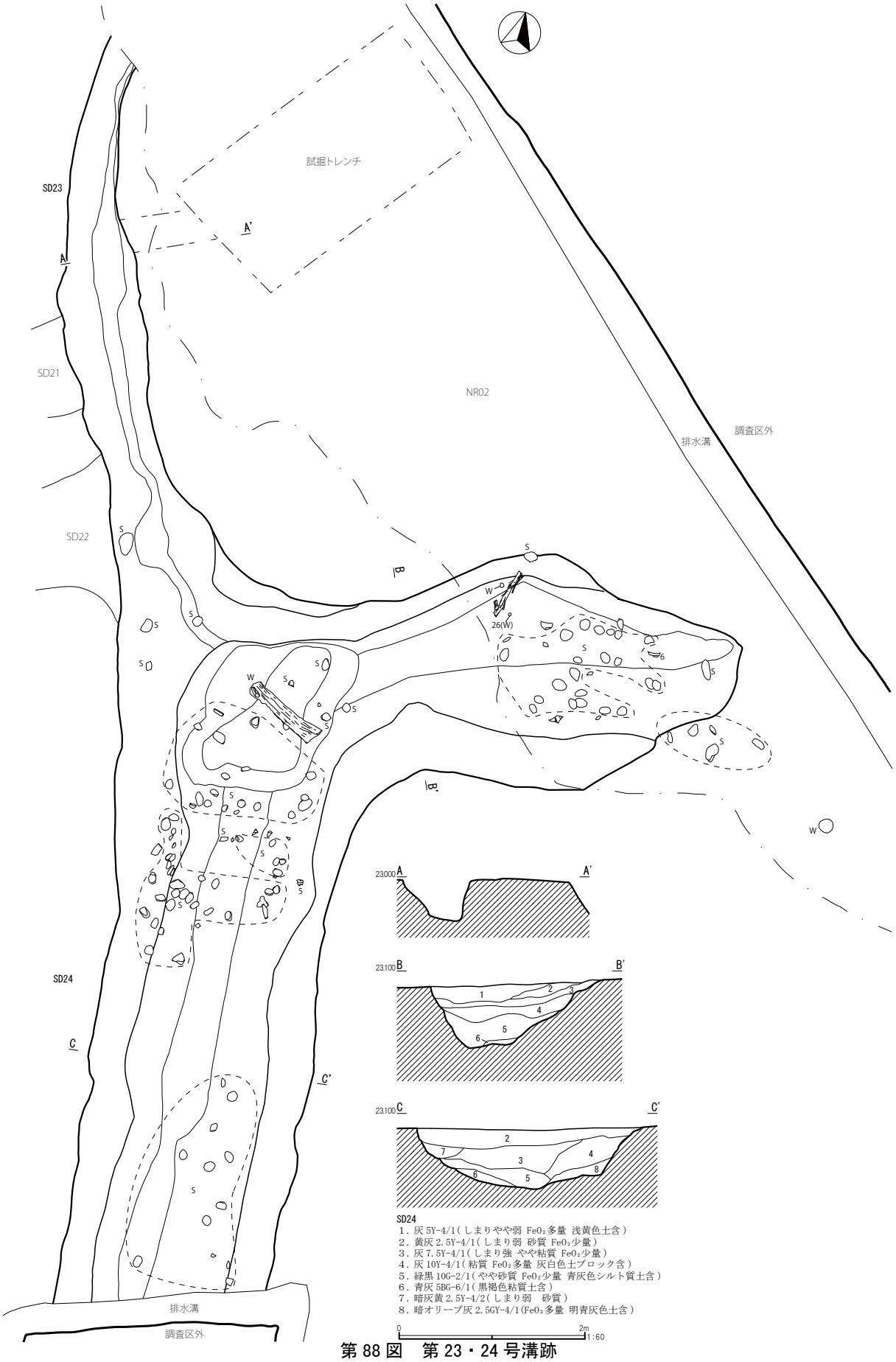
断面からは、逆台形状で堆積が確認できる。

出土遺物は、土師器甕が数点検出された。

この遺構の時期は、出土量が少量のため断定はできないが、古墳時代前期以降と考えられる。



第 87 図　第 21、22 号溝跡



第 88 図　第 23・24 号溝跡

第 24 号溝跡（第 88、115 図）

Ｎ・Ｏ－ 11・12 グリッドから検出した。第２号河川跡、第 23 号溝跡と重複関係にあり、第２号河川跡に切られ、第 23 号溝跡を切っている。

本遺構は第２号河川跡との境に木杭と矢板で組んで構築した堰が検出しており､そこから西に直進し、ほぼ 90° で折れ、調査区域外の南壁へと進む。

規模は、検出長 11.59 ｍ程度、検出幅 1.72 ～ 2.52 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.63 ～ 0.65 ｍを測る。なお屈曲部の底部は深さ 20 ㎝程度の落ち込みをもつ。

平面形は、溝幅は一定の間隔を保ち、直進する。南北軸の立ち上がりは西側が鋭角であり、東側はやや緩やかである。床面は平坦であり、第２号河川跡から調査区域外に向かって傾斜する。

断面は、断面観察から、逆台形状で６～７層の堆積が確認でき、レンズ状堆積、河川氾濫による堆積が確認できた。中層ではφ５～ 10 ｃｍ位の礫が多量に検出された。

出土遺物は、弥生土器壺・甕、土師器甕・台付甕・甑・坏・高坏、須恵器坏、また、在地系の瓦質土器瓦燈、土師質土器（かわらけ）、鉄滓、磨製石鏃、木製品が検出された。

この遺構の時期は、複数の期間に跨っての出土遺物があるため断定できないが、古代から近世に至るまでと考えられる。

第 25 号溝跡（第 89、116 図）

Ｏ・Ｐ－ 11、Ｏ－ 12 グリッドから検出した。第 26 号溝跡と重複関係にあり、第 26 号溝跡に切られている。

本遺構は第 26 号溝跡から北西方向に延伸し、途中南西軸へ向きを変え、5.5 ｍ程度直進した後、南東軸へ向きを変え、調査区域外へと至る。

規模は、検出長 9.83 ｍ程度、検出幅 0.20 ～ 0.38 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.07 ～ 0.21 ｍを測る。

平面形は、全景がコの字状を呈し、溝幅は一定の間隔を保ち、延伸する。床面はやや平坦であるが、一部Ｖ字状に鋭角になる。傾斜はみられない。

断面は、断面観察から、Ｕ字状で１～２層の堆積が確認でき、自然堆積と推定される。

出土遺物は、弥生土器甕が検出された。

この遺構の時期は、検出された出土量が少量であるため時期不明である。

第 26 号溝跡（第 89、116 図）

Ｐ－ 11・12 グリッドから検出した。第 25 号溝跡、第 108、109 号ピットと重複関係にあり、第 25 号溝跡を切り、第 108、109 号ピットに切られていた。

本遺構は調査区東端に位置し、南北軸に直進し、北壁から南壁へと至る。

規模は、検出長 5.66 ｍ程度、検出幅 0.31 ～ 0.66 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.05 ～ 0.11 ｍを測る。

平面形は、溝幅は一定の間隔を保ち、直進する。床面はやや凹凸があるものの平坦である。傾斜はみられない。

断面は、断面観察から、Ｕ字状で１層の堆積が確認でき、自然堆積と推定される。

出土遺物は、弥生土器甕、土師器甕・壺・坏・甑が検出された。

この遺構の時期は、検出された出土量が少量のため、時期不明である。

第 27 号溝跡（第 89、116 図）

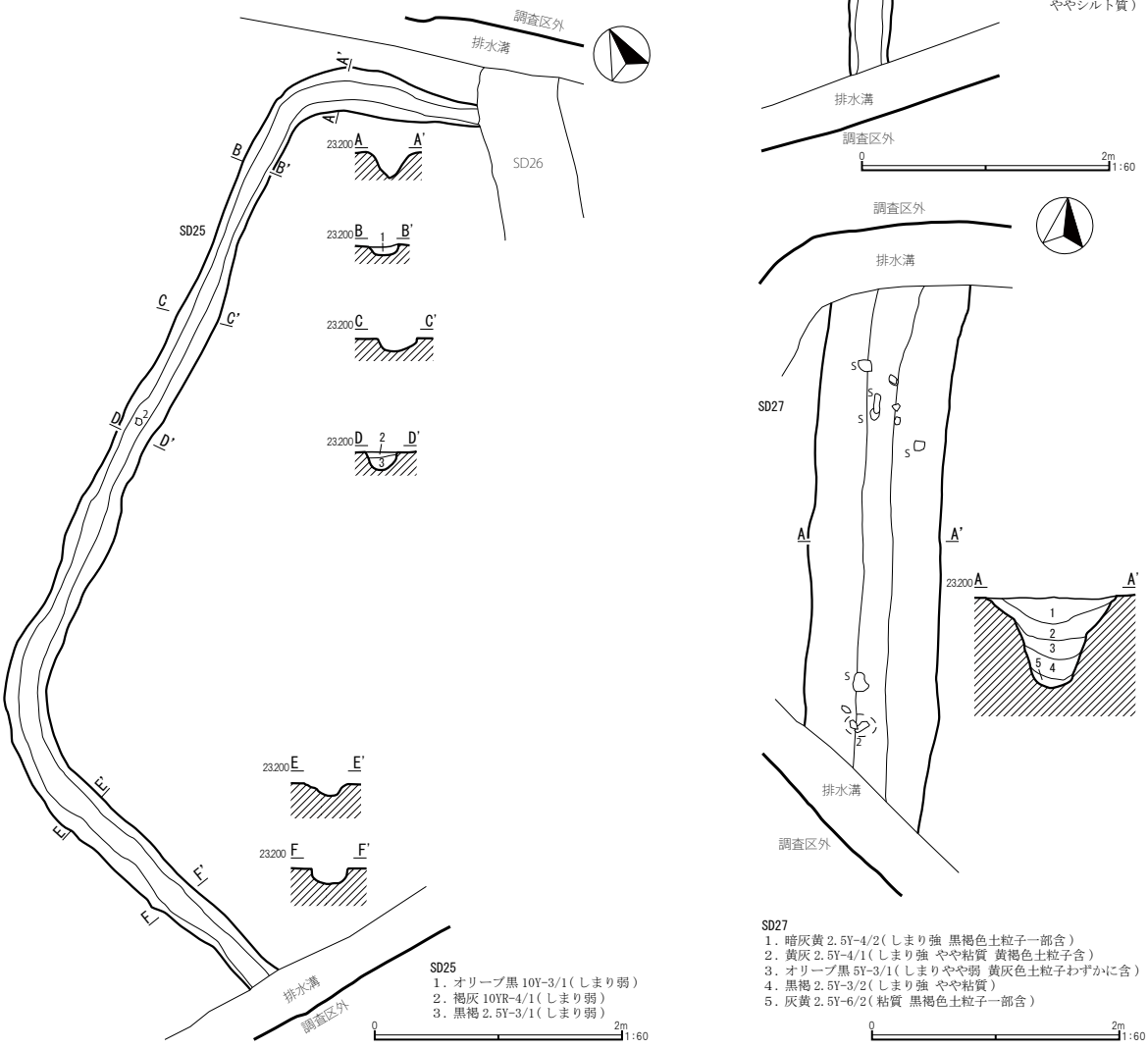
O－13 グリッドから検出した。重複関係にある遺構はない。

本遺構は調査区西端に位置し、南北軸に直進し、北壁から南壁へと至る。

規模は、検出長 4.00 m程度、検出幅 1.02 ～ 1.08 mを測り、深さは遺構確認面から 0.73 mを測る。

平面形は、溝幅は一定の間隔を保ち、直進する。立ち上がりは緩やかに傾斜し、中段から鋭角に落ち込む。床面はやや凹凸があり鋭角である。南方向への傾斜がみられる。

断面は、断面観察から、V字状で５層の堆積が確認できる、堆積はレンズ状堆積で、自然堆積と推定される。



第 89 図　第 25 ～ 27 号溝跡

出土遺物は、弥生土器壺、陶器甕が検出された。

この遺構の時期は、検出された出土量が少量のため、時期不明である。

第 28 号溝跡（第 90、116 図）

Ｐ－13 グリッドから検出した。第１号性格不明遺構と重複関係にあり、第１号性格不明遺構に切られていた。

本遺構は調査区中央北に位置し、東西軸に直進し、第１号性格不明遺構に接する。

規模は、検出長 2.68 ｍ程度、検出幅 0.43 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.28 ｍを測る。

平面形は、溝幅は一定の間隔を保ち、長細い方形のプランである。立ち上がりは鋭角で底部は平坦である。

断面は、断面観察から、Ｕ字状で４層の堆積が確認できる。堆積はレンズ状堆積で、自然堆積と推定される。

出土遺物は、弥生土器甕ほか数点の土器片が出土したが、細片が大部分であった。

この遺構の時期は、検出された出土量が少量のため、時期不明である。

第 29 号溝跡（第 91、116、117 図）

Ｐ・Ｑ－13 グリッドから検出した。第 30、32 号溝跡、第 10、11 号土坑、第１号性格不明遺構と重複関係にあり、第１号性格不明遺構に切られていた。

本遺構は調査区を北東から南西に向かって横断している。

規模は、検出長 14.47 ｍ程度、検出幅 0.66 ～ 0.79 ｍ、深さは遺構確認面から 0.55 ～ 0.69 ｍを測る。

平面形は、溝幅は一定の間隔を保ち、立ち上がりは緩やかで底部は丸い。

断面は、断面観察から、Ｕ字状で６層の堆積が確認できる。堆積はレンズ状堆積で、自然堆積と推定される。

出土遺物は、弥生土器甕･壺･鉢･高坏、石器が検出した。うち１点の壺は高さ 20 ㎝以上の大型である。

この遺構の時期は、弥生時代中期後半～後期前半と考えられる。

第 30 号溝跡（第 92、117 図）

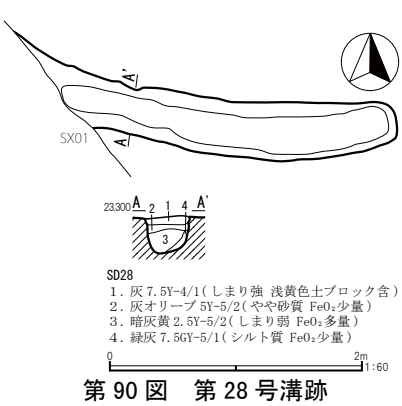
Ｏ･Ｐ－13、Ｐ･Ｑ－14 グリッドから検出した。第１号掘立柱建物跡、第 29、32 号溝跡、第 11 号土坑、第１号性格不明遺構と重複関係にあり、第 29 号溝跡、第１号性格不明遺構を切り、第１号掘立柱建物跡、第 32 号溝跡、第 11 号土坑に切られていた。

本遺構は調査区を東西に横断しており、東から西へ直進し、第１号性格不明遺構と重複した付近で、収束する。

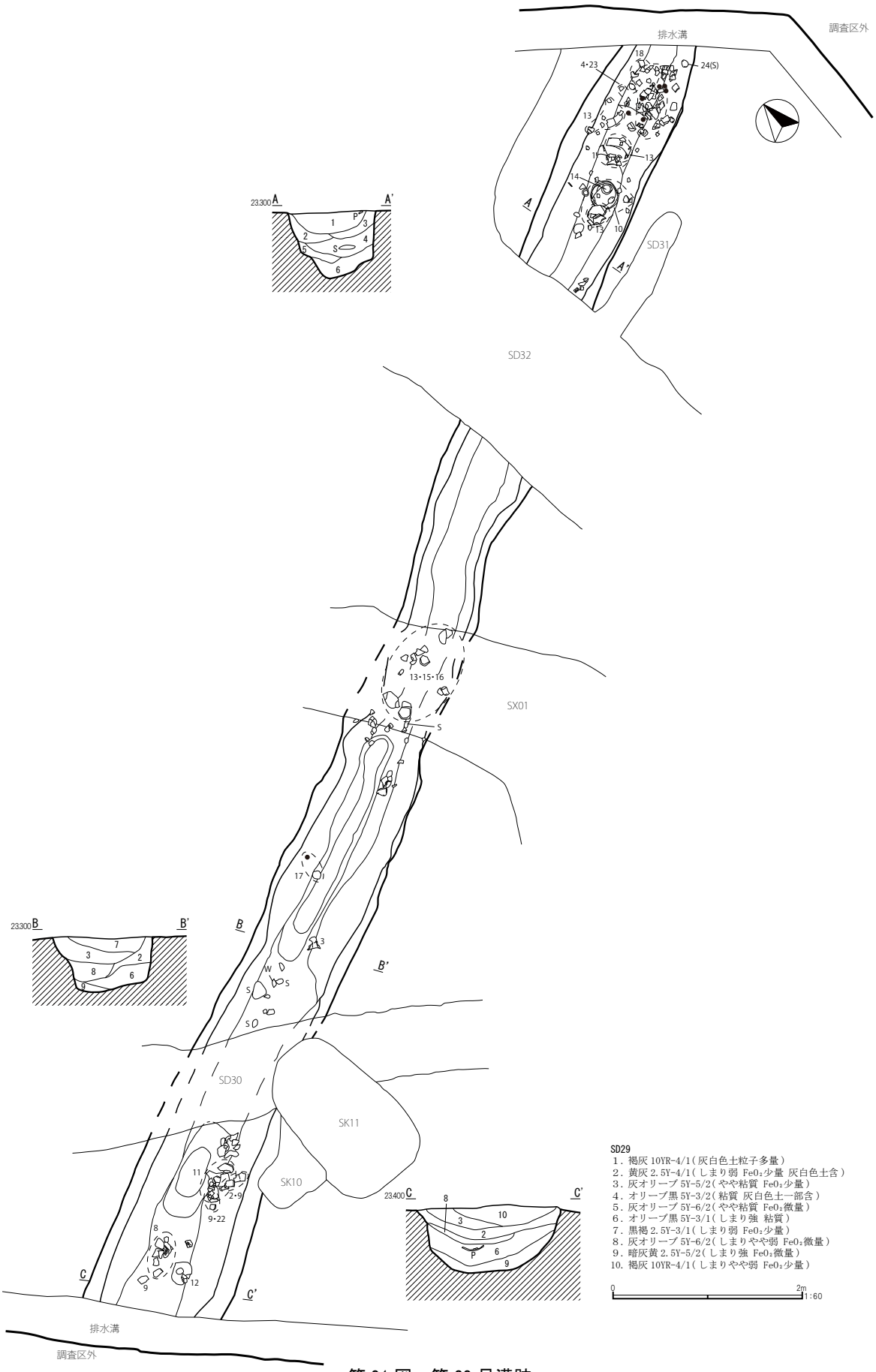
規模は、検出長 19.17 ｍ程度、検出幅 0.71 ～ 1.36 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.08 ～ 0.30 ｍを測る。

平面形は、溝幅はほぼ一定の間隔を保ち、立ち上がりは東側は緩やかで底部は平坦で、西側はほぼ垂直で底部は平坦である。西から東へと傾斜が確認できた。

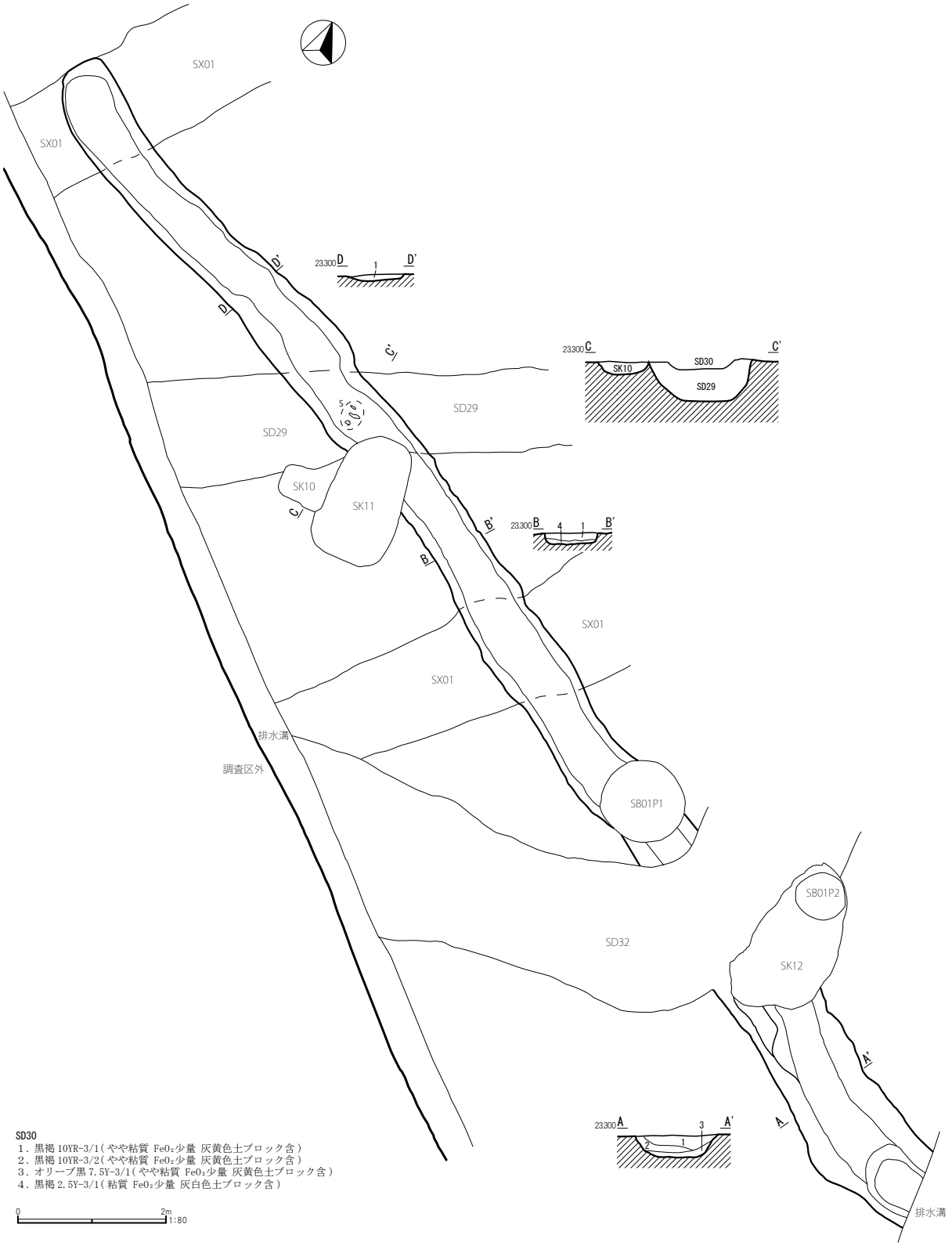
断面は、断面観察から、コの字状もしくはＵ字状で２～３層の堆積が確認できる。堆積はレンズ状堆積で、自然堆積と推定される。



第 90 図　第 28 号溝跡


排水溝
調査区外
SD31
SD32
SX01
SD30
SK11
SK10
排水溝
調査区外
SD29
1．褐灰 10YR-4/1（灰白色土粒子多量）
2．黄灰 2.5Y-4/1（しまり弱 FeO₂少量 灰白色土含）
3．灰オリーブ 5Y-5/2（やや粘質 FeO₂少量）
4．オリーブ黒 5Y-3/2（粘質 灰白色土一部含）
5．灰オリーブ 5Y-6/2（やや粘質 FeO₂微量）
6．オリーブ黒 5Y-3/1（しまり強 粘質）
7．黒褐 2.5Y-3/1（しまり弱 FeO₂少量）
8．灰オリーブ 5Y-6/2（しまりやや弱 FeO₂微量）
9．暗灰黄 2.5Y-5/2（しまり強 FeO₂微量）
10．褐灰 10YR-4/1（しまりやや弱 FeO₂少量）
0
2m
1:60

第 91 図　第 29 号溝跡


SX01
SX01
D
D'
23300
1
C
C'
SK10
SD30
SD29
SD29
SD29
SK10
SK11
B
B'
4
SX01
SX01
排水溝
調査区外
SB01P1
SB01P2
SD32
SK12
A
A'
3
2
排水溝
SD30
1．黒褐 10YR-3/1（やや粘質 FeO₂少量 灰黄色土ブロック含）
2．黒褐 10YR-3/2（やや粘質 FeO₂少量 灰黄色土ブロック含）
3．オリーブ黒 7.5Y-3/1（やや粘質 FeO₂少量 灰黄色土ブロック含）
4．黒褐 2.5Y-3/1（粘質 FeO₂少量 灰白色土ブロック含）
0
2m
1:80

第 92 図　第 30 号溝跡

出土遺物は、土師器鉢やその他土師器の細片を検出した。鉢以外は細片であるため図化できるものはなかった。

よって出土量が少ないため、時期特定はできないことから、この遺構の時期は不明である。

第 31 号溝跡（第 93 図）

Q－13 グリッドから検出した。第 32 号溝跡と重複関係にあり、第 32 号溝跡に切られていた。

本遺構は調査区北東付近に第 29 号溝跡に平行して南西方向に進み、第 32 号溝跡に切られる。

規模は、検出長 1.37 m程度、検出幅 0.35 mを測り、深さは遺構確認面から 0.25 mを測る。

平面形は、溝幅は一定の間隔を保ち、長細い方形のプランである。立ち上がりは鋭角で底部は丸い。

断面は、断面観察から、U字状で３層の堆積が確認できる。堆積はレンズ状堆積で、自然堆積と推定される。

出土遺物は検出されなかった。

第 32 号溝跡（第 94、117、118 図）

P・Q－13・14 グリッドから検出した。第 29 ～ 31 号溝跡、第１号掘立柱建物跡、第 12 号土坑、第２号性格不明遺構と重複関係にあり、第１号掘立柱建物跡、第 12 号土坑に切られ、それ以外の遺構を切っていた。

本遺構は調査区を北から南にＳ字状に横断している。

規模は、検出長 17.74 m程度、検出幅 1.59 ～ 2.03 m、深さは遺構確認面から 0.74 ～ 1.07 ㎝を測る。

平面形は、蛇行はしているものの、溝幅は一定の間隔を保ち、立ち上がりは鋭角で底部は丸い。

断面は、断面観察から、位置によって、逆台形もしくはU字状で 11 層程度の堆積が確認できる。なお、一度は堆積しながらも、一時溝としての機能があったことが分かる（第８層）。堆積は主に西からの堆積によるもので、自然堆積と推定される。

出土遺物は、弥生土器甕・鉢、土師器甕・台付甕・坏、須恵器壺、灰釉陶器皿、瓦、瓦質土器片口鉢、擂鉢、土鍋、陶器花瓶、磁器白磁碗、臼玉、銭貨、石器、種子（エゴマ）などが検出された。出土量から判断し、主体的な遺物は弥生土器、土師器、須恵器を除く中世に属する遺物が大半である。検出位置は中央と、南端部分に集中しており、銭貨は南端部にまとめて検出された。

よって、この遺構の時期は、15 世紀後半の中世に属する。

第 33 号溝跡（第 95 図）

R－15 グリッドから検出した。第 13 号土坑と重複関係にあり、その土坑に切られていた。

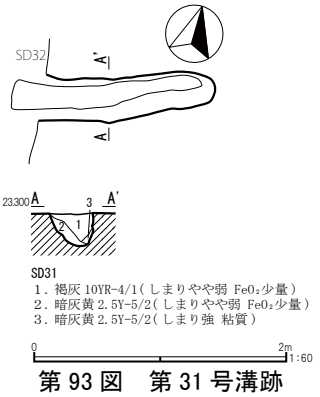
本遺構は調査区西に位置し、南東方向から北西に直進する。

規模は、検出長 1.84 m程度、検出幅 0.40 ～ 0.55 mを測り、深さは遺構確認面から 0.12 mを測る。

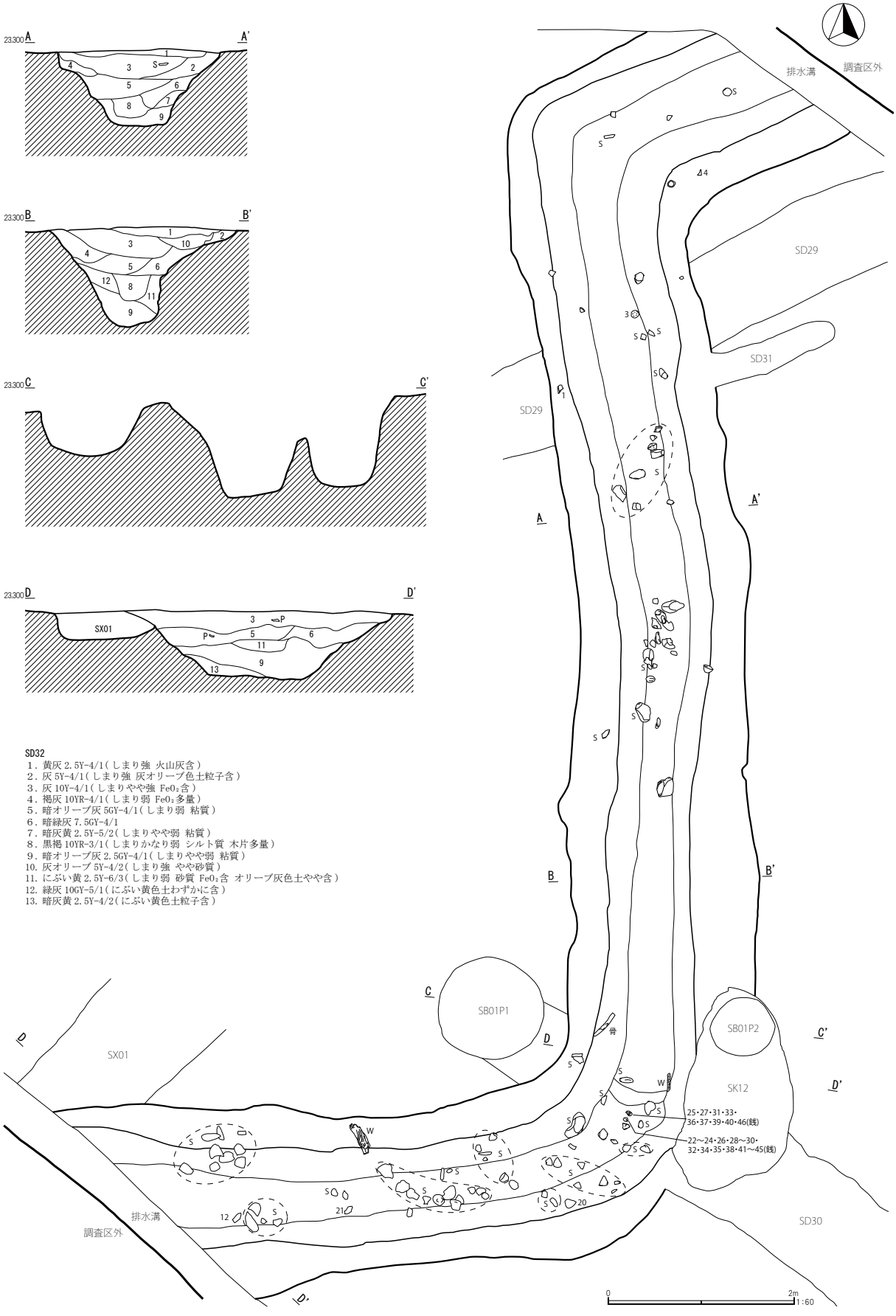
平面形は、溝幅は一定の間隔を保ち、立ち上がりは鋭角で底部は丸い。

断面の詳細は不明である。

出土遺物は、種子（モモ）が検出された。



第 93 図　第 31 号溝跡


23300 A
A'
23300 B
B'
23300 C
C'
23300 D
D'
SX01
SD32
1．黄灰 2.5Y-4/1(しまり強 火山灰含)
2．灰 5Y-4/1(しまり強 灰オリーブ色土粒子含)
3．灰 10Y-4/1(しまりやや強 FeO₂含)
4．褐灰 10YR-4/1(しまり弱 FeO₂多量)
5．暗オリーブ灰 5GY-4/1(しまり弱 粘質)
6．暗緑灰 7.5GY-4/1
7．暗灰黄 2.5Y-5/2(しまりやや弱 粘質)
8．黒褐 10YR-3/1(しまりかなり弱 シルト質 木片多量)
9．暗オリーブ灰 2.5GY-4/1(しまりやや弱 粘質)
10. 灰オリーブ 5Y-4/2(しまり強 やや砂質)
11. にぶい黄 2.5Y-6/3(しまり弱 砂質 FeO₂含 オリーブ灰色土やや含)
12. 緑灰 10GY-5/1(にぶい黄色土わずかに含)
13. 暗灰黄 2.5Y-4/2(にぶい黄色土粒子含)
排水溝
調査区外
SD29
SD31
SB01P1
SB01P2
SK12
SD30
25・27・31・33・36・37・39・40・46(銭)
22～24・26・28～30・32・34・35・38・41～45(銭)
0
2m
1:60

第 94 図　第 32 号溝跡

第 34 号溝跡（第 95 図）

Ｒ・Ｓ－ 15、Ｒ－ 16 グリッドから検出した。第 179、181、183 号ピットと重複関係にあり、それらピットに切られていた。

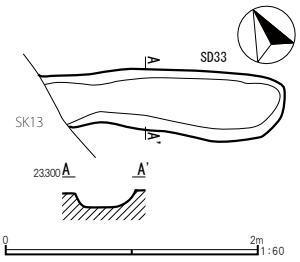
本遺構は調査区西に位置し、ほぼ南北軸を呈し、南から北へ直進し、収束する。

規模は、検出長 7.77 ｍ程度、検出幅 0.30 ～ 0.45 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.19 ～ 0.27 ｍを測る。

平面形は、やや歪んでいるものの、溝幅は一定の間隔を保ち、立ち上がりは鋭角で底部は平坦である。

断面の詳細は不明である。

出土遺物は、検出されなかった。



第 35 号溝跡（第 95 図）

Ｓ・Ｔ－ 15 グリッドから検出した。第 17 号土坑、第３号井戸跡、第 168 号ピットと重複関係にあり、すべての遺構を切っていた。

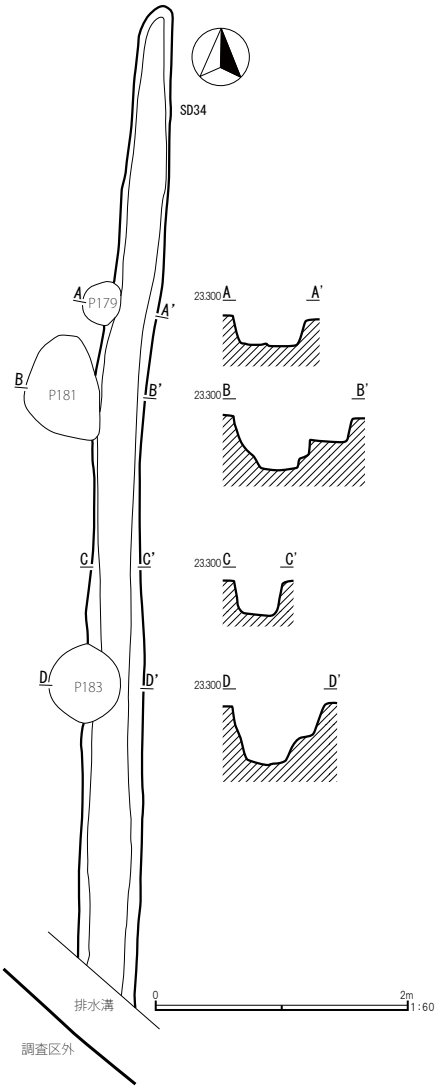
本遺構は調査区西に位置し、東西軸を呈し、第３号井戸跡付近で収束する。

規模は、検出長 7.11 ｍ程度、検出幅 0.24 ～ 0.28 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.05 ～ 0.06 ｍを測る。深さが浅いため、表土掘削時に一部が消失し、平面プランが途切れた状態になっている。

平面形は、やや南西に蛇行はしているものの、溝幅は一定の間隔を保ち、立ち上がりは緩やかで底部は丸い。

断面は、断面観察から、緩やかなＵ字状で１層の堆積が確認できる。堆積は、自然堆積と推定される。

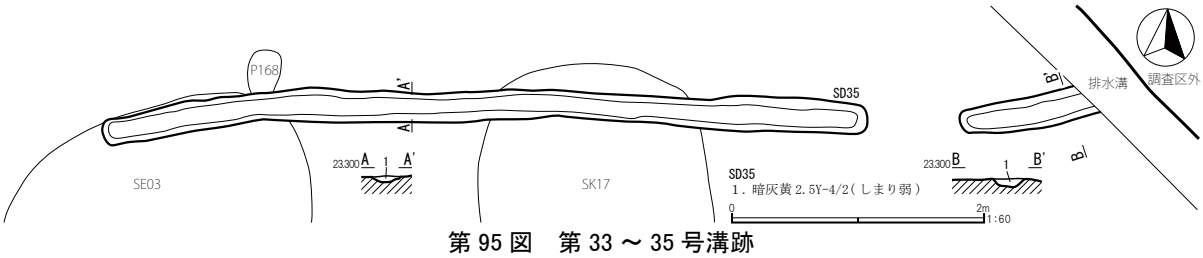
出土遺物は、検出されなかった。



第 36 号溝跡（第 96 図）

Ｔ－ 15 グリッドから検出した。第 37 号溝跡と重複関係にあり、この溝跡に切られていた。

本遺構は調査区西に位置し、東西軸を呈し、第 37 号溝跡付近で収束する。



第 95 図　第 33 ～ 35 号溝跡

規模は、検出長 5.05 m程度、検出幅 0.22 ～ 0.36 mを測り、深さは遺構確認面から 0.11 ～ 0.16 mを測る。

平面形はわずかに弓のように張っているようであり、溝幅は一定の間隔を保ち、立ち上がりは鋭角で底部は丸い。

断面は、U字状である。

出土遺物は、検出されなかった。

第 37 号溝跡（第 96、118 図）

S・T－15 グリッドから検出した。第６号方形周溝墓、第 36 号溝跡、第 207 号ピットと重複関係にあり、これらの遺構を切っていた。

本遺構は調査区西に位置し､南北に延伸し北は第 36 号溝跡付近､南は第 207 号ピット付近で収束する。

規模は、検出長 3.82 m程度、検出幅 0.78 mを測り、深さは遺構確認面から 0.55 mを測る。

平面形は長細く、溝幅は一定の間隔を保ち、立ち上がりは鋭角で底部は平坦である。

断面は、断面観察から、コの字状で５層の堆積が確認できる。大部分の覆土は黒褐色やオリーブ黒の粘質土で、４層は炭化物層で構成されていた。

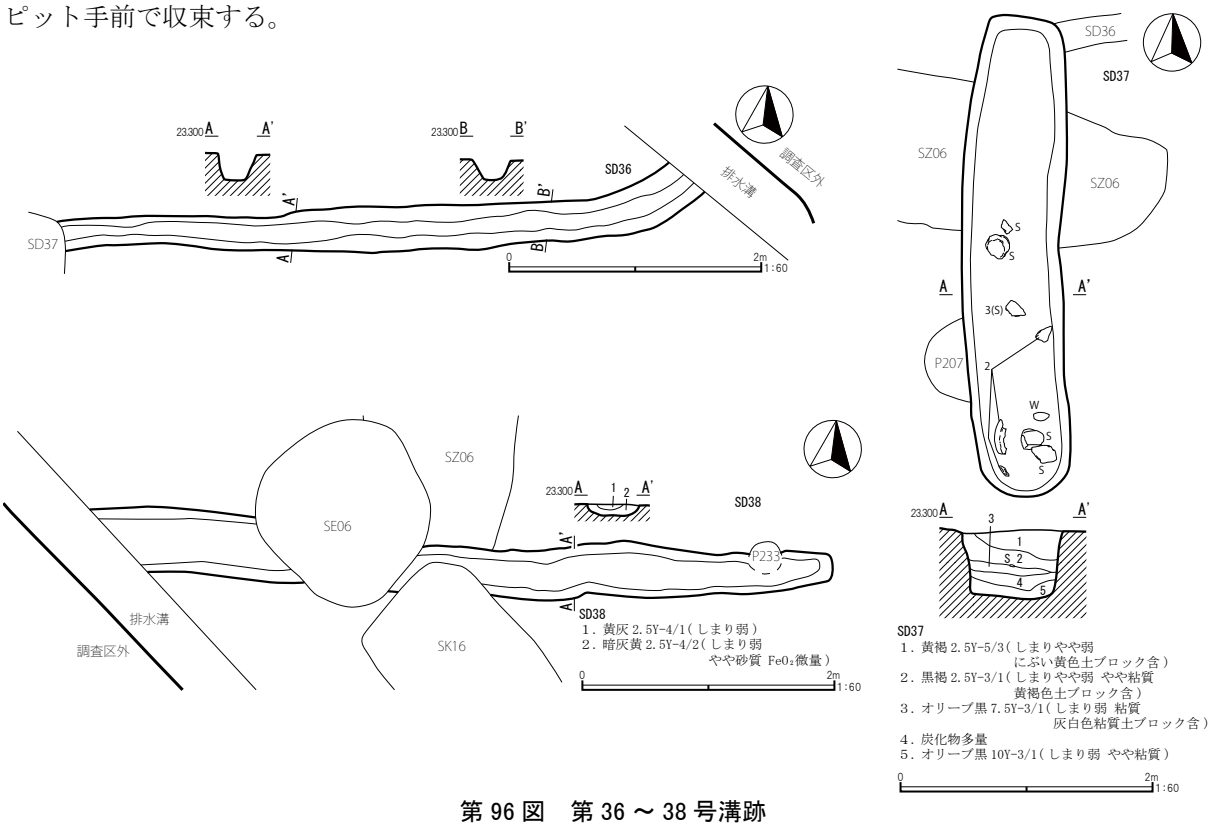
出土遺物は、瓦質土器の土鍋、板石塔婆、土師質土器などが数点検出されている。

検出された遺物から、本遺構の時期は 15 世紀中頃から 16 世紀前半頃と考えられる。

第 38 号溝跡（第 96 図）

S－16 グリッドから検出した。第６号方形周溝墓、第６号井戸跡、第 16 号土坑、第 233 号ピットと重複関係にあり、第６号方形周溝を切り、第６号井戸跡、第 16 号土坑、第 233 号ピットに切られていた。

本遺構は調査区西に位置し、東西方向に直進する溝跡で、調査区域外から延伸し、第 233 号ピット手前で収束する。



第 96 図　第 36 ～ 38 号溝跡

規模は、検出長 5.68 m程度、検出幅 0.30 ～ 0.50 mを測り、深さは遺構確認面から 0.09 mを測る。

平面形は、溝幅は一定の間隔を保ち、立ち上がりは緩やかで底部は丸い。

断面は、断面観察から、２層の堆積が確認できる。堆積はレンズ状堆積で、自然堆積と推定される。

出土遺物は、検出されなかった。

第 39 号溝跡（第 97 図）

Ｓ・Ｔ－ 16 グリッドから検出した。第６号方形周溝墓、第 22 号土坑、第 214、237 号ピットと重複関係にあり、第６号方形周溝墓を除き、重複関係にある全ての遺構に切られていた。

本遺構は調査区西に位置し、第６号方形周溝墓から延伸し、調査区南壁まで延びる。第６号方形周溝墓との接続付近でやや屈曲するものの、北東から南西方向に向かって直進する。

規模は、検出長 8.93 m程度、検出幅 0.25 ～ 0.43 mを測り、深さは遺構確認面から 0.07 ～ 0.03 mを測る。

平面形は、ゆがみながらも、溝幅はほぼ一定の間隔を保ち、立ち上がりは緩やかで底部は丸い。

断面は、断面観察から、３層の堆積が確認できる。堆積はレンズ状堆積で、自然堆積と推定される。

出土遺物は、検出されなかった。

第 40 号溝跡（第 97 図）

Ｓ－ 16・17 グリッドから検出した。他の遺構との重複関係はない。

本遺構は調査区西に位置し、南壁から北東方向に直進し、収束する。収束部にはピット状の落ち込みを有する。

規模は、検出長 2.38 m程度、検出幅 1.15 mを測り、深さは遺構確認面から 0.12 ～ 0.17 mを測る。ピット状の落ち込みは確認面からの深さで 0.41 mを測る。

平面形は、溝幅はほぼ一定の間隔を保ち、立ち上がりは緩やかで底部は平坦である。

断面は、断面観察から、２層の堆積が確認できる。堆積はレンズ状堆積で、自然堆積と推定される。

出土遺物は、検出されなかった。

第 41 号溝跡（第 97 図）

Ｓ・Ｔ－ 16、Ｓ－ 17 グリッドから検出した。第７号方形周溝墓、第７、８号井戸跡、第 244 号ピットと重複関係にあり、第７号方形周溝を切り、第７、８号井戸跡、第 244 号ピットに切られていた。

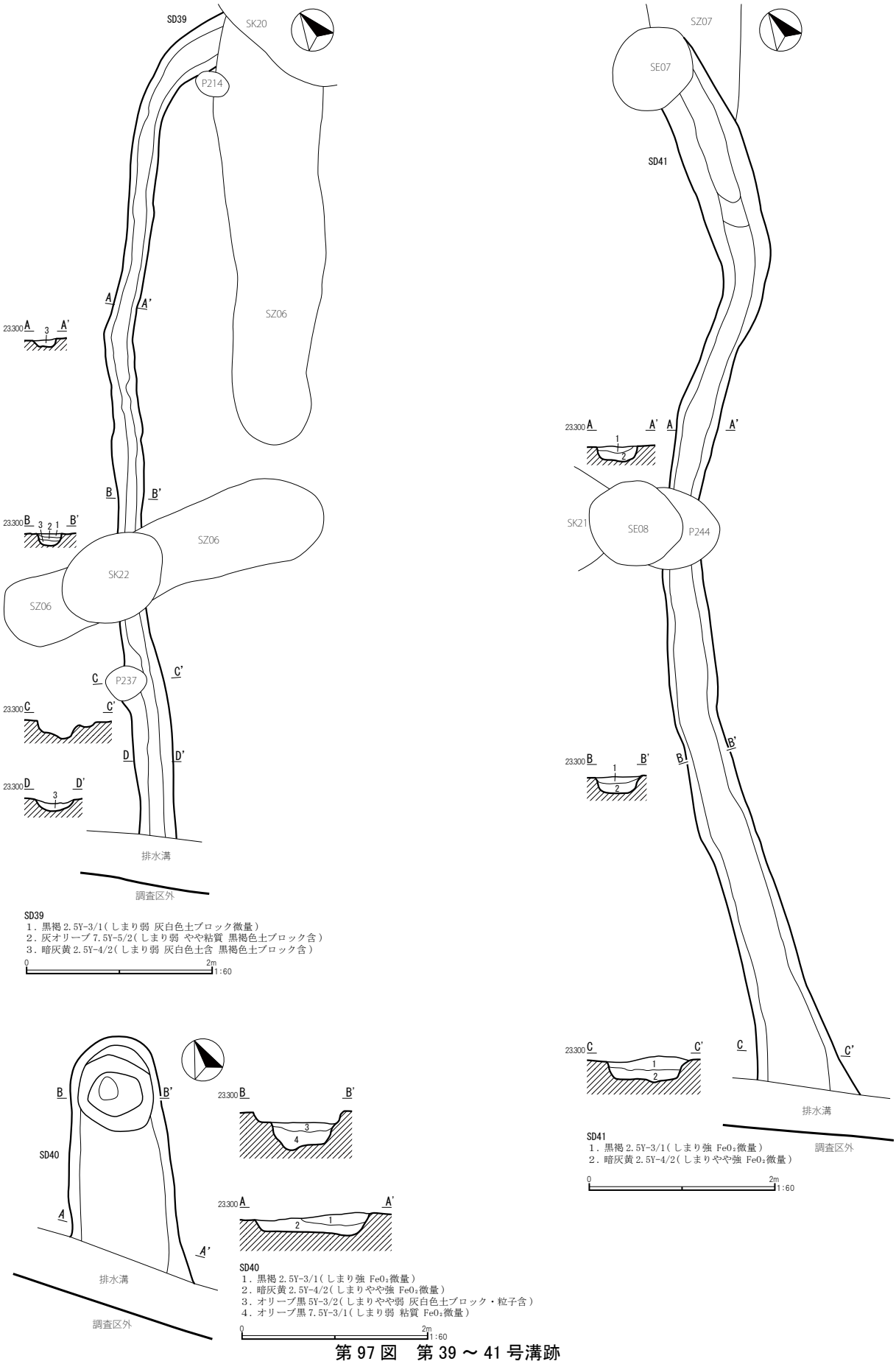
本遺構は調査区西に位置し、調査区南壁から蛇行しながら北東方向に延伸し、第７号井戸跡に切られ消滅する。

規模は、検出長 11.12 m程度、検出幅 0.35 ～ 0.70 mを測り、深さは遺構確認面から 0.15 ～ 0.24 mを測る。

平面形は、ゆがみながらも、溝幅はほぼ一定の間隔を保ち、立ち上がりは緩やかで底部は丸い。

断面は、断面観察から、２層の堆積が確認できる。堆積はレンズ状堆積で、自然堆積と推定される。

出土遺物は、検出されなかった。



第 97 図　第 39 ～ 41 号溝跡

第 42 号溝跡（第 98、121 ～ 130 図）

Ｔ－ 15 ～ 17 グリッドから検出した。第 7 号方形周溝墓、第 10 号井戸跡、第 157 号ピット、第 4 号性格不明遺構と重複関係にあり、重複関係にある全ての遺構を切っていた。

本遺構は調査区中央に位置し、北から南に直進したのち 90° 屈曲し、西に延伸する。

規模は、検出長 21.84 m程度、検出幅 2.53 ～ 3.09 mを測り、深さは遺構確認面から 0.90 ～ 1.02 m を測る。

全体的に残存状態はよく、機能していた様相が残り、寺院の区画堀としての機能を果たしていた溝跡と推定できる。

平面形は、溝幅はほぼ一定の間隔を保ち、立ち上がりは底部から鋭角に伸び、途中からやや緩やかになる。底部は平坦である。

断面は、断面観察から、９～ 11 層の堆積が確認できる。覆土の大半がしまりの弱い、粘質土で埋まりながらも堆積から機能していたことがわかる。堆積はレンズ状堆積で、自然堆積と推定される。

出土遺物は、縄文時代後期から中世にかけてのものが数百点以上検出された。大半は中世における土師質土器、瓦質土器擂鉢・片口鉢、土鍋、焙烙、陶器茶壺・鉢、青磁碗・皿、白磁皿・壺、染付皿、瓦などである。それ以外の遺物は重複関係にある遺構からの流れ込みと考えられる。

本遺構では検出遺物の大半を土師質土器が占め、本溝跡の北端に集中しており、それら遺物は「かわらけ集中地点」として別途まとめている。その特徴から大部分を在地系の成田氏に関連するもの、少数を古河公方系のものと大別することができる。また磁器のうち龍泉窯の青磁皿や白磁皿は 14 世紀末～ 15 世紀後、土鍋は 15 世紀後半から 16 世紀前半で、焙烙は 16 世紀前半と大別でき、本遺構は機能していた時期が複数にわたっていた可能性が考えられる。

第 43 号溝跡（第 98、119 図）

Ｔ－ 17 グリッドから検出した。第 42 号溝跡と重複関係にあり、第 42 号溝跡（南北方向）に接続する。

本遺構は調査区中央南に位置し、調査区南壁から第 42 号溝跡（東西方向）に平行して延伸し、第 42 号溝跡（南北方向）に接続し、収束する。

規模は、検出長 5.61 m程度、検出幅 1.15 mを測り、深さは遺構確認面から 0.29 mを測る。

平面形は、南岸の立ち上がりが消滅しているが、ほぼ直線的に均一な溝幅で延伸していたものと考えられる。立ち上がりは緩やかで底部は丸い。

断面は、断面観察から、３層の堆積が確認できる。堆積はレンズ状堆積で、自然堆積と推定される。

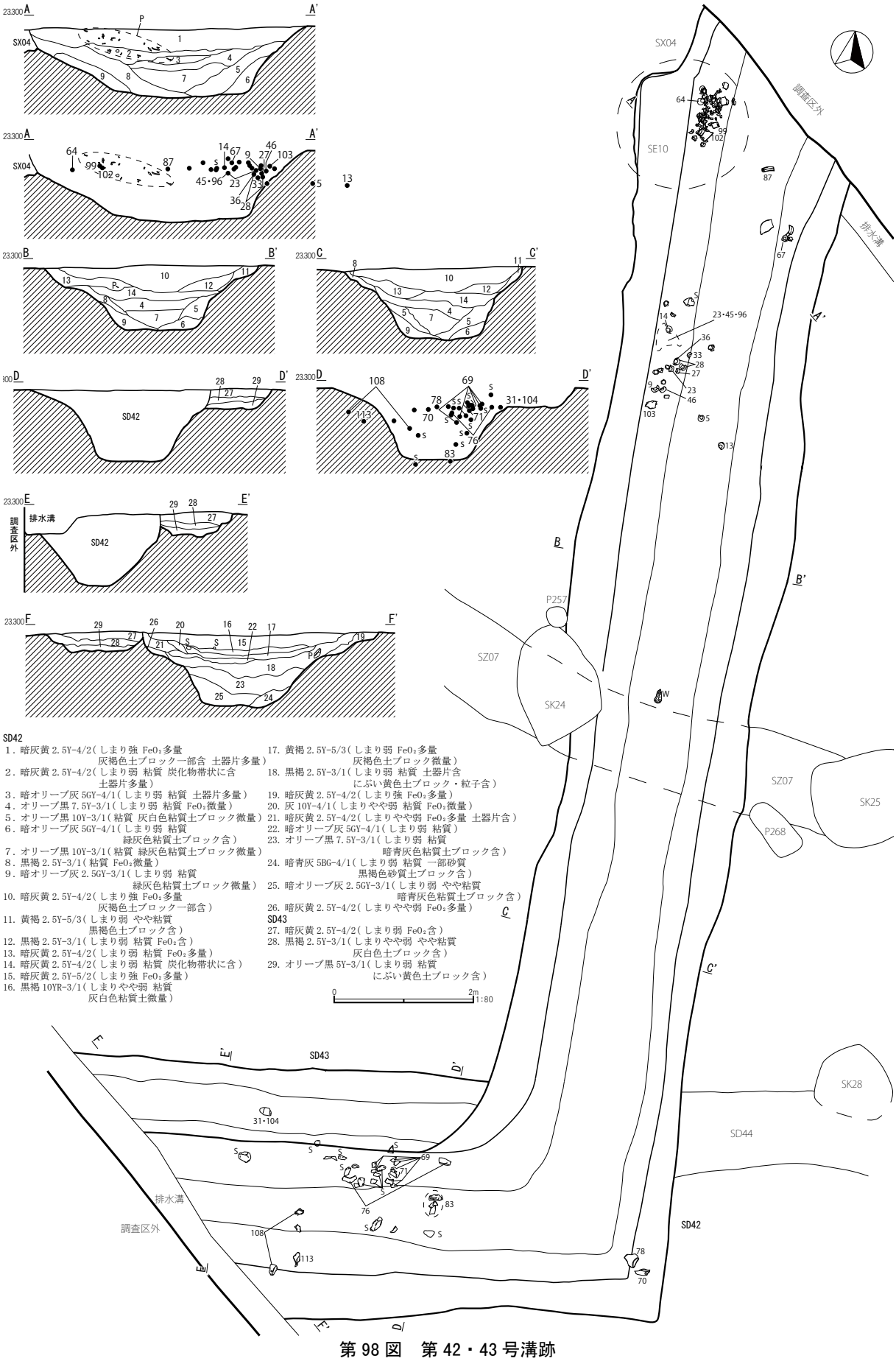
出土遺物は、青磁香炉、白磁皿、焙烙、木製品などが検出された。それ以外にも複数の土師質土器片が検出されている。

出土量が少ないため、時期特定はできないことから、この遺構の時期は不明であるが、重複関係から第 42 号溝跡より以前のものであることが推定できる。

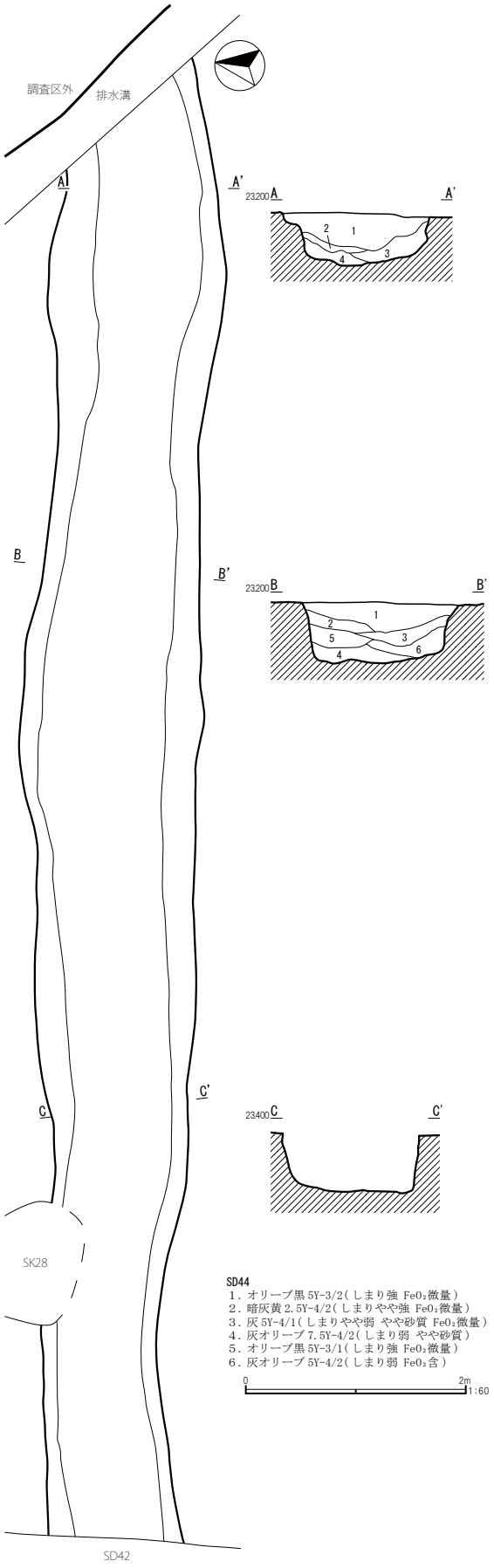
第 44 号溝跡（第 99、119 図）

Ｔ～Ｖ－ 17 グリッドから検出した。第 42 号溝跡、第 27 号土坑と重複関係にあり、第 42 号溝跡、第 27 号土坑に切られていた。

本遺構は調査区中央に位置し、調査区北壁からやや南西方向に延伸して、第 42 号溝跡（南北方向）



第 98 図　第 42・43 号溝跡



第 99 図　第 44 号溝跡

に接続し、消滅する。

規模は、検出長 13.02 m程度、検出幅 1.03 ～ 1.66 mを測り、深さは遺構確認面から 0.48 ～ 0.57 mを測る。

平面形は、溝幅はほぼ一定の間隔を保ち、立ち上がりは鋭角で底部は平坦である。

断面は、断面観察から、４～６層の堆積が確認できる。堆積はレンズ状堆積で、自然堆積と推定される。

出土遺物は、土師器坏、青磁碗、土錘を検出している。

出土量も少なく、出土遺物の時期も異なっているため、時期特定はできなかった。

なお、本遺構と第 43 号溝跡は、別遺構と捉えているが、平面形からみると直線的に延伸している。そのため、第 42 号溝跡に切られた後、第 43 号溝跡は埋没し、本遺構は掘り直され、再利用された可能性がある。

第 45 号溝跡（第 100 図）

Ｕ－ 16 グリッドから検出した。本遺構と重複関係にある遺構はない。

本遺構は調査区中央に位置し、調査区北壁から延伸して、第 261 号ピット手前で収束する。

規模は、検出長 1.92 m程度、検出幅 0.31 mを測り、深さは遺構確認面から 0.12 mを測る。

平面形は、溝幅は収縮をしながらも一定に保ち、立ち上がりはやや鋭角で底部は平坦である。

断面は、断面観察から、単層であり、自然堆積と推定される。

出土遺物は検出されなかった。

第 46 号溝跡（第 100 図）

Ｕ－ 16 グリッドから検出した。本遺構と重複関係にある遺構はない。

規模は、検出長 1.74 m程度、検出幅 0.32 ～ 0.39 mを測り、深さは遺構確認面から 0.06 mを測る。

平面形は、弓状形で溝幅はほぼ一定の間隔をもつ。立ち上がりは緩やかで底部は丸い。

断面は、断面観察から、単層であり、自然堆積と推定される。

出土遺物は検出されなかった。

第 47 号溝跡（第 100 図）

U・V－17 グリッドから検出した。第 48 号溝跡、第 28、32、33 号土坑、第 278 号ピットと重複関係にあり、第 48 号溝跡、第 32、33 号土坑を切り、第 278 号ピットに切られていた。第 28 号土坑との新旧関係は不明である。

本遺構は調査区中央やや東に位置し、調査区北壁から西に延伸して、第 28 号土坑と接続し、収束する。

規模は、検出長 10.84 m程度、検出幅 0.33 ～ 0.45 mを測り、深さは遺構確認面から 0.11 ～ 0.12 mを測る。

平面形は、波状で溝幅はほぼ一定の間隔をもつ。立ち上がりは垂直に落ち、ゆるやかに底部へ落ち込み、底部は丸い。

断面は、断面観察から、２層であり、自然堆積と推定される。

出土遺物は検出されなかった。

第 48 号溝跡（第 101 図）

T･U－17･18 グリッドから検出した。第 47 号溝跡､第 30 号土坑、第 273 号ピットと重複関係にあり、第 30 号土坑を切り、第 47 号溝跡、第 273 号ピットに切られていた。

本遺構は調査区中央やや東に位置し、調査区南壁から北東に延伸したのち屈曲して、第 47 号溝跡と接続し、収束する。

規模は、検出長 10.70 m程度、検出幅 0.56 ～ 1.08 mを測り、深さは遺構確認面から 0.08 ～ 0.11 mを測る。

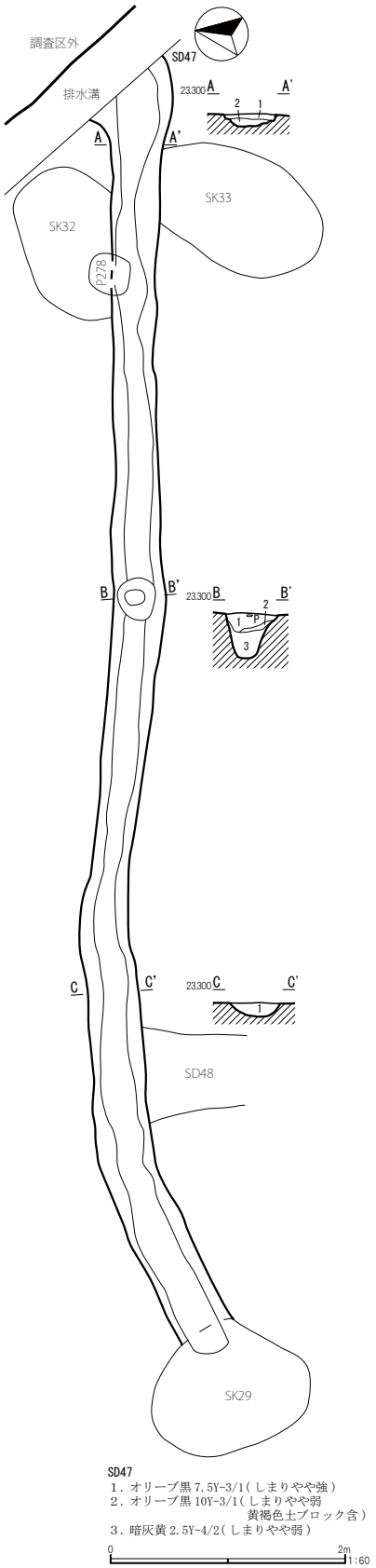
平面形は、溝幅は南壁から延伸するにつれ、窄んでいく。立ち上がりは緩やかで、底部は丸い。

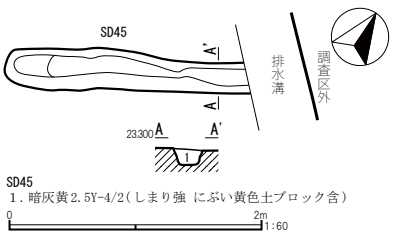
断面は、断面観察から、１～２層であり、自然堆積と推定される。

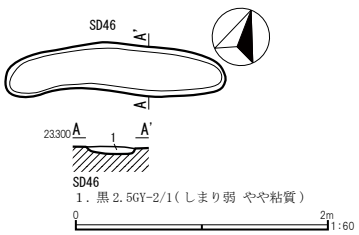
出土遺物は検出されなかった。

第 49 号溝跡（第 102、119 図）

U～W－17、U・V－18 グリッドから検出した。第 50 号溝跡、







第 100 図　第 45 ～ 47 号溝跡

第 35 号土坑、第 275、290、298 号ピットと重複関係にあり、第 50 号溝跡、第 298 号ピットを切り、第 35 号土坑、第 275、290 号ピットに切られていた。

本遺構は調査区東に位置し、調査区を北東から南西に向かって横断する。

規模は、検出長 18.90 m程度、検出幅 1.95 ～ 3.26 mを測り、深さは遺構確認面から 1.00 ～ 1.08 mを測る。

平面形は、調査区南壁付近に窄みがある以外は、ほぼ一定の間隔をもつ。立ち上がりは鋭角に落ち込み底部まではやや緩やかに傾斜する。底部は平坦である。

断面は、逆凸状で断面観察から、16 層確認でき、堆積状況から一度埋没後、再度溝として機能させていたことが推定できる。堆積はしまりの強い粘質土で、第 10 層の黒色粘質土より上層はしまりが弱い。堆積状況からレンズ状の自然堆積と推定される。

出土遺物は、土師器甕・坏、須恵器甕・坏・コップ型土器、土師質土器、石器などを検出している。

検出された遺物、比率から、本遺構の時期は８世紀後半と考えられる。

第 50 号溝跡（第 103、119 図）

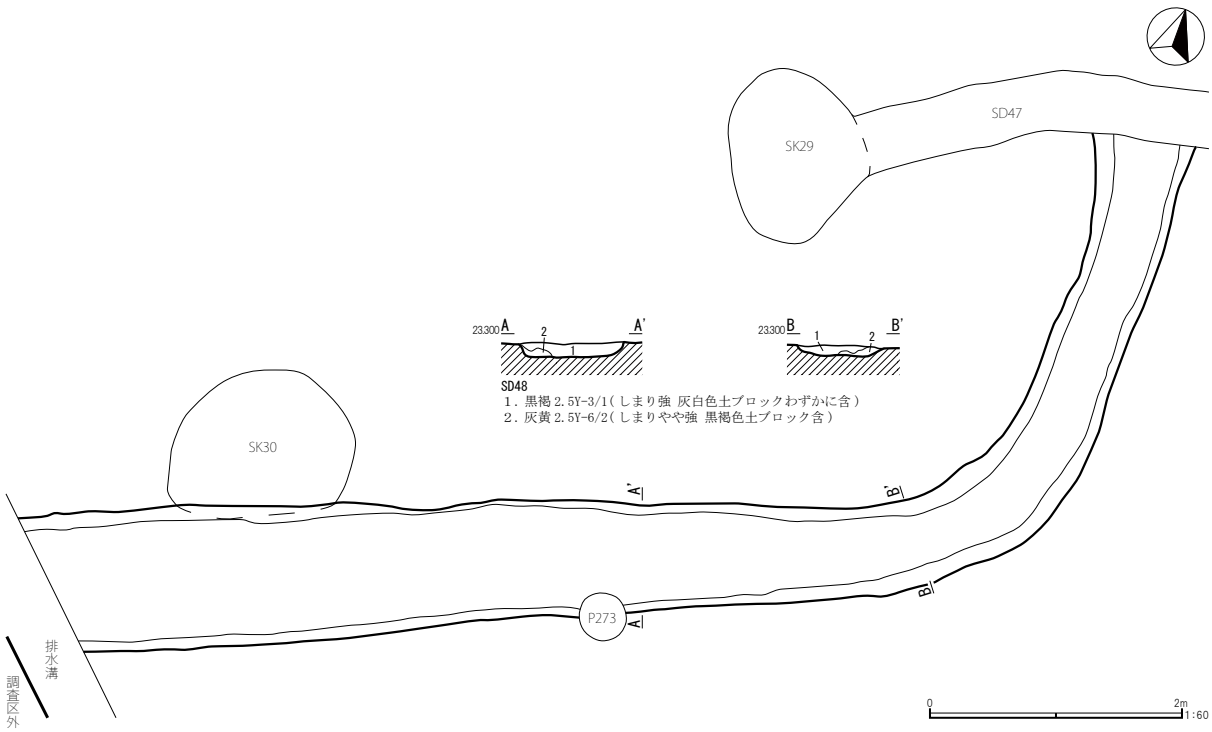
Ｖ－ 18 グリッドから検出した。第８号方形周溝墓、第 49、51 号溝跡、第 300、301、304 号ピットと重複関係にあり、重複するすべての遺構に切られていた。

本遺構は調査区東に位置し、第 49 号溝跡からやや屈曲しながら南に直進し、第 304 号ピットにぶつかり消失する。

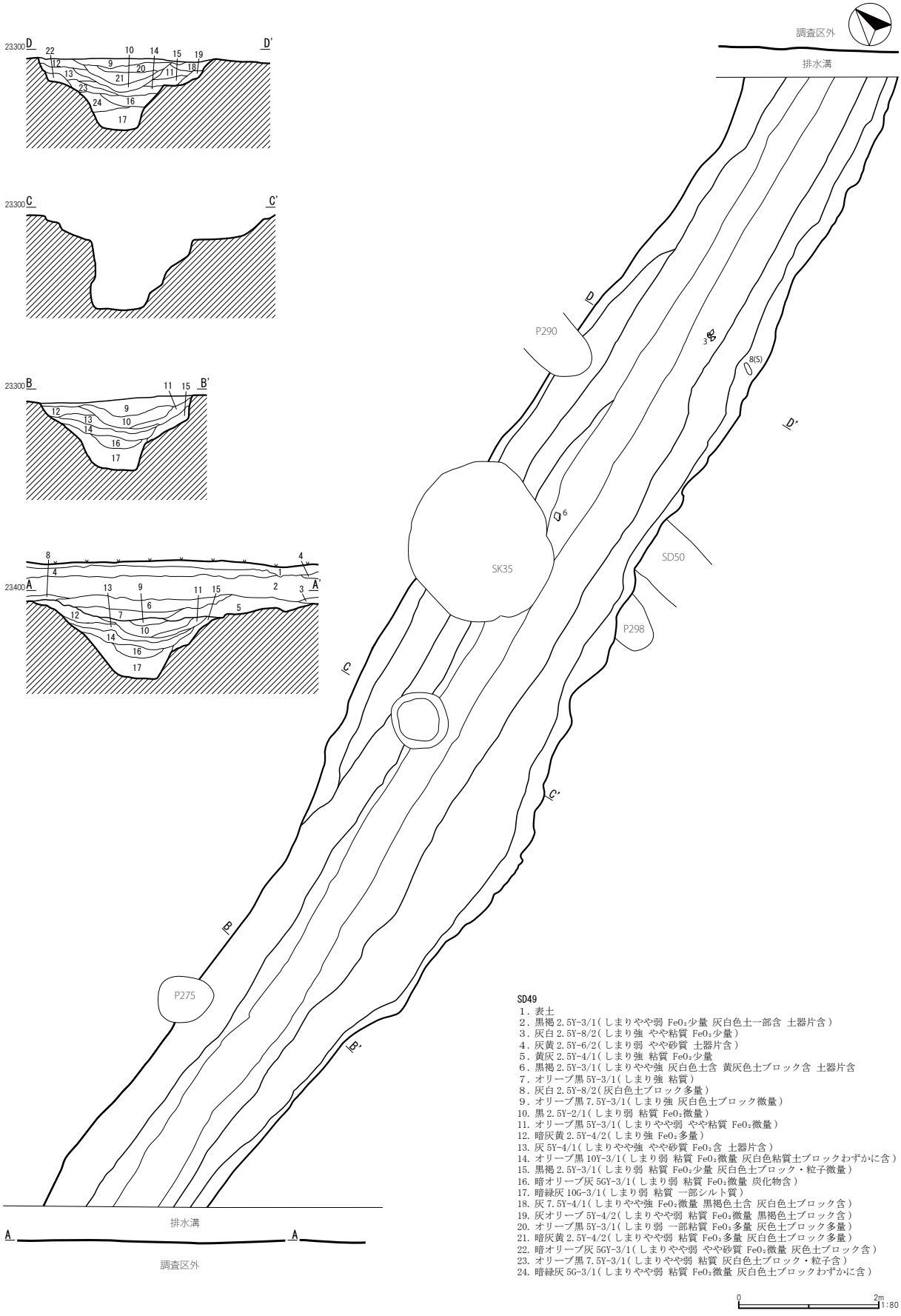
規模は、検出長 8.28 m程度、検出幅 0.43 ～ 0.83 mを測り、深さは遺構確認面から 0.08 mを測る。

平面形は、北から南へ窄んでいく。立ち上がりは緩やかに傾斜し、底部は平坦である。

断面は、断面観察から、単層で、堆積状況からレンズ状の自然堆積と推定される。



第 101 図　第 48 号溝跡



第 102 図　第 49 号溝跡

出土遺物は図化可能な遺物が土師器坏１点のみ検出された。

よって出土量が少ないため、時期特定はできないことから、この遺構の時期は不明である。

第 51 号溝跡（第 103、119 図）

U・V－18 グリッドから検出した。第８号方形周溝墓、第 50 号溝跡と重複関係にあり、第８号方形周溝墓、第 50 号溝跡を切っていた。

本遺構は調査区東に位置し、南壁から東へ直進し、第 306 号ピット付近で収束する。

規模は、検出長 8.92 m程度、検出幅 0.64 ～ 0.84 mを測り、深さは遺構確認面から 0.81 ～ 0.35 mを測る。

平面形は、溝幅は一定の間隔を保ち、立ち上がりは緩やかに傾斜し、底部はやや平坦である。

断面は、断面観察から、３～４層で、堆積状況からレンズ状の自然堆積と推定される。

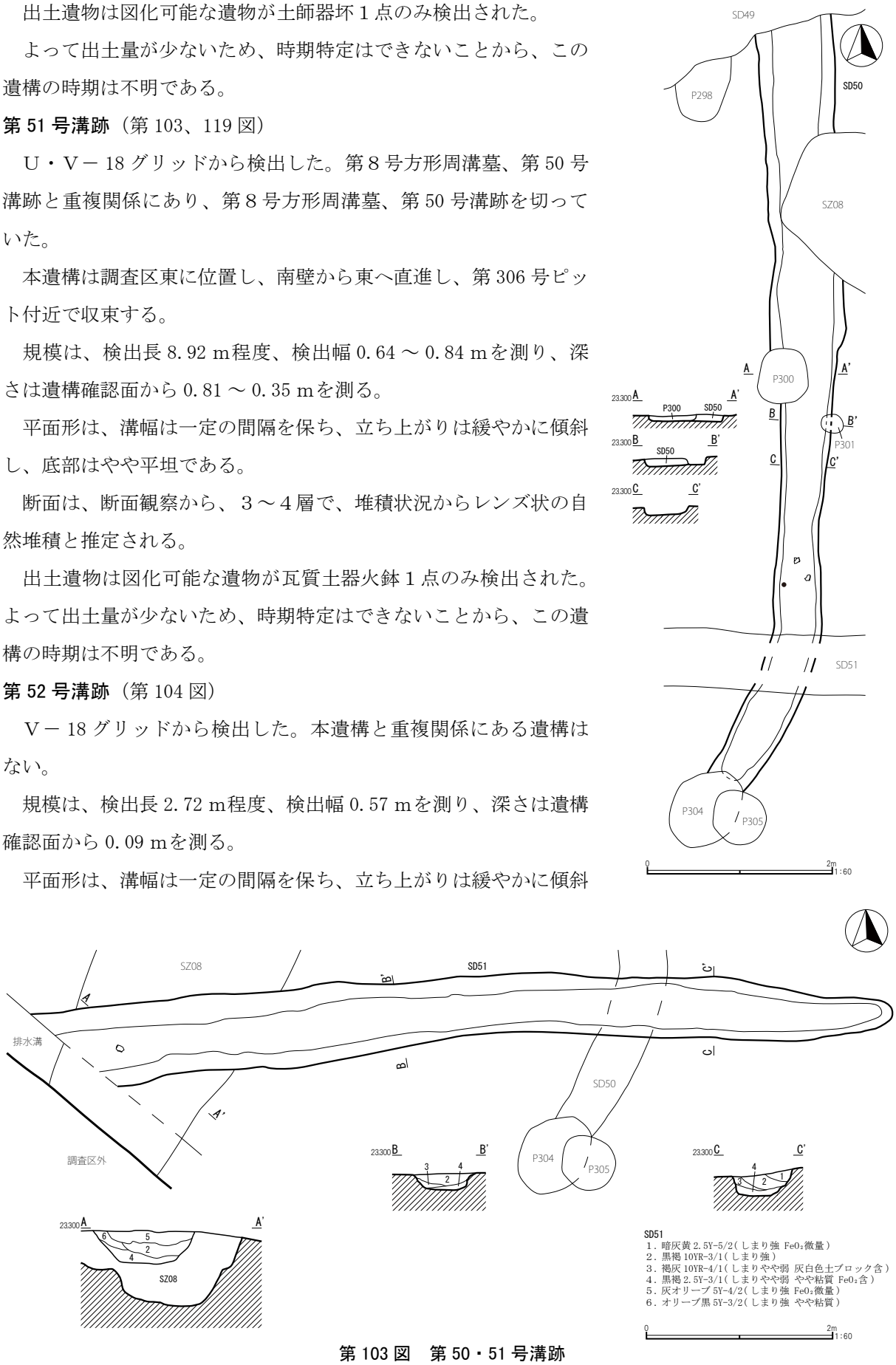
出土遺物は図化可能な遺物が瓦質土器火鉢１点のみ検出された。よって出土量が少ないため、時期特定はできないことから、この遺構の時期は不明である。

第 52 号溝跡（第 104 図）

V－18 グリッドから検出した。本遺構と重複関係にある遺構はない。

規模は、検出長 2.72 m程度、検出幅 0.57 mを測り、深さは遺構確認面から 0.09 mを測る。

平面形は、溝幅は一定の間隔を保ち、立ち上がりは緩やかに傾斜



第 103 図　第 50・51 号溝跡

し、底部はやや平坦である。

出土遺物は検出されなかった。

第 53 号溝跡（第 104 図）

Ｖ－18･19 グリッドから検出した。第307 号ピットと重複関係にあり、第307 号ピットに切られていた。

規模は、検出長 2.90 ｍ程度、検出幅 0.57 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.16 ｍを測る。

平面形は、溝幅は一定の間隔を保ち、立ち上がりは東側が鋭角、西側が緩やかに傾斜し、底部はやや平坦である。

断面は、舟底形で断面観察から、３層で、堆積状況からレンズ状の自然堆積と推定される。

出土遺物は検出されなかった。

第 54 号溝跡（第 104 図）

Ｓ－16 グリッドから検出した。第 16 号土坑と重複関係にあり、第 16 号土坑に切られていた。

本遺構は調査区西に位置し、第 16 号土坑から派生、東へ直進し、収束する。

規模は、検出長 0.99 ｍ程度、検出幅 0.25 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.11 ｍを測る。

平面形は、溝幅は一定の間隔を保ち、立ち上がりは緩やかに傾斜し、底部はやや平坦である。

断面は、Ｕ字状で断面観察から、単層で、堆積状況からレンズ状の自然堆積と推定される。

出土遺物は検出されなかった。

第 55 号溝跡（第 104 図）

Ｗ－18 グリッドから検出した。本遺構と重複関係にある遺構はない。

規模は、検出長 2.09 ｍ程度、検出幅 0.26 ～ 0.39 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.06 ｍを測る。

平面形は、溝幅は一定の間隔を保ち、立ち上がりは緩やかに傾斜し、底部はやや平坦である。

出土遺物は検出されなかった。

第 56 号溝跡（第 104 図）

Ｗ－19 グリッドから検出した。本遺構と重複関係にある遺構はない。

規模は、検出長 2.10 ｍ程度、検出幅 0.31 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.20 ｍを測る。

平面形は、溝幅は一定の間隔を保ち、立ち上がりは緩やかに傾斜し、底部はやや平坦である。

出土遺物は検出されなかった。

第 57 号溝跡（第 104、119 図）

Ｗ－19・20 グリッドから検出した。　第３号河川跡と重複関係にあり、その河川跡に切られる。

規模は、検出長 5.79 ｍ程度、検出幅 0.53 ～ 0.62 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.04 ｍを測る。

平面形は、溝幅は一定の間隔を保ち、立ち上がりは緩やかに傾斜し、底部はやや平坦である。

出土遺物は、瓦質土器片口鉢が検出された。

第 58 号溝跡（第 104 図）

Ｘ－19 グリッドから検出した。本遺構と重複関係にある遺構はない。

本遺構は調査区北壁から南西に向かって延伸する。

規模は、検出長 3.28 m程度、検出幅 0.76 ～ 0.88 mを測り、深さは遺構確認面から 0.22 ～ 0.31 mを測る。

平面形は、直線状に延び、溝幅は間隔が一定であり、立ち上がりは緩やかで、底部は平坦である。

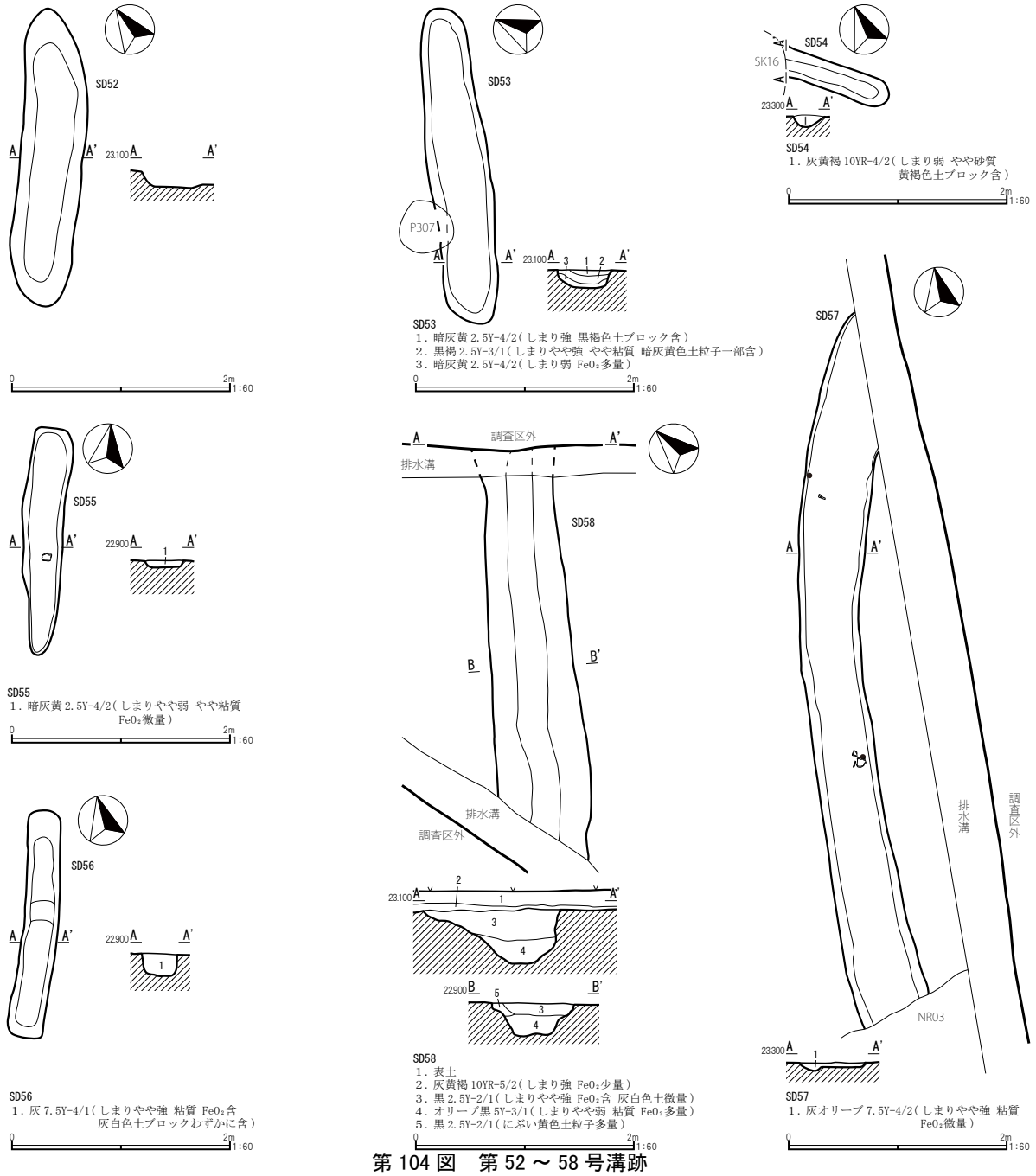
断面は、舟底型で断面観察から、２～３層であり、自然堆積と推定される。

出土遺物は検出されなかった。

第 59 号溝跡（第 105 図）

Ｘ－ 19、Ｘ・Ｙ－ 20 グリッドから検出した。第 60 号溝跡と重複し、第 60 号溝跡を切っていた。

本遺構は北壁から南へ「し」の字状に延伸し、第 60 号溝跡を切り、収束する。



第 104 図　第 52 ～ 58 号溝跡

規模は、検出長 15.39 m程度、検出幅 0.28 ～ 0.49 mを測り、深さは遺構確認面から 0.10 ～ 0.19 mを測る。

平面形は、曲線状に延び、溝幅は間隔が一定であり、立ち上がりは緩やかで、底部は平坦である。

断面は、Ｕ字型で断面観察から、最大３層であり、自然堆積と推定される。

出土遺物は検出されなかった。

第 60 号溝跡（第 105、119、120 図）

Ｘ～Ｚ－ 20 グリッドから検出した。第 59 号溝跡と重複関係にあり、本遺構が第 59 号溝跡に切られていた。

本遺構は調査区中央に位置し、調査区を東から西へ横断するように延伸している。

規模は、検出長 15.35 m程度、検出幅 1.14 ～ 1.48 mを測り、深さは遺構確認面から 0.43 ～ 0.54 mを測る。

平面形は、直線状に延び、溝幅は間隔が一定であり、立ち上がりは鋭角で、底部はほぼ平坦である。傾斜はみられない。

断面は、舟底型で断面観察から、５層であり、自然堆積と推定される。いずれの覆土は粘質の灰色土であった。

出土遺物は、土師質土器、木製品、銭貨、陶器、馬歯、種子（モモ・ウメ）であった。それ以外にも土師質土器片と推定できる欠片が数点検出されたが図示できるものはなかった。

検出された土師質土器は鎌倉公方系であり、それ以外にも同器種が検出していることから、本遺構の時期は 14 世紀後半から 15 世紀初頭と考えられる。

第 61 号溝跡（第 106、120 図）

Ｘ～Ｚ－ 21 グリッドから検出した。第 62 号溝跡と重複関係にあり、本遺構が第 62 号溝跡を切っていた。南端部分が調査区域外であるため、詳細は不明である。

本遺構は調査区南壁に沿って東西方向に直進する溝跡である。

規模は、検出長 20.45 m程度、検出幅 1.57 ～ 1.84 mを測り、深さは遺構確認面から 0.74 ～ 0.80 mを測る。

平面形は、直線状に延び、一部調査区域外であるが溝幅は間隔が一定と推定され、立ち上がりはやや鋭角で、底部はほぼ平坦である。東から西への傾斜が確認できる。

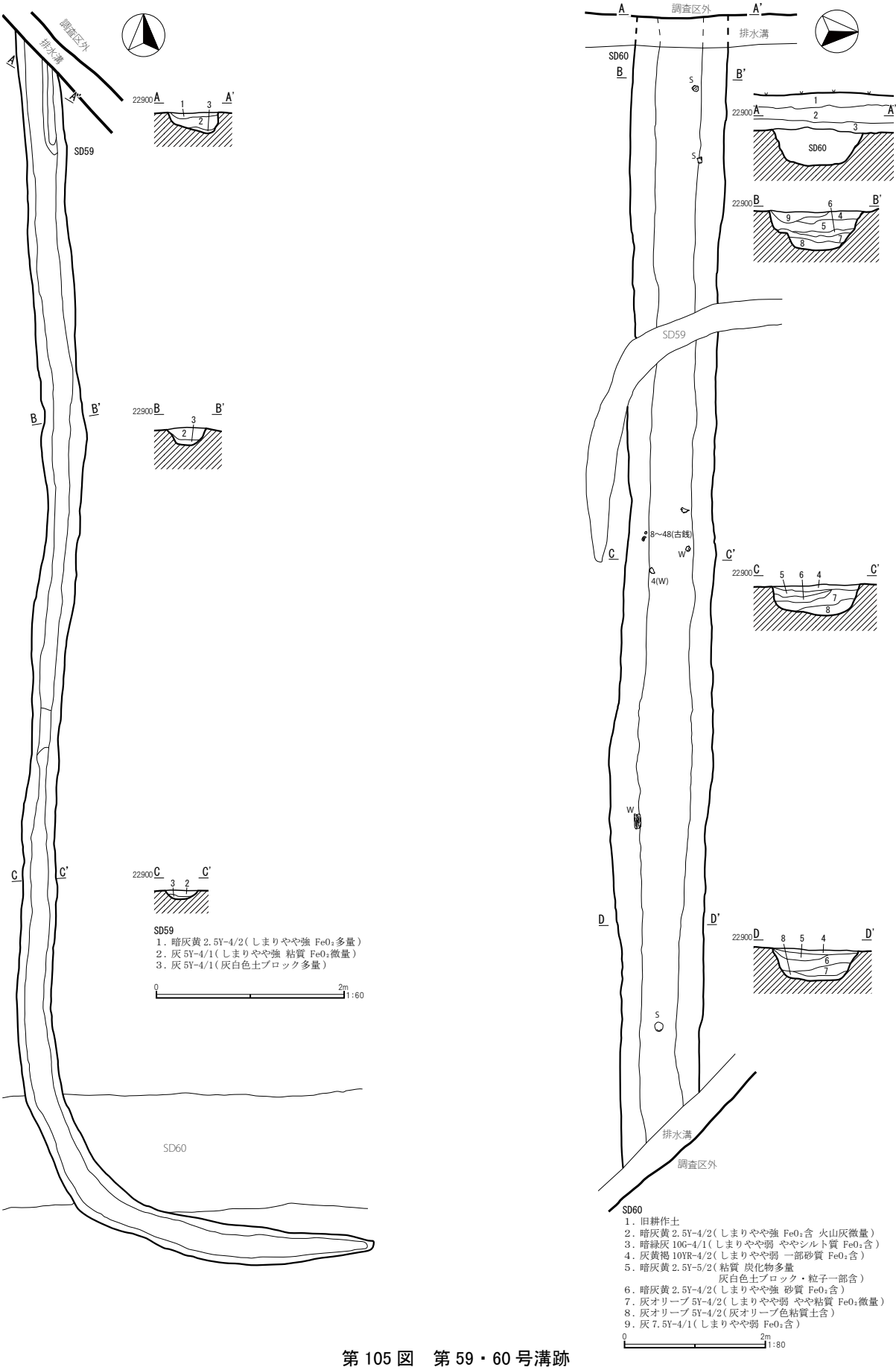
断面は、舟底型で断面観察から、最大９層であり、自然堆積と推定される。いずれの覆土は粘質の灰色土であった。溝の一部は堆積後、掘り直された形跡（Ｅ－Ｅ’）が確認できる。

出土遺物は、須恵器甕・瓶、灰釉、瓦質土器、陶器、銭貨、瓦、馬歯などであった。

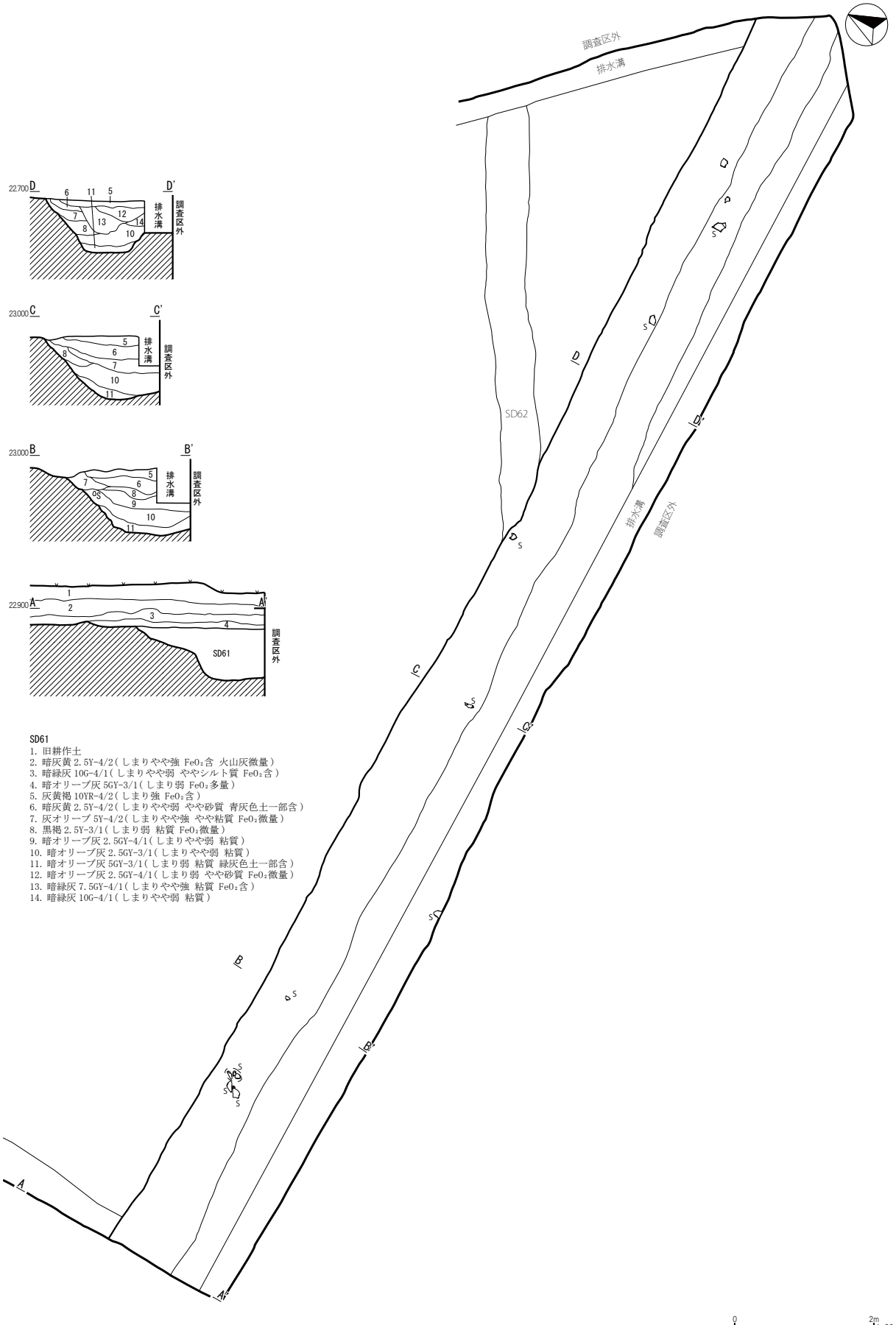
検出された遺物から、本遺構の時期はやや幅があるが、主体時期は 12 世紀～ 13 世紀代と考えられる。

第 62 号溝跡（第 107、120 図）

Ｙ・Ｚ－ 20・21 グリッドから検出した。第 61 号溝跡と重複関係にあり、本遺構が第 61 号溝跡に切られていた。



第 105 図　第 59・60 号溝跡



第 106 図　第 61 号溝跡

本遺構は調査区東壁から南西方向に直進し、第 61 号溝跡に接続する。

規模は、検出長 0.56 ｍ程度、検出幅 0.55 ～ 0.63 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.14 ～ 0.15 ｍを測る。

平面形は、直線状に延び、溝幅は一定で、立ち上がりはゆるやかで、底部は丸い。北東から南西への傾斜が確認できる。　断面は、断面観察から、最大２層であり、自然堆積と推定される。

出土遺物は陶器ほか、数点の図示できない陶磁器、かわらけ片などがあった。

検出された遺物から、本遺構の時期は 12 世紀末から 13 世紀後半と考えられる。

第 63 号溝跡（第 107 図）

ＡＤ・ＡＥ－ 27、ＡＤ－ 28 グリッドから検出した。本遺構と重複関係にある遺構はない。

本遺構は調査区南壁から北東方向に直進し、第 335 号ピット手前で収束する。

規模は、検出長 8.51 ｍ程度、検出幅 0.33 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.07 ～ 0.10 ｍを測る。

平面形は、一部歪みながら直線状に延び、溝幅は一定で、立ち上がりはゆるやかで、底部は丸い。南西から北西にやや傾斜が確認できる。

出土遺物は検出されなかった。

第 64 号溝跡（第 109 図）

ＡＥ－ 26・27、ＡＤ・ＡＥ－ 28 グリッドから検出した。第 341 号ピットが重複関係にあり、本遺構を切っていた。軸方向はＮ－ 16° －Ｅを指す。

本遺構は調査区南壁から北東方向に直進する。東には第 67 号溝跡がほぼ同じ角度で平行に直進する。

規模は、検出長 19.8 ｍ程度、検出幅 1.92 ～ 2.04 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.64 ～ 0.72 を測る。

平面形は、一部歪みながら直線状に延び、溝幅はほぼ一定で、立ち上がりはややゆるやかで、底部は丸い。傾斜はみられない。

断面は、断面観察から、最大 10 ～ 12 層であり、堆積の状態からレンズ状の自然堆積と推定される。

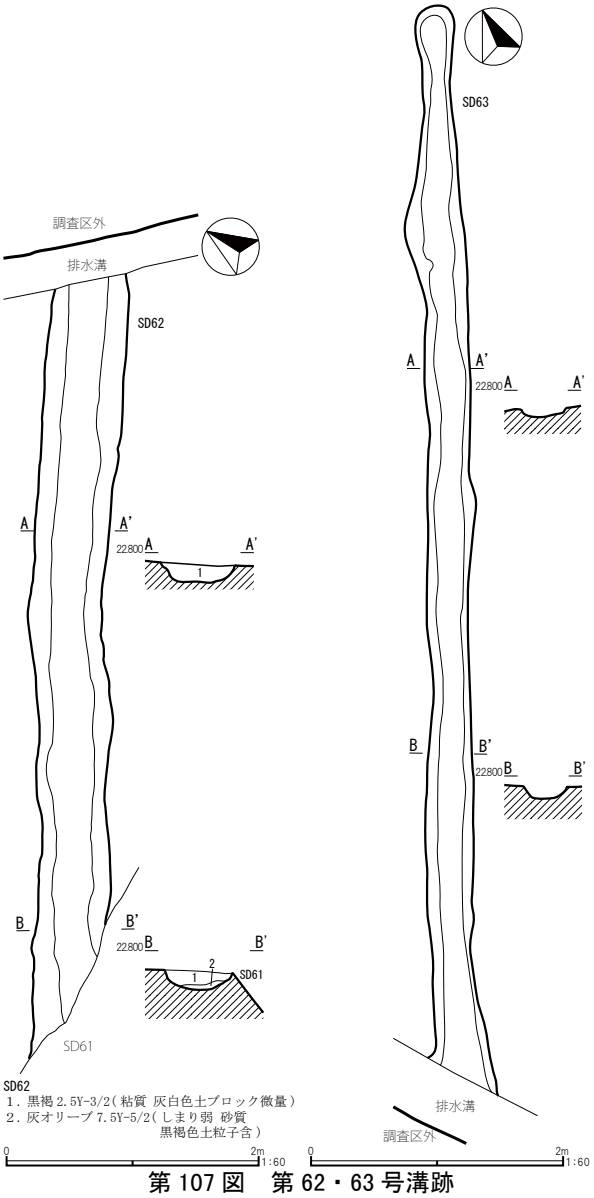
出土遺物は土師器坏片などが数点検出されたが、図化できるものはなかった。

第 65 号溝跡（第 108 図）

ＡＥ－ 27 グリッドから検出した。本遺構と重複関係にある遺構はない。軸方向は北東方向を指す。

規模は、検出長 2.11 ｍ程度、検出幅 0.14 ～ 0.50 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.12 ｍを測る。

平面形は、ピット状の膨らみから溝状に延伸し、



第 107 図　第 62・63 号溝跡

溝幅はほぼ一定で、立ち上がりはややゆるやかで、底部は丸い。傾斜はみられない。

断面は、断面観察から、２層であり、堆積の状態からレンズ状の自然堆積と推定される。

出土遺物は検出されなかった。

第 66 号溝跡（第 108 図）

ＡＥ・ＡＦ－27 グリッドから検出した。本遺構と重複関係にある遺構はない。軸方向は北東方向を指す。

規模は、検出長 3.36 m程度、検出幅 0.24 mを測り、深さは遺構確認面から 0.07 ～ 0.11 mを測る。

平面形は、ピット状の膨らみから溝状に延伸し、溝幅はほぼ一定で、立ち上がりはややゆるやかで、底部は丸い。

断面は、断面観察から、２層であり、堆積の状態からレンズ状の自然堆積と推定される。

出土遺物は検出されなかった。

第 67 号溝跡（第 109 図）

ＡＦ－27、ＡＥ・ＡＦ－28・29 グリッドから検出した。第 68 号溝跡と重複関係にあり、本遺構が切られていた。軸方向はＮ－ 15° －Ｅを指す。

本遺構は調査区南壁から北東方向に直進する。西には第 64 号溝跡がほぼ同じ角度で平行に直進する。

規模は、検出長 18.02 m程度、検出幅 0.84 ～ 1.38 mを測り、深さは遺構確認面から 0.36 ～ 0.44 mを測る。

平面形は、大きく歪みながら直線状に延び、溝幅は一律ではない。立ち上がりは両端ともややゆるやかに傾斜した後、鋭角に落ち込む。底部は丸い。南西方向にわずかに傾斜している。

断面は、断面観察から、最大６～７層であり、堆積の状態からレンズ状の自然堆積と推定される。

出土遺物の検出はされなかった。

第 68 号溝跡（第 110、120 図）

ＡＥ～ＡＧ－28・29 グリッドから検出した。第 67 号溝跡と重複関係にあり、本遺構が切っていた。

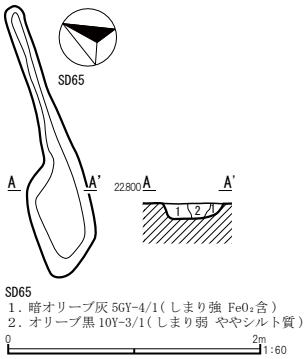
本遺構は東西方向に直進し、東壁付近で北に屈曲でする。

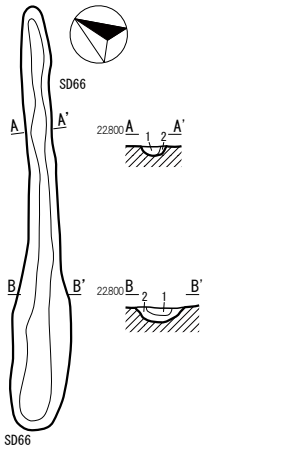
規模は、検出長 21.09 m程度、検出幅 2.27 ～ 3.16 mを測り、深さは遺構確認面から 0.74 ～ 0.88 mを測る。

平面形は、直線状に延び、溝幅はほぼ一定ながら一部に凹凸がある。立ち上がりは鋭角で、中段からゆるやかに傾斜する。東側はさらに落ち込みを有する。底部は平坦である。東方向に傾斜している。

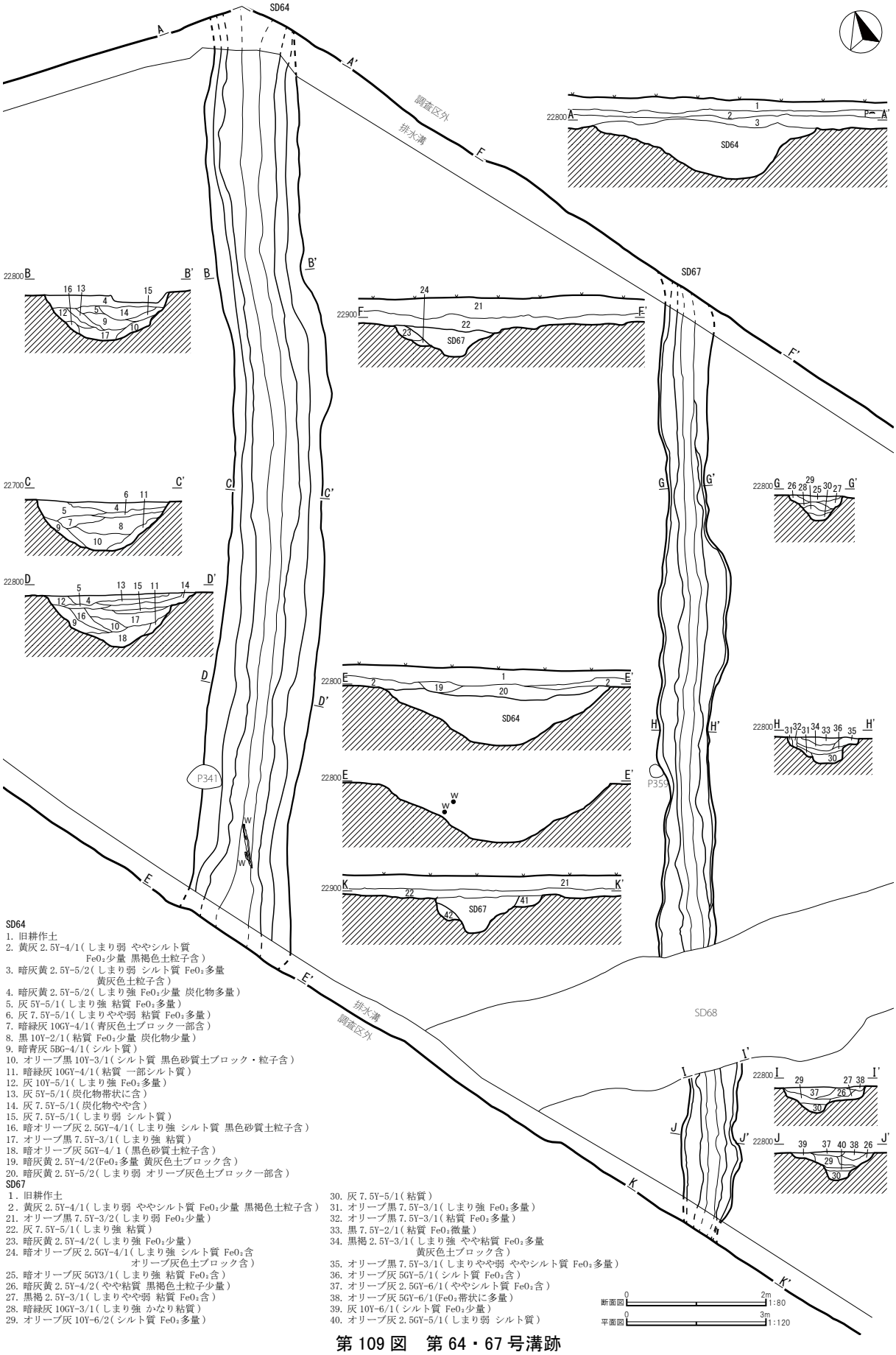
断面は、断面観察から、最大６層であり、レンズ状の自然堆積と推定される。

出土遺物は陶磁器等が数点確認されたが、図示できるものは古瀬戸の陶器、馬歯各１点づつのみであった。それ以外に炭化米塊、モモの種子が多





第 108 図　第 65・66 号溝跡



SD64
1. 旧耕作土
2. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 ややシルト質 FeO_2少量 黒褐色土粒子含)
3. 暗灰黄 2.5Y-5/2(しまり弱 シルト質 FeO_2多量 黄灰色土粒子含)
4. 暗灰黄 2.5Y-5/2(しまり強 FeO_2少量 炭化物多量)
5. 灰 5Y-5/1(しまり強 粘質 FeO_2多量)
6. 灰 7.5Y-5/1(しまりやや弱 粘質 FeO_2多量)
7. 暗緑灰 10GY-4/1(青灰色土ブロック一部含)
8. 黒 10Y-2/1(粘質 FeO_2少量 炭化物少量)
9. 暗青灰 5BG-4/1(シルト質)
10. オリーブ黒 10Y-3/1(シルト質 黒色砂質土ブロック・粒子含)
11. 暗緑灰 10GY-4/1(粘質 一部シルト質)
12. 灰 10Y-5/1(しまり強 FeO_2多量)
13. 灰 5Y-5/1(炭化物帯状に含)
14. 灰 7.5Y-5/1(炭化物やや含)
15. 灰 7.5Y-5/1(しまり弱 シルト質)
16. 暗オリーブ灰 2.5GY-4/1(しまり強 シルト質 黒色砂質土粒子含)
17. オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまり強 粘質)
18. 暗オリーブ灰 5GY-4/1(黒色砂質土粒子含)
19. 暗灰黄 2.5Y-4/2(FeO_2多量 黄灰色土ブロック含)
20. 暗灰黄 2.5Y-5/2(しまり弱 オリーブ灰色土ブロック一部含)

SD67
1. 旧耕作土
2. 黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 ややシルト質 FeO_2少量 黒褐色土粒子含)
21. オリーブ黒 7.5Y-3/2(しまり弱 FeO_2少量)
22. 灰 7.5Y-5/1(しまり強 粘質)
23. 暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 FeO_2少量)
24. 暗オリーブ灰 2.5GY-4/1(しまり強 シルト質 FeO_2含 オリーブ灰色土ブロック含)
25. 暗オリーブ灰 5GY3/1(しまり強 粘質 FeO_2含)
26. 暗灰黄 2.5Y-4/2(やや粘質 黒褐色土粒子少量)
27. 黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 粘質 FeO_2含)
28. 暗緑灰 10GY-3/1(しまり強 かなり粘質)
29. オリーブ灰 10Y-6/2(シルト質 FeO_2多量)
30. 灰 7.5Y-5/1(粘質)
31. オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまり強 FeO_2多量)
32. オリーブ黒 7.5Y-3/1(粘質 FeO_2多量)
33. 黒 7.5Y-2/1(粘質 FeO_2微量)
34. 黒褐 2.5Y-3/1(しまり強 やや粘質 FeO_2多量 黄灰色土ブロック含)
35. オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまりやや弱 ややシルト質 FeO_2多量)
36. オリーブ灰 5GY-5/1(シルト質 FeO_2含)
37. オリーブ灰 2.5GY-6/1(ややシルト質 FeO_2含)
38. オリーブ灰 5GY-6/1(FeO_2帯状に多量)
39. 灰 10Y-6/1(シルト質 FeO_2少量)
40. オリーブ灰 2.5GY-5/1(しまり弱 シルト質)

第 109 図　第 64・67 号溝跡

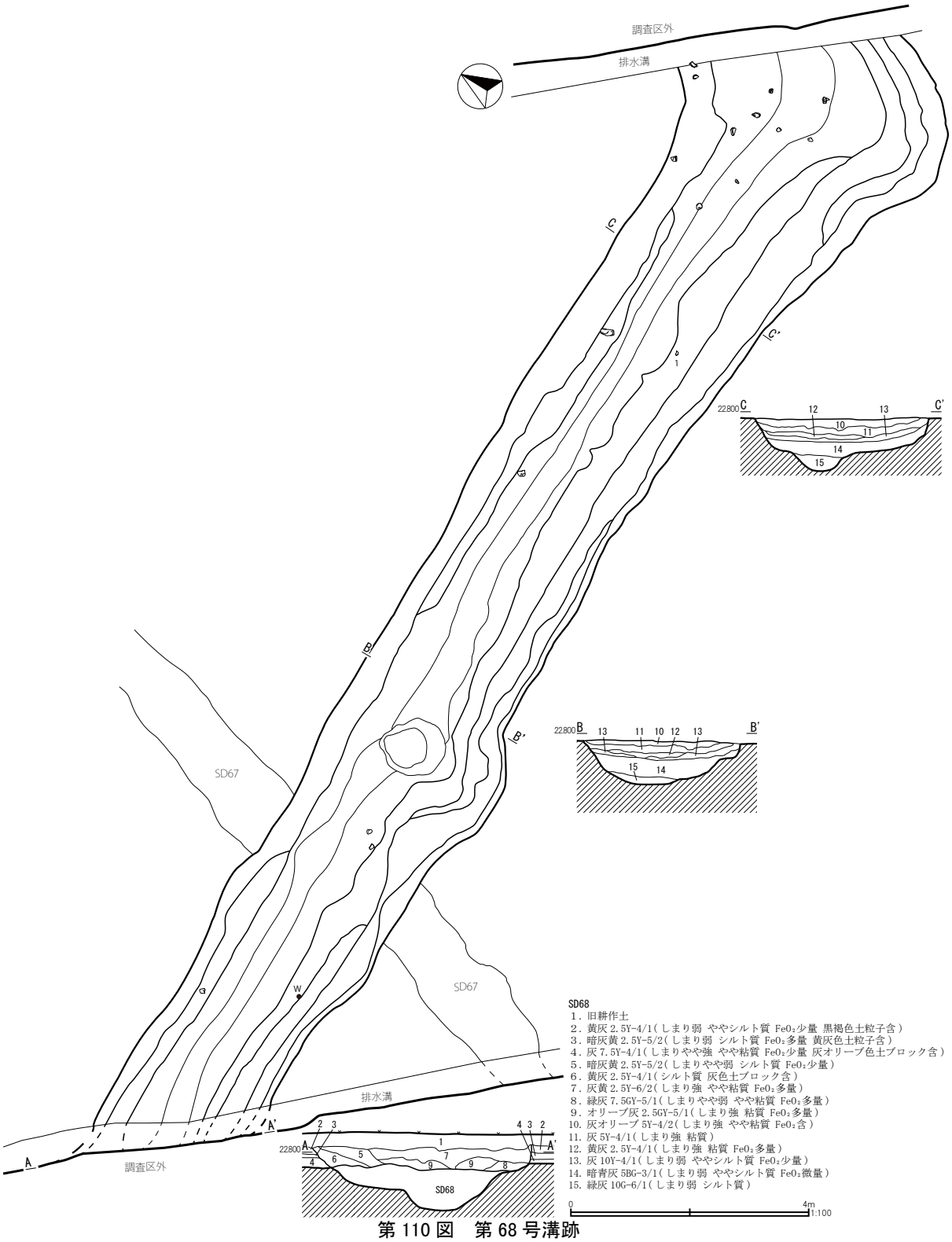
数検出された。

本遺構の時期は、出土遺物と他遺構との切り合い関係から 12 世紀末から 13 世紀後半と考えられる。

第 69 号溝跡（第 111 図）

ＡＥ・ＡＦ－ 29 グリッドから検出した。重複関係にある遺構はない。

本遺構は北東方向に直進し、まもなく収束する。



第 110 図　第 68 号溝跡

規模は、検出長 1.72 m程度、検出幅 0.24 mを測り、深さは遺構確認面から 0.06 mを測る。

平面形は、直線状に延び、溝幅はほぼ一定ながら一部にくびれがある。立ち上がりはゆるやかに傾斜し、底部は平坦である。

断面は、断面観察から、単層であり、レンズ状の自然堆積と推定される。

出土遺物の検出はなかった。

第 70 号溝跡（第 111 図）

ＡＧ－ 29 グリッドから検出した。第 71 号溝跡、第 43 号土坑と重複関係にあり、いずれの遺構も切っていた。

規模は、検出長 3.64 m程度、検出幅 1.01 mを測り、深さは遺構確認面から 0.17 mを測る。

平面形は、南北方向に延び、溝幅はほぼ一定ながら北側がやや窄まる。立ち上がりはゆるやかに傾斜し、底部は凹凸が目立つ。

断面は、断面観察から、３層であり、レンズ状の自然堆積と推定される。

出土遺物の検出はなかった。

第 71 号溝跡（第 111 図）

ＡＦ・ＡＧ－ 29 グリッドから検出した。第 70 号溝跡と重複関係にあり、本遺構が切られていた。

規模は、検出長 1.66 m程度、検出幅 0.39 mを測り、深さは遺構確認面から 0.05 mを測る。

平面形は、直線状に延び、溝幅はほぼ一定を保つ。立ち上がりはゆるやかに傾斜し、底部は平坦である。

断面は、断面観察から、２層であり、レンズ状の自然堆積と推定される。

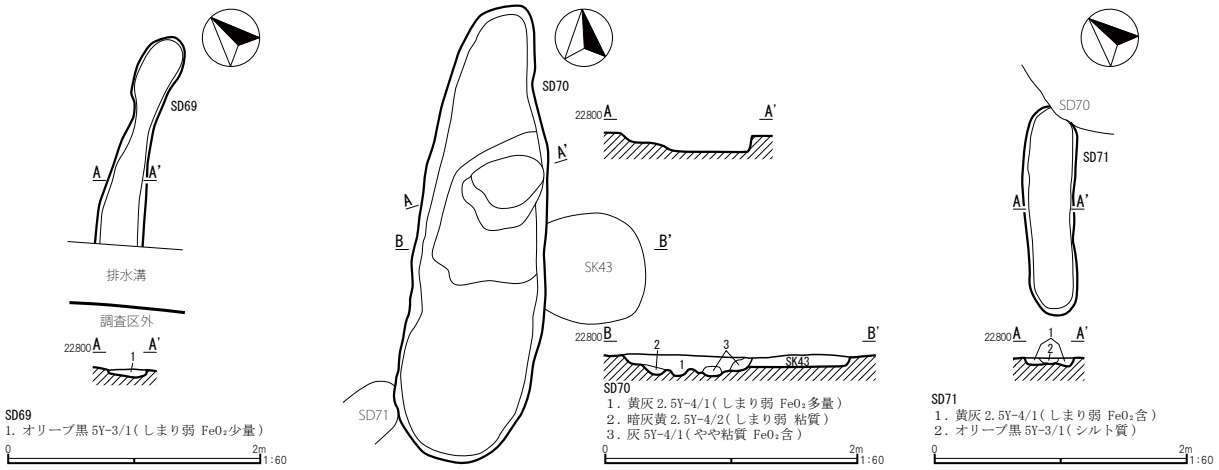
出土遺物の検出はなかった。

第 72 号溝跡（第 112 図）

ＡＦ・ＡＧ－ 29、ＡＦ－ 30 グリッドから検出した。第 73 号溝跡と重複関係にあり、本遺構が第 73 号溝跡を切っていた。

規模は、検出長 9.00 m程度、検出幅 0.23 ～ 0.55 mを測り、深さは遺構確認面から 0.04 ～ 0.06 mを測る。

平面形は、一部屈曲しながらも、直線状に延び、溝幅はほぼ一定を保つ。立ち上がりはゆるやかに傾斜し、底部は凹凸が目立つ。



第 111 図　第 69 ～ 71 号溝跡

断面は、断面観察から、１～２層であり、レンズ状の自然堆積と推定される。

出土遺物の検出はなかった。

第 73 号溝跡（第 112 図）

ＡＦ・ＡＧ－ 29・30 グリッドから検出した。第 72 号溝跡と重複関係にあり、本遺構の一部が第 72 号溝跡に切られていた。

規模は、検出長 5.60 ｍ程度、検出幅 0.31 ～ 0.90 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.06 ｍを測る。

平面形は、起伏や屈曲しながらも、直線状に延び、溝幅は一定ではない。立ち上がりはゆるやかに傾斜し、底部は凹凸が目立つ。

断面は、断面観察から、単層であり、レンズ状の自然堆積と推定される。

出土遺物の検出はなかった。

第 74 号溝跡（第 112 図）

ＡＧ－ 30 グリッドから検出した。第 75 号溝跡と重複関係にあり、本遺構の一部が第 75 号溝跡に切られていた。

規模は、検出長 1.32 ｍ程度、検出幅 0.63 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.06 ｍを測る。

平面形は、検出長がわずかであるが、直線状に延びる。立ち上がりはゆるやかに傾斜し、底部は平坦である。

断面は、断面観察から、２層であり、レンズ状の自然堆積と推定される。

出土遺物の検出はなかった。

第 75 号溝跡（第 112 図）

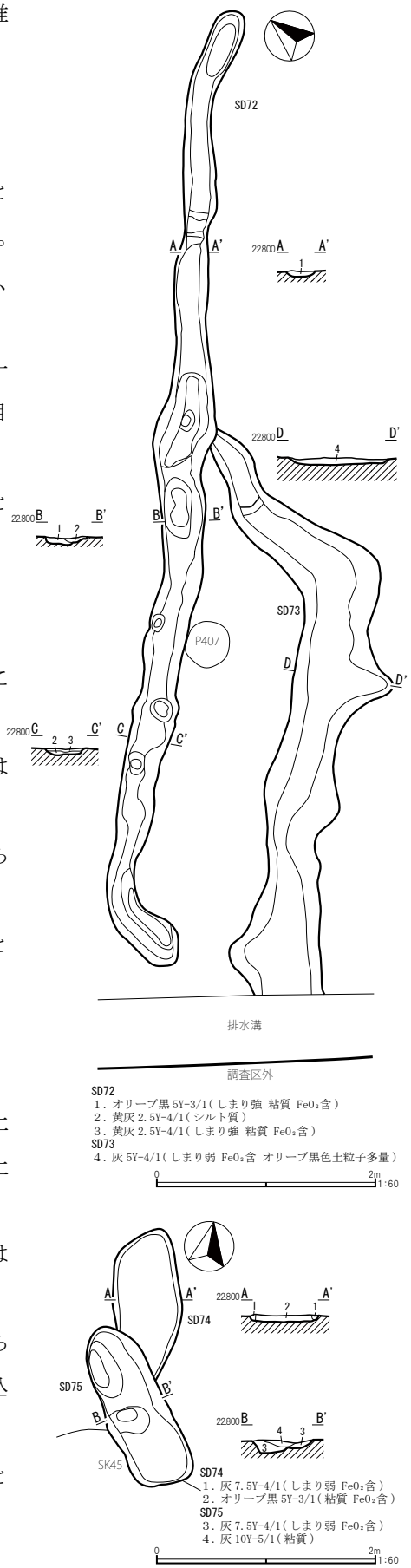
ＡＧ－ 30 グリッドから検出した。第 74 号溝跡、第 45 号土坑と重複関係にあり、本遺構の一部が第 74 号溝跡、第 45 号土坑を切っていた。

規模は、検出長 1.56 ｍ程度、検出幅 0.60 ｍを測り、深さは遺構確認面から 0.07 ～ 0.12 ｍを測る。

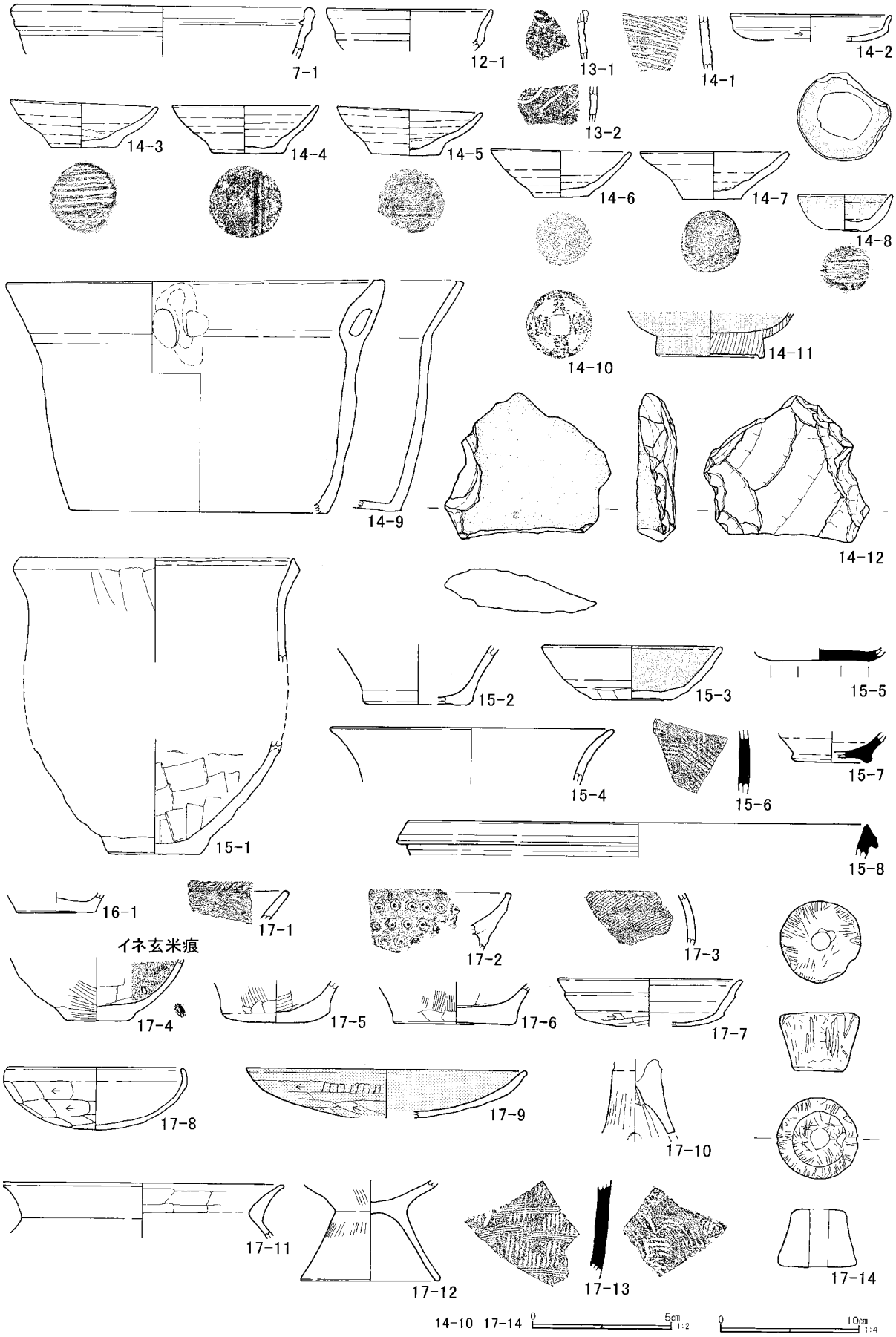
平面形は、直線状に延び、縦に長い隅丸方形を呈する。立ち上がりはゆるやかに傾斜し、底部は平坦であるが、一部落ち込みを有する。

断面は、断面観察から、２層であり、レンズ状の自然堆積と推定される。

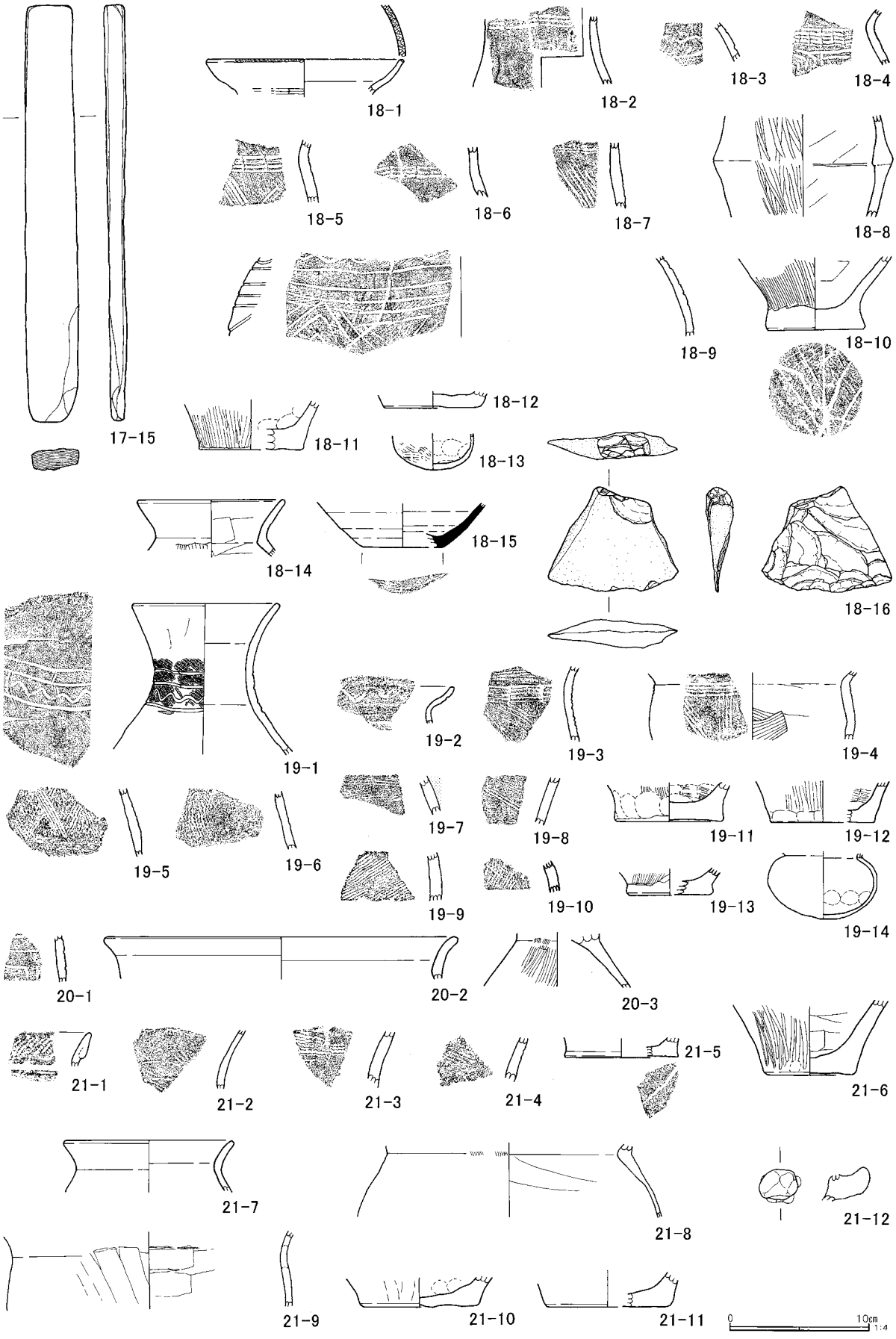
出土遺物の検出はなかった。



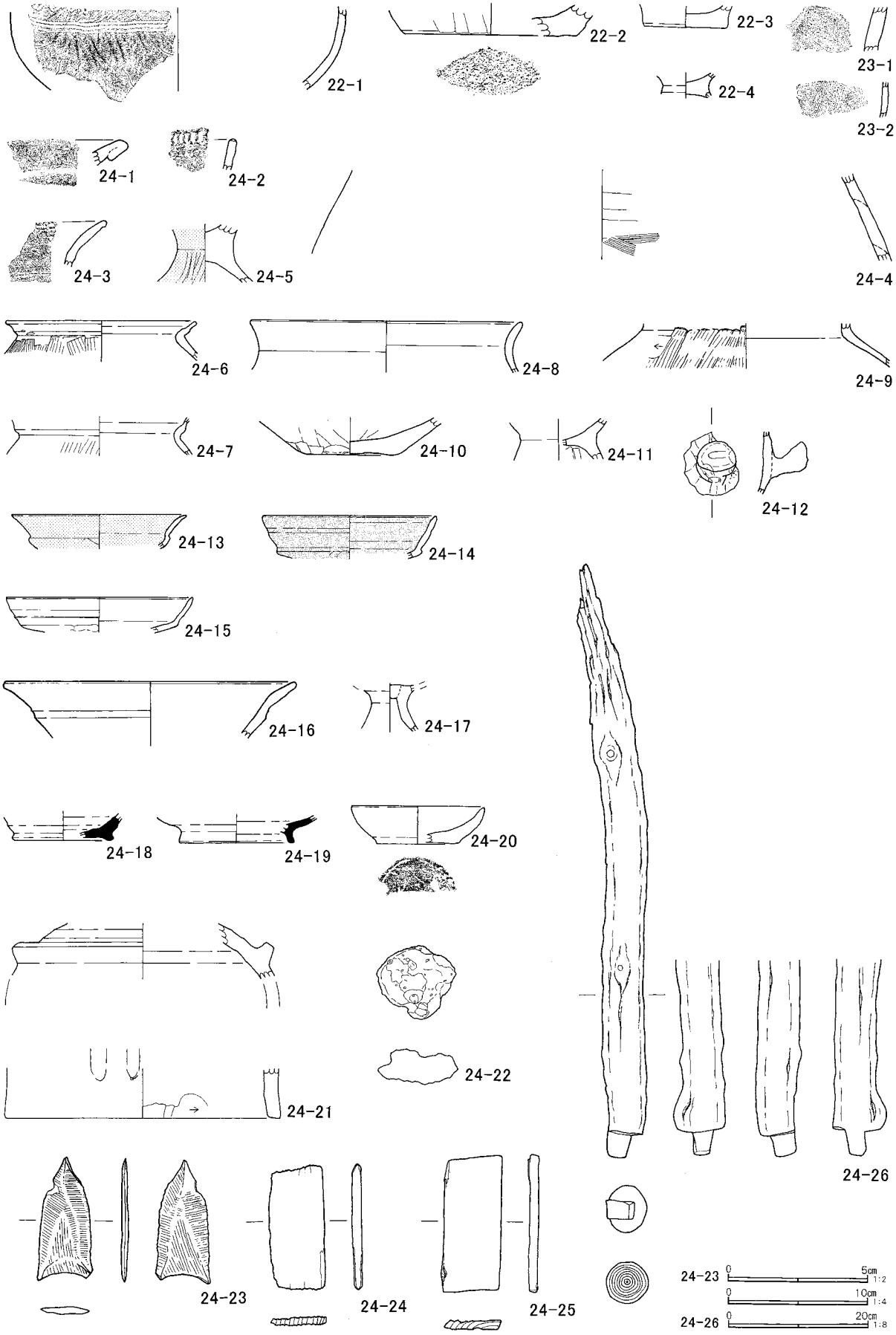
第 112 図　第 72 ～ 75 号溝跡



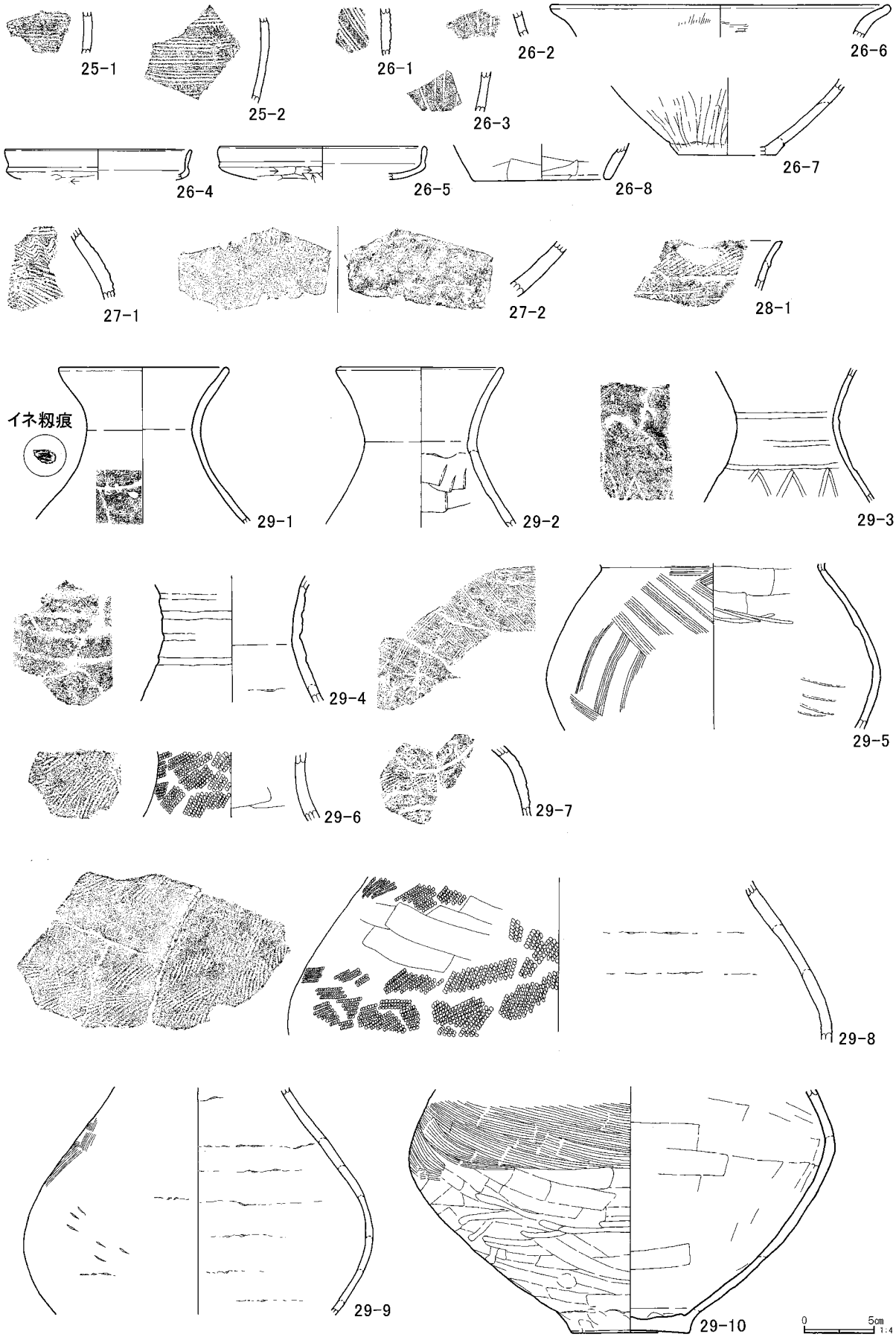
第 113 図　第 7・12 ～ 17 号溝跡出土遺物



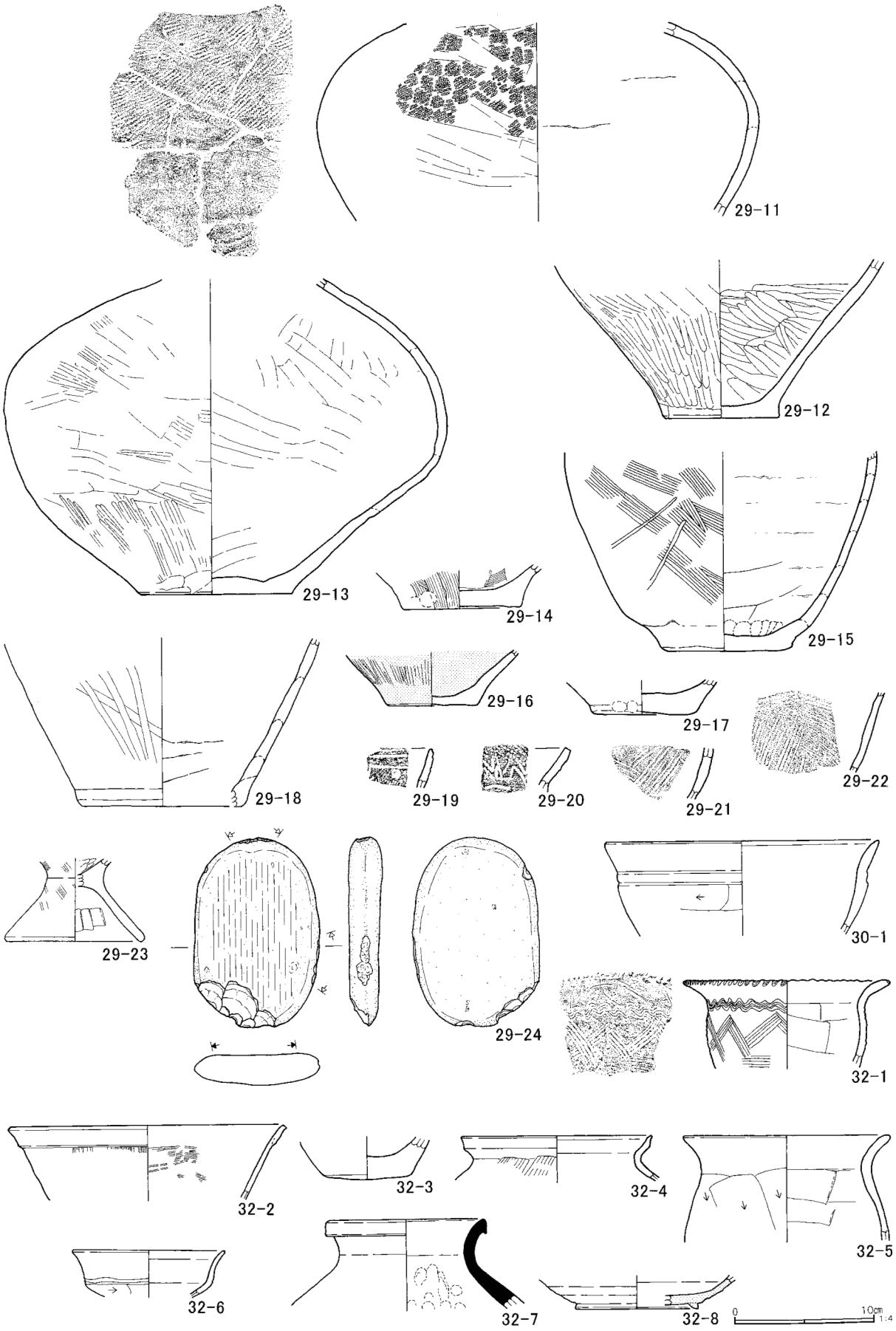
第 114 図　第 17 ～ 21 号溝跡出土遺物



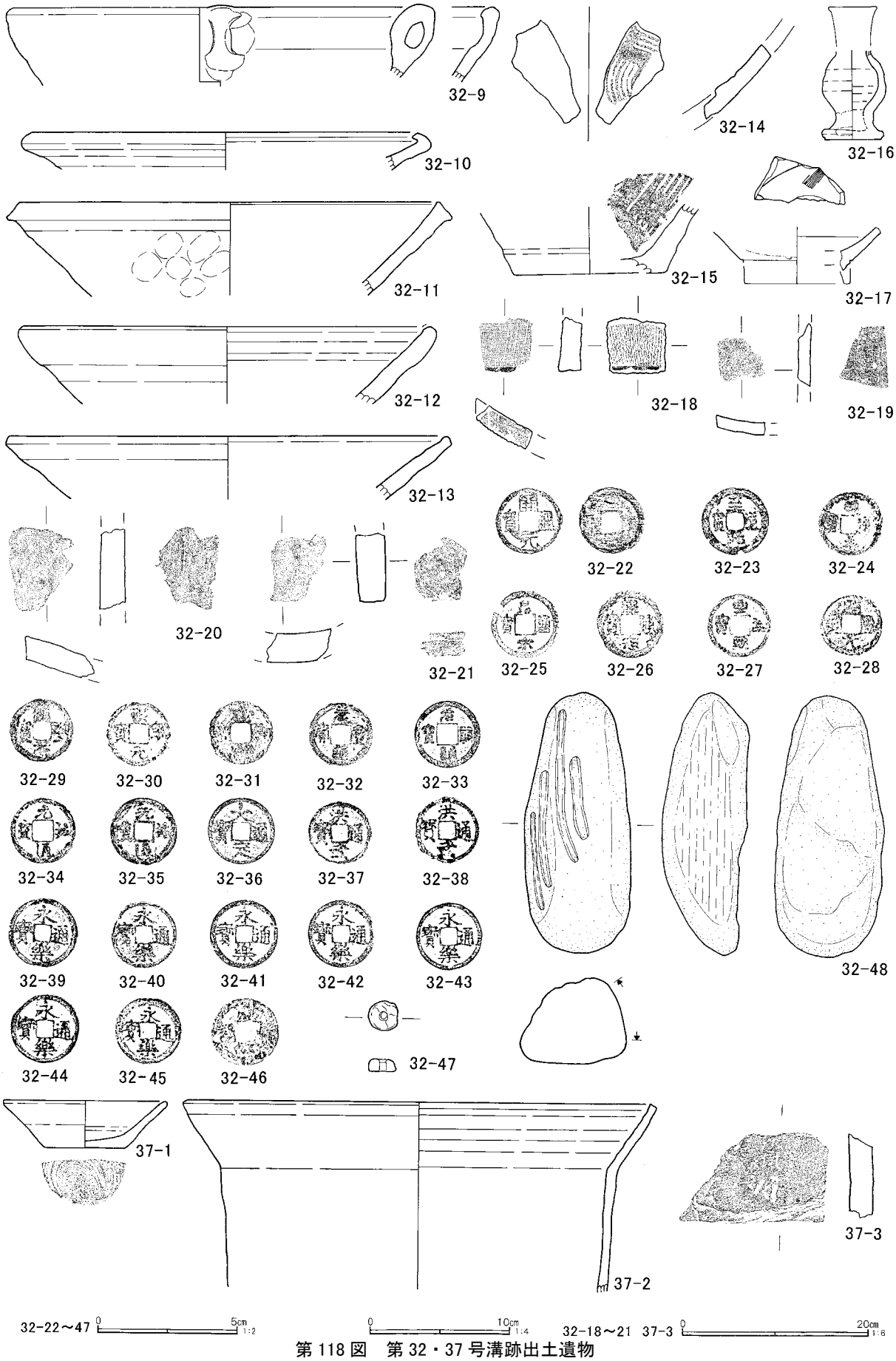
第 115 図　第 22 ～ 24 号溝跡出土遺物



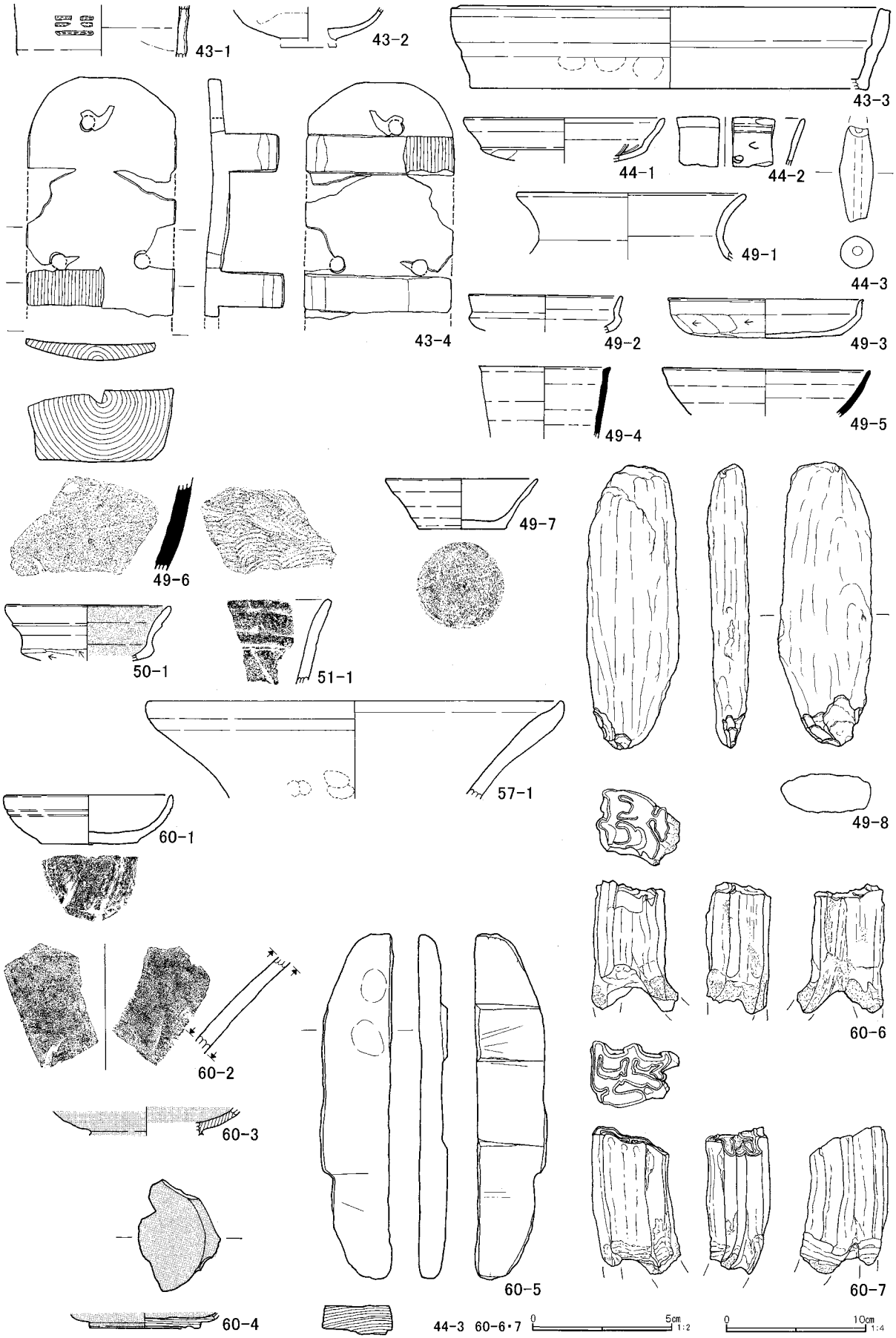
第 116 図　第 25 ～ 29 号溝跡出土遺物



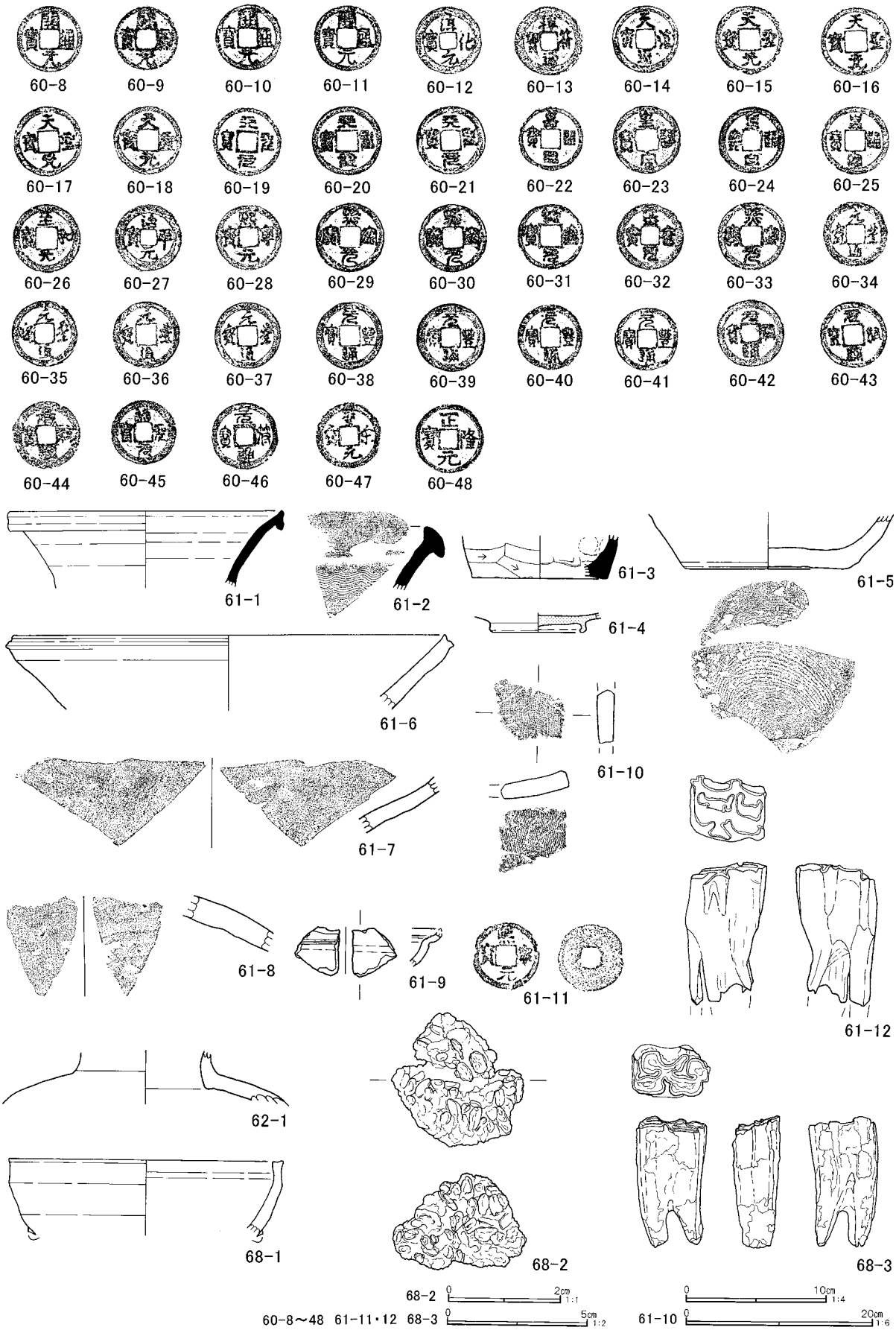
第 117 図　第 29・30・32 号溝跡出土遺物



第 118 図　第 32・37 号溝跡出土遺物



第 119 図　第 43・44・49 ～ 51・57・60 号溝跡出土遺物



第 120 図　第 60 ～ 62・68 号溝跡出土遺物

第 20 表　溝跡出土遺物観察表(1)（第 113 ～ 120 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
7-1	陶器 片口	(21.0)	(3.7)	-	AB	浅黄 5Y-7/3	A	口縁部片	外面：灰釉 内面：灰釉、口縁部折り返され突出	瀬戸美濃系
12-1	土師器 坏	(12.0)	(3.1)	-	DM	橙 7.5YR-6/6	B	口縁部 10%	外面：口縁部外湾気味に立ち上がる、底部ヘラケズリ	
13-1	弥生土器 甕	-	-	-	ABIM	灰黄褐 10YR-5/2	B	胴部片	外面：ボタン状貼付文、半截竹管による横位の連続刺突文が３段	
13-2	弥生土器 壺	-	-	-	ABI	褐灰 10YR-5/1	B	胴部片	外面：ヘラ描沈線	
14-1	弥生土器 壺	-	-	-	GIJMN	外面：明赤褐 5YR-5/6 内面：橙 7.5YR-7/6	B	胴部片	外面：縄文地に横位平行沈線	
14-2	土師器 坏	(11.6)	(2.0)	-	AEM	橙 5YR-6/8	B	10%	外面：口縁ヨコナデ、底部ヘラケズリ	
14-3	土師質土器 かわらけ	10.6	3.2	4.7	ABDIK	浅黄橙 10YR-8/3	B	100%	外面：板目状圧痕 内面：指ナデ ロクロ右回転	古河公方系
14-4	土師質土器 かわらけ	10.6	3.4	5.2	ADJM	灰白 10YR-8/2	A	100%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ右回転	在地 古河公方系
14-5	土師質土器 かわらけ	10.2	3.3	5.0	ABK	にぶい黄橙 10YR-7/2	B	100%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ右回転	古河公方系
14-6	土師質土器 かわらけ	10.1	3.4	3.9	AEKM	にぶい黄橙 10YR-7/3	B	90%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ右回転	古河公方系
14-7	土師質土器 かわらけ	10.5	3.4	4.2	ABDEIJK	浅黄橙 10YR-8/3	B	100%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ右回転	古河公方系
14-8	土師質土器 かわらけ	6.8	2.6	3.3	ABEJ	外面：灰白 10YR-8/2 内面：浅黄橙 7.5YR-8/4	A	80%	外面：板目状圧痕、小型	口縁部内外面油煙付着 古河公方系
14-9	瓦質土器 土鍋	27.5	16.7	19.0	AEGJN	外面：黒褐 5YR-2/1 内面：褐灰 7.5YR-4/1	A	口縁～底部 70%	外面：頸部に凹線が巡る 内面:頸部稜をもつ、内耳１ヶ所残存し、２耳	在地 平底
14-10	銭貨								北宋 天禧通宝	真書 初鋳 1017 年
14-11	木製品 椀	-	(3.3)	7.8				40%	柾目の縦木取り	内外面黒漆塗り 見込みに赤漆で文様を描くが絵柄不明
14-12	石器 礫石器	最大長 (10.1)　最大幅 (11.0)　最大厚 (2.7)　重さ 420 g						完形	礫の両側を剥離	ホルンフェルス
15-1	弥生土器 甕	(19.8)	(21.5)	6.7	ADIMN	外面：黒褐 10YR-3/1 内面：灰黄褐 10YR-4/2	B	口縁～底部 40%	外面：縦位ヘラナデ 内面：ヘラナデ	口縁部に最大径をもつ
15-2	弥生土器 甕	-	(4.3)	(7.2)	ABIKM	外面：にぶい褐 7.5YR-5/4 内面：褐 7.5YR-4/3	B	胴部下半～底部 10%	内外面：摩耗顕著で調整痕不明	
15-3	土師器 坏	(12.8)	3.8	5.7	ABJM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	40%	外面：糸切り離し無調整、体部下端手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ	内面黒色処理
15-4	土師器 甕	(20.3)	(4.0)	-	ABIKM	にぶい黄褐 10YR-5/3	B	口縁部 10%	内外面：ヨコナデ	
15-5	須恵器 坏	-	(0.9)	7.0	ABM	灰 7.5Y-6/1	A	底部 70%	外面：糸切り離し後底部周縁回転ヘラケズリ	
15-6	須恵器 甕	-	-	-	ABM	灰 N-6/	B	胴部片	外面：平行タタキ 内面：同心円アテ具痕	
15-7	須恵器 高台坏	-	(2.2)	(5.2)	ABM	浅黄 2.5Y-7/3	B	底部 40%	内端接地の角高台	末野産
15-8	須恵器 甕	(33.0)	(2.5)	-	ABM	褐灰 10YR-5/1	A	口縁部片	角縁口縁	
16-1	弥生土器 甕	-	(1.4)	(5.8)	ABCGK	外面：にぶい黄橙 10YR-7/2 内面：灰黄褐 10YR-6/2	B	底部 70%	内外面：摩耗顕著で調整痕不明	
17-1	弥生土器 壺	-	-	-	ABHIM	外面：にぶい黄橙 10YR-7/2 内面：にぶい黄橙 10YR-7/3	B	口縁部片	外面：口縁端部 LR 単節縄文の原体を斜位に押捺 外面：ハケ目	
17-2	弥生土器 壺	-	-	-	ABHIM	外面：浅黄橙 7.5YR-8/6 内面：浅黄橙 10YR-8/4	B	口縁部片	外面：円形浮文を貼付し、その上から径 9㎜の二重同心円スタンプを押捺	複合口縁 畿内第Ⅳ様式土器と併行期
17-3	弥生土器 壺	-	-	-	ABIM	外面：褐灰 10YR-4/1 内面：にぶい黄橙 10YR-7/4	B	胴部上半片	外面：磨消し無文帯、LR 単節縄文帯	
17-4	弥生土器 壺	-	(4.6)	4.4	ABGHIMN	にぶい黄橙 10YR-7/2	B	胴部下半～底部片	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	内面にイネ玄米圧痕
17-5	弥生土器 甕	-	(3.1)	(7.6)	ABIM	褐灰 10YR-4/1	B	胴部下端～底部片	外面：ハケ目、下端ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
17-6	弥生土器 甕	-	(3.0)	8.8	ABIJM	外面：にぶい黄橙 10YR-7/3 内面：褐灰 10YR-4/1	B	胴部下端～底部片	外面：ハケ目、下端ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
17-7	土師器 坏	(13.1)	(3.3)	-	ABDGIJ	外面：褐灰 7.5YR-4/1 内面：褐灰 10YR-5/1	B	口縁～底部片	外面：底部ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	有段口縁
17-8	土師器 坏	(12.6)	(4.5)	-	AM	外面：橙 5YR-6/6 内面：にぶい橙 5YR-6/4	A	25%	外面：底部ヘラケズリ 内面：指ナデ	

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
17-9	土師器 高坏	(20.0)	(3.5)	-	ABEMN	外面：にぶい橙 7.5YR-7/4 内面：橙 5YR-6/8	B	坏部 25%	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	内外面赤彩
17-10	土師器 高坏	-	(5.6)	-	ABKM	外面：浅黄橙 10YR-8/3 内面：浅黄橙 10YR-8/4	B	接合部～脚部上半片	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	脚部円形透しを穿孔
17-11	土師器 甕	(20.4)	(3.7)	-	ABDFMN	黒褐 7.5YR-3/2	B	口縁～肩部 40%	外面：ヨコナデ 内面：ヘラナデ	
17-12	土師器 台付甕	-	(7.3)	(10.2)	AEJMN	にぶい褐 7.5YR-5/3	B	胴下部～脚部 70%	外面：ハケメ 内面：ヘラケズリ	
17-13	須恵器 甕	-	-	-	ABFI	灰 N-5/	B	胴部片	外面：平行タタキ後横位カキメ 内面：同芯円状のアテ具痕	
17-14	石器 紡錘車	上径 2.9　下径 1.8　器高 2.1　孔径 0.7　重さ 26.5 g						完形 (紡輪)	側面縦位研磨	
17-15	木製品 板材	残存長 30.0　最大幅 3.8　最大厚 1.5						完形	木取は板目	
18-1	弥生土器 甕	(13.8)	(2.5)	-	ABIM	外面：にぶい黄橙 10YR-6/3 内面：にぶい橙 7.5YR-6/4	B	口縁～頸部片	外面：口縁端部 RL 単節縄文を押捺、頸部櫛描簾状文	
18-2	弥生土器 甕	-	(4.9)	-	BM	外面：にぶい褐 7.5YR-6/3 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	B	頸部片	外面：櫛描簾状文 (3 本一単位)	
18-3	弥生土器 壺	-	-	-	ABIM	外面：にぶい黄橙 10YR-7/2 内面：にぶい橙 7.5YR-6/4	B	胴部上半片	外面：地文は LR 単節縄文、櫛描波状文	
18-4	弥生土器 甕	-	-	-	ABIM	褐灰 7.5YR-4/1	B	頸部～肩部片	外面：櫛描簾状文 (4 本一単位) とコの字重ね文	
18-5	弥生土器 壺	-	-	-	AIM	外面：黒褐 7.5YR-3/1 内面：にぶい橙 7.5YR-7/3	B	頸部～肩部片	外面：地文はハケ目、櫛描簾状文 (4 本一単位) に櫛描縦位羽状文	
18-6	弥生土器 壺	-	-	-	ABDIM	外面：にぶい橙 7.5YR-7/4 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	B	頸部片	外面：櫛描簾状文 (3 本一単位)	
18-7	弥生土器 甕	-	-	-	ABIM	外面：灰褐 7.5YR-4/2 内面：にぶい黄橙 10YR-7/3	B	肩部片	外面：櫛描簾状文、斜位沈線	
18-8	弥生土器 甕	-	(7.3)	-	ABIM	外面：黒 2.5Y-2/1 内面：灰白 2.5Y-7/1	A	胴部片	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	
18-9	弥生土器 壺	-	(5.8)	-	ABIM	外面：灰黄褐 10YR-5/2 内面：褐灰 10YR-4/1	B	胴部上半片	外面：ヘラ描波状文、平行沈線、山形文の区画内 LR 単節縄文で充塡	
18-10	弥生土器 壺	-	(5.2)	7.0	ABGIN	外面：にぶい黄橙 10YR-7/2 内面：灰黄褐 10YR-5/2	B	胴部下端～底部片	外面：ハケ目、底部木葉痕 内面：ヘラナデ	
18-11	弥生土器 甕	-	(3.6)	(7.6)	ABIM	外面：にぶい黄橙 7.5YR-7/3 内面：にぶい赤褐 5YR-5/4	B	胴部下端～底部片	外面：胴部下端・底部ヘラミガキ 内面：ヘラナデ、指頭圧痕	
18-12	弥生土器 壺	-	(1.0)	(7.0)	ABDIM	外面：浅黄橙 7.5YR-8/4 内面：明褐灰 7.5YR-7/1	B	底部 30%	内外面：摩耗顕著で調整痕不明	
18-13	ミニチュア土器 壺型	-	(2.5)	-	ABIM	外面：灰黄褐 10YR-6/2 内面：にぶい黄橙 10R-7/3	B	胴部～底部片	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ、指頭圧痕	
18-14	土師器 甕	(10.6)	(4.1)	-	AEFMN	橙 5YR-7/6	B	口縁～肩部 25%	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
18-15	須恵器 坏	-	(3.2)	5.8	ABI	外面：黄灰 2.5YR-6/1 内面：灰黄 2.5YR-7/2	B	胴部～底部片	外面：底部回転糸切り離し無調整	末野産
18-16	石器 礫石器	最大長 7.5　最大幅 9.3　最大厚 2.0　重さ 120.6 g						完形	一端に剥離加えて鋭角な刃部を造り出す	穂摘具の打製石包丁の可能性もある ホルンフェルス
19-1	弥生土器 壺	10.0	(10.7)	-	ABDGI	外面：橙 2.5YR-6/8 内面：にぶい橙 5YR-7/3	B	口縁～肩部片	外面：RL 単節縄文の地文に 1 条の波状文と 3 条の平行沈線を横位に巡らす 内面：ヘラナデ	
19-2	弥生土器 甕	-	-	-	ADIM	灰褐 7.5YR-4/2	B	口縁～頸部片	外面：口縁部は LR 単節縄文地に太い沈線で鋸歯文	
19-3	弥生土器 甕	-	-	-	ABGHJMN	外面：暗褐 10YR-3/3 内面：浅黄橙 10YR-8/3	B	頸部～肩部片	外面：櫛描 (5 本一単位) で簾状文・斜線 内面：横・斜位ヘラナデ	
19-4	弥生土器 甕	-	(4.8)	-	ABGIJM	外面：灰褐 7.5YR-4/2 内面：にぶい褐 7.5YR-5/3	B	頸部～胴部上半片	外面：櫛描 (4 本一単位) で簾状文・斜線 内面：横位ヘラナデ	
19-5	弥生土器 甕	-	-	-	BGIM	外面：にぶい褐 7.5YR-5/3 内面：灰褐 7.5YR-6/2	B	胴部上半片	外面：斜格子文 (4 本一単位) 内面：ヘラナデ	
19-6	弥生土器 壺	-	-	-	ABIM	外面：にぶい黄橙 10YR-7/2 内面：浅黄橙 10YR-8/3	B	胴部上半片	外面：振幅の小さな櫛描波状文	
19-7	弥生土器 壺	-	-	-	AIM	外面：灰褐 7.5YR-4/2 内面：にぶい黄橙 10YR-6/3	B	胴部片	外面：櫛描斜線 (2 本一単位)	外面赤彩
19-8	弥生土器 甕	-	-	-	ABDIM	外面：黒褐 10YR-3/1 内面：にぶい褐 7.5YR-5/3	B	胴部片	外面：櫛描斜線 (2 本一単位)	
19-9	弥生土器 甕	-	-	-	AIMN	黒褐 10YR-3/2	B	胴部片	外面：LR 単節縄文	
19-10	弥生土器 甕	-	-	-	AEIM	外面：明赤褐 5YR-5/6 内面：橙 5YR-6/6	B	胴部片	外面：櫛描格子状文	
19-11	弥生土器 甕	-	(2.6)	(7.8)	ABI	浅黄橙 10YR-8/3	B	胴部下端～底部 50%	内外面：ハケ目、指頭圧痕	
19-12	弥生土器 甕	-	(3.0)	(7.4)	AIJMN	外面：にぶい橙 7.5YR-6/4 内面：褐灰 10YR-4/1	B	胴部下端～底部 20%	外面：ハケ目、下端ヘラケズリ 内面：ハケ目	
19-13	弥生土器 甕	-	(1.9)	(5.8)	ABHKLN	黒褐 2.5Y-3/2	B	胴部下端～底部片	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
19-14	土師器 小型丸底壺	-	(4.6)	-	ABDI	にぶい橙 5YR-7/4	B	60%	外面：摩耗顕著で調整痕不明 内面：ヘラナデ、指頭圧痕	

第 20 表　溝跡出土遺物観察表(2)（第 113 ～ 120 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
20-1	弥生土器 壺	-	-	-	ABJM	明赤褐 2.5YR-5/6	B	胴部片	外面：平行沈線間、コの字区画内 LR 単節縄文で充填	
20-2	土師器 甕	(24.8)	(3.0)	-	ABDIMN	にぶい橙 7.5YR-6/4	B	口縁部 10%	内外面：ヨコナデ	
20-3	土師器 台付甕	-	(3.9)	-	ABIM	外面：灰黄褐 10YR-6/2 内面：灰黄褐 10YR-4/2	B	脚部片	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
21-1	弥生土器 甕	-	-	-	ABHIM	外面：にぶい赤褐 5YR-5/3 内面：灰褐 5YR-4/2	B	口縁部片	外面：LR 単節縄文 内面：ミガキ	折返し口縁
21-2	弥生土器 壺	-	-	-	ABIM	外面：灰白 10YR-8/2 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	B	頸部片	外面：RL 単節縄文地に 2 条の平行沈線	
21-3	弥生土器 壺	-	-	-	ADIM	明赤褐 2.5YR-5/6	B	頸部片	外面：振幅の小さな櫛描波状文	
21-4	弥生土器 壺	-	-	-	AB	橙 5YR-7/6	B	胴部片	外面：RL 単節縄文	
21-5	弥生土器 甕	-	(1.4)	(8.0)	ABDIJL	外面：橙 5YR-7/6 内面：褐灰 7.5YR-5/1	B	底部片	外面：底部木葉痕 内外面：摩耗顕著で調整痕不明	
21-6	弥生土器 甕	-	(5.4)	(6.0)	ABDFGIJLN	外面：褐灰 10YR-4/1 内面：にぶい褐 7.5YR-5/4	B	胴部下半～底部 50%	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	
21-7	土師器 甕	(12.0)	(3.7)	-	ABHM	外面：にぶい橙 7.5YR-7/4 内面：浅黄橙 7.5YR-8/4	B	口縁部 10%	外面：摩耗のため調整痕不明 内面：ヨコナデ	
21-8	土師器 甕	-	(5.2)	-	AJKM	外面：明赤褐 2.5YR-5/8 内面：にぶい黄橙 10YR-7/4	B	肩部片	外面：摩耗顕著で調整痕不明 内面：ヘラナデ	2 次焼成痕顕著
21-9	土師器 甕	-	(5.5)	-	AEIM	外面：明赤褐 5YR-5/6 内面：明赤褐 2.5YR-5/8	B	胴部上半片	外面：ヘラケズ 内面：ヘラナデ	
21-10	土師器 甕	-	(2.1)	(8.6)	ABDHI	外面：にぶい橙 7.5YR-7/4 内面：にぶい黄橙 10YR-7/3	B	胴部下端～底部 50%	外面：ヘラケズリ 内面：指頭圧痕	
21-11	土師器 甕	-	(2.6)	(9.0)	ABDI	外面：橙 7.5YR-7/6 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	B	胴部下端～底部片	内外面：摩耗顕著で調整痕不明	
21-12	土師器 甑	-	-	-	ABILN	橙 5YR-7/6	B	把手部片	外面：把手ヘラケズリ	
22-1	弥生土器 壺	-	(6.0)	-	ABDIM	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	胴部片	外面：ヘラ描平行沈線	
22-2	土師器 土釜	-	(2.2)	(12.3)	ABIMN	外面：灰褐 7.5YR-5/2 内面：にぶい橙 5YR-6/4	B	底部片	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	底部外面砂底 古代末期の所産ヵ
22-3	土師器 甕	-	(1.6)	(6.0)	ABDM	外面：橙 5YR-6/6 内面：褐灰 7.5YR-4/1	B	底部 30%	内外面：摩耗顕著で調整痕不明	
22-4	土師器 高坏	-	(1.7)	-	ABD	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	接続部片	内外面：摩耗顕著で調整痕不明	
23-1	土師器 甕	-	-	-	ABDI	にぶい黄橙 10YR-7/3	B	胴部片	外面：ハケ目	
23-2	土師器 甕	-	-	-	ABDIK	外面：にぶい橙 5YR-7/4 内面：灰褐 7.5YR-6/2	B	胴部片	外面：ハケ目	
24-1	弥生土器 壺	-	-	-	ABIJM	にぶい褐 7.5YR-6/3	B	口縁部片	内外面：摩耗のため調整痕不明	折返し口縁
24-2	弥生土器 甕	-	-	-	ABDIM	外面：橙 5YR-6/6 内面：にぶい橙 5YR-6/4	B	口縁部片	外面：口縁端部連続刻み	
24-3	弥生土器 甕	-	-	-	AB	にぶい橙 7.5YR-6/4	B	口縁部片	外面：ハケ目	
24-4	弥生土器 壺	-	(6.2)	-	ADIM	外面：灰白 10YR-8/2 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	A	胴上部 10%	外面：摩耗顕著で調整痕不明 内面：ハケ目後ナデ	
24-5	弥生土器 高坏	-	(4.1)	-	GIM	灰白 7.5YR-8/1	A	脚部 30%	外面：ヘラミガキ 内面：坏部ミガキ、脚部ヘラナデ	外面赤彩
24-6	土師器 台付甕	(13.5)	(2.9)	-	ADGIM	にぶい黄橙 10YR-7/3	A	口縁～頸部 30%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	S 字状口縁
24-7	土師器 台付甕	-	(2.6)	-	M	外面：灰白 10YR-8/2 内面：灰褐 7.5YR-6/2	A	口縁部 15%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	S 字状口縁
24-8	土師器 甕	(19.2)	(3.3)	-	ABIM	橙 5YR-6/6	B	口縁部片	内外面：摩耗顕著で調整痕不明	
24-9	土師器 甕	-	(3.1)	-	ABDIMN	外面：明赤褐 5YR-5/6 内面：にぶい橙 7.5YR-7/4	B	肩部 30%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
24-10	土師器 甕	-	(2.7)	(7.0)	ABDJ	外面：暗灰 N-3/1 内面：にぶい褐 7.5YR-5/3	B	胴部下半～底部 50%	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
24-11	土師器 台付甕	-	(2.9)	-	AIKM	外面：明赤褐 2.5YR-5/6 内面：にぶい黄褐 10YR-4/3	B	脚部 40%	外面：摩耗顕著で調整痕不明 内面：ヘラナデ	
24-12	土師器 甑	-	-	-	CIM	にぶい橙 7.5YR-7/3	A	把手部片	外面：手捏ね、ヘラケズリ	
24-13	土師器 坏	(12.4)	(2.4)	-	ABDIM	赤 10R-5/8	B	口縁～底部片	外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	内外面赤彩
24-14	土師器 坏	(12.4)	(3.1)	-	ABI	外面：にぶい褐 7.5YR-6/3 内面：黒褐 10YR-3/1	B	口縁～底部片	外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	有段口縁 内外面黒色処理
24-15	土師器 坏	(13.4)	(2.5)	-	ABDI	外面：灰黄褐 10YR-6/2 内面：にぶい褐 7.5YR-6/3	B	口縁～底部 20%	外面：底部ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	有段口縁
24-16	土師器 高坏	(20.7)	(4.6)	-	AEKM	にぶい橙 7.5YR-6/4	B	口縁～体部 20%	内外面：摩耗顕著で調整痕不明	

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
24-17	土師器 高坏	-	(3.3)	-	ABIM	橙：2.5YR-6/8	B	脚部片	内外面：摩耗顕著で調整痕不明	
24-18	須恵器 高台坏	-	(2.0)	(6.5)	BI	灰白 10YR-8/2	A	底部 30%	外面：底部高台貼り付け	末野産
24-19	須恵器 高台坏	-	(1.9)	(8.3)	IM	灰白 10YR-7/1	B	底部 10%	外面：底部高台貼り付け	末野産
24-20	土師質土器 かわらけ	(9.6)	2.7	(6.0)	BEM	にぶい黄橙 10YR-7/2	B	20%	器肉厚い	在地
24-21	瓦質土器 瓦燈	-	-	(19.8)	M	褐灰 10YR-5/1	B	鍔部 10% 底部 10%	体部下方現存 2 ヶ所のスリット	
24-22	鉄滓	最大長 5.3　最大幅 5.7　最大厚 2.3　重さ 89.7 g						完形	炉底滓で、全体発泡顕著	
24-23	石器 磨製石鏃	最大長 4.4　最大幅 1.9　最大厚 0.2　重さ 2.5 g						一部欠損	研磨痕明瞭、穿孔無い凹基無茎式	粘板岩
24-24	木製品 板材	残存長 8.9　最大幅 4.0　最大厚 0.6						—	木取は板目	
24-25	木製品 板材	残存長 9.8　最大幅 4.2　最大厚 0.7						—	木取は柾目	
24-26	木製品 杭	残存長 86.0　最大径 6.2						完形	木取は芯持丸木、凸臍を有する建築材を杭に再利用	
25-1	弥生土器 甕	-	-	-	M	外面：褐 7.5YR-4/3 内面：にぶい褐 7.5YR-6/3	B	胴部片	外面：櫛描横位沈線	
25-2	弥生土器 甕	-	-	-	ABDIM	外面：にぶい赤褐 5YR-4/4 内面：橙 5YR-6/6	B	胴部片	外面：地文ハケ目に櫛描横位沈線	
26-1	弥生土器 甕	-	-	-	BDI	外面：黒褐 10YR-3/2 内面：にぶい黄橙 10YR-7/3	B	胴部片	外面：櫛描縦位沈線	
26-2	弥生土器 甕	-	-	-	AIJKM	にぶい橙 7.5YR-6/4	B	胴部片	外面：櫛描縦位沈線	
26-3	弥生土器 甕	-	-	-	ABI	外面：褐灰 10YR-4/1 内面：にぶい橙 7.5YR6/4	B	胴部片	擦痕状の斜線に縦位沈線	
26-4	土師器 坏	(13.2)	(2.2)	-	ABIJ	橙 2.5YR-6/8	B	口縁～底部 10%	外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ 内面：底部ミガキ	
26-5	土師器 坏	(14.6)	(2.4)	-	ABDI	外面：にぶい赤褐 5YR-5/4 内面：灰褐 7.5YR-5/2	B	口縁～底部 20%	外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ 内面：ミガキ	
26-6	土師器 甕	(24.0)	(2.4)	-	ABDIJK	外面：オリーブ黒 5Y-3/1 内面：にぶい橙 7.5YR-7/4	B	口縁部 10%	外面：ハケ目後横ナデ	
26-7	土師器 壺	-	(5.5)	(7.0)	AIMN	外面：褐灰 10YR-6/1 内面：明赤褐 2.5YR-5/8	B	胴部下半～底部 20%	外面：胴部下半ヘラナデ	
26-8	土師器 甑	-	(2.6)	(9.8)	AIM	外面：黒 10YR-2/1 内面：にぶい褐 10YR-5/4	B	胴部下半 10%	単孔 内外面：横位ヘラケズリ	
27-1	弥生土器 甕	-	-	-	ABDJKN	外面：黒褐 10YR-3/2 内面：にぶい褐 7.5YR-5/4	B	頸部～胴上部片	外面:櫛描簾状文、波状文 (5 本一単位)、 櫛描縦位羽状文	
27-2	陶器 甕	-	-	-	AM	灰褐 7.5YR-6/2	B	胴部片	外面：タタキ目 内面：指頭痕	常滑系
28-1	弥生土器 甕	-	-	-	ABIJM	灰褐 7.5YR-4/2	B	口縁部片	外面：LR 単節縄文 頸部横位平行沈線	折返し口縁
29-1	弥生土器 壺	12.0	(11.0)	-	ABDMN	橙 5YR-7/6	B	口縁～頸部 90%	内外面：摩耗顕著で調整痕不明	肩部外面にイネ籾圧痕
29-2	弥生土器 壺	(11.8)	(11.4)	-	ABDMN	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	口縁～頸部 50%	外面：摩耗顕著で調整痕不明 内面：ヘラナデ	
29-3	弥生土器 壺	-	(9.4)	-	ADM	内外面：にぶい橙 7.5YR-7/4 内面：黒褐 7.5YR-3/1	B	頸部 80%	外面：3 条のヘラ描平行沈線、鋸歯文 内面：ヘラナデ	
29-4	弥生土器 壺	-	(9.1)	-	AMN	明赤褐 5YR-5/8	B	頸部 15%	外面：4 条のヘラ描平行沈線 内面：ヘラナデ	
29-5	弥生土器 壺	-	(11.8)	-	ABIJM	外面：灰褐 5YR-4/2 内面：にぶい赤褐 2.5YR-5/4	B	胴部片	外面：櫛描斜格子文 内面：ヘラナデ後部分的ミガキ	
29-6	弥生土器 壺	-	(4.7)	-	ABJM	褐灰 5YR-4/1	B	胴部片 5%	外面：LR 単節縄文 内面：ヘラナデ	
29-7	弥生土器 壺	-	-	-	IM	外面：にぶい黄橙 10YR-7/4 内面：橙 5YR-6/6	B	肩部片	外面：ヘラ描沈線区画内 LR 単節縄文を 充填	
29-8	弥生土器 壺	-	(11.0)	-	ABHJM	外面：黒褐 10YR-3/2 内面：にぶい黄橙 10YR-7/3	B	胴部片	外面：LR 単節縄文施文後部分的にヘラナデ 内面：ヘラナデ	
29-9	弥生土器 壺	-	(16.2)	-	DJM	外面：明赤褐 5YR-5/6 内外面：にぶい黄橙 10YR-7/3	B	胴部中～胴部下半 60%	外面：ハケ目後ヘラナデ 内面：輪積痕顕著	
29-10	弥生土器 壺	-	(17.4)	8.6	ABDIJMN	外面：浅黄橙 7.5YR-8/4 内面：褐灰 7.5YR-6/1	B	胴部 60%	外面：胴部上半ハケ目、下半ヘラナデ後ミガキ・指頭圧痕 内面：ヘラナデ	
29-11	弥生土器 壺	-	(14.0)	-	ABDIJMN	明赤褐 5YR-5/8	B	胴部 30%	外面：胴部上半 LR 単節縄文、下半ヘラナデ 内面：ヘラナデ	
29-12	弥生土器 壺	-	(11.4)	8.3	ABJM	灰黄褐 10YR-5/2	B	胴部下半 30%	内外面：ヘラミガキ	
29-13	弥生土器 壺	-	(22.6)	11.0	ABIM	外面：浅黄橙 7.5YR-8/4 内面：褐灰 7.5YR-6/1	B	胴部 60%	外面：ヘラナデ後胴部下半ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	器形に歪み有
29-14	弥生土器 甕	-	(3.0)	8.6	AIM	橙 5YR-6/6	B	底部 100%	外面：ハケ目、下端指頭圧痕 内面：ハケ目後ヘラナデ	

第 20 表　溝跡出土遺物観察表(3)（第 113 ～ 120 図）

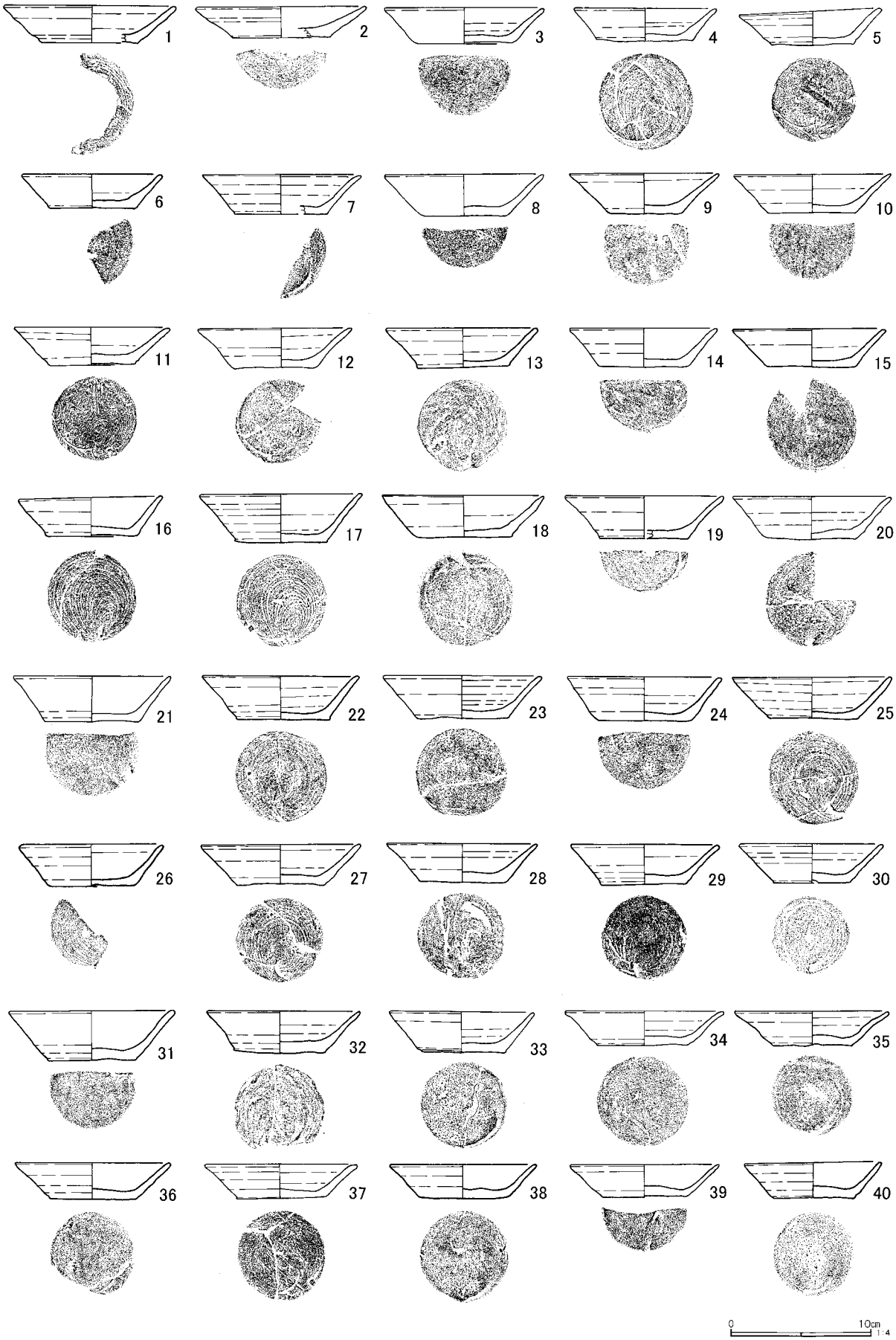
No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
29-15	弥生土器 甕	-	(14.3)	9.4	EM	橙 5YR-7/6	B	胴部下半～底部 40%	外面：ハケ目後部分的ヘラナデ・ミガキ 内面：ヘラナデ、底部指頭圧痕	
29-16	弥生土器 鉢	-	(3.7)	6.4	IM	内外面：明赤褐 2.5YR-5/6 内面：にぶい橙 7.5YR-6/4	A	胴部下半～底部 60%	内外面：ヘラミガキ	内外面赤彩
29-17	弥生土器 甕	-	(2.5)	7.4	AIJM	外面：にぶい橙 7.5YR-7/4 内面：灰白 10YR-8/2	B	底部 100%	外面：下端指頭圧痕	
29-18	弥生土器 甕	-	(12.1)	(11.6)	ADMN	外面：橙 7.5YR-6/6 内面：明褐 7.5YR-5/8	B	胴部～底部 15%	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	
29-19	弥生土器 甕	-	-	-	ABKL	外面：褐 7.5YR-4/3 内面：明赤褐 5YR-5/6	B	口縁部片	外面：平行沈線による区画内 LR 単節縄文を充填	
29-20	弥生土器 甕	-	-	-	AIJM	外面：灰褐 7.5YR-4/2 内面：にぶい橙 7.5YR-6/4	B	口縁部片	外面：口縁部から端部 RL 単節縄文に櫛描波状文 (2 本一単位)・簾状文	
29-21	弥生土器 甕	-	-	-	AIM	外面：黒褐 10YR-3/1 内面：にぶい黄橙 10YR-5/3	B	胴部片	外面：櫛描縦位羽状文 (6 本一単位)	
29-22	弥生土器 甕	-	-	-	ABEGIM	外面：褐 7.5YR-4/3 内面：にぶい黄橙 10YR-6/3	B	胴部片	外面：櫛描簾状文、縦位羽状文	
29-23	弥生土器 高坏	-	(6.0)	(9.8)	ABHIJM	外面：にぶい赤褐 5YR-5/4 内面：赤褐 2.5YR-4/6	B	脚部 40%	外面：ハケ目後ヘラナデ 内面：坏部ミガキ、脚部ヘラナデ	
29-24	石器 磨石	最大長 13.6　最大幅 9.0　最大厚 2.2　重さ 492 g						一部欠損	磨面は 1 面、側面・端部敲打痕	安山岩
30-1	土師器 鉢	(19.6)	(6.8)	-	ABGHIJM	明赤褐 2.5YR-5/6	B	口縁部片	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
32-1	弥生土器 甕	(14.5)	(6.4)	-	ABIJMN	外面：灰褐 7.5YR-4/1 内面：褐灰 10YR-4/1	B	口縁～胴部上半片	外面：口縁端部櫛歯押捺、頸部櫛描波状文 (4 本一単位)、胴部櫛描山形文 内面：ヘラナデ	
32-2	弥生土器 鉢	(19.6)	(5.4)	-	ABJM	外面：灰黄褐 10YR-5/2 内面：灰黄褐 10YR-4/2	B	口縁～体部片	内外面：ハケ目後ヘラナデ	折返し口縁
32-3	弥生土器 甕	-	(3.1)	(6.3)	ABIMN	外面：灰黄褐 10YR-6/2 内面：黒褐 10YR-3/1	B	底部 100%	内外面：摩耗顕著で調整痕不明	
32-4	土師器 台付甕	(13.6)	(3.3)	-	ADJMN	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	口縁～肩部 15%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	S 字口縁
32-5	土師器 甕	(14.7)	(7.6)	-	ABHIJM	外面：橙 2.5YR-6/6 内面：赤褐 5YR-4/6	B	口縁～胴部片	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
32-6	土師器 坏	(10.8)	(3.4)	-	ABJKM	外面：橙 5YR-6/6 内面：明赤褐 5YR-5/8	B	口縁部 20%	外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	
32-7	須恵器 壺	(11.2)	(6.4)	-	ABIM	外面：灰 N-6/ 内面：灰 N-5/	B	口縁～肩部 40%	内面：指頭圧痕	末野産
32-8	灰釉陶器 皿	-	(2.4)	(8.8)	IM	外面：灰白 10YR-8/1 内面：灰白 2.5Y-8/1	B	底部 10%	外端接地の三角高台	
32-9	瓦質土器 土鍋	(30.8)	(5.6)	-	ABDILN	灰 N-5/	B	口縁部 10%	内面：内耳 1 ヶ所残る、口縁部内面稜をもつ	在地
32-10	瓦質土器 片口鉢	(29.6)	(2.6)	-	ABIK	灰白 2.5YR-7/1	B	口縁部 10%	口縁部断面「了」字状	在地
32-11	陶器 片口鉢	(32.0)	(6.7)	-	ABMN	外面：にぶい赤褐 5YR-5/4 内面：橙 2.5YR-6/6	B	口縁～体部 10%	外面：指頭痕、口縁部内外面に突出	常滑系 第 10 型式
32-12	瓦質土器 片口鉢	(30.0)	(5.6)	-	ABDIMN	外面：にぶい橙 2.5YR-6/4 内面：赤灰 2.5YR-6/1	B	口縁部 10%	外面：口縁部強いヨコナデ	在地
32-13	瓦質土器 片口鉢	(32.0)	(4.5)	-	AIJMN	褐灰 7.5YR-5/1	B	口縁部 5%	内外面：口縁部粗れている	在地
32-14	瓦質土器 擂鉢	-	-	-	ABJMN	外面：黒褐 2.5Y-3/2 内面：暗灰黄 2.5Y-5/2	B	体部片	内面：半円を描く 5 本の櫛目が施される	在地
32-15	瓦質土器 擂鉢	-	(4.9)	(11.0)	ABMN	外面：灰黄褐 10YR-6/2 内面：褐灰 10YR-6/1	B	底部 5%	内面：櫛目間が広い、5 本の櫛目が施される	在地
32-16	陶器 花瓶	-	(6.3)	4.0	ABDM	灰白 5Y-7/2 灰白 5Y-7/1	A	70%	外面：底部周辺を除き灰釉、底部糸切り未調整	瀬戸美濃系 古瀬戸中Ⅳ期
32-17	磁器 白磁碗	-	(2.6)	-	AB	灰白 10Y-8/1 灰白 N-8/	A	底部 10%	内面：櫛目文	中国 白磁碗Ⅴ -4 類
32-18	瓦 平瓦	最大長 (5.4)	最大幅 (6.1)	最大厚 2.5	ABIM	灰 N-6/	B	破片	重量 120 g 凹面：布目痕 凸面：縄叩き	永福寺式瓦
32-19	瓦 平瓦	最大長 (7.2)	最大幅 (5.5)	最大厚 (1.4)	ABIJM	凸面：にぶい黄橙 10YR-7/3 凹面：灰白 2.5Y-7/1	B	破片	重量 600 g 凸面：縦ナデ 凹面：弧状圧迫痕 (斜位)	
32-20	瓦 平瓦	最大長 (9.6)	最大幅 (8.3)	最大厚 2.7	ABDM	凸面：灰黄褐 10YR-6/2 凹面：にぶい黄橙 10YR-6/4	B	破片	重量 220 g 凸面：縦ナデ 凹面：縦ナデ	
32-21	瓦 平瓦	最大長 (7.2)	最大幅 (6.9)	最大厚 3.1	ABEM	凸面：にぶい橙 7.5YR-7/4 凹面：褐灰 7.5YR-6/1	B	破片	重量 200 g 凸面：縄叩き 凹面：縦ナデ	
32-22	銭貨								唐 開元通宝	真書 初鋳 621 年 背に月文有
32-23	銭貨								北宋 至道元宝	真書 初鋳 995 年
32-24	銭貨								北宋 祥符元宝	篆書 初鋳 1009 年

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
32-25	銭貨								北宋 皇宗通宝	真書 初鋳 1038 年
32-26	銭貨								北宋 皇宗通宝	篆書 初鋳 1038 年
32-27	銭貨								北宋 至和通宝	篆書 初鋳 1054 年
32-28	銭貨								北宋 熙寧元宝	真書 初鋳 1068 年
32-29	銭貨								北宋 熙寧元宝	篆書 初鋳 1068 年
32-30	銭貨								北宋 熙寧元宝	篆書 初鋳 1068 年
32-31	銭貨								北宋 元豊通宝	真書 初鋳 1078 年
32-32	銭貨								北宋 元豊通宝	篆書 初鋳 1078 年
32-33	銭貨								北宋 元祐通宝	篆書 初鋳 1086 年
32-34	銭貨								北宋 元祐通宝	真書 初鋳 1086 年
32-35	銭貨								北宋 元祐通宝	真書 初鋳 1086 年
32-36	銭貨								金 大定通宝	真書 初鋳 1178 年
32-37	銭貨								北宋 洪武通宝	真書 初鋳 1368 年
32-38	銭貨								北宋 洪武通宝	真書 初鋳 1368 年
32-39	銭貨								北宋 永楽通宝	真書 初鋳 1408 年
32-40	銭貨								北宋 永楽通宝	真書 初鋳 1408 年
32-41	銭貨								北宋 永楽通宝	真書 初鋳 1408 年
32-42	銭貨								北宋 永楽通宝	真書 初鋳 1408 年
32-43	銭貨								北宋 永楽通宝	真書 初鋳 1408 年
32-44	銭貨								北宋 永楽通宝	真書 初鋳 1408 年
32-45	銭貨								北宋 永楽通宝	真書 初鋳 1408 年
32-46	銭貨								判読不明銭	
32-47	石製品 臼玉	最大長 1.1　最大幅 1.0　最大厚 0.5　孔径 0.2　重さ 0.9 g						完形	外面：穿孔後研磨	滑石
32-48	石器 砥石	最大長 18.7　最大幅 7.6　最大厚 6.2　重さ 1140 g						完形	2 面に合計 4 条の小溝が彫り込まれた筋砥石	砂岩
37-1	土師質土器 かわらけ	(11.8)	3.4	6.0	ABM	外面：にぶい褐 7.5YR-5/3 内面：灰褐 7.5YR-5/2	A	40%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ右回転	在地
37-2	瓦質土器 土鍋	(34.0)	(13.5)	-	BI	外面：黒 2.5Y-2/1 内面：暗灰黄 2.5Y-5/2	B	口縁～体部 70%	口縁部長い	在地 外面スス付着
37-3	石製品 板石塔婆	最大長 (9.4)　最大幅 (14.5)　最大厚 2.6　重さ 660 g						破片	碑面：右側に額線 「月日」の文字有	
43-1	磁器 青磁香炉	-	(3.7)	-	B	外面：緑灰 10GY-6/1 内面：緑灰 10GY-6/1 明オリーブ灰 2.5GY-7/1	A	体部 10%	外面：白土による八卦文、釉層が厚い	龍泉窯系
43-2	磁器 白磁皿	-	(2.4)	(4.0)	B	外面：明緑灰 7.5GY-8/1 内面：灰白 5GY-8/1	B	体部 10%	高台周辺を除き施釉	中国（明）
43-3	瓦質土器 焙烙	(31.4)	(5.9)	(28.7)	ABDIJ	外面：褐灰 10YR-5/1 内面：灰 N-5/	B	5%	外面：指頭痕 内面：体部中央稜をもつ	在地 外面スス付着
43-4	木製品 下駄	残存長 (17.0)　最大幅 10.6　最大厚 5.7						半分欠損	木取は芯持 連歯下駄で前鼻緒孔はやや左に寄る 台上面は緩やかに凹み、厚さは 1.1㎝、幅端は 0.4㎝、歯は鋸挽きで鼻緒孔は円形 台の前線は厚さ 1.0㎝で半円形に整形	
44-1	土師器 坏	(14.4)	(3.1)	-	ABDM	外面：にぶい褐 7.5YR-6/3 内面：褐灰 7.5YR-4/1	B	口縁～底部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ミガキ	有段口縁 内面黒色処理
44-2	磁器 青磁碗	-	(3.4)	-	A	灰黄 2.5Y-6/2	A	口縁部 5%	体部内面：飛雲文	龍泉窯系Ⅰ 4 類
44-3	土製品 土錘	最大長 3.4　最大幅 1.2　孔径 0.3　重さ 4.1 g						一部欠損	外面：指頭圧痕、棒に粘土巻付け手捏ね	
49-1	土師器 甕	(16.4)	(4.8)	-	ABJMN	外面：にぶい黄橙 10YR-7/3 内面：にぶい橙 7.5YR-7/3	B	口縁部 10%	内外面：摩耗顕著で調整痕不明	
49-2	土師器 坏	(11.0)	(2.6)	-	ABJM	外面：褐 7.5YR-4/6 内面：明褐 7.5YR-5/6	B	口縁～底部 20%	外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	

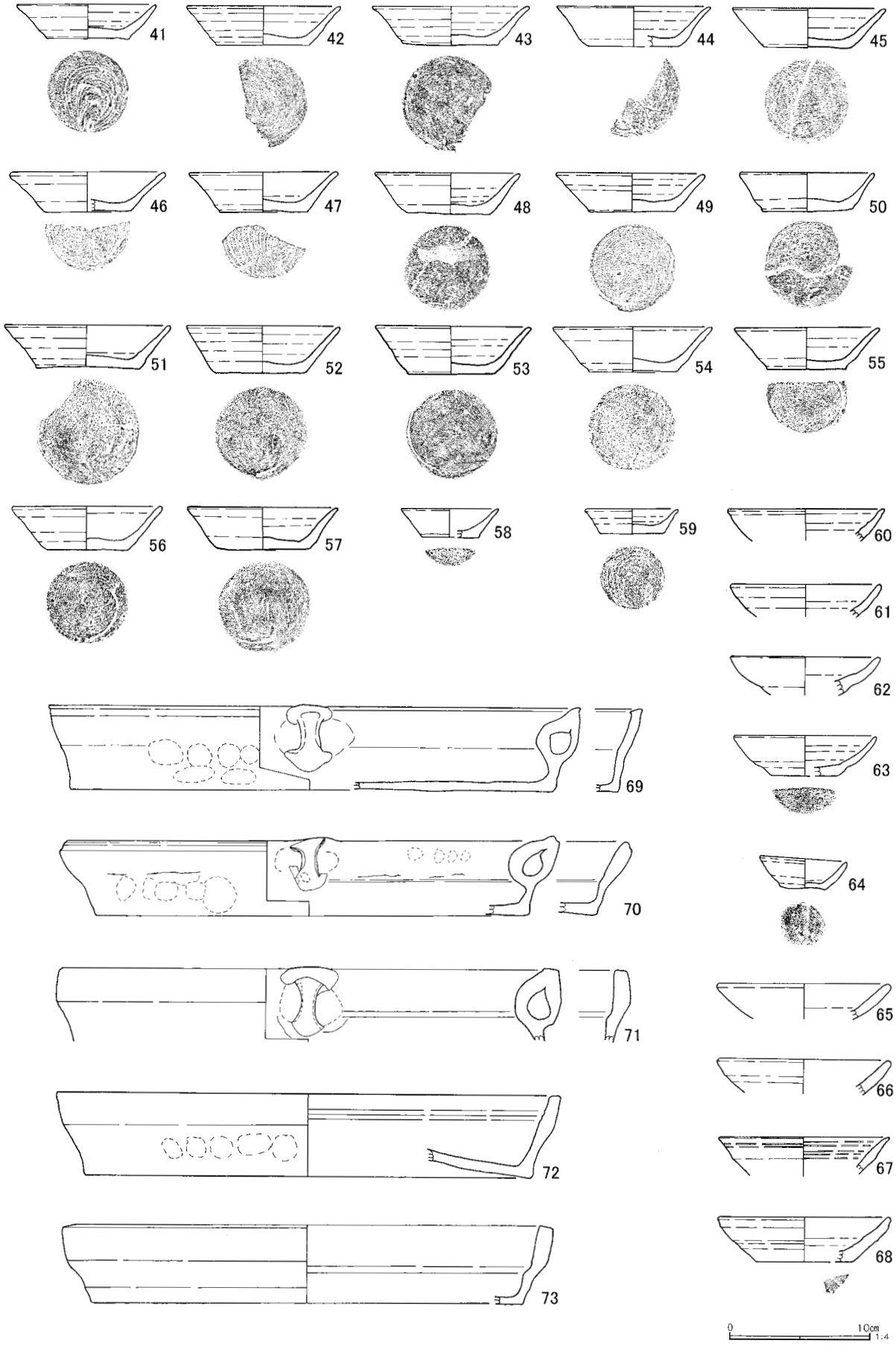
第 20 表　第 42 号溝跡出土遺物観察表(4)（第 113 ～ 120 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
49-3	土師器 坏	(14.0)	2.8	(11.0)	AGIM	外面：橙 5YR-7/8 内面：橙 5YR-6/8 内外面：部分的灰白 10YR-8/2	A	50%	外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	
49-4	須恵器 コップ型土器	(9.4)	(5.1)	-	ABF	外面：灰 7.5Y-5/1 内面：灰白 N-7/1	B	口縁部片	内面：口縁端部斜めに内削ぎ	度量衡の桝に使用ヵ 南比企産
49-5	須恵器 坏	(15.0)	(3.3)	-	ABEFGM	褐灰 10YR-6/1	B	口縁部片	体部内湾気味に立ち上がる	南比企産
49-6	須恵器 甕	-	-	-	ABM	灰 N-6/	B	胴部片	外面：叩きの痕跡がナデ消されている 内面：同芯円状のアテ具痕	末野産
49-7	土師質土器 かわらけ	(11.0)	3.6	6.4	DM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	40%	ロクロ左回転	在地
49-8	石器 敲石	最大長 20.4　最大幅 6.7　最大厚 2.8　重さ 720 g						完形	細長い礫で片方の先端に敲打痕	片岩
50-1	土師器 坏	(12.0)	(4.0)	-	AHJM	外面：黒褐 7.5YR-3/1 内面：黒 7.5YR-1.7/1	B	口縁～底部 20%	外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部から底部丁寧なヘラミガキ	有段口縁 内面黒色処理
51-1	瓦質土器 火鉢	-	-	-	ABDIM	外面：灰褐 7.5YR-5/2 内面：褐灰 7.5YR-4/1	C	口縁部片	外面：指頭痕、体部中央稜をもつ	在地 外面スス付着
57-1	瓦質土器 片口鉢	(30.0)	(7.0)	-	ABIJM	外面：灰白 N-7/ 灰 N-6/ 内面：灰白 N-8/	B	口縁～体部 5%	外面：指頭痕 内面：口縁部くぼむ、磨れている	在地
60-1	土師質土器 かわらけ	(12.2)	3.4	7.0	ABM	浅黄橙 7.5YR-8/4	B	45%	外面：二条の沈線が巡る 内面：みこみ指ナデ痕、粉っぽい	鎌倉公方系
60-2	陶器 転用砥石 (片口鉢)	-	-	-	ADHM	外面：褐灰 10YR-6/1 内面：褐 7.5YR-4/4	B	口縁～体部片	内外面：磨れている転用砥石	常滑系 片口鉢Ⅱ類
60-3	木製品 椀	-	(2.0)	-				体部残存	柾目の縦木取り、高台付、内外面黒漆塗り	
60-4	木製品 椀	-	(1.1)	8.0				底部残存	板目の横木取り、底部中窪みの擬高台、底部外面を除いて黒漆塗り	
60-5	木製品 下駄	残存長 24.8　最大幅 (5.0)　最大厚 2.0						半分残存	板目の横木取り 連歯下駄で台上面は平坦で足痕が残り、厚さは 2.0㎝ 歯は鋸挽き	
60-6	馬歯	最大長 (4.7)　最大幅 3.1　最大厚 2.3　重さ 19.5 g						―	右下顎第 1 臼歯、咬合面有	
60-7	馬歯	最大長 (5.3)　最大幅 3.2　最大厚 2.4　重さ 33.4 g						―	右上第 1 臼歯、歯根欠損	
60-8	銭貨								唐 開元通宝	真書 初鋳 621 年
60-9	銭貨								唐 開元通宝	真書 初鋳 621 年
60-10	銭貨								唐 開元通宝	真書 初鋳 621 年
60-11	銭貨								唐 開元通宝	真書 初鋳 621 年
60-12	銭貨								北宋 淳化元宝	草書 初鋳 990 年
60-13	銭貨								北宋 祥符通宝	真書 初鋳 1009 年
60-14	銭貨								北宋 天禧通宝	真書 初鋳 1017 年
60-15	銭貨								北宋 天聖元宝	真書 初鋳 1023 年
60-16	銭貨								北宋 天聖元宝	真書 初鋳 1023 年
60-17	銭貨								北宋 天聖元宝	真書 初鋳 1023 年
60-18	銭貨								北宋 天聖元宝	真書 初鋳 1023 年
60-19	銭貨								北宋 天聖元宝	篆書 初鋳 1023 年
60-20	銭貨								北宋 天聖元宝	篆書 初鋳 1023 年
60-21	銭貨								北宋 天聖元宝	篆書 初鋳 1023 年
60-22	銭貨								北宋 景祐元宝	篆書 初鋳 1034 年
60-23	銭貨								北宋 皇宋通宝	篆書 初鋳 1038 年 方穿加工
60-24	銭貨								北宋 皇宋通宝	篆書 初鋳 1038 年
60-25	銭貨								北宋 皇宋通宝	篆書 初鋳 1038 年
60-26	銭貨								北宋 至和元宝	真書 初鋳 1054 年
60-27	銭貨								北宋 治平元宝	真書 初鋳 1064 年

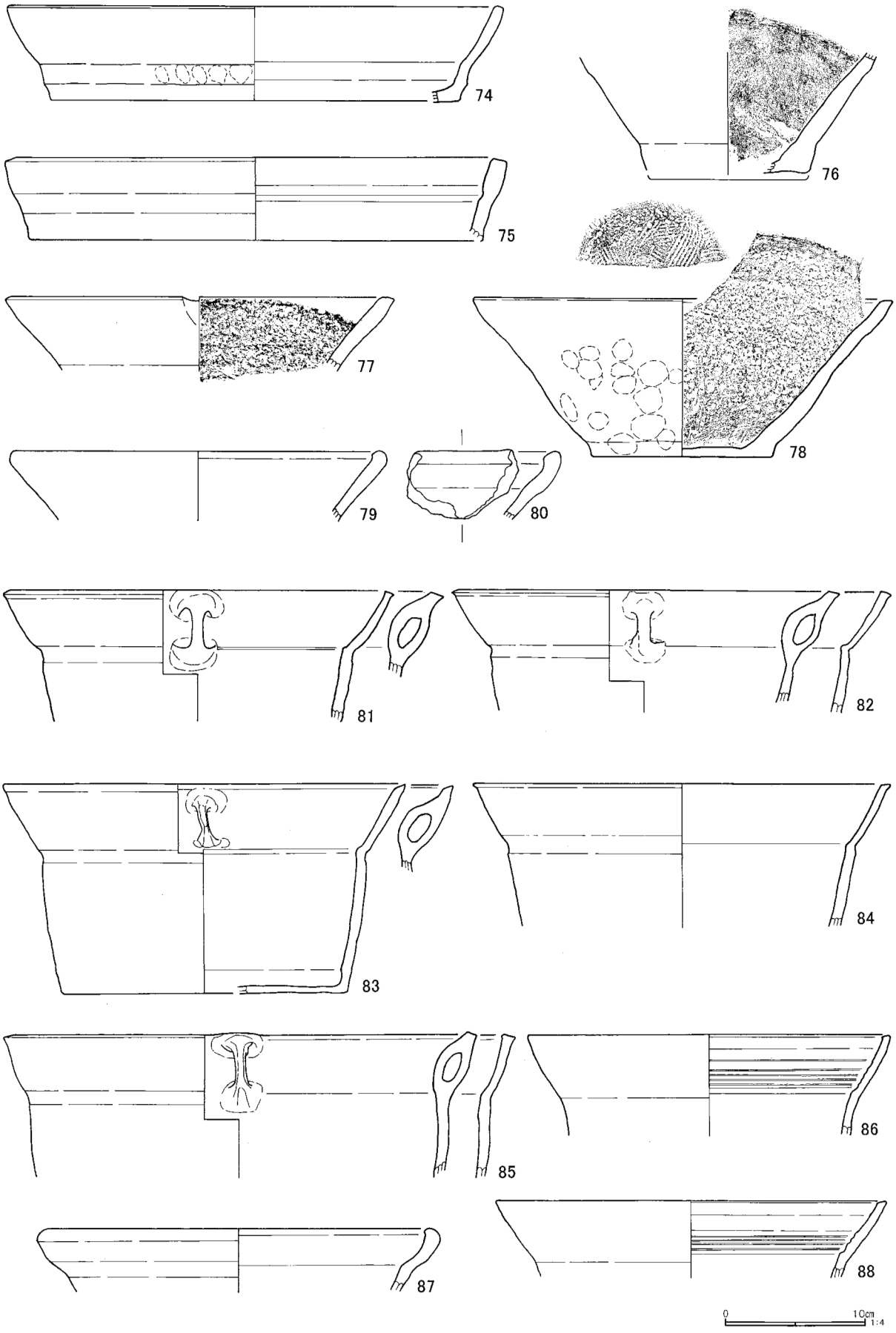
No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
60-28	銭貨								北宋 熙寧元宝	真書 初鋳 1068 年
60-29	銭貨								北宋 熙寧元宝	篆書 初鋳 1068 年
60-30	銭貨								北宋 熙寧元宝	篆書 初鋳 1068 年
60-31	銭貨								北宋 熙寧元宝	篆書 初鋳 1068 年
60-32	銭貨								北宋 熙寧元宝	篆書 初鋳 1068 年
60-33	銭貨								北宋 熙寧元宝	篆書 初鋳 1068 年
60-34	銭貨								北宋 元豊通宝	草書 初鋳 1078 年
60-35	銭貨								北宋 元豊通宝	草書 初鋳 1078 年
60-36	銭貨								北宋 元豊通宝	草書 初鋳 1078 年
60-37	銭貨								北宋 元豊通宝	草書 初鋳 1078 年
60-38	銭貨								北宋 元豊通宝	篆書 初鋳 1078 年
60-39	銭貨								北宋 元豊通宝	篆書 初鋳 1078 年
60-40	銭貨								北宋 元豊通宝	篆書 初鋳 1078 年
60-41	銭貨								北宋 元豊通宝	篆書 初鋳 1078 年
60-42	銭貨								北宋 元祐通宝	篆書 初鋳 1086 年
60-43	銭貨								北宋 元祐通宝	篆書 初鋳 1086 年
60-44	銭貨								北宋 元祐通宝	篆書 初鋳 1086 年
60-45	銭貨								北宋 紹聖元宝	篆書 初鋳 1094 年
60-46	銭貨								北宋 元符通宝	篆書 初鋳 1098 年
60-47	銭貨								北宋 聖宋元宝	草書 初鋳 1101 年
60-48	銭貨								金 正隆元宝	真書 初鋳 1157 年
61-1	須恵器 瓶	(19.6)	(5.4)	-	ABDM	外面：褐灰 7.5YR-5/1 内面：黄灰 2.5Y-6/1	B	口縁部 10%	口縁部外湾、端部内湾	末野産 自然釉
61-2	須恵器 甕	-	-	-	ABFM	外面：赤灰 2.5YR-6/1 内面：明褐灰 7.5YR-7/1	B	口縁部片	外面：口縁部櫛描波状文	南比企産
61-3	須恵器 瓶	-	(3.0)	(9.6)	ABDM	灰 N-5/	B	胴部下端～底部片	外面：下端ヘラケズリ 内面：ヘラナデ、指頭圧痕	外面部分的に自然釉
61-4	灰釉陶器 高台皿	-	(1.3)	6.8	M	浅黄 7.5Y-7/3	B	体部～底部 40%	外面：爪形の高台 内面：底部灰オリーブ色釉ハケ塗り	折戸 53 号窯式 併行期
61-5	瓦質土器 片口鉢	-	(3.9)	11.8	ABDJM	外面：にぶい褐 7.5YR-6/3 内面：灰 5Y-6/1	B	底部 80%	内面：底部・体部の境が磨れている	在地
61-6	陶器 片口鉢	(32.0)	(5.4)	-	ABDMN	にぶい赤褐 2.5YR-4/3	B	口縁部 5%	外面：口唇部沈線が巡る	常滑系 片口鉢Ⅱ類 第 8 形式
61-7	陶器 甕	-	-	-	ABDIM	外面：にぶい黄橙 10YR-7/3 内面：にぶい黄褐 10YR-5/3	B	胴部片		常滑系
61-8	陶器 甕	-	-	-	AM	外面：浅黄 5Y-7/3 内面：灰 N-6/	B	肩部片		常滑系
61-9	陶器 折縁皿	-	-	-	B	灰白 2.5Y-7/1 灰オリーブ 7.5Y-6/2	A	口縁～体部片	内面：口縁部 2 条の沈線巡る 内外面：灰釉	瀬戸美濃系 古瀬戸期
61-10	瓦 平瓦	最大長 (5.8)	最大幅 (7.3)	最大厚 1.9	AM	灰白 N-7/	B	破片	重量 132.3 g 凸面：縄目叩き 凹面：布目	平安期
61-11	銭貨								北宋 熙寧元宝	篆書 初鋳 1068 年
61-12	馬歯	最大長 (4.6)　最大幅 2.7　最大厚 2.2　重さ 29.5 g						—	左上顎第 4 前臼歯、歯根発達	
62-1	陶器 四耳壺	-	(3.9)	-	BIM	外面：オリーブ黄 7.5Y-6/3 内面：灰白 7.5Y-7/1	B	肩部～頸部 5%	外面：灰釉	瀬戸美濃系 古瀬戸前期
68-1	陶器 洗	(19.6)	(5.4)	-	AM	外面：灰白 7.5Y-8/1 内面：灰白 7.5Y-7/2	B	5%	内外面：灰釉、三足が付く	瀬戸美濃系 古瀬戸前Ⅰ期
68-2	炭化米塊	最大長 2.5　最大幅 2.4　最大厚 1.7　重さ 7.5 g						—	米粒が密で、握った塊の可能性がある、 玄米か精米かは不明	
68-3	馬歯	最大長 4.7　最大幅 2.5　最大厚 1.9　重さ 18.5 g						—	左下顎第 3 前臼歯	



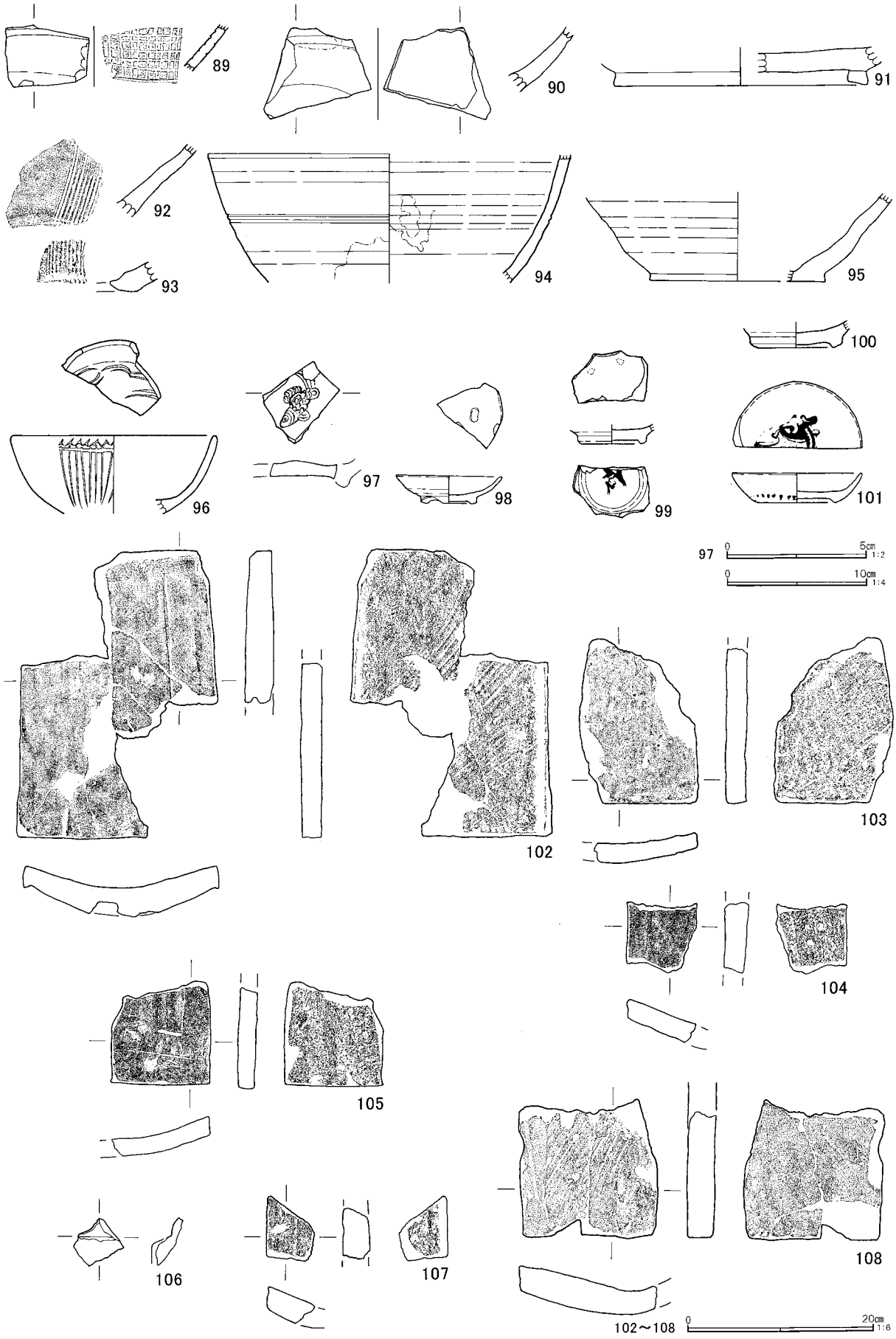
第 121 図　第 42 号溝跡出土遺物(1)



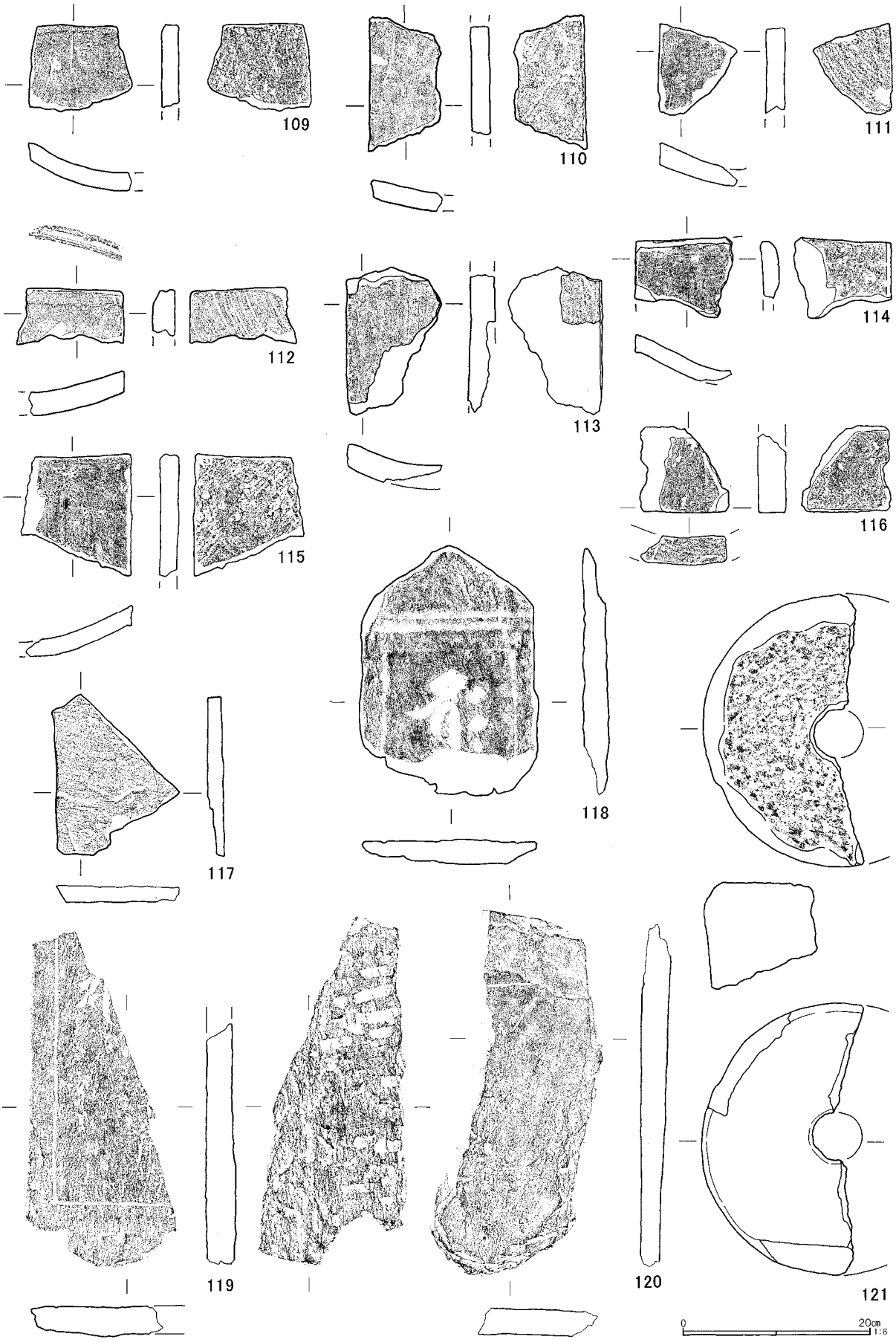
第 122 図　第 42 号溝跡出土遺物(2)



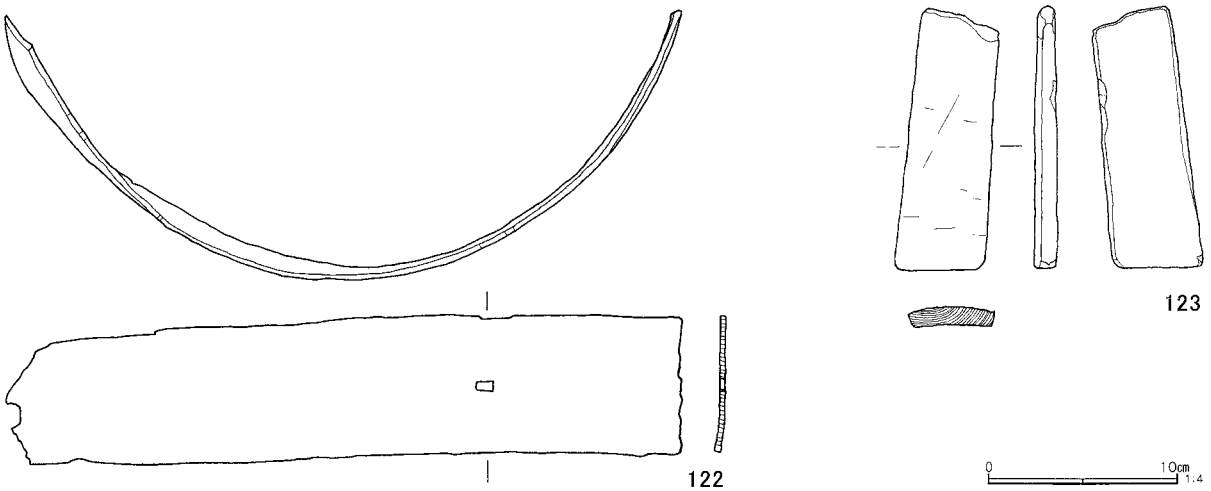
第 123 図　第 42 号溝跡出土遺物(3)



第 124 図　第 42 号溝跡出土遺物(4)



第 125 図　第 42 号溝跡出土遺物(5)



第 126 図　第 42 号溝跡出土遺物(6)

第 21 表　第 42 号溝跡出土遺物観察表(1)（第 121 ～ 126 図）

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
SD42	1	土師質土器 かわらけ	(12.4)	2.6	6.8	DIMN	にぶい黄橙 10YR-7/3	B	40%	ロクロ左回転	在地
SD42	2	土師質土器 かわらけ	(12.2)	2.2	(6.9)	BDIJM	浅黄橙 7.5YR-8/4	B	40%	器高低い、ロクロ回転方向不明	在地
SD42	3	土師質土器 かわらけ	(11.2)	2.5	6.8	ABDIJM	外面：にぶい橙 7.5YR-6/4 内面：にぶい橙 7.5YR-7/4	B	50%	ロクロ回転方向不明	在地
SD42	4	土師質土器 かわらけ	10.3	2.3	6.9	ADIM	橙 7.5YR-7/6	B	90%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42	5	土師質土器 かわらけ	10.1	2.4	6.0	ABDIM	橙 5YR-7/6	B	90%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42	6	土師質土器 かわらけ	(9.8)	2.4	6.0	ABDM	橙 5YR-7/6	B	25%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42	7	土師質土器 かわらけ	(11.4)	2.8	(6.6)	ABDI	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	30%	ロクロ左回転	在地
SD42	8	土師質土器 かわらけ	(11.4)	2.9	(6.0)	DM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	40%	ロクロ回転方向不明	在地
SD42	9	土師質土器 かわらけ	(11.2)	2.9	5.3	ABDIK	外面：浅黄橙 7.5YR-8/3 内面：にぶい橙 5YR-7/4	B	60%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42	10	土師質土器 かわらけ	(11.2)	2.7	6.3	DM	灰白 10YR-8/2 浅黄橙 7.5YR-8/4 にぶい黄橙 10YR-7/2	A	30%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42	11	土師質土器 かわらけ	11.1	2.7	6.0	DIJM	橙 5YR-7/6	B	90%	ロクロ左回転	在地
SD42	12	土師質土器 かわらけ	(11.0)	2.9	6.0	ABDIJ	橙 5YR-7/6 灰褐 7.5YR-5/2	B	60%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42	13	土師質土器 かわらけ	10.9	2.8	6.5	ABDEIM	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	70%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42	14	土師質土器 かわらけ	(10.8)	2.8	(6.4)	ABEIM	外面：淡橙 5 Y R -8/3 内面：にぶい橙 5YR-7/4	B	40%	ロクロ左回転	在地
SD42	15	土師質土器 かわらけ	(11.2)	2.7	6.5	ABDI	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	60%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42	16	土師質土器 かわらけ	10.3	2.8	6.5	ABDIM	橙 5YR-7/8	B	90%	ロクロ左回転	在地
SD42	17	土師質土器 かわらけ	11.6	3.5	6.5	BIM	橙 5 Y R -7/6	B	60%	ロクロ左回転	在地
SD42	18	土師質土器 かわらけ	11.5	3.0	6.8	AEI	外面：にぶい橙 7.5YR-7/3 内面：にぶい橙 7.5YR-7/4	B	95%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42	19	土師質土器 かわらけ	(11.4)	3.0	(6.4)	ABDM	橙 5YR-7/6	B	40%	ロクロ左回転	在地
SD42	20	土師質土器 かわらけ	11.3	3.0	6.5	DIM	外面：浅黄橙 7.5YR-8/3 褐灰 10YR-6/1 内面：浅黄橙 7.5YR-8/3	A	60%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42	21	土師質土器 かわらけ	(11.2)	3.2	6.8	ABDIJM	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	40%	ロクロ左回転	在地
SD42	22	土師質土器 かわらけ	11.2	3.1	6.7	ABDI	橙 5YR-7/6	B	80%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42	23	土師質土器 かわらけ	(11.2)	3.0	6.6	ABDIJ	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	50%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42	24	土師質土器 かわらけ	(11.0)	3.1	6.7	ABEIJM	橙 5YR-6/6	B	50%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地

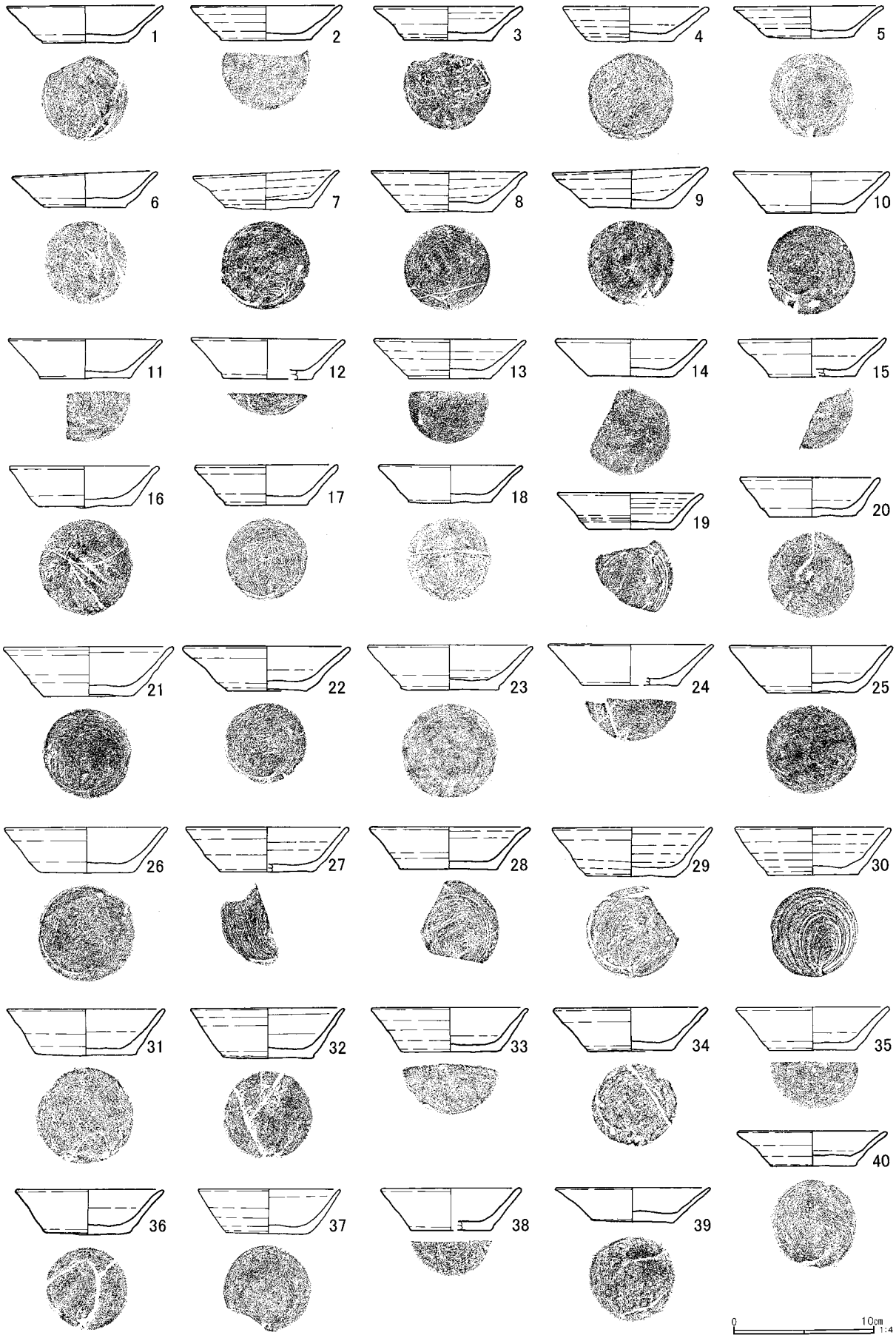
第 21 表　第 42 号溝跡出土遺物観察表(2)（第 121 ～ 126 図）

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
SD42	25	土師質土器 かわらけ	11.1	3.0	6.5	ABDHI	橙 5YR-7/6	B	90%	ロクロ左回転	在地
SD42	26	土師質土器 かわらけ	(10.4)	3.0	(6.0)	DIM	浅黄橙 7.5YR-8/3	B	20%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42	27	土師質土器 かわらけ	(11.4)	2.9	6.2	ABDI	橙 5YR-7/8	B	60%	ロクロ左回転	在地
SD42	28	土師質土器 かわらけ	10.8	2.8	6.1	BEIM	浅黄橙 7.5YR-8/3	B	80%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ回転方向不明	在地
SD42	29	土師質土器 かわらけ	(10.8)	2.8	6.0	ABDIJM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	70%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42	30	土師質土器 かわらけ	(10.2)	2.8	5.6	ABDEIM	外面：にぶい黄橙 10YR-7/2 内面：にぶい橙 7.5YR-7/3	B	60%	内面：みこみ指ナデ痕、底部厚い ロクロ左回転	在地
SD42	31	土師質土器 かわらけ	(12.0)	3.5	6.0	ABDIM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	40%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ回転方向不明	在地
SD42	32	土師質土器 かわらけ	(11.0)	3.0	6.5	DM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	40%	内面：みこみ指ナデ痕、底部厚い ロクロ左回転	在地
SD42	33	土師質土器 かわらけ	10.4	3.0	6.3	DIM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	80%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42	34	土師質土器 かわらけ	(11.4)	2.6	6.5	ABDEJM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	60%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ回転方向不明	在地
SD42	35	土師質土器 かわらけ	(11.2)	2.4	5.8	ABEJN	外面：橙 5YR-7/6 内面：浅黄橙 7.5YR-8/4	B	60%	内面：みこみ指ナデ痕、底部厚い ロクロ左回転	在地
SD42	36	土師質土器 かわらけ	11.1	2.6	6.0	DJM	浅黄橙 7.5YR-8/4	B	80%	ロクロ左回転	在地
SD42	37	土師質土器 かわらけ	11.1	2.5	6.3	BDIM	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	90%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42	38	土師質土器 かわらけ	(10.8)	2.5	6.5	BDEJ	橙 5YR-7/6	B	60%	内面：みこみ指ナデ痕、底部厚い ロクロ左回転	在地
SD42	39	土師質土器 かわらけ	(10.8)	2.4	(6.0)	ABIM	外面：にぶい褐 7.5YR-6/3 内面：にぶい橙 7.5YR-7/3	B	40%	ロクロ左回転	在地
SD42	40	土師質土器 かわらけ	9.9	2.6	5.9	ABDJM	浅黄橙 7.5YR-8/4	B	60%	内面：みこみ指ナデ痕、底部厚い ロクロ左回転	在地
SD42	41	土師質土器 かわらけ	9.8	2.5	6.0	DIM	橙 7.5YR-6/6	B	100%	ロクロ左回転	在地
SD42	42	土師質土器 かわらけ	(11.4)	2.8	6.6	ABDIM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	45%	底部厚い、ロクロ左回転	在地
SD42	43	土師質土器 かわらけ	11.1	2.8	6.7	DIM	外面：灰白 10YR-8/2 浅黄橙 7.5YR-8/4 内面：灰白 10YR-8/2	A	60%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕、底部厚い ロクロ左回転	在地
SD42	44	土師質土器 かわらけ	(11.0)	2.9	(6.4)	ABDIK	浅黄橙 7.5YR-8/4	B	40%	ロクロ左回転	在地
SD42	45	土師質土器 かわらけ	(11.0)	2.8	6.2	BDJM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	70%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ回転方向不明	在地
SD42	46	土師質土器 かわらけ	(10.9)	2.8	(6.0)	BDJ	浅黄橙 7.5YR-8/4	B	40%	ロクロ左回転	在地
SD42	47	土師質土器 かわらけ	(10.8)	2.8	(6.2)	ABDIM	橙 5YR-7/6	B	25%	底部厚い、ロクロ左回転	在地
SD42	48	土師質土器 かわらけ	(10.6)	2.9	6.1	BIJM	浅黄橙 10YR-8/3	B	60%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42	49	土師質土器 かわらけ	10.6	2.7	6.2	BDI	にぶい黄橙 10YR-7/2	B	60%	内面：みこみ指ナデ痕、底部厚い ロクロ左回転	在地
SD42	50	土師質土器 かわらけ	(9.8)	2.7	6.4	DM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	60%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ回転方向不明	在地
SD42	51	土師質土器 かわらけ	11.8	3.1	7.4	ABIM	外面：橙 5YR-6/6 内面：浅黄橙 7.5YR-8/3	B	70%	ロクロ左回転	在地
SD42	52	土師質土器 かわらけ	(11.6)	3.5	6.6	ABDIJ	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	60%	内面：みこみ指ナデ痕、底部厚い ロクロ左回転	在地
SD42	53	土師質土器 かわらけ	(11.6)	3.4	6.4	ABDIM	橙 5YR-7/6	B	70%	内面：みこみ指ナデ痕、底部厚い ロクロ左回転	在地
SD42	54	土師質土器 かわらけ	(11.3)	3.2	6.2	BIJM	橙 5YR-7/6	B	50%	底部厚い、ロクロ左回転	在地
SD42	55	土師質土器 かわらけ	(10.6)	3.0	6.0	ABDIM	橙 5 Y R -7/6	B	40%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42	56	土師質土器 かわらけ	(10.8)	3.1	5.9	ABDIM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	60%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕、底部厚い ロクロ左回転	在地
SD42	57	土師質土器 かわらけ	10.8	3.0	6.7	BDJ	浅黄橙 7.5YR-8/4	B	90%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕、底部厚い ロクロ左回転	在地
SD42	58	土師質土器 かわらけ	(6.9)	2.1	(4.0)	DIM	灰白 10YR-8/1	A	25%	小型、ロクロ回転方向不明	在地
SD42	59	土師質土器 かわらけ	6.6	1.7	4.6	DM	外面：灰白 7.5YR-8/2 内面：浅黄橙 7.5YR-8/3	A	80%	ロクロ左回転	在地
SD42	60	土師質土器 かわらけ	(11.2)	(2.3)	-	ABDIM	灰白 7.5YR-8/1	B	10%	ロクロ回転方向不明	古河公方系
SD42	61	土師質土器 かわらけ	(10.8)	(2.3)	-	ABDJM	明褐灰 7.5YR-7/2	B	10%	ロクロ回転方向不明	古河公方系

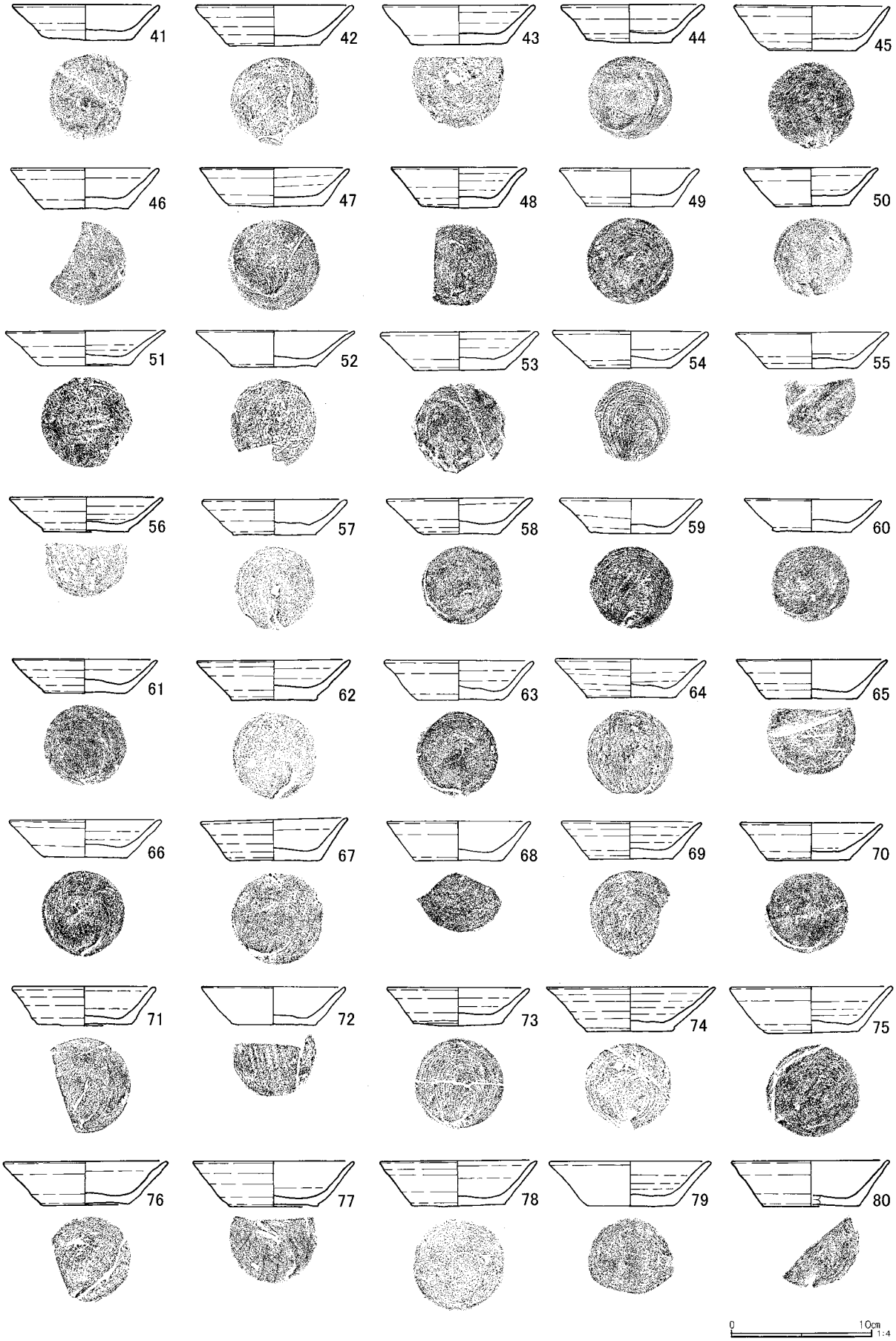
遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
SD42	62	土師質土器 かわらけ	(10.8)	(2.7)	-	ABJ	外面：灰白 10YR-7/1 灰 5Y-4/1 内面：灰白 10YR-7/1	B	10%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ右回転	古河公方系
SD42	63	土師質土器 かわらけ	(10.2)	2.9	(4.8)	ABEJM	外面：浅黄橙 7.5YR-8/3 内面：灰白 7.5YR-8/2	B	30%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ右回転	古河公方系
SD42	64	土師質土器 かわらけ	6.2	2.1	3.2	ABDIK	にぶい橙 5YR-7/4	B	60%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕 小型、ロクロ右回転	古河公方系
SD42	65	土師質土器 かわらけ	(12.4)	(2.5)	-	BDM	淡橙 5YR-8/3	B	10%	体部厚い、ロクロ回転方向不明	在地
SD42	66	土師質土器 かわらけ	(12.4)	(2.5)	-	ABDM	淡橙 5YR-8/4	B	10%	体部厚い、ロクロ左回転	在地
SD42	67	土師質土器 かわらけ	(12.2)	(2.8)	-	AIM	にぶい橙 5YR-7/4	B	10%	内外面：ロクロ痕顕著 ロクロ回転方向不明	在地
SD42	68	土師質土器 かわらけ	(12.4)	3.2	(7.0)	BDIJM	淡橙 5YR-8/4	B	10%	体部厚い、ロクロ回転方向不明	在地
SD42	69	瓦質土器 焙烙	(38.0)	5.9	(34.0)	ABDIJM	外面：褐灰 7.5YR-4/1 内面：にぶい黄橙 7.5YR-7/2	B	30%	外面：指頭痕 内面：体部中央稜をもつ、内耳 1 ヶ所残存	在地 外面スス付着
SD42	70	瓦質土器 焙烙	(35.6)	5.3	(31.0)	BJM	外面：黒褐 5YR-3/1 内面：褐灰 10YR-4/1	B	10%	外面：指頭痕 内面：体部中央下稜をもつ、内耳 1 ヶ所残存	在地 外面スス付着
SD42	71	瓦質土器 焙烙	(36.0)	(5.3)	-	ABEJM	外面：灰褐 7.5YR-6/2 内面：にぶい褐 7.5YR-6/3	B	5%	内面：稜をもつ、内耳 1 ヶ所残存	在地
SD42	72	瓦質土器 焙烙	(36.0)	5.9	(32.0)	ABM	外面：黒 10YR-2/1 内面：褐灰 10YR-6/1	B	10%	外面：指頭痕 内面：体部中央上稜をもち浅い沈線が巡る	在地 外面スス付着
SD42	73	瓦質土器 焙烙	(35.0)	5.6	(30.8)	ABEIJM	外面：灰褐 7.5YR-6/2 内面：にぶい橙 7.5YR-7/3	B	10%	内面：体部中央下稜をもつ	在地
SD42	74	瓦質土器 焙烙	(35.6)	6.8	(29.6)	ABI	外面：褐灰 10YR-4/1 内面：灰白 10YR-7/1	B	5%	器高の高い 外面：指頭痕 内面：体部中央下稜をもつ	在地 外面スス付着
SD42	75	瓦質土器 焙烙	(36.0)	5.9	(32.6)	ABDIM	外面：黒褐 7.5YR-3/1 内面：褐灰 7.5YR-6/1	B	10%	内面：体部中央稜をもつ	在地 外面スス付着
SD42	76	瓦質土器 擂鉢	-	(8.8)	(11.6)	ABDIM	灰褐 7.5YR-6/2	B	25%	内外面粗れている 櫛目 4 本	在地
SD42	77	瓦質土器 擂鉢	(28.0)	(5.4)	-	ABDHJM	外面：褐灰 7.5YR-4/1 内面：灰黄褐 10YR-6/2	B	10%	内面：口唇部粗れている 櫛目不明	在地
SD42	78	瓦質土器 擂鉢	(30.0)	11.3	13.0	ABDJM	暗灰 N-3/ 内面：一部灰白 N-8/	A	30%	外面：指頭痕 内面：粗れている、特に口縁部付近 櫛目 7 本体部放射状	在地
SD42	79	瓦質土器 片口鉢	(27.0)	(5.0)	-	ABDIM	にぶい褐 7.5YR-5/3	B	10%	口縁端部ふくらみ 内側に突出	在地
SD42	80	瓦質土器 片口鉢	-	-	-	ABDHIJM	褐灰 10YR-5/1	B	口縁部片	口唇部内面に突出	在地
SD42	81	瓦質土器 土鍋	(28.0)	(9.4)	-	ABDIJM	黒褐 2.5Y-3/1	B	10%	口唇部内外面に突出 外面：頸部凹線巡る 内面：頸部段をもつ、内耳 1 ヶ所残存	在地 外面スス付着
SD42	82	瓦質土器 土鍋	(28.0)	(8.7)	-	ABDM	黒褐 2.5YR-3/1	B	10%	外面：口唇部外面に突出、頸部凹線巡る 内面：頸部段をもつ、内耳 1 ヶ所残存	在地 外面スス付着
SD42	83	瓦質土器 土鍋	(29.0)	15.0	(20.5)	JMN	黒褐 10YR-3/1 黒 10YR-2/1	B	口縁～底部 30%	外面：口唇部突る、頸部凹線巡る 内面：頸部段をもつ、内耳 1 ヶ所残存	在地
SD42	84	瓦質土器 土鍋	(30.0)	(10.2)	-	ABIL	外面：褐灰 10YR-4/1 内面：灰黄褐 10YR-6/2	B	口縁～体部 10%	外面：口唇部外側に突出、頸部凹線が巡る 内面：頸部段をもつ	在地 外面スス付着
SD42	85	瓦質土器 土鍋	(34.0)	(10.2)	-	AIJMN	外面：黒褐 5YR-2/1 内面：褐灰 10YR-5/1	B	口縁～体部 10%	口唇部内外面に突出 内面：頸部稜をもつ	在地 外面スス付着
SD42	86	瓦質土器 土鍋	(26.0)	(7.2)	-	AFJM	外面：暗灰 N-3/ 内面：灰 N-4/	B	口縁～体部 5%	内面：口縁部条線が巡る、頸部稜をもつ	在地 外面スス付着
SD42	87	瓦質土器 土鍋	(29.0)	(4.5)	-	ABJM	灰 5Y-5/1	B	口縁～体部 5%	内面：口唇部突出、頸部稜をもつ	在地 外面スス付着
SD42	88	瓦質土器 土鍋	(28.0)	(5.5)	-	AIM	灰 N-4/	B	口縁～体部 10%	内面：口縁部条線が巡る、頸部稜をもつ	在地 外面スス付着
SD42	89	陶器 卸目付大皿	-	-	-	ABIM	灰白 2.5Y-7/1	B	体部片	内面：ヘラによる卸目有	古瀬戸後期
SD42	90	陶器 盤類	-	-	-	ABM	外面：灰黄褐 10YR-6/2 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	B	体部片	外面：上方ロクロ痕 内面：磨れている	古瀬戸後期
SD42	91	陶器 盤類	-	(2.7)	(18.2)	AIM	灰白 7.5YR-8/1	B	底部 10%	外面：貼り付け高台 内面：鉄釉ハケ塗り	古瀬戸後期
SD42	92	陶器 擂鉢	-	-	-	IM	灰赤 10R-4/2	B	体部片	内外面：錆釉 外面：ヘラケズリなし 内面：11 本の櫛目	瀬戸後Ⅳ期～大窯 1
SD42	93	陶器 擂鉢	-	-	-	ABM	外面：灰赤 7.5R-5/2 内面：赤灰 7.5R-5/1	B	底部片	内外面：錆釉 内面：現存 11 本の櫛目	古瀬戸後Ⅳ期～大窯 1

第 21 表　第 42 号溝跡出土遺物観察表(3)（第 121 ～ 126 図）

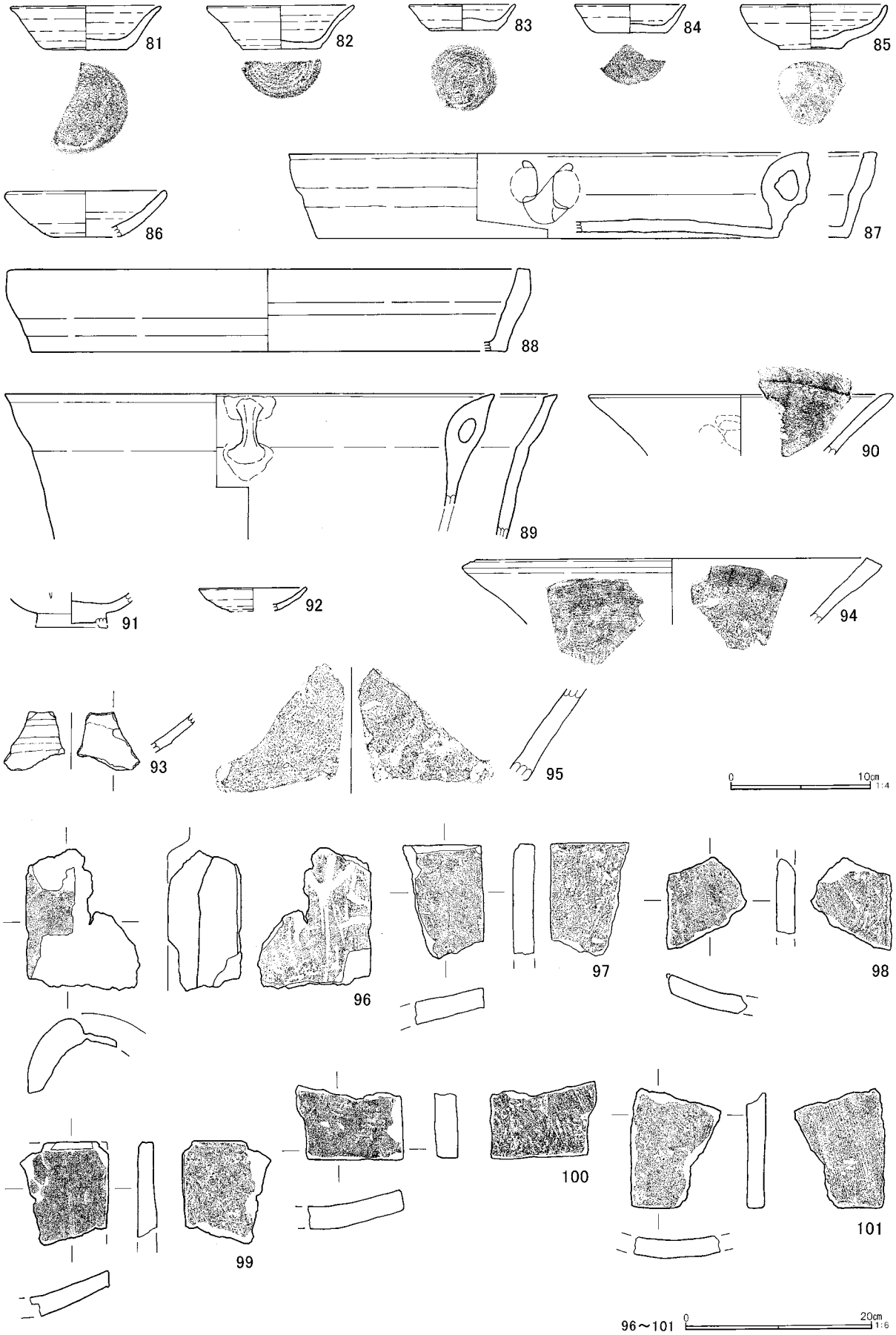
遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
SD42	94	陶器 茶壺	-	(9.3)	-	ABM	外面：暗赤褐 5YR-3/4 明褐灰 7.5YR-7/2 内面：暗赤褐 5YR-3/4 オリーブ 5Y-5/4	B	体部 5%	外面：2 条の沈線が巡る 内外面：上方鉄釉	古瀬戸後期
SD42	95	陶器 鉢	-	(6.4)	(12.6)	ABDIMN	橙 2.5YR-6/6	B	体部～底部 5%	外面：ロクロ痕 内面：磨れている	備前系ヵ 底部籾痕
SD42	96	磁器 青磁碗	(14.8)	(5.6)	-	AB	明オリーブ灰 2.5GY-7/1	A	口縁～体部 10%	外面：ヘラ先による蓮弁文 内面：みこみに雲文	龍泉窯系蓮弁文碗
SD42	97	磁器 青磁皿	-	-	-	B	緑灰 7.5GY-6/1	A	底部片	内面：みこみに白土による魚文	龍泉窯系双魚文皿
SD42	98	磁器 白磁皿	(7.6)	1.9	4.0	M	灰白 5Y-8/1	B	口縁～底部 10%	外面：高台抉り込み 内面：みこみ重ね焼き痕	中国 白磁皿 B 群
SD42	99	磁器 白磁皿	-	(1.4)	4.9	M	灰白 2.5Y-8/1	B	底部 70%	外面：高台内「石」の墨書 内面：重ね焼き痕	中国 白磁皿 B 群
SD42	100	磁器 白磁壺	-	(1.9)	(5.2)	BI	外面：灰白 2.5Y-8/1 内面：灰白 7.5Y-8/1	B	底部 70%	外面：無釉 内面：コテの痕	中国
SD42	101	磁器 染付皿	(9.4)	2.1	(5.5)	M	灰白 2.5Y-8/1	B	60%	外面：口縁部圏線、高台烈点文 内面：みこみ二重圏線内に団龍文、高台内無釉	景徳鎮窯系 染付皿 C 群
SD42	102	瓦 平瓦	最大長 31.2	最大幅 21.4	最大厚 3.1	ABDIJM	凸面：にぶい橙 7.5YR-7/4 凹面：灰白 7.5YR-8/2	B	破片	重量 1710 g 凸面：弧状圧迫痕（斜位） 凹面：縦ナデ	在地
SD42	103	瓦 平瓦	最大長 (18.0)	最大幅 (12.9)	最大厚 2.2	ABEIJM	凸面：にぶい橙 7.5YR-7/4 凹面：浅黄橙 7.5YR-8/3	B	破片	重量 600 g 凸面：弧状圧迫痕、縄叩き痕わずかに残る 凹面：縦ナデ	在地
SD42	104	瓦 平瓦	最大長 (7.7)	最大幅 (7.6)	最大厚 2.3	ABEIM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	破片	重量 173.2 g 凸面：粗い縄叩き 凹面：指ナデ	在地
SD42	105	瓦 平瓦	最大長 (11.2)	最大幅 (10.8)	最大厚 2.0	ABDIJM	凸面：浅黄橙 7.5YR-8/4 凹面：浅黄橙 7.5YR-8/3	B	破片	重量 360 g 凸面：粗い縄叩き 凹面：指ナデ	在地
SD42	106	瓦 丸瓦	最大長 (5.2)	最大幅 (5.4)	最大厚 1.4	ABEIM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	破片	重量 22.8 g	在地
SD42	107	瓦 平瓦	最大長 (7.0)	最大幅 (5.3)	最大厚 2.5	ABEM	凸面：明褐灰 7.5YR-7/1 褐灰 7.5YR-6/1 凹面：褐灰 7.5YR-5/1	B	破片	重量 99.2 g 凸面：粗い縄叩き 凹面：指ナデ	在地
SD42	108	瓦 平瓦	最大長 (15.2)	最大幅 (15.0)	最大厚 3.3	ABEIJM	凸面：にぶい橙 7.5YR-7/4 凹面：にぶい黄橙 10YR-7/4 橙 7.5YR-7/6	B	破片	重量 960 g 凸面：縦ナデ 凹面：弧状圧迫痕	在地
SD42	109	瓦 平瓦	最大長 (9.0)	最大幅 (11.0)	最大厚 1.9	ABEIM	浅黄橙 7.5YR-8/3	B	破片	重量 270 g 凸面：粗い縄叩き 凹面：指ナデ、木口状工具痕	在地
SD42	110	瓦 平瓦	最大長 (14.3)	最大幅 (7.7)	最大厚 2.0	ABEIM	凸面：浅黄橙 7.5YR-8/4 凹面：浅黄橙 7.5YR-8/3	B	破片	重量 270 g 凸面：弧状圧迫痕（斜位）、縄叩き 凹面：縦ナデ	在地
SD42	111	瓦 平瓦	最大長 (9.5)	最大幅 (8.4)	最大厚 2.1	ABM	灰白 10YR-7/1 灰 N-6/	B	破片	重量 190.7 g 凸面：弧状圧迫痕（斜位）、縄叩き痕わずかに残る 凹面：縦ナデ	在地
SD42	112	瓦 平瓦	最大長 (5.6)	最大幅 (11.5)	最大厚 2.5	ABEIM	凸面：灰白 7.5YR-8/1 凹面：灰白 10YR-7/1	B	破片	重量 200 g 凸面：弧状圧迫痕	在地
SD42	113	瓦 平瓦	最大長 (15.9)	最大幅 (10.2)	最大厚 2.6	ABIJM	凸面：にぶい橙 7.5YR-7/4 凹面：にぶい黄橙 10YR-7/3	B	破片	重量 340 g 凹面：縦ナデ	在地
SD42	114	瓦 平瓦	最大長 (8.6)	最大幅 (10.6)	最大厚 1.9	ABEIM	凸面：灰白 10YR-7/1 凹面：灰白 N-8/	B	破片	重量 198.1 g 凸面：不明 凹面：指ナデ	在地
SD42	115	瓦 平瓦	最大長 (13.1)	最大幅 (11.9)	最大厚 1.9	ABEIJMN	凸面：にぶい黄橙 10YR-7/2 凹面：灰白 N-8/	B	破片	重量 400 g 凸面：弧状圧迫痕 凹面：指ナデ	在地
SD42	116	瓦 平瓦	最大長 (9.2)	最大幅 (9.6)	最大厚 3.0	ABEM	凸面：にぶい橙 7.5YR-7/3 凹面：灰白 10YR-7/1	B	破片	重量 280 g 凸面：粗い縄叩き 凹面：指ナデ	在地
SD42	117	石製品 板石塔婆	最大長 (17.3)　最大幅 (13.7)　最大厚 1.8　重さ 510 g						破片	碑面：剥離	
SD42	118	石製品 板石塔婆	最大長 (26.6)　最大幅 18.8　最大厚 2.7　重さ 2090 g						破片	碑面：釈迦（バク）種子、額線	
SD42	119	石製品 板石塔婆	最大長 (37.9)　最大幅 (16.6)　最大厚 3.3　重さ 3410 g						破片	碑面：阿弥陀三尊種子の勢至（.サ）の種子が残る 額線 「季四月廿日」	
SD42	120	石製品 板石塔婆	最大長 (39.0)　最大幅 (17.3)　最大厚 2.9　重さ 2950 g						破片	基部・碑面：額線	
SD42	121	石製品 石臼(下臼)	最大長 29.4　最大幅 (17.3)　最大厚 11.5　重さ 7900 g							臼面の溝は摩耗している	花崗岩
SD42	122	木製品 曲物 側板	残存長　48.0　最大幅 7.3　最大厚 0.3						一部残存	柄を挿入した方孔	
SD42	123	木製品 桶板	残存長　13.8　最大幅 5.7　最大厚 1.0						—	木取は板目、桶を構成する板	



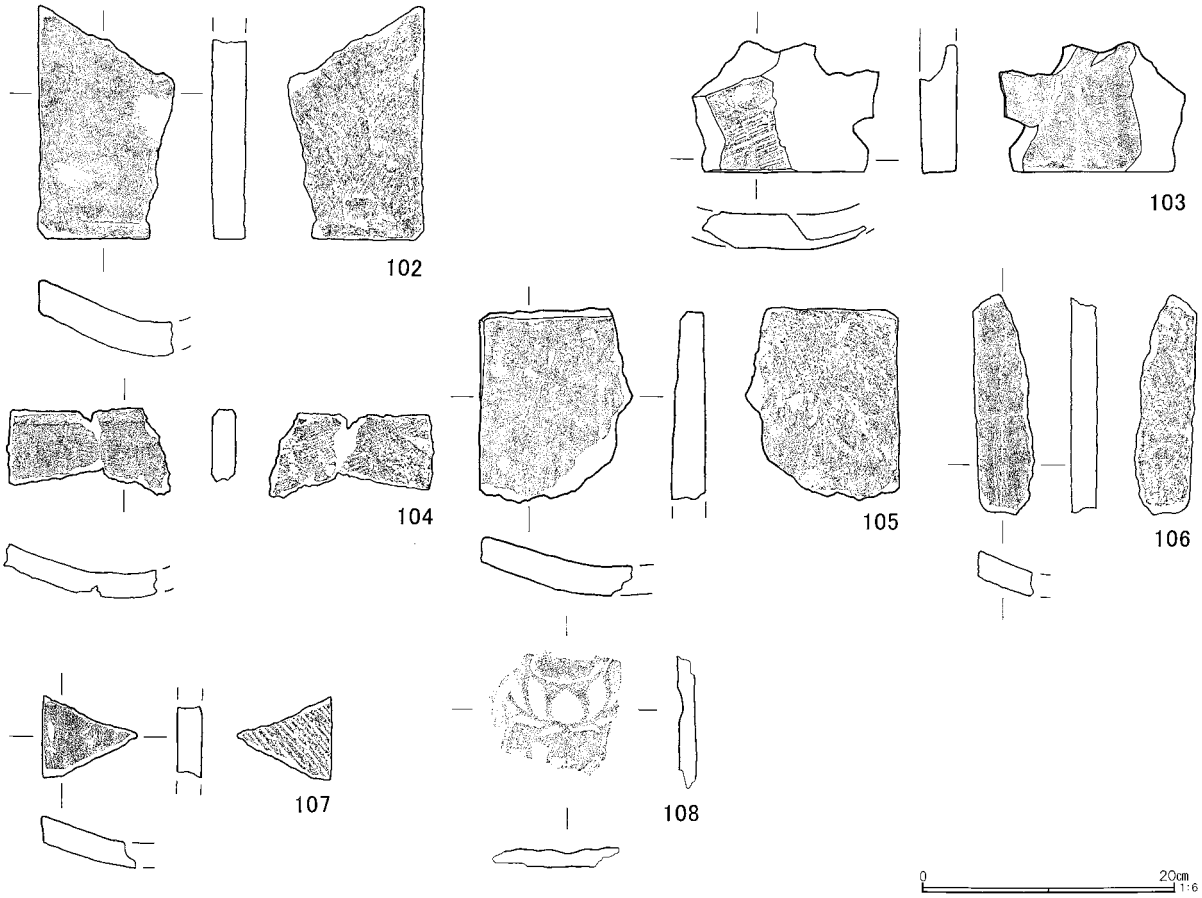
第 127 図　第 42 号溝跡かわらけ集中地点出土遺物(1)



第 128 図　第 42 号溝跡かわらけ集中地点出土遺物(2)



第 129 図　第 42 号溝跡かわらけ集中地点出土遺物(3)



第 130 図　第 42 号溝跡かわらけ集中地点出土遺物(4)

第 22 表　第 42 号溝跡かわらけ集中地点出土遺物観察表(1)（第 127 ～ 130 図）

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
SD42 かわらけ集中地点	1	土師質土器 かわらけ	(11.0)	2.6	6.1	DM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	30%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	2	土師質土器 かわらけ	(10.8)	2.5	6.4	BDJM	外面：にぶい橙 7.5YR-7/4 内面：橙 7.5YR-7/6	B	50%	ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	3	土師質土器 かわらけ	(10.8)	2.5	6.3	ABDIM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	60%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	4	土師質土器 かわらけ	10.7	2.5	6.2	BDIJ	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	70%	ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	5	土師質土器 かわらけ	(10.6)	2.4	6.2	ABDEIM	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	60%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	6	土師質土器 かわらけ	10.5	2.4	6.0	ABEJM	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	70%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	7	土師質土器 かわらけ	10.4	2.5	6.2	ABDI	橙 5YR-7/6	B	70%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	8	土師質土器 かわらけ	(11.2)	2.8	6.1	ABIK	橙 5YR-7/6	B	60%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	9	土師質土器 かわらけ	11.2	2.7	6.0	ABDIM	浅黄橙 7.5YR-8/3	B	90%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	10	土師質土器 かわらけ	(11.2)	2.9	6.4	BDEJM	橙 5YR-7/6	B	50%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	11	土師質土器 かわらけ	(11.0)	2.8	(6.4)	ABEIM	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	20%	ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	12	土師質土器 かわらけ	(11.0)	2.8	(6.4)	ABDM	にぶい橙 5YR-7/4	B	20%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ回転方向不明	在地
SD42 かわらけ集中地点	13	土師質土器 かわらけ	(10.8)	2.8	5.9	DM	浅黄橙 7.5YR-8/3 灰白 10YR-8/2 外面：底部灰白 2.5Y-7/1	A	45%	ロクロ回転方向不明	在地
SD42 かわらけ集中地点	14	土師質土器 かわらけ	(10.8)	2.7	6.2	DM	浅黄橙 7.5YR-8/4	B	40%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
SD42 かわらけ集中地点	15	土師質土器 かわらけ	(10.8)	2.7	(6.0)	ABDJM	にぶい橙 5YR-7/4	B	10%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	16	土師質土器 かわらけ	10.7	2.9	6.6	ABDEM	外面：にぶい黄橙 10YR-7/2 内面：橙 5YR-7/6	B	80%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	17	土師質土器 かわらけ	(10.4)	2.9	5.8	ABDIM	橙 5YR-7/6	B	60%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	18	土師質土器 かわらけ	10.4	2.7	6.0	DM	橙 5YR-7/6	B	40%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	19	土師質土器 かわらけ	(10.4)	2.6	(6.0)	ABDI	にぶい橙 7.5YR-7/4 褐灰 10YR-5/1	B	40%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	20	土師質土器 かわらけ	(10.0)	2.9	6.3	ABEHIM	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	80%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	21	土師質土器 かわらけ	12.2	3.5	6.4	DIM	灰白 10YR-8/1 にぶい橙 7.5YR-7/3	A	70%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	22	土師質土器 かわらけ	(12.0)	3.2	5.8	DIM	浅黄橙 7.5YR-8/3	B	60%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	23	土師質土器 かわらけ	(12.0)	3.2	7.0	BDIM	浅黄橙 7.5YR-8/4	B	60%	ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	24	土師質土器 かわらけ	(11.8)	3.0	(6.8)	DM	浅黄橙 7.5YR-8/3	B	10%	ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	25	土師質土器 かわらけ	(11.8)	3.3	6.4	AEIM	淡橙 5YR-8/4	B	60%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	26	土師質土器 かわらけ	(11.8)	3.2	6.8	BIJM	外面：にぶい橙 7.5YR-7/4 内面：浅黄橙 7.5YR-8/3	B	60%	ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	27	土師質土器 かわらけ	(11.7)	3.2	(6.8)	BIJ	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	40%	ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	28	土師質土器 かわらけ	(11.6)	3.0	(7.0)	AEM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	30%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	29	土師質土器 かわらけ	11.5	3.4	6.4	DM	橙 7.5YR-7/6	B	40%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	30	土師質土器 かわらけ	11.4	3.4	6.4	BDJM	外面：にぶい黄橙 10YR-7/3 内面：明褐灰 7.5YR-7/2	B	80%	ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	31	土師質土器 かわらけ	(11.2)	3.5	7.0	ABEI	外面：にぶい橙 7.5YR-7/3 内面：にぶい橙 7.5YR-7/4	B	60%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	32	土師質土器 かわらけ	(11.2)	3.5	6.4	DIM	橙 5YR-7/6 浅黄橙 7.5YR-8/3	A	70%	内面：みこみ指ナデ痕、底部厚い ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	33	土師質土器 かわらけ	11.2	3.2	7.0	DM	浅黄 2.5Y-7/3	B	30%	ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	34	土師質土器 かわらけ	(11.2)	3.1	6.0	ABDIJM	にぶい黄橙 10YR-7/2	B	40%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	35	土師質土器 かわらけ	(11.0)	3.1	6.2	ABDIM	にぶい橙 5YR-7/4	B	30%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ回転方向不明	在地
SD42 かわらけ集中地点	36	土師質土器 かわらけ	10.7	3.2	6.0	ABDJM	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	60%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	37	土師質土器 かわらけ	10.2	3.2	6.2	ABDI	外面：にぶい橙 5YR-7/4 内面：浅黄橙 7.5YR-8/3	B	60%	ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	38	土師質土器 かわらけ	(10.2)	3.0	(5.8)	ABDM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	25%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ回転方向不明	在地
SD42 かわらけ集中地点	39	土師質土器 かわらけ	(11.2)	2.5	5.9	BM	浅黄橙 7.5YR-8/4	B	30%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	40	土師質土器 かわらけ	(10.8)	2.6	6.3	BDIM	浅黄橙 7.5YR-8/3	B	50%	内面：みこみ指ナデ痕、底部厚い ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	41	土師質土器 かわらけ	10.6	2.5	6.0	DIM	外面：灰白 10YR-8/2 灰白 10YR-7/1 内面：浅黄橙 10YR-8/3	A	70%	内面：みこみ指ナデ痕、底部厚い ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	42	土師質土器 かわらけ	(11.4)	2.9	6.5	ABDIJM	橙 2.5YR-6/6	B	50%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	43	土師質土器 かわらけ	(11.0)	2.8	6.8	ABEIM	外面：にぶい橙 7.5YR-7/3 内面：にぶい橙 7.5YR-7/4	B	50%	内面：みこみ指ナデ痕、底部厚い ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	44	土師質土器 かわらけ	(10.3)	2.7	6.2	DIM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	70%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	45	土師質土器 かわらけ	(11.2)	3.2	6.2	DIM	浅黄橙 7.5YR-8/3 褐灰 10YR-6/1	A	40%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	46	土師質土器 かわらけ	(10.6)	2.9	6.0	ABEM	外面：にぶい黄橙 10YR-7/3 内面：にぶい橙 7.5YR-7/3	B	50%	底部厚い、ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	47	土師質土器 かわらけ	10.6	2.8	6.7	ABDIJ	浅黄橙 7.5YR-8/3	B	70%	内面：みこみ指ナデ痕、底部厚い ロクロ左回転	在地

第 22 表　第 42 号溝跡かわらけ集中地点出土遺物観察表(2)（第 127 ～ 130 図）

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
SD42 かわらけ集中地点	48	土師質土器 かわらけ	(9.8)	2.9	5.8	ABDIK	浅黄橙 7.5YR-8/3	B	60%	内面：みこみ指ナデ痕、底部厚い ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	49	土師質土器 かわらけ	(10.0)	2.7	6.2	ABEJM	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	70%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕、底部厚い ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	50	土師質土器 かわらけ	(9.7)	2.7	5.5	DMN	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	60%	底部厚い、ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	51	土師質土器 かわらけ	(11.8)	2.5	6.5	BJM	橙 5YR-7/6	B	50%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	52	土師質土器 かわらけ	(11.6)	2.6	6.2	IM	外面：橙 7.5YR-7/6 内面：浅黄橙 7.5YR-8/3	B	30%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ回転方向不明	在地
SD42 かわらけ集中地点	53	土師質土器 かわらけ	11.4	2.7	6.6	BDIJ	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	60%	底部厚い、ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	54	土師質土器 かわらけ	(11.0)	2.6	5.8	DIM	灰白 7.5YR-8/2	A	40%	ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	55	土師質土器 かわらけ	(11.0)	2.6	(6.2)	BEIM	浅黄橙 10YR-8/3	B	30%	内面：みこみ指ナデ痕 底部板目状圧痕、ロクロ回転方向不明	在地
SD42 かわらけ集中地点	56	土師質土器 かわらけ	(11.0)	2.5	6.0	ABDJM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	40%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	57	土師質土器 かわらけ	(10.6)	2.5	5.9	BIM	外面：橙 5YR-7/6 内面：橙 7.5YR-7/6	B	70%	内面：みこみ指ナデ痕、底部厚い ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	58	土師質土器 かわらけ	(10.5)	2.5	5.6	DIKM	浅黄橙 7.5YR-8/4	B	50%	底部厚い、ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	59	土師質土器 かわらけ	10.4	2.5	6.0	BDJ	浅黄橙 7.5YR-8/3	B	70%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	60	土師質土器 かわらけ	(10.2)	2.4	5.6	BIM	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	60%	内面：みこみ指ナデ痕、底部厚い ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	61	土師質土器 かわらけ	(10.2)	2.4	5.8	BDI	灰白 7.5YR-8/2	B	80%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕、底部厚い ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	62	土師質土器 かわらけ	(11.2)	2.9	6.2	BDIK	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	60%	内面：みこみ指ナデ痕、底部厚い ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	63	土師質土器 かわらけ	(10.8)	2.8	6.0	ABDM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	70%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕、底部厚い ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	64	土師質土器 かわらけ	10.8	2.7	6.4	BIJM	橙 5YR-7/6	B	70%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕、底部厚い ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	65	土師質土器 かわらけ	(10.8)	2.8	6.4	ABDIM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	50%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	66	土師質土器 かわらけ	10.8	2.7	6.0	ABDIM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	80%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕、底部厚い ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	67	土師質土器 かわらけ	10.6	2.9	6.6	ABEIM	橙 5YR-7/6	B	70%	底部厚い、ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	68	土師質土器 かわらけ	(10.4)	2.8	(6.2)	ABDM	橙 5YR-7/8	B	30%	ロクロ回転方向不明	在地
SD42 かわらけ集中地点	69	土師質土器 かわらけ	(10.1)	2.7	6.1	ABDIM	外面：明褐灰 7.5YR-7/2 内面：にぶい橙 7.5YR-7/3	B	60%	ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	70	土師質土器 かわらけ	10.3	2.7	6.0	DIM	浅黄橙 7.5YR-8/3	A	70%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	71	土師質土器 かわらけ	(10.3)	2.7	6.9	ABDIJM	外面：にぶい橙 7.5YR-7/3 内面：にぶい橙 7.5YR-7/4	B	50%	ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	72	土師質土器 かわらけ	(10.3)	2.7	6.0	DJM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	40%	内面：みこみ指ナデ痕 底部板目状圧痕、ロクロ回転方向不明	在地
SD42 かわらけ集中地点	73	土師質土器 かわらけ	10.2	2.7	6.4	DIM	外面：淡橙 5 Y R -8/4 内面：にぶ橙 7.5YR7/4 橙 2.5YR-6/6	A	80%	底部厚い、ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	74	土師質土器 かわらけ	(12.0)	3.2	6.1	DIM	灰白 10YR-8/2 橙 5YR-7/6	A	60%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	75	土師質土器 かわらけ	(12.0)	3.3	6.7	BDIJ	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	70%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ回転方向不明	在地
SD42 かわらけ集中地点	76	土師質土器 かわらけ	(11.7)	3.1	6.1	DIM	灰白 7.5YR-8/2 橙 5YR-7/6	A	50%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	77	土師質土器 かわらけ	(11.6)	3.2	6.4	BIJM	浅黄橙 7.5YR-8/4	B	50%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	78	土師質土器 かわらけ	(11.4)	3.2	6.7	ABJ	外面：灰白 7.5YR-8/2 内面：浅黄橙 7.5YR-8/3	B	60%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	79	土師質土器 かわらけ	(11.4)	3.1	6.2	ABDEIM	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	60%	内面：みこみ指ナデ痕、底部厚い ロクロ回転方向不明	在地

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
SD42 かわらけ集中地点	80	土師質土器 かわらけ	(11.3)	3.2	(6.8)	ABDIM	浅黄橙 7.5YR-8/4	B	40%	内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	81	土師質土器 かわらけ	10.9	3.1	6.3	DM	灰白 7.5YR-8/2	A	50%	ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	82	土師質土器 かわらけ	(10.8)	3.1	(5.8)	DM	にぶい黄橙 10YR-7/4	A	40%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	83	土師質土器 かわらけ	(7.6)	1.8	4.9	DIM	橙 2.5YR-6/6 にぶい橙 5YR-7/4	A	70%	底部厚い、ロクロ左回転	在地
SD42 かわらけ集中地点	84	土師質土器 かわらけ	(7.8)	2.0	(5.2)	ABDIK	橙 5YR-7/6	B	30%	小型、ロクロ回転方向不明	在地
SD42 かわらけ集中地点	85	土師質土器 かわらけ	10.5	3.1	4.4	DJMN	外面：浅黄橙 7.5YR-8/3 内面：灰白 7.5YR-8/2	B	70%	外面：板目状圧痕、底部を除き墨？が塗られる 内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ右回転	古河公方系 口縁部に 2 ヶ所油煙の痕
SD42 かわらけ集中地点	86	土師質土器 かわらけ	(11.6)	3.3	(4.8)	ABDIM	橙 2.5YR-7/6	B	20%	体部厚い、ロクロ回転方向不明	在地
SD42 かわらけ集中地点	87	瓦質土器 焙烙	(37.0)	6.1	(33.0)	ABIJ	外面：褐灰 7.5YR-4/1 内面：灰褐 7.5YR-6/2	B	20%	内面：体部中央稜をもつ、内耳 1 ヶ所残存	在地 外面スス付着
SD42 かわらけ集中地点	88	瓦質土器 焙烙	(37.6)	5.9	(34.0)	BEIJM	外面：黒褐 5YR-3/1 内面：浅黄橙 7.5YR-8/3	B	10%	内面：体部中央下稜をもつ	在地 外面スス付着
SD42 かわらけ集中地点	89	瓦質土器 土鍋	(35.0)	(10.4)	-	DIM	黒褐 2.5Y-3/1	B	口縁部 20%	外面：口唇部外側に突出 内面：頸部稜をもつ、内耳 1 ヶ所残存	在地 外面スス付着
SD42 かわらけ集中地点	90	瓦質土器 擂鉢	(21.8)	(4.3)	-	ABDIM	外面：褐灰 10YR-5/1 内面：灰白 10YR-7/1	B	口縁部 10%	外面：指頭痕 内面：下方から口唇部まで磨れている	在地
SD42 かわらけ集中地点	91	磁器 青磁碗	-	(2.3)	(5.2)	ABI	灰オリーブ 5Y-6/2 灰白 5Y-7/2	B	底部 60%	高台内無釉	龍泉窯系蓮弁文碗
SD42 かわらけ集中地点	92	磁器 白磁皿	(7.8)	(1.7)	-	DM	灰白 10YR-8/1	B	口縁部 5%	体部緩やかに内湾	中国 白磁皿 B 群
SD42 かわらけ集中地点	93	陶器 盤類	-	-	-	ABIM	外面：にぶい黄橙 10YR-7/2 内面：褐灰 10YR-6/1	B	体部片	内外面：上方灰釉 外面：ロクロ痕顕著	瀬戸美濃系 古瀬戸後期
SD42 かわらけ集中地点	94	瓦質土器 擂鉢	(30.0)	(4.6)	-	ABM	外面：灰 N-6/ 内面：上方灰白 2.5Y-7/1 下方灰 N-4/1	B	口縁部 5%	外面：横方向の工具痕 内面：磨れている	在地
SD42 かわらけ集中地点	95	陶器 甕	-	-	-	ADGHMN	赤褐 2.5YR-4/6	B	胴部片	内面：輪積痕	常滑系
SD42 かわらけ集中地点	96	瓦 丸瓦	最大長 (15.3)	最大幅 (12.3)	最大厚 3.4	ABEIM	凸面：にぶい橙 7.5YR-7/4 凹面：黄褐 10YR-5/6	B	破片	重量 560 g 凹面：布目痕、吊り紐痕	在地
SD42 かわらけ集中地点	97	瓦 平瓦	最大長 (12.3)	最大幅 (8.7)	最大厚 2.3	ABM	凸面：にぶい橙 7.5YR-7/4 凹面：褐灰 7.5YR-6/1	B	破片	重量 310 g 凸面：縄叩き 凹面：縦ナデ	在地
SD42 かわらけ集中地点	98	瓦 平瓦	最大長 (9.9)	最大幅 (8.8)	最大厚 1.9	AEM	凸面：灰褐 5YR-6/2 凹面：褐灰 5YR-6/1	B	破片	重量 170.6 g 凸面：粗い縄叩き 凹面：指ナデ	在地
SD42 かわらけ集中地点	99	瓦 平瓦	最大長 (11.1)	最大幅 (9.6)	最大厚 2.1	ABEJM	凸面：にぶい橙 7.5YR-6/4 凹面：橙 7.5YR-7/6	B	破片	重量 240 g 凸面：粗い縄叩き 凹面：指ナデ	在地
SD42 かわらけ集中地点	100	瓦 平瓦	最大長 (7.7)	最大幅 (11.3)	最大厚 2.4	ABIM	褐灰 7.5YR-6/1	B	破片	重量 300 g 凸面：粗い縄叩き 凹面：指ナデ	在地
SD42 かわらけ集中地点	101	瓦 平瓦	最大長 (13.0)	最大幅 (9.9)	最大厚 2.0	ABEM	凸面：灰褐 5YR-6/2 凹面：褐灰 5YR-6/1	B	破片	重量 260 g 凸面：縄叩き 凹面：指ナデ	在地
SD42 かわらけ集中地点	102	瓦 平瓦	最大長 (18.5)	最大幅 (10.9)	最大厚 2.6	ABEMN	凸面：浅黄橙 7.5YR-8/4 褐灰 7.5YR-6/1 凹面：にぶい橙 7.5YR-7/4 褐灰 7.5YR-5/1	B	破片	重量 700 g 凸面：弧状圧迫痕、縄叩き痕わずかに残る 凹面：縦ナデ	在地
SD42 かわらけ集中地点	103	瓦 平瓦	最大長 (10.4)	最大幅 (14.4)	最大厚 2.8	ABEIJM	凸面：浅黄橙 7.5YR-8/4 灰白N -7/ 凹面：にぶい橙 7.5YR-7/4	B	破片	重量 350 g 凸面：櫛目・縦ナデ 凹面：弧状圧迫痕	在地
SD42 かわらけ集中地点	104	瓦 平瓦	最大長 (6.8)	最大幅 (12.9)	最大厚 1.9	ABEM	凸面：浅黄橙 7.5YR-8/3 凹面：明褐灰 7.5YR-7/1 浅黄橙 7.5YR-8/3	B	破片	重量 192 g 凸面：粗い縄叩き、糸切り痕 凹面：指ナデ	在地
SD42 かわらけ集中地点	105	瓦 平瓦	最大長 (15.5)	最大幅 (12.2)	最大厚 2.6	ABEJM	凸面：浅黄橙 7.5YR-8/4 凹面：明褐灰 7.5YR-7/1	B	破片	重量 590 g 凸面：粗い縄叩き 凹面：指ナデ	在地
SD42 かわらけ集中地点	106	瓦 平瓦	最大長 (17.6)	最大幅 (4.9)	最大厚 2.0	ABEIM	凸面：明褐灰 7.5YR-7/2 凹面：灰褐 7.5YR-6/2	B	破片	重量 210 g 凸面：粗い縄叩き 凹面：指ナデ	在地
SD42 かわらけ集中地点	107	瓦 平瓦	最大長 (6.6)	最大幅 (7.6)	最大厚 2.1	ABEIM	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	破片	重量 90.6 g 凸面：平行叩き又は櫛目 凹面：指ナデ	在地
SD42 かわらけ集中地点	108	石製品 板石塔婆	最大長 (10.5)　最大幅 (10.1)　最大厚 1.4　重さ 260 g						破片	碑面：阿弥陀三尊種子と思われ、主尊蓮台の左下に勢至（サク）種子の一部が残る	

６　土坑

土坑は、各調査区を通じて総数 46 基検出した。土坑は規模から大小さまざまなものが多く、平面プランについても円形、楕円形、方形、長方形など多様なプランを呈するものがあった。規模は最大 2.5 m～最小１m程度の長軸を測り、深さは 0.1 m～１m程度である。

１割程度の土坑から遺物の検出があり、弥生土器甕・壺、土師器甕・甑、須恵器などの片口鉢、土鍋、からの細片のみであった。

それ以外の土坑からの遺物の出土はなく、重複関係にある遺構からの大まかな時期判断のみで、特定は困難である。

主要な土坑についてここに注視すると、第２、４、６号土坑はいずれもＡ区から検出し、第４号土坑は大部分が調査区域外であるが、楕円形、不整円形を呈するものと推定できる。深さも同程度であることから、同時期の土坑と考えられる。

第５号土坑はＡ区から検出し、長軸で 1.8 m、深さ 0.4 mを測る、楕円形の平面プランである。やや北側に落ち込みをもち、その底部からは弥生土器鉢、土師器甕片（未掲載）が検出された。時期は不明である。

第 11 号土坑はＣ区から検出し、長軸で 1.7 m、深さ 0.3 mを測り、第 29、30 号溝跡、第 10 号土坑を切る、平面プランが長方形の遺構である。主軸は正確に南北軸を指す。北側底部付近からは 10 ～ 15 ㎝大の礫が複数集中して検出された。出土遺物は土師器坏が１点のみ検出した。

第 12 号土坑はＣ区から検出し、長軸で 2.19 m、深さは 0.8 mを測り、第１号掘立柱建物跡第２号ピットに切られ、第 30、32 号溝跡を切っている。楕円形、もしくは隅丸方形の平面プランであり、底部はほぼ平坦である。長軸方向がほぼ南北軸を指し、出土遺物は土師質土器や、片口鉢、五輪塔などであり、出土遺物から 15 世紀後半と考えられる。

第 13 号土坑はＤ区から検出し、長軸で 2.5 m、深さ 0.1 mを測り、一部が調査区域外であるが、長方形の平面プランである。深さは浅いものの、主軸はほぼ南北方向を指す。遺物の検出がないため詳細は不明だが、時期は、中世以降と考えられる。

第 16 号土坑はＤ区から検出し、長軸 1.7 m、深さが 0.3 mを測り、第 38、54 号溝跡を切っていた。平面プランは長方形で、深さは浅いが、古墳時代後期に属する土師器甕・甑、14 世紀後半から 15 世紀前半に属する片口鉢や土鍋が検出した。底部付近に土師器の遺物が集中していることから古墳時代後期に帰属する遺構と推定できる。

第 17 号土坑はＤ区から検出し、長軸 2.0 m、深さが 0.4 mを測り、第 35 号溝跡に切られ、第４号井戸跡を切っていた。円形の平面プランで、底は平坦で、壁は傾斜する。

第 22 号土坑はＤ区から検出し、長軸 1.2 m、深さが 0.3 mを測り、第６号方形周溝墓の南周溝、第 39 号溝跡を切っていた。楕円形の平面プランを呈し、底は平坦で、壁は垂直である。第１、２層中から底部穿孔を有する弥生土器壺が検出したことから、第６号方形周溝墓との関係が疑われる。

第 23 号土坑はＤ区から検出し、検出長軸 1.4 m、深さが 0.5 mを測り、一部が調査区域外である。平面プランは円形で、底は平坦で、壁面はやや垂直である。底部には粘質の覆土のピット状の落ち込みがある。

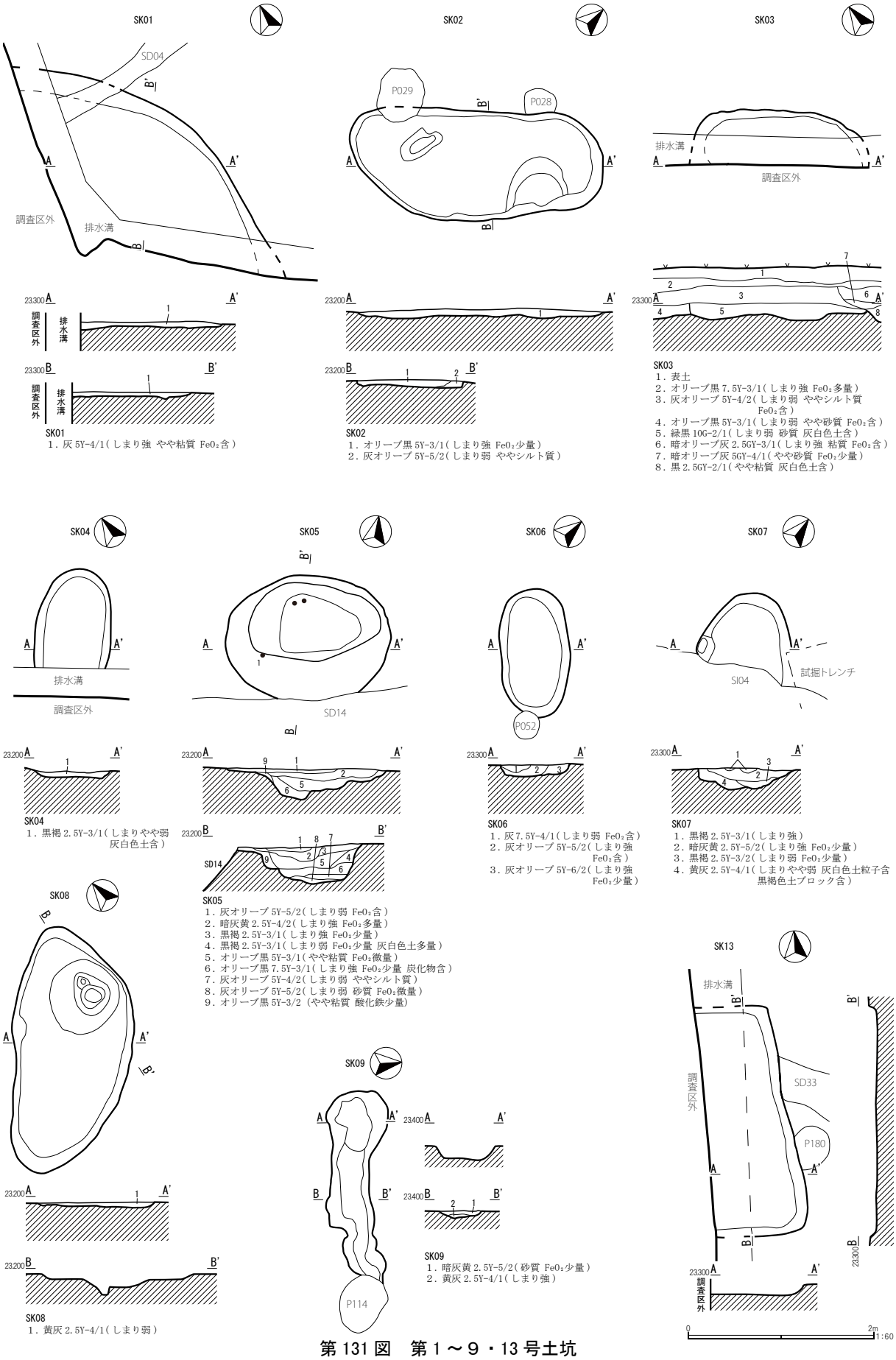
第 35 号土坑はＤ区から検出し、長軸 2.3 m、深さが 0.7 mを測り、第４９号溝跡を切っていた。平面

プランは円形であり、底部はレンズ状に窪み、壁面はほぼ垂直である。一度掘り直されており、南に平面プランが楕円形で、深さ 1.0 mの落ち込みをもつ。出土遺物は、弥生土器甕、須恵器甕、椀型滓、木製品が検出された。第 49 号溝跡との重複関係から本遺構は８世紀後半以降と考えられる。

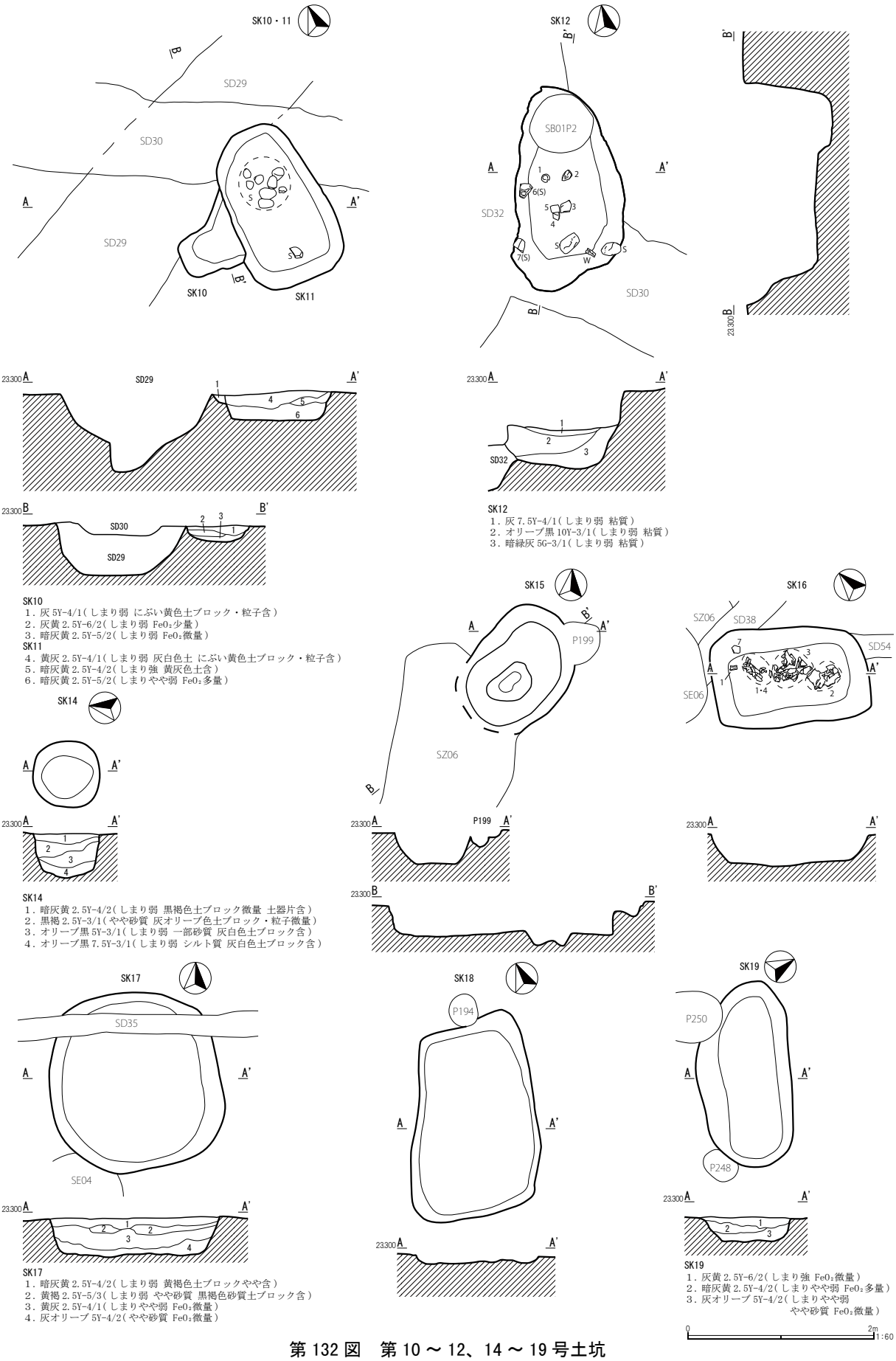
以下、紙面の都合上から、土坑の特徴等について一覧表で掲載をする。（第 131 ～ 137 図・第 23、24 表）

第 23 表　土坑一覧表（第 131 ～ 137 図）

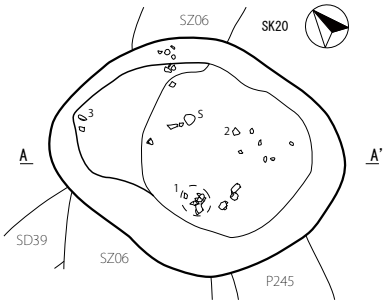
No.	位置	平面形状	長軸×短軸×深さ (m)	主な出土遺物	重複関係 (新旧)	備考
1	B-3	楕円形	(2.09) × (1.83) × 0.08		SD04	
2	C-3	楕円形	2.73 × 1.19 × 0.08		P028、P029	
3	C-4	楕円形	1.78 × (0.29) × 0.19			
4	C-4	楕円形	(1.07) × 0.82 × 0.07			
5	E-5	楕円形	1.78 × (1.35) × 0.40	弥生土器鉢、土師器甕	SD14	
6	E-4	楕円形	1.38 × 0.75 × 0.13		P052	
7	E・F-4	楕円形	(0.80) × 0.91 × 0.23		SI04	
8	O・P-11	楕円形	2.66 × 1.23 × 0.06	骨（被熱痕有）未掲載		
9	P-13	不整楕円形	(1.99) × 0.42 × 0.08		P114	
10	P-13	不整楕円形	(0.66) × 0.52 × 0.17		SD29、SK11	
11	P-13	楕円形	1.75 × 1.02 × 0.32	土師器坏	SD29、SD30、SK10	
12	Q-14	楕円形	2.19 × 1.18 × 0.79	瓦質土器片口鉢、板碑（未掲載）	SD30、SD32、SB01P2	
13	R-15	長方形	2.50 × (0.86) × 0.08		SD33、P180	
14	S-14・15	円形	0.72 × 0.71 × 0.42			
15	S-15	楕円形	1.44 × 1.05 × 0.46		SZ06、P199	
16	S-16	長方形	1.68 × 1.06 × 0.34	土師器甕	SD38、SD54	
17	S-15	円形	1.91 × 1.83 × 0.38		SD35、SE04	
18	S-15	長方形	2.05 × 1.27 × 0.11		P194	
19	T-15	楕円形	1.99 × 1.03 × 0.27		P248、P250	
20	T-16	楕円形	2.29 × 1.77 × 0.39	須恵器坏、甕、土錘	SZ06、SD39、P245	
21	S・T-16	楕円形	(1.13) × 1.25 × 0.24		SZ06、SE08	
22	S-16	楕円形	1.20 × 0.91 × 0.30	弥生土器壺	SZ06、SD39	
23	U-16	円形	(1.37) × 1.64 × 0.51			
24	T-16	不整楕円形	1.52 × 1.12 × 0.41		SZ07、SD42、P257	
25	U-16	楕円形	1.91 × 1.27 × 0.43	かわらけ (未掲載)	SZ07	
26	T・U-16	楕円形	1.32 × 1.09 × 0.36			
27	U-17	円形	0.87 × 0.84 × 0.09			
28	U-17	楕円形	1.11 × 1.04 × 0.30	土師器坏	SD44	
29	U-17	楕円形	1.39 × 1.07 × 0.44		SD47	
30	T・U-17	楕円形	1.46 × 1.34 × 0.08		SD48	
31	U-17・18	楕円形	1.56 × 1.03 × 0.11		P274	
32	V-17	楕円形	1.35 × (0.75) × 0.26		SD47、P278	
33	V-17	楕円形	(1.47) × 0.95 × 0.06		SD47	
34	V-17	楕円形	1.20 × 1.02 × 0.40	土師器坏	P288	
35	V-17・18	円形	2.31 × 2.11 × (0.67)	弥生土器甕、須恵器甕、椀形滓、木製品	SD49	
36	V-18	楕円形	1.81 × 1.28 × 0.19		SZ08、P294、P295、P296	
37	W-18	楕円形	1.44 × 1.27 × 0.08			
38	W-19	正方形	1.03 × 0.98 × 0.11			
39	Y-20	長方形	1.80 × 1.47 × 0.17		P328	
40	AE-28	長方形	1.89 × 1.44 × 0.11		SK41、P370、P371、P372	
41	AE-28	楕円形	1.08 × 0.98 × 0.11		SK40	
42	AF-28	楕円形	(0.91) × 0.82 × 0.13			
43	AG-29	円形	(0.87) × 0.89 × 0.96		SD70	
44	AF-29	楕円形	0.94 × 0.71 × 0.06			
45	AG-30	楕円形	1.94 × 1.34 × 0.07		SD75、SK46	
46	AG-30	円形	2.39 × (1.66) × 0.07		SK45	

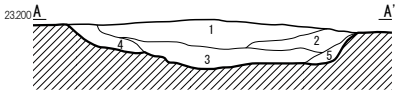


第 131 図　第 1 ～ 9 ・ 13 号土坑

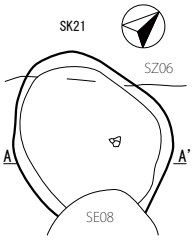


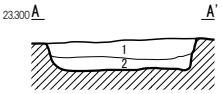
第 132 図　第 10 ～ 12、14 ～ 19 号土坑



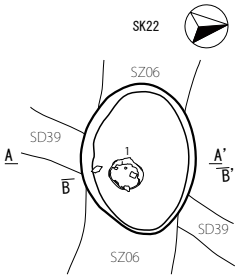


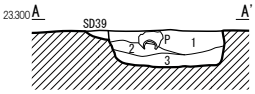
SK20
1．オリーブ黒 10Y-3/1(しまり強 にぶい黄色土ブロック多量)
2．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや弱 にぶい黄色土ブロック多量)
3．黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 灰白色土ブロック含)
4．灰黄褐 10YR-4/2(しまり弱 FeO_x少量 にぶい黄色土含
灰白色土ブロック含)
5．灰黄褐 10YR-4/2(しまり強 粘質)

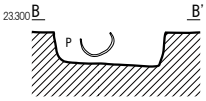




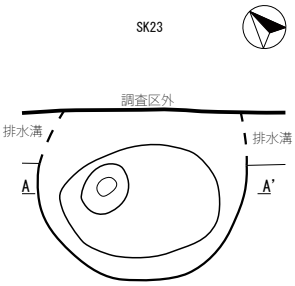
SK21
1．黄灰 2.5Y-4/1(しまり強 FeO_x含)
2．暗灰黄 2.5Y-5/2(しまりやや弱 FeO_x微量
黒褐色土粒子微量)

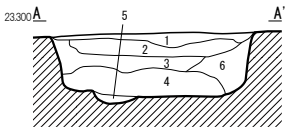




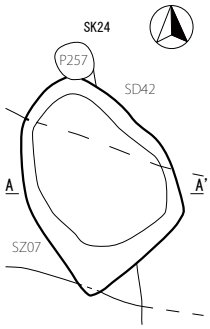


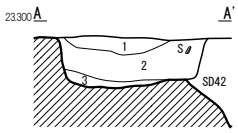
SK22
1．黄褐 2.5Y-5/3(しまり強 FeO_x含
黄褐色土ブロック・粒子微量)
2．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや強 FeO_x微量)
3．オリーブ黒 7.5Y-3/2(しまりやや弱 一部砂質)



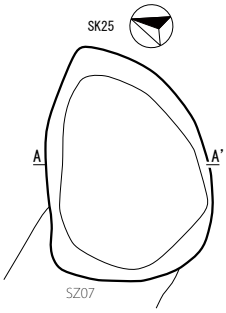


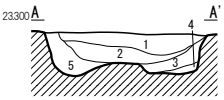
SK23
1．暗灰黄 2.5Y-5/2(しまり強 FeO_x微量)
2．にぶい黄 2.5Y-6/3(しまり弱 やや砂質
黒褐色土ブロック・粒子含)
3．黒褐 2.5Y-3/1(しまり強 やや粘質 灰白色土粒子微量)
4．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 やや砂質 FeO_x微量)
5．オリーブ黒 7.5Y-3/1(粘質)
6．オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや弱 わずかに粘質 FeO_x微量
黒褐色土ブロック・粒子含)



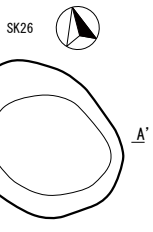


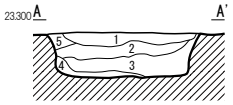
SK24
1．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや弱 FeO_x微量)
2．黒 2.5GY-2/1(しまり強 FeO_x多量
黄灰色砂質土一部含)
3．オリーブ黒 10Y-3/1(しまりやや弱
やや粘質 一部シルト質)



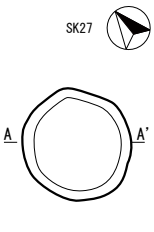


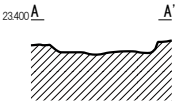
SK25
1．灰黄褐 10YR-4/2(しまりやや弱 黒褐色土粒子含)
2．オリーブ黒 5Y-3/1(しまり弱 やや砂質 FeO_x微量)
3．灰 5Y-4/1(しまり弱)
4．灰 7.5Y-4/1(しまり弱 やや砂質)
5．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 砂質 FeO_x微量)

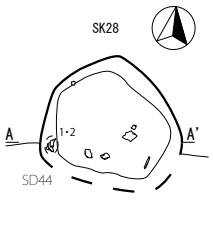


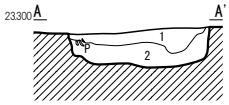


SK26
1．暗灰黄 2.5Y-5/2(しまり強 FeO_x多量)
2．黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 やや砂質)
3．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 灰白色土ブロック微量)
4．灰オリーブ 7.5Y-4/2(しまり弱 砂質 FeO_x含)
5．オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまり強 粘質)

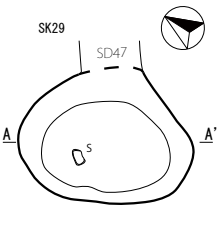


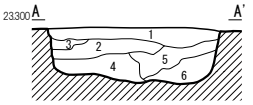




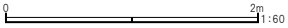


SK28
1．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 土器片含
炭化物微量)
2．オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまり弱 炭化物含
土器片含 焼土含)

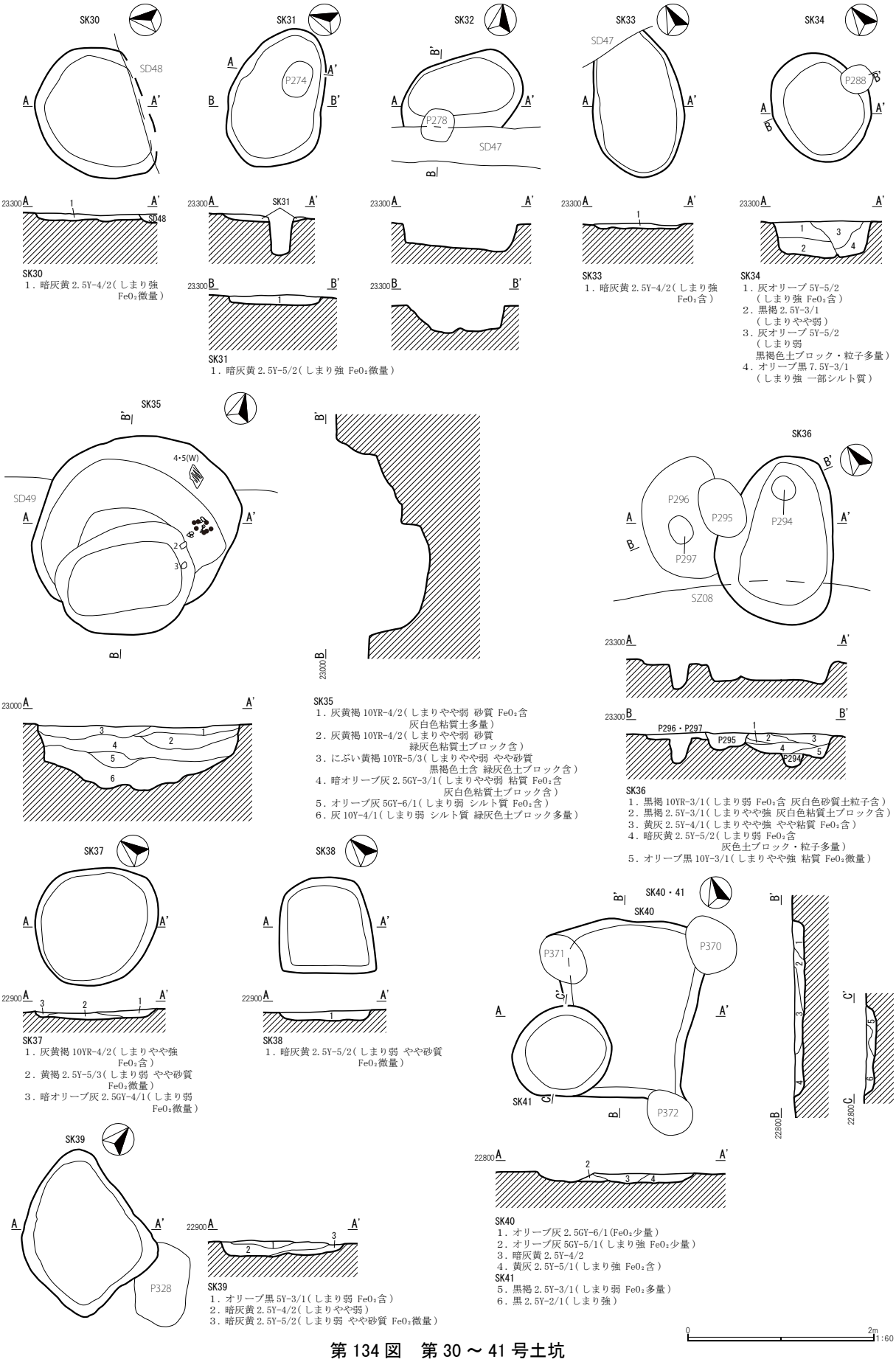




SK29
1．オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや強 FeO_x含
にぶい黄色土ブロック一部含)
2．灰オリーブ 5Y-4/2(しまり弱 灰白色土ブロック含)
3．オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまり弱 粘質)
4．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 やや砂質
黒褐色土粒子含)
5．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 シルト質
灰色粘質土ブロック一部含)
6．オリーブ褐 2.5Y-4/3(しまり弱 シルト質)



第 133 図　第 20 ～ 29 号土坑



SK30
1．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまり強 FeO_x微量）

SK31
1．暗灰黄 2.5Y-5/2（しまり強 FeO_x微量）

SK33
1．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまり強 FeO_x含）

SK34
1．灰オリーブ 5Y-5/2
（しまり強 FeO_x含）
2．黒褐 2.5Y-3/1
（しまりやや弱）
3．灰オリーブ 5Y-5/2
（しまり弱
黒褐色土ブロック・粒子多量）
4．オリーブ黒 7.5Y-3/1
（しまり強 一部シルト質）

SK35
1．灰黄褐 10YR-4/2（しまりやや弱 砂質 FeO_x含
灰白色粘質土多量）
2．灰黄褐 10YR-4/2（しまりやや弱 砂質
緑灰色粘質土ブロック含）
3．にぶい黄褐 10YR-5/3（しまりやや弱 やや砂質
黒褐色土含 緑灰色土ブロック含）
4．暗オリーブ灰 2.5GY-3/1（しまりやや弱 粘質 FeO_x含
灰白色粘質土ブロック含）
5．オリーブ灰 5GY-6/1（しまり弱 シルト質 FeO_x含）
6．灰 10Y-4/1（しまり弱 シルト質 緑灰色土ブロック多量）

SK36
1．黒褐 10YR-3/1（しまり弱 FeO_x含 灰白色砂質土粒子含）
2．黒褐 2.5Y-3/1（しまりやや強 灰白色粘質土ブロック含）
3．黄灰 2.5Y-4/1（しまりやや強 やや粘質 FeO_x含）
4．暗灰黄 2.5Y-5/2（しまり弱 FeO_x含
灰色土ブロック・粒子多量）
5．オリーブ黒 10Y-3/1（しまりやや強 粘質 FeO_x微量）

SK37
1．灰黄褐 10YR-4/2（しまりやや強 FeO_x含）
2．黄褐 2.5Y-5/3（しまり弱 やや砂質 FeO_x微量）
3．暗オリーブ灰 2.5GY-4/1（しまり弱 FeO_x微量）

SK38
1．暗灰黄 2.5Y-5/2（しまり弱 やや砂質 FeO_x微量）

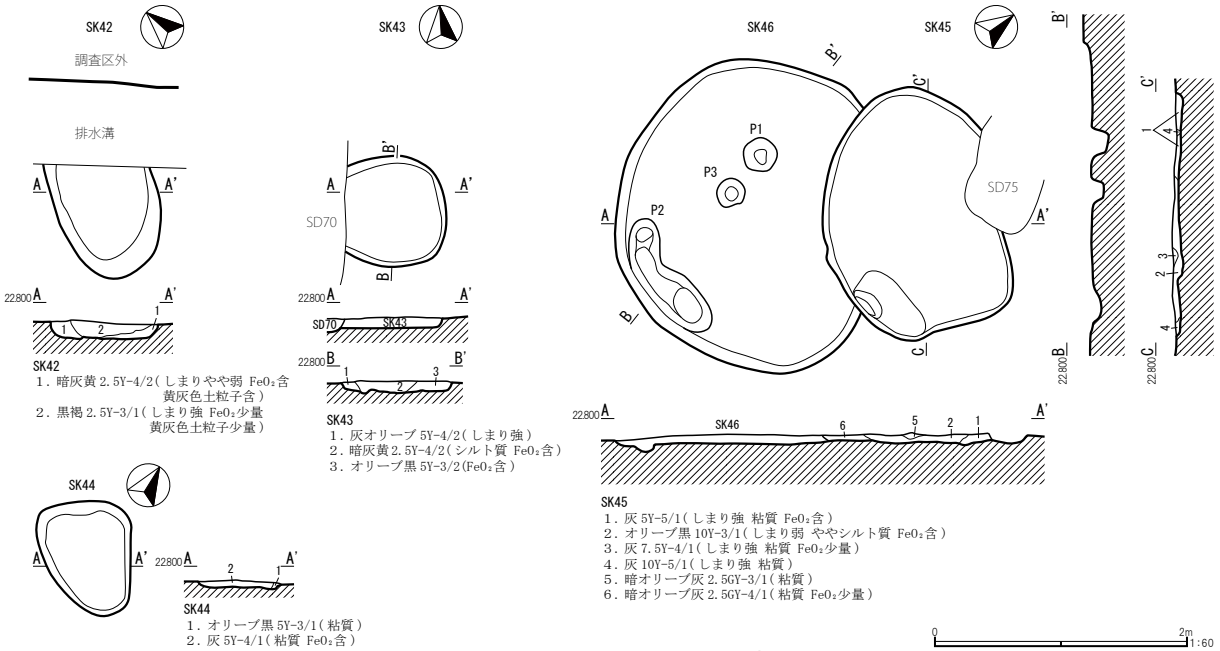
SK40
1．オリーブ灰 2.5GY-6/1（FeO_x少量）
2．オリーブ灰 5GY-5/1（しまり強 FeO_x少量）
3．暗灰黄 2.5Y-4/2
4．黄灰 2.5Y-5/1（しまり強 FeO_x含）

SK41
5．黒褐 2.5Y-3/1（しまり弱 FeO_x多量）
6．黒 2.5Y-2/1（しまり強）

SK39
1．オリーブ黒 5Y-3/1（しまり弱 FeO_x含）
2．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまりやや弱）
3．暗灰黄 2.5Y-5/2（しまり弱 やや砂質 FeO_x微量）

0 2m 1:60

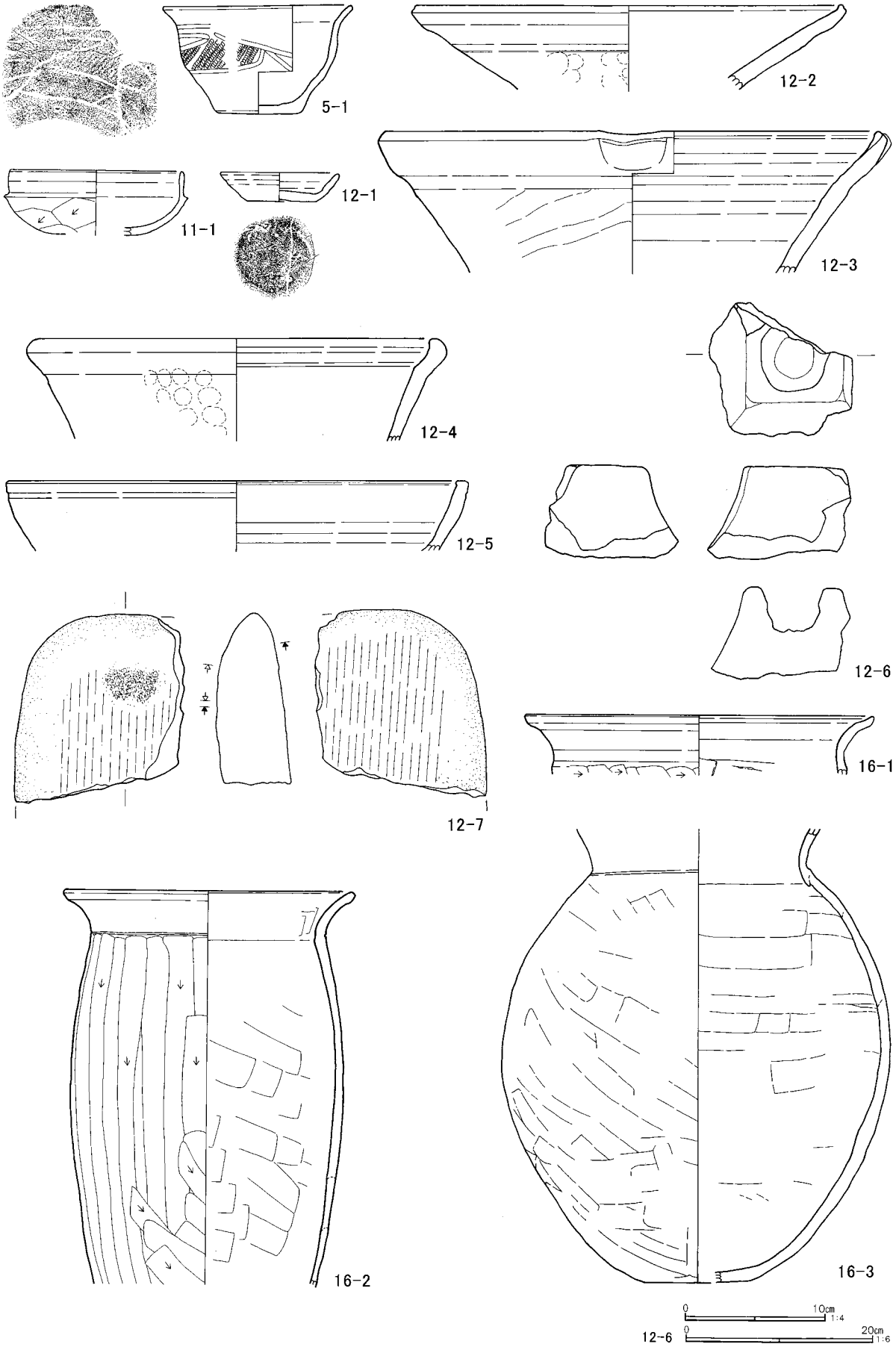
第 134 図　第 30 ～ 41 号土坑



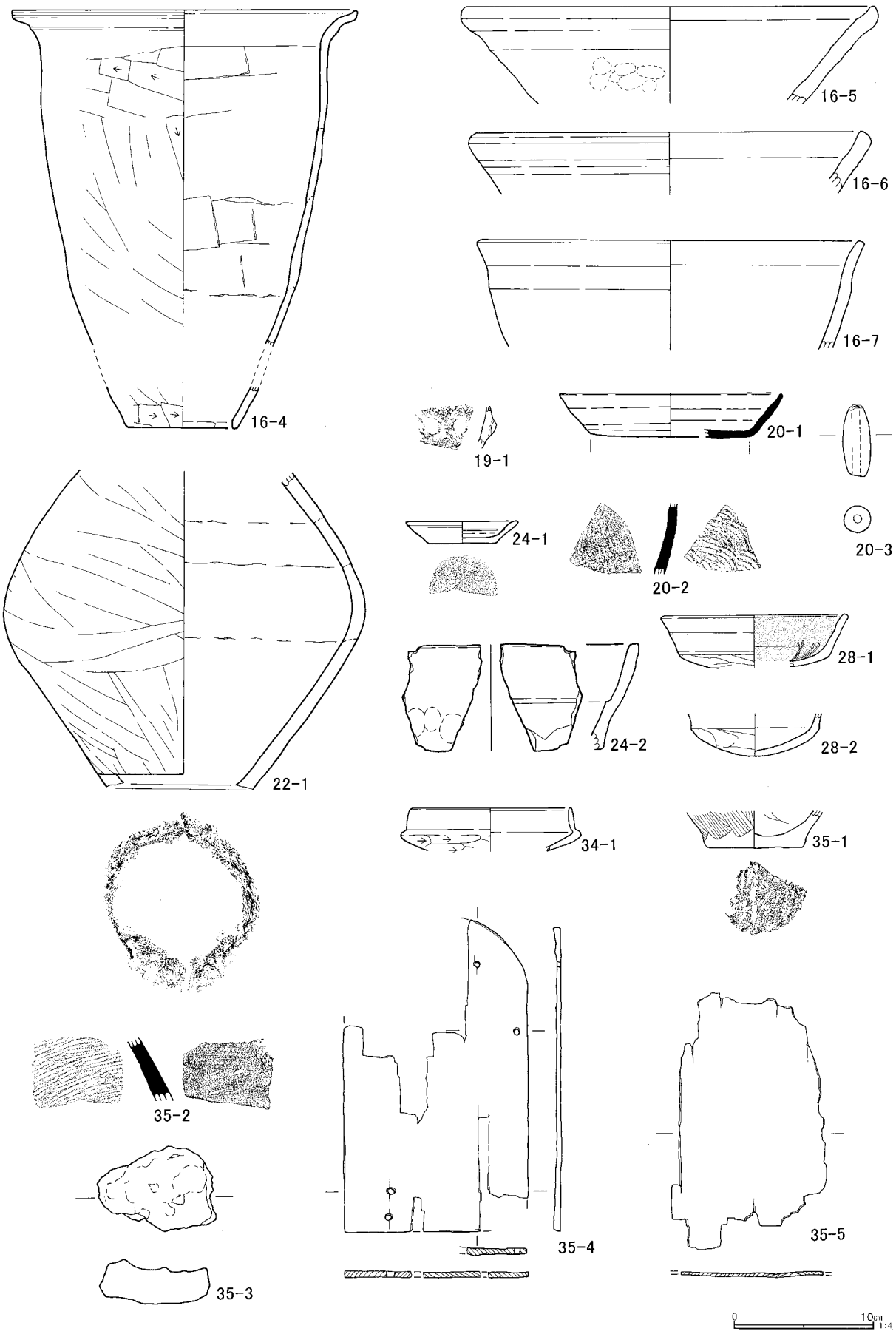
第 135 図　第 42 ～ 46 号土坑

第 24 表　土坑出土遺物観察表(1)（第 136、137 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
5-1	弥生土器 鉢	(13.4)	7.7	5.9	ABK	にぶい褐 7.5YR-6/3	B	60%	外面：ヘラ描沈線の菱形文内に LR 単節縄文を充塡	変形工字文の流れをくむ南御山Ⅱ式期に近い
11-1	土師器 坏	(12.2)	(4.6)	-	ABEIJM	橙 7.5YR-7/6	B	口縁～底部 45%	外面：底部ヘラケズリ 内面：摩耗のため調整痕不明	坏身模倣坏
12-1	土師質土器 かわらけ	8.5	2.0	5.0	ABDIMN	橙 2.5YR-6/8	B	90%	ロクロ左回転	在地 胎土に金雲母多量含む
12-2	瓦質土器 片口鉢	(30.2)	(6.0)	-	ABHIM	褐灰 10YR-5/1	B	口縁～体部 40%	外面：口縁部強いヨコナデ	在地
12-3	瓦質土器 片口鉢	(35.0)	(10.0)	-	BMN	褐灰 5YR-6/1	A	口縁～体部 20%	外面：口縁部強いヨコナデ、下方斜め方向ヨコナデ 内面：ロクロ痕、注ぎ口 1 ヶ所	在地
12-4	瓦質土器 土鍋	(30.0)	(7.3)	-	IMN	灰 5Y-5/5 オリーブ黒 5Y-3/1	B	口縁～体部 15%	外面：指頭痕	在地 外面スス付着
12-5	瓦質土器 火鉢	(33.0)	(4.6)	-	ABEIJM	外面：褐灰 7.5YR-4/1 内面：褐灰 10YR-6/1	B	口縁部 10%	丸火鉢	在地 外面スス付着
12-6	石製品 五輪塔 火輪	高さ 9.9　幅 15.5　奥行 14.3　重さ 1150 g						60%	ホゾ穴有	凝灰岩
12-7	石器 磨石	最大長 (12.3)　最大幅 (11.6)　最大厚 4.9　重さ 1320 g						30%	両面に摩耗痕著しく、片面に敲打痕	安山岩 両面スス付着
16-1	土師器 甕	(24.8)	(4.2)	-	ABDIKM	橙 5YR-7/6	B	口縁～頸部片	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
16-2	土師器 甕	(20.5)	(28.2)	-	ADIM	にぶい橙 2.5YR-6/4 橙 5YR-7/6	A	口縁～胴部下半片	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
16-3	土師器 甕	-	(32.6)	7.6	ABDIJMN	橙 5YR-6/8	B	口縁～底部 70%	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
16-4	土師器 甑	(24.8)	(30.0)	(8.0)	ABDMN	橙 5YR-6/6	B	口縁～胴部下半 40%	単孔 外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
16-5	瓦質土器 片口鉢	(30.0)	(7.0)	-	BIM	外面：灰白 2.5Y-7/1 灰 N-4/ 内面：暗灰 N-3/	A	口縁～体部 5%	外面：口縁部に強いヨコナデ、指頭痕 内面：磨れている	在地
16-6	瓦質土器 片口鉢	(29.0)	(4.3)	-	EJMN	褐灰 10YR-6/1	B	口縁～体部 5%	外面：ロクロ痕 内面：口縁部くぼむ	在地
16-7	瓦質土器 土鍋	(28.0)	(7.9)	-	ABJMN	外面：黒 10YR-1.7/1 内面：浅黄橙 7.5YR-8/3	B	口縁～胴部 5%	内外面：摩耗顕著で調整痕不明	在地
19-1	弥生土器 壺	-	-	-	ABIKL	外面：明赤褐 2.5YR-5/6 内面：赤黒 2.5YR-2/1	B	胴部片	外面：隆帯にヘラ状工具先端による押圧刻み	
20-1	須恵器 坏	16.0	3.2	(11.4)	ABEGL	灰白 10YR-7/1	B	口縁～底部 40%	糸切り離し後底部全面を回転ヘラケズリ	末野産



第 136 図　土坑出土遺物(1)



第 137 図　土坑出土遺物(2)

第 24 表　土坑出土遺物観察表(2)（第 136、137 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
20-2	須恵器 甕	-	-	-	ABMN	外面：灰 N-6/ 内面：灰 N-5/	B	胴部片	外面：タタキ 内面：アテ具痕	末野産
20-3	土製品 土錘	最大長 5.1　最大幅 1.9　孔径　0.6　重さ 20.9 g						完形	外面：縦位ヘラケズリ	
22-1	弥生土器 壺	-	(22.8)	-	ABDMN	外面：橙 5YR-6/8 内面：浅黄橙 7.5YR-8/3	B	胴部 40%	底部穿孔 内外面：ヘラナデ	
24-1	土師質土器 かわらけ	(8.0)	1.6	5.0	ABDIM	橙 5YR-6/6	B	40%	内外面：体部沈線が巡る ロクロ回転方向不明	在地 金雲母含む
24-2	瓦質土器 ほうろく	-	-	-	ABI	外面：褐灰 7.5YR-5/1 内面：灰 N-6/	B	口縁～底部片	外面：指頭痕 内面：中位稜をもつ	在地 外面スス付着
28-1	土師器 坏	(13.0)	(3.7)	-	AJM	外面：明赤褐 2.5YR-5/6 内面：黒褐 7.5YR-3/1	B	30%	外面：底部ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ	有段口縁 内面黒色処理
28-2	土師器 坏	-	(3.0)	-	ABJM	灰褐 7.5YR-4/2	B	底部 20%	外面：底部ヘラケズリ	
34-1	土師器 坏	11.4	(3.1)	-	ABDIM	外面:にぶい橙 7.5YR-6/4 内面：灰黄褐 10YR-6/2	B	口縁～底部片	外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	坏身模倣坏
35-1	弥生土器 甕	-	(2.6)	(7.0)	ABEJM	褐灰 5YR-4/1	B	底部 30%	外面：ハケ目、底部木葉痕 内面：ヘラナデ	
35-2	須恵器 甕	-	-	-	ABDFGIL	褐灰 7.5YR-5/1	B	胴部片	外面：平行タタキ	南比企産
35-3	椀形滓	最大長 6.2　最大幅 8.7　最大厚 2.8　重さ 210 g						完形	炉底に接した面は細かい発泡が顕著	
35-4	木製品 不明	残存長 (22.3)　最大幅 13.3　最大厚 0.3 ～ 0.5						半分欠損	縁は丁寧に面取りが施される、 径 3mm ほどの円孔が 4 ヶ所穿たれる 形状は板草履に近いが木取りが柾目なので別物とみられる	
35-5	木製品 不明	残存長 (18.3)　最大幅 (11.1)　最大厚 0.2 ～ 0.3						一部残存	槍鉋状の工具で丁寧に削った薄板 前述の SK35-4 と同一個体の可能性有	

7　井戸跡

第１号井戸跡（第 138 図）

Ｏ－ 13 グリッドから検出した。重複する遺構は検出されていない。

本遺構は主体部が検出されたが、暗渠埋設の攪乱により破壊を受けていた。

平面形は楕円形で、規模は、長軸 1.00 m、短軸 0.80 m、深さは 0.39 m以上である。なお、井筒部分の直径は 0.64 mであった。

断面は暗渠からの湧水のため観察できず、不明である。

出土遺物は、検出されなかった。

第２号井戸跡（第 138、140 図）

Ｒ・Ｓ－ 14 グリッドから検出した。重複する遺構は検出されていない。

平面形は楕円形で、規模は、長軸 1.47 m、短軸 1.42 m、深さは 1.02 mである。底面は径 0.96 mの舟底状を呈している。

壁面の立ち上がりは鋭角な傾斜をもつ。

断面観察は、崩落の危険があるため、測量できなかった。

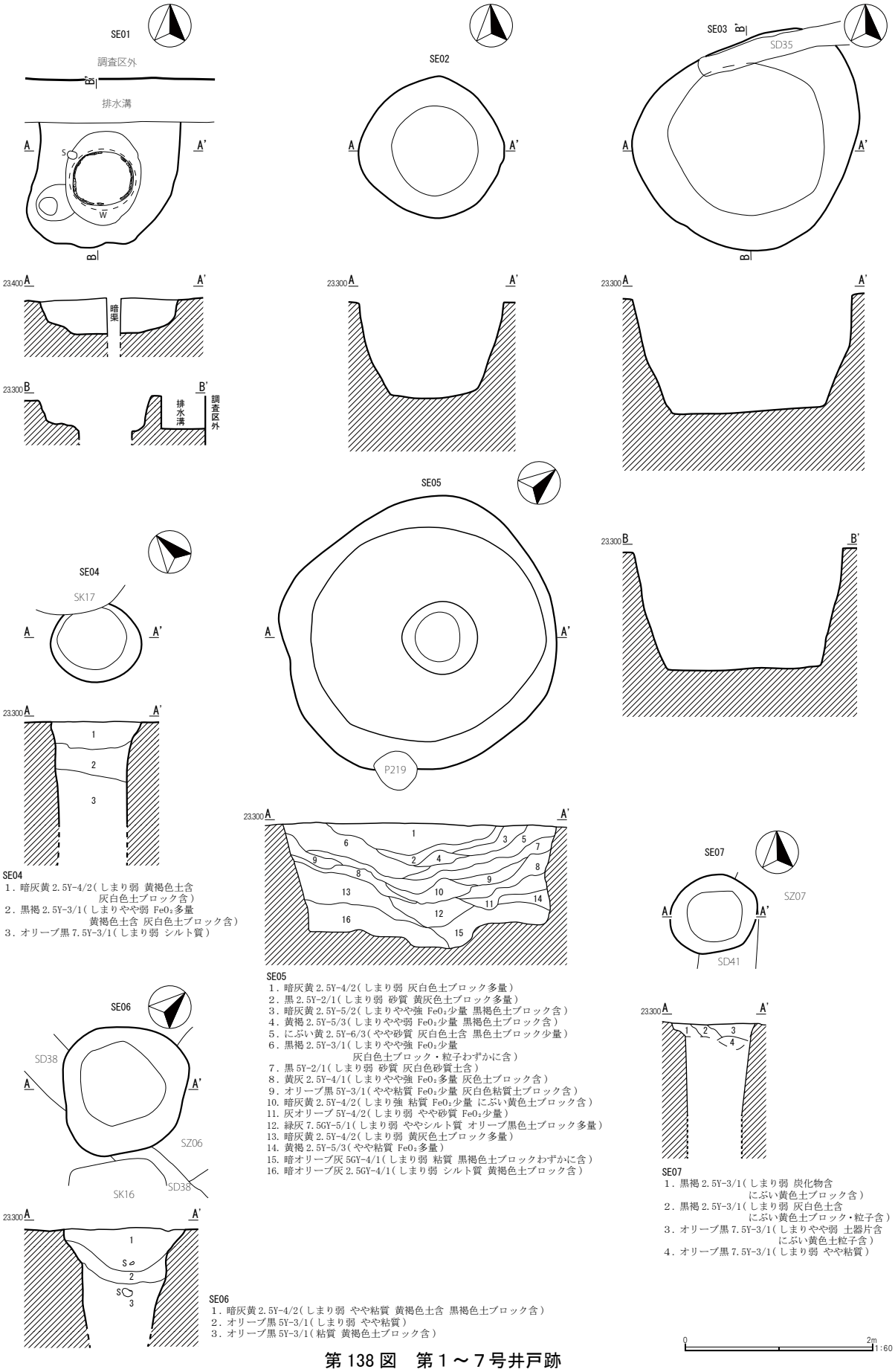
出土遺物は、弥生土器甕、瀬戸美濃花瓶が検出された。

時期は出土遺物から 15 世紀前半と考えられる。

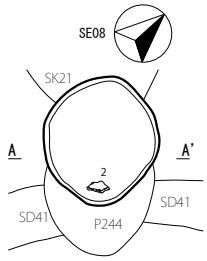
第３号井戸跡（第 138、140 図）

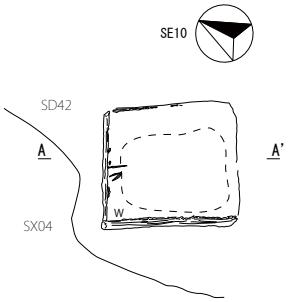
Ｓ－ 15 グリッドから検出した。第 35 号溝跡と重複関係にあり、第 35 号溝跡に切られる。

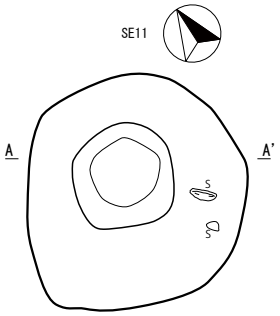
平面形は楕円形で、規模は、長軸 2.50 m、短軸 2.17 m、深さは 1.23 mである。底面は径 1.66 mで

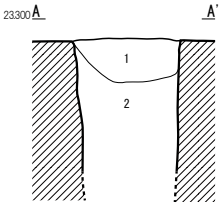


第 138 図　第１～７号井戸跡

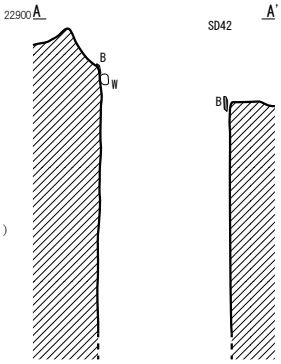


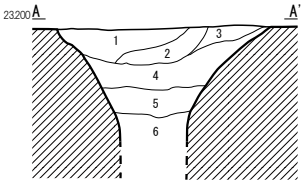




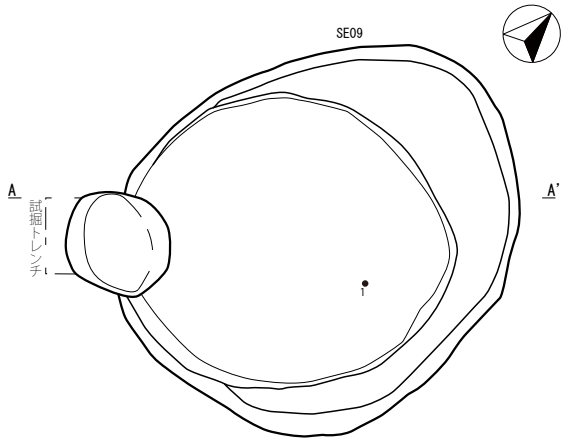


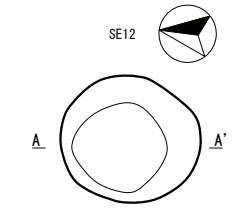
SE08
1．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまり弱 にぶい黄 灰白色土ブロック含）
2．黒褐 2.5Y-3/2（しまり弱 粘質 黄褐色土ブロック含）

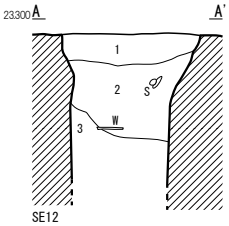




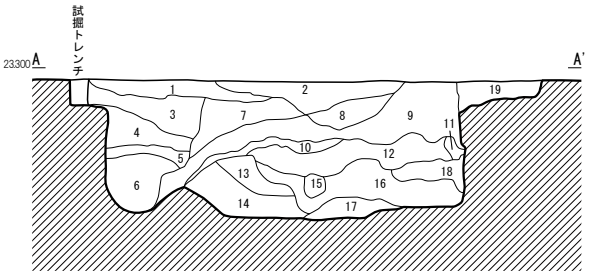
SE11
1．黒褐 2.5Y-3/1（しまり弱 FeO_2微量 灰白色土ブロック含
赤褐色土粒子含）
2．黄褐 2.5Y-5/3（しまり弱 暗オリーブ灰色土ブロック・粒子多量）
3．黒褐 2.5Y-3/1（しまり弱 やや砂質）
4．オリーブ黒 7.5Y-3/1（しまり弱 やや粘質
にぶい黄色粘質土ブロック含）
5．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまり弱 灰白色土含 赤褐色土含
黒褐色土ブロック・粒子含）
6．オリーブ黒 10Y-3/1（しまり弱 にぶい黄色土ブロック多量）



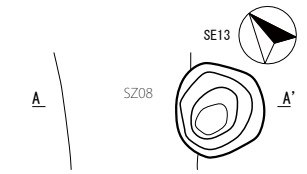


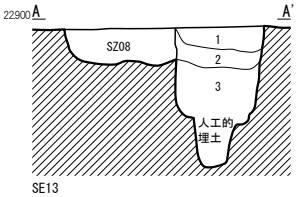


SE12
1．暗オリーブ灰 5GY-4/1（しまりやや弱 ややシルト質）
2．灰白 5Y-7/2（しまり）
3．オリーブ黒 7.5Y-3/2（しまりやや弱 砂質）



SE09
1．黄灰 2.5Y-4/1（しまり弱）
2．にぶい黄 2.5Y-6/3（しまり弱 FeO_2少量 灰白色土ブロック多量）
3．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまり弱 FeO_2少量 灰白色土ブロック少量）
4．灰オリーブ 5Y-4/2（しまり弱 やや砂質）
5．黄褐 2.5Y-5/3（しまり弱 砂質）
6．灰 7.5Y-4/1（しまり弱 砂質）
7．オリーブ黒 5Y-3/1（しまりやや弱 FeO_2少量 黄灰色砂質土ブロック含）
8．黒褐 2.5Y-3/1（しまりやや弱 黄灰色砂質土ブロック含）
9．オリーブ黒 7.5Y-3/1（しまりやや弱 黄灰色砂質土ブロック含 にぶい黄色土ブロック含）
10．褐灰 10YR-4/1（しまり強 粘質）
11．黄褐 2.5Y-5/4（しまり弱 砂質）
12．オリーブ黒 5Y-3/1（しまりやや強 FeO_2多量）
13．にぶい黄褐 10YR-4/3（しまり弱 FeO_2多量）
14．オリーブ黒 5Y-3/1（しまりやや強 FeO_2多量 灰白色土粒子多量）
15．オリーブ黒 5Y-3/2（しまりやや強 FeO_2多量 灰白色土粒子多量）
16．黒褐 10Y-3/1（しまりやや強 やや粘質 にぶい黄色土ブロック含）
17．オリーブ褐 2.5Y-4/3（しまり弱 黒褐色土粒子含）





SE13
1．灰黄褐 10YR-4/2（しまりやや強 FeO_2多量）
2．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまり弱 やや粘質）
3．黒褐 2.5Y-3/1（しまりかなり弱 やや粘質 一部砂質）

0 2m
1:60

第 139 図　第８～ 13 号井戸跡

平坦である。

壁面の立ち上がりは鋭角な傾斜をもつ。

断面観察は、崩落の危険があるため、測量できなかった。

出土遺物は、瓦質土器片口鉢、常滑陶器壺、砥石が検出された。

時期は出土遺物から15世紀前半と考えられる。

第４号井戸跡（第138、140図）

Ｓ－15グリッドから検出した。第17号土坑と重複関係にあり、第17号土坑に切られていた。

平面形は楕円形で、規模は、長軸0.97ｍ、短軸0.75ｍ、深さは1.12ｍ以上である。底部は崩落の危険性から確認していない。

壁面の立ち上がりは鋭角な傾斜をもつ。

断面観察から覆土は水平堆積であることから、自然堆積によるものと推定される。

出土遺物は、硯１点のみで、第２層付近での検出であった。

時期は不明である。

第５号井戸跡（第138、140図）

Ｓ－15･16グリッドから検出した。第219号ピットと重複関係にあり、第219号ピットに切られていた。

平面形は円形で、規模は、長軸1.34ｍ、短軸1.30ｍ、深さは1.08ｍ以上である。底部は崩落の危険性から確認していない。

壁面の立ち上がりは一部に崩落があるものの、垂直であった。

断面観察から覆土は水平堆積であることから、自然堆積によるものと推定される。

遺物は、土師質土器や青磁碗、石製品が検出された。

時期は、出土遺物から中世以降と考えられる。

第６号井戸跡（第138図）

Ｓ－16グリッドから検出した。第６号方形周溝墓と第38号溝跡と重複関係にあり、重複するすべての遺構を切っていた。

平面形は楕円形で、規模は、長軸1.34ｍ、短1.30ｍ、深さは1.08ｍ以上である。底部は平坦で、中央部に落ち込みをもつ。底部は崩落の危険性から確認していない。

壁面の立ち上がりは一部に崩落があるものの、垂直である。

断面観察から覆土は一部にレンズ状の堆積が認められるが、中層付近から人工的に埋められたものであることが推定できる。

出土遺物は検出されなかった。

第７号井戸跡（第138図）

Ｔ－16グリッドから検出した。第７号方形周溝墓、第41号溝跡と重複関係にあり、重複するいずれの遺構も切っていた。

平面形は楕円形で、規模は、長軸0.96ｍ、短軸0.81ｍ、深さは1.42ｍ以上である。底部は平坦で、中央部に落ち込みをもつ。底部は崩落の危険性から確認していない。

壁面の立ち上がりは一部に崩落があるものの、垂直である。

断面観察から覆土は一部にレンズ状の堆積が認められる。

出土遺物は検出されなかった。

第８号井戸跡（第 139、140 図）

Ｓ・Ｔ－16 グリッドから検出した。第 21 号土坑、第 244 号ピットと重複関係にあり、いずれの遺構も切っていた。

平面形はいびつな楕円形で、規模は、長軸 3.38 m、短軸 2.85 m、深さは 1.00 m以上である。底部は崩落の危険性から確認していない。

壁面の立ち上がりはやや鋭角な傾斜をもつ。

断面観察から覆土はレンズ状の堆積が認められる。

出土遺物は、土師質土器、瓦が検出された。

時期は、出土遺物から 16 世紀前半と推定される。

第９号井戸跡（第 139、140 図）

Ｔ－16・17 グリッドから検出した。重複関係にある遺構はない。

平面形は楕円形で、規模は、長軸 3.38 m、短軸 2.85 m、深さは 1.00 mである。

壁面の立ち上がりは垂直である。

断面観察から覆土はレンズ状の堆積が認められる。

本遺構南端部には再度掘りなおした規模の小さい井戸跡（直径 0.89 m）が確認できる。

遺物は須恵器甕、人歯が１点のみ検出された。

出土遺物が少量であることから、時期不明である。

第 10 号井戸跡（第 139 図）

Ｔ－15 グリッドから検出した。第 42 号溝跡と重複関係にあり、第 42 号溝跡の底部に検出された。

平面形は方形の井戸枠で、規模は、長軸 1.07 m、短軸 0.97 m、深さは 0.73 m以上である。第 42 号溝跡内に位置することから、掘り下げは危険であるため底部の確認はしていない。

壁面の立ち上がりは垂直である。上部は四面に木枠を設け、内部壁面を竹で囲っている。

出土遺物は検出されなかった。

時期は、井戸枠形状から中世に帰属するものと推定される。

第 11 号井戸跡（第 139、140 図）

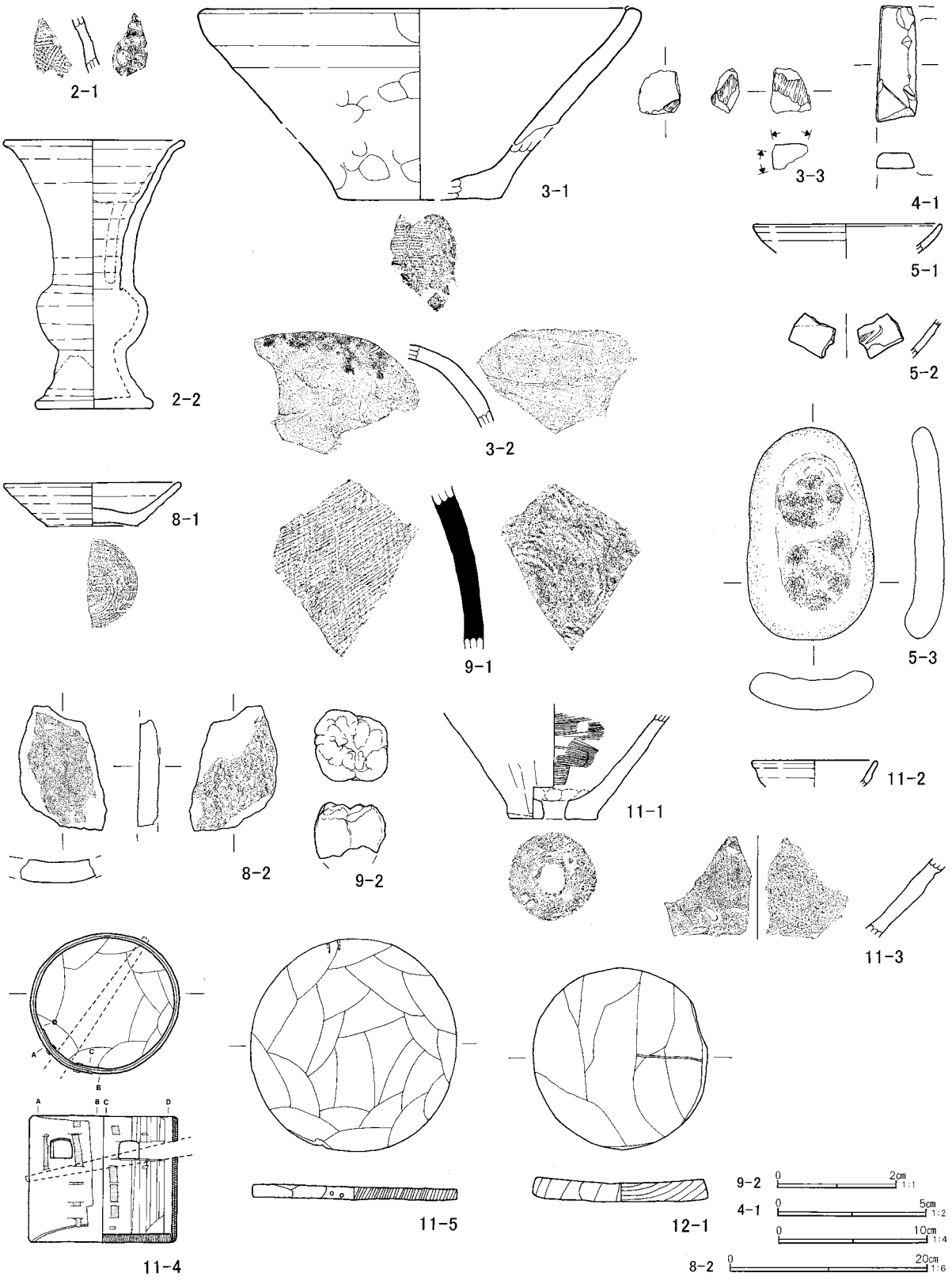
Ｔ－16 グリッドから検出した。本遺構と重複関係にある遺構はない。

平面形はいびつな楕円形で、規模は、長軸 1.85 m、短軸 1.75 m、深さは 0.91 m以上である。底部は崩落の危険性から確認していない。

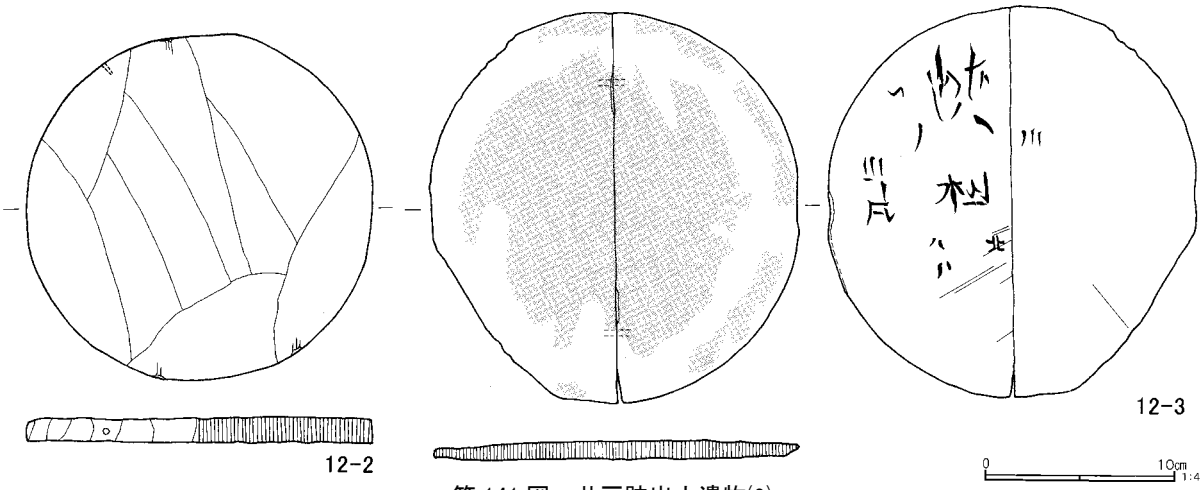
断面観察から漏斗状の掘り方であり、底部に向かって壁面は窄まっていく。覆土はレンズ状の堆積が認められる。

出土遺物は弥生土器甑、陶器片口鉢、かわらけ、木製品曲物・柄杓が検出された。

時期は、中世と推定される。



第 140 図　井戸跡出土遺物(1)



第 141 図　井戸跡出土遺物(2)

第 12 号井戸跡（第 139 ～ 141 図）

Ｔ－ 17 グリッドから検出した。本遺構と重複関係にある遺構はない。

平面形はいびつな楕円形で、規模は、長軸 1.12 ｍ、短軸 1.0 ｍ、深さは 1.45 ｍ以上である。底部は崩落の危険性から確認していない。

断面観察から漏斗状の掘り方であり、底部に向かって壁面は窄まっていく。覆土はレンズ状の堆積が認められる。

出土遺物は木製品曲物の底板が検出された。

時期は、中世と推定される。

第 13 号井戸跡（第 139 図）

Ｖ－ 19 グリッドから検出した。第８号方形周溝墓と重複関係にあり、第８号方形周溝墓を切っていた。

平面形は楕円形で、規模は、長軸 0.74 ｍ、短軸 0.74 ｍ、深さは 1.11 ｍである。

断面観察から壁面は垂直であり、上層の３層は自然堆積によるもので、それ以下は人工的な埋土であった。

出土遺物は検出されなかった。

第 25 表　井戸跡出土遺物観察表（第 140、141 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
2-1	弥生土器 甕	-	-	-	ABIJM	外面：褐灰 10YR-5/1 内面：にぶい黄橙 10YR-7/3	B	胴部片	地文は LR 単節縄文 櫛描による平行沈線・斜格子文	
2-2	陶器 尊式花瓶	12.3	18.1	8.0	ABGM	灰白 7.5Y-7/2 浅黄 2.5Y-8/3	A	98%	五個に割れたものを漆継ぎ 内面：胴部から口縁灰釉	瀬戸美濃系 古瀬後Ⅱ期
3-1	瓦質土器 片口鉢	(30.0)	(13.0)	(11.0)	ABIJM	外面：灰黄褐 10YR-6/2 内面：灰白 10YR-7/1	B	口縁～底部 5%	外面：口縁部に強いヨコナデ、断面方形に近い	在地
3-2	陶器 壺	-	-	-	ABM	灰赤 2.5YR-4/2	B	肩部片		常滑系 上方自然釉
3-3	石器 砥石	最大長 2.8　最大幅 2.3　最大厚 1.5　重さ 17.3 g						破片	遺存する 2 面に砥痕	凝灰岩
4-1	硯	最大長 3.8　最大幅 1.25　最大厚 0.55　重さ 5.4 g						硯縁のみで大部分が欠損 5%	外面：硯縁丁寧な研磨	玄昌石（粘板岩）
5-1	土師質土器 かわらけ	(12.8)	(2.0)	-	BI	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	10%	粉っぽい	在地
5-2	磁器 青磁碗	-	-	-	B	外面：黄灰 2.5Y-6/1 内外面:明オリーブ灰 2.5GY-7/1	B	胴部片	内面：櫛状工具で花文	龍泉窯系Ⅰ２類
5-3	石製品 凹石	最大長 14.3　最大幅 8.4　最大厚 1.9　重さ 360 g						完形	表面皿状に窪み、中に多数の敲打痕	砂岩
8-1	土師質土器 かわらけ	(12.0)	2.9	(6.2)	ABDM	にぶい橙 5YR-6/4	B	45%	外面：板目状圧痕有 内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ左回転	在地
8-2	瓦 平瓦	最大長 (11.1)	最大幅 (7.8)	最大厚 2.1	ABDIM	凸面：橙 7.5YR-6/6 凹面：橙 7.5YR-7/6	B	破片	重量 260 g 凸面：不明 凹面：指ナデ	在地
9-1	須恵器 甕	-	-	-	AMN	灰 N-4/1	B	胴部片	外面：平行タタキ 内面：半円状のアテ具痕	末野産
9-2	人歯	最大長 (0.93)　最大幅 1.18　最大厚 1.16　重さ 3.2 g						―	下顎の第２大臼歯 白いエナメル質の歯冠が残り、歯根は欠損	
11-1	弥生土器 甑	-	(7.2)	5.9	AIM	外面：褐灰 10YR-6/1 内面：灰白 10YR-8/2	A	胴下部～底部片	焼成前穿孔の径 16㎜の単孔 外面：ヘラケズリ 内面：ハケ目状ヘラナデ、孔口付近指頭圧痕	
11-2	土師質土器 かわらけ	(8.4)	(1.8)	-	ABDIM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	10%	粉っぽい	在地
11-3	陶器 片口鉢	-	-	-	AJM	外面：灰 N-5/ 内面：灰白 N-8/	B	体部片		常滑系 片口鉢Ⅱ類
11-4	木製品 曲物 柄杓	器高 8.5　最大径 10.0　側板最厚 0.3　底板最厚 0.6						柄欠損	底板は柾目 薄板を円筒形に２重に巻き、両端の重合せ部分を樺皮紐で綴合せて側板とし、これに底板が付く 側板の綴り合せは２ヶ所で１列外５段綴じと１列内２段綴じ、内面の重合せ部分に側板の木目と直交する縦方向に７条のケビキ 側板重合せ部分の上寄りに方孔をあけ柄孔とし、柄の先端を挿入する孔も貫通している	
11-5	木製品 曲物 底板	最大径 13.8 ～ 14.4　最大厚 1.0						底板のみ	木取は柾目、木釘２ヶ所、表裏面と側面に丁寧なケズリ	
12-1	木製品 曲物 底板	最大径 11.8 ～ 12.2　最大厚 1.3						底板のみ	木取は板目、表裏面と側面に丁寧なケズリ	
12-2	木製品 曲物 底板	最大径 18.1 ～ 18.4　最大厚 1.2						底板のみ	木取は柾目、木釘１ヶ所、表裏面と側面に丁寧なケズリ	
12-3	木製品 曲物 底板	最大径 19.4 ～ 20.5　最大厚 0.9						底板のみ	木取は柾目、半円の板を２ヶ所木目打ちの木釘で接合、底板内面に漆痕、外面に刃物痕と判読不明な墨痕	

8　ピット

ピットは、各調査区を通じて総数 428 基検出した。多くのピットはその性格が判断可能なものはなかったが、一部には柱穴痕の可能性があるものが確認できた。

規模は大小さまざまなものが多く、平面プランについても円形、楕円形、方形など多様なプランを呈するものがあった。

出土遺物は一部のみであり、およそ 21 基のピットから弥生土器壺、土師器坏・甕、須恵器瓶・甕などが検出した。弥生土器の検出はＡ区内のピットに集中しており、南東に進み、Ｅ区からも弥生土器が数基から検出される。それ以外のピットからの遺物の出土はなく、重複関係にある遺構からの大まかな時期判断のみで、特定は困難である。

主なピットを挙げると、第 266 号ピットはＤ区から検出し、楕円形の平面プランをもつ。南端から土師器甑が出土し、底部のみであったが、底部穿孔をもつものであった。

柱穴の可能性のあるものは 24 基あり、第３、114、115、118、132、145、146、148、159、190、196、202、203、205、206、209、222、231、260、261、263、288、308、326 号ピットである。第３号ピットはＡ区から検出し、西から東に傾斜を有する深さ 0.4 ｍの斜め柱穴である。長方形の平面プランの中心

から掘り込まれており、意図して造ったことが窺える。

第118号ピットはC区から検出し、円形の平面プランをもつ。先頂部は崩落により欠損しているが、1.5mの深さで垂直の掘り方であり、断面観察から直径30㎝の柱痕が確認できる。また、覆土の堆積状況はしまりが弱く、木片や異なる粒子、ブロックが多く含まれることから、人工的に埋められたことが推定される。上層付近からは瓦質土器片口鉢、礫（径10～25㎝）数点検出した。

第145号ピット以降は大部分が、E区からの検出である。他の遺構からも判断できるが、C区からE区にかけては中世以降の遺構、遺物が顕著であることから、これらピットについても中世以降の柱穴の可能性が疑われる。

しかし、これらピットは柱穴として判断はできるが、その柱の並びが不明なためそのまま掲載している。以下、紙面の都合上から、ピットの特徴等について一覧表で掲載をする。（第142～151図・第26、27表）

第26表　ピット一覧表(1)（第142～151図）

No.	位置	平面形状	長軸×短軸×深さ(m)	出土遺物	重複関係(新旧)	備考
1	B-2	楕円形	0.26×0.23×0.17			
2	B-2	楕円形	0.24×0.21×0.09			
3	B-2	長方形	0.30×0.21×0.43			柱穴か
4	B-2	楕円形	0.27×0.18×0.12			
5	B-2	楕円形	0.94×0.56×0.08			
6	B-2・3	不整円形	1.06×1.05×0.09			
7	B-3	楕円形	0.39×0.35×0.09			
8	C-2	楕円形	0.42×0.36×0.05			
9	C-2	円形	0.44×0.41×0.07	弥生土器壺細片		
10	C-2	楕円形	0.67×0.52×0.10			
11	C-3	楕円形	0.52×0.37×0.10			
12	C-3	楕円形	0.36×0.35×0.10		SI02	
13	C-3	円形	0.23×0.22×0.21		SI02	
14	C-3	楕円形	0.40×0.31×0.12			
15	C-3	楕円形	0.40×0.30×0.11			
16	C-3	楕円形	0.30×0.27×0.09			
17	C-3	楕円形	0.27×0.22×0.15			
18	C-3	円形	0.31×0.29×0.11			
19	C-3	楕円形	0.31×0.27×0.04			
20	D-3	楕円形	0.62×0.48×0.05			
21	C-3	円形	0.35×0.32×0.09			
22	C・D-3	円形	0.37×0.36×0.06			
23	D-3	楕円形	0.30×0.22×0.08			
24	D-3	楕円形	0.45×0.27×0.07			
25	D-3	楕円形	0.36×0.28×0.05			
26	D-3	楕円形	0.22×0.18×0.10			
27	C-4	楕円形	0.39×0.24×0.11			
28	C-3	円形	(0.27)×0.35×0.18		SK02	
29	C-3	不整楕円形	0.61×0.48×0.19		SK02	
30	D-4	円形	0.34×(0.25)×0.14		SZ02、P031	
31	D-4	楕円形	0.71×0.56×0.12		SZ02、P030	
32	D-4	不整楕円形	0.56×0.39×0.36		SD06	
33	D-4	楕円形	0.27×0.22×0.15			
34	C・D-4	円形	0.29×0.28×0.10			
35	D-4	楕円形	0.37×0.35×0.33			
36	D-4	楕円形	0.32×0.28×0.09			
37	D-4	楕円形	0.36×0.31×0.12			
38	D-4	楕円形	0.56×0.41×0.09			
39	D-4	円形	0.16×0.16×0.09			
40	D-4	円形	(0.15)×0.21×0.07			
41	D-4	円形	0.29×0.27×0.16			
42	D-4	円形	0.31×0.29×0.29	弥生土器壺細片		
43	D-4	円形	0.33×0.33×0.11			
44	D-4	楕円形	0.36×0.34×0.28	弥生土器壺細片		
45	D-4	円形	0.34×0.33×0.26			
46	D-4	楕円形	0.33×0.28×0.14	弥生土器壺細片		
47	D-5	楕円形	0.43×0.35×0.20			
48	E-3	楕円形	0.57×0.37×0.07			
49	E-3・4	楕円形	0.33×0.18×0.12			
50	E-4	円形	0.25×0.25×0.17			
51	E-3	楕円形	0.51×0.30×0.12			
52	E-4	円形	0.30×0.28×0.12		SK06	
53	E-4	楕円形	0.26×0.22×0.12			
54	E-4	楕円形	0.32×0.28×0.05			

第 26 表　ピット一覧表(2)（第 142 ～ 151 図）

No.	位置	平面形状	長軸×短軸×深さ (m)	出土遺物	重複関係 (新旧)	備考
55	E-4	円形	0.25 × 0.22 × 0.18			
56	E-4	楕円形	(0.47) × 0.63 × 0.04		SD11	
57	E-5	楕円形	0.36 × 0.30 × 0.21	弥生土器壺細片	P058	
58	E-5	楕円形	0.22 × 0.16 × 0.12	弥生土器壺細片	P057	
59	E-4	楕円形	0.21 × 0.18 × 0.08			
60	F-4	楕円形	0.39 × 0.32 × 0.17		SI05	
61	F-5	楕円形	0.95 × 0.66 × 0.16		SD14、P062	
62	F-5	楕円形	0.69 × 0.49 × 0.11	弥生土器壺細片	SD14、P061	
63	F-5	楕円形	0.46 × 0.40 × 0.16			
64	F-5	楕円形	0.31 × 0.27 × 0.09			
65	F-5	楕円形	(0.30) × 0.34 × 0.06			
66	F-5	円形	0.38 × 0.37 × 0.10	弥生土器壺細片		
67	E-5	楕円形	0.49 × 0.32 × 0.06			
68	D-3	楕円形	0.56 × 0.47 × 0.08			
69	D-3	円形	0.41 × 0.40 × 0.16			
70	E-4	楕円形	0.56 × 0.24 × 0.16		SI03	
71	F-5	楕円形	0.55 × 0.35 × 0.13			
72	F-5	楕円形	0.43 × 0.39 × 0.28			
73	F・G-5	円形	0.35 × 0.34 × 0.14			
74	M-10	円形	0.82 × 0.78 × 0.39			
75	M-10	不整楕円形	0.87 × 0.61 × 0.15			
76	N-11	円形	0.33 × 0.29 × 0.11			
77	N-11	楕円形	0.16 × 0.14 × 0.10			
78	N-11	楕円形	0.43 × 0.36 × 0.10			
79	N-11	楕円形	0.51 × 0.49 × 0.34			
80	N-11	楕円形	0.68 × 0.51 × 0.03			
81	N-12	楕円形	0.38 × 0.34 × 0.28			
82	N-12	円形	0.37 × 0.36 × 0.19			
83	O-11	楕円形	0.91 × 0.72 × 0.14			
84	O-11	楕円形	0.40 × 0.36 × 0.19		P085	
85	O-11	楕円形	0.33 × 0.27 × 0.08		P084	
86	O-11	楕円形	0.65 × 0.61 × 0.15		NR02	
87	O-11	楕円形	0.33 × 0.28 × 0.03			
88	O-11	円形	0.49 × 0.46 × 0.35			
89	O-11	楕円形	0.37 × 0.32 × 0.16			
90	O-11	楕円形	0.35 × 0.27 × 0.08			
91	O-11	楕円形	0.72 × 0.66 × 0.14		P092	
92	O-11	楕円形	0.43 × 0.36 × 0.08		P091	
93	O-12	楕円形	0.79 × 0.64 × 0.10		P094	
94	O-12	円形	0.71 × 0.67 × 0.28		P093	
95	O-11	楕円形	0.33 × 0.28 × 0.15			
96	O-11・12	楕円形	0.91 × 0.73 × 0.12			
97	O-12	楕円形	0.59 × 0.52 × 0.20			
98	O-12	楕円形	0.54 × 0.43 × 0.11			
99	O-11	楕円形	0.47 × 0.42 × 0.12			
100	P-11	円形	0.43 × 0.42 × 0.11			
101	P-11	円形	0.24 × 0.21 × 0.11			
102	O-11	楕円形	0.35 × 0.30 × 0.09			
103	O-12	円形	0.51 × 0.49 × 0.10			
104	O・P-12	楕円形	0.70 × 0.58 × 0.06			
105	O-12	楕円形	0.34 × 0.31 × 0.14			
106	O-12	楕円形	0.72 × 0.54 × 0.12			
107	O-12	円形	0.33 × 0.29 × 0.14			
108	P-12	円形	(0.28) × 0.38 × 0.18		SD26、P109	
109	P-12	楕円形	0.45 × 0.40 × 0.14		SD26、P108	
110	P-11	長方形	0.87 × 0.31 × 0.04			
111	P-12	円形	0.35 × 0.32 × 0.13			
112	P-12	楕円形	(0.67) × 0.65 × 0.14			
113	P-13	円形	(0.27) × 0.50 × 0.15			
114	P-13	楕円形	0.61 × 0.47 × 0.37		SK09	柱穴か
115	P-13	楕円形	0.63 × 0.52 × 0.44			柱穴か
116	Q-13	楕円形	0.25 × 0.22 × 0.27			
117	Q-13	円形	(0.19) × 0.43 × 0.28			
118	Q-13	円形	0.92 × 0.88 × 1.45	瓦質土器片口鉢		柱穴か
119	R-14	楕円形	(0.33) × 0.24 × 0.21			
120	R-14	円形	0.26 × 0.25 × 0.20			
121	R-14	楕円形	0.36 × 0.33 × 0.27			
122	R-14	円形	0.27 × 0.25 × 0.20			
123	R-14	円形	0.38 × 0.36 × 0.30			
124	R-14	楕円形	0.39 × 0.35 × 0.19			
125	R-14	楕円形	0.46 × 0.43 × 0.30	弥生土器壺		
126	R-14	不整円形	0.46 × 0.45 × 0.33			
127	R-14	楕円形	0.34 × 0.29 × 0.21			
128	R-14	楕円形	0.30 × 0.27 × 0.24			

No.	位置	平面形状	長軸×短軸×深さ (m)	出土遺物	重複関係 (新旧)	備考
129	R・S-14	長方形	0.28 × 0.24 × 0.13			
130	R・S-14	楕円形	0.47 × 0.39 × 0.26			
131	S-14	楕円形	0.73 × 0.25 × 0.18			
132	S-14	楕円形	0.23 × 0.22 × 0.31			柱穴か
133	S-14	楕円形	0.56 × 0.37 × 0.36			
134	S-14	円形	0.28 × 0.28 × 0.20			
135	S-14	円形	0.32 × 0.31 × 0.36	須恵器瓶		
136	S-14	楕円形	0.33 × 0.27 × 0.21			
137	S-14	楕円形	0.29 × 0.21 × 0.23			
138	S-14	円形	0.18 × 0.17 × 0.11			
139	S-14	正方形	0.29 × 0.28 × 0.22			
140	S-14	楕円形	0.42 × 0.34 × 0.15			
141	S-14	楕円形	0.26 × 0.23 × 0.24			
142	S-15	楕円形	0.43 × 0.41 × 0.21			
143	S-14	楕円形	0.36 × 0.27 × 0.26			
144	S-14	円形	0.22 × 0.22 × 0.13	土師器高台坏		
145	S-14	楕円形	0.43 × 0.30 × 0.39			柱穴か
146	S-14	円形	0.34 × 0.32 × 0.29			柱穴か
147	S-14	楕円形	0.24 × 0.21 × 0.10			
148	S-14	円形	0.22 × 0.21 × 0.34			柱穴か
149	S-15	楕円形	0.29 × 0.23 × 0.20			
150	S-15	楕円形	0.24 × 0.18 × 0.15			
151	S-15	楕円形	0.33 × 0.29 × 0.21			
152	S-15	楕円形	0.27 × 0.21 × 0.14			
153	S-15	楕円形	0.38 × 0.29 × 0.25			
154	S-15	楕円形	0.44 × 0.38 × 0.21			
155	S-15	円形	0.31 × 0.29 × 0.22			
156	S-15	楕円形	0.37 × 0.33 × 0.28			
157	S-15	楕円形	0.34 × 0.29 × 0.27			
158	S-15	楕円形	0.26 × 0.23 × 0.08			
159	S-15	楕円形	0.33 × 0.30 × 0.34			柱穴か
160	S-15	楕円形	0.36 × 0.31 × 0.14			
161	S-15	楕円形	0.39 × 0.31 × 0.09			
162	S-15	円形	0.28 × 0.26 × 0.13			
163	S-15	楕円形	0.39 × 0.25 × 0.14		P164	
164	S-15	楕円形	0.37 × 0.31 × 0.24		P163	
165	S-15	楕円形	0.27 × 0.24 × 0.14			
166	S-15	楕円形	0.26 × 0.21 × 0.21			
167	S-15	不整円形	0.31 × 0.31 × 0.14			
168	S-15	楕円形	(0.35) × 0.26 × 0.11		SD35	
169	R・S-15	円形	0.38 × 0.36 × 0.23			
170	R-15	楕円形	0.25 × 0.21 × 0.14			
171	R-15	円形	0.51 × 0.50 × 0.28			
172	R-15	不整円形	0.19 × 0.18 × 0.21			
173	R-15	楕円形	0.19 × 0.15 × 0.21			
174	R-15	楕円形	0.41 × 0.36 × 0.19			
175	R-15	円形	0.28 × 0.26 × 0.09			
176	R-15	楕円形	(0.26) × 0.41 × 0.28			
177	R-15	楕円形	0.27 × 0.23 × 0.28			
178	R-15	円形	0.23 × 0.22 × 0.25			
179	R-15	楕円形	0.35 × 0.31 × 0.23		SD34	
180	R-15	楕円形	(0.42) × 0.41 × 0.08		SK12	
181	R-15	楕円形	0.87 × 0.60 × 0.43		SD34	
182	R-16	不整楕円形	0.46 × 0.22 × 0.16			
183	R-16	楕円形	0.63 × 0.57 × 0.47	土師器甕	SD34	
184	S-15	楕円形	0.27 × 0.24 × 0.16			
185	S-15	楕円形	0.27 × 0.24 × 0.14			
186	S-15	円形	0.36 × 0.36 × 0.18			
187	S-16	楕円形	0.55 × 0.49 × 0.27			
188	S-15	正方形	0.36 × 0.35 × 0.24			
189	S-15	楕円形	0.33 × 0.27 × 0.20			
190	S-15	楕円形	0.31 × 0.25 × 0.37			柱穴か
191	S-15	楕円形	0.30 × 0.26 × 0.17			
192	S-15	楕円形	0.30 × 0.26 × 0.11			
193	S-15	円形	0.36 × 0.33 × 0.27			
194	S-15	楕円形	0.35 × 0.32 × 0.33		SK18	
195	S-15	円形	0.32 × 0.29 × 0.19			
196	S-15	円形	0.46 × 0.44 × 0.53		P197	柱穴か
197	S-15	楕円形	0.45 × 0.40 × 0.33		P196	
198	S-15	円形	0.25 × 0.23 × 0.14			
199	S-15	楕円形	(0.44) × 0.47 × 0.18		SK15	
200	S-15	円形	0.21 × 0.19 × 0.11			
201	S-15	円形	0.19 × 0.18 × 0.07			
202	S-15	楕円形	0.23 × 0.20 × 0.19			柱穴か
203	S-15・16	楕円形	0.24 × 0.22 × 0.22			柱穴か
204	S-16	楕円形	0.87 × 0.62 × 0.34	弥生土器壺		

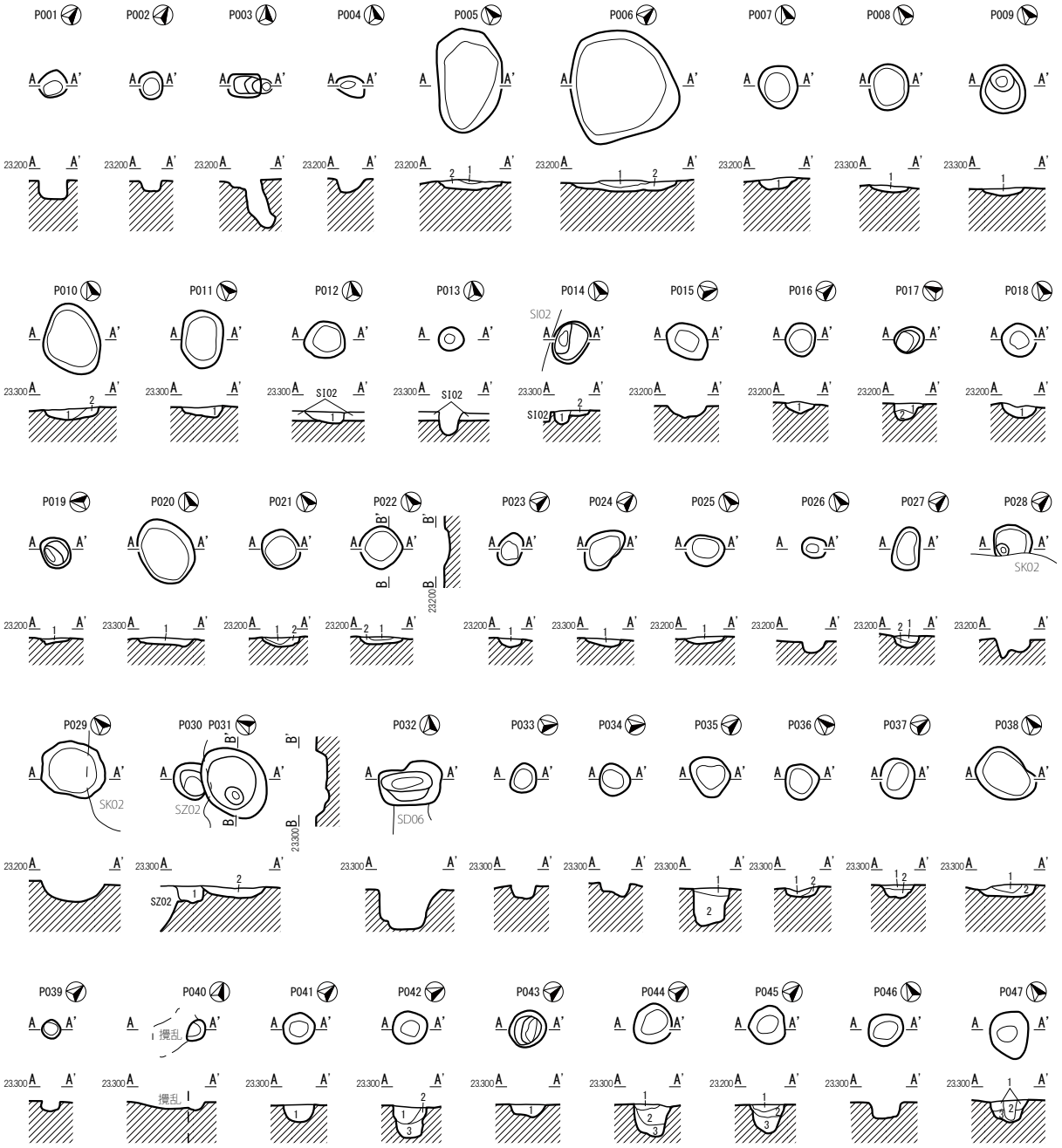
第 26 表　ピット一覧表(3)（第 142 ～ 151 図）

No.	位置	平面形状	長軸×短軸×深さ (m)	出土遺物	重複関係 (新旧)	備考
205	S-15	楕円形	0.42 × 0.36 × 0.36			柱穴か
206	S-15	円形	0.33 × 0.31 × 0.45			柱穴か
207	S-15	円形	(0.34) × 0.67 × 0.06		SD37	
208	S-15	楕円形	0.49 × 0.37 × 0.30			
209	S-15	楕円形	0.19 × 0.18 × 0.26			柱穴か
210	S-15	楕円形	0.32 × 0.21 × 0.05			
211	S-16	円形	0.18 × 0.18 × 0.09			
212	S-16	楕円形	0.26 × 0.16 × 0.12			
213	S-16	円形	0.27 × 0.25 × 0.19			
214	S・T-16	楕円形	0.37 × 0.26 × 0.16	陶器折縁深皿	SD39、SZ06	
215	S-16	楕円形	0.29 × 0.22 × 0.26			
216	S-16	楕円形	0.39 × 0.34 × 0.14			
217	S-16	楕円形	0.27 × 0.24 × 0.15			
218	S-16	楕円形	0.29 × 0.27 × 0.14			
219	S-16	楕円形	0.42 × 0.40 × 0.33		SE05	
220	S-16	楕円形	0.29 × 0.26 × 0.27			
221	S-16	円形	0.17 × 0.16 × 0.06			
222	S-16	楕円形	0.22 × 0.22 × 0.44			柱穴か
223	S-16	円形	0.30 × 0.23 × 0.14			
224	S-16	円形	0.29 × 0.26 × 0.20			
225	S-16	円形	0.21 × 0.20 × 0.29		P226	
226	S-16	楕円形	(0.27) × 0.22 × 0.26		P225	
227	S-16	楕円形	0.36 × 0.33 × 0.25			
228	S-16	円形	0.16 × 0.15 × 0.14			
229	S-16	楕円形	0.26 × 0.23 × 0.24			
230	S-16	楕円形	0.42 × 0.36 × 0.17			
231	S-16	楕円形	0.35 × 0.31 × 0.32			柱穴か
232	S-16	楕円形	0.39 × 0.34 × 0.31			
233	S-16	円形	0.25 × 0.24 × 0.15		SD38	
234	S-16	楕円形	0.36 × 0.18 × 0.15			
235	S-16	楕円形	0.63 × 0.25 × 0.10			
236	S-16	楕円形	0.50 × 0.39 × 0.23			
237	S-16	楕円形	0.41 × 0.36 × 0.19		SD39	
238	S-16	円形	0.27 × 0.25 × 0.18			
239	S-16	円形	0.26 × 0.25 × 0.12			
240	S-16	楕円形	0.88 × 0.77 × 0.41			
241	S-16	不整円形	0.48 × 0.48 × 0.16			
242	S-16	楕円形	0.65 × 0.60 × 0.21			
243	S-16	楕円形	0.44 × 0.34 × 0.12			
244	T-16	楕円形	(0.40) × 0.87 × (0.36)		SE08	
245	T-16	楕円形	(0.98) × 0.76 × 0.35		SK20	
246	T-16	円形	0.21 × 0.19 × 0.21			
247	T-16	円形	0.31 × 0.31 × 0.04			
248	T-15	楕円形	0.39 × (0.27) × 0.11		SK19	
249	T-15	楕円形	0.43 × 0.36 × 0.33	弥生土器鉢ヵ		
250	T-15	楕円形	0.72 × 0.56 × 0.15		SK19	
251	T-15	楕円形	0.83 × 0.64 × 0.23			
252	T-15	円形	0.27 × 0.26 × 0.15			
253	T-15	楕円形	0.39 × 0.32 × 0.17			
254	T-15	楕円形	0.44 × 0.42 × 0.36			
255	T-15	楕円形	0.40 × 0.32 × 0.20			
256	T-16	円形	0.50 × 0.49 × 0.14			
257	T-16	円形	0.30 × 0.29 × 0.30		SD42、SK24	
258	U-16	楕円形	0.36 × 0.28 × 0.07			
259	U-16	楕円形	0.52 × 0.42 × 0.04		SZ07	
260	U-16	楕円形	0.33 × 0.26 × 0.40			柱穴か
261	U-16	楕円形	0.86 × 0.71 × 0.41			柱穴か
262	U-16	楕円形	0.34 × 0.29 × 0.07			
263	U-16	円形	0.40 × 0.38 × 0.60			柱穴か
264	U-16	楕円形	0.32 × 0.28 × 0.22			
265	U-17	楕円形	0.94 × 0.47 × 0.28			
266	U-16・17	楕円形	1.00 × 0.61 × 0.08	土師器甑		
267	U-16・17	楕円形	0.73 × 0.61 × 0.07			
268	T・U-16	楕円形	0.88 × 0.41 × 0.26		SZ07	
269	T-16・17	楕円形	0.49 × 0.40 × 0.06			
270	T-17	楕円形	0.66 × 0.56 × 0.06			
271	U-17	楕円形	0.52 × 0.34 × 0.67			
272	U-17	楕円形	0.81 × 0.31 × 0.11			
273	U-17	円形	0.38 × 0.37 × 0.29		SD48	
274	U-18	楕円形	0.40 × 0.29 × 0.34		SK31	
275	U-18	楕円形	0.80 × 0.66 × 0.36		SD49	
276	U-18	楕円形	0.88 × 0.74 × 0.39			
277	V-17	楕円形	0.40 × 0.33 × 0.40			
278	V-17	楕円形	0.39 × 0.34 × 0.30		SD47、SK32	

No.	位置	平面形状	長軸×短軸×深さ (m)	出土遺物	重複関係 (新旧)	備考
279	V-17	楕円形	0.35 × 0.32 × 0.34			
280	V-17	円形	0.48 × 0.44 × 0.35			
281	U・V-17	楕円形	0.33 × 0.28 × 0.14			
282	V-17	楕円形	0.22 × 0.21 × 0.07			
283	V-17	円形	0.31 × 0.29 × 0.16			
284	V-17	円形	0.22 × 0.22 × 0.09			
285	V-17	楕円形	0.27 × 0.23 × 0.07			
286	V-17	楕円形	0.34 × 0.31 × 0.34			
287	V-17	楕円形	0.33 × 0.26 × 0.23			
288	V-17	楕円形	0.34 × 0.30 × 0.42		SK34	柱穴か
289	V-17	楕円形	0.27 × 0.24 × 0.22			
290	V-17	楕円形	1.61 × 0.75 × 0.36		SD49	
291	V-18	楕円形	0.28 × 0.23 × 0.07			
292	V-18	楕円形	0.36 × 0.30 × 0.08			
293	V-18	円形	0.24 × 0.21 × 0.06			
294	V-18	円形	0.27 × 0.25 × 0.36		SK36	
295	V-18	楕円形	0.66 × 0.48 × 0.18		P296、SK36	
296	V-18	楕円形	1.31 ×（0.65）× 0.06		P295、P297、SK36	
297	V-18	楕円形	0.30 × 0.24 × 0.32		P296	
298	V-18	楕円形	（0.64）× 0.56 × 0.22	須恵器甕	SD49	
299	V-18	楕円形	0.99 × 0.77 × 0.29			
300	V-18	楕円形	0.59 × 0.52 × 0.06		SD50	
301	V-18	楕円形	0.25 × 0.20 × 0.08		SD50	
302	V-18	不整楕円形	1.23 × 0.77 × 0.13	土師器坏・甕	P303	
303	V-18	楕円形	0.47 × 0.38 × 0.26		P302	
304	V-18	楕円形	0.91 ×（0.46）× 0.04		SD50、P305	
305	V-18	楕円形	0.61 × 0.54 × 0.34		P304、SD50	
306	V-18	円形	0.26 × 0.25 × 0.24			
307	V-18	楕円形	0.49 × 0.46 × 0.18		SD53	
308	V-19	楕円形	0.38 × 0.34 × 0.35			柱穴か
309	V-18	楕円形	0.50 × 0.40 × 0.24			
310	V-19	楕円形	0.38 × 0.24 × 0.14			
311	W-18	楕円形	0.47 × 0.41 × 0.46			
312	W-18	楕円形	0.30 × 0.21 × 0.18			
313	W-18	正方形	0.39 × 0.38 × 0.07			
314	W-18	長方形	0.58 × 0.44 × 0.07			
315	V-18	楕円形	0.29 × 0.24 × 0.04			
316	V-19	楕円形	0.79 × 0.61 × 0.03		SZ08	
317	W-19	楕円形	0.58 × 0.46 × 0.17			
318	W-19	円形	0.38 × 0.36 × 0.16			
319	S-16	楕円形	0.39 × 0.24 × 0.12	土師質土器（かわらけ）		
320	Y-19	円形	0.22 × 0.21 × 0.10		P321	
321	Y-19	楕円形	0.46 × 0.26 × 0.32		P320	
322	Y-20	楕円形	0.27 × 0.23 × 0.04			
323	Y-20	楕円形	0.52 × 0.45 × 0.09			
324	Y-20	楕円形	0.33 × 0.24 × 0.13			
325	Y-20	楕円形	1.38 × 0.51 × 0.14			
326	Y-20	楕円形	（0.40）× 0.82 × 0.83	土師質土器（かわらけ）		柱穴か
327	Y-20	楕円形	0.75 × 0.75 × 0.14			
328	Y-20	楕円形	0.88 × 0.58 × 0.07		SK39	
329	Y-20	楕円形	0.48 × 0.44 × 0.21			
330	Y-20	楕円形	0.51 × 0.51 × 0.19			
331	AD-26	楕円形	0.46 × 0.33 × 0.07			
332	AD-26	円形	0.43 × 0.43 × 0.07			
333	AE-26	楕円形	0.29 × 0.24 × 0.09			
334	AD-27	円形	0.31 × 0.31 × 0.10			
335	AD・AE-27	円形	0.60 × 0.58 × 0.09			
336	AD-27	楕円形	0.51 × 0.44 × 0.11			
337	AD-27	楕円形	0.46 × 0.34 × 0.09			
338	AD-27	円形	0.25 × 0.24 × 0.09			
339	AD-27	楕円形	0.26 × 0.22 × 0.10			
340	AD-27	楕円形	0.32 × 0.29 × 0.10			
341	AE-28	楕円形	0.75 × 0.52 × 0.07		SD64	
342	AE-27	楕円形	0.40 × 0.34 × 0.05			
343	AE-27	楕円形	0.48 × 0.42 × 0.09			
344	AE-27	楕円形	0.39 × 0.34 × 0.11			
345	AE-27	楕円形	0.68 × 0.62 × 0.12			
346	AE-27	円形	0.36 × 0.35 × 0.05			
347	AE-27	楕円形	0.32 × 0.22 × 0.06			
348	AE-27	楕円形	0.35 × 0.30 × 0.09			
349	AE-27	楕円形	0.64 × 0.24 × 0.05			
350	AE-27・28	円形	0.29 × 0.27 × 0.10			
351	AE-28	不整楕円形	0.39 × 0.33 × 0.15			
352	AE-28	楕円形	0.31 × 0.27 × 0.13			
353	AE-28	不整円形	0.32 × 0.31 × 0.16		P354	
354	AE-28	楕円形	0.38 × 0.30 × 0.14		P353	

第 26 表　ピット一覧表(4)（第 142 ～ 151 図）

No.	位置	平面形状	長軸×短軸×深さ (m)	出土遺物	重複関係 (新旧)	備考
355	AE-28	楕円形	(0.23) × 0.39 × 0.07		P356	
356	AE-28	楕円形	0.55 × 0.35 × 0.07		P355	
357	AE-28	楕円形	0.48 × 0.39 × 0.08			
358	AF-28	楕円形	0.77 × 0.53 × 0.08			
359	AF-28	楕円形	0.30 × 0.27 × 0.10			
360	AE-28	楕円形	0.59 × 0.41 × 0.13			
361	AE-28	楕円形	0.76 × 0.58 × 0.14			
362	AE-28	楕円形	0.39 × 0.35 × 0.11			
363	AE-28	楕円形	0.25 × 0.21 × 0.10			
364	AE-28	楕円形	1.24 × 0.56 × 0.17			
365	AE-28	楕円形	0.72 × 0.51 × 0.16			
366	AE-28	楕円形	0.50 × 0.33 × 0.12			
367	AE-28	楕円形	0.35 × 0.29 × 0.13			
368	AE-28	楕円形	0.56 × 0.48 × 0.10			
369	AE-28	楕円形	0.34 × 0.31 × 0.13			
370	AE-28	楕円形	0.64 × 0.52 × 0.13		SK40	
371	AE-28	楕円形	0.59 × 0.43 × 0.13		SK40	
372	AE-28	楕円形	0.55 × 0.45 × 0.11		SK40	
373	AE-28	楕円形	0.44 × 0.36 × 0.16			
374	AE-28	円形	0.50 × 0.48 × 0.09			
375	AE-28	円形	0.30 × 0.30 × 0.08			
376	AE-28	楕円形	0.33 × 0.20 × 0.08			
377	AF-27	楕円形	0.41 × 0.28 × 0.13			
378	AF-27	楕円形	0.40 × 0.37 × 0.07			
379	AF-28	円形	0.29 × 0.29 × 0.06		P380	
380	AF-27・28	楕円形	0.90 × 0.31 × 0.08		P379	
381	AF-28	楕円形	0.48 × 0.35 × 0.08			
382	AG-28	楕円形	0.30 × 0.15 × 0.14			
383	AG-28	楕円形	0.14 × 0.11 × 0.06			
384	AF-28	楕円形	0.42 × 0.31 × 0.10			
385	AF-28	楕円形	0.33 × 0.26 × 0.12			
386	AG-28	楕円形	0.47 × 0.28 × 0.10			
387	AG-28	楕円形	0.30 × 0.26 × 0.09			
388	AG-28	楕円形	0.31 × 0.28 × 0.09			
389	AF-28	円形	0.29 × 0.27 × 0.15			
390	AG-28	円形	0.43 × 0.31 × 0.14			
391	AG-28	楕円形	0.30 × 0.28 × 0.05			
392	AG-28	楕円形	0.21 × 0.17 × 0.09			
393	AG-28	楕円形	0.32 × 0.22 × 0.12			
394	AG-28	楕円形	0.37 × 0.25 × 0.05			
395	AG-28	楕円形	(0.70) × 0.32 × 0.05			
396	AF-29	楕円形	0.53 × 0.39 × 0.09			
397	AF-29	楕円形	0.69 × 0.69 × 0.10			
398	AG-29	不整円形	0.34 × 0.34 × 0.25			
399	AF・AG-29	楕円形	0.74 × 0.42 × 0.13			
400	AF-29	楕円形	0.20 × 0.15 × 0.23			
401	AF-29	楕円形	0.34 × 0.22 × 0.27			
402	AF-29	楕円形	0.38 × 0.30 × 0.06			
403	AF-29	円形	0.28 × 0.25 × 0.09			
404	AF-29	楕円形	0.26 × 0.20 × 0.13			
405	AF-29	円形	0.29 × 0.28 × 0.15			
406	AF-29	楕円形	0.31 × 0.24 × 0.21			
407	AF-29	円形	0.42 × 0.39 × 0.06			
408	AG-29	不整楕円形	0.69 × 0.65 × 0.09			
409	AG-29	楕円形	0.46 × 0.33 × 0.11			
410	AG-29	楕円形	0.58 × 0.31 × 0.08			
411	AG-30	楕円形	0.45 × 0.30 × 0.05			
412	AF・AG-30	楕円形	0.42 × 0.36 × 0.04			
413	AG-30	円形	0.40 × 0.39 × 0.06			
414	AG-30	楕円形	0.50 × 0.44 × 0.06			
415	AG-30	楕円形	0.52 × 0.47 × 0.12			
416	AG-30	楕円形	0.47 × 0.25 × 0.04			
417	AG-30	不整円形	0.34 × 0.31 × 0.08			
418	AG-30	楕円形	0.46 × 0.37 × 0.10			
419	AG-30	楕円形	0.44 × 0.44 × 0.05			
420	AG-30	楕円形	(0.16) × 0.18 × 0.13		P421	
421	AG-30	楕円形	0.34 × 0.23 × 0.08		P420	
422	AG-30	楕円形	0.22 × 0.16 × 0.03			
423	AG-30	円形	0.16 × 0.14 × 0.05			
424	AG-30	円形	(0.48) × 0.65 × 0.05		P425	
425	AG-30	楕円形	0.67 × 0.49 × 0.11		P424	
426	AH-30	楕円形	0.57 × 0.48 × 0.08			
427	AH-30	楕円形	0.54 × 0.47 × 0.12			
428	AH-30	楕円形	0.45 × 0.38 × 0.23			



P005
1．オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまり強 FeO_x少量)
2．灰オリーブ 7.5Y-4/2(やや砂質)

P006
1．黒 7.5Y-2/1(しまりやや弱 灰色土ブロック・粒子含)
2．灰 7.5Y-4/1(しまりやや強 やや粘質 FeO_x少量)

P007
1．オリーブ黒 5Y-3/1(しまり強 粘質)

P008
1．灰オリーブ 5Y-5/2(しまり弱 FeO_x少量)

P009
1．オリーブ黒 7.5Y-3/2(しまり強
灰オリーブ色土ブロック・粒子含)

P010
1．灰 5Y-4/1(しまり強 FeO_x含)
2．灰オリーブ 5Y-4/2(しまり強 FeO_x含)

P011
1．灰オリーブ 5Y-4/2

P012
1．灰オリーブ 7.5Y-5/2

P014
1．オリーブ黒 5Y-3/1(やや粘質)
2．灰オリーブ 7.5Y-5/2(しまりやや弱)

P016
1．オリーブ黒 5Y-3/1(しまり弱 灰白色土ブロック含)

P017
1．黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 ややシルト質)
2．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 ややシルト質)

P018
1．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱)

P019
1．黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 FeO_x少量)

P020
1．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 黒褐色土含)

P021
1．灰 5Y-4/1(しまり強 FeO_x微量)
2．灰オリーブ 5Y-5/2(しまり強 やや粘質 FeO_x含)

P022
1．灰 5Y-4/1(しまり強 FeO_x微量)
2．オリーブ灰 2.5GY-5/1(やや粘質)

P023
1．黒褐 2.5Y-3/1(やや粘質)

P024
1．黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 灰白色土含)

P025
1．灰 5Y-4/1(しまり強 FeO_x微量)

P027
1．黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 やや砂質)
2．オリーブ黒 5Y-3/1(しまり弱 やや粘質)

P030・P031
1．黒褐 10YR-3/1(しまり強 やや粘質)
2．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 やや砂質)

P035
1．灰黄褐 10YR-5/2
2．黒褐 10YR-3/1(しまり弱 やや砂質)

P036
1．灰オリーブ 5Y-5/2(しまり弱 FeO_x含)
2．灰オリーブ 5Y-6/2(しまり弱 FeO_x含)

P037
1．灰オリーブ 5Y-5/2(しまり弱 ややシルト質)
2．灰オリーブ 7.5Y-5/2(しまり弱 ややシルト質)

P038
1．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 FeO_x多量)
2．暗灰黄 2.5Y-5/2(しまり弱 FeO_x多量)

P041
1．オリーブ黒 5Y-3/1(しまり強 灰白色土ブロック一部含)

P042
1．オリーブ黒 5Y-3/1(しまりやや弱)
2．灰オリーブ 5Y-4/2
3．黒褐 2.5Y-3/1(やや砂質)

P043
1．黒褐 2.5Y-3/1(しまり強)

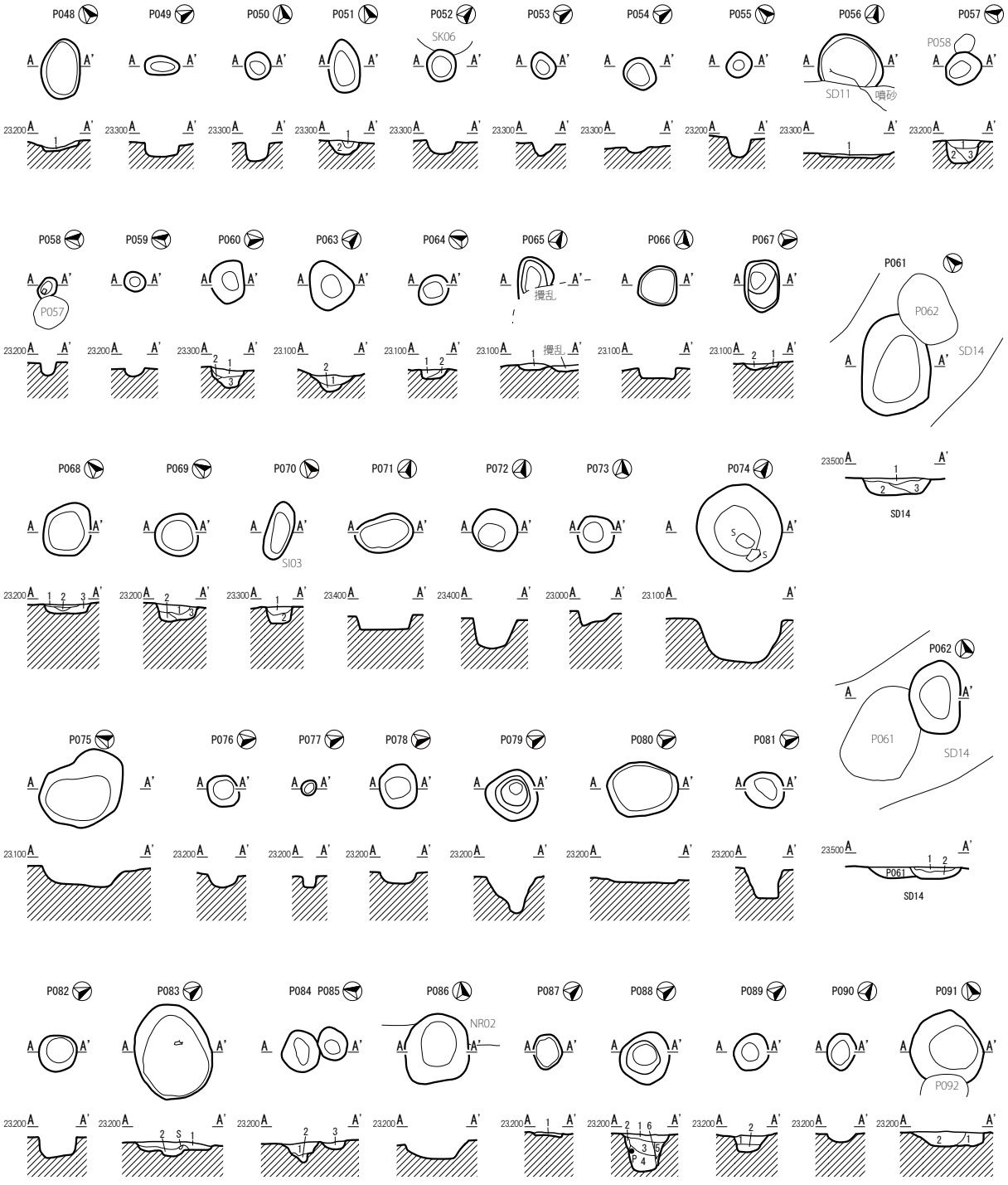
P044
1．オリーブ黒 5Y-3/2(しまり強)
2．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや強 FeO_x多量)
3．黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 やや粘質)

P045
1．灰 7.5Y-4/1(しまり弱 FeO_x少量)
2．灰オリーブ 5Y-5/2
3．灰オリーブ 5Y-4/2(しまり強)

P047
1．灰オリーブ 5Y-5/2(しまり弱 FeO_x含)
2．黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 FeO_x含)
3．灰 7.5Y-4/1(しまり弱)

0 2m 1:60

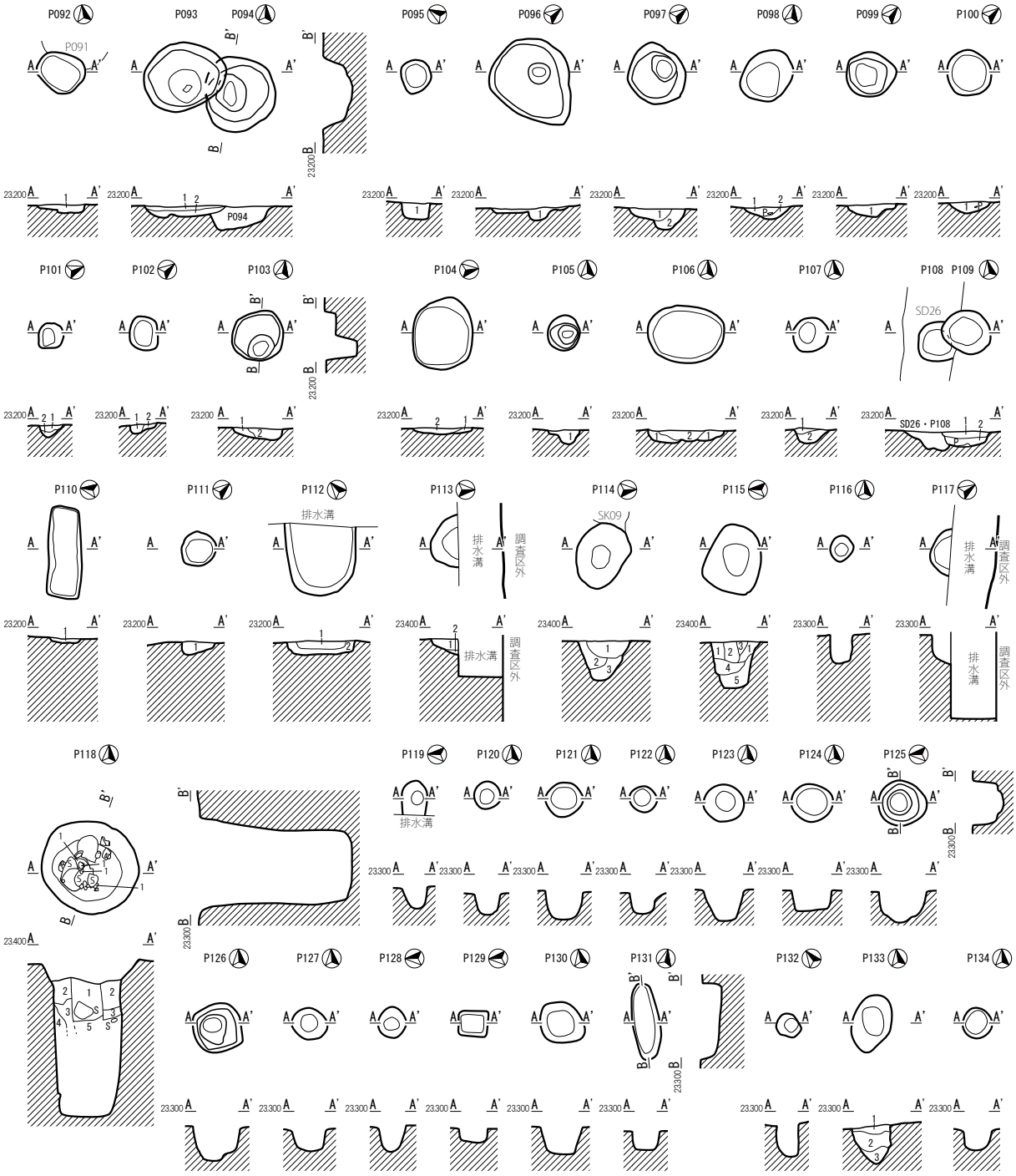
第 142 図　第 1 ～ 47 号ピット



P048
1．灰オリーブ 7.5Y-5/2(しまりやや弱)
P051
1．黄灰 2.5Y-5/1(しまりやや弱 FeO_x少量)
2．灰オリーブ 5Y-5/2(やや粘質 FeO_x含)
P056
1．オリーブ灰 10Y-5/2(しまり弱)
P057
1．灰オリーブ 5Y-4/2(灰白色土ブロック含)
2．オリーブ黒 5Y-3/1(やや砂質 FeO_x多量)
3．灰 7.5Y-4/1(砂質 黒褐色土一部含)
P060
1．緑灰 10GY-5/1(しまり弱 やや粘質 FeO_x含)
2．オリーブ黒 7.5Y-3/1
3．黒褐 2.5Y-3/1(しまり強 FeO_x少量)
P061
1．灰オリーブ 5Y-5/2(しまり強 粘質 FeO_x少量 火山灰粒子含)
2．オリーブ灰 10Y-5/2(しまり強 FeO_x少量 土器片含)
3．オリーブ灰 2.5GY-5/1(しまり強 FeO_x含)
P062
1．灰オリーブ 5Y-5/2(しまり強 粘質 FeO_x少量 火山灰粒子含)
2．オリーブ灰 10Y-5/2(しまり強 FeO_x少量 土器片含)
P063
1．黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 やや砂質)
2．灰オリーブ 5Y-5/2(しまり弱 ややシルト質)
P064
1．黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 やや砂質)
2．灰オリーブ 5Y-5/2(しまり弱 ややシルト質)
P065
1．黒 7.5Y-2/1(しまり弱 FeO_x少量)
P067
1．オリーブ灰 2.5GY-6/1(FeO_x多量)
2．オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまり弱 ややシルト質)
P068
1．オリーブ黒 5Y-3/1(FeO_x少量)
2．オリーブ黒 5Y-3/2(しまり弱 ややシルト質)
3．暗灰黄 2.5Y-4/2(やや粘質)
P069
1．黒褐 10YR-3/1(FeO_x多量)
2．黄灰 2.5Y-4/1(しまり強)
3．灰 7.5Y-4/1(しまり強 FeO_x少量)
P070
1．黄灰 2.5Y-4/1
2．黒褐 2.5Y-3/1(しまり強 FeO_x含)
P083
1．オリーブ黒 7.5Y-3/2(しまりやや弱)
2．黄灰 2.5Y-4/1(やや粘質)
P084・P085
1．オリーブ黒 5Y-3/1(しまり強)
2．黒褐 2.5Y-3/1(やや砂質)
3．黒褐 2.5Y-3/1(やや砂質)
P087
1．灰オリーブ 5Y-4/2(しまり強)
P088
1．黒褐 10YR-3/1(しまり弱 灰白色粘質土含)
2．灰黄褐 10Y-6/2(灰白色粘質土含)
3．黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 灰白色粘質土ブロック多量)
4．黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 灰白色粘質土ブロック多量)
5．オリーブ黒 5Y-3/2(しまり弱 やや砂質 灰白色土ブロック含)
6．黒 2.5Y-2/1(しまり弱 砂質)
P089
1．黒 2.5GY-2/1(しまりやや強 やや粘質 灰白色土ブロック含)
2．オリーブ黒 5GY-2/1(しまり強 粘質)
P091
1．オリーブ黒 5Y-3/1(しまり強 灰白色粘質土ブロック含)
2．黒褐 2.5Y-3/1(灰白色粘質土含)

0 2m 1:60

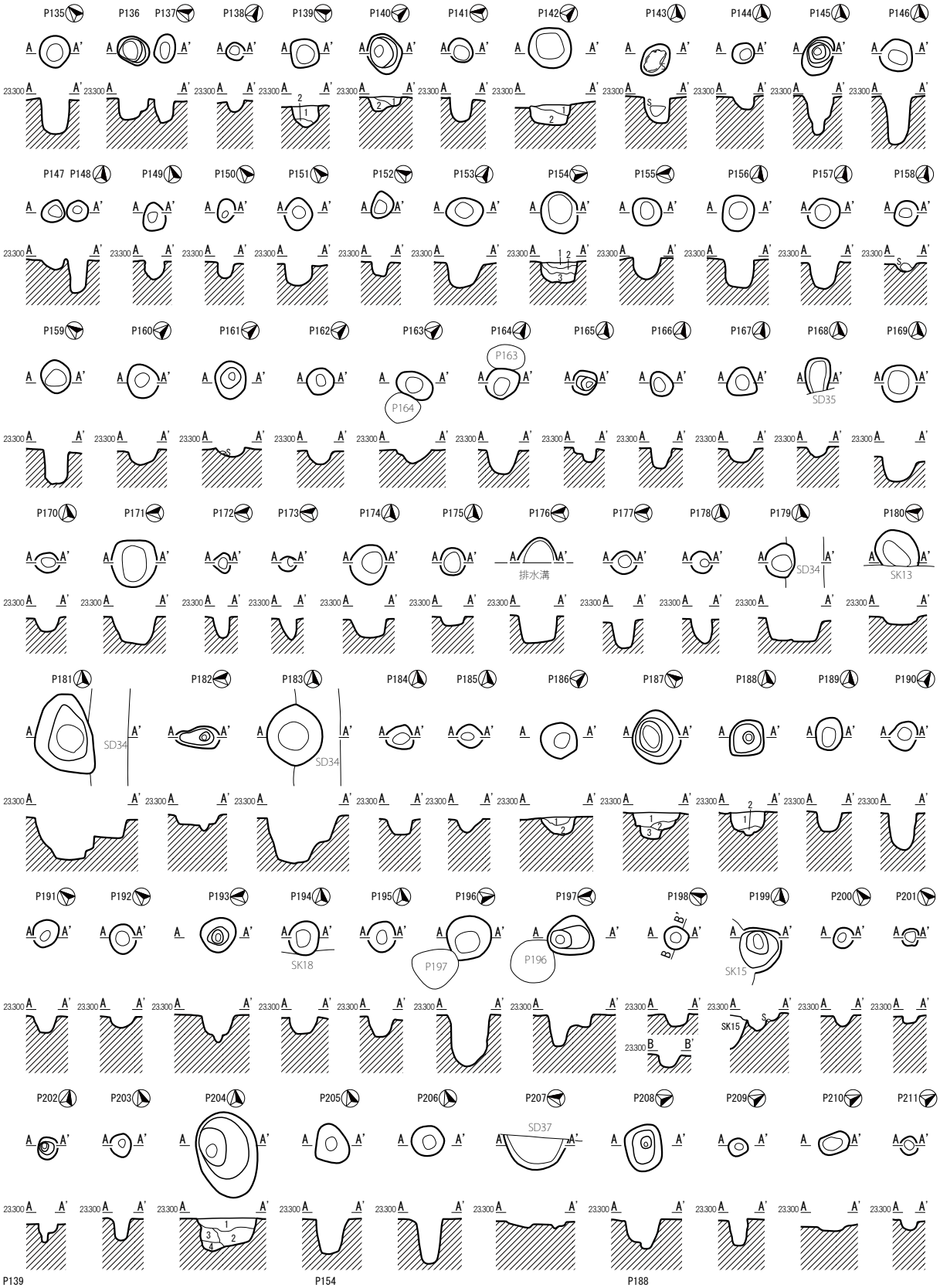
第 143 図　第 48 ～ 91 号ピット



P092
1．オリーブ黒 5Y-3/2(しまり強)
P093
1．黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 FeO_x少量)
2．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 やや砂質)
P095
1．オリーブ黒 5Y-2/2(しまり強 やや砂質 FeO_x多量)
P096
1．オリーブ黒 5GY-2/1(しまり強 粘質)
P097
1．黒 2.5GY-2/1(しまりやや強 やや粘質 灰白色土ブロック含)
2．オリーブ黒 5GY-2/1(しまり強 粘質)
P098
1．黒褐 2.5Y-3/2(しまり強 灰白色土ブロック含 土器片含)
2．オリーブ黒 5Y-3/1(しまり強)
P099
1．黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 やや砂質 灰黄色土ブロック含)
P100
1．オリーブ黒 5Y-3/1(しまり強 粘質 炭化物少量)
P101
1．黄灰 2.5Y-4/1(粘質 灰白色土ブロック含)
2．オリーブ黒 5Y-3/1(粘質)
P102
1．オリーブ黒 5Y-3/1(しまり強)
2．オリーブ黒 5Y-3/1(灰白色土ブロック・粒子含)
P103
1．暗灰黄 2.5Y-5/2(ややシルト質 FeO_x多量)
2．暗灰黄 2.5Y-4/2(シルト質 FeO_x含)
P104
1．暗灰黄 2.5Y-5/2(やや粘質 FeO_x含)
2．黒褐 2.5Y-3/1(やや粘質)
P105
1．黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 灰白色土ブロック含)
P106
1．灰 5Y-4/1(しまり弱 FeO_x多量)
2．黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 FeO_x含 黒褐色土ブロック一部含)
P107
1．暗灰黄 2.5Y-5/2(しまり弱)
2．黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 灰白色土ブロック含)
P109
1．オリーブ黒 5Y-3/2(しまり弱 灰白色土ブロック含)
2．オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまり弱 灰白色土ブロック含 土器片含)
P110
1．黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 FeO_x多量)
P111
1．オリーブ黒 5Y-3/1(しまり弱 土器片含 炭化物少量)
P112
1．黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや強 FeO_x多量)
2．黄灰 2.5Y-4/1(しまり強 一部シルト質 FeO_x少量)
P113
1．黒褐 2.5Y-3/1(FeO_x微量)
2．黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 にぶい黄色土含)
P114
1．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや強 黒褐色土ブロック含)
2．黒褐 2.5Y-3/1(しまり強 暗灰黄色土粒子含)
3．オリーブ黒 5Y-3/1(しまり強 FeO_x少量)
P115
1．黄灰 2.5Y-4/1(しまり強 にぶい黄色土含)
2．黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 土器片含)
3．暗灰黄 2.5Y-5/2(しまり弱 にぶい黄色土粒子含)
4．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 FeO_x含)
5．灰オリーブ 5Y-4/2(しまり弱 やや砂質)
P118
1．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 灰白色土含 黄色土ブロック・粒子含)
2．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 FeO_x少量
黒褐色土ブロック・粒子多量)
3．黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 木片含)
4．黒 10Y-2/1(しまり弱 粘質)
5．灰 7.5Y-4/1(FeO_x少量 灰白色土ブロック含)
P133
1．黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 黄褐色土ブロック・粒子含)
2．オリーブ黒 7.5Y-3/1(やや砂質 黄褐色土ブロックわずかに含)
3．暗灰黄 2.5Y-5/2(しまり弱 砂質)

0 2m 1:60

第 144 図　第 92 ～ 134 号ピット



P139
1．黒褐 2.5Y-3/1（しまり弱 灰白色土ブロック微量）
2．黄褐 2.5Y-5/3（しまり弱 黒褐色土ブロック微量）

P140
1．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまりやや強 黄褐色土ブロック含）
2．黒褐 2.5Y-3/1（しまりやや強 黄褐色土ブロック微量）

P142
1．オリーブ黒 7.5Y-3/1（しまり弱）
2．灰オリーブ 5Y-4/2（しまり弱 FeO_2 含）

P154
1．オリーブ黒 7.5Y-3/1（しまり弱 灰白色土ブロック微量）
2．暗灰黄 2.5Y-5/2（しまり弱 にぶい黄色土ブロック含）
3．オリーブ黒 5Y-3/1（しまり弱 やや砂質）

P186
1．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまり弱 FeO_2 微量）
2．黒褐 2.5Y-3/1（しまり弱 やや砂質）

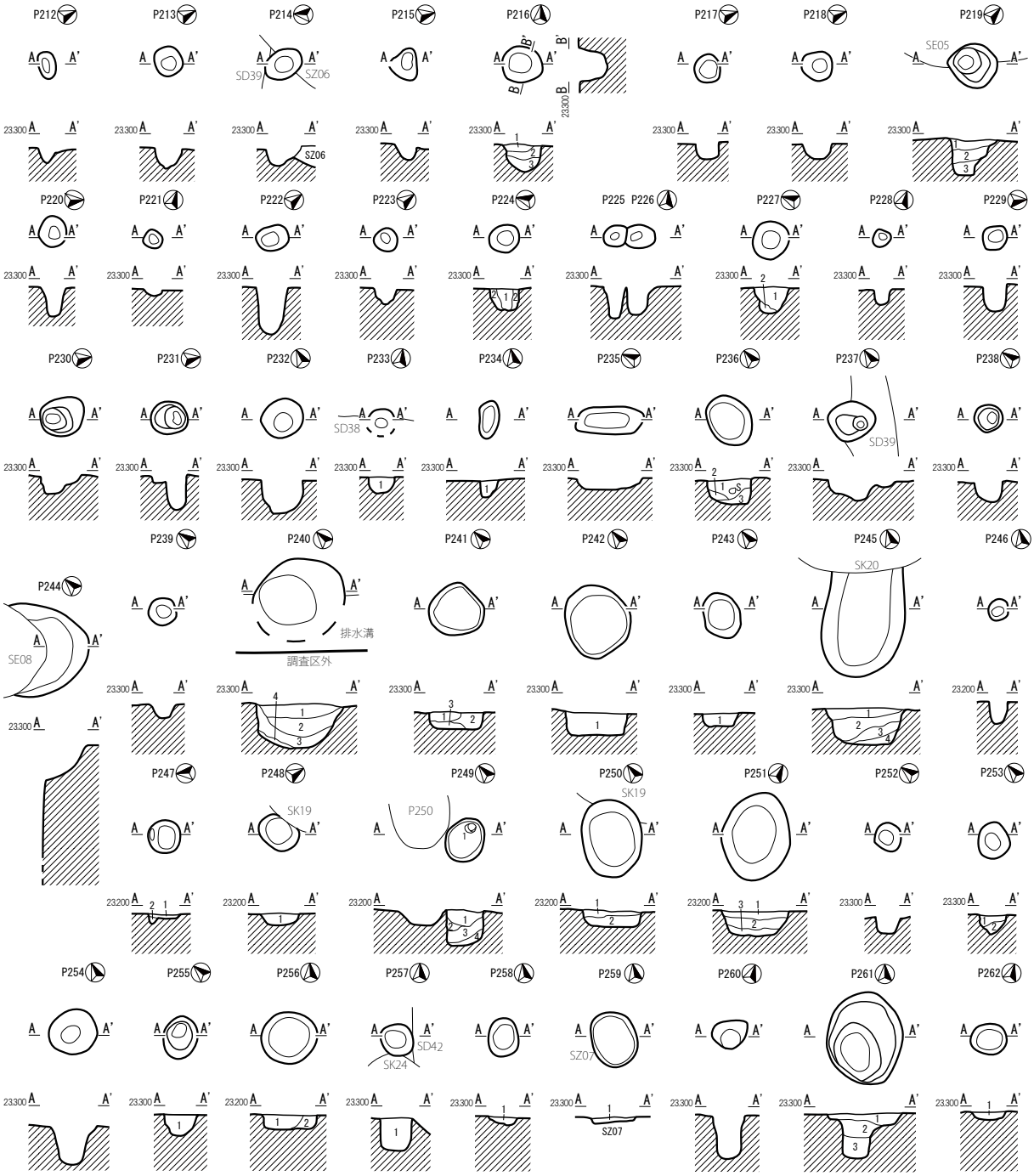
P187
1．黒褐 2.5Y-3/1（しまり弱 黄褐色土ブロック含）
2．オリーブ黒 7.5Y-3/1（しまり弱 黄褐色土ブロック含）
3．オリーブ黒 5Y-3/1（しまり弱 砂質）

P188
1．黒 2.5Y-2/1（しまり弱 FeO_2 含）
2．黒褐 2.5Y-3/1（しまりやや弱）

P204
1．黒褐 2.5Y-3/1（しまり弱 FeO_2 微量）
2．オリーブ黒 5Y-3/1（しまり弱 灰白色土ブロック含）
3．黒褐 2.5Y-3/1（粘質 黄褐色土ブロック・粒子含）
4．黒 2.5Y-2/1（粘質）

0 2m 1:60

第 145 図　第 135 ～ 211 号ピット



P216
1．暗灰黄 2.5Y-5/2(しまり弱 黄褐色土ブロック微量)
2．黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 黄褐色土ブロック・粒子多量)
3．黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 砂質)

P219
1．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 にぶい黄色土ブロック含)
2．黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 灰白色土ブロック多量)
3．暗灰黄 2.5Y-5/2(しまり弱 やや砂質 灰白色土ブロック少量)

P224
1．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 にぶい黄色土ブロック微量)
2．黄褐 2.5Y-5/3(しまり弱 灰白色土ブロック微量)

P227
1．暗灰黄 2.5Y-5/2(しまり弱 やや砂質
にぶい黄色土ブロック微量)
2．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱)

P233
1．暗灰黄 2.5Y-4/2

P234
1．黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱)

P236
1．黒褐 5YR-3/1(しまり弱 FeO_2微量 にぶい黄色土粒子含)
2．灰オリーブ 5Y-4/2(砂質 FeO_2微量)
3．暗灰黄 2.5Y-5/2(しまり弱 砂質 FeO_2微量)

P240
1．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 にぶい黄色土ブロック含)
2．黒褐 2.5Y-3/1(しまりやや弱 灰白色土ブロック多量)
3．暗灰黄 2.5Y-5/2(しまり弱 やや砂質 灰白色土ブロック少量)
4．黒 2.5GY-2/1(しまり弱 砂質)

P241
1．黒褐 2.5Y-3/1(しまり強 FeO_2微量)
2．オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまりやや弱 やや粘質)
3．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 やや砂質)

P242
1．暗灰黄 2.5Y-5/2(しまりやや強 FeO_2含)

P243
1．暗灰黄 2.5Y-5/2(しまりやや強 FeO_2含)

P245
1．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 FeO_2多量 にぶい黄色土粒子含)
2．灰 5Y-4/1(しまり弱 ややシルト質 FeO_2微量)
3．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 粘質 黒褐色土ブロック一部含)
4．黒褐 2.5Y-3/1(粘質 灰白色粘質土ブロック一部含)

P247
1．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 灰白色土粒子微量)
2．黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱)

P248
1．暗灰黄 2.5Y-5/2(しまり弱 にぶい黄色土ブロック含)

P249
1．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 黒褐色土ブロック含)
2．黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱)
3．灰オリーブ 5Y-4/2(しまり弱 ややシルト質)
4．黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 FeO_2少量

P250
1．暗灰黄 2.5Y-5/2(しまり弱 FeO_2含)
2．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや弱 やや粘質 FeO_2微量)

P251
1．黄褐 2.5Y-5/3(しまり弱 FeO_2多量)
2．黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや強)
3．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまりやや弱 やや砂質)

P253
1．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱)
2．黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱)

P255
1．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱)

P256
1．灰オリーブ 5Y-4/2(しまり弱 灰白色土ブロック含)
2．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 FeO_2含)

P257
1．オリーブ黒 7.5Y-3/2(しまりやや弱 FeO_2微量)

P258
1．暗灰黄 2.5Y-5/2(しまり強)

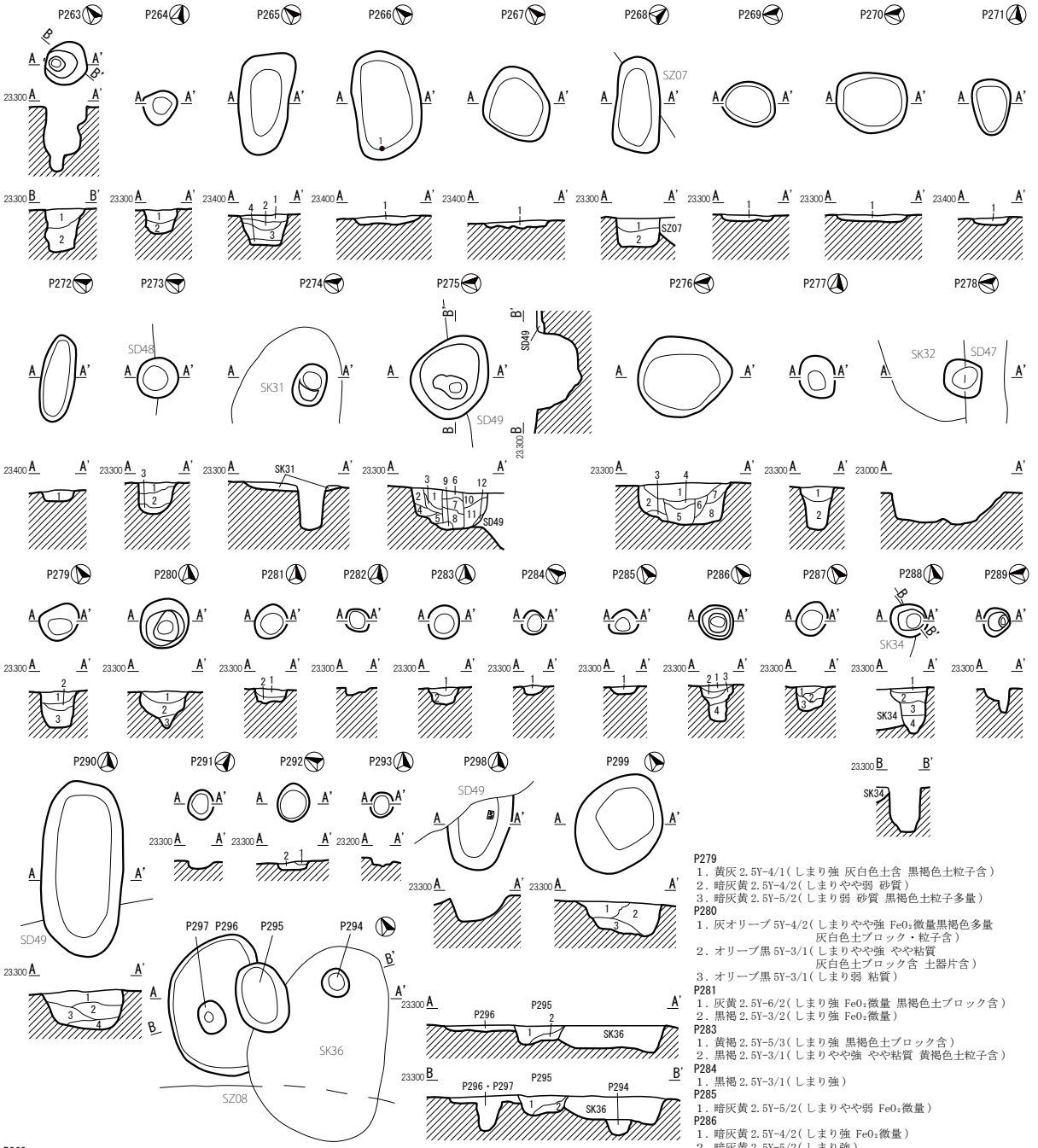
P259
1．灰黄褐 10YR-4/2(しまり強 FeO_2微量)

P261
1．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 FeO_2微量)
2．黒褐 2.5Y-3/1(しまり弱 FeO_2微量 灰白色土ブロック含)
3．オリーブ黒 5Y-3/1(しまり弱 ややシルト質)

P262
1．灰 5Y-4/1(しまりやや弱)

0 2m 1:60

第 146 図　第 212 ～ 262 号ピット



P263
1．暗灰黄 2.5Y-5/2（しまり弱）
2．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまり弱 砂質）

P264
1．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまり強 にぶい黄色土ブロック含）
2．黒褐 2.5Y-3/1（しまり弱 にぶい黄色土ブロック含）

P265
1．灰オリーブ 5Y-6/2（しまり強 黒褐色土ブロック含）
2．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまりやや強 粘質）
3．黄灰 2.5Y-4/1（しまりやや弱 FeO_2微量）
4．灰 5Y-4/1（しまり弱 粘質）

P266
1．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまり強 やや粘質）

P267
1．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまり弱 FeO_2含）

P268
1．黒褐 2.5Y-3/2（しまり強 黄褐色土ブロック・粒子含）
2．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまりやや弱 にぶい黄色土ブロック含）

P269
1．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまり強 やや粘質）

P270
1．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまり強 粘質）

P271
1．灰 7.5Y-4/1（しまり弱 やや砂質）

P272
1．黒褐 2.5Y-3/1（しまり強 やや粘質）

P273
1．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまり弱 やや砂質 FeO_2微量）
2．黒褐 2.5Y-3/1（しまりやや強 やや砂質
灰オリーブ色土ブロック・粒子含）
3．灰オリーブ 5Y-5/2（しまり弱 砂質）

P275
1．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまり強 FeO_2多量）
2．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまり強 やや粘質）
3．暗灰黄 2.5Y-5/2（しまりやや強 粘質）
4．灰オリーブ 5Y-4/2（しまりやや弱 一部シルト質
にぶい黄色土粒子微量）
5．灰オリーブ 5Y-4/2（しまり弱 粘質 にぶい黄色土粒子微量）
6．オリーブ黒 5Y-3/1（しまり強 FeO_2含）
7．オリーブ黒 5Y-3/1（しまりやや強 土器片含
にぶい黄色土ブロック含）
8．オリーブ黒 7.5Y-3/2（しまり弱）
9．黒 7.5Y-2/1（しまり弱 粘質）
10．暗灰黄 2.5Y-5/2（しまり強 FeO_2含）
11．黒褐 10YR-3/1（しまりやや弱 一部シルト質 FeO_2微量）
12．褐灰 10YR-4/1（しまり弱 粘質）

P276
1．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまりやや強 FeO_2多量）
2．黄灰 2.5Y-4/1（やや粘質 暗灰黄色土粒子微量）
3．黒褐 10YR-3/1（しまり弱 粘質）
4．オリーブ黒 5Y-3/1（しまりやや弱 FeO_2含）
5．黒褐 10YR-3/1（しまりやや弱 灰白色土粒子含）
6．褐灰 10YR-4/1（しまり弱 ややシルト質 FeO_2微量）
7．暗灰黄 2.5Y-5/2（しまり弱 FeO_2微量）
8．黄灰 2.5Y-4/1（しまり弱 やや砂質 FeO_2微量）

P277
1．にぶい黄褐 10YR-5/3（しまり強 FeO_2多量）
2．黒褐 2.5Y-3/1（しまり弱 一部砂質）

P279
1．黄灰 2.5Y-4/1（しまり強 灰白色土含 黒褐色土粒子含）
2．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまりやや弱 砂質）
3．暗灰黄 2.5Y-5/2（しまり弱 砂質 黒褐色土粒子多量）

P280
1．灰オリーブ 5Y-4/2（しまりやや強 FeO_2微量黒褐色多量
灰白色土ブロック・粒子含）
2．オリーブ黒 5Y-3/1（しまりやや強 やや粘質
灰白色土ブロック含 土器片含）
3．オリーブ黒 5Y-3/1（しまり弱 粘質）

P281
1．灰黄 2.5Y-6/2（しまり強 FeO_2微量 黒褐色土ブロック含）
2．黒褐 2.5Y-3/2（しまり強 FeO_2微量）

P283
1．黄褐 2.5Y-5/3（しまり強 黒褐色土ブロック含）
2．黒褐 2.5Y-3/1（しまりやや強 やや粘質 黄褐色土粒子含）

P284
1．黒褐 2.5Y-3/1（しまり強）

P285
1．暗灰黄 2.5Y-5/2（しまりやや弱 FeO_2微量）

P286
1．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまり強 FeO_2微量）
2．暗灰黄 2.5Y-5/2（しまり強）
3．黄灰 2.5Y-4/1（しまり弱 ややシルト質）
4．黒褐 2.5Y-3/1（しまり弱 砂質）

P287
1．暗灰黄 2.5Y-5/2（しまり強 やや粘質 灰白色土ブロック微量）
2．黄灰 2.5Y-4/1（しまり強）
3．黒褐 2.5Y-3/1（しまり弱 砂質）

P288
1．黒褐 2.5Y-3/1（しまり強 FeO_2含 灰白色土ブロック・粒子含）
2．オリーブ黒 7.5Y-3/1（しまり強 やや粘質 黒褐色土粒子微量
土器片含）
3．黒褐 2.5Y-3/1（しまり弱 やや砂質 灰白色砂質土粒子含）
4．オリーブ黒 10Y-3/1（しまり弱 やや砂質）

P290
1．灰黄褐 10YR-4/2（しまり強 FeO_2含 にぶい黄色土含
黒褐色土ブロック含）
2．黄灰 2.5Y-4/1（しまり強 FeO_2微量）
3．黒褐 2.5Y-3/1（しまりやや強 粘質）
4．黒褐 2.5Y-3/1（しまり弱 やや砂質）

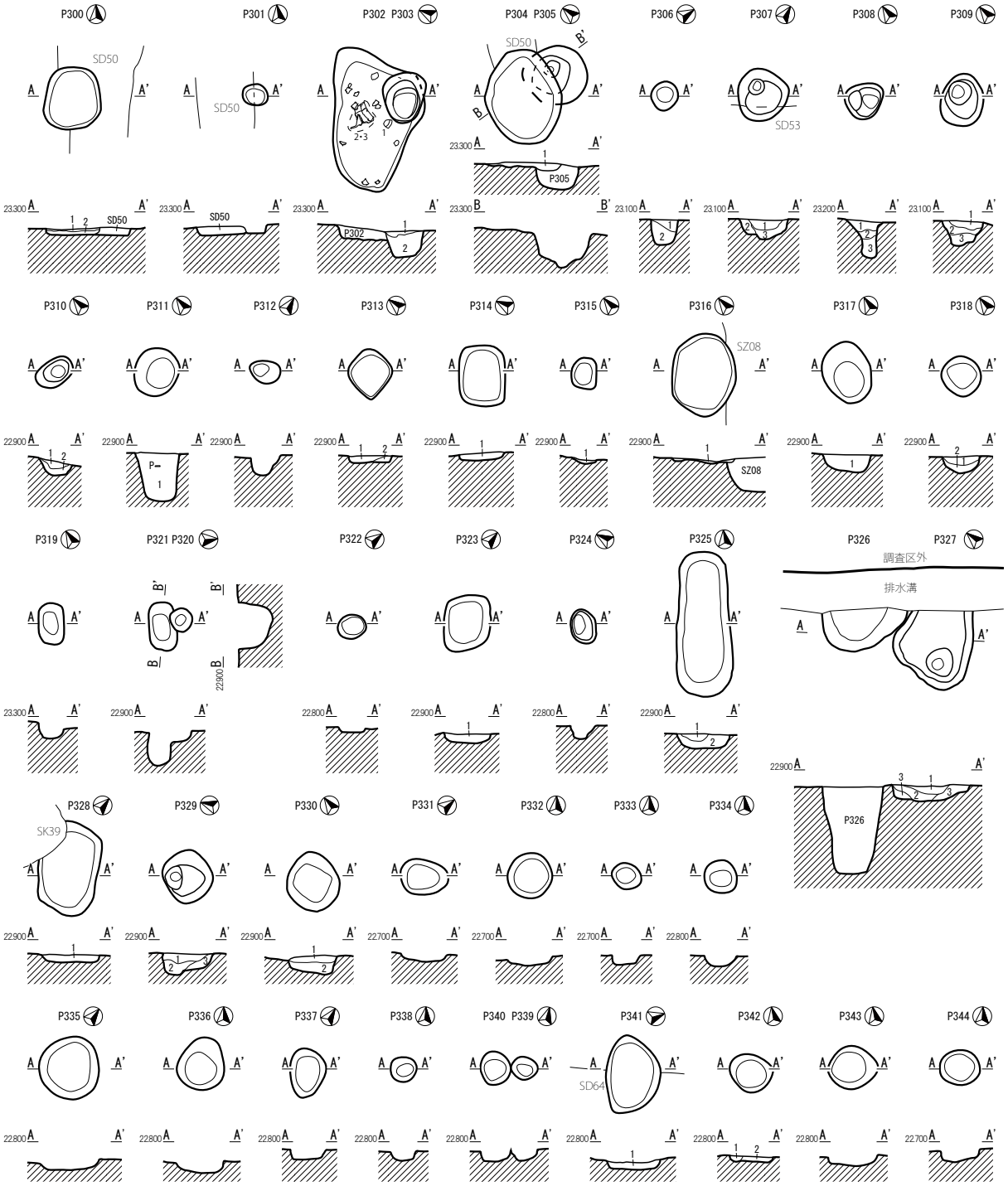
P292
1．黒褐 10YR-3/1（しまりやや弱）
2．灰黄褐 10YR-4/2（しまりやや強 やや粘質）

P295
1．黄褐 2.5Y-5/3（しまり強 黒褐色土ブロック含）
2．黒褐 2.5Y-3/1（しまりやや強）

P299
1．にぶい黄 2.5Y-6/3（しまり強 FeO_2微量 黒褐色土ブロック多量）
2．黒褐 2.5Y-3/1（しまり強 にぶい黄色土粒子一部含）
3．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまりやや弱 やや粘質 FeO_2微量）

0 2m 1:60

第 147 図　第 263 ～ 299 号ピット



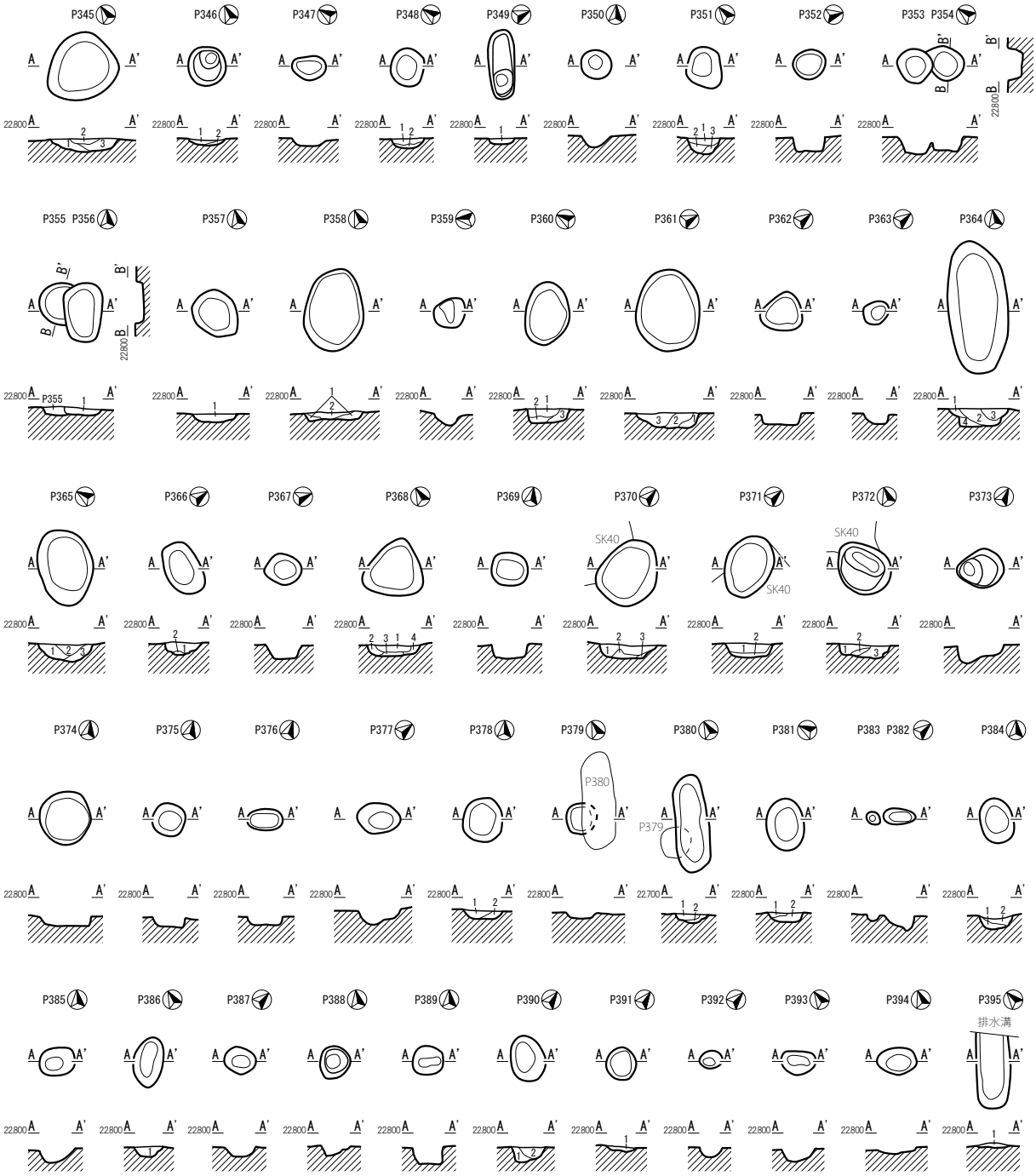
P300
1．黒 2.5GY-2/1（しまり弱 やや粘質）
2．黄褐 2.5Y-5/3（しまり強 黒褐色土含）
P303
1．黒 7.5Y-2/1（しまり弱 赤褐色土ブロック多量）
2．灰オリーブ 7.5Y-5/2（黒色土粒子含）
P304
1．黒褐 10YR-3/1（しまりやや弱 灰白色土ブロック・粒子含）
P306
1．オリーブ黒 10Y-3/1（しまりやや強 粘質）
2．オリーブ黒 7.5Y-3/2（しまりやや強 粘質
にぶい黄色土ブロック微量）
P307
1．オリーブ黒 7.5Y-3/1（しまり強 FeO_2微量）
2．オリーブ黒 10Y-3/1（しまり強 灰白色土ブロック微量）
3．黒 2.5Y-2/1（しまりやや弱 粘質 土器片含）
P308
1．暗灰黄 2.5Y-5/2（しまり弱 やや粘質
オリーブ灰色土ブロック多量）
2．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまり弱 やや砂質
オリーブ灰色土ブロック一部含）
3．黒褐 2.5Y-3/1（しまり弱 砂質）

P309
1．黒褐 2.5Y-3/1（しまり強 FeO_2微量）
2．オリーブ黒 10Y-3/1（しまりやや弱 やや砂質 FeO_2微量）
3．オリーブ黒 7.5Y-3/1（しまりやや弱 一部シルト質 土器片含）
P310
1．黒褐 2.5Y-3/1（やや粘質）
2．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまりやや弱）
P311
1．黒 2.5Y-2/1（しまり弱 人工的な埋土 土器片含
灰白色土ブロック含）
P313
1．黒褐 2.5Y-3/1（しまりやや強 やや砂質 灰白色土ブロック含）
2．暗灰黄 2.5Y-5/2（やや砂質）
P314
1．暗灰黄 2.5Y-4/2（やや粘質 FeO_2微量）
P315
1．灰オリーブ 5Y-5/2（しまり弱）
P316
1．黒褐 2.5Y-3/1（しまりやや弱 砂質）
P317
1．オリーブ黒 7.5Y-3/1（しまり強 FeO_2含）
P318
1．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまり弱）
2．暗灰黄 2.5Y-5/2（しまりやや弱 黒褐色土ブロック一部含）

P323
1．黒褐 2.5Y-3/1
P325
1．暗灰黄 2.5Y-5/2
2．黒褐 2.5Y-3/1
P327
1．オリーブ黒 5Y-3/1（しまり強 粘質 FeO_2含）
2．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまり強 粘質 灰白色土やや含）
3．黄灰 2.5Y-4/1（しまりやや弱 砂質 FeO_2含）
P328
1．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまりやや弱）
P329
1．オリーブ黒 7.5Y-3/2（しまりやや弱 FeO_2含）
2．オリーブ黒 7.5Y-3/1（しまり強 粘質 FeO_2微量）
3．灰オリーブ 5Y-4/2（しまり弱 ややシルト質 FeO_2微量）
P330
1．黒褐 2.5Y-3/1（しまりやや弱 FeO_2含）
2．オリーブ黄 5Y-6/3（しまり弱 FeO_2微量）
P341
1．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまり弱）
P342
1．黄灰 2.5Y-5/1（しまり強）
2．暗灰黄 2.5Y-4/2（しまり弱）

0 2m 1:60

第 148 図　第 300 ～ 344 号ピット



P345
1．黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 ややシルト質 FeO_x少量)
2．黒褐 2.5Y-3/1(しまり強 FeO_x微量)
3．灰 5Y-4/1(しまり強 FeO_x少量 黄灰色土ブロック・粒子含)

P346
1．暗灰黄 2.5Y-5/2(FeO_x少量)
2．オリーブ灰 2.5GY-5/1(シルト質 FeO_x少量)

P348
1．暗灰黄 2.5Y-4/2
2．オリーブ黒 7.5Y-3/2(粘質)

P349
1．黄灰 2.5Y-4/1(シルト質 FeO_x少量)

P351
1．黄灰 2.5Y-4/1
2．オリーブ黒 5Y-2/2(しまり強 FeO_x少量)
3．オリーブ黒 5Y-3/2(しまり弱 FeO_x含)

P356
1．黄灰 2.5Y-4/1(FeO_x少量)

P357
1．黄灰 2.5Y-4/1(しまり強 FeO_x少量)

P358
1．黒褐 2.5Y-3/1(FeO_x少量)
2．暗灰黄 2.5Y-4/2(FeO_x含 黄灰色土ブロック一部含)

P360
1．黄灰 2.5Y-4/1(しまりやや弱 ややシルト質 FeO_x含)
2．灰 7.5Y-4/1(一部粘質 シルト質 FeO_x含)
3．暗緑灰 10GY-4/1(しまりやや強 FeO_x含)

P361
1．黄灰 2.5Y-5/1(ややシルト質)
2．黄灰 2.5Y-5/1(しまり強 FeO_x少量)
3．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり強 FeO_x少量)

P364
1．暗灰黄 2.5Y-5/2(FeO_x少量)
2．暗灰黄 2.5Y-4/2(FeO_x少量)
3．黄灰 2.5Y-5/1(しまり強 やや粘質 FeO_x含)
4．黄灰 2.5Y-4/1(粘質 FeO_x微量)

P365
1．暗灰黄 2.5Y-4/2(FeO_x少量)
2．黒褐 2.5Y-3/1(しまり強)
3．オリーブ黒 5Y-3/1(ややシルト質 FeO_x少量)

P366
1．黒褐 2.5Y-3/1(FeO_x少量)
2．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱)

P368
1．黒褐 2.5Y-3/1(FeO_x少量)
2．オリーブ黒 7.5Y-3/1(粘質)
3．黒褐 2.5Y-3/2(FeO_x少量)
4．オリーブ黒 10Y-3/1(ややシルト質)

P370
1．オリーブ褐 2.5Y-4/3(しまり強 FeO_x少量)
2．オリーブ黒 7.5Y-2/2(しまり強)
3．黒褐 2.5Y-3/1(しまり強 粘質)

P371
1．黒 7.5Y-2/1(しまり強 FeO_x少量)
2．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 ややシルト質)

P372
1．暗灰黄 2.5Y-4/2(FeO_x少量)
2．暗灰黄 2.5Y-5/2(シルト質 FeO_x少量)
3．オリーブ黒 5Y-3/2(粘質 FeO_x少量)

P378
1．黄灰 2.5Y-4/1(ややシルト質 FeO_x含)
2．黄灰 2.5Y-5/1(しまり弱 やや粘質)

P380
1．黄灰 2.5Y-4/1(シルト質 FeO_x少量)
2．暗灰黄 2.5Y-5/2(しまり弱 シルト質)

P381
1．暗灰黄 2.5Y-5/2(しまり強)
2．黒褐 2.5Y-3/1(しまり強)

P384
1．暗灰黄 2.5Y-4/2(ややシルト質)
2．黒褐 2.5Y-3/1(FeO_x少量)

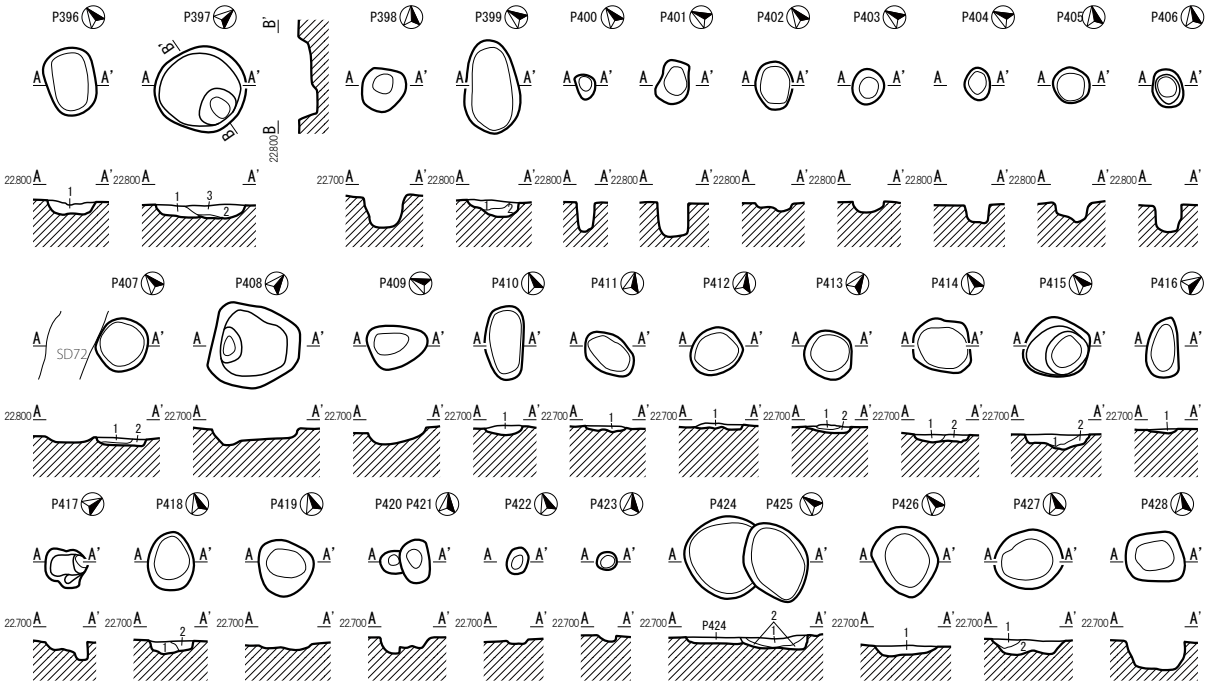
P386
1．黒褐 2.5Y-3/2(しまりやや弱 FeO_x少量)

P390
1．褐灰 10YR-4/1(粘質 FeO_x含)
2．黒褐 10YR-3/1(粘質 FeO_x含)

P391
1．褐灰 10YR-4/1(粘質 FeO_x含)

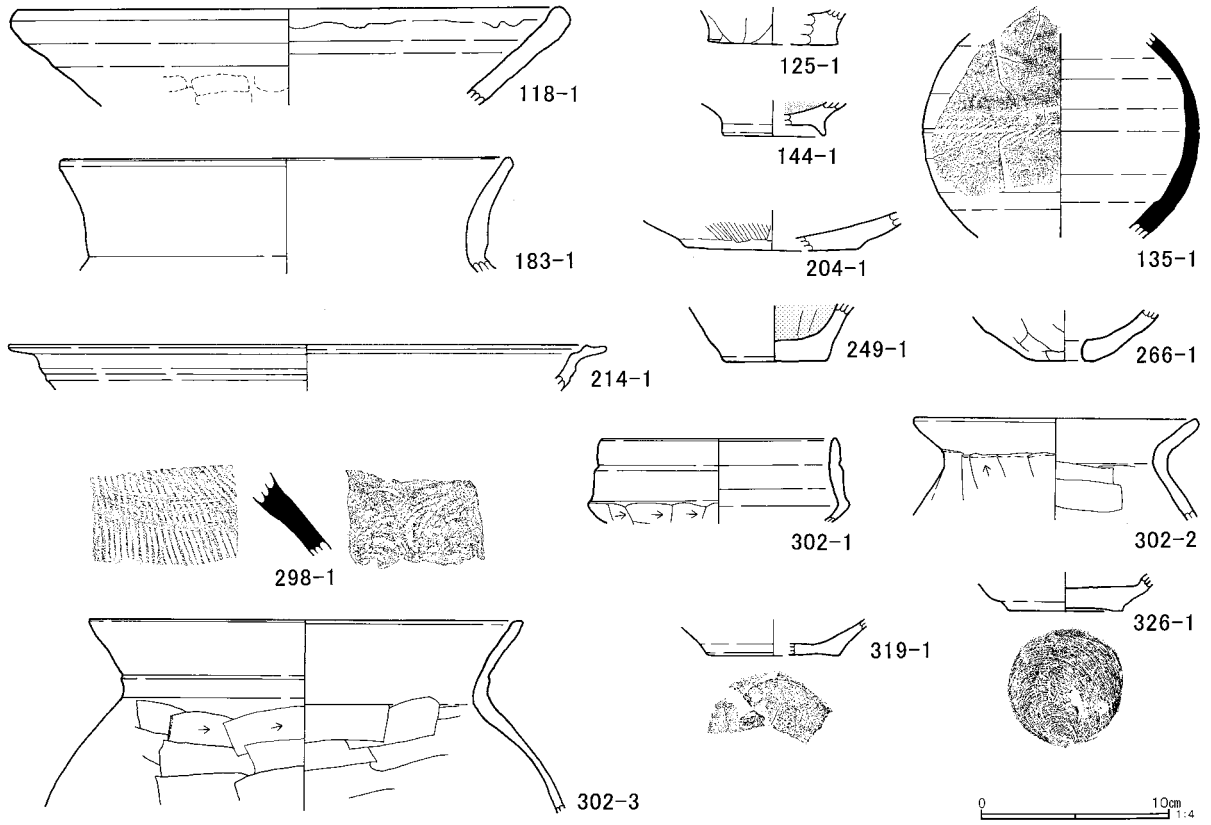
P395
1．黒褐 2.5Y-3/2(しまり弱)

第 149 図　第 345 ～ 395 号ピット



P396
1．灰オリーブ 5Y-4/2(粘質 FeO_2多量)
P397
1．黄灰 2.5Y-4/1(粘質 FeO_2含)
2．灰 5Y-4/1(粘質 FeO_2含)
3．オリーブ黒 5Y-3/1(粘質)
P399
1．オリーブ黒 10Y-3/1(しまり強 FeO_2含)
2．灰オリーブ 7.5Y-4/2(しまり強 FeO_2含)
P407
1．黄灰 2.5Y-4/1(FeO_2含)
2．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 FeO_2含)
P410
1．オリーブ黒 7.5Y-3/1(粘質 FeO_2含)
P411
1．黒 7.5Y-2/1(粘質)
P412
1．黒 7.5Y-2/1(粘質)
P413
1．オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまり強 FeO_2含)
2．オリーブ黒 10Y-3/1(かなり粘質)
P414
1．灰 10Y-5/1(FeO_2含 暗灰黄色土粒子多量)
2．オリーブ黒 7.5Y-3/1(しまり強 粘質)
P415
1．灰 7.5Y-4/1(ややシルト質 FeO_2含)
2．灰 10Y-4/1(しまり強 粘質 FeO_2含)
P416
1．オリーブ黒 7.5Y-3/1
P418
1．灰 10Y-4/1(しまり強 粘質 FeO_2含)
2．黄灰 2.5Y-4/1(しまり強 FeO_2含)
P425
1．暗灰黄 2.5Y-4/2(しまり弱 シルト質 黄灰色土含)
2．黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 シルト質)
P426
1．黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 シルト質 FeO_2含)
P427
1．黄灰 2.5Y-4/1(しまり弱 粘質 FeO_2含)
2．褐灰 10YR-4/1(しまり弱 FeO_2多量)

第 150 図　第 396 ～ 428 号ピット



第 151 図　ピット出土遺物

第 27 表　ピット出土遺物観察表（第 151 図）

図版 No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
118-1	瓦質土器 片口鉢	(30.0)	(5.2)	-	ABIMN	灰白 10YR-7/1	B	口縁～体部 20%	外面：口縁部強いヨコナデ整形	在地
125-1	弥生土器 壺	-	(1.9)	(7.0)	AEJM	外面：黄褐 10YR-5/6 黒 10YR-2/1 内面：橙 5YR-6/6	B	底部 20%	外面：下端ヘラケズリ、摩耗のため調整痕不明	
135-1	須恵器 フラスコ型瓶	-	(10.9)	-	AB	灰白 2.5Y-7/1 オリーブ灰 2.5GY-5/1	A	胴部 40%	外面：胴部球形、胴部中位 1 条の横位沈線と重なるように LR 単節縄文帯も巡る	外面自然釉
144-1	土師器 高台坏	-	(1.8)	(5.4)	ABM	外面：橙 7.5YR-6/6 内面：黒 10YR-2/1	B	底部片	内面：ヘラミガキ	内面黒色処理
183-1	土師器 甕	(24.0)	(6.1)	-	AJM	外面：明赤褐 5YR-5/6 内面：明褐 7.5YR-5/6	B	口縁部片	内外面：ヨコナデ	
204-1	弥生土器 壺	-	(2.1)	(9.4)	ABDIM	外面：褐灰 10YR-4/1 内面：にぶい橙 7.5YR-7/4	B	底部片	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
214-1	陶器 折縁深皿	(32.0)	(2.4)	-	ABI	にぶい黄 2.5Y-6/4	B	口縁部 5%	内外面：灰釉	瀬戸美濃系 古瀬後Ⅲ期
249-1	弥生土器 鉢ヵ	-	(2.9)	5.7	ABDIM	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	底部 100%	外面：摩耗顕著で調整痕不明 内面：ヘラナデ	内面赤彩
266-1	土師器 甑		(2.7)	(3.0)	ABEIMN	外面：灰白 10YR-8/2 内面：黒褐 10YR-3/1	B	底部片	焼成前に穿孔した単孔 外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
298-1	須恵器 甕	-	-	-	AM	灰 5Y-6/1	B	肩部片	外面：平行タタキ後 2 条のカキメ 内面：同芯円アテ具痕	
302-1	土師器 坏	(12.4)	(4.5)	-	ABDIKM	橙 5YR-6/6	B	口縁部片	外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	有段口縁
302-2	土師器 甕	(15.0)	(5.4)	-	ABEIKL	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	口縁～肩部 20%	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
302-3	土師器 甕	(23.0)	(10.2)	-	ABDIMN	浅黄橙 10YR-8/3	B	口縁～胴部上半片	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
319-1	土師質土器 かわらけ	-	(2.0)	(7.0)	BDI	外面：にぶい褐 7.5YR-5/3 内面：橙 5YR-6/6 褐灰 5YR-4/1	B	10%		在地
326-1	土師質土器 かわらけ	-	(2.0)	6.0	BIM	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	底部 100%	底部厚い、ロクロ回転方向不明	在地

9　性格不明遺構

今回の調査において性格不明遺構は全部で 5 基出土し、大部分が形状の不明なものや、全容が判断できないことから、性格不明遺構としたものが多い。しかし、中には、土器（かわらけ）廃棄遺構や溝跡からの転化ではないかと推測できるものもあった。

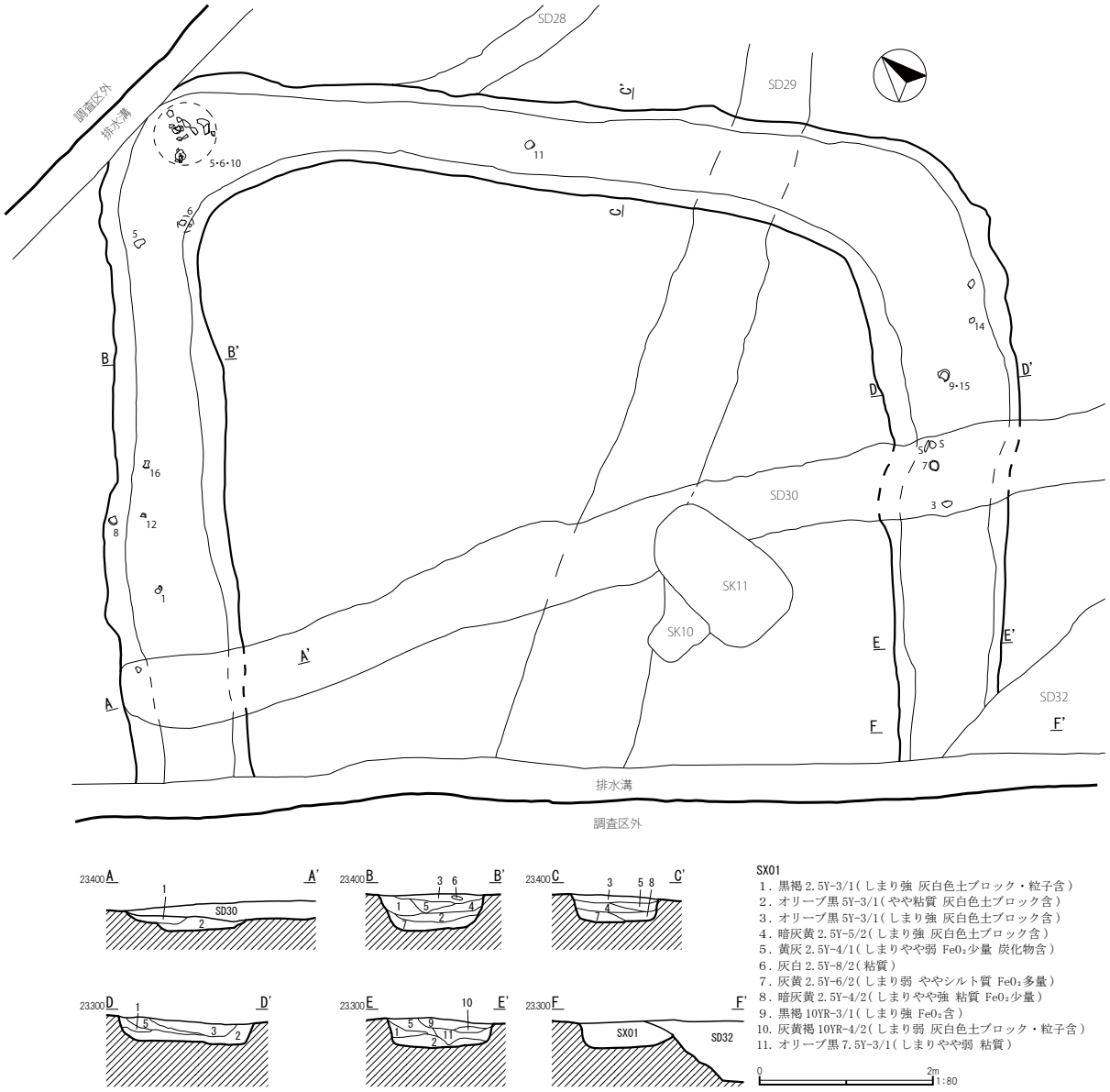
第 1 号性格不明遺構は、複数の溝跡と重複しており、一部が調査区域外であるが、検出状況から方形に全周するものと考えられる。掘り方は、底部が平坦で、壁はやや角度をもつが垂直に近い。深さは確認面から 0. 24 ～ 0. 30 mと浅い。複数の弥生土器壺・甕・鉢やミニチュア壺が検出しており、うち一部は北西角の底部に集中していた。全周する方形周溝墓とも推定可能であるが、周辺の掘り方と異なっていることから、性格不明遺構としている。時期は遺物から弥生時代後期前半と考えられる。

第 4 号性格不明遺構は、第 7 号方形周溝墓、第 42 号溝跡、第 10 号井戸跡と重複しており、第 42 号溝跡のかわらけ集中区に接する。覆土はしまりの弱い人工的な埋土であることから､用途は不明ながら、重複関係から、中世以前の掘り込みであることが推測される。

以下､紙面の都合上から､性格不明遺構の特徴等について一覧表で掲載をする｡(第152～154図･第28､29表)

第 28 表　性格不明遺構一覧表（第 152 ～ 154 図）

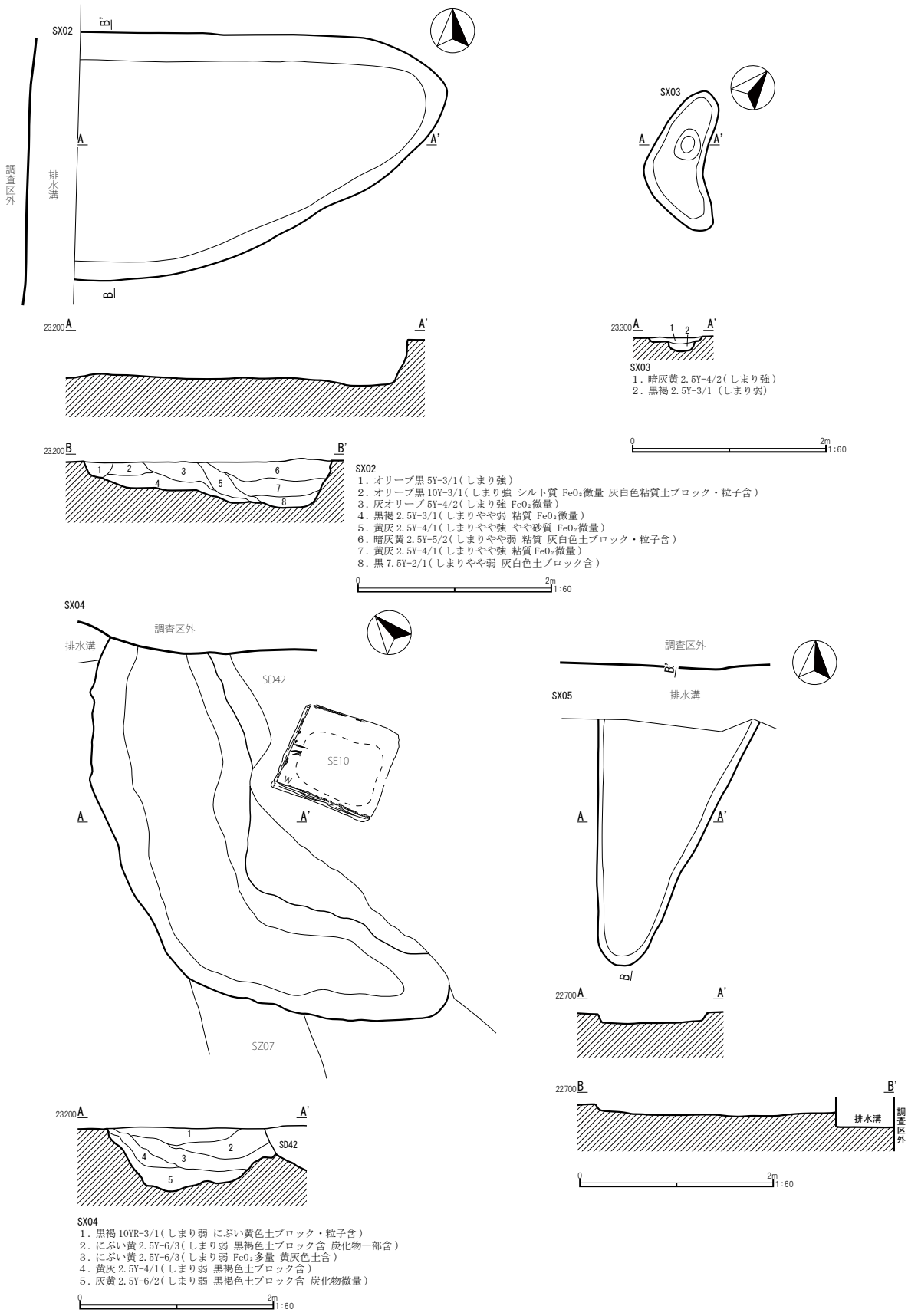
No.	位置	平面形状	長軸×短軸×深さ (m)	出土遺物	重複関係 (新旧)	備考
1	O・P-13、P-14	楕円形	(7.64) × 0.87 ～ 1.79 × 0.24 ～ 0.40	弥生土器壺・小型鉢・ミニチュア壺 弥生土器甕 (地文条痕に櫛描波状文)	SD28・SD29・ SD30・SD32	
2	R・S-14・15	楕円形	(3.86) × 2.53 × 0.51	土師器坏		
3	T-15	長方形	1.62 × 0.61 × 0.06			
4	T-15・16	楕円形	(5.48) × 1.60 × 0.66		SD42 SZO7	
5	AE-26	楕円形	2.54 × 1.57 × 0.13			



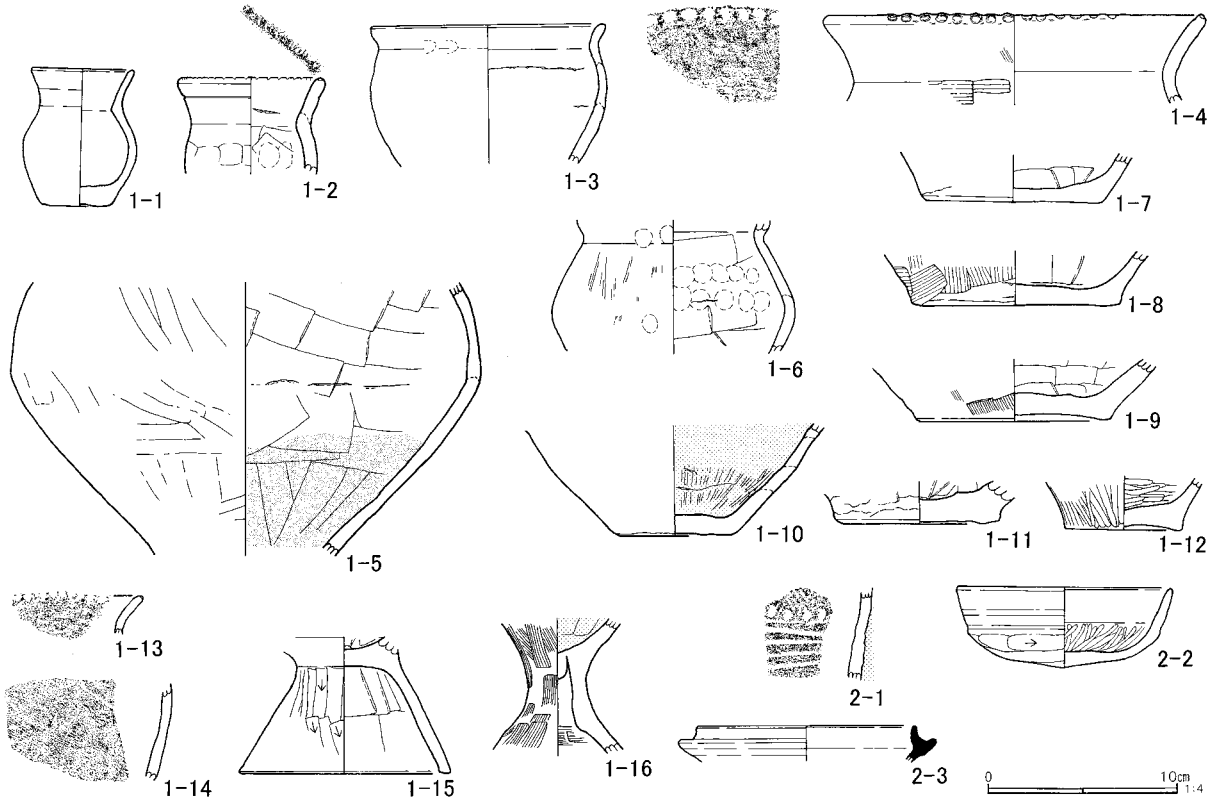
第 152 図　第 1 号性格不明遺構

第 29 表　性格不明遺構出土遺物観察表(1)（第 154 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1-1	弥生土器 ミニチュア壺	(5.2)	7.2	3.7	ABDILN	外面：橙 5YR-7/6 内面：灰白 10YR-7/1	B	ほぼ完形 90%	内外面：摩耗顕著で調整痕不明	
1-2	弥生土器 小型壺	(7.4)	(5.1)	-	ABIM	外面：明褐灰 7.5YR-7/2 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	B	口縁～胴部上半片	外面：口縁端部薄いヘラの刻み、口縁部 1 条の沈線、胴部ヘラナデ 内面：ヘラナデ後指頭圧痕	
1-3	弥生土器 甕	(12.2)	(7.4)	-	ABIJM	外面：灰白 2.5Y-8/2 内面：灰白 10YR-8/2	B	口縁～胴部 20%	外面：口縁圧痕 内面：輪積痕	
1-4	弥生土器 甕	(19.6)	(4.7)	-	ABDIJM	外面：にぶい橙 7.5YR-7/3 内面：褐灰 7.5YR-6/1	B	口縁部片	外面：口縁端部指頭押捺、頸部櫛描簾状文	
1-5	弥生土器 壺	-	(13.7)	-	DFJMN	灰黄褐 10YR-4/2 黒褐 10YR-3/1	B	胴中部～胴下部 30%	内外面：ヘラナデ	内面胴部下半スス付着
1-6	弥生土器 甕	-	(7.0)	-	AIJMN	外面：にぶい黄橙 10YR-7/3 内面：褐灰 10YR-5/1 浅黄橙 10YR-8/3	B	頸部～胴部 20%	外面：ハケ目後ヘラナデ・指頭圧痕 内面：ヘラケナデ後指頭圧痕	
1-7	弥生土器 甕	-	(2.6)	9.0	ABDGIJLN	浅黄橙 7.5YR-8/3	B	底部 100%	外面：摩耗顕著で調整痕不明 内面：ヘラナデ	
1-8	弥生土器 壺	-	(2.9)	(11.0)	ABEIJM	外面：にぶい橙 7.5YR-7/4 内面：明褐灰 7.5YR-7/2	B	底部 70%	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
1-9	弥生土器 壺	-	(3.1)	10.2	ABEIJM	外面：にぶい橙 5YR-7/4 内面：灰褐 5YR-5/2	B	底部 80%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
1-10	弥生土器 鉢	-	(5.8)	(6.0)	ABDGL	外面：橙 5YR-6/6 内面：赤 10R-4/6	B	体部～底部 40%	外面：摩耗顕著で調整痕不明 内面：ヘラミガキ、輪積痕	内面赤彩



第 153 図　第２～５号性格不明遺構



第 154 図　性格不明遺構出土遺物

第 29 表　性格不明遺構出土遺物観察表(2)（第 154 図）

No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
1-11	弥生土器 壺	-	(2.2)	8.7	ABEJMN	外面：橙 2.5YR-6/8 内面：褐灰 7.5YR-5/1	B	底部 100%	外面：下端ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
1-12	弥生土器 壺	-	(2.8)	(6.2)	ADMN	橙 5YR-6/6	B	底部 50%	内外面：ヘラミガキ	
1-13	弥生土器 甕	-	-	-	ABDIM	外面：にぶい赤褐 5YR-5/4 内面：黒褐 7.5YR-3/1	B	口縁部片	外面：口縁端部ヘラ状工具による刻み	
1-14	弥生土器 甕	-	-	-	ABHIM	外面：灰黄褐 10YR-6/2 内面：にぶい黄橙 10YR-7/2	B	胴部片	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
1-15	弥生土器 台付甕	-	(7.2)	11.2	ABDMN	橙 5YR-6/6	B	脚部 80%	外面：ハケ目 内面：甕部・脚部ヘラナデ	
1-16	弥生土器 高坏	-	(7.2)	-	ADIM	脚部にぶい橙 7.5YR-7/3 内面：坏部明褐灰 7.5YR-7/1	A	脚部 30%	外面：ハケ目 内面：坏部ヘラナデ、脚部ヘラナデ、坏部臍が突出	坏部内面赤彩
2-1	弥生土器 壺	-	-	-	ABEHM	外面：褐灰 10YR-6/1 内面：にぶい黄橙 10YR-7/3	B	胴部片	外面：RL 単節縄文・平行沈線を爪形状の連続刺突文で区切る	外面赤彩
2-2	土師器 坏	(11.4)	(4.2)	-	ABM	灰黄褐 10YR-5/2	B	口縁～底部 45%	外面：底部ヘラケズリ 内面：ミガキ	坏蓋模倣坏
2-3	須恵器 蓋坏	(11.5)	(1.9)	-	AM	灰白 10YR-7/1	A	口縁～体部片	坏身の口縁立ち上がりは短く内傾	湖西産ヵ

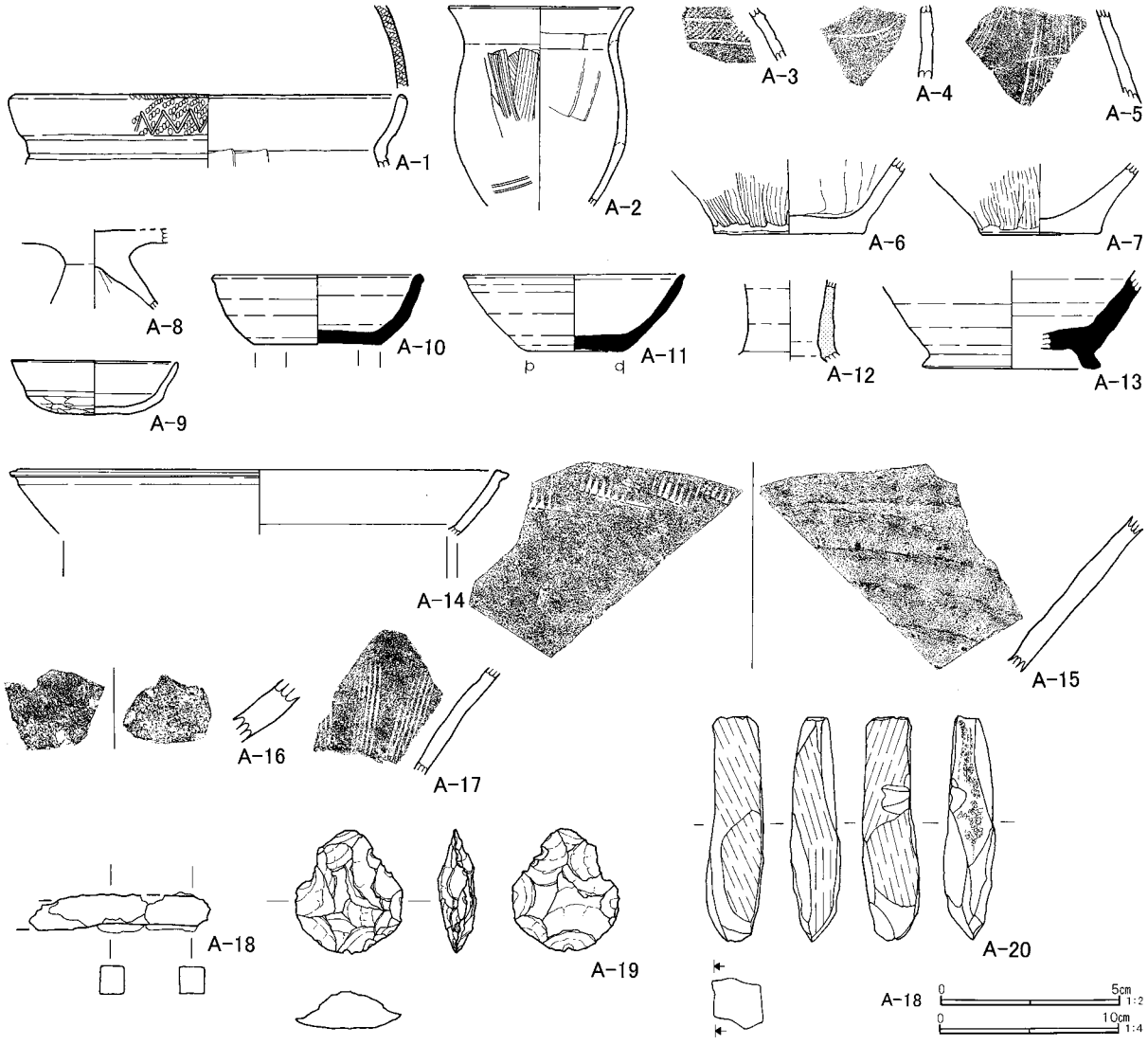
10　遺構外出土遺物

遺構外から出土した遺物については、主に事前調査による試掘調査や、表土剥ぎの遺物である。多くは包含層や試掘調査時のものが大半である。出土位置から大まかにＡ～Ｆ区を個々に分類し、掲載している。

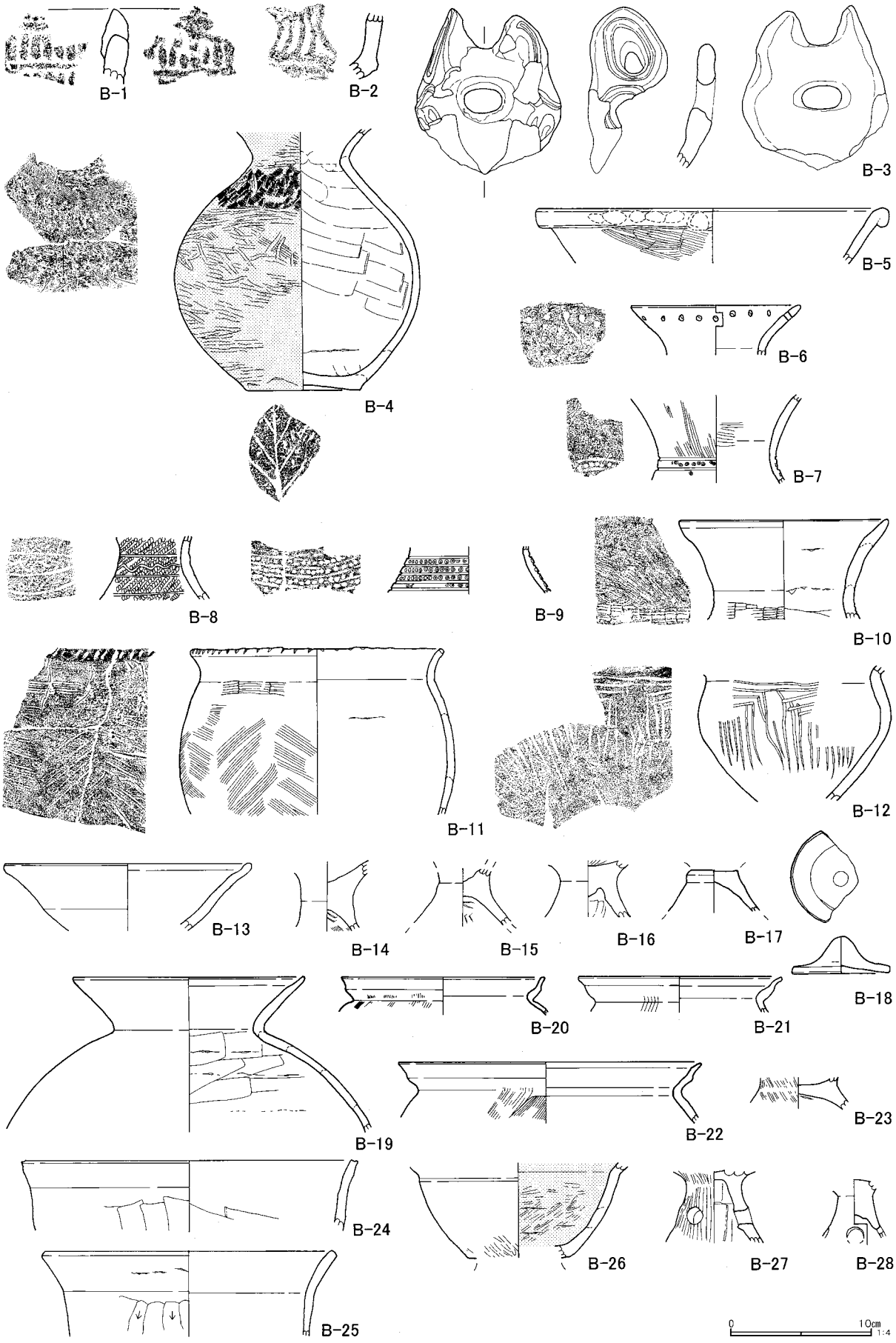
以下、遺構外出土遺物として掲載する。（第 155 ～ 160 図・第 30 ～ 34 表）

第 30 表　A 区遺構外出土遺物観察表(1)（第 155 図）

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
A 区	A-1	弥生土器 甕	(21.4)	(4.0)	-	ABHKM	灰黄褐 10YR-5/2	B	口縁部片	外面：口縁から端部 LR 単節縄文地にヘラ描沈線の鋸歯文	
A 区	A-2	弥生土器 小型甕	(10.2)	(11.1)	-	ABHI	外面：にぶい褐 7.5YR-6/3 内面：灰黄褐 10YR-5/2	B	口縁～胴部 40%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
A 区	A-3	弥生土器 壺	-	-	-	ABKM	外面：にぶい黄橙 10YR-7/4 内面：灰黄褐 10YR-5/2	B	胴部片	外面：横位平行沈線間に LR 単節縄文を充填	
A 区	A-4	弥生土器 壺	-	-	-	ABKM	褐灰 10YR-4/1	B	胴部片	外面：LR 単節縄文、沈線	
A 区	A-5	弥生土器 甕	-	-	-	ABJKM	外面：灰黄褐 10YR-5/2 内面：黒褐 10YR-3/1	B	胴部上半片	外面：櫛描縦位羽状文	
A 区	A-6	弥生土器 甕	-	(4.1)	8.5	ABHK	外面：浅黄橙 7.5YR-8/3 内面：灰白 10YR-8/2	B	底部 100%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
A 区	A-7	弥生土器 甕	-	(3.9)	6.6	ADGHIJLM	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	底部 100%	外面：下端ヘラケズリ後ハケ目 内面：ヘラナデ	
A 区	A-8	弥生土器 高坏	-	(4.4)	-	ABJ	外面：橙 2.5YR-6/8 内面：にぶい橙 7.5YR-7/4	B	接合部～脚部 70%	外面：摩耗顕著で調整痕不明 内面：脚部ヘラナデ	
A 区	A-9	土師器 坏	9.2	3.0	-	ABDIK	外面：にぶい橙 7.5YR-7/3 内面：橙 7.5YR-7/6	B	口縁～底部 25%	外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ 内面：底部ヘラミガキ	
A 区	A-10	須恵器 坏	(11.8)	3.9	7.0	ABFM	灰 N-6/	B	40%	外面:底部回転糸切り離し後、周縁回転ヘラケズリ	南比企産
A 区	A-11	須恵器 坏	12.2	4.2	5.4	ABF	灰白 10YR-7/1	B	口縁～底部 60%	外面：底部回転糸切り離し無調整	南比企産
A 区	A-12	灰釉陶器 長頸瓶	-	(4.6)	-	AB	灰白 5Y-7/1 外面施釉：灰オリーブ 5Y-5/3	A	頸部 70%	ロクロ挽き	外面施釉
A 区	A-13	須恵器 瓶	-	(5.5)	(10.0)	AB	灰白 2.5Y-7/1	B	底部 40%	高台貼付け	末野産
A 区	A-14	瓦質土器 土鍋	(28.0)	(3.6)	-	ABIM	灰N -4/	B	口縁部 5%	口唇部が外側へ突出	在地 15c 末～ 16c 中



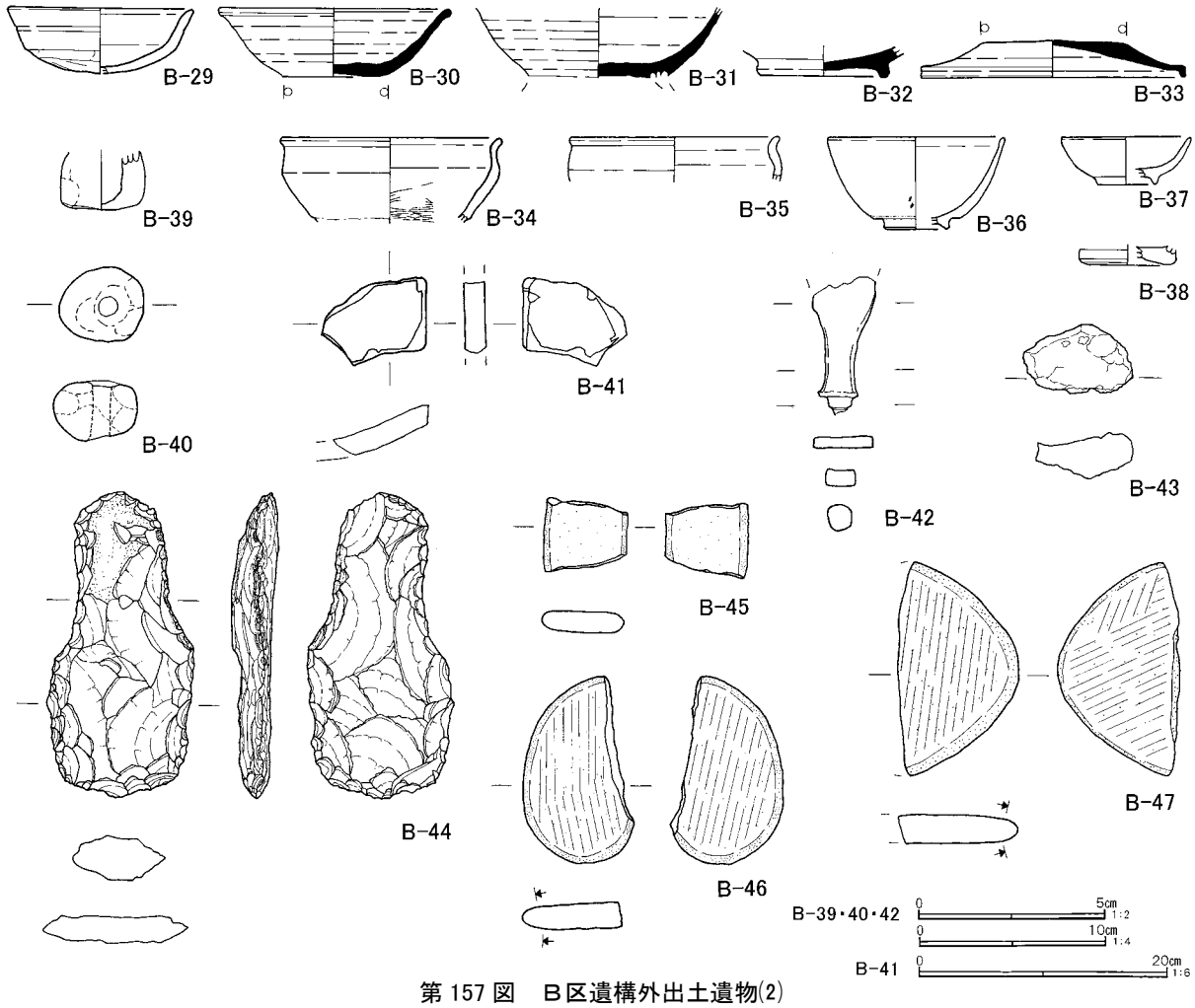
第 155 図　A 区遺構外出土遺物



第 156 図　B区遺構外出土遺物(1)

第 30 表　A区遺構外出土遺物観察表(2)（第 155 図）

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
A区	A-15	陶器 甕	-	-	-	ABHM	外面：灰黄褐 10YR-5/2 内面：褐灰 7.5YR-6/1	B	胴部片	外面：タタキ目 内面：指ナデ	常滑系
A区	A-16	陶器 甕	-	-	-	BMN	外面：にぶい赤褐 5YR-4/4 内面：灰白 5Y-8/1	B	胴部片		常滑系
A区	A-17	瓦質土器 擂鉢	-	-	-	ABKMN	外面：橙 5YR-6/6 内面：にぶい黄橙 10YR-6/3	B	体部片	内面：6 本の櫛目が放射状に施される	在地
A区	A-18	鉄製品 角棒状品	最大長（5.1） 最大幅（0.7） 最大厚（0.7） 重さ 7.3 g						両端欠損	角棒の形状	
A区	A-19	石器 打製石斧	最大長 7.0 最大幅 6.0 最大厚 2.1 重さ 77 g						完形	小形で寸詰まりな撥形、両面から粗い剥離で仕上げ	頁岩
A区	A-20	石器 砥石	最大長 12.5 最大幅 3.0 最大厚 2.8 重さ 136 g						完形	3 面が砥面	流紋岩 中砥として使用か

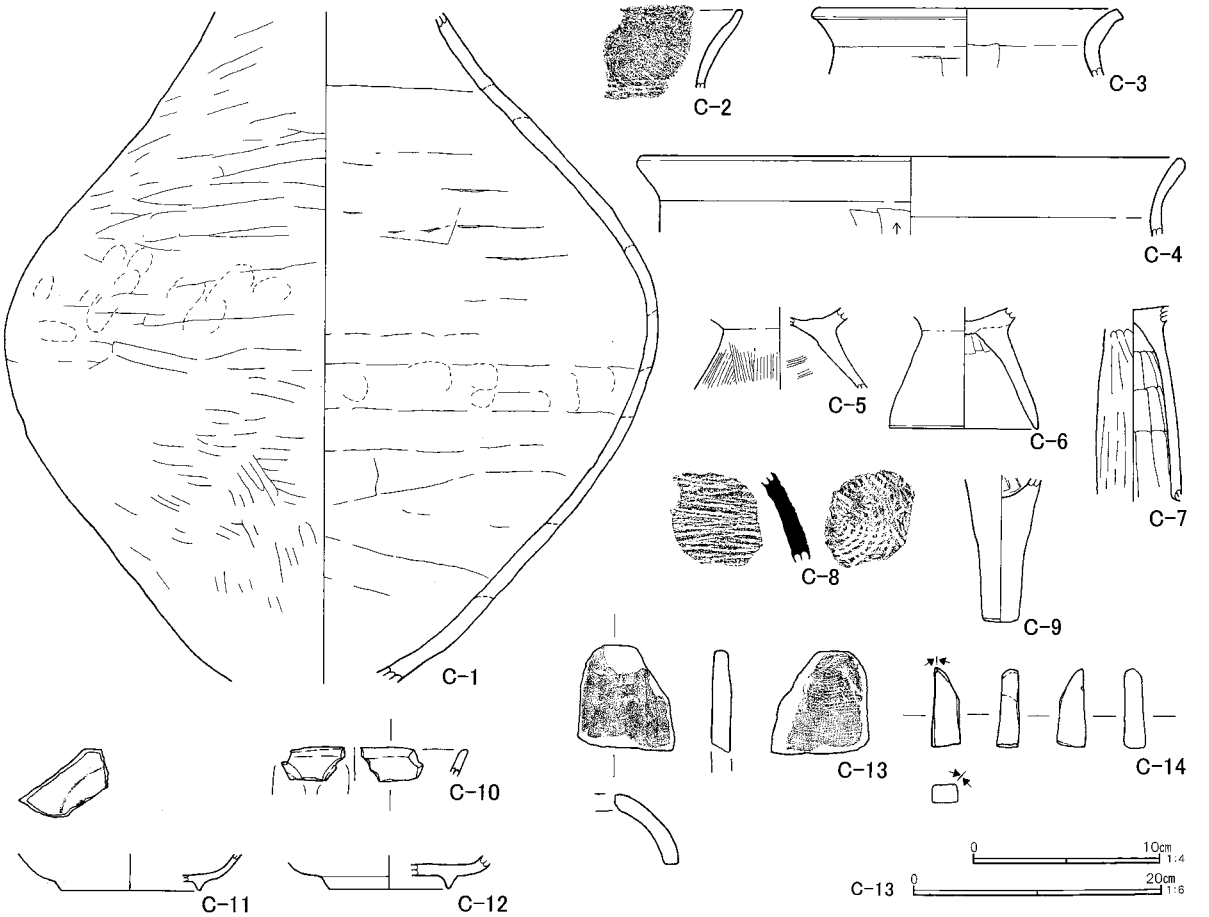


第 157 図　B区遺構外出土遺物(2)

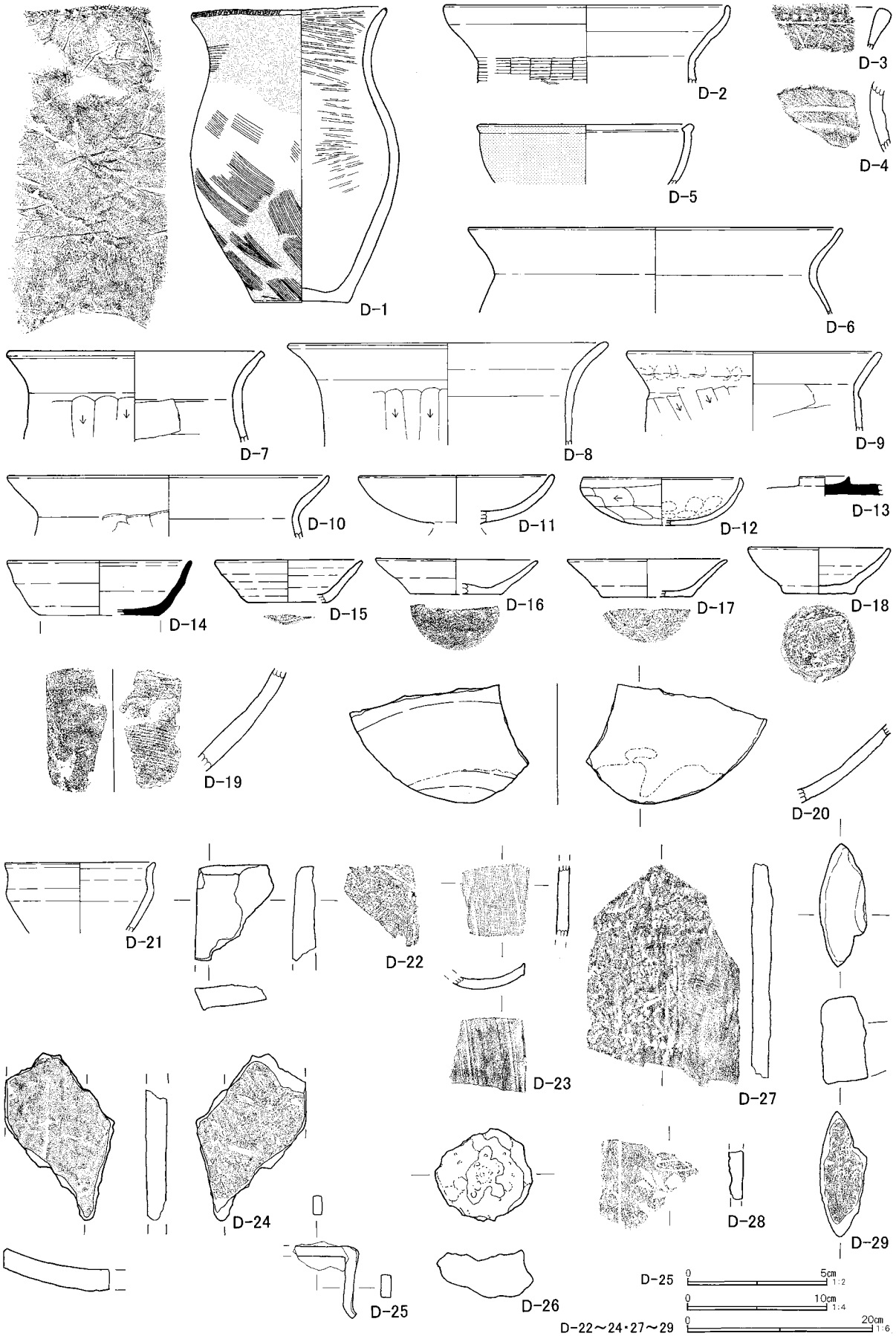
第 31 表　B区遺構外出土遺物観察表(1)（第 156、157 図）

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
B区	B-1	縄文土器 深鉢把手	-	-	-	ABM	浅黄橙 7.5YR-8/3	A	口縁部把手片	山形板状把手	中期阿玉台式
B区	B-2	縄文土器 深鉢把手	-	-	-	AGM	にぶい橙 7.5YR-7/4	A	把手片	太い沈線が垂下	中期勝坂式
B区	B-3	縄文土器 深鉢大形把手	-	-	-	AGIM	にぶい橙 5YR-7/4	A	口縁部把手片	正面と耳状の両側面に楕円形の 3 孔、立体的空間をもつ把手	中期勝坂式
B区	B-4	弥生土器 壺	-	(18.5)	(8.0)	ABDIM	外面：赤 10R-4/8 橙 5YR-6/6 内面：にぶい橙 7.5YR-7/4	B	70%	外面:肩部 0 段多条の斜縄文、胴部ヘラミガキ、底部木葉痕 内面：ヘラナデ	外面赤彩
B区	B-5	弥生土器 壺	(24.7)	(3.9)	-	AIJM	外面：橙 7.5YR-6/6 内面：にぶい黄橙 10YR-6/4	B	口縁部 10%	外面:口縁突帯上に指頭圧痕、以下に斜位条痕	折返し口縁
B区	B-6	弥生土器 壺	(12.0)	(3.6)	-	ADMN	橙 7.5YR-7/6	B	口縁部 15%	外面：口縁上部に径 4㎜の穿孔が 8㎜間隔で巡る	
B区	B-7	弥生土器 壺	-	(5.9)	-	ADM	外面：にぶい橙 7.5YR-7/4 内面：灰白 10YR-8/2	A	頸部片	外面：ハケ目後ヘラ描平行沈線間を極細な竹管で刺突 内面：ヘラナデ	

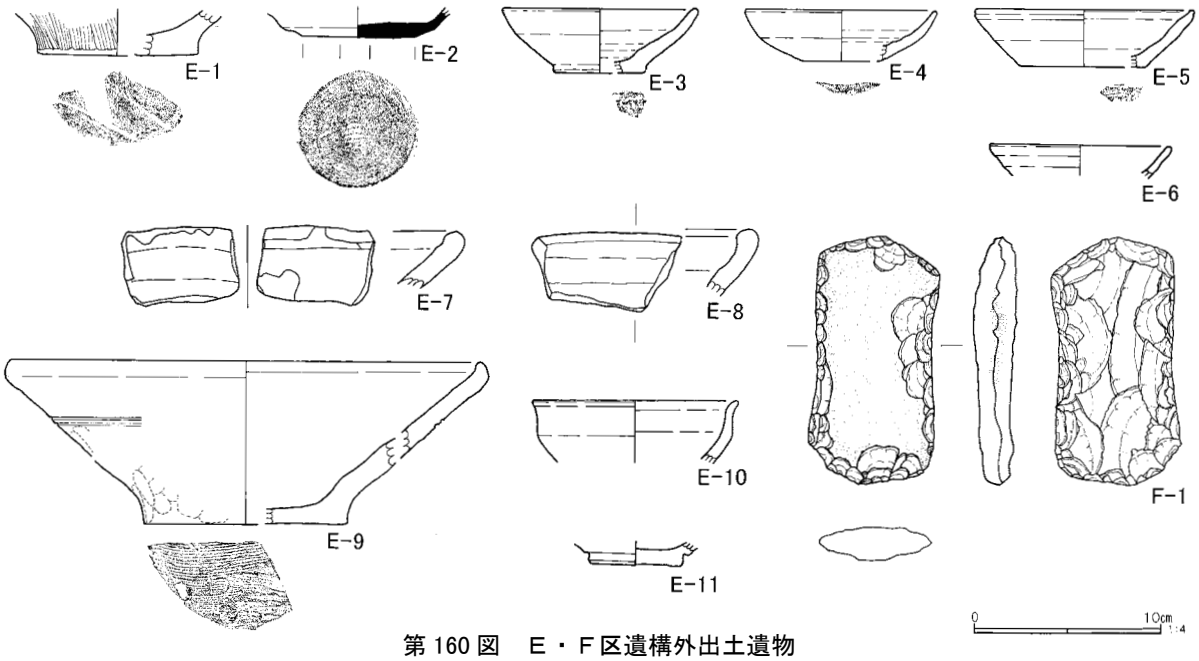
遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
B区	B-8	弥生土器 壺	-	(4.5)	-	IM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	頸部 70%	外面：LR 単節縄文地に 3 条の平行沈線、1 条の波状文	
B区	B-9	弥生土器 壺	-	(3.3)	-	ABIM	外面：にぶい橙 7.5YR-7/4 内面：にぶい橙 7.5YR-7/3	A	頸部片	外面：ヘラ描平行沈線、円形刺突列 内面：ナデ	
B区	B-10	弥生土器 壺	(14.6)	(7.0)	-	ABGHIM	灰黄褐 10YR-6/2	B	口縁部片	外面：口縁部ハケ目、頸部櫛描波状文 内面：ヘラナデ	
B区	B-11	弥生土器 甕	17.7	(11.9)	-	AIM	にぶい橙 7.5YR-7/4 褐灰 5YR-5/1	A	口縁～胴上部 25%	外面：口縁端部ヘラによる刻み目、頸部櫛描簾状文 (5 本一単位)、胴部櫛描縦位羽状文 (5 本一単位) 内面：ヘラナデ	
B区	B-12	弥生土器 甕	-	(9.5)	-	AJM	外面：褐 10YR-4/3 内面：にぶい黄褐 10YR-6/3	B	口縁～胴部片	外面：コの字状重ね文 内面：ヘラナデ	
B区	B-13	弥生土器 高坏	(17.2)	(4.8)	-	ABIM	浅黄橙 7.5YR-8/4	B	坏部 10%	中位僅かな稜をもつ	
B区	B-14	弥生土器 高坏	-	(5.0)	-	ABFMN	灰白 10YR-8/2	B	接合部 40%	外面：摩耗顕著で調整痕不明 内面：坏部ヘラミガキ、脚部ヘラナデ	
B区	B-15	弥生土器 高坏	-	(4.1)	-	DM	外面：淡橙 5YR-8/4 内面：褐灰 10YR-5/1	B	接合部～脚部 70%	外面：摩耗顕著で調整痕不明 内面：脚部ヘラナデ	
B区	B-16	弥生土器 高坏	-	(4.0)	-	ABEHIJMN	明赤褐 2.5YR-5/6	B	接合部 30%	外面：摩耗顕著で調整痕不明 内面：坏部ミガキ、脚部ヘラナデ	坏部の臍を脚部に嵌め込んで接合
B区	B-17	弥生土器 高坏	-	(3.0)	-	ABFMN	外面：灰黄褐 10YR-6/2 内面：浅黄橙 10YR-8/4	B	脚部 30%	内外面：摩耗顕著で調整痕不明	
B区	B-18	弥生土器 蓋	(7.0)	2.6	-	AGJN	橙 2.5YR-6/6	B	50%	つまみは円錐状 内外面：摩耗顕著で調整痕不明	
B区	B-19	土師器 壺	(16.6)	(11.1)	-	ABIMN	外面：明赤褐 5YR-5/6 内面：橙 5YR-6/6	A	10%	外面：摩耗顕著で調整痕不明 内面：ヘラナデ	
B区	B-20	土師器 台付甕	(14.4)	(2.7)	-	AEIJMN	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	20%	外面：ハケ目	S 字状口縁
B区	B-21	土師器 台付甕	(14.6)	(2.5)	-	AEM	にぶい黄橙 10YR-7/2	B	口縁部 15%	外面：ハケ目	S 字状口縁
B区	B-22	土師器 台付甕	(21.3)	(4.3)	-	DIJM	外面：浅黄橙 7.5YR-8/4 内面：浅黄橙 10YR-8/3	B	口縁部 10%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	S 字状口縁
B区	B-23	土師器 台付甕	-	(2.2)	-	EKM	橙 2.5YR-6/6	A	接合部 20%	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	
B区	B-24	土師器 甑	(23.4)	(5.1)	-	ABDIJM	外面：にぶい黄橙 10YR-7/2 内面：にぶい黄橙 10YR-6/4	B	口縁部片	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	



第 158 図　C 区遺構外出土遺物



第 159 図　D 区遺構外出土遺物



第 160 図　Ｅ・Ｆ区遺構外出土遺物

第 31 表　Ｂ区遺構外出土遺物観察表(2)（第 156、157 図）

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
B 区	B-25	土師器 甑	(20.4)	(6.1)	-	ABDIM	外面：浅黄橙 7.5YR-8/4 内面：にぶい橙 7.5YR-7/3	B	口縁部片	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
B 区	B-26	土師器 高坏	-	(6.7)	-	ABIJMN	外面：橙 7.5YR-7/6 内面：赤 10R-5/6	B	40%	内外面：ミガキ	内面赤彩
B 区	B-27	土師器 高坏	-	(5.0)	-	ADIMN	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	脚部 15%	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラナデ	脚部３個の円形透し
B 区	B-28	土師器 高坏	-	(4.1)	-	AGHMN	橙 5YR-6/6	B	脚部 30%	内外面：摩耗顕著で調整痕不明	脚部円形透し
B 区	B-29	土師器 坏	(9.8)	(3.5)	-	AJK	黒褐 7.5YR-3/2	B	口縁～底部片	外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	
B 区	B-30	須恵器 坏	(12.2)	(3.6)	5.7	ABFM	灰 N-6/ にぶい褐 7.5YR-5/4	B	30%	外面：底部回転糸切り離し無調整	南比企産
B 区	B-31	須恵器 瓶	-	(3.8)	-	ADEGLN	外面：褐灰 10YR-6/1 内面：にぶい褐 7.5YR-6/3	B	体部～底部 80%	外面：回転糸切り離し無調整	末野産 高台部欠損
B 区	B-32	須恵器 高台坏	-	(1.7)	(6.8)	ABM	灰白 10YR-7/1	B	底部 50%	外面：坏部を回転糸切り離し後高台貼付け	末野産
B 区	B-33	須恵器 蓋	(14.2)	(1.9)	-	ABGIM	褐灰 10YR-6/1	B	天井部～口縁端部 40%	外面：天井部回転糸切り離し無調整、端部短く屈曲	南比企産
B 区	B-34	陶器 天目茶碗	(11.8)	(4.5)	-	AIM	黒褐 10YR-2/1 灰白 2.5Y-8/1	B	口縁～体部 30%	外面：鉄釉、高台周辺無釉 内面：鉄釉、茶筅による横方向の擦痕	瀬戸美濃系
B 区	B-35	陶器 天目茶碗	(11.2)	(2.4)	-	ABI	黒褐 10YR-2/2 明黄褐 2.5Y-7/6	B	口縁部 10%	内外面：鉄釉	瀬戸美濃系
B 区	B-36	陶器 小杉茶碗	(9.6)	4.9	(3.4)	AB	灰白 5Y-8/2	B	10%	外面：白土化粧掛けののち若松文を描く	京都信楽系
B 区	B-37	磁器 小坏	(7.0)	2.5	(3.2)	AB	灰白 10Y-8/	B	20%	笹絵小坏と思われる	肥前系
B 区	B-38	陶器 天目茶碗	-	(1.1)	高台径 (5.2)	AB	にぶい橙 5YR-7/3	B	底部 10%	外面：錆釉 内面：鉄釉	瀬戸美濃系 大窯期
B 区	B-39	弥生土器 手捏ね土器	-	(1.6)	(2.1)	ABDGIM	外面：にぶい黄橙 10YR-7/3 内面：灰黄褐 10YR-6/2	B	60%	内外面：手捏ね、指頭圧痕	
B 区	B-40	土製 土玉	-	1.6	-	ABI	褐灰 7.5YR-4/1	B	100%	棒に巻き付けて手捏ね成形、ヘラケズリ、指頭圧痕	
B 区	B-41	瓦 桟瓦	最大長 (7.0)	最大幅 (6.1)	最大厚 1.7	ABIJM	凸面：灰白 2.5Y-7/1 凹面：灰 N-6/	B	破片	重量 107.4 g 桟瓦の角切り付近	江戸期
B 区	B-42	鉄製品 鉄鏃	最大長 (3.7)　鏃身部幅 (0.8 ～ 1.6)　鏃身部厚 0.3 ～ 0.4　茎部径 0.6 重さ 3.1 g						茎部と鏃身部先端を欠損	茎部断面は丸味をもつ	
B 区	B-43	椀形滓	最大長 3.7　最大幅 5.9　最大厚 2.5　重さ 78.7 g						完形	炉底滓で発泡著しい	
B 区	B-44	石器 打製石斧	最大長 16.4　最大幅 7.7　最大厚 2.3　重さ 153 g						完形	両側縁からの敲打で成形、つぶれは少ない	撥形 頁岩
B 区	B-45	石器 磨石	最大長 (4.0)　最大幅 (4.4)　最大厚 (1.1)　重さ 34.7 g						破片	扁平で両側が欠損、全面に丁寧な研磨	砂岩 石剣の可能性有
B 区	B-46	石器 磨石	最大長 (10.0)　最大幅 (5.7)　最大厚 (1.4)　重さ 114.9 g						半分欠損	扁平な礫を素材とし、表裏２面が磨面	砂岩
B 区	B-47	石器 磨石	最大長 11.5　最大幅 (6.5)　最大厚 1.6　重さ 161.6 g						半分欠損	扁平な礫を素材とし、表裏２面が磨面	砂岩

第 32 表　C区遺構外出土遺物観察表（第 158 図）

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
C 区	C-1	弥生土器 壺	-	(36.0)	-	ABDM	外面：橙 2.5YR-6/8 内面：にぶい橙 7.5YR-7/3	B	70%	外面：胴部上半ヘラナデ、中位ヘラナデ・指頭圧痕、下半ヘラミガキ、全体に器面の摩耗 内面：ヘラナデ	
C 区	C-2	弥生土器 壺	-	-	-	ABIM	外面：橙 5YR-6/6 内面：明赤褐 5YR-5/6	B	頸部片	外面：ハケ目、頸部櫛描簾状文 内面：ハケ目	
C 区	C-3	土師器 甕	(16.0)	(3.6)	-	ABIJM	外面：橙 5YR-6/6 内面：明赤褐 5YR-5/8 灰黄褐 10YR-5/2	B	口縁部片	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
C 区	C-4	土師器 甕	(29.0)	(4.2)	-	ABEGL	外面：浅黄橙 7.5YR-8/3 内面：にぶい黄橙 10YR-6/4	B	口縁部片	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
C 区	C-5	土師器 台付甕	-	(4.3)	-	ABDMN	灰褐 7.5YR-6/2	B	脚部 10%	外面：ハケ目 内面：甕部・脚部ヘラナデ	
C 区	C-6	土師器 高坏	-	(6.5)	(8.0)	ABDMN	橙 5YR-7/6	B	脚部 25%	外面：摩耗顕著で調整痕不明 内面：ヘラナデ	
C 区	C-7	土師器 高坏	-	(10.2)	-	ABIJM	外面：浅黄橙 7.5YR-8/4 内面：橙 5YR-7/6	B	脚部 90%	外面：ヘラミガキ 内面：坏部ミガキ、脚部ヘラナデ	脚部エンタシス状
C 区	C-8	須恵器 甕	-	-	-	AB	外面：灰 N-6/ 内面：灰 N-5/	B	胴部片	外面：平行タタキ 内面：同芯円状のアテ具痕	末野産 外面自然釉
C 区	C-9	土製品 製塩土器ヵ	-	(7.5)	1.8	AHM	灰白 10YR-8/2	A、二次焼成痕著しい	尖底 100%	外面：摩耗顕著で調整痕不明 内面：ヘラナデ	製塩土器で尖底型の深鉢とみられる
C 区	C-10	磁器 青磁碗	-	-	-	AB	オリーブ灰 2.5GY-6/1	B	口縁部 5%	外面：蓮弁文	龍泉窯系
C 区	C-11	磁器 染付皿	-	(1.9)	(7.4)	BM	灰白・藍色	B	底部 10%	外面：高台脇二重圏線 内面：みこみ二重圏線	景徳鎮窯系 B-1 群
C 区	C-12	陶器 志野丸皿	-	(1.8)	(6.4)	DM	外面：灰白 5Y-8/1 内面：灰黄 2.5Y-7/2	B	底部 40%	高台端部を除き長石釉	瀬戸美濃系
C 区	C-13	瓦 丸瓦	最大長 (8.0)	最大幅 (7.0)	最大厚 1.5	AIM	灰 5Y-6/1	B	破片	重量 121.6 g 凹面：布目痕	平安期
C 区	C-14	石器 小型砥石	最大長 4.2　最大幅 1.6　最大厚 1.0　重さ 9.8 g						完形	先端が鋭角な鑿状、全面が砥面	凝灰岩

第 33 表　D区遺構外出土遺物観察表（第 159 図）

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
D 区	D-1	弥生土器 壺	14.0	21.0	6.7	ABJM	外面：赤褐 2.5YR-4/6 内面：暗赤灰 2.5YR-3/1	B	ほぼ完形 90%	外面：口縁端部 LR 単節縄文、全体はハケ目 内面：横位ヘラミガキ	外面胴部上半から口縁部スス付着
D 区	D-2	弥生土器 甕	(20.3)	(5.6)	-	ABIM	外面：黒褐 7.5YR-3/1 内面：にぶい橙 5YR-6/4	B	口縁～頸部片	外面：櫛描簾状文 (7 本一単位)、櫛描波状文	
D 区	D-3	縄文土器 深鉢	-	-	-	ABIM	にぶい橙 5YR-7/3	B	口縁部片	外面：口縁端部爪形文の連続刺突と鋸歯状の沈線	口唇部肥厚し、胎土に植物繊維少量含む
D 区	D-4	弥生土器 壺	-	-	-	ABEJKM	外面：にぶい橙 7.5YR-7/4 内面：灰白 10YR-7/1	B	頸部片	外面：2 条の平行沈線と RL 単節縄文	
D 区	D-5	弥生土器 鉢	(15.2)	(4.3)	-	ABDM	にぶい橙 7.5YR-7/3	B	口縁部 10%	内外面：ミガキとみられるが、摩耗のため調整痕不明瞭	外面赤彩
D 区	D-6	土師器 甕	(27.0)	(6.1)	-	ABEIJM	外面：橙 5YR-6/6 内面：橙 7.5YR-7/6	B	口縁～胴部上半片	内外面：摩耗のため調整痕不明	
D 区	D-7	土師器 甕	(18.2)	(6.5)	-	ADMN	にぶい橙 5YR-7/4	B	口縁～胴部上半 15%	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
D 区	D-8	土師器 甕	(22.8)	(7.4)	-	ABDHIKM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	口縁～胴部上半片	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
D 区	D-9	土師器 甕	(18.0)	(5.7)	-	ABIM	灰黄褐 10YR-6/2 浅黄橙 10YR-8/3	B	口縁～肩部片	外面：口縁部指頭圧痕、胴部ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
D 区	D-10	土師器 甕	(23.2)	(4.5)	-	ABDIMN	橙 5YR-7/8	B	口縁部片	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	
D 区	D-11	土師器 高坏	(14.0)	(3.4)	-	ABEGHIJLMN	橙 7.5YR-7/6	B	坏部のみ、脚部は欠損	内外面：摩耗のため調整痕不明	
D 区	D-12	土師器 坏	11.3	3.4	-	ADIM	外面：橙 5YR-7/6 内面：橙 5YR-7/8	B	80%	外面：体部から底部ヘラケズリ 内面：指ナデ、指頭圧痕	
D 区	D-13	須恵器 蓋	-	(1.4)		AFIM	褐灰 10YR-6/1	B	天井部 20%	外面：天井部回転ヘラケズリ後摘み貼付け	環状摘み 南比企産
D 区	D-14	須恵器 坏	(13.2)	(3.9)	(8.6)	ABFM	褐灰 7.5YR-6/1	B	口縁～底部 20%	ロクロ切り離し後全面回転ヘラケズリ	南比企産

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
D 区	D-15	土師質土器 かわらけ	(10.6)	3.0	(6.0)	BDIM	橙 5YR-6/6	B	20%	内外面：体部ロクロ痕顕著、 ロクロ左回転	在地
D 区	D-16	土師質土器 かわらけ	(11.8)	2.5	(6..6)	ABJM	外面：橙 5YR-7/6 内面：浅黄橙 7.5YR-8/4	B	40%	底部中央が厚い、ロクロ左回転	在地
D 区	D-17	土師質土器 かわらけ	(11.6)	2.7	(6.6)	ABDEM	外面：橙 5YR-7/6 内面：橙 2.5YR-6/6	B	30%	器肉薄い	在地
D 区	D-18	土師質土器 かわらけ	(10.2)	3.3	5.2	BDEM	浅黄橙 7.5YR-8/4	B	50%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ右回転	在地 古河公方系
D 区	D-19	陶器 甕	-	-	-	AEIM	褐灰 7.5YR-5/1	B	胴部片	擂鉢に転用しているため内面磨れている	常滑系
D 区	D-20	陶器 盤類	-	-	-	ABD	灰白 5Y-7/2 にぶい橙 7.5YR-7/3	B	体部片	内外面：上方灰釉 外面：ヘラケズリ	瀬戸美濃系 古瀬戸後期
D 区	D-21	陶器 天目茶碗	(10.8)	(5.0)	-	ABEM	外面：灰白 10YR-8/2 内面：浅黄橙 10YR-8/3	B	口縁～体部 10%	内外面：長石釉	白天目 瀬戸美濃系
D 区	D-22	瓦 平瓦	最大長 (10.4)	最大幅 (8.4)	最大厚 2.5	ABEJM	凸面：浅黄橙 7.5YR-8/3 灰白 N-8/ 凹面：灰白 2.5Y-8/2	B	破片	重量 190.9 g 凸面：木口状工具で斜め方向に整形後粗い縄叩き 凹面：指ナデ	
D 区	D-23	瓦 平瓦	最大長 (7.7)	最大幅 (7.9)	最大厚 1.2	AIM	凸面：灰赤 7.5R-6/2 褐灰 5YR-6/1 凹面：褐灰 7.5YR-6/1	B	破片	重量 138 g 凸面：縄叩きをすり滑している 凹面：布目	平安期
D 区	D-24	瓦 平瓦	最大長 (18.0)	最大幅 (11.8)	最大厚 2.3	ABDIJM	凸面：橙 7.5YR-7/6 凹面：にぶい橙 7.5YR-7/4	B	破片	重量 420 g 凸面：弧状圧迫痕（斜位）、縄叩き 凹面：縦ナデ	在地
D 区	D-25	鉄製品 かすがい	最大長 - 最大幅 0.8 最大厚 0.4 重さ 5.4 g						半分欠損	断面長方形	
D 区	D-26	椀形滓	最大長 6.6 最大幅 6.9 最大厚 3.4 重さ 155.2 g						完形	発泡顕著	
D 区	D-27	石製品 板石塔婆	最大長 (23.2) 最大幅 17.0 最大厚 2.3 重さ 1630 g						破片	碑面：阿弥陀一尊種子、蓮台、額線	
D 区	D-28	石製品 板石塔婆	最大長 (10.1) 最大幅 (13.0) 最大厚 1.7 重さ 320 g						破片	碑面：三尊板石塔婆の左脇侍の蓮台、額線	
D 区	D-29	挽臼	最大高 (13.1) 最大幅 (5.0) 最大厚 9.2 重さ 810 g							上臼 , 片減りしている	花崗岩 外面スス付着

第 34 表　E・F 区遺構外出土遺物観察表（第 160 図）

遺構名	No	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	手法、形態の特徴等	備考
E 区	E-1	弥生土器 甕	-	(2.5)	(8.6)	AIJM	外面：明赤褐 2.5YR-5/6 内面：橙 7.5YR-6/6	B	底部片	外面：ハケ目後ミガキ 内面：底部圧痕	
E 区	E-2	須恵器 坏	-	(1.6)	6.0	AFIJ	灰 7.5Y-6/1	B	底部 100%	底部糸切離し後周縁回転ヘラケズリ、底面十字の線刻	南比企産
E 区	E-3	土師質土器 かわらけ	10.5	3.4	(5.0)	EIM	浅黄橙 7.5YR-8/4	A	40%	外面：板目状圧痕 内面：みこみ指ナデ痕 ロクロ右回転	古河公方系
E 区	E-4	土師質土器 かわらけ	(10.2)	2.7	(4.4)	ABDIK	外面：灰白 10YR-7/1 内面：灰白 7.5YR-8/1	B	10%		古河公方系
E 区	E-5	土師質土器 かわらけ	(11.8)	3.1	(6.8)	ABJM	にぶい橙 7.5YR-7/4	B	10%	ロクロ左回転	在地
E 区	E-6	陶器 丸皿	(9.8)	(1.7)	-	AB	浅黄 5Y-7/3	A	口縁部 5%	内外面：灰釉	瀬戸美濃系 大窯 3 期
E 区	E-7	瓦質土器 片口鉢	-	-	-	ABIJMN	灰白 10YR-7/1	B	口縁部片	外面：口縁部強い横ナデ	在地
E 区	E-8	瓦質土器 土鍋	-	-	-	ABGI	外面：灰黄褐 10YR-6/2 内面：灰白 10YR-7/1	B	口縁部片	口唇部内側に突出	在地
E 区	E-9	瓦質土器 片口鉢	(26.0)	(8.8)	(11.0)	ADGMN	褐灰 7.5YR-5/1 黒褐 7.5YR-3/1	A	口縁～底部 10%	口縁部上方にのびる 外面：口縁部に 2 条の沈線	在地
E 区	E-10	陶器 天目茶碗	(11.0)	(3.2)	-	AB	にぶい赤褐 5YR-4/4	B	口縁～体部 10%	内外面：鉄釉	志戸呂系 大窯 3 後半～4 前半相当
E 区	E-11	陶器 平碗	-	(1.3)	4.8	BDM	外面：灰白 2.5Y-8/2 内面：オリーブ黄 5Y-6/3	A	底部 100%	内面：灰釉	瀬戸美濃系 古瀬戸後Ⅱ期
F 区	F-1	石器 打製石斧	最大長 13.2 最大幅 6.0 最大厚 1.7 重さ 295 g						完形	礫表皮を多く残し、両側縁からの敲打によるつぶれがある	短冊形 片岩

Ⅴ　調査のまとめ

１　方形周溝墓の展開について

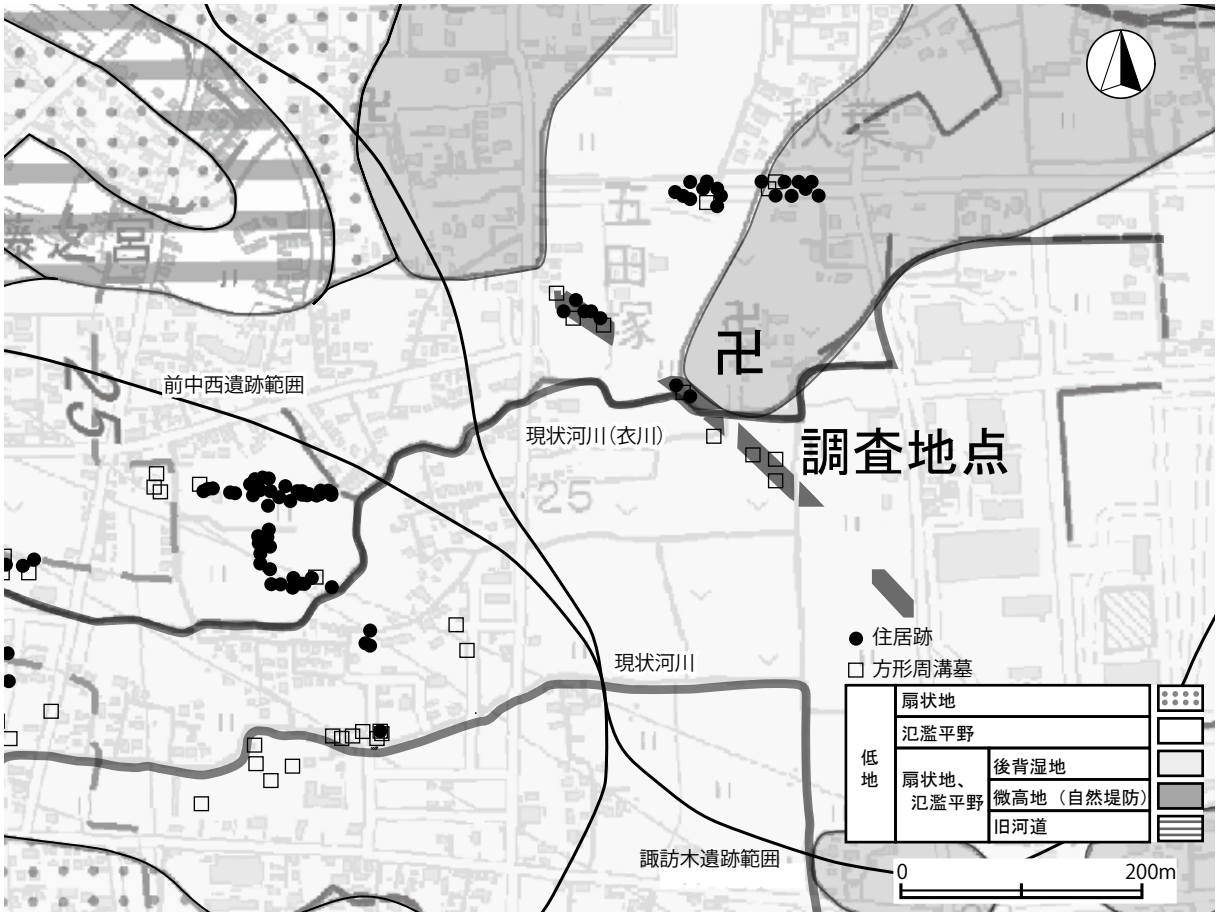
⑴　弥生時代中期後半から古墳時代前期における住居跡、方形周溝墓の立地について

本調査に伴い、弥生時代後期前半の方形周溝墓が６基（ＳＺ１～ＳＺ３、ＳＺ５～８）、古墳時代前期初頭が１基（ＳＺ４）の合計８基検出された。

弥生時代後期の周溝墓は、いずれも後世の掘り込みや河川流路の変更によって削られていたが、四隅切れタイプの各溝の両端に弥生土器壺（一部は底部穿孔を備える）を供えたものであった。また、ＳＺ４は唯一、古墳時代前期初頭周溝墓で、調査区の両端を超え、調査区域外まで全長を有する（検出長19.23ｍ）ため、隅を判断することはできないが、周囲が全周するタイプと考えられる。主軸はＳＺ１、５～８が北東を、ＳＺ２～４はほぼ北を主にしている。外縁部の規模は、ＳＺ１～３、７、８は12ｍ前後、ＳＺ４は19ｍ以上、ＳＺ６は9.36ｍ以上と推定される。ＳＺ５は溝の一部のみであるが、10ｍ以上の規模と推定される。

一方、本調査では、周溝墓周辺に住居跡も点在しており、弥生時代中期後半～末が６軒（ＳＩ１、ＳＩ３～７）、弥生時代後期前半が２軒（ＳＩ８、９）である。時期は中期後半から後期前半に集中している。

第161図で示した現況地形から、調査区（Ａ区）をつまむように微高地が、南に大きく張り出している。このような形に微高地が形成されたのは、隣接する荒川の支流である衣川が大きく影響している。図の北西に延びるＵ字状地形は旧河道を示す。これが示すとおり以前はかなり蛇行した形で河川流路が存在



第161図　調査地周辺の住居跡及び方形周溝墓の分布例（国土地理院より一部抜粋）

していたことを表し、現在までに残るつまみ状の微高地はこの蛇行した流路によって形成されたことが分かる。住居跡、周溝墓が形成された頃には微高地の外縁も広がっており、つまみ状ではなく、ひとつなぎに形成されていた微高地であったと推定される。よって住居跡、周溝墓ともにその微高地の南端上に位置していたと考えられる。

これまでに本遺跡、隣接する前中西遺跡と共に、発掘成果から、弥生時代中期後半～後期前半の住居跡､周溝墓が検出しており､そのことから､２遺跡にまたがっての集落が展開していたことを示している。

前中西遺跡内の集落・墓域はこれまでに検出した土器の様相から弥生時代中期後半に最盛期を迎えたようで、集落は遺跡の北部に分布し、墓域は、南部に分布していたのが次第に縮小し、中期末から後期前半には墓域は遺跡範囲の北東へと移る。

諏訪木遺跡内の集落・墓域は今回の調査範囲を含めた範囲及び諏訪木Ⅲ（事業団）の発掘成果から弥生時代中期後半から古墳時代前期まで集落が展開していたようで、集落の分布は弥生時代中期～後期までが微高地の外縁部付近に集中する。その後､古墳時代前期へ移ると微高地の内へと集落を移しており、河川流路の変更、もしくは河川氾濫により、微高地縁辺部が削られたことが推定される。

方形周溝墓の墓域はその集落の移動の間に造られており、弥生時代後期前半から古墳時代前期初頭である。墓を低地の川の影響を受けやすい位置に築造するとは考えにくいことから、この時点までは、微高地として存在していたことが推定される。

⑵　第４号方形周溝墓について

個々に周溝墓を見ると、特に注目すべきはＳＺ４である。検出は一辺のみであったが、規模は検出長19.23ｍ、幅2.25～3.38ｍで、方台部を含めた全体は370㎡の規模になる。

出土遺物は弥生土器壺・甕・鉢・高坏、土師器坏・高坏・甕・壺など多量の土器が検出されている。総計すると300点以上（未実測分含）の遺物検出量があり、比率では弥生土器が35%、それ以外の土師器が65%であり、土師器が多い。弥生土器は重複関係にあるＳＩ８、９からの流れ込みとみられ、いずれも弥生時代中期後半～末のものが大半である。

よって、このＳＺ４の主体時期はこれら土師器から古墳時代前期初頭と判断できる。

検出している器種の割合は、甕16%、壺14%、台付甕31%、高坏・器台20%、甑8%、その他20%である。比較すると最も検出されているのは、台付甕であるが、次に多いのが高坏・器台であり、およそ40点の検出がある。埋葬者に対し、祭祀儀礼をおこなった際の用途が推定されるが、一度でこの量を用いたとは考えにくいことから、幾度かに渡って、儀礼をおこなったことが窺える。

検出している土師器８割以上が外来土器であり、一番多いのは東海系のＳ字口縁甕、高坏、壺、次に単口縁壺が特徴の南関東系の甕である。そして胴部の連続螺旋叩きが特徴の庄内式の畿内系がある。

東海系の外来土器のうち、ＳＺ４の136～145はＳ字口縁甕であり、いずれもＳ字口縁の古様相といえる。188～208は高坏であり、いずれも欠山式の古様相の特徴をもつ。

南関東系の外来土器については、103～111が単口縁壺、114～134が台付甕で、ハケ目調整は粗く、頸部、肩部、胴部がそれぞれ、縦位、横位、縦位もしくは斜位の構成をとり、いずれも布留式古様相の特徴を表す。

そして畿内系は､135は外面に刻み目の付いたタタキ痕が残る連続螺旋叩きの庄内式末期の甕である。

この胎土を観察すると緻密で焼成も良好であることから、在地産の模倣土器が多いなかで、唯一の搬入品と考えられる。

このように複数地域の土器形式が一括で検出されていることから、古墳時代前期における西からの文化の伝播を表す顕著な事例であるといえる。

2　第 42 号溝跡出土の土師質土器（かわらけ）と成田氏について

⑴　15 世紀後半から 16 世紀における成田氏について

本遺跡に北接して、平安時代末に成田助高が築いたとされる成田氏館跡が所在する。成田系図によると、助高は「住幡羅郡」と記されており、助高は幡羅郡から成田の地がある埼西郡の開発を行った人物と考えられている。のちに、成田氏庶流がこの成田の地に住し、家名を保ったと言われている。

時代は下って、文明 11 年（1479）には成田下総守（実名不明）が、成田の地から忍城（行田市）に移り、ここを本拠として古河公方方となっている。このことから、成田氏の忍城入城はこれ以前と考えられている。下総守を継いだのが成田（自耕斎）正等であり、近年の研究によると、正等は岩付城（さいたま市）を築城した人物であることがわかってきた。

正等は、山内上杉氏の家宰、総社長尾忠景の三男顕泰を養子として迎えている。この顕泰の実名に関東管領山内上杉房顕（または顕定）から「顕」の一字を与えられていることから、この頃には山内上杉氏・長尾氏と密接な関係にあったと考えられる。顕泰を継いだのが親泰で、長泰―氏長へと受け継がれていく。

また、成田館については、永享 12 年（1440）に勃発した結城合戦の翌年、結城方の一色伊予守がここに立て籠もり、幕府軍である上杉方の庁鼻和上杉憲信・長尾景仲と合戦に及んでいる。これが成田館に関する史料上の初見である。

次に、成田陣について述べる。結城合戦ののち一命を助けられた万寿王（或いは永寿王）丸は、宝徳元年（1449）、鎌倉公方に就任し足利成氏と名乗る。しかし、関東管領上杉憲忠と不仲になり、享徳３年（1454）に憲忠を謀殺する（享徳の乱）。この後、関東を舞台に成氏と山内・扇谷両上杉氏は抗争を繰り返した。

長禄３年(1459)、山内上杉氏は成氏に対峙するため、五十子(本庄市)に陣を設けたが、文明９年(1477)、成氏の支援を受けた長尾景春に攻略され、陣が崩壊する（長尾景春の乱)。そのため、時の関東管領山内上杉顕定は成氏に和睦を申し入れ、翌年１月、成氏は軍勢を引き払って成田陣に入り、半年に亘って在陣し、同年７月になって古河に帰陣している。

成氏在陣の最中、景春は陣中の成氏に対し、しきりに顕定と戦うよう要請した。しかし、和睦が成立済であるため成氏は、受け入れなかった。そこで、景春の急襲を恐れた成氏は、無事に古河に帰陣するため、金山城（群馬県太田市）城主岩松家純に助勢を求めた。岩松氏に仕えた陣僧、松蔭が著わした『松陰私語』の文明 10 年（1478）の項には「岩松方は 300 余騎を引き連れて成田御陣に駆けつけ、夜半になって岩松勢が大手を固め、簗田・印東氏以下、成氏の近習の面々が搦手を固めた」と記されている。陣に大手や搦手があったということは、成田陣は城や館の形態を呈していたものと考えられる。

また、成氏の軍勢は 100 騎や 200 騎ではなかったと思われ、そこへ、岩松方の軍勢 300 余騎をも入れ

るような城・館であったことから、成田陣は相当な広さであったことが窺える。

⑵　第 42 号溝跡出土のかわらけの分類

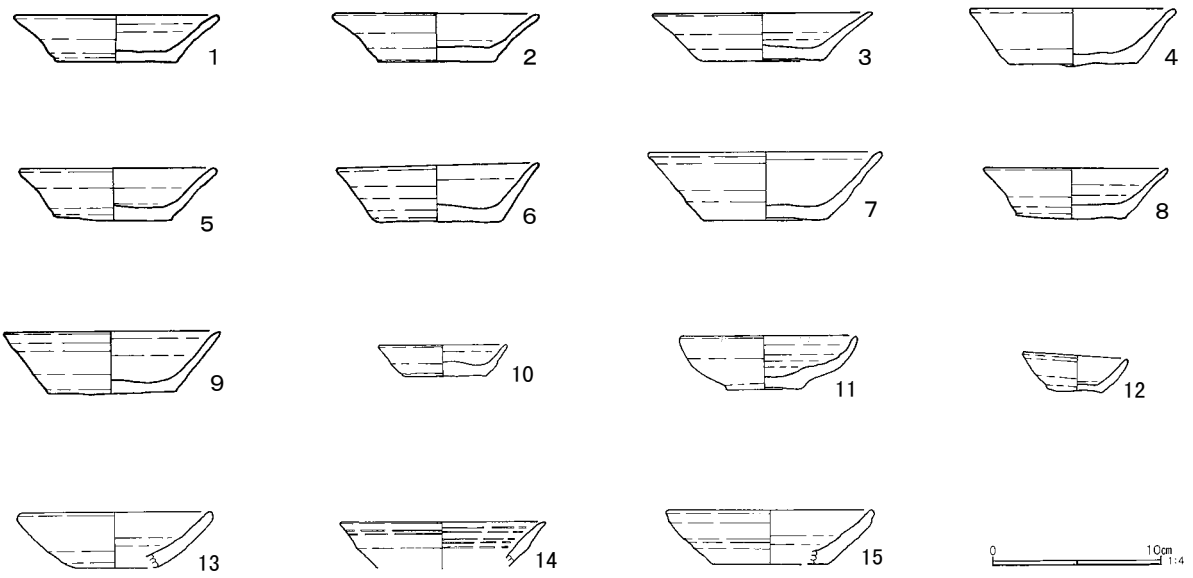
本調査区の第 42 号溝跡（以下、ＳＤ 42）からは、大量のかわらけが一箇所に集中して出土している（かわらけ集中地点）（口絵図版２下）。このうち、図化できたものは第 127 ～ 129 図１～ 86 であり、以降これらを類型別に分類する。（第 162 図）

まず、１～ 84 の形態は逆台形で、口縁部が緩やかに外反し、見込みには弱い指頭の横ナデが施される。これをＡ群とする。次に、85 のように色調が白色系で体部内面のロクロ目が顕著であり、見込みに指頭による強い横ナデが施される、いわゆる古河公方系のかわらけをＢ群とする。このほか、体部の器肉が厚く内湾気味に立ち上がり、多量の砂粒を含む 86 をＣ群とする。

Ａ群は、さらに分類すると、口径 10.8 ㎝前後、器高 2.5 ㎝前後で扁平なⅠ類（１～７、39 ～ 41、51 ～ 61）と、口径 10.6 ㎝前後、器高が 2.8 ㎝前後のⅡ類（８～ 20、42 ～ 50、62 ～ 73）、口径が 11.4 ㎝前後、器高が３㎝以上のⅢ類（21 ～ 38、74 ～ 82）、器高が２㎝以下で口径が小さいⅣ類（83・84）に分けられる。

Ａ群のⅠ類は、さらに細分類すると、底部と体部の器肉がほぼ同じ厚さの１類（１～７）と、底部の器肉が体部より厚い２類（39 ～ 41）、底部の器肉が厚く見込み中央に凸部を持つ３類（51 ～ 61）に分けることができる。同様にⅡ類も、１類（８～ 20）、２類（42 ～ 50）、３類（62 ～ 73）に細分類でき、Ⅲ類は、１類（21 ～ 38）、３類（74 ～ 82）、Ⅳ類はすべて３類になる。

なお、かわらけ集中地点から出土した、かわらけの総重量 32.8 ㎏が全て中型のかわらけ（口径 11.0



第 162 図　第 42 号溝跡出土土師質土器（かわらけ）分類図

第 35 表　第 42 号溝跡出土土師質土器（かわらけ）分類表

番号	挿図番号	分　類	番号	挿図番号	分　類
1	第 127 図 3	Ａ群Ⅰ－１類	9	第 128 図 78	Ａ群Ⅲ－３類
2	第 127 図 40	Ａ群Ⅰ－２類	10	第 129 図 83	Ａ群Ⅳ－３類
3	第 128 図 51	Ａ群Ⅰ－３類	11	第 129 図 85	Ｂ群中型
4	第 127 図 16	Ａ群Ⅱ－１類	12	第 122 図 64	Ｂ群小型
5	第 128 図 44	Ａ群Ⅱ－２類	13	第 129 図 86	Ｃ群
6	第 128 図 67	Ａ群Ⅱ－３類	14	第 122 図 67	Ｄ群
7	第 127 図 21	Ａ群Ⅲ－１類	15	第 122 図 68	Ｄ群
8	第 121 図 32	Ａ群Ⅲ－２類			

㎝前後）と想定すると、中型１点が約 100g であることから、328 点のかわらけが、まとめて投棄されたことになる。

さらに、かわらけ集中地点以外の、ＳＤ 42 出土のかわらけ（第 121・122 図１～ 68）も同様に分類すると、１～ 59 のＡ群のうちⅠ－１類（１～６）、Ⅱ－１類（７～ 16）、Ⅲ－１類（17 ～ 26）、Ⅱ－２類（27 ～ 30）、Ⅲ－２類（31 ～ 33）、Ⅰ－３類（34 ～ 41）、Ⅱ－３類（42 ～ 50）、Ⅲ－３類（51 ～ 57）、Ⅳ類（58・59）に分類できる。そして、60 ～ 64 がＢ群、65・66 はＣ群となる。67・68 はいずれにも属さないため、ここではＤ群とする。

なお、かわらけ集中地点とそれ以外のＳＤ 42 出土かわらけを比較すると、かわらけ集中地点出土のものは、ＳＤ 42 出土かわらけの 1.76 倍に相当する。このことから、かわらけ集中地点のものは、ＳＤ 42 で囲まれた館、または寺院内で催された宴の残滓を、本溝に一括廃棄したものと推定される。

なお、ＳＤ 42 全体のかわらけの総重量は 51.4 ㎏となり、前述の重量計算によると総数は 514 点になる。また、図化できたＳＤ 42 全体のＡ群とＢ群のかわらけは、Ａ群が 143 点、Ｂ群が６点のため、その比率は 96：４となった。

⑶　かわらけ共伴遺物からの検証

ＳＤ 42 かわらけ集中地点（第 129・130 図 87 ～ 108）、それ以外のＳＤ 42 の共伴遺物（第 122 ～ 125 図 69 ～ 121）には、瓦質土器のほうろく・土鍋・片口鉢、古瀬戸後期の卸目付大皿・盤類・擂鉢・茶壺、備前系擂鉢、常滑系甕や瓦、中国産青磁碗・青磁皿・白磁皿、染付皿などがある。

ここで注目したいのは、ほうろくである。前述した、享徳の乱の際、長禄３年から文明９年（1459 ～ 1477）まで存続した五十子陣跡は、東五十子遺跡調査会が調査し、各遺構からは、山内上杉系かわらけが大量に出土しているが、ほうろくは確認されていない。

また、明応６年（1497）に山内上杉顕定が、抗争していた扇谷上杉定正の居城である河越城（川越市）に対峙するため、城の眼前に上戸の陣（同市）を築いた。永正２年（1505）までこの陣は存続したが、同市教育委員会の調査でも、山内上杉系かわらけが出土しているが、ほうろくは確認されていない。

このことから、ほうろくは 16 世紀前半に出現するものと考えられ、ＳＤ 42 の埋没の最終段階は 16 世紀前半と推定される。

このほか、本調査区のかわらけＡ群とＢ群の出土例は、ＳＥ８からＡ群Ⅱ－３類（第 140 図８－１）、ＳＤ 14 から中型（第 113 図 14－３～７）・小型のＢ群（同図 14－８）と、15 世紀中頃から後半の土鍋（同図 14－９）が共伴しているが、ほうろくは出土していない。これらのことから、かわらけＡ群は、成田系かわらけの可能性が高いと考えられるのである。

以上のことを踏まえ、本諏訪木遺跡、及び周囲の成田氏の関連遺跡の発掘調査により検出された、遺構と遺物のうち、かわらけＡ群とＢ群を伴うものを中心に概観する。

平成 14・15 年に本調査地点の北約 250 ｍの市立成田小学校の南側で、（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団（以下、事業団）が実施した諏訪木遺跡Ⅲの調査では、Ｄ区ＳＤ 10 からＡ群（Ⅳ－１類）１点と、大型・中型・小型のＢ群が計 11 点確認され、それと共に 15 世紀中頃から後半の瓦質土器の土鍋・土釜などが出土している。また、Ｄ区ＳＥ１からは、Ａ群Ⅲ－１類と、中型のＢ群が共伴している。

平成 23 年、本調査地点の北西約 400 ｍの上之東光寺の南側で、本市教育委員会が実施した諏訪木遺

跡の調査（未報告）では、井戸跡から大型・中型のＢ群と、15 世紀末から 16 世紀初頭とされる山内上杉系のかわらけが出土し、15 世紀後半の瓦質土器の土鍋・火鉢が共伴している。

平成25年に本調査区の北西約350ｍの東光寺東側で、本市教育委員会が実施した諏訪木遺跡の調査（未報告）では、溝跡から、多量の大型・中型・小型のＢ群が確認され、それらと共に古瀬戸後Ⅳ期（1440 ～ 80 年代）の縁釉小皿、常滑第 10 型式（1450 ～ 1500 年代）の甕が出土している。また、井戸跡からは山内上杉系のかわらけが出土している。

古河公方足利氏と山内上杉氏は、当時、闘争を繰り返す中でも何度も和睦をしており、こうした両軍和睦の間に催された宴の残滓を、井戸に廃棄したと推定できる。

なお、この３箇所の調査地点で、かわらけＡ群やＢ群が出土した各遺構からは、ほうろくは確認されていない。このことから、これらの遺構は 15 世紀後半に属するものと考えられ、古河公方足利成氏が、成田陣に在陣していた時期に相当する。

平成 13 年に本調査区の北東約 300 ｍで、事業団が実施した諏訪木遺跡の調査では、Ｃ区ＳＤ 20 から小型・中型のＢ群が出土し、ＳＤ 21 からは瓦質土器のほうろく・片口鉢と共にＡ群Ⅱ－１類と小型のＢ群が共伴している。また、Ｃ区ＳＥ２からは、中型のＢ群が確認されている。

平成 27 年に本調査区の北接する一乗院の境内地内で、本市諏訪木遺跡調査会・同教育委員会が実施した諏訪木遺跡Ⅲの調査では、ＳＤ 10 から少量のＡ群、中型・小型のＢ群が確認され、それに伴って瓦質土器のほうろく・15 世紀後半の土鍋、中国産の染付皿Ｂ１群が出土している。

以上のことから、これまでの調査により諏訪木遺跡からは、Ｂ群が多量に出土し、次にＡ群、そして少量の山内上杉系かわらけの３種類が確認でき、古河公方に関連する遺構･遺物が確認されたことから、遺跡の一部が成田陣であることが推定される。

一方、昭和 60 ～ 62 年に、行田市郷土博物館準備室が実施した忍城跡（行田市）の調査では、堀跡や橋・杭列・竹組などが確認されている。遺物は 15 世紀後半から 19 世紀前半の土器・陶磁器類が中心で、18 世紀以降が多く、17 世紀以前の遺物は少ない。しかし、少量であるが 16 世紀前半とされる第２次調査の堀跡の第 14 層からは、破片のＡ群、中型のＢ群が出土し、底部破片であるが山内上杉系と思われるかわらけが出土している。この時期の遺物が少ないのは、築城以来、頻繁に堀浚いが行われたことが原因と考えられる。

また、騎西城主小田氏が忍城主成田親泰の子、助三郎を養子に迎えた騎西城跡･騎西城武家屋敷跡（現加須市、旧騎西町）でも昭和 56 年から調査が行われている。このうち、昭和 61 年から平成元年に町教育委員会が実施した同武家屋敷跡（ＫＢ 10 区調査）では、「コ」の字状の溝跡（第１・４号溝跡）や、土坑・井戸跡・障子堀跡などが確認されている。「コ」の字状の溝跡から出土したかわらけは、少量のＡ群とともに多量の中型のＢ群や、小型のＢ群が確認され、共伴した遺物には、常滑 11 型式（1500 ～ 50 年代）の片口鉢や古瀬戸平碗・縁釉小皿、瀬戸美濃大窯第１段階（1480 ～ 1530 年代）の擂鉢、瓦質土器のほうろく・土鍋・擂鉢・土釜などがある。これらの遺物から溝跡の年代は、15 世紀後半から 16 世紀前半と考えられている。調査報告のかわらけは、Ａ群が７点（Ⅱ類が１点、Ⅱ－１類が５点、Ⅲ－１類が１点）、Ｂ群は 51 点であることから、その比率は 12：88 となり、本調査区のＳＤ 42 出土かわらけとの比率が逆転している。

なお、平成８・９年に事業団が実施した同武家屋敷跡の調査では、堀跡からＡ群が４点（Ⅱ－１類が３点、Ⅲ－３類が１点）、中型のＢ群が１点出土している。共伴した遺物には、瀬戸美濃大窯第２段階（1530～60 年代）の擂鉢、瓦質土器のほうろく・擂鉢・火鉢などがある。また、ＳＥ８からは、Ａ群が３点（Ⅲ類が１点、Ⅲ−１類１点、Ⅲ−２類１点）と共に中型のＢ群が出土している。そして、15 世紀中から後半の瓦質土器の土鍋が共伴している。

15 世紀末頃、騎西城には成氏の奉行衆である小田顕家が入城し、16 世紀前半に親泰の子、助三郎を養子に迎え、騎西城をこれに譲り自分は種垂村（種垂城）に隠居した。この頃、助三郎は古河公方方であったが、しだいに公方方から離れていく。

弘治４年（1558）、古河公方足利義氏が重臣の簗田晴助に宛てた書状には「義氏は助三郎に対し、何度も晴助の麾下に属するよう命じてきたが、異議申し立てをして命令に応じない」と記されている。この頃から助三郎は、親泰の子である実兄の忍城主成田長泰に従い、永禄３年（1560）、上杉景虎（謙信）の第２次関東出陣に際しては、兄の長泰と共に景虎に従属した。

以上のように、小田氏は 15 世紀後半には古河公方方であったが、養子の助三郎に代替わりすると 16 世紀前半には成田市に従っていることがわかる。騎西城武家屋敷跡で確認された「コ」の事情の溝跡から出土した遺物は、まさにこの時代を反映しているものであり、この代替わり時点では公方方であったため、古河公方系のかわらけＢ群が多く、成田系と考えられるＡ群が少なかったのである。

⑷　連歌から成田氏をたどる

成田氏は文明 11 年には忍城主となるが、成田の地における全ての成田氏一族が忍城に移ったとは考えにくい。そこで、成田氏は連歌を好み何度も連歌会を催していたことから、その事跡をたどってみたい。

まず、文明 18 年（1486）に京都聖護院門跡の道興准后が、聖護院末寺の掌握を目的として、東国を廻国した際に著わした『廻国雑記』には「なり田といへる所にて歌を詠む」と記されており、また、明応８年（1499）の夏に連歌師の猪苗代兼載が、成田左衛門大夫の家で連歌会を興行し、同じ頃、やはり兼載が左衛門大夫の家にて、夏と秋に歌を詠んでいる。

続いて、永正６年（1509）冬には、連歌師柴屋軒宗長が成田下総守顕泰亭を訪れ、千句興行を催している。天文末年頃（1550～54）には、成田長泰が連歌会を興行しており、永禄９年（1566）８月にも長泰が、忍城外皿尾の別荘で中秋の月見の宴を開き、連歌会を催したという。そして、長泰の子、氏長は天正８年（1580）、連歌師里村紹巴に依頼して、源氏物語二十巻抄を送ってもらっている。室町時代、連歌は源氏物語に由来する詞が多く使われるようになったため、氏長も基本的な教養として源氏物語を受容したのである。

さらに、天正 13 年（1585）、連歌師猪苗代兼如が氏長のもとに夏から冬にかけて逗留し、兼如の発句でたびたび歌会を催している。

道興准后や猪苗代兼載を招いて催された連歌会は、成田の地で興行されたものと思われ、文明 11 年に成田下総守が忍城に入城した後も、忍城主成田氏、或いはその一族が成田の地で連歌会を催していたことが窺える。

成田氏はこのような記録に残る連歌会以外にも、歌会を多く催したものと思われ、連歌に精通していたのである。なお、天正 18 年（1590）の忍城開城後、氏長は京都に多く滞在し、都の一流の風流人と

頻繁に連歌会を催しており、歌壇上での活躍が顕著であった。

また、連歌会には宗匠（師匠）として連歌師が招かれ、酒食を共にしながら行われることも多く、一定の約束事に従って、参加者は創造の世界を共有しながら、親密な人間関係を深めていったのである。

こうした、宴の席や儀式・儀礼の場で使われるかわらけは、一度しか使わない清浄な器であった。かわらけは、主にその土地周辺で生産されたと考えられており、大人数の宴などでは大量に使用され、ゴミと共に使い捨てられたのである。その一例として、一乗谷朝倉氏遺跡（福井県福井市）がある。この遺跡は、永禄 10 年（1567）、室町幕府将軍足利義秋を迎えた朝倉義景の館跡で、館の堀跡からは数トンに及ぶかわらけが出土したことから、将軍を迎えた際に盛大な饗宴が行われ、その残滓を捨てたものと考えられている。

以上のことから、本調査区のＳＤ 42 で出土した多量のかわらけにおいても、溝で囲まれた館または寺内で、宴が催されたことを物語るものであるが、想像を逞しくすると、成田氏が 16 世紀前半にこの地で連歌会を興行し、多量のかわらけを用い、贅を尽くした酒食を伴う盛大な歌会が催されたものとも考えられる。

なお、末筆ではありますが本報告書作成にあたり、多忙にもかかわらず、忍城跡出土かわらけを実見させていただいた、行田市郷土博物館館長鈴木紀三雄氏、並びに学芸員浅見貴子氏に感謝の意を表します。

引用・参考文献　（弥生時代～古代）

熊谷市 1963『熊谷市史』前編
2015 『熊谷市史』資料編１　考古
2018 『熊谷市史』通史編上巻　原始・古代・中世
熊谷市教育委員会　2000『西別府祭祀遺跡』
2003『三ヶ尻遺跡Ⅲ』
2003『一本前遺跡Ⅳ』
2006『拾六間後遺跡』- 熊谷都市計画事業籠原第二土地区画整理事業地内遺跡発掘報告書 -
2010『前中西遺跡Ⅴ』- 熊谷都市計画事業上之土地区画整理事業地内遺跡発掘報告書Ⅵ -
2012『前中西遺跡Ⅶ』- 熊谷都市計画事業上之土地区画整理事業地内遺跡発掘報告書Ⅷ -
2013『前中西遺跡Ⅷ』- 熊谷都市計画事業上之土地区画整理事業地内遺跡発掘報告書Ⅸ
2014『萩山遺跡』
2016『池ノ上遺跡』熊谷市教育委員会
2016 『樋の上遺跡Ⅱ』- 幹線３号線道路改良事業地内遺跡発掘調査報告書
熊谷市遺跡調査会　2001『諏訪木遺跡』
2009『合羽山遺跡』熊谷市合羽山遺跡調査会
2012『樋の上遺跡』
2013『上之古墳群・諏訪木遺跡』
熊谷市石原古墳群調査会 2008『石原古墳群第２号墳』
熊谷市前中西遺跡調査会 2014 『前中西遺跡Ⅸ』

㈶埼玉県埋蔵文化財調査事業団　2011『反町遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財発掘調査報告書　第 380 集
2011 『川越田遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財発掘調査報告　第 375 集
2013 『川越田遺跡Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財発掘調査報告　第 400 集
2002 『池上／諏訪木』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第 283 集
2008 『諏訪木遺跡Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財発掘調査報告　第 351 集
田口一郎　1984「烏川・井野川流域における古墳出現期の様相」『古墳出現期の地域性』
若狭　徹　1990「群馬県における弥生土器の崩壊過程」『群馬考古学手帳』 1　群馬土器観会
柿沼幹夫　2006「岩鼻土器について」『土曜考古』第 30 号　埼玉考古学会
吉田　稔　2007「２土器研究　中期土器編年」『埼玉の弥生時代』六一書房
川西直樹　2007『市谷仲之町遺跡Ⅷ』三井不動産株式会社　加藤建設株式会社
鈴木康好　2009『山吹町遺跡』-（仮称）神楽坂山吹町計画に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -　野村不動産株式会社　加藤建設株式会社

（中世・近世）
埼玉県　1986 『新編　埼玉県史』資料編８　中世４　記録２
㈶埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1989 『金井遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第 86 集
1989 『金井遺跡Ｂ区』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第 146 集
1992 『稲荷前遺跡（Ａ区)』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第 120 集
1994 『稲荷前遺跡（Ｂ・Ｃ区)』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第 145 集
1999 『私市城武家屋敷跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第 222 集
2002 『池上／諏訪木』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第 283 集
2008 『諏訪木遺跡Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第 351 集
愛知県史編さん委員会　2012『愛知県史』別編　窯業３　中世・近世　常滑系
愛知県瀬戸市　1998 『瀬戸市史』陶磁史編　六
熊谷市　2013 『熊谷市史』資料編２　古代・中世　本編
2015 『熊谷市史』資料編１　考古
2018 『熊谷市史』通史編上巻　原始・古代・中世
熊谷市教育委員会　2017 『諏訪木遺跡Ⅲ』埋蔵文化財調査報告書　第 25 集
安芸毬子・大成可乃・大貫浩子・坂野貞子・成瀬晃司・堀内秀樹　1999 「東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類（１)」『東京大学構内遺跡調査研究年報』 2　別冊
秋本太郎　2005 「上野と周辺地域との関係―在地土器の分布論から探る―」第１回内陸遺跡研究会シンポジウム資料集『海なき国々のモノとヒトの動き―16 ～ 17 世紀における内陸部の流通―』 内陸遺跡研究会
2008 「戦国期北関東のかわらけ―戦国大名支配との関係―」『戦国大名北条氏』中世東国の世界３
鷲宮町役場　1986 『鷲宮町史』通史編上巻
寄居町教育委員会 2006 『史跡鉢形城跡』第１期保存整備事業発掘調査報告　史跡鉢形城跡調査報告　第３集
市村高男　1994 『戦国期東国の都市と権力』 思文閣出版
岩槻市教育委員会　2005 『岩槻城と城下町』いわつき郷土文庫　第三集
江戸遺跡研究会　2001 『図説　江戸考古学研究辞典』
東五十子遺跡調査会　2002 『東五十子・川原町』児玉郡市広域市町村圏組合小山川クリーンセンター・湯かっこ建設工事関係発掘調査報告
大成可乃　2011 「東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類（２)」『東京大学構内遺跡調査研究年報』 7

大橋康二　1984 「肥前陶磁の変遷と出土遺物」『国内出土の肥前陶磁』 佐賀県立九州陶磁文化館
小野正敏　1982 「15、16 世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』№２　貿易陶磁研究会
菊川町教育委員会　2000 「遠江の出土陶磁器組成の特徴」『横地城跡　総合調査報告書　資料編』
騎西町教育委員会　2001 『騎西町史』考古資料編 1
2005 『騎西町史』通史編
九州近世陶磁学会　2000 『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会 10 周年記念
2001 『国内出土の肥前陶磁』東日本の流通をさぐる
黒田基樹　2012 「総論　戦国期成田氏の系譜と動向」『武蔵成田氏』論集戦国大名と国衆７　岩田書院
篠崎潔・平田重之　1989 『皂樹原・檜木下』Ⅰ（阿保境の館跡）中世編　皂樹原・檜木下遺跡調査会報告書第 1 集
島村範久　2005 「騎西（私市）城跡」『シンポジウム埼玉の戦国時代検証比企の城』資料集　史跡を活用した体験と学習の拠点形成事業実行委員会
2009 「騎西（私市）城跡」『戦国の城』高志書院
嶋村英之・嶋村馨　2017 『騎西城武家屋敷跡』ＫＢ 10 区調査　―中近世編―　遺物 1　加須市埋蔵文化財調査報告書　第 10 集
霜川遠志 訳 1981 『関八州古戦録』（上） 教育社
高橋良雄 評釈　2004 「廻国雑記」『中世日記紀行文学全評釈修正』第七巻　勉誠出版
田中　信　1996 「川越市内出土の中世土師器について―特に河越館跡および周辺出土を中心に―」『川越市埋蔵文化財調査報告書（ＸⅠ）』 川越市教育委員会
2005 「山内上杉氏の土器（かわらけ）とは」『戦国の城』
2010 「葛西城と扇谷上杉のかわらけ」『葛西城と古河公方足利義氏』 雄山閣
塚田良道　1989 「忍城跡の発掘調査」『行田市郷土博物館研究報告』Vol 1　行田市郷土博物館
富田勝治　2012 「忍城退出後の成田氏の動向」『武蔵成田氏』論集戦国大名と国衆７　岩田書院
中野晴久　2013 『中世常滑窯の研究』博士（文学）論文　愛知学院大学大学院
藤澤良祐　1987 「本業焼の研究（１）」『研究紀要』Ⅵ　瀬戸市歴史民俗資料館
1987 「本業焼の研究（２）」『研究紀要』Ⅶ　瀬戸市歴史民俗資料館
1987 「本業焼の研究（３）」『研究紀要』Ⅷ　瀬戸市歴史民俗資料館
2002 「瀬戸・美濃大窯の再検討」『研究紀要』第 10 輯　(財) 瀬戸市埋蔵文化財センター
2008 『中世瀬戸窯の研究』 高志書院
二木謙一　2013 ［図解］戦国合戦がよくわかる本　武具・組織・戦術から論功行賞まで　ＰＨＰ研究所
峰岸純夫 校訂　2003 「長楽寺永禄日記」『史料纂集』135　(株) 続群書類従完成会
森田　勉　1982 「14 ～ 16 世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』№２　貿易陶磁研究会
横田賢次郎・森田　勉　1978 「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』 4

写　真　図　版

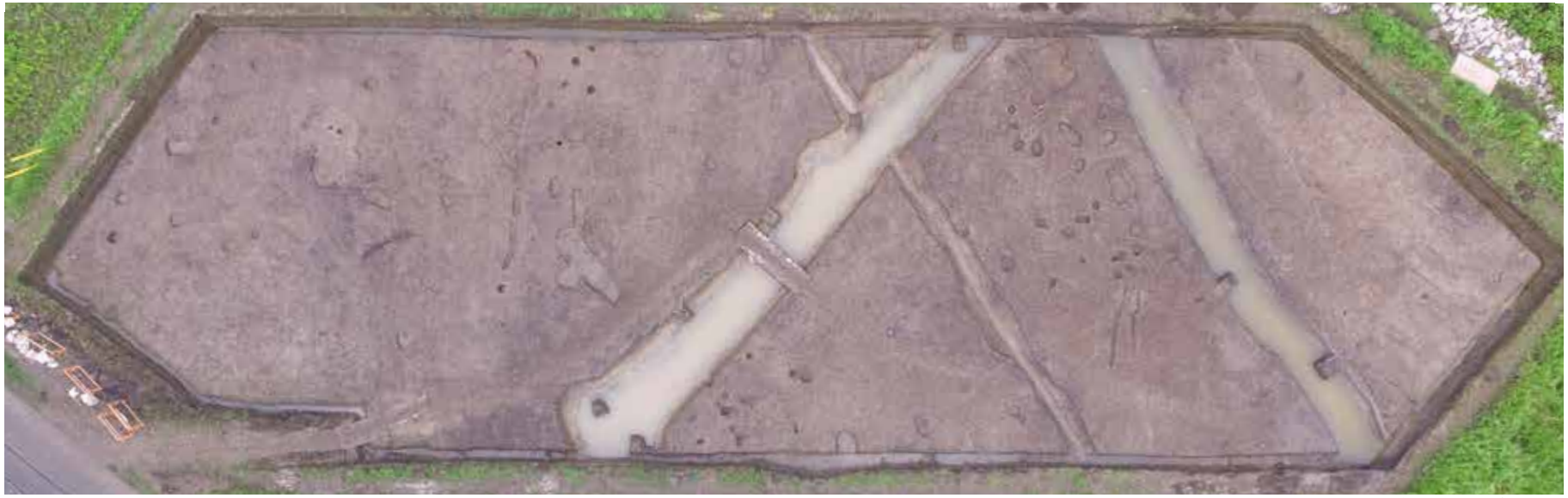


Ａ区　全景（左が北西）



ＢＣ区　全景（左が北西）

図版１



Ｄ区　全景（上が北西）



Ｆ区　全景（上が北西）

図版２



第１号住居跡（南から）



第２号住居跡（南から）



第３号住居跡　（上が北）



左：第４号住居跡　右：第５号住居跡（上が北）



第６号住居跡（上が北西）



第４号住居跡　遺物検出状況



第６号住居跡　遺物検出状況



第７号住居跡（南から）

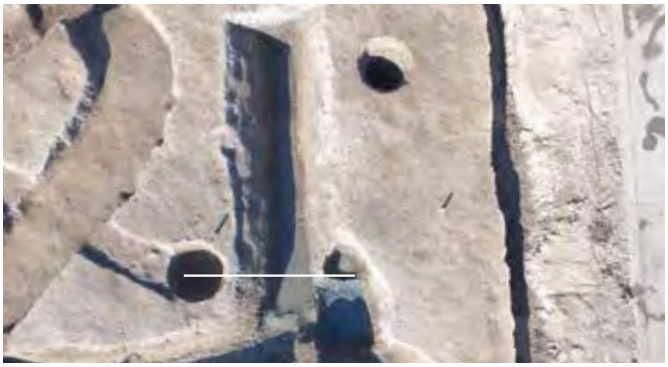
図版４



第８号住居跡（北から）



第９号住居跡（北から）



第１号掘立柱建物跡



第２号掘立柱建物跡



第２号方形周溝墓（上が北東）



第４号方形周溝墓（上が東）



第１号方形周溝墓　南周溝東端　出土遺物（北西から）



第４号方形周溝墓（西から）



第４号方形周溝墓　遺物検出状況(1)



第４号方形周溝墓　遺物検出状況(2)



第４号方形周溝墓　遺物検出状況(3)



第４号方形周溝墓　遺物検出状況(4)

図版 6



第５号方形周溝墓　（左が北）



第５号方形周溝墓　北西周溝北端　出土遺物（北から）



第６号方形周溝墓（南から）



第７号方形周溝墓　南周溝西端　出土遺物（西から）



第８号方形周溝墓（上が北）



第８号方形周溝墓　西周溝南端　出土遺物（東から）



第２号河川跡　土層断面



第２号河川跡　土層断面



第２号河川跡　木杭・矢板検出状況



第２号河川跡　木杭・矢板検出状況



第３号河川跡（東から）



第６号溝跡（南から）



第９号溝跡（南から）



第 11・12 号溝跡（南から）



第 13 号溝跡（北から）



第 14 号溝跡（南から）



第 15 号溝跡（南から）



第 16 号溝跡（南から）

図版 8



第 18・19 号溝跡（北から）



第 21、22 号溝跡（東から）



第 24 号溝跡（南から）



第 29 号溝跡（東から）



第 29 号溝跡　遺物検出状況



第 29 号溝跡　遺物検出状況



第 30 号溝跡（東から）



第 32 号溝跡（北から）



第 40・41 号溝跡（南から）



第 42 号溝跡　遺物検出状況



第 42 号溝跡　遺物検出状況



第 42 号溝跡（南から）



第 42 号溝跡（西から）

図版 10


第 49 号溝跡（南から）


第 51 号溝跡（東から）


第 58 号溝跡（西から）


第 59 号溝跡（南から）


第 60 号溝跡（東から）


第 61 号溝跡（東から）


第 62 号溝跡（東から）


第 64 号溝跡（南から）


第 67 号溝跡（南から）


第 68 号溝跡（西から）



第 64、67 号溝跡（南から）



第１号井戸跡（南から）



第３号井戸跡（南から）



第４号井戸跡（南東から）



第５号井戸跡（南から）



第６号井戸跡（南から）



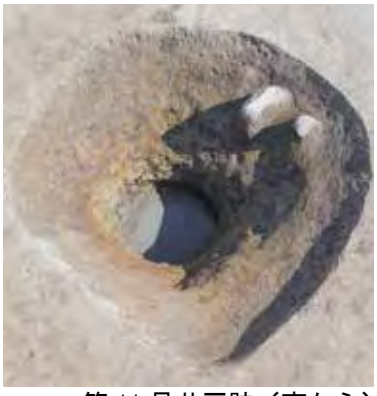
第 10 号井戸跡（南東から）



第８号井戸跡（南から）



第９号井戸跡（西から）



第 11 号井戸跡（南から）

図版 12



第 5 号土坑（西から）



第 12 号土坑（南から）



第 23 号土坑（南から）





第 22 号土坑（南西から）



第 35 号土坑（上が北）



第 1 号性格不明遺構（北から）



第 18 図 1 ・ 2



第 22 図 1



第 22 図 3



第 22 図 4



第 22 図５



第 22 図 14



第 22 図 28



第 22 図 29



第 26 図１



第 27 図６



第 22 図　上：６・８～10、中：11～13・15・16、下：17～20



第 22 図 22 ～ 25・27



第 23 図 30・31



第 26 図２



第 27 図１～５・７

図版 14



第 29 図 1



第 29 図 2



第 29 図 3



第 29 図 8



第 29 図 6



第 29 図 7



第 31 図 2



第 31 図 1 ・ 3



第 33 図 1



第 33 図　上：3～7、中：8～11、下：12・14～16



第 33 図 2



第 33 図 13



第 33 図 17 ～ 30



第 33 図 31 ～ 44



第 33 図 50



第 33 図 52



第 33 図 56・57



第 33 図 58



第 35 図 1



第 35 図 2



第 35 図 4



第 35 図 3



第 38 図 1－ 1 ・ 2－ 1 ～ 2－ 3

図版 16



第 40 図 1



第 40 図 2



第 42 図 1 ～ 4



第 42 図 8

第 42 図 9



第 44 図 1 ～ 3



第 46 図 2



第 46 図 4



第 46 図 8



第 46 図 10



第 46 図 13



第 46 図 15



第 46・47 図 17・27・28・43



第 47 図 97



第 47 図 105



第 47 図 106



第 48 図 109



第 48 図 112



第 48 図 114



第 48 図 115

図版 18



第 48 図 123



第 48 図 124



第 49 図 126



第 49 図 127



第 49 図 128



第 49 図 129



第 49 図 130



第 49 図 131



第 50 図 133



第 50 図 134



第 50 図 135





第 51 図 158



第 51 図 193



第 52 図 197



第 52 図 206



第 52 図 211・213

第 52 図 214

第 52 図 215



第 52 図 212

図版 20



第 54 図 1



第 54 図 2



第 54 図 3



第 55 図 4 ～ 8



第 55 図 11



第 55 図 9



第 55 図 13



第 55 図 14



第 55 図 10



第 57 図 1



第 59 図１



第 59 図２



第 61 図１





第 61 図２　下：底部穿孔



第 61 図３



第 61 図４

図版 22



第 61 図 6



第 64 図 1



第 64 図 7





第 65 図 60



第 65 図 62



第 65 図 58



第 65 図 63



第 65 図 64





第 65 図 80



第 65 図 84



第 65 図 85



第 65 図 86



第 66 図 91



第 66 図 92



第 66 図 93



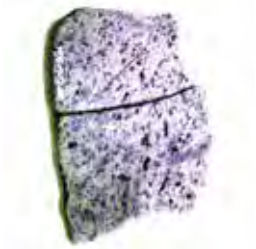
第 66 図 99



第 66 図 100（赤外線加工）



第 66 図 101



第 65 図 87（赤外線加工）



第 65 図 88（赤外線加工）



第 66 図 102（赤外線加工）



第 65 図 89（赤外線加工）



第 65 図 90（赤外線加工）



第 66 図 103（赤外線加工）



第 66 図 104（赤外線加工）



第 66 図 105



第 66 図 108



第 66 図 110



第 66 図 111



第 66 図 112

図版 24



第 66 図 113・114



第 67 図 115



第２号河川跡　種子（桃）



第 68 図 125



第 68 図 126



第 68 図 127



第 68 図 128



第 69 図 1



第 69 図３



第 69 図４



第 69 図５


第 113 図 14-3


第 113 図 14-4


第 113 図 14-5


第 113 図 14-6


第 113 図 14-7


第 113 図 14-8


第 113 図 14-9


第 113 図 14-12


第 113 図 15-1


第 113 図 15-3




第 113 図 17-7


第 113 図 17-8


第 113 図 17-4


第 113 図 17-9


第 113 図 17-12


第 113 図 17-14


第 114 図 17-15

図版 26



第 114 図 18-16



第 114 図 19-1



第 114 図 19-14



第 114 図 21-6



第 115 図 24-20



第 115 図 24-21



第 115 図 24-22



第 115 図 24-23



第 115 図 24-24・25



第 115 図 24-26　凸臍部分





第 116 図 29-1　上部：籾痕



第 116 図 29-2



第 116 図 29-3



第 116 図 29-4



第 116 図 29-5



第 116 図 29-6



第 116 図 29-7



第 116 図 29-8



第 116 図 29-9



第 116 図 29-10



第 117 図 29-11



第 117 図 29-13



第 117 図 29-16



第 117 図 29-23



第 117 図 29-24



第 117 図 32-5



第 117 図 32-7



第 117 図 32-8



第 118 図 32-9



第 118 図　上 :32-10・12、下 : 13・14・15



第 118 図 32-16



第 118 図 32-17



第 118 図 32-22 ～ 46



第 118 図 32-48



第 118 図 32-47



第 32 号溝跡　種子



第 33 号溝跡　種子



第 118 図 37-1



第 118 図 37-2



第 118 図 37-3

図版 28



第 119 図　上：43-1・2・44-2、下：43-3



第 119 図 44-3



第 119 図 49-8



第 119 図 49-3



第 119 図 49-7



第 119 図 60-1



第 119 図 60-3・4　左：外面　右：内面



第 119 図 60-5



第 60 号溝跡　種子 01



第 120 図　1 段目：60-8・12 ～ 15、2 段目：19・22・23・25・26、3 段目：27・28・33・37・41、4 段目：42・45 ～ 48



第 60 号溝跡　種子 02



第 119 図 60-6・7



第 120 図 61-5



第 120 図 62-1



第 68 号溝跡　種子



第 120 図 68-1



第 120 図 68-2



第 120 図 68-3


第 121 図 1


第 121 図 4


第 121 図 9


第 121 図 11


第 121 図 17


第 121 図 22


第 121 図 28


第 121 図 30


第 121 図 31


第 121 図 33


第 121 図 36


第 121 図 37


第 122 図 45


第 122 図 49


第 122 図 51


第 122 図 57


第 122 図 58


第 122 図 59


第 122 図 63


第 122 図 64


第 122 図 65・68


第 122 図 69


第 122 図 70

図版 30



第 122 図 71



第 122 図 72



第 122 図 73



第 123 図 74



第 123 図 77



第 123 図 78



第 123 図 81



第 123 図 82



第 123 図 83



第 123 図 84



第 123 図 85



第 123 図 86



第 123 図 87



第 123 図 88



第 124 図 89・90

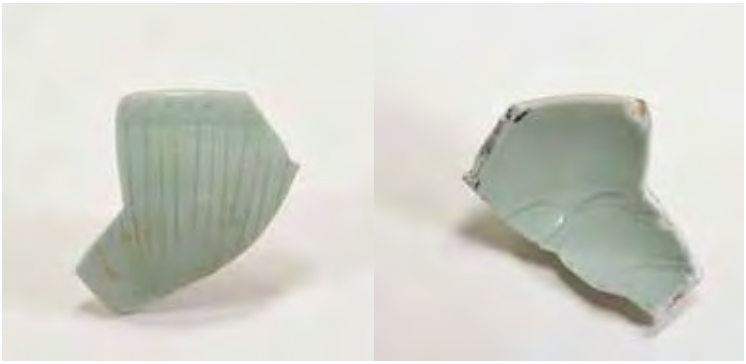


第 124 図 92・94

図版 32



第 124 図 95



第 124 図 96　左：外面、右：内面



第 124 図 97・99



第 124 図 98



第 124 図 100



第 124 図 101　左：外面、右：内面



第 124 図 102



第 124 図 105



第 124 図 108



第 124 図 103



第 125 図 110



第 125 図 112



第 125 図 115



第 125 図 118



第 125 図 121



第 126 図 123



第 125 図 119



第 126 図 122



第 127 図 6



第 127 図 7



第 127 図 8



第 127 図 9



第 127 図 21



第 127 図 30

図版 34



第 127 図 39



第 128 図 41



第 128 図 44



第 128 図 47



第 128 図 53



第 128 図 59



第 128 図 64



第 128 図 67



第 128 図 78



第 129 図 81



第 129 図 83



第 129 図 84



第 129 図 85



第 129 図 87



第 129 図 88



第 129 図 89



第 129 図 91・92



第 129 図 96



第 130 図 102・105



第 130 図 103



第 130 図 108



第 136 図 5-1



第 136 図 12-1



第 136 図 12-2



第 136 図 12-3



第 136 図 12-6



第 136 図 12-4



第 136 図 16-2



第 136 図 16-3

図版 36



第 137 図 16-4



第 137 図 16-5



第 137 図 16-6



第 137 図 20-1



第 137 図 20-3



第 137 図 24-1



第 137 図 24-2



第 137 図 22-1



第 137 図 28-1



第 137 図 35-3



第 137 図 35-4



第 137 図 35-5



第 140 図 2-2



第 140 図 3-1



第 140 図 3-3



第 140 図 4-1



第 140 図 5-1・2



第 140 図 5-3



第 140 図 8-1



第 140 図 9-2



第 140 図 11-1



第 140 図 11-4



第 140 図 11-5



第 140 図 12-1



第 141 図 12-2

図版 38



第 141 図 12-3　左：外面、右：内面



第 151 図 118-1



第 151 図 135-1



第 151 図 214-1



第 151 図 302-3



第 154 図 1-1



第 154 図 1-3



第 154 図 1-5



第 154 図 1-6


第 154 図 2-2


第 155 図 10


第 155 図 11


第 155 図２


第 155 図 15


第 155 図 18


第 155 図 19


第 155 図 20


第 156 図４


第 156 図 18


第 157 図 30


第 157 図 31


第 157 図 33



第 157 図 34　右：茶筅痕


第 157 図 36


第 157 図 39


第 157 図 40


第 157 図 42


第 157 図 43


第 157 図 44


第 157 図 46


第 157 図 47

図版 40



第 158 図 1



第 158 図 9



第 158 図 14



第 158 図 10 ～ 12



第 159 図 1



第 159 図 12



第 159 図 13



第 159 図 14



第 159 図 18



第 159 図 20



第 159 図 21



第 159 図 26



第 159 図 27



第 159 図 28



第 160 図 F-1



第 160 図 E-3

報　告　書　抄　録

ふ り が な	すわのきいせき
書　　名	諏訪木遺跡Ⅳ
副 書 名	埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書
巻　　次	―
シリーズ名	―
シリーズ番号	第３５集
編 集 者 名	腰塚　博隆
編 集 機 関	埼玉県熊谷市教育委員会
所 在 地	〒360 － 0107 熊谷市千代３２９番地 熊谷市立江南文化財センター TEL048-536-5062
発行年月日	西暦 2020（令和２）年 3 月 27 日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所　在　地	市町村	遺跡番号	(° ′ ″)	(° ′ ″)		(㎡)	
すわのきいせき 諏訪木遺跡	くまがやしかみの 熊谷市上之２９５４番４　ほか	11202	59-016	36° 8′ 55、3 ″	139° 24′ 29、8″	20160411 ～ 20180316	5527、42 ㎡	記録保存調査

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特　記　事　項
諏訪木遺跡	集落跡 墓域 寺院	弥生時代 中期、後期 古墳時代 前期、後期 平安時代 中近世	住居跡９軒 掘立柱建物跡２軒 方形周溝墓８基 河川跡３条 溝跡 75 条 土坑 46 基 井戸跡 13 基 ピット 428 基	弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器（かわらけ）・瓦質土器・陶磁器・瓦・銭貨・・板石塔婆・石器	微高地と低地の境を意識し、弥生時代中期から古墳時代前期にかけての計画的な墓域が展開されたことが推定できる。 隣接寺院に南接する調査区からは寺院区画溝とともに土師質土器（かわらけ）が多量に廃棄されていた。

埼玉県熊谷市埋蔵文化財発掘調査報告書　第３５集

諏 訪 木 遺 跡 Ⅳ

令和２年３月２７日発行
発行／埼玉県熊谷市教育委員会
印刷／株式会社ピーアイピー